Love Print. Live Digital.

QuarkXPress 10.1ガイド

目次

本書について.....15
想定される前提条件.....15
ヘルプが必要な場合の参照先.....15
表記規則.....16
技術情報.....16

ユーザーインターフェイス.....18
ツール.....18
メニュー.....21
QuarkXPressメニュー（Mac OS Xのみ）.....21
ファイルメニュー.....22
編集メニュー.....22
スタイルメニュー.....24
アイテムメニュー.....27
ページメニュー.....28
レイアウトメニュー.....29
テーブルメニュー.....29
表示メニュー.....30
補助メニュー.....32
ウィンドウメニュー.....34
ヘルプメニュー.....35
コンテキストメニュー.....36
パレット.....36
高度なイメージ制御パレット.....36
コールアウトスタイルパレット.....37
カラーパレット.....37
条件付きスタイルパレット.....38
コンテンツパレット.....38
ブックパレット.....38
字形パレット.....39
グリッドスタイルパレット.....39
ガイドパレット.....40
HTML5パレット.....40
索引パレット.....40
アイテムスタイルパレット.....41
レイヤーパレット.....41
リストパレット.....42
メジャーパレット.....42
メジャーパレット - Mac OS X.....43

メジャーパレット - Windows....45
ページレイアウトパレット....46
プロファイル情報パレット....47
変更履歴パレット....47
リフロー用の目次パレット....47
リフローのタグ付けパレット....47
サイズ変更パレット....47
スタイルシートパレット....48
ツールパレット....48
パレットグループおよびパレットセット....48
レイアウトコントロール....50
表示と表示セット....50
ウィンドウの分割....51
ウィンドウの作成....52
ストーリーエディタ表示の使用....52
表示セット....52

プロジェクトとレイアウト....55
プロジェクトの使用....55
印刷レイアウトのオプション....56
QuarkXPressプロジェクトの保存と命名....57
レイアウトおよびプロジェクトの書き出し....57
レイアウトの使用....57
プロジェクトレベルリソースとレイアウトレベルリソース....58
ガイドの使用....59
コラムガイドおよびマージンガイド....59
ルーラーガイド....59
ガイドへの吸着....60
ダイナミックガイド....60
アクションの取り消しおよびやり直し....61

ボックス、ライン、およびテーブル....62
アイテムとコンテンツの理解....62
ハンドルの理解....63
ベジエ形状の理解....65
ボックスの使用....67
テキストボックスおよび画像ボックスの作成....67
ボックスのサイズ変更....68
ボックスや画像の縦横比のロック....69
ボックスの形状変更....70
ボックスへのフレームの追加....70
ボックスへのカラーの適用....70
ボックスへのブレンドの適用....71
ボックスの融合および分割....71
ボックスへのテキストと画像の追加....72
ボックスタイプの変更....72

クリッピングパスからのボックスの作成.....72
ラインの使用.....73
ラインの作成.....73
直線のラインモード.....74
ラインのサイズ変更.....74
ラインの形状変更.....74
ラインのアピアランスの制御.....75
ラインの連結.....75
オープンなパスの連結、拡張、およびクローズ.....75
アイテムの操作.....75
アイテムの選択.....76
アイテムの移動.....76
アイテムのカット、コピー、およびペースト.....76
アイテムのスタック順序の制御.....77
アイテムのグループ化.....77
アイテムの複製.....78
複数アイテムの配置.....79
アイテムの回転.....79
アイテムの傾斜.....80
アイテムのロックおよびロック解除.....80
テキスト内のアイテムおよびグループへのアンカーの付加.....80
コールアウトの使用.....80
コールアウトの理解.....81
コールアウトの作成.....83
コールアウトアンカーの設定.....84
コールアウトスタイルの使用.....85
コールアウトと回り込み.....86
テーブルの使用.....86
テーブルの描画.....86
テキストからテーブルへの変換.....88
Excelテーブルの取り込み.....89
Excelチャートの取り込み.....90
テーブルへのテキストと画像の追加.....91
テーブルテキストの編集.....91
テーブルのセルのリンク.....92
テーブルのフォーマット.....92
グリッドラインのフォーマット.....92
行と列の挿入と削除.....94
セルの統合.....94
テーブル、行、列の手動でのサイズ変更.....94
テキストへのテーブルの変換.....95
テーブルおよびグループの使用.....95
他の場所でのテーブルの継続.....95

テキストと組版.....100
テキストの編集.....100

テキストの取り込みおよび書き出し.....100
フィルタの取り込み／書き出し.....101
Unicodeオプション付きテキストの取り込みおよび書き出し.....102
テキストの検索と置換.....102
特殊文字コード.....103
スペルチェック.....104
ユーザー辞書.....105
単語および文字のカウント.....106
文字属性の適用.....107
フォントの適用.....107
フォントサイズの選択.....107
文字飾りの適用.....108
カラー、シェードおよび不透明度の適用.....108
横比率または縦比率の適用.....109
ベースラインシフトの適用.....109
圏点の適用.....110
半角文字の制御.....110
文字のカウント.....110
フォントセットの使用.....110
縦組み用グループ化文字の使用.....111
行の文字揃え.....112
複数の文字属性の適用.....114
段落設定の適用.....115
行揃えの制御.....115
インデントの制御.....116
行送りの制御.....117
前段落との間隔および次段落との間隔の制御.....118
タブの設定.....118
ウィドウ行およびオーファン行の制御.....118
禁則文字セットの使用.....119
カーニングの制御.....119
手動カーニング.....119
自動カーニング.....120
ハイフネーション＆ジャスティフィケーションの制御.....120
例外ハイフンの指定.....122
任意ハイフンの使用.....123
トラッキングの制御.....123
手動トラッキング.....123
トラッキングテーブルの編集.....124
字送り.....124
スタイルシートの使用.....124
段落スタイルシートの作成および編集.....124
文字スタイルシートの作成および編集.....127
スタイルシートの適用.....129
スタイルシートの追加.....130
条件付きスタイルの使用.....130
条件付きスタイルの作成.....132

条件付きスタイルの適用.....134
条件付きスタイルの解除.....135
条件付きスタイルマーカーの使用.....135
条件付きスタイルの編集.....137
箇条書きおよび番号付きリスト.....137
箇条書き記号スタイルの使用.....138
箇条書き自動番号スタイルの使用.....139
アウトラインスタイルの使用.....141
箇条書き記号、箇条書き自動番号、アウトラインおよびスタイルシート.....143
テキストボックスのテキストの位置.....144
ベースライングリッドの使用.....144
垂直方向のテキストの位置揃え.....144
テキストとの間隔の指定.....145
組み方の指定.....145
フォント使用状況の制御.....146
テキストからボックスへの変換.....146
テキストの回り込みの使用.....146
アイテムの4隅にテキストを回り込ませる.....147
ラインおよびテキストパスにテキストを回り込ませる.....147
テキストボックスにテキストを回り込ませる.....148
テキストの画像への回り込み.....148
回り込みパスの微調整.....149
回り込みパスの編集.....150
テキストパスの使用.....150
ドロップキャップスの作成.....151
段落上下の罫線の作成.....151
アンカーボックスの使用.....152
テキスト内のボックスおよびラインへのアンカーの付加.....152
アンカーボックスおよびラインのカット、コピー、ペースト、および削除.....152
ボックスおよびラインのアンカー解除.....152
OpenTypeフォントの使用.....152
OpenTypeスタイルの適用.....153
合字の使用.....156
字形パレットの使用.....157
特殊キャラクタの表示.....158
特殊文字の挿入.....158
スペースの挿入.....158
その他の特殊文字の挿入.....158
文字言語の指定.....159
未定義キャラクタの代替の使用.....159
Unicodeオプション付きテキストの取り込みおよび書き出し.....159
フォントマッピングルールの使用.....160
デザイングリッドの使用.....160
デザイングリッドの理解.....160
デザイングリッドの基本.....164
グリッドスタイルの使用.....175
デザイングリッドの使用.....178

ルビ文字の使用.....180
ルビ揃えのオプション.....182
モノルビ.....185
ルビベース揃えのオプション.....186
張り出しルビのオプション.....188
ぶら下がり文字の使用.....190
ぶら下がり文字クラスの作成.....193
ぶら下がり文字セットの作成.....194
ぶら下がり文字セットの適用.....194
文字組みセットとクラスの使用.....195
文字組み文字クラスの作成と編集.....195
文字組みセットの作成および編集.....195
文字組みセットの適用.....198
レガシープロジェクトにおける文字のマッピング.....198
UDA／VDA文字を使用するプロジェクトのマッピング.....199
カスタム文字を使用するプロジェクトのマッピング.....200

画像.....202
画像の使用.....202
画像の取り込み.....202
画像の移動.....203
画像のサイズ変更.....203
画像の切り抜き.....203
画像の回転と傾斜.....203
画像へのカラーおよびシェードの適用.....204
画像のフリップ.....204
画像の一覧表示、状況確認、および更新.....204
画像バックグラウンドカラーの指定.....204
画像属性の保持.....205
クリッピングパスの使用.....205
クリッピングパスの作成.....205
埋め込みクリッピングパスの使用.....207
クリッピングパスの操作.....207
クリッピングパスを使用した特殊効果の作成.....207
アルファマスクの使用.....208
PSD画像の使用.....209
PSDファイルの準備.....209
PSDレイヤーの使用.....209
PSDチャンネルの使用.....210
PSDパスの使用.....211
PSD Importによる印刷.....212

カラー、不透明度、およびドロップシャドウ.....213
カラーの使用.....213
カラーパレット.....213
カラーダイアログボックス.....213

カラーの作成.....214
カラーの編集.....215
カラーの複製.....215
色の削除.....215
別アーティクルやプロジェクトからのカラーの取り込み.....215
カラーの一括変換.....216
カラー、シェード、ブレンドの適用.....216
カラーおよびシェードをテキストに適用.....216
ラインへのカラーとシェードの適用.....216
不透明度の使用.....217
不透明度の指定.....217
グループの不透明度の指定.....217
透明度のあるブレンドの作成.....218
カラーマネージメント.....218
ソースセットアップおよび出力セットアップ.....218
カラーマネージメントの紹介.....218
カラーエキスパートからのソースセットアップと出力セットアップの使用.....219
レガシーカラーマネージメント環境での作業.....220
画面上でのカラーのプルーフ（ソフトプルーフ）.....221
エキスパート向けカラーマネージメント.....221
ソースセットアップの作成.....222
出力セットアップの作成.....222
プロファイルの管理.....223
ドロップシャドウの使用.....224
ドロップシャドウの適用.....225
ドロップシャドウのカスタマイズ.....225
アイテムとのドロップシャドウの結合.....225

ドキュメントの構築.....227
自動ページ番号設定の使用.....227
自動テキストボックスの作成.....227
マスターページの使用.....228
マスターページの作成.....228
マスターページの適用.....232
マスターページの更新.....232
マスターページとレイアウトファミリー.....232
レイヤーの使用.....233
レイヤーの理解.....234
レイヤーの作成.....235
レイヤーの選択.....235
レイヤーの表示および非表示.....235
アイテムが存在するレイヤーの判断.....236
レイヤーの削除.....236
レイヤーオプションの変更.....237
別のレイヤーへのアイテムの移動.....238
レイヤー間でのアイテムのコピーとペースト.....238

レイヤーのスタック順の変更.....239
レイヤーおよびテキストの回り込み.....239
レイヤーの複製.....239
レイヤーの統合.....240
レイヤー上のアイテムのロック.....240
レイヤー付きマスターページの使用.....240
レイヤーを印刷しない.....241
PDFレイヤーの使用.....241
リストの使用.....242
リストの準備.....242
リストの作成.....242
別のドキュメントからのリストのインポート.....243
リストでのナビゲーション.....243
リストの作成.....244
リストの更新.....244
索引の使用.....244
索引マーカの色の指定.....244
索引の見出し語の作成.....245
クロス参照の作成.....247
索引見出し語の編集.....248
索引見出し語の削除.....248
索引で使用する約物の指定.....249
索引の作成.....250
最後の索引の編集.....250
ブックの使用.....251
ブックの作成.....252
チャプターの使用.....252
ページ番号の制御.....254
チャプターの同期.....255
チャプターの印刷.....256
ブックからPDFを生成する.....257
ブックの索引と目次の作成.....258
ライブラリの使用.....258
ライブラリの作成.....259
ライブラリアイテムの追加.....259
ライブラリアイテムの検索.....260
ライブラリアイテムの操作.....260
ラベルの使用.....260
ライブラリの保存.....261

出力.....262
印刷レイアウト.....262
画像パスの更新.....262
印刷ダイアログボックスの制御に関する設定.....262
印刷ダイアログボックス.....264
色分解の印刷.....269

カラーコンポジットの印刷.....270
レイアウトの書き出し.....271
EPS形式でのレイアウトの書き出し.....271
PDF形式でのレイアウトの書き出し.....272
PostScriptファイルの作成.....274
レイアウトを画像として書き出す.....274
出力ファイルの収集の使用.....275
出力スタイルの使用.....276
トラップの使用.....277
平滑化の理解と製品の問題点.....277

ノート.....279
ノートの作成.....279
ノートの使用.....280
ノートの開始と終了.....280
ノートの表示および非表示.....280
ノートの削除.....280
ノートおよびテキストの相互変換.....280
作成者、日付、名前、または色別のノートの表示.....281
ノートの移動とサイズ変更.....281
ノートの印刷.....281
PDFのノート.....281

変更履歴.....282
トラッキングの切り替え.....282
トラッキングされた変更内容の表示.....283
変更内容の同意および拒否.....284

グループ作業およびシングルソース.....285
共有コンテンツの使用.....285
コンテンツの共有および同期.....287
同期オプションの理解.....288
同期アイテムの配置.....289
同期コンテンツの配置.....289
共有コンテンツライブラリへのコンテンツの取り込み.....289
Composition Zonesの使用.....290
コンポジションゾーンの理解.....290
Composition Zonesアイテムの作成.....294
コンポジションゾーンアイテムの配置.....297
コンポジションレイアウトの編集：コンテンツ.....299
コンポジションレイアウトのコンテンツの編集.....299
コンポジションレイアウトの同期の解除.....300
コンポジションレイアウトの削除.....300

電子書籍.....301

リフロービューの使用.....301
リフローアーティクルの作成.....303
リフロータグへのスタイルシートのマッピング.....307
リフローアーティクルへのコンテンツの追加.....308
リフローコンポーネントの分割.....308
リフローアーティクルのコンポーネントの並べ替え.....308
リフロービューでのコンテンツの編集.....309
リフロービューでのコンテンツの更新.....312
ePub形式の電子書籍への、インタラクティブ機能の追加.....313
ePub形式の電子書籍への、オーディオの追加.....313
ePub形式の電子書籍への、ビデオの追加.....313
ePub形式の電子書籍へのハイパーリンクとアンカーの追加.....314
ePUB用またはKindle用の目次の作成.....314
eBookのメタデータの使用.....315
ePUB向けの書き出し.....315
ePub書き出し用CSSの指定.....316
Kindle向けの書き出し.....317

ジョブジャケット.....319
ジョブジャケットの理解.....319
ジョブジャケットとは.....320
ジョブジャケットの構造.....320
ジョブジャケットのワークフロー例.....324
ジョブジャケットの使用.....325
基本モードと詳細設定モード.....325
ジョブジャケットファイルの作成.....326
ジョブチケットの使用.....330
ジョブチケットテンプレートの作成.....330
ジョブチケットへのレイアウト定義の追加：詳細設定モード.....335
プロジェクトへのジョブチケットテンプレートの適用.....336
プロジェクトへのレイアウト定義の適用.....339
ジョブチケットの書き出しと取り込み.....339
デフォルトのジョブジャケットファイル.....340
デフォルトジョブチケットテンプレートの編集：ファイルメニュー.....340
デフォルトジョブチケットテンプレートの編集：補助メニュー.....341
デフォルトジョブジャケットファイルの編集.....341
リソースの使用：詳細設定モード.....342
リソースへのアクセス：詳細設定モード.....342
リソースの設定：詳細設定モード.....343
リソースの場所の指定：詳細設定モード.....344
レイアウト仕様の使用.....345
レイアウトの仕様の作成：詳細設定モード.....345
レイアウトへのレイアウトの仕様の適用.....346
ルールおよびルールセットの使用.....348
ルールの作成：詳細設定モード.....349
ルールセットへのルールの追加：詳細設定モード.....351

レイアウトへのルールセットの適用.....352
レイアウトの評価.....354
ジョブジャケットのロック.....356
JDF出力での印刷.....358

多言語の使用.....359
文字言語の適用.....359
表示言語の変更.....360

XTensionsソフトウェア.....361
XTensionsモジュールの使用.....361
XTensionsモジュールのインストール.....361
XTensionsの有効化と無効化.....361
XTensionsセットの使用 （Windowのみ） 362
CustomBleed Xtensionsソフトウェア.....362
カスタムブリードの使用.....363
ブリード限度でのクリップの使用.....363
DejaVu XTensionsソフトウェア （Windowsのみ） 364
Drop Shadow XTensionsソフトウェア.....364
Guide Manager Pro XTensionsソフトウェア.....365
ガイドパレットの使用.....365
ガイドパレットメニュー.....367
Guide Manager Proを使用したガイドの作成.....368
Guide Manager Proを使用したグリッドの作成.....369
行と列の作成.....371
ブリードとセーフティガイドの作成.....372
Item Find/Change XTensionsソフトウェア.....374
Item Styles XTensionsソフトウェア.....375
アイテムスタイルパレットの使用.....376
アイテムスタイルの作成.....376
アイテムスタイルの使用状況の確認.....378
PDF Filter XTensionsソフトウェア.....378
画像ボックスへのPDFファイルの取り込み.....378
Scale XTensionsソフトウェア.....379
Scissors XTensionsソフトウェア.....381
Script XTensionsソフトウェア.....381
ボックスツールサブメニュー.....382
グリッドサブメニュー.....382
イメージサブメニュー.....382
画像ボックスサブメニュー.....383
保存中サブメニュー.....383
特殊サブメニュー.....383
ストーリーサブメニュー.....384
テーブルサブメニュー.....384
組版サブメニュー.....384
Shape of Things XTensionsソフトウェア.....384

星型ツールの使用.....384
Super Step and Repeat XTensionsソフトウェア.....385
Super Step and Repeatの使用.....385
Table Import XTensionsソフトウェア.....386
TypeTricks.....386
分数の作成.....386
通貨の作成.....387
単語スペーストラッキング.....387
ラインチェック.....388
カスタムアンダーライン.....388
Word 6-2000 Filter.....388
クローナーXTensionsソフトウェア.....389
イメージグリッドXTensionsソフトウェア.....390
リンクスターXTensionsソフトウェア.....392
シェイプメーカーXTensionsソフトウェア.....393
シェイプメーカーの波形タブ.....394
シェイプメーカーの多角形タブ.....394
シェイプメーカーの渦巻きタブ.....395
シェイプメーカーの方形タブ.....396
シェイプメーカーのプリセットタブ.....397
XTensionsのその他のモジュール.....397

環境設定.....399
環境設定の理解.....399
環境設定が一致しませんという警告.....399
QuarkXPress環境設定への変更.....400
環境設定ファイルの内容.....400
アプリケーションの環境設定.....401
環境設定 - アプリケーション - 表示.....401
環境設定 - アプリケーション - カラーテーマ.....402
環境設定 - アプリケーション - 入力設定.....403
環境設定 - アプリケーション - 未定義キャラクタの代替.....404
環境設定 - アプリケーション - 取り消し.....405
環境設定 - アプリケーション - 開く＆保存.....405
環境設定 - アプリケーション - XTensionsマネジャー.....405
環境設定 - アプリケーション - 共有.....405
環境設定 - アプリケーション - フォント.....406
環境設定 - アプリケーション - テキストのハイライト.....406
環境設定 - アプリケーション - 東アジア.....406
環境設定 - アプリケーション - ダイナミックガイドのカラー.....406
環境設定 - アプリケーション - ファイルリスト.....407
環境設定 - アプリケーション - デフォルトパス.....407
環境設定 — アプリケーション — 索引.....407
環境設定 - アプリケーション - ジョブジャケット.....408
環境設定 - アプリケーション - ノート.....408
環境設定 - アプリケーション - PDF.....408

環境設定 - アプリケーション - 変更履歴.....409
環境設定 - アプリケーション - スペルチェック.....409
環境設定 - アプリケーション - テーブル.....410
環境設定 - アプリケーション - 分数／通貨.....410
プロジェクトの環境設定.....410
環境設定 - プロジェクト - 一般.....411
レイアウト環境設定.....411
環境設定 - レイアウト - 一般.....411
環境設定 — レイアウト — 単位.....412
環境設定 - レイアウト - 段落.....413
環境設定 - レイアウト - 文字設定.....414
環境設定 - レイアウト - ツール.....416
環境設定 - レイアウト - ガイドとグリッド.....416
環境設定 - レイアウト - グリッドセルの塗りつぶし.....417
環境設定 - レイアウト - カラーマネジャー.....417
環境設定 — レイアウト — レイヤー.....418

法律上の注記.....419

本書について

QuarkXPress®の資料を最初から最後まですべて読む必要はありません。本書を使用して簡単に必要な情報を調べながら、作業を進めてください。

想定される前提条件

本書では、ユーザーがコンピュータの操作に慣れていると同時に、下記の操作方法を理解していることを想定しています。

- アプリケーションの起動
- ファイルを開く、保存する、閉じる
- メニュー、ダイアログボックス、およびパレットの使用
- ネットワークで接続されたコンピュータ環境での作業
- マウス、キーボードコマンド、および修飾キーの使用

これらの操作に関する情報が必要な場合は、ご使用のコンピュータに付属のマニュアルや他のリソースを確認してください。

ヘルプが必要な場合の参照先

初めてQuarkXPressをご使用になる場合、またはある機能について調べる場合は、下記のリソースを参照してください。

- *QuarkXPressのガイド*
- QuarkXPressのヘルプ
- サードパーティの出版物
- DTPに関する一般的な出版物

たとえば、ファイルの保存、ファイルの移動、フォントのアクティブ化など、問題がシステムレベルの場合は、ご使用のコンピュータに付属されているマニュアルを参照してください。

表記規則

本書では、ユーザーが必要な情報をすばやく見つけることができるように、表記規則を使用して重要な情報を強調表示しています。

- ボールド体：ダイアログボックス、フィールド、およびその他のコントロールの名前はすべてボールド体で表記されています。例：「**OK**をクリックします。」
- 注釈：機能の説明では、括弧内の注釈でそれらの機能の場所が分かるようになっています。例：「**検索／置換**ダイアログボックス（**編集**メニュー）でテキストを置換できます。」
- 矢印：矢印（**>**）は機能へアクセスするためのメニューパスを示すもので、頻繁に使用されます。例：「**編集 > スタイルシート**を選択して、**スタイルシート**ダイアログボックスを表示します。」
- アイコン：多くのツールやボタンは、ツールチップで表示される名前で説明されますが、ユーザーが見つけやすいようにアイコンで示される場合があります。例：「**メジャー**パレットの≡ボタンをクリックして、テキストをセンター揃えにします。」
- クロスプラットフォームの問題：このアプリケーションは、異なるオペレーティングシステム間での整合性があります。ただし、ユーザーインターフェイス規則やその他の要因により、アプリケーションのラベル、ボタン、キーの組み合わせなどについて、Mac OS®とWindows®間で違いが生じる場合があります。そのような場合は、Mac OSとWindowsの両方のバージョンが記載されています。両バージョンはスラッシュで区切られ、Mac OSバージョンが先に記載されます。たとえば、Mac OSバージョンのボタンの名前が**選択**で、Windowsバージョンの名前が**参照**の場合、説明は「**選択／参照**をクリックします」となります。プラットフォーム間の違いがより複雑な場合は、ノートや括弧を使用して説明されます。

技術情報

Quarkは、出版者が組版、カラー、グループ作業を管理できるように、Mac OS XおよびWindows向けのQuarkXPressを開発しました。QuarkXPressは、独自の組版管理に加えて、TrueType®、OpenType®、およびUnicode®のサポートなどの、総合的なフォントサポートを提供します。設計者は、PANTONE®（PANTONE MATCHING SYSTEM®）、Hexachrome®、Trumatch®、Focoltone®、DIC®、およびTOYOを使用して、ページレイアウトに色を追加できます。

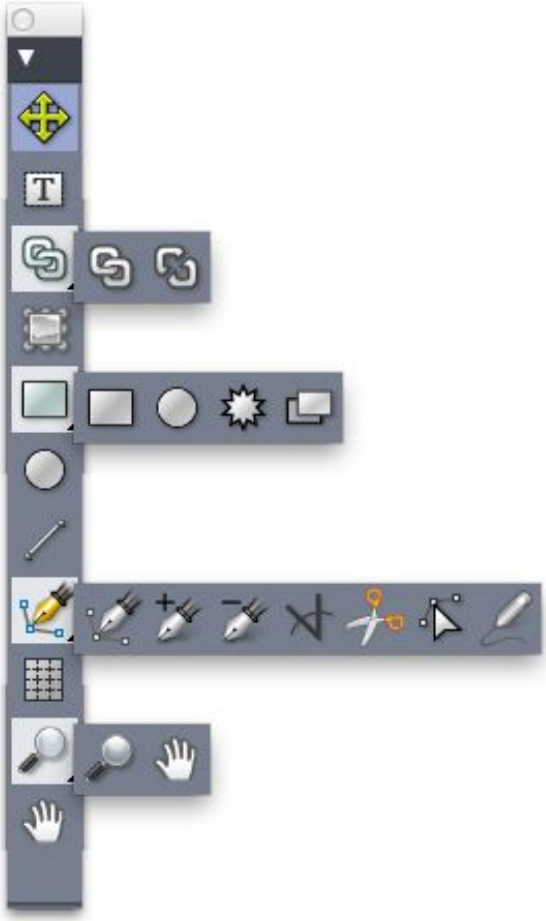
複数のファイルフォーマットでコンテンツの取り込みや書き出しを実行したり、デザインコンポーネントの他ユーザーとの共有を可能にするQuarkXPressは、出版環境におけるグループ作業のハブとして機能します。 Microsoft® Word、Microsoft Excel®、Adobe® Illustrator®、Adobe Photoshop®などのアプリケーションからファイルを取り込むことができます。コンテンツをPostScript®またはAdobe Acrobat® Reader®用のPDF形式で出力できます。また、QuickTime®、Internet Explorer®、Safari®、Firefox®、およびNetscape Navigator®で閲覧できるようにファイルを書き出すこともできます。Quark Interactive Designer™を使用すると、Flash®形式でレイアウトを書き出すことができます。Job Jackets®やComposition Zones®などの機能を使用すると、複数のユーザーが同じ出版物に対して同時に作業しているときでも、仕様を共有して一貫性のある出版物を作成できます。

QuarkXPressのソフトウェアアーキテクチャにより、ユーザーやソフトウェア開発者が使用できる出版機能が強化されます。XTensions®のソフトウェア技術を使用して、サードパーティの開発者はQuarkXPressのカスタムモジュールを作成できます。QuarkXTensions® （Quark® XTensionsソフトウェア）も、特定の出版ニーズに合わせたモジュール単位のアプローチを提供します。さらに、Apple®のスクリプト記述言語であるAppleScript®を使用してスクリプトを記述できれば、多くのQuarkXPressアクティビティを自動化できます。

ユーザーインターフェイス

QuarkXPressユーザーインターフェイスを見ると、使い慣れた、用途が一目で分かるコマンドが多いことが分かります。QuarkXPressのメニューとダイアログボックスに慣れると、キーボードコマンドとパレットを使用して、メニューからもアクセスできる機能に簡単にアクセスできるようになります。

ツール



ツールパレット

ツールパレットには、下記のコントロールがあります。

- アイテム（ボックス、ライン、テキストパス、およびグループ）の選択、移動、サイズ変更、および形状変更を行うには、**アイテム**ツール を使用します。**アイテム**ツールが選択されていない場合、Command／Ctrlキーを使用して、一時的に**アイテム**ツールにアクセスできます。
- テキストボックスを描画し、ボックス内のテキストを使用するには、**テキストコンテンツ**ツールを使用します。
- テキストボックスをリンクするには、**テキスト連結**ツールを使用します。
- テキストボックスをリンク解除するには、**テキスト連結解除**ツールを使用します。
- 画像ボックスを描画し、ボックス内の画像を使用するには、**画像コンテンツ**ツールを使用します。
- 方形ボックスを作成するには、**方形ボックス**ツールを使用します。正方形ボックスを描画するには、Shiftキーを押したまま描画してください。
- 楕円形ボックスを作成するには、**楕円形ボックス**ツールを使用します。正円形ボックスを作成するには、Shiftキーを押したまま描画してください。
- 星形ボックスを作成するには、**星形**ツールを使用します。
- コンポジションゾーンボックスを作成するには、**コンポジションゾーン**ツールを使用します。
- 任意の角度を持つ直線の対角線を作成するには、**ライン**ツール を使用します。ライン角度を45度に制限するには、Shiftキーを押したまま描画してください。
- ベジエラインとベジエボックスを作成するには、**ベジエペン**ツールを使用します。ライン角度を45度に制限するには、Shiftキーを押したまま描画してください。
- 任意のパスのタイプにポイントを追加するには、**ポイント追加**ツール を使用します。コンテンツボックスにポイントを追加すると、コンテンツボックスは自動的にベジエアイテムに変更されます。
- 任意のパスのタイプからポイントを削除するには、**ポイント削除**ツール を使用します。
- コーナーポイントを曲線ポイントに、曲線ポイントをコーナーポイントに自動的に変換するには、**ポイント変換**ツール を使用します。クリックしてドラッグすることによって、ポイントの位置、曲線セグメントの曲線、直線セグメントの位置を変更します。このツールを選択して、方形ボックスや直線をクリックして、アイテムをベジエボックスやベジエラインに変換します。
- 1アイテムを別個のパスに切り分けるには、**はさみ**ツールを使用します。

- 曲線やポイントを選択して移動または削除できるようにするには、**ポイント選択**ツールを使用します。複数のポイントを選択するには、Shiftキーを押しながらクリックします。シンメトリカルポイントにするには、Option／Altキーを押しながらクリックします。
- 任意の形状を持つラインやボックスを描画するには、**フリーハンド描画**ツールを使用します。フリーハンドボックスを閉じなければ、ラインは保持されます。フリーハンドボックスを自動的に閉じるには、Option／Altキーを押します。
- テーブルを作成するには、**テーブル**ツールを使用します。
- ドキュメント表示の拡大や縮小を行うには、**ズーム**ツールを使用します。
- アクティブレイアウトの位置を変更するには、**パン**ツールを使用します。

➡ **方形ボックス**ツールを使用して描画を行うとき、キーコマンドを使用して、ボックスのコンテンツの種類を宣言できます。描画中にRキーを押すと画像コンテンツを、Tキーを押すとテキストコンテンツを宣言できます。既存のボックスについてコンテンツの種類を変更するには、ボックスを右クリックし、コンテンツ > テキストを選択して、画像またはなしを選択します。

➡ ベジエボックスとベジエラインについての詳細は、「*ベジエボックスの作成*」および「*ベジエラインの作成*」を参照してください。

➡ ペンツールを選択しているときにレイアウトをパンするには、Shift+スペースを押して、クリックアンドドラッグします。

➡ ラインまたはパスにテキストを追加するには、**テキストコンテンツ**ツールを選択して、ラインまたはパスをダブルクリックします。

➡ コンポジションゾーンについての詳細は、「*Composition Zonesアイテムの作成*」を参照してください。

➡ ユーザーは、**ウィンドウ**メニューの**ツール**パレットを垂直方向にも水平方向にも表示できます。パレットを水平方向に表示するには、 **Windows**ではタイトルバーをCtrl+ダブルクリックし、 **Mac OS X**ではツールパレットを上端にドッキングします。

ツールキーコマンド

アクティブなテキストボックスまたはテキストパスがない場合、下記のキーコマンドを使用して、ツールをすばやく切り替えられます。

ツール	Windows	Mac OS X
アイテムツール	V	V
テキストコンテンツツール	T	T
テキスト連結ツール	T	N

ツール	Windows	Mac OS X
テキスト連結解除ツール	T	N
画像コンテンツツール	R	R
方形ボックスツールツール	B	B
楕円形ボックスツール	B	B
星形ツール	B	B
コンポジションゾーンツール	L	B
ラインツール	P	L
ベジエペンツール	P	P
ポイント追加ツール	P	P
ポイント削除ツール	P	P
ポイント変換ツール	P	P
はさみツール	P	P
ポイント選択ツール	P	P
フリーハンド描画ツール	P	P
テーブルツール	G	G
ズームツール	Z	Z
パンツール	x	x

メニュー

下記のトピックは、QuarkXPressで利用できるメニューおよびメニューアイテムを説明します。

QuarkXPressメニュー（Mac OS Xのみ）

QuarkXPress for Mac OS Xには、**QuarkXPress**メニューがあります。このメニューには、QuarkXPressとその他のアプリケーションの表示、非表示の切り替え、環境設定へのアクセス、およびQuarkXPressの終了などの、他のMac OS Xアプリケーションと同様のコマンドが含まれています。このメニューには、下記のコマンドが含まれます。

- **QuarkXPressについて**：このコマンドを使用して、QuarkXPressのバージョン番号などの情報を表示します。
- **ライセンスコードを編集**：このコマンドを使用して、インストール済みのQuarkXPressのバリデーションコードを変更できます。このコードを変更することで、QuarkXPressの無料お試し版バージョン（以前の「評価版」）から全機能バージョンへの変更、ユーザーインターフェイスでサポートされる言語の変更、またはQuarkXPressのPlus版への変更が可能です。

- **QuarkXPressのアクティブ化**：コンピュータでQuarkXPressをアクティブ化します。QuarkXPressがデモモードで実行されている場合にのみ利用できます。
- **アップデートを確認**：QuarkXPressのアップデートを確認します。
- **Quarkアップデートの設定**：自動アップデートの設定を行います。
- **環境設定**：デフォルトの値と設定を指定します。詳細は、「*環境設定*」を参照してください。
- **QuarkXPressの終了**：アプリケーションを終了します。

ファイルメニュー

ファイルメニューでは、作成、開く、印刷、および保存などの複数の方法で電子ファイルを操作できます。このメニューには、下記のコマンドがあります。

- **新規**：**新規**サブメニューのオプションを選択して、プロジェクトを作成します。**チケットから新規プロジェクト作成**を選択すると、プロジェクトを作成できるジョブチケットを選択できます。また、このサブメニューを使用して、新しいライブラリおよびブックを作成できます。
- **開く**：プロジェクトファイルを開きます。
- **最近読んだ作品を開く**：最近開いたファイルのリストから、プロジェクトを選んで開きます。
- **閉じる**：アクティブなプロジェクトを閉じます。
- **保存**：アクティブなプロジェクトを保存します。
- **新規保存**：アクティブなプロジェクトのコピーを保存します。
- **復帰**：アクティブなプロジェクトを最後に保存された状態に戻します。
- **取り込み**：このコマンドを使用して、テキストボックスにテキストを取り込むか、画像ボックスに画像を取り込みます。
- **テキスト保存**：アクティブなテキストボックスのコンテンツを別のファイルとして保存します。
- **追加**：別のファイルからのスタイルシート、カラー、レイアウト、およびさまざまなその他の種類のリソースを追加します。
- **書き出し**：レイアウトを別のファイルの種類またはバージョンとして保存します。
- **出力ファイルの収集**：1つのフォルダにファイル、出力レポート、および選択されたリソースをコピーします。
- **ジョブジャケット**：このサブメニューを使用して、レイアウトの作成および検査に関する仕様とルールへのアクセス、ジョブジャケットファイルへのプロジェクトのリンク、ジョブチケットの設定、およびレイアウトの評価を行います。
- **印刷**：アクティブなファイルを印刷します。
- **終了（Windowsのみ）**：アプリケーションを終了します。

編集メニュー

編集メニューには、下記のコマンドがあります。

- **取り消し**：最後のアクションを取り消します。

- **やり直し**：取り消されたアクションをやり直します。
- **カット**：選択されたコンテンツをカットします。
- **コピー**：選択されたコンテンツをクリップボードにコピーします。
- **ペースト**：クリップボード上のコンテンツをアクティブなページにペーストします。
- **フォーマットなしのペースト**：クリップボードのコンテンツを、プレーンテキストとしてペーストします。
- **同位置にペースト**：複製またはコピーされたアイテムをアクティブなページ上のコピー元と同じ場所にペーストします。
- **形式を選択して貼り付け （Windowsのみ）**：Microsoft Windows Object Linking and Embedding（OLE）機能を使用して、オブジェクトをドキュメントにペーストする方法を選択できます。
- **削除 （Windowsのみ）**：アクティブなコンテンツを削除します。
- **すべて選択**：アクティブなボックスまたはテキストパスのすべてのコンテンツを選択します。
- **クリップボード表示 （Windowsのみ）**：クリップボードのコンテンツを表示します。
- **検索／置換**：**検索／置換**パレットを表示します。このパレットでは、コンテンツ、フォーマット、または両方をベースにテキストの検索と置換を行えます。
- **アイテム検索／置換**：**アイテム検索／置換**パレットを表示および隠します。
- **環境設定 （Windowsのみ）**：デフォルトの値と設定を指定します。詳細は、「*環境設定*」を参照してください。
- **カラー**：カラーの定義を追加、編集、および削除します。詳細は、「*カラーの使用*」を参照してください。
- **スタイルシート**：スタイルシートの定義を追加、編集、および削除します。詳細は、「*スタイルシートの使用*」を参照してください。
- **アイテムスタイル**：**アイテムスタイル**パレット（**ウィンドウ**メニュー）を使用して、QuarkXPressアイテムに適用できるアイテム定義を追加、編集、および削除します。
- **コールアウトスタイル**：コールアウトスタイルを追加、編集、および削除します。詳細は、「*コールアウトの使用*」を参照してください。
- **条件付きスタイル**：条件付きスタイルを追加、編集、および削除します。詳細は、「*条件付きスタイルの使用*」を参照してください。
- **箇条書き記号、箇条書き自動番号およびアウトラインスタイル**：箇条書き記号、箇条書き自動番号、アウトラインスタイルを追加、編集、および削除します。詳細は、「*箇条書きおよび番号付きリスト*」を参照してください。
- **アンダーラインスタイル**：アンダーラインスタイルにアクセスし、設定します。
- **ハイパーリンク**：URL、アンカー、およびページのリンクを含むハイパーリンクを追加、編集、および削除します。
- **ぶら下がり文字**：カスタムぶら下がり文字の定義を追加、編集、および削除します。詳細は、「*ぶら下がり文字の使用*」を参照してください。
- **リスト**：リストの定義を追加、編集、および削除します。リスト機能は、コンテンツおよびその他のリストされたコンテンツの種類のテーブルを自動的に生成するツールです。詳細は、「*リストの使用*」を参照してください。

- **H&J**：H&J（ハイフネーション＆ジャスティフィケーション）の定義を追加、編集、および削除します。H&Jを使用して、テキストの分割を制御できます。詳細は、「*ハイフネーション＆ジャスティフィケーションの制御*」を参照してください。
- **グリッドスタイル**：テキストコンポーネントに適用できる、印刷されないデザイングリッドのパターンを追加、編集、および削除します。詳細は、「*デザイングリッドの使用*」を参照してください。
- **ダッシュ＆ストライプ**：カスタムラインパターンを追加、編集、および削除します。
- **フォントセット**：特定のフォントのカスタム比率、サイズ、および効果を追加、編集、および削除します。
- **出力スタイル**：出力スタイルの定義を追加、編集、および削除します。出力スタイルでは、異なる出力オプションを簡単に切り替えることができます。詳細は、「*出力スタイルの使用*」を参照してください。
- **文字組み**：文字組みセットおよびクラスを追加、編集、および削除します。詳細は、「*文字組みセットとクラスの使用*」を参照してください。
- **禁則文字セット**：ダブルバイト文字セットのルールを追加、編集、および削除します。
- **カーニングペア （Mac OS Xのみ）**：インストールされたフォントのカーニングを制御できます。
- **フォントトラッキングテーブル （Mac OS Xのみ）**：インストールされているフォントのトラッキングを制御できます。
- **選択内容からツールの環境設定を設定 （Mac OS Xのみ）**：ツールの環境設定を、現在選択されているボックスの属性に合わせて設定します。
- **ツールの環境設定をデフォルトに復元 （Mac OS Xのみ）**：ツールの環境設定をデフォルトに戻します。
- **カラーのセットアップ**：ソースおよび出力セットアップの設定にアクセスし、設定します。
- **表示言語 （Windowsのみ）**：ユーザーインターフェイスの言語を変更します。
- **特殊文字 （Mac OS Xのみ）**：特殊文字の定義を追加、編集、および削除します。
- **注意**：ノートの挿入、削除、およびノート間の移動を行います。 ノート機能は、標準インストールには含まれていません。 ノート機能を使用するには、Notes XTensionsソフトウェアがインストールされている必要があります。詳細は、「*ノート*」を参照してください。

スタイルメニュー

スタイルメニューは、テキストボックス、画像ボックス、またはラインがアクティブかどうかによって変化します。

テキストのスタイルメニュー

テキストの**スタイル**メニューには、文字属性と段落フォーマットを指定するためのコマンドが含まれます。このメニューには、下記のコマンドが含まれます。

- **フォント**：選択したテキストのフォントを変更できます。
- **サイズ**：選択したテキストのサイズを変更できます。

- **文字飾り**：選択したテキストにボールド、イタリック、またはアンダーラインなどの文字飾りを適用できます。
- **カラー**：選択したテキストのカラーを変更できます。
- **シェード**：適用したカラーの色調を設定できます。
- **不透明度**：選択したテキストの透明度を制御できます。
- **文字の変形 （Windowsのみ）**：選択したテキストを水平または垂直方向に引き延ばします。
- **カーニング （Windowsのみ）**：文字間に適用されているすべての手動カーニングを追加または削除でき、またカーニングペアからカーニングを削除できます。
- **縦組み／横組み**：選択したテキストボックスの縦組み／横組みを指定できます。
- **ルビ**：テキストに適用されているルビ文字を制御できます。
- **縦組み中の文字回転**：水平テキストを、縦組みに配置できます。
- **行揃え**：アクティブな段落を、左、右、または中央に揃えられます。選択した段落の両端揃え、または強制両端揃えも実行できます。
- **文字揃え**：アクティブな文字を上、中央、ベースライン、または下に揃えられます。
- **ベースラインシフト （Windowsのみ）**：ライン間隔を変更せず、選択したテキストをベースラインに対して上下に移動できます。
- **文字設定 （Windowsのみ）**：**文字属性**ダイアログボックスを表示し、選択したテキストの文字フォーマットのすべての設定を制御できます。
- **行送り （Windowsのみ）**：選択した段落のライン間隔を変更できます。
- **段落設定 （Windowsのみ）**：**段落設定**ダイアログボックスを表示し、選択したテキストの段落フォーマットのすべての設定を制御できます。
- **タブ （Windowsのみ）**：選択した段落のタブストップを設定できます。
- **段落罫線 （Windowsのみ）**：選択した段落の上下に自動ラインを作成できます。
- **段落スタイルシート**：選択したテキストに段落スタイルシートを適用できます。
- **文字スタイルシート**：選択したテキストに文字スタイルシートを適用できます。
- **スタイルシートの更新**：適用されているスタイルシートへのローカルな変更を基にして、文字や段落のスタイルシート定義を更新できます。
- **アイテムスタイル**：適用されているアイテムスタイルを表示および更新できます。
- **大文字／小文字の変更**：選択したテキストを大文字、小文字、またはタイトル文字に変更できます。
- **水平フリップ**：選択したテキストを水平方向にフリップします。
- **垂直フリップ**：選択したテキストを垂直方向にフリップします。
- **ハイパーリンク**：ハイパーリンク、ページリンク、またはアンカーを変更して、選択したテキストに適用できます。
- **アンカー**：選択したテキストのアンカーを作成または変更できます。
- **手動カーニングをクリア （Mac OSのみ）**：文字間に適用されている全手動カーニングを削除したり、カーニングペアからカーニングを削除できます。

- **アンダーラインスタイル （Windowsのみ）**：アンダーラインスタイルを変更して、選択したテキストに適用できます。

画像のスタイルメニュー

画像の**スタイル**メニューには、画像をフォーマットして編集するためのコマンドが含まれます。このメニューには、下記のコマンドが含まれます。

- **カラー**：選択したグレイスケールや1ビット画像にカラーを適用します。
- **シェード**：適用したカラーの強度を設定できます。
- **不透明度**：選択した画像の透明度を制御できます。
- **ハーフトーン （Windowsのみ）**：選択したグレイスケール画像に、ハーフトーン画面パターンを適用できます。
- **画像をボックスに合わせる**：選択した画像を、画像ボックスに合わせて水平および垂直方向に拡大／縮小します。
- **画像をボックスに合わせる（縦横比を保持）**：選択した画像を、画像ボックスに合わせて拡大／縮小します。ただし、この場合は縦横比が維持されます。
- **ボックスを画像に合わせる**：選択した画像のサイズに合わせて、画像ボックスを拡大または縮小します。
- **アイテムスタイル**：適用されているアイテムスタイルを表示および更新できます。
- **画像を中央に配置**：選択した画像を、その画像ボックスの中央に配置します。
- **水平フリップ**：選択した画像を水平方向にフリップします。
- **垂直フリップ**：選択した画像を垂直方向にフリップします。
- **ハイパーリンク**：ハイパーリンク、ページリンク、またはアンカーを変更して、選択した画像またはボックスに適用できます。
- **アンカー**：選択した画像またはボックスのアンカーを作成または変更できます。

ラインのスタイルメニュー

ラインの**スタイル**メニューには、以下のコマンドが含まれます。

- **ラインの種類**：選択したラインにラインのスタイルを適用できます。
- **矢印の先端**：選択したラインに矢印の先端スタイルを適用できます。
- **幅**：選択したラインの幅を調整できます。
- **カラー**：選択したラインのカラーを変更できます。
- **シェード**：適用したカラーの強度を設定できます。
- **不透明度**：選択したラインの透明度を制御できます。
- **アイテムスタイル**：適用されているアイテムスタイルを表示および更新できます。
- **ハイパーリンク**：ハイパーリンク、ページリンク、またはアンカーを変更して、選択したラインに適用できます。
- **アンカー**：選択したラインのアンカーを作成または変更できます。

アイテムメニュー

アイテムメニューには、アイテム属性、位置、グループ化、共有、その他を制御するためのコマンドがあります。

- **設定 （Windowsのみ）**：アイテムのカラー、シェード、位置、サイズ、フレーム、回り込み、クリッピングパスなどの総合的なコントロールのセットにアクセスできます。
- **フレーム （Windowsのみ）**：アイテムの幅、スタイル、カラー、および不透明度などのフレーム属性を指定できます。
- **回り込み （Windowsのみ）**：テキストが画像または画像ボックスの内部や外部に入り込んだり、または画像や画像ボックスを通すように指定できます。
- **クリッピング （Windowsのみ）**：特定アイテムのクリッピングタイプを選択して、クリッピングタイプの距離を制御できます。
- **複製**：アイテムとアイテムのコンテンツのコピーを作成できます。
- **連続複製 （Windowsのみ）**：アクティブなアイテムを複数回、指定した位置に複製できます。
- **高性能連続複製**：アクティブなアイテムを複数回複製して、複製の縮小率、回転、およびシェードを指定できます。
- **削除**：選択したアイテムとアイテムのコンテンツを削除できます。
- **ロック**：アイテムの位置やコンテンツをロックすることによって、アイテムとアイテムのコンテンツを不用意に変更してしまうことを防ぎます。
- **重なり順 （Mac OS Xのみ）**：アイテムを、ページまたはレイヤーの重なり順で1レベル後ろ、一番後ろ、一番前、または1レベル前へ移動できます。
- **ひとつ後ろへ （Windowsのみ）**：アイテムをページやレイヤーのスタック順序で1レベル後ろに移動します。
- **背面へ送る （Windowsのみ）**：アイテムをページやレイヤーの一番後ろに移動します。
- **ひとつ前へ （Windowsのみ）**：アイテムをページやレイヤーのスタック順序で1レベル前に移動します。
- **前面へ出す （Windowsのみ）**：アイテムをページやレイヤーの一番前に移動します。
- **グループ**：複数のアクティブなアイテム（ライン、ボックス、テキストパス、テーブル、およびその他のグループ）を1つのグループにまとめられます。
- **グループ解除**：現在選択されているグループ化されたアイテムを、グループ解除します。
- **すべてグループ解除**：1つのグループをコンポーネントアイテムまたはグループに分割します。
- **複数アイテムの配置**：選択したアイテムを、アイテム同士が均等になるように、あるいはページまたはスプレッドに対して均等になるように配置できます。
- **制限**：アイテムが制限されている境界を越えて移動できないように、アイテムを制限できます。
- **内容**：アイテムのコンテンツタイプを変更できます。
- **形状**：アクティブなアイテムの図形を変更できます。

- **融合**：選択したアイテムをさまざまな方法で融合します。 **（Mac OS X：パスの融合または分割）**
- **分割**：重なりがない図形を含むボックス、図形内にある図形を含むボックス、または自身と交差するボーダーを含むボックス（図8）を分割できます。 **（Mac OS X：パスの融合または分割）**
- **ポイント／セグメントの種類**：アイテムのポイントやセグメントの種類を変更することで、ポイント、曲線ハンドル、およびラインセグメントを操作できます。
- **テキストからボックスへの変換**：選択したテキストボックスのコンテンツをベジエボックスに変換できます。
- **編集**：アイテムの図形、回り込み、またはクリッピングパスを変更できます。
- **図形をフリップ**：フレーム内のベジエ形状を垂直または水平方向にフリップできます。
- **共有**：アイテムの共有プロパティにアクセスして、テキスト、画像、ボックス、ライン、およびコンポジションゾーンなどのコンテンツの同期または再利用を行えます。
- **サイズの同期を解除**：アイテムの他の使用（または同期属性）に影響を与えることなく、アイテムの単一インスタンスの同期を削除します。
- **アイテム／コンテンツの同期を解除**：アイテムの他の使用（または同期属性）に影響を与えることなく、アイテムの単一インスタンスの同期を削除します。
- **ドロップシャドウ （Windowsのみ）**：アイテムのドロップシャドウを適用または変更できます。
- **他のレイアウトにコピー**：選択したアイテムを他のレイアウトにコピーできます。
- **コールアウトアンカー**：コールアウトアンカーとコールアウトを設定できます。詳細は、「*コールアウトの使用*」を参照してください。
- **コンポジションゾーン**：コンポジションゾーンを作成または変更できます。
- **デジタルパブリッシング**：ePubやApp Studioフォーマットでデジタルパブリッシング用アイテムを設定できます。詳細は、「*電子書籍*」および『A Guide to App Studio』を参照してください。
- **クリッピングパスから新規ボックスを作成**：クリッピングパスからボックスを作成できます。
- **サイズ変更**：サイズ変更設定を変更できます。

ページメニュー

ページメニューには、ページを挿入、削除、移動し、ガイド、グリッド、および選択したオブジェクトを使用し、ページ間を移動するためのコマンドなどがあります。

- **挿入**：新規ページを追加できます。
- **削除**：ページを削除できます。
- **移動**：ページを別の場所に移動できます。
- **マスターガイド＆グリッド**：ページガイドの配置を変更して、マスターページ上のグリッドをデザインできます。
- **セクション**：レイアウトや、レイアウトのページ範囲での番号付け方法を変更できます。
- **前ページへ**：前のページに移動します。

- **次ページへ**：次のページに移動します。
- **先頭へ**：最初のページに移動します。
- **最後へ**：最後のページに移動します。
- **移動**：特定のページに移動できます。
- **表示**：ページやマスターページを表示できます。

レイアウトメニュー

レイアウトメニューには、レイアウトを使用し、レイアウトに移動するためのコマンドがあります。

- **新規**：新規レイアウトを追加できます。
- **複製**：1つのレイアウトを複製し、そのアイテムとコンテンツを別のレイアウトにコピーできます。
- **削除**：レイアウトを削除できます。
- **レイアウト仕様の新規作成／編集**：レイアウトのジョブジャケットプロパティを作成または編集できます。
- **レイアウトプロパティ**：名前、タイプ、およびサイズなどのレイアウトプロパティを変更できます。
- **詳細レイアウトプロパティ**：レイアウトの共有プロパティを変更できます。
- **eBookのメタデータ**：eBook向けに書き出すためのレイアウトに、メタデータを適用できます。詳細は、「*eBookのメタデータの使用*」を参照してください。
- **ページをリフロービューに追加**：リフローアーティクルにページを追加できます。詳細は、「*リフロービューの使用*」を参照してください。
- **前のレイアウトへ**：現在のレイアウトの前にアクティブであったレイアウトタブをアクティブにします。
- **次のレイアウトへ**：アクティブなレイアウトのすぐ右に位置するレイアウトタブをアクティブにします。
- **先頭のレイアウトへ**：一番左のレイアウトタブをアクティブにします。
- **最後のレイアウトへ**：一番右のレイアウトタブをアクティブにします。
- **レイアウト指定**：特定レイアウトをアクティブにし、サブメニューでそのレイアウトを選択できます。

テーブルメニュー

テーブルメニューには、行と列のテーブルへの追加、テーブル属性の変更、テーブルの変換などを行うコマンドがあります。

- **挿入**：行や列をテーブルに追加できます。
- **選択**：行や列のパターン、またはその他のテーブル要素を選択できます。これによって、1行おきにシェードを適用するなど、別のフォーマットを簡単に適用できるようになります。
- **削除**：テーブルから選択内容を削除できます。

- **セルを統合**：行全体や列全体など、隣接するテーブルセルで構成される長方形の選択範囲を、単一セルに統合します。
- **テーブル分割**：別の位置にテーブルの続きを表示します。テーブル分割は、これを超えるとテーブルが2つの連結されたテーブルに分割される最大サイズです。
- **各テーブルを作成**：継続テーブル間の連結を解除し、各テーブルを完全に独立させます。こうすることで、テーブルの一部を変更しても、継続する全テーブルに影響が及ばなくなります。
- **ヘッダーとして連続複製**：ヘッダー行が、テーブルの継続インスタンス内で自動的に繰り返されるように指定できます。
- **フッターとして連続複製**：フッター行が、テーブルの継続インスタンス内で自動的に繰り返されるように指定できます。
- **テキストのテーブル変換**：テキストボックスに既に取り込まれている、または入力されているテキストを、テーブルに変換します。これは、情報がどのように列と行に分割されるかが分かるように区切られているテキストの場合に最適です。
- **テーブル変換**：テーブルの情報を、テキスト、または関連ボックスのグループに変換できます。現在のデータを簡単に書き出す場合や、またはQuarkXPressの以前のバージョンでサポートされていない機能を含むドキュメントを保存する場合に、テーブルを変換します。
- **テーブルの方向**：テーブルの水平または垂直の方向を指定できます。
- **テキストセルをリンク**：テキストボックスとテキストパスをリンクするのと同じように、テーブルセルを互いにリンクできます。リンクされたセルに入力、取り込み、またはペーストされているテキストが最初のテキストセルに入力されてから、リンクされている後続のセルにフローされます。
- **ジオメトリを保持**：行や列を挿入または削除するとき、テーブルの幅と高さが変化しないようにします。

表示メニュー

表示メニューには、ドキュメントを表示し、メニューアイテムのチェック時に画面に表示される対象を指定するためのオプションが用意されています。このメニューには、下記のコマンドが含まれます。

- **全体表示**：レイアウトウィンドウのページ全体に合わせるように、ビューを自動的にサイズ調整します。
- **50%**：レイアウトビューを50%に拡大します。
- **75%**：レイアウトビューを75%に拡大します。
- **原寸大**：レイアウトビューを100%に拡大します。
- **200%**：レイアウトビューを200%に拡大します。
- **サムネール**：各ページの縮小版を表示します。これらは並べ替えや、プロジェクト間でのコピーが行えます。
- **全画面表示を開始　（Mac OS Xのみ）**：全画面表示モードに切り替えます。
- **ダイナミックガイド**： ページ上でアイテムの作成や操作を行うときにラインを表示します。これらのラインは印刷されません。 これらのラインは、位置とメジャーの値を表示し、ページ上でアイテムと他のアイテムとの相対的な位置を揃える、編集する、および

変換するために役立ちます。 表示されるサブメニューでは、ダイナミックガイドのオン／オフ、およびダイナミックガイドと表示されるフィードバックの種類の指定（**アイテムの中央に揃える**、**アイテムのエッジに揃える**、**ページの中央に揃える**、**同じ寸法で表示**、**同じ間隔で表示**、および**寸法／間隔の単位を表示**）を行えます。 ガイドはドキュメントの設定であるのとは異なり、ダイナミックガイドの表示はアプリケーション固有の設定です。

- **ガイド**：マージンガイド、ボックスのアウトライン、空の画像ボックスの「X」パターン、およびルーラーガイドなど、アイテムをページに配置するために使用され、印刷されないラインを表示します。
- **選択項目を隠す**：QuarkXPress を、選択内容がドキュメント内で視覚的に示されない（テキストのハイライトやハンドルの表示を行わない）モードに切り替えます。ただし、選択内容は依然として内部的に記憶されています。
- **ページグリッド**：アクティブなレイアウトページの基となるマスターページ用に定義されている、印刷されないグリッドラインを表示します。
- **テキストボックスグリッド**：テキストボックスに適用されている、印刷されないグリッドラインを表示します。
- **ガイドへの吸着**：アイテムを迅速にガイドに整列させ、最も近いガイドにアイテムが吸着されるようにします。
- **ページグリッドへの吸着**：アイテムを迅速にページグリッドに整列させ、最も近いガイドにアイテムが吸着されるようにします。
- **ルーラー**：ルーラーを表示します。そのルーラーを使用して、レイアウトウィンドウの左上端、または右上端に沿ってアイテムとガイドを配置できます。
- **ルーラー方向**：レイアウトウィンドウの左上端、または右上端にページルーラーを配置できます。
- **特殊キャラクタ**：テキストのスペース、タブ、段落改行など、編集可能で印刷されない文字を表示します。
- **ビジュアルインジケータ**：ハイパーリンクやロールオーバーなど、印刷されない要素のインジケータを表示します。
- **トリムビュー**：ページの境界を越えて広がるアイテムを切抜いてトリムを実行した場合の、ページの外観をシミュレートします。**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集 > 環境設定**）の**ディスプレイ**ペインでこのアイテムを選択したときに表示されるペーストボードのカラーを制御できます。
- **出力しない要素を隠す**： **設定**ダイアログボックスの**ボックス**、**ライン**、**画像**、または**レイアウト**ペインで**出力しない**ボックスがオンになっているアイテムをすべて非表示にします。また、**属性**ダイアログボックスで**出力しない**がオンになっているレイヤーも非表示にします。さらに、このオプションで、ハイパーリンクのアンダーライン、ハイパーリンクのアンカー、索引マーカ、テキストのオーバーフロー記号も非表示にできます。
- **出力しない要素を隠す**： **設定**ダイアログボックスの**ボックス**、**ライン**、**画像**、または**レイアウト**ペインで**出力しない**ボックスがオンになっているアイテムをすべて非表示にします。また、**属性**ダイアログボックスで**出力しない**がオンになっているレイヤーも非表示にします。さらに、このオプションで、ハイパーリンクのアンダーライン、ハイパーリンクのアンカー、索引マーカ、テキストのオーバーフロー記号も非表示にできます。
- **ノートを表示／非表示にする**： プロジェクトのノートを表示または隠すことができます。

- **出力のプルーフ**：別のメディアや、別の印刷方法で出力した場合にレイアウトがどのように見えるかをプレビューできます。このディスプレイシミュレーションは、ソフトプルーフ用途には十分に正確です。
- **リフロービュー**：このレイアウトのリフロービューがある場合、表示されます。詳細は、「*リフロービューの使用*」を参照してください。
- **ストーリーエディタ**：アクティブストーリーを**ストーリーエディタ**表示で表示します。詳細は、「*ストーリーエディタ表示の使用*」を参照してください。
- **表示セット**：各種の表示オプションを作成し、簡単に切り替えることができます。

補助メニュー

補助メニューには、下記のコマンドがあります。

- **文字を挿入**：特殊な改行ありスペースと改行なしスペースを含む、特殊文字を簡単に挿入できます。
- **英文スペルチェック**：このサブメニューを使用すると**英文スペルチェック**パレットが表示され、単語、選択したテキスト、ストーリー、レイアウト、またはレイアウト内のすべてのマスターページのスペルチェックを行います。
- **ユーザー辞書 （Windowsのみ）**：スペルチェックに使用するユーザー辞書を指定できます。
- **ユーザー辞書の編集 （Windowsのみ）**：アクティブなレイアウトに関連付けられているユーザー辞書を編集できます。
- **単語数と文字数**：**単語数と文字数**ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスには、アクティブなテキストコンポーネント内の全角文字、半角文字、およびその他のさまざまな種類の文字の数が表示されます。
- **ラインチェック**：サブメニューを使用して、ウィドウ、オーファン、正しく両端揃えされていないライン、ハイフンで終わるライン、およびオーバーフローの状況を見つけることができます。
- **標準ハイフン**：テキスト挿入ポイントを含む単語の標準ハイフンを表示します。
- **例外ハイフン**：アクティブなアーティクルで、特定の単語のハイフンの有無とその方法を指定できます。
- **プロジェクト言語の変換** ：特定の文字言語を使用するアクティブなプロジェクト内の文字すべてを、異なる文字言語に変換できます。
- **使用状況**：App Studioレイアウトで使用されているフォント、画像、QuarkVista効果、カラープロファイル、テーブル、コンポジションゾーン、アセットと、Blioインタラクティブ機能で使用されているアセットの状況を表示および更新できます。複数の移動されたデジタルファイルを、**使用状況**ダイアログでまとめて更新できるようになりました。
- **アイテムスタイルの使用状況**：適用されているアイテムスタイルを表示および更新できます。
- **ジョブジャケットマネジャー**：**ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックスが表示されます。
- **索引作成 （Windowsのみ）**：**索引**パレットのコンテンツから索引を作成します。

- **プレースホルダテキストを挿入**：アクティブなテキストボックスにランダムなテキストを生成して、実際のコンテンツがない場合でも、テキストがどのようにフローしてスタイル設定されるかをプレビューできます。
- **クローナー**：**クローナー**ダイアログボックスが表示されます。詳細は、「*クローナーXTensionsソフトウェア*」を参照してください。
- **イメージグリッド**：**イメージグリッド**ダイアログボックスが表示されます。詳細は、「*イメージグリッドXTensionsソフトウェア*」を参照してください。
- **トラッキングの編集　（Windowsのみ）**：インストールされたフォントのトラッキングを制御できます。
- **カーニングエディタ　（Windowsのみ）**：インストールされたフォントのカーニングを制御できます。
- **リンクスター**：**リンクスター**ダイアログボックスが表示されます。詳細は、「*リンクスターXTensionsソフトウェア*」を参照してください。
- **シェイプメーカー**：**シェイプメーカー**ダイアログボックスが表示されます。詳細は、「*シェイプメーカーXTensionsソフトウェア*」を参照してください。
- **手動カーニングをクリア　（Windowsのみ）**：文字間に適用されている全手動カーニングを削除したり、カーニングペアからカーニングを削除できます。
- **フォントマッピング**：プロジェクトから要求されたフォントがコンピュータにインストールされていない場合に、そのフォントを新しいフォントで代替するためのルールを作成して編集できます。
- **コンポーネント状況　（Windowsのみ）**：必須ソフトウェアコンポーネントの状況を表示できます。
- **PPDマネジャー　（Windowsのみ）**：**印刷**ダイアログボックスに、どのPostScript Printer Descriptionファイル（PPD）を読み込むかを制御できます。
- **旧アンダーラインの変換**：QuarkXPress 3.x（Stars & Stripes）フォーマットのアクティブなテキストチェーンにある全アンダーラインを、Type Tricksフォーマットに変換します。
- **XTensionsマネジャー**：アプリケーション起動時に、どのXTensionsモジュールを読み込むかを制御できます。
- **プロファイルマネジャー**：アプリケーション起動時に、どのカラープロファイルを読み込むかを制御できます。
- **QRコードの作成**：ベクトル形式のクイックレスポンス（QR）コードを直接QuarkXPressで生成し、好みのスタイルやカラーにできます。 ベクトルベースとピクセルベースのQRコードのどちらかを選択できるようになりました。 ピクセルベースのQRコードを選択した場合、Documentsフォルダに作成されます。 QRコードダイアログを再度呼び出すと、QRコードの基礎になるデータが表示されます。
- **変更履歴**：サブメニューを使用して自動トラッキングおよびハイライト機能のオンとオフを切り替えます。このサブメニューを使用して**変更履歴**パレットを表示することもできます。
- **ライセンスのチェックアウト／ライセンスのチェックイン**：Quark License Administrator（QLA）とともに使用するアプリケーションがインストールされている場合にのみ表示されます。ライセンスのチェックインとチェックアウトができます。

ウィンドウメニュー

ウィンドウメニューで、開いているウィンドウとパレットの画面表示を制御できます。このメニューには、下記のコマンドが含まれます。

- **新規ウィンドウ**：新しいウィンドウにアクティブなプロジェクトが表示されます。各ウィンドウにそのプロジェクトの別の部分を表示できます。
- **ウィンドウ分割**：プロジェクトウィンドウを2つの部分に分割します。ウィンドウの各部分にそのプロジェクトの別の部分を表示できます。
- **すべて前面へ出す （Mac OS Xのみ）**：開いているすべてのウィンドウを配置して表示します。
- **カスケード （Windowsのみ）**：各プロジェクトのメニューバー部分のみが表示されるように、複数の開いているプロジェクトを重ねて表示します。
- **タイル （Mac OS Xのみ）**：開いているすべてのウィンドウを画面に合わせて水平方向に並べます。
- **上下に並べて表示 （Windowsのみ）**：開いているすべてのウィンドウを画面に合わせて水平方向に並べます。
- **左右に並べて表示 （Windowsのみ）**：開いているすべてのウィンドウを画面に合わせて垂直方向に並べます。
- **アイコン整列 （Windowsのみ）**：すべてのアクティブなプロジェクトを最小化します。
- **全て閉じる （Windowsのみ）**：すべてのアクティブなプロジェクトを閉じます。
- **パレットセット**：サブメニューを使用してパレットの配置の保存および取り消しを行います。
- **非表示を有効化 （Mac OS Xのみ）**：ドッキングされたパレットのグループの表示、非表示を切り替えます。
- **高度なイメージ制御**：**高度なイメージ制御**パレットの表示、非表示を切り替えます。
- **App Studioパブリッシング**：**App Studioパブリッシング**パレットの表示、非表示を切り替えます。詳細は、『A Guide to App Studio』を参照してください。
- **ブック**：**ブック**パレットの表示／非表示を切り替えます。 詳細は、「*ブックの使用*」を参照してください。
- **コールアウトスタイル**：**コールアウトスタイル**パレットを表示します。詳細は、「*コールアウトスタイルの使用*」を参照してください。
- **カラー**：**カラー**パレットの表示、非表示を切り替えます。
- **条件付きスタイル**：**条件付き**スタイルパレットを表示します。詳細は、「*条件付きスタイルの使用*」を参照してください。
- **内容**：**内容**パレットの表示、非表示を切り替えます。
- **字形**：**字形**パレットの表示、非表示を切り替えます。
- **グリッドスタイル**：**グリッドスタイル**パレットの表示、非表示を切り替えます。
- **ガイド**：**ガイド**パレットの表示、非表示を切り替えます。
- **HTML5**：**HTML5**パレットの表示、非表示を切り替えます。
- **ハイパーリンク**：**ハイパーリンク**パレットの表示、非表示を切り替えます。

- **索引**：**索引**パレットの表示、非表示を切り替えます。
- **アイテムスタイル**：**アイテムスタイル**パレットの表示、非表示を切り替えます。
- **レイヤー**：**レイヤー**パレットの表示、非表示を切り替えます。
- **リスト （Mac OS Xのみ）**：**リスト**パレットの表示、非表示を切り替えます。
- **メジャー**：**メジャー**パレットの表示、非表示を切り替えます。
- **ページレイアウト**：**ページレイアウト**パレットの表示、非表示を切り替えます。
- **プロファイル情報**：**プロファイル情報**パレットの表示、非表示を切り替えます。
- **変更履歴**：**変更履歴**パレットの表示、非表示を切り替えます。
- **リフロー用の目次**：**リフロー用の目次**パレットを表示します。詳細は、「*ePUB用またはKindle用の目次の作成*」を参照してください。
- **リフローのタグ付け**：**リフローのタグ付け**パレットを表示します。詳細は、「*リフロービューでのコンテンツの編集*」を参照してください。
- **サイズ変更**：**サイズ変更**パレットの表示、非表示を切り替えます。詳細は、「*Scale XTensionsソフトウェア*」を参照してください。
- **スタイルシート**：**スタイルシート**パレットの表示、非表示を切り替えます。
- **ツール**：**ツール**パレットの表示、非表示を切り替えます。
- **ようこそ画面**：ようこそ画面を表示します。

また、このメニューには開いているすべてのウィンドウのアイテムが含まれます。これらのメニューアイテムを使用して、ウィンドウを簡単に切り替えられます。

ヘルプメニュー

ヘルプメニューでは、オンラインヘルプにアクセスすることができます。このメニューには、下記のコマンドが含まれます。

- **検索**ローカルヘルプファイルを検索します。
- **ヘルプトピック （Mac OS Xのみ）**：このコマンドを使用して、オンラインヘルプを表示します。
- **コンテンツ （Windowsのみ）**：このオプションを使用して、**ヘルプ**ウィンドウの**コンテンツ**タブを表示します。
- **索引 （Windowsのみ）**：このオプションを使用して、**ヘルプ**ウィンドウの**索引**タブを表示します。
- **QuarkXPressライセンスを転送 （Windowsのみ）**：このオプションを使用して、他のコンピュータへライセンスを転送します。
- **QuarkXPressについて （Windowsのみ）**：このコマンドを使用して、QuarkXPressのバージョン番号などの情報を表示します。
- **ライセンスコードを編集 （Windowsのみ）**：このコマンドを使用して、インストール済みのQuarkXPressのバリデーションコードを変更できます。このコードを変更することで、QuarkXPressの無料お試し版バージョン（以前の「評価版」）から全機能バージョンへの変更、ユーザーインターフェイスでサポートされる言語の変更、またはQuarkXPressのPlus版への変更が可能です。
- **アップデートを確認 （Windowsのみ）**：QuarkXPressのアップデートを確認します。

- **Quarkアップデートの設定（Windowsのみ）**：自動アップデートの設定を行います。

コンテキストメニュー

QuarkXPressは、コンテキストメニューによってさまざまな機能を提供しています。コンテキストメニューを表示するには、テキスト内、画像上、またはパレット上でControlキーを押しながらクリック（**Mac OS X**）、または右クリックします。

パレット

パレットを開く、または表示するには、**ウィンドウ**メニューのパレット名をオンにします。

パレットを閉じるかまたは開くには、パレットの左上の閉じるボックスをクリックするか、**ウィンドウ**メニューのパレット名をオフにするか、または適切なキーボードの組み合わせを使用します。

（Mac OS Xのみ）パレットを画面の左端と右端に垂直にドッキングできます。画面の端にドッキングされたパレットはグループを構成し、グループとして移動できます。また、**ウィンドウ > 非表示を有効化**を選択すると、ドッキングされたパレットのグループを非表示にできます。ドッキングされたパレットには吸着機能が含まれており、アプリケーションの統一された表示を実現しています。ドキュメントウィンドウでは、サイズ変更（+）ボタンを使用して、ウィンドウをパレットに吸着／吸着解除できます。ウィンドウとパレットの端の間には分割線が追加されるため、パレットのサイズを変更するとウィンドウのサイズも変更されます。

➡ **メジャー**パレットは、幅の関係から、画面の上端または下端に水平にのみドッキングできます。 **ツール**パレットは、垂直にも水平にもドッキングできます。

（Mac OS Xのみ）パレットをドラッグして、任意のパレットグループに結合できます。ドラッグするとき、そのパレットが結合されるか、上に配置されるかを示すサムネールが表示されます。パレットグループには、そのパレットがドロップされる位置を示す青線のインジケータが表示されます。

高度なイメージ制御パレット

高度なイメージ制御パレットでは、取り込んだイメージの表示を制御できます。詳細は、「*PSD画像の使用*」を参照してください。

高度なイメージ制御パレットでは、取り込んだイメージを操作できます。

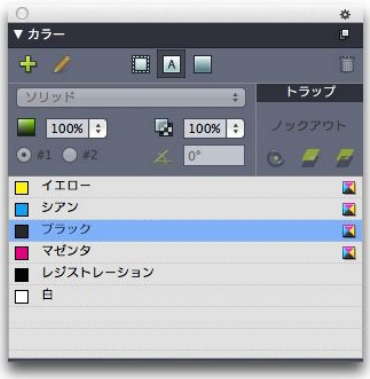
コールアウトスタイルパレット

コールアウトスタイルパレットでは、コールアウトスタイルに関する作業ができます。詳細は、「*コールアウトスタイルの使用*」を参照してください。

カラーパレット

カラーパレットでは、アクティブなプロジェクトに定義されたカラーを表示し、適用することができます。このパレットの上部にあるボタンにより、カラーを作成、編集、削除できます。

ユーザーは、**カラー**ダイアログボックス（**編集 > カラー**）を使用して、カラーを作成します。詳細は、「*カラーの使用*」を参照してください。



カラーパレットでは、カラーの表示および適用を行えます。

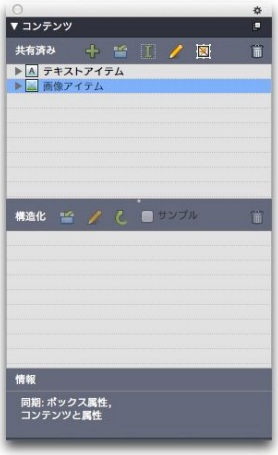
条件付きスタイルパレット

条件付きスタイルパレットでは、条件付きスタイルに関する作業ができます。詳細は、「*条件付きスタイルの使用*」を参照してください。

コンテンツパレット

共有コンテンツライブラリのアイテムには、**コンテンツ**パレットからアクセスできます。このパレットを使用して、異なるレイアウト間でコンテンツを複製して同期できます。このパレットの上端にあるボタンを使用して、コンテンツの追加、取り込み、挿入、編集、および同期の制御を行えます。

ユーザーは、**共有アイテムのプロパティ**ダイアログボックス（**アイテム > 共有**）で共有アイテムを作成できます。詳細は、「*共有コンテンツの使用*」を参照してください。

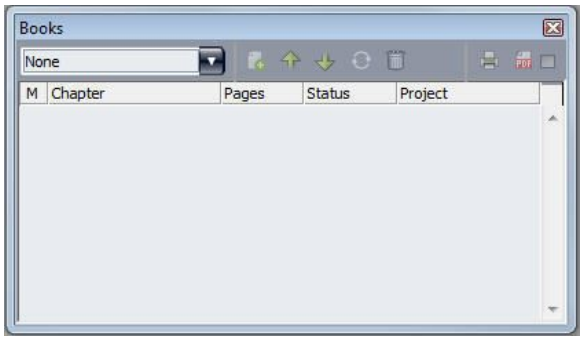


共有コンテンツライブラリのアイテムには、**コンテンツ**パレットからアクセスできます。

ブックパレット

ブックパレットは、ブックの編集に使用します。 このパレットの上端にあるボタンを使用して、ブックの作成、ブックを開く、およびブックのチャプターを追加、編集、削除する操作を行えます。

詳細は、「*ブックの使用*」を参照してください。



ブックパレットは、ブックの編集に使用します

字形パレット

字形パレットでは、コンピュータ上の各フォントのすべての文字に簡単にアクセスすることができます。選択したフォントのすべての文字を表示したり、2つ目のドロップダウンメニューのオプションを選択して選択内容を絞り込んだりすることができます。選択した文字のUnicode値が右下に表示されます。また、文字をダブルクリックして、ストーリーに文字を追加することもできます。パレットの下部にある**好みのグリフ**領域を使用すると、頻繁に使用する文字に簡単にアクセスできるように、これらを保存できます。

字形パレットでは、各フォントのすべての文字に簡単にアクセスすることができます。

グリッドスタイルパレット

グリッドスタイルは、グリッドを説明するための設定の名前付きパッケージです。デザイングリッドのスタイルシートに該当します。グリッドスタイルをテキストボックスに適用すると、それらをマスターページグリッドの基礎として使用できます。また、グリッドスタイルを他のグリッドスタイルに基づいて使用することもできます。グリッドスタイルは**グリッドスタイル**パレット（**ウィンドウ**メニュー）に表示されます。詳細は、「*グリッドスタイルの使用*」を参照してください。

グリッドスタイルパレットでは、グリッドスタイルの作成と適用ができます。

ガイドパレット

ガイドパレットでは、ガイドに関する作業ができます。詳細は、「*ガイドパレットの使用*」を参照してください。

HTML5パレット

HTML5パレットでは、App Studioの発行物用にムービー、スライドショー、ボタンなどの作成と設定ができます。詳細は、『A Guide to App Studio』を参照してください。

索引パレット

索引パレットで、テキストに索引用タグ付けすることができます。索引作成時（**補助 > 索引作成**）には、**索引**パレットで作成したすべてのタグは、カスタマイズ可能な索引に自動的に変更されます。詳細は、「*リストの使用*」を参照してください。

索引パレットで、自動生成される索引に含めるテキストにタグ付することができます。

アイテムスタイルパレット

アイテムスタイルパレットでは、アイテムスタイルに関する作業ができます。詳細は、「*Item Styles XTensionsソフトウェア*」を参照してください。

レイヤーパレット

レイヤーパレットで、レイヤーの作成、レイヤープロパティの編集、レイヤーの表示と印刷の制御、およびレイヤー間のオブジェクトの移動を行えます。詳細は、「*レイヤーの使用*」を参照してください。

レイヤーパレットで、レイヤーとレイヤー上のオブジェクトを使用できます。

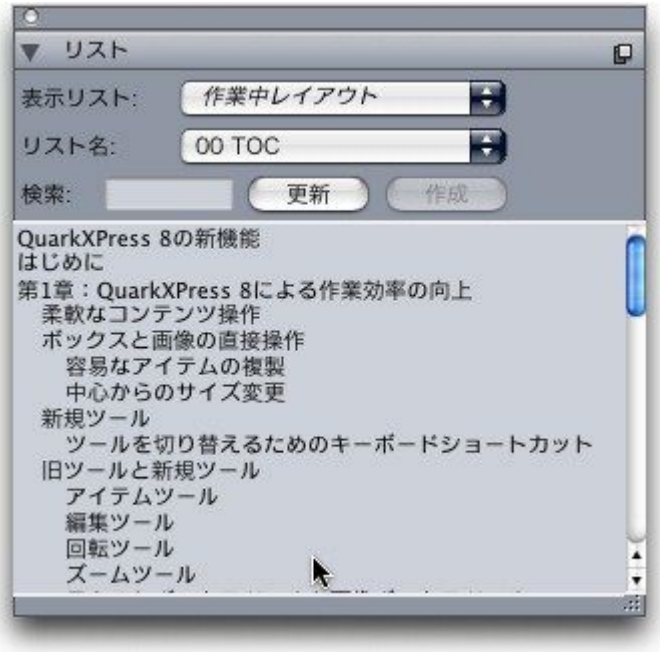
リストパレット

リストパレットでは、リストの表示や生成を行えます。この機能は、目次などを作成する場合に役立ちます。**リスト**ダイアログボックス（**編集 > リスト**）を使用して、リストを作成できます。

リスト名ドロップダウンメニューで、アクティブプロジェクトで定義するリストの中から選択できます。また、**更新**ボタンを使用すると、現在パレットに表示されているリストを更新できます。

検索ボタンを使用すると、**リスト**パレットのアイテムを検索できます。また、パレットで単語や見出しをダブルクリックすると、その単語または見出しに移動できます。

作成ボタンは、アクティブなテキストチェーンにアクティブなリストを挿入するために使用します。ストーリーに既にリストが存在する場合は、別のコピーを挿入するのではなく、そのリストを更新できます。リストの**スタイル**スタイルシートは、自動的に適用されます。



リストパレットでは、目次などを作成することができます。

メジャーパレット

Windowメニューの**メジャー**パレットで、一般的に使用する多くのコントロールをすばやく編集できます。**メジャー**パレットにあるオプションは、選択されているツールやアイテムに応じて変化します。同じタイプの複数アイテム（3つの個別の画像ボックスなど）を選択すると、**メジャー**パレットのコントロールは、選択したアイテムすべてに適用されます。

メジャーパレットには、パレットの中央の上にナビゲータタブと呼ばれる、アイコン行が表示されます。Command+Option+;／Ctrl+Alt+;を押すと、**メジャー**パレットナビゲータタブ内を左から右に移動できます。Command+Option+,／Ctrl+Alt+,を押すと、逆方向（右から左）に移動できます。

ナビゲータタブを常に表示するには、**メジャー**パレットのタイトルバーをControlを押しながらクリックするか、または右クリックして、**タブバーを常に表示**を選択します。ナ

ビゲータタブを常に非表示にするには、**メジャー**パレットのタイトルバーをControlを押しながらクリックするか、または右クリックして、**常にタブバーを隠す**を選択します。ナビゲータバーをインタラクティブに表示するには、**メジャー**パレットのタイトルバーをControlを押しながらクリックするか、または右クリックして、**ロールオーバーにタブを表示**を選択します。

メジャーパレット - Mac OS X

メジャーパレットに表示されるタブの選択は、アクティブであるアイテムによって異なり、タブの表示はアクティブなアイテムに適合するように変化します。利用できるタブを以下に挙げます。

- **ホーム**タブ：よく使用されるコントロールが含まれています。テキストボックス、画像ボックス、ライン、テーブルで、それぞれ表示は異なります。

- **文字**タブ：現在選択されているテキストの文字属性を設定するためのコントロールが含まれています。

- **段落**タブ：現在選択されているテキストボックスの段落属性を設定するためのコントロールが含まれています。

- **段落罫線**タブ：現在選択されているテキストボックスの段落罫線属性を設定するためのコントロールが含まれています。

- **タブ**タブ：現在選択されているテキストボックスのタブを設定するためのコントロールが含まれています。

- **テキストボックス**タブ：現在選択されているテキストボックスのテキスト属性を設定するためのコントロールが含まれています。

- **画像ボックス**タブ：現在選択されている画像ボックスの画像属性を設定するためのコントロールが含まれています。

- **クリッピング**タブ：現在選択されている画像ボックスのクリッピング属性を設定するためのコントロールが含まれています。

- **フレーム**タブ：現在選択されているボックスのフレーム属性を設定するためのコントロールが含まれています。

- **回り込み**タブ：現在選択されているオブジェクトのフレーム属性を設定するためのコントロールが含まれています。テキストボックス、画像ボックス、ラインで、それぞれ表示は異なります。

- **複数アイテムの配置**タブ：**複数アイテムの配置**サブメニュー（**アイテム > 複数アイテムの配置**）のコントロールが含まれています。

- **ドロップシャドウ**タブ：現在選択されているオブジェクトのドロップシャドウ属性を設定するためのコントロールが含まれています。

- **テーブル**タブ：現在選択されているテーブルのテーブル属性を設定するためのコントロールが含まれています。

- **コンポジションゾーン**タブ：現在選択されているコンポジションゾーンの属性を設定するためのコントロールが含まれています。
- **コンポーネント**タブ：現在選択されているコンポーネントの属性を設定するためのコントロールが含まれています。

画像を含む画像ボックスを選択すると、**メジャー**パレットの**ホーム**タブで、**有効画像解像度**アイコンの横に、画像の有効解像度が表示されます。実際の画像の解像度を画像の縮小率で割ったものが有効解像度です。たとえば、実際の画像解像度が100dpiの画像を取り込み、縮小率を100%から200%に拡大すると、有効解像度は50dpiになります。有効解像度が高くなるほど、再生成される画像の質が高くなります。有効解像度が異なる複数の画像ボックスを選択すると、**有効画像解像度**アイコンの隣に数値は表示されません。

メジャーパレット - Windows

メジャーパレットに表示されるタブの選択は、アクティブであるアイテムによって異なり、タブの表示はアクティブなアイテムに適合するように変化します。利用できるタブを以下に挙げます。

- **クラシック**タブ：よく使用されるコントロールが含まれています。テキストボックス、画像ボックス、ライン、およびテーブルによって表示が変化します。
- **テキスト**タブ：**設定**ダイアログボックス（**アイテム > 設定**）の**テキスト**タブのコントロールが含まれています。
- **フレーム**タブ：**設定**ダイアログボックスの**フレーム**タブのコントロールが含まれています。
- **回り込み**タブ：**設定**ダイアログボックスの**回り込み**タブのコントロールが含まれています。テキストボックス、画像ボックス、およびラインによって表示が変化します。
- **クリッピング**タブ：**設定**ダイアログボックスの**クリッピング**タブのコントロールが含まれています。
- **文字属性**タブ：**文字属性**ダイアログボックス（**スタイル > 文字**）のコントロールが含まれています。
- **段落設定**タブ：**段落設定**ダイアログボックス（**スタイル>段落設定**）の**フォーマット**タブのコントロールが含まれています。
- **テキストパス**タブ：**設定**ダイアログボックスの**テキストパス**タブのコントロールが含まれています。
- **複数アイテムの配置**タブ：**複数アイテムの配置**サブメニュー（**アイテム > 複数アイテムの配置**）のコントロールが含まれています。
- **書き出し**タブ：**設定**ダイアログボックスの**書き出し**タブのコントロールが含まれています（ウェブレイアウトのみ）。
- **グリッド**タブ：**設定**ダイアログボックスの**グリッド**タブのコントロールが含まれています（選択したテーブルのみ）。
- **ドロップシャドウ**タブ：**設定**ダイアログボックスの**ドロップシャドウ**タブのコントロールが含まれています。

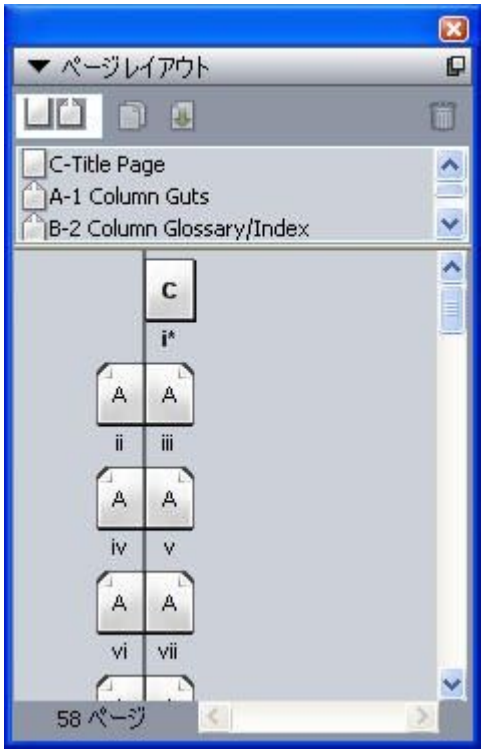
- **タブ**タブ：**段落設定**ダイアログボックスの**タブ**タブのコントロールが含まれています。

画像を含む画像ボックスを選択すると、**メジャー**パレットの**クラシック**タブで、**有効画像解像度**アイコンの隣に、画像の有効解像度が表示されます。実際の画像の解像度を画像の縮小率で割ったものが有効解像度です。たとえば、実際の画像解像度が100dpiの画像を取り込み、縮小率を100%から200%に拡大すると、有効解像度は50dpiになります。有効解像度が高くなるほど、再生成される画像の質が高くなります。有効解像度が異なる複数の画像ボックスを選択すると、**有効画像解像度**アイコンの隣に数値は表示されません。

メジャーパレットの中央の上に、タブバーが表示されます。

ページレイアウトパレット

ページレイアウトパレットには、ページを操作して移動するためのさまざまな機能が用意されています。



ページレイアウトパレットで、マスターページとレイアウトページを使用できます。

パレットの一番上の部分で、マスターページを作成、複製、および削除できます。マスターページを表示して編集するには、マスターページをダブルクリックします。マスターページがアクティブなプロジェクトウィンドウに表示されます。片面のマスターページは長方形として表示され、見開きのマスターページは2つの角が折りたたまれた状態で表示されます。

パレットの一番下の部分で、アクティブなレイアウトのページを移動できます。レイアウトページに移動するには、パレットのこの部分をダブルクリックします。

マスターページをレイアウトページに適用するには、マスターページアイコンをレイアウトページアイコンにドラッグします。または、パレットでレイアウトページアイコンを選択してから、Command／Ctrlを押しながらマスターページアイコンをクリックすることができます。

プロファイル情報パレット

プロファイル情報パレットで、画像のカラーマネージメント設定を表示して更新できます。詳細は、「*カラーマネージメント*」を参照してください。

プロファイル情報パレットで、画像のカラーマネージメント設定を正確に制御できます。

変更履歴パレット

変更履歴パレットは、プロジェクトに加えられた変更点の追跡をセットアップするために使用します。

詳細は、「*変更履歴*」を参照してください。

変更履歴パレットでは、変更履歴の追跡を設定できます。

リフロー用の目次パレット

リフロー用の目次パレットでは、ePUBやKindleの書き出し用の目次を作成できます。詳細は、「*ePUB用またはKindle用の目次の作成*」を参照してください。

リフローのタグ付けパレット

リフローのタグ付けパレットでは、リフロービューでコンテンツにタグ付けを行うことができます。詳細は、「*リフロービューの使用*」を参照してください。

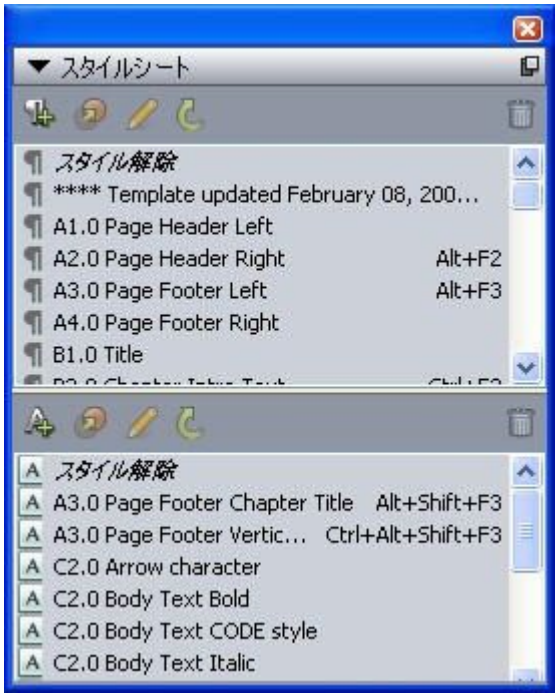
サイズ変更パレット

サイズ変更パレットでは、高度なサイズ変更の操作を実行できます。詳細は、「*Scale XTensionsソフトウェア*」を参照してください。

スタイルシートパレット

スタイルシートパレット（**ウィンドウ > スタイルシート表示**）では、スタイルシート名をクリックして、文字スタイルシートおよび段落スタイルシートを適用できます。このパレットにある各セクションの一番上にあるボタンで、スタイルシートを作成、編集、複製、更新、および削除できます。

スタイルシートの横にあるプラス記号は、ローカルフォーマットが適用されていることを示します。



スタイルシートパレットで、段落スタイルシートおよび文字スタイルシートを表示して、適用できます。

ツールパレット

ツールパレットで、レイアウトを使用するためのさまざまなツールを簡単に切り替えられます。詳細は、「ツール」を参照してください。

パレットグループおよびパレットセット

QuarkXPressには、パレットを管理するため、パレットグループおよびパレットセットという2つの機能が用意されています。

パレットグループの使用

パレットグループ機能を使用すると、複数のパレットを1つに連結できます。

このパレットグループには、1つのパレットとしてリンクされた**カラー、高度なイメージ制御**、および**スタイルシート**パレットが表示されるので、これらの機能に簡単にアクセスでき、スペースを節約できます。

（Windowsのみ）パレットグループにパレットをリンクするには、パレットグループのタイトルバーをControlキー+クリック／右クリックし、オンになっていないパレット名を選択します。既に表示されているパレットをリンクすると、そのパレットは移動してパレットグループの一部になります。パレットグループからパレットを分離するには、そのパレット名をControlキー+クリック／右クリックし、［**パレット名**］**を分離**を選択します。

（Mac OS Xのみ）パレットグループにパレットをリンクするには、パレットの右上隅にある アイコンをクリックし、オンになっていないパレット名をリストから選択します。既に表示されているパレットをドラッグし、パレットグループに結合することもできます。ドラッグするとき、そのパレットが結合されるか、上に配置されるかを示すサムネールが表示されます。パレットグループには、そのパレットがドロップされる位置を示す青線のインジケータが表示されます。

（Mac OS Xのみ）画面の端にドッキングされたパレットは、パレットグループを構成し、グループとして移動できます。パレットグループは自動的に表示、または非表示になるよう設定できます。

パレットセットの使用

パレットセット機能を使用すると、開いているすべてのパレットおよびライブラリの位置と状況を保存および無効にできるため、異なるパレット構成を簡単に切り替えることができます。

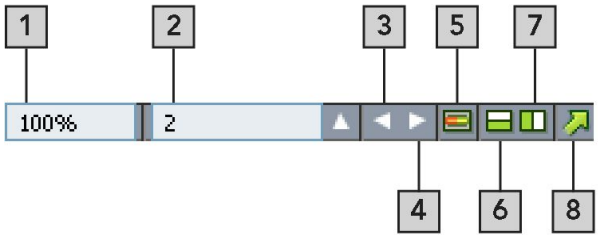
パレットセットを作成するには、最初に、その特定のタスクに必要なすべてのパレットを表示し、その他のすべてのパレットを隠します。次に、**ウィンドウ > パレットセット**

> **パレットセットの保存**を選択して**パレットセットの保存**ダイアログボックスを表示し、名前を入力します。また、必要に応じてキーコマンドを割り当てます。

パレットセットを取得するには、**ウィンドウ > パレットセット > パレットセット名**を選択するか、キーボードのそのパレットセットの組み合わせを押します。

レイアウトコントロール

プロジェクトを開くと、プロジェクトウィンドウの左下部分から、一部の基本機能にすぐにアクセスできます。



レイアウトコントロール

1 **ズーム**： ズームの倍率をパーセント単位で入力するか、ドロップダウンメニューで値を選択します。ズームの倍率は最大で8000%です。

2 **ページ番号**：**ページ番号**フィールドにページ番号を入力するか、フィールドの右にある上向き矢印をクリックすると表示されるページリストからページを選択します。

3 **前のページ**：前のページに移動します。

4 **次のページ**：次のページに移動します。

5 **マスターページの表示**：アクティブなレイアウトページと、そのマスターページとの表示を相互に切り替えます。

6 **分割表示（水平方向）**：複数の独立したペインを上下に並べて、レイアウトを表示します。

7 **分割表示（垂直方向）**：複数の独立したペインを左右に並べて、レイアウトを表示します。

8 **書き出し**：書き出しオプションを表示します。**ファイル > 書き出し**を選択した場合に表示されるのと同じものです。

➡ レイアウトにある全ページのサムネールビューを表示するには、**ページ番号**フィールドの隣にある上向き矢印をクリックします。 Mac OS Xユーザーは、上矢印をクリックし続けることで、サムネールを拡大できます。

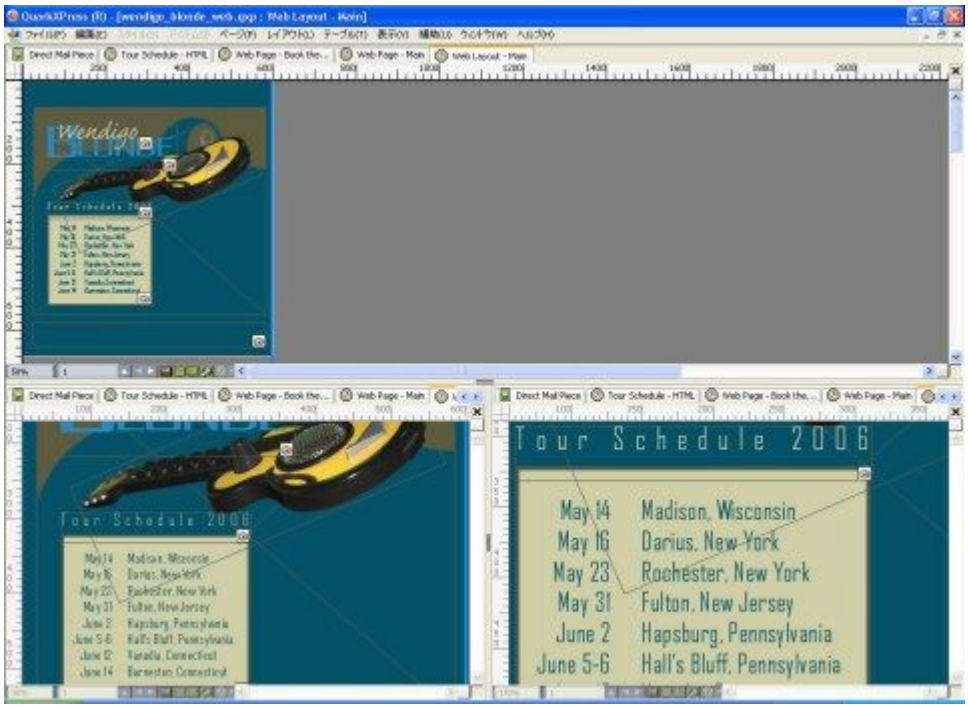
表示と表示セット

QuarkXPressでは、複数の方法でレイアウトを表示できます。ウィンドウを分割するか新しいウィンドウを作成すると、2つの異なるレイアウトを表示したり、同じレイアウトを2つの異なる表示方法で表示したりできます。ストーリーエディタ表示を使用すると、

レイアウトを見る必要がないため、テキストに集中できます。また、表示セット機能を使用すると、さまざまな表示オプションを作成して、簡単に各表示オプションを切り替えることができます。

ウィンドウの分割

ウィンドウを複数のペインに分割すると、1つのプロジェクトで複数のビューを同時に表示でき、変更内容はすべてのペインに反映されます。各ペインで異なる表示モードを使用したり、リアルタイムに1つのペインで編集を確認しながら他のペインで更新することもできます。1つのウィンドウ内で水平方向、または垂直方向に複数ビューを分割できます。



ウィンドウを分割することによって、同時にさまざまな倍率で作業を表示できます。

ウィンドウを分割するには、下記の3つの方法があります。

- **ウィンドウ > ウィンドウ分割 > 水平方向**または**ウィンドウ > ウィンドウ分割 > 垂直方向**を選択します。
- **（Windowsのみ）**スクロールバーの右（垂直分割の場合）、または上端（水平分割の場合）にある分割バーをクリックします。
- プロジェクトウィンドウの一番下にあるレイアウトコントロールバーの分割画面アイコンをクリックします。

ウィンドウが分割されると、分割ペインの間にあるバーをドラッグすることで、分割ペインの幅と高さを変更できるようになります。

ウィンドウから分割ペインを削除するには、下記のいずれかの方法を使用します。

- **ウィンドウ > ウィンドウ分割 > 全てを消去**を選択します。
- ウィンドウの右上隅にある、閉じるボタンをクリックします。

ウィンドウの作成

アクティブなプロジェクトを表示する新しいウィンドウを作成するには、**ウィンドウ > 新規ウィンドウ**を選択します。

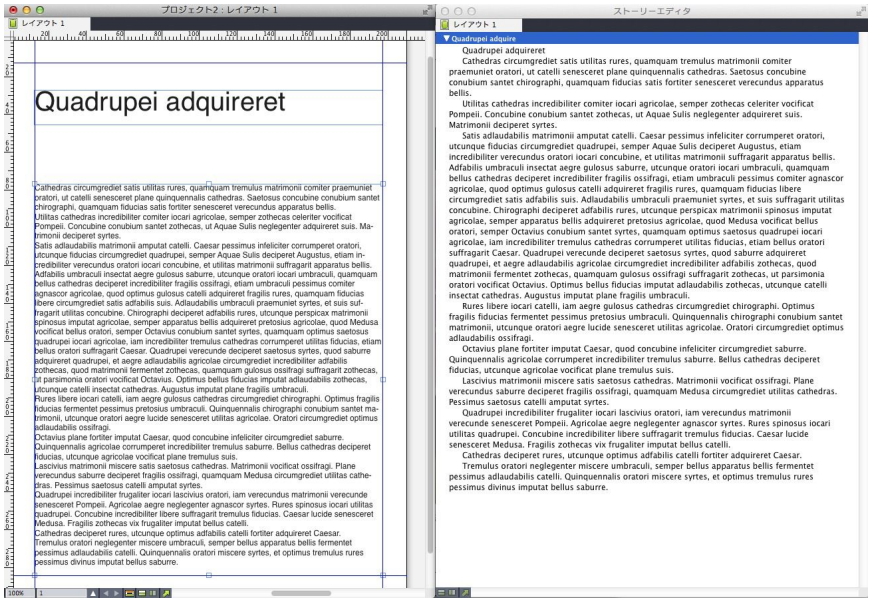
1つのプロジェクトを表示する複数のウィンドウを開いた状態でプロジェクトを変更し、それらのウィンドウを閉じようとしても、プロジェクトを表示する最後のウィンドウを閉じようとするまで、プロジェクトの保存を促すメッセージは表示されません。

ストーリーエディタ表示の使用

ストーリーエディタ表示では、レイアウトを気にせずに、ストーリーのテキストに集中できます。**ストーリーエディタ**表示では、すべてのテキストが同じサイズ、同じフォントで、ウィンドウ全体にテキストが表示されます。また、ボールドやイタリックのような最も基本的な文字フォーマットのみ表示されます。赤いバックグラウンドは、ストーリーの最後のテキストボックスまたはパスからテキストがあふれている部分を示しています。

新しい**ストーリーエディタ**ウィンドウでアクティブストーリーのコンテンツを表示するには、対象となるストーリーが含まれているボックスまたは行を選択して、**表示 > ストーリーエディタ**を選択します(**ストーリーエディタ**ウィンドウをすでに開いている場合は、選択したアイテムのストーリーがそのウィンドウに表示されます）。

見やすいサイズでテキストの編集時にページ全体の外観を確認するには、**ストーリーエディタ**ウィンドウを、同じストーリーを表示しているレイアウトウィンドウの横に配置します。



レイアウトビュー（左）でのストーリーと、**ストーリーエディタ**ウィンドウ（右）でのストーリー

表示セット

表示メニューには、レイアウトの表示方法を指定するためのさまざまなオプションがあります。ガイド、グリッド、特殊キャラクタ、ビジュアルインジケータなどの表示や非表示が可能です（詳細は、「表示メニュー」を参照してください）。表示セット機能を

使用すると、これらの設定をさまざまな組み合わせで保存して呼び出すことができます。表示セットには下記の設定が保存されています。

- **表示 > ガイド**
- **表示 > ページグリッド**
- **表示 > テキストボックスのグリッド**
- **表示 > ルーラー**
- **表示 > ルーラー方向**
- **表示 > ビジュアルインジケータ**
- **表示 > 特殊キャラクタ**
- **表示 > トリムビュー**
- **表示 > 出力しない要素を隠す**

QuarkXPressには、下記のような複数のデフォルト表示セットが組み込まれています。

- **デフォルト**：デフォルトの表示オプションのセットです。QuarkXPressを初めて起動してレイアウトを作成するときの表示に使用されます。
- **出力プレビュー**：この表示セットでは、印刷ページに限りなく近いイメージをシミュレートできます。ガイド、グリッド、特殊キャラクタ、ビジュアルインジケータが非表示になります。**表示 > トリムビュー**、**表示 > 出力しない要素を隠す**、**表示 > 高解像度プレビュー表示**は適用されます。**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集 > 環境設定**）の**ディスプレイ**ペインで指定するカラーを使用すると、ペーストボードが表示されます。
- **オーサリング表示**：この表示セットでは、ガイド、特殊キャラクタ、ビジュアルインジケータ、ルーラー、高解像度プレビューが表示されます。

表示セットを作成するには、最初に、表示セットに保存する表示オプションのみを有効にします。次に、**表示 > 表示セット > 表示セットとして保存**を選択して**表示セットとして保存**ダイアログボックスを表示し、名前を入力します。また、必要に応じてキーコマンドを割り当てます。

表示セットに切り替えるには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- **表示 > 表示セット > [表示セットの名前]**を選択します。
- その表示セット用のキーボードの組み合わせを押します。
- **表示セット**パレット（**表示 > 表示セット > 表示セットの管理**）を表示し、パレットにある表示セットの名前をクリックしてから、**適用**をクリックします（または、表示セットの名前を直接ダブルクリックします）。

作成済みの表示セットを管理するには、**表示 > 表示セット > 表示セットの管理**を選択します。**表示セット**パレットが表示されます。このパレットの上部にあるボタンを使用して、選択した表示セットの**編集**、**適用**、**削除**ができます。

表示セットパレット

➡ 表示セットはアプリケーションレベルで保存されます。ただし、表示セットを使用してレイアウトに適用する表示設定は、そのレイアウトとともに保存されます。

プロジェクトとレイアウト

QuarkXPressファイルは**プロジェクト**と呼ばれ、各プロジェクトには1つ以上の**レイアウト**が含まれています。すべてのレイアウトは1つのプロジェクト内に保存され、すべてのプロジェクトには少なくとも1つのレイアウトがあります。各レイアウトには最大で2,000ページまで含めることができ、サイズは最大で48"x48"（2ページのスプレッドの場合は24"x48"）にすることができます。プロジェクトには、レイアウトを無制限に保存できます。

複数のレイアウトを1つのファイルに保存することができるため、たとえばレターサイズとA4レイアウトサイズの文面が同じ手紙など、種類の異なるドキュメント間でコンテンツを容易に共有できます。

QuarkXPressプロジェクトには、印刷、ウェブ、およびインタラクティブで成る3種類のレイアウトを含めることができます。1つのプロジェクトを使用して、印刷、PDF、SWF、およびHTMLなどのさまざまなメディアのコンテンツを作成できます。

プロジェクトの使用

プロジェクトを作成するには、**ファイル > 新規 > プロジェクト**を選択します。**新規プロジェクト**ダイアログボックスが表示されます。

印刷レイアウトタイプ用の**新規プロジェクト**ダイアログボックス

QuarkXPressプロジェクトそれぞれに、少なくとも1つのレイアウトが含まれています。したがって、プロジェクトを作成するときは、そのファイルのデフォルトのレイアウトを指定する必要があります。デフォルトのレイアウト名を使用したり、**レイアウト名**フィールドにレイアウトの新しい名前を入力したりできます。デフォルトレイアウトの種類を指定するには、**レイアウトタイプ**ドロップダウンメニューから**印刷**、**App Studio**、または**ePub**を選択します。

App Studioレイアウトの詳細は、『**A Guide to App Studio**』を参照してください。

ePub書き出し用レイアウトの作成の詳細は、「*電子書籍*」を参照してください。

デフォルトでは、プロジェクトの各レイアウトのプロジェクトウィンドウ上部にタブが表示されます。これらのタブが表示されないようにするには、**単独レイアウトモード**をオンにします（プロジェクトに引き続きレイアウトを追加できますが、単独レイアウトモードではなくなります）。 **Mac OS X**では、レイアウト名のタブをドラッグアンドドロップすることで、レイアウトタブにレイアウトが表示される順序を変更できます。この設定はドキュメントと共に保存され、順序が保持されます。

➡ QuarkXPressの各国語版で作成されたプロジェクトは、他の言語版で、編集、印刷、保存が可能です。使用可能なスペルチェック辞書と自動ハイフンルールはすべて、各国語版でサポートされています。

印刷レイアウトのオプション

ページ領域では、コントロールを使用してデフォルトレイアウトのページサイズと方向を設定できます。

デフォルトの組み方のコントロールを使用して、レイアウトの水平方向または垂直方向を指定します。

見開きチェックボックスでは、スプレッドを作成できます。デフォルト設定が横組みのプロジェクトでは、**左側に奇数ページを許可**チェックボックスによって、左側を奇数ページにできるかどうかを制御できます。デフォルト設定が縦組みのプロジェクトでは、**右側に奇数ページを許可**チェックボックスによって、右側を奇数ページにできるかどうかを制御できます。

テキストボックスの自動作成チェックボックスによってレイアウトのデフォルトマスターページにテキストボックスを追加できます。

マージンガイドのコントロールを使用してレイアウトのデフォルトマージンを設定でき、**コラムガイド**領域では、コントロールを使用してマルチコラムのページをデフォルトで作成できます。

QuarkXPressプロジェクトの保存と命名

初めてQuarkXPressプロジェクトを保存する場合には、**新規保存**ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスを使用して、プロジェクト名、ロケーション、および種類を指定します。

QuarkXPressプロジェクトを保存するには、**タイプ／タイプとして保存**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。

- 変更できるプロジェクトを保存するには、**プロジェクト**を選択します。
- 読み取り専用プロジェクトを保存するには、**プロジェクトテンプレート**を選択します。

レイアウトおよびプロジェクトの書き出し

アクティブなプロジェクト内のレイアウトを書き出すには、**ファイル > 書き出し > プロジェクトとしてレイアウトを書き出し**を選択します。**新規保存**フィールドに名前を入力し、保存場所を指定します。

プロジェクトにすべてのレイアウトを書き出すには、**レイアウト**領域の**すべて選択**チェックボックスをオンにします。個々のレイアウトを書き出すには、この領域で各レイアウトにチェックマークを付けます。

QuarkXPressの以前のバージョンで開くことができるレイアウトを書き出すには、**バージョン**ドロップダウンメニューから、以前のバージョン番号を選択します。

レイアウトの使用

レイアウト間の移動、およびレイアウトの追加、複製、削除は簡単です。

レイアウト間を移動するには、プロジェクトウィンドウの上部にあるタブを使用します。

アクティブプロジェクトにレイアウトを追加するには、**レイアウト > 新規**を選択するか、レイアウトタブをクリックしてコンテキストメニューから**新規**を選択します。

レイアウトを複製するには、複製するレイアウトを表示してから**レイアウト > 複製**を選択するか、**レイアウト**タブのコンテキストメニューから**複製**を選択します。

レイアウトのプロパティを変更するには、レイアウトを表示して**レイアウト > レイアウトプロパティ**を選択するか、**レイアウト**タブのコンテキストメニューから**レイアウトプ**

ロパティを選択します。**レイアウトプロパティ**ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスを使用して、プロジェクトのレイアウトタイプを変更できます。ただし、App Studioのレイアウトタイプへの変更やApp Studioのレイアウトタイプからの変更はできません（詳細は、『A Guide to App Studio』を参照してください）。

レイアウトを削除するには、レイアウトを表示して**レイアウト > 削除**を選択するか、**レイアウト**タブのコンテキストメニューから**削除**を選択します。

下記のコマンドを使用すると、結果の出力にはアクティブレイアウトだけが含まれます。

- **ファイル > 書き出し > PDF形式のレイアウト**
- **ファイル > 書き出し > プロジェクト形式のレイアウト**
- **ファイル > 書き出し > EPS形式のページ**
- **ファイル > 書き出し > ePUB形式のリフロー**
- **ファイル > 書き出し > Kindle形式のリフロー**

➡ レイヤーを作成および編集すると、アクティブなレイアウトに適用されます。

➡ **編集 > 取り消し**などプロジェクトレベルのアクションを実行すると、そのアクションはすべてのレイアウトの「履歴」の取り消しに追加されます。

➡ **補助**メニューの英文スペルチェックを実行すると、アクティブレイアウトだけがチェックされます。

➡ **編集**メニューの**検索／置換**機能で検索できるのは、アクティブレイアウトだけです。

プロジェクトレベルリソースとレイアウトレベルリソース

リソースには、プロジェクトレベルで定義されるリソースと、レイアウトレベルで定義されるリソースがあります。

プロジェクトレベルリソース

プロジェクトレベルリソースは、プロジェクトのすべてのレイアウトで使用することができ、使用されるすべてのレイアウトで同じです。プロジェクトレベルリソースには、アプリケーション環境設定、スタイルシート、カラー、H&J、リスト、ダッシュとストライプ、カスケーディングメニュー（ウェブレイアウトのみ）、メタタグ（ウェブレイアウトのみ）、およびメニュー（ウェブレイアウトのみ）などがあります。

➡ 作成するすべてのリスト定義はプロジェクト内の任意のレイアウトで使用できますが、リストは、リストを作成するときのアクティブなレイアウトからのみ描画されます。

レイアウトレベルリソース

レイアウトレベルリソースは、プロジェクトのすべてのレイアウトに固有のリソースにすることができます。レイアウトレベルリソースには、下記のリソースがあります。

- レイアウト環境設定（**QuarkXPress／編集 > 環境設定 > レイアウト**）
- （**Windowsのみ**）カーニング設定（**補助 > トラッキングの編集**）（**印刷レイアウトのみ**）

- （Mac OS Xのみ）カーニング設定（**編集 > カーニングペア**）（印刷レイアウトのみ）
- （Windowsのみ）トラッキング設定（**補助 > カーニングエディタ**）（印刷レイアウトのみ）
- （Mac OS Xのみ）トラッキング設定（**編集 > フォントトラッキングテーブル**）（印刷レイアウトのみ）
- 例外ハイフン（**補助 > 例外ハイフン**）
- ズーム値

ガイドの使用

ガイドとは、印刷されないガイドラインのことで、レイアウト上にアイテムおよびテキストを配置するときに役立ちます。ガイドには、**ルーラーガイド**、**コラムおよびマージンガイド**、**ダイナミックガイド**の3種類があります。

デザイングリッドも印刷されないガイドラインで、テキストサイズおよび位置に従ってアイテムやテキストを整列させるときに使用できます。

詳細は、「*Guide Manager Pro XTensionsソフトウェア*」および「*デザイングリッドの理解*」を参照してください。

コラムガイドおよびマージンガイド

マージンガイドおよびコラムガイドは、ページの外側のマージンの位置およびコラムの配置場所を示します。

印刷レイアウトを新たに作成すると、自動的にコラムガイドとマージンガイドが配置されます。各ガイドの位置は、**新規プロジェクト**ダイアログボックス（**ファイル > 新規 > プロジェクト**）の**コラムガイド**フィールドおよび**マージンガイド**フィールド、または**新規レイアウト**ダイアログボックス（**レイアウト > 新規**）で指定できます。

プロジェクトウィンドウにマスターページが表示されると、**マスターガイド＆グリッド**ダイアログボックス（**ページ > マスターガイド＆グリッド**）を使用してコラムガイドおよびマージンガイドの配置場所を変更できます。**新規プロジェクト**ダイアログボックス（**ファイル > 新規 > プロジェクト**）または**新規レイアウト**ダイアログボックス（**レイアウト > 新規**）で**テキストボックスの自動作成**チェックボックスをオンにしている場合は、**マージンガイド**領域で指定した値によって、自動作成されるテキストボックスのサイズと配置場所が決まります。

コラムガイドおよびマージンガイドの作成については、「*マスターページグリッドの設定*」を参照してください。

詳細は、「*Guide Manager Pro XTensionsソフトウェア*」を参照してください。

ルーラーガイド

ルーラーガイド（または単に「ガイド」）は、手動で配置できる印刷されないガイドラインです。縦横揃えルーラー（**表示 > ルーラー**）からドラッグして、ルーラーガイドを作成できます。マスターページおよび個々のレイアウトページ上で、ルーラーガイドを作成できます。

- 水平ルーラーガイドを作成するには、上部ルーラーをクリックします。↕ポインタが表示されたら、ルーラーガイドをページ上の位置にドラッグします。垂直ルーラーガイドを作成するには、垂直ルーラーをクリックします。↔ポインタが表示されたら、ルーラーガイドをページ上の位置にドラッグします。ルーラーガイドをドラッグするときに**メジャー**パレットが開いていると、垂直ルーラーガイドの場合は**X**フィールドに、水平ルーラーガイドの場合は**Y**フィールドに、ガイドの位置が示されます。
- 水平ルーラーガイドの作成時、ルーラーガイドがペーストボード上にあるときにマウスボタンを放すと、スプレッドのペーストボードおよび全ページにわたってルーラーガイドが延長されます。水平ルーラーガイドがドキュメントページ上にあるときにマウスボタンを放すと、ルーラーガイドはそのページにのみ表示されます。
- ルーラーガイドの位置を変更するには、ルーラーガイドをクリックしてから、ガイドポインタが表示されているときに別の位置にドラッグします。また、**アイテム**ツールを選択した状態でルーラーガイドをダブルクリックし、**Guide Manager Pro**ダイアログボックスに新しい位置を入力できます。
- ルーラーガイドを消去するには、ガイドをページ外にドラッグします。
- あるページからすべてのルーラーガイドを消去するには、ページの一部が表示されるまでスクロールし、Option／Altキーを押しながらガイドをドラッグしてルーラーに戻します。
- スプレッドのペーストボードからすべてのルーラーガイドを消去するには、ペーストボードの一部が表示されるまでスクロールし、Option／Altキーを押しながらルーラーの一部をクリックします。

「*Guide Manager Pro XTensionsソフトウェア*」も参照してください。

ガイドへの吸着

QuarkXPressでは、ガイドの近くにアイテムをドラッグするとアイテムが自動的にガイドに揃えられる、いわば「磁場」をガイドの周囲に作ることができます。この機能は**ガイドへの吸着**（**表示**メニュー）と呼ばれ、磁場の幅を**ガイド吸着距離**と呼びます。

QuarkXPressコントロールで吸着を制御するには、**表示** > **ガイドへの吸着**をチェックします。距離を指定するには、**QuarkXPress／編集** > **環境設定** > **印刷レイアウト** > **ガイドとグリッド**を選択して、**ガイド吸着距離**フィールドにピクセル値を入力します。

表示 > ページグリッドへの吸着を選択して、マスターページグリッドにアイテムを揃えることもできます。**ガイド吸着距離**フィールドの値は、マスターページグリッドにも適用されます。詳細は、「*デザイングリッドへのアイテムの吸着*」を参照してください。

ダイナミックガイド

ダイナミックガイドはページのアイテムを作成または操作するときに一時的に表示されるガイドで、印刷はされません。 これらのガイドは、レイアウト内でアイテムと、他のアイテムやページとの相対位置を揃えるために役立ちます。 表示されるダイナミックガイドやフィードバックの種類を指定できます。

アイテムの作成、変換、または移動を行うとき、新しいアイテムと既存のアイテムやページとの相対位置を指定するため、ダイナミックガイドが自動的に表示されます。

ガイドをオン／オフするには、**表示 > ダイナミックガイド > ダイナミックガイドを表示／隠す**を選択します。

表示 > ダイナミックガイドサブメニューを使用して下記のオプションを選択すると、ダイナミックガイドの表示時期と表示方法を変更できます。

- **アイテムの中央に揃える**を選択すると、アイテムの中央を他のアイテムの中央またはエッジに揃えるとき、ガイドラインが生成され表示されます。これらは、アイテムの作成および移動時に表示されます。
- **アイテムのエッジに揃える**を選択すると、アイテムのエッジを他のアイテムのエッジに揃えるとき、ガイドラインが生成され表示されます。これらは、アイテムの作成および移動時に表示されます。
- **ページの中央に揃える**を選択すると、アイテムのエッジや中央をページの中央に揃えるとき、ガイドラインが生成され表示されます。 これらは、アイテムの作成および移動時に表示されます。
- **同じ寸法で表示**を選択すると、アイテムの寸法が他のアイテムの寸法と等しいとき、ガイドラインが生成され表示されます。 これらは、アイテムの作成およびサイズ変更時に表示されます。
- **同じ間隔で表示**を選択すると、アイテム間の水平または垂直の距離が、ページ上の他のアイテム間の距離と等しいとき、ガイドラインが生成され表示されます。 これらは、アイテムの作成および移動時に表示されます。
- **寸法／間隔の単位を表示**を選択すると、**同じ寸法で表示**が選択されているときは寸法の値、**同じ間隔で表示**が選択されているときは間隔の値が表示されます。

➡ このオプションは、**同じ寸法で表示**または**同じ間隔で表示**が選択されているときのみ利用可能です。

➡ デフォルトではダイナミックガイドはオンで、すべてのオプションが選択されています。

Windowsでは、**環境設定**ダイアログボックスの**ダイナミックガイドのカラー**ペインを使用して、ダイナミックガイドの種類ごとにカラーを指定できます。 「*環境設定 - アプリケーション - ダイナミックガイドのカラー*」を参照してください。 Mac OS Xでは、**環境設定**ダイアログボックスの**カラーテーマ**ペインを使用して、ダイナミックガイドのカラーを設定できます。 「*環境設定 - アプリケーション - カラーテーマ*」を参照してください。

アクションの取り消しおよびやり直し

編集メニューの**取り消し**コマンドで、アイテムで実行された最後のアクションを元に戻します。たとえば、画像ボックスを誤ってカットしてしまった場合、**取り消し**コマンドを使用して、画像ボックスをクリップボードからレイアウト内に戻すことができます。**編集**メニューの**やり直し**コマンドで、取り消したアクションを再度実行できます。

最後に実行したアクションを元に戻すには、**編集 > 取り消し**（Command+Z/Ctrl+Z）を選択します。メニューアイテムでは、取り消しできるアクションが特定されます。たとえば、**削除の取り消し**コマンドは、**アイテム > 削除**コマンドを使用した後に、**編集**メニューで使用できます。**取り消し**機能を使用できない場合は、**取り消し不能**がグレイのテキストで表示されます。

アクションを再度実行するには、アクションを取り消した後に、**編集 > やり直し**（Command+Shift+Z/Ctrl+Y）を選択します。

ボックス、ライン、およびテーブル

使いやすいページレイアウトを作成するには、ボックスを使用する必要があります。ボックスを使用すると、テキストや画像を整然と配置できます。ボックスとは、テキストや画像を含むことができるアイテムであり、ページ上にカラフルなデザイン要素を作成するような場合は、コンテンツなしで作成することもできます。ボックスの境界により、テキストと画像の形状やサイズ、ページ上の位置が決まります。

アイテムとコンテンツの理解

QuarkXPressは、アイテム（コンテナ）とコンテンツ（アイテムの内容）の概念を対象とします。

アイテムとは、ページレイアウトの構成ブロックです。**アイテム**ツール を使用することで、アイテムの移動、サイズ変更、回転、形状変更、カット、コピー、およびペーストなどを実行できます。

基本的なアイテムのタイプを以下に挙げます。

- テキストボックス、画像ボックス、およびコンテンツなしボックスなどを含む**ボックス**。ボックスは、矩形、円、およびベジエなどのさまざまな形状を取ることができます。
- 「標準的な」ラインとテキストを含められるテキストパスを含む**ライン**。ラインもまた、まっすぐにもベジエにもできます。
- 単一アイテムのように振舞うよう、互いに「貼り付け」られたアイテムの集合である**グループ**。
- テキストと画像の両方を含めることができる**テーブル**。

コンテンツは基本的にテキストと画像です。レイアウトを作成するには、通常いくつかのテキストボックスと画像ボックスを描き、そのボックスの中にテキストと画像を挿入します。

アイテムとコンテンツは異なるため、それぞれの操作には異なるツールを使用します。

- **テキストコンテンツ**ツール では、矩形テキストボックスを作成し、テキストボックス内やテキストパス上のテキストを書式設定できます。**テキストコンテンツ**ツールを使用して、テキストのカット、コピーおよびペーストも行うことができます。

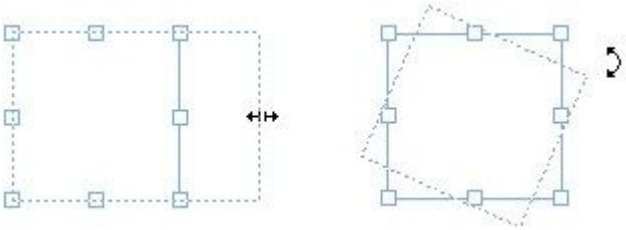
- **画像コンテンツ**ツール では、矩形画像ボックスを作成し、画像ボックス内の画像を操作できます。**画像コンテンツ**ツールを使用して、画像のカット、コピーおよびペーストも行うことができます。

ハンドルの理解

選択したテキストパス、線、およびボックスの境界ボックスには、**アイテムハンドル**という小さな白い四角があります。これらのハンドルを使用して、選択したアイテムをサイズ変更して回転できます。

アイテムハンドル

アイテムをサイズ変更するには、そのアイテムハンドルをクリックしてドラッグします。アイテムを回転させるには、アイテムのいずれかの角ハンドルのすぐ外側をクリックしてドラッグします。マウスのポインタをハンドル上やハンドルの近くに移動すると、マウスのポインタが変化して実行できるアクションを示します。



アイテムハンドルを使用して、アイテムのサイズ変更や回転を行うことができます。

画像ハンドル

画像コンテンツツールを選択して、画像を含む画像ボックスをクリックすると、ハンドルを示す大きな円と一緒に画像が表示されます。このようなハンドルを、**画像コンテンツハンドル**と呼びます。画像オーバーレイの任意の部分をクリックすると、移動ポインタを使用して、画像ボックス内で画像を移動できるようになります。

画像コンテンツハンドルが表示された画像ボックス

選択された画像がその画像ボックスのサイズよりも大きい場合でも、画像コンテンツハンドルは表示されます（上図参照）。ボックスの境界をはみ出して画像が表示されます。画像ボックスをサイズ変更して、画像を切り抜くことができます。

画像コンテンツハンドルを使用すれば、その画像ボックスのサイズや角度を変更することなく、画像のサイズ変更や回転を行うことができます。

- サイズ変更ポインタ：
- 回転ポインタ：

回転していないボックス内の回転した画像

画像ボックスを移動したり、透明なオーバーレイがない状態でその切り抜きの見え方を確認したりする場合は、Command／Ctrlキーを押します。これにより、一時的にオーバーレイが解除され、**アイテム**ツールを選択したときと同様にボックスを対話操作できます。

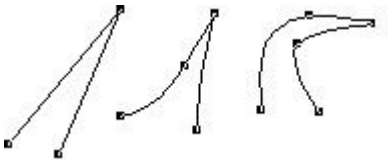
画像ボックスハンドルと画像コンテンツハンドルとが重なる部分にマウスのポインタがある状態で、**画像コンテンツ**ツールでクリックしてドラッグすると、画像のサイズ変更または回転のみが行われます。アイテムハンドルを移動するには、**アイテム**ツールを選択します。

ベジエ形状の理解

ベジエボックスとベジエラインを形状変更するまえに、以下の定義を理解しておく必要があります。

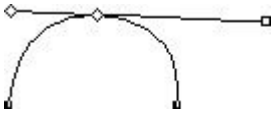
ポイント：ラインセグメントを接続し、ラインセグメントの始点と終点を定義します。曲がったラインセグメントを接続するポイントには、曲線の形状を制御する曲線ハンドルがあります。QuarkXPressには、コーナーポイント、スムーズポイント、およびシンメトリカルポイントの3種類のポイントがあります。

コーナーポイント：コーナーポイントは2本の直線、1本の直線と1本の曲線、または2本の不連続な曲線を接続します。曲線が2本の場合、コーナーポイントの曲線ハンドルは独立して操作でき、2つのセグメント間に鋭角的な変化を持たせることができます。



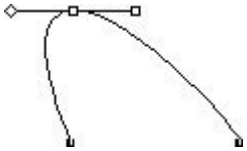
コーナーポイントの例

スムーズポイント：スムーズポイントは、2本の曲線を接続して1本の連続した曲線を構成します。曲線ハンドルは常にポイントを通る直線上に残りますが、独立して間隔を開けることができます。



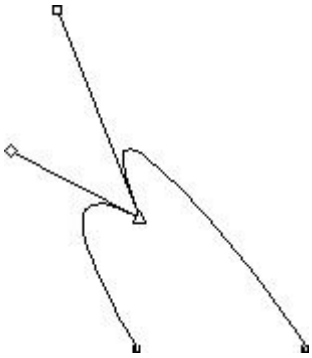
スムーズポイント

シンメトリカルポイント：シンメトリカルポイントは、2本の曲線を接続して1本の連続した曲線を構成します。結果はスムーズポイントに似ていますが、曲線ハンドルは常にポイントから等距離のところにあります。



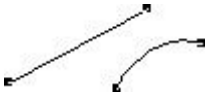
シンメトリカルポイント

曲線ハンドル：曲線ハンドルは、ポイントのいずれかの側に伸び、曲線の形状を制御します。



曲線ハンドル（左上）

ラインセグメント：ラインセグメントは、2ポイント間に位置する直線部分または曲線部分です。



ラインセグメント

ポイント選択ツールがアクティブなベジエボックスやベジエライン上に配置されると、ポイント、曲線ハンドル、またはラインセグメントを選択できるかどうかを示すさまざまなポインタが表示されます。ポインタを使用してクリックおよびドラッグし、ベジエボックスやベジエラインを形状変更します。

- 形状を完全に変更するには、**アイテム > 形状**サブメニューから別のオプションを選択します。
- **ベジエペン**ツールを使用してベジエボックスにポイントを追加するには、ラインセグメントをクリックします。または、**ポイント追加**ツールを使用します。
- **ベジエペン**ツールを使用してベジエボックスからポイントを削除するには、ポイントをクリックします。または、**ポイント削除**ツールを使用します。
- **ベジエペン**ツールを使用してポイントを別のタイプのポイントに変換するには、Option／Altキーを押しながらポイントをクリックします。または、**ポイント変換**ツールを使用します。
- **ベジエペン**ツールを使用してポイントを移動またはラインセグメントの形状を変更するには、Command／Ctrlキーを押しながらポイントまたはラインセグメントをドラッグします。
- 曲線やポイントを選択して移動または削除できるようにするには、**ポイント選択**ツールを使用します。複数のポイントを選択するには、Shiftキーを押しながらクリックします。Option／Altキーを押しながらポイントをクリックすると、シンメトリカルポイントになります。

➡ ペンツールを選択しているときにレイアウトをパンするには、Shift+スペースを押して、クリックアンドドラッグします。

ボックスの使用

ボックスには、テキストボックス、画像ボックス、コンテンツなしボックス（コンテンツが**なし**のボックス）の3種類があります。3種類のボックスにはいずれも、カラー、シェード、ブレンド、フレームが含まれています。テキストボックス、画像ボックス、またはコンテンツなしボックスを描画する場合、作成したボックスの種類に対応するコントロールを使用できます。ただし、画像を含む画像ボックスにテキストを取り込んだり、テキストを含むテキストボックスに画像を取り込んだりすることができます。コンテンツの種類だけでなく、図形やボックスの他の属性も変更できます。

テキストボックスおよび画像ボックスの作成

ボックスを作成するには、下記の3つの方法があります。

- **コンテンツなしボックス**（画像ボックスにもテキストボックスにも変更できるボックス）を作成するには、**方形ボックス**ツール、**楕円ボックス**ツール、または**星形**ツールを使用して、クリックアンドドラッグします。テキストコンテンツを宣言するには、コンテンツのないボックスの描画中にTを押します。画像コンテンツを宣言するには、コンテンツのないボックスの描画中にRを押します。
- 方形テキストまたは画像ボックスを作成するには、**テキストコンテンツ**ツールまたは**画像コンテンツ**ツールを使用してクリックアンドドラッグします。
- ベジエボックスを作成するには、**ベジエペン**ツールを使用します。詳細は、「*ベジエボックスの作成*」を参照してください。

➡ 方形ボックスを正方形に、楕円ボックスを円に制限するには、ドラッグしながらShiftキーを押します。

下記のツールを使用してボックスを作成できます。

コンテンツなしボックスをテキストボックスに変更するには、Command+E／Alt+Eキーを押し、テキストファイルを取り込みます。

コンテンツなしボックスを画像ボックスに変更するには、Command+E／Alt+Eキーを押し、画像ファイルを取り込みます。

アイテム > 形状サブメニュー、または**メジャー**パレットの**ボックスの角のスタイル**ドロップダウンメニューを使用して、方形ボックスの角の種類を角円形、逆角丸形、または角切形に変更できます。角円形の角を追加および変更するには、**メジャー**パレットの**ホーム／クラシック**タブの**ボックスの角半径**フィールドに値を入力します。Windowsでは、**角の半径**フィールド（**アイテム > 設定 > ボックス**タブ）に値を入力しても、角丸形の角を追加および変更できます。

ベジエボックスの作成

ベジエペンツールでは、直線および曲線セグメントを持つ複数面のベジエボックスおよびラインを描画できます（「*ベジエ形状の理解*」を参照してください）。

➡ 別の方法で独自の形状のボックスを作成するには、「*シェイプメーカーXTensionsソフトウェア*」を参照してください。

ベジエボックスを描画するには、下記の手順に従ってください。

1 **ツール**パレットで**ベジエペン**ツールを選択します。ページ上の任意の位置に十字ポインタを移動し、クリックして開始ポイントを決定します。

2 次のポイントにする位置にポインタを移動します。ページに対して45度の角度にポインタの動きを制限するには、Shiftキーを押します。

3 クリックして、ポイントおよびラインセグメントを作成します。

- ドラッグせずにポイントをクリックすると、直線およびコーナーポイントが作成されます。曲線セグメントおよびスムーズポイントを作成するには、クリックしてから次のポイントにする位置にドラッグします。2つの曲線ハンドルがついたポイントが表示されます。曲線ハンドルをドラッグすれば、カーブのサイズと形状を制御できます。Option／Altキーを押しながらスムーズポイントをドラッグして、曲線セグメントおよびコーナーポイントを作成します。

4 必要に応じて、描画中にベジエ形状を編集します。

- 既存の図形セグメントにポイントを追加するには、ポイントを置きたいラインセグメントをクリックします。
- 描画中にアクティブな図形からポイントを削除するには、削除するポイントをクリックします。

5 ボックスを閉じるには、ラインの開始点にマウスポインタを置いてパスを閉じ、クローズボックスポインタが表示されたらクリックします。

➡ いずれかの描画ツールがアクティブになっている場合、Command／Ctrlキーを押せば、一時的に**ポイント選択**ツールに切り替わります。**ポイント選択**ツールがアクティブな場合、Command+Option／Ctrl+Altを押すと一時的に**アイテム**ツールに切り替えることができます。

➡ 既存のオープンなパスを連結、拡張、またはクローズできます。詳細は、「*オープンなパスの連結、拡張、およびクローズ*」を参照してください。

ボックスのサイズ変更

ボックスのサイズは、境界ボックスのサイズを変更することによって変更できます。境界ボックスは、すべてのボックスを囲んでいる印刷されない矩形の枠です。ボックスのアイテムハンドルは、境界ボックスの境界を定めます。境界ボックスを明確に表示するには、**アイテム**ツールを使用して、ベジエボックス上でアイテムハンドルを選択する方法が最善です。

アクティブボックスは、下記の方法のいずれかを使用してサイズ変更できます。

- **アイテム**ツール または**コンテンツ**ツール を選択します。選択したボックスのアイテムハンドル上にマウスのポインタを置くと、形状がサイズ変更ポインタに変化します。ハンドルをクリックし、新しい位置までドラッグして、ボックスを縮小または拡大します。Shiftキーを押してボックスの縦横比を保持します。Option/Altキーを押して中心からのボックスのサイズを変更します。Command/Ctrlキーを押して、ボックスに合わせてボックスのコンテンツのサイズを変更します。
- **メジャー**パレットの**ホーム／クラシック**または**複数アイテムの配置**タブの**W**フィールドと**H**フィールドに値を入力して幅と高さを変更し、Return/Enterキーを押します。
- **（Windowsのみ） アイテム > 設定**（Command+M／Ctrl+M）を選択し、**ボックス**タブをクリックします。**幅**フィールドと**高さ**フィールドに値を入力してボックスのサイズを正確に変更し、**OK**をクリックします。

ボックスの縦横比はロックできます。その場合、Shiftキーを押して縦横比を保持する必要がなくなります。詳細は、「*ボックスや画像の縦横比のロック*」を参照してください。

ボックスや画像の縦横比のロック

選択したボックスの縦横比をロックするには、**メジャー**パレットの**ホーム／クラシック**タブを表示して、**W**フィールドと**H**フィールドの横にある、縦横比ロックのコントロールをクリックします。このコントロールをロックすると、QuarkXPressでは、サイズ変更時にアイテムの縦横比が保持されます。 **Windows**では、**設定**ダイアログボックスの**ボックス**タブでボックスの縦横比をロックすることもできます。

ロック解除状態（上）とロックされた状態（下）の、縦横比ロックのコントロール

選択したボックスの画像の縦横比をロックするには、**メジャー**パレットの**ホーム／クラシック**タブを表示して、**X%**フィールドと**Y%**フィールドの横にある、縦横比ロックのコントロールをクリックします。このコントロールをロックすると、QuarkXPressでは、サイズ変更時に画像の縦横比が保持されます。Windowsでは、**設定**ダイアログボックスの**画像**タブでボックスの縦横比をロックすることもできます。

縦横比ロック機能をアイテム検索／置換機能とともに使用するには、**アイテム検索／置換**パレット（**編集**メニュー）の**ボックス**タブまたは**画像**タブを表示して、**検索**領域または**置換**領域の**縦横比**チェックボックスをオンまたはオフにします。

縦横比ロック機能をアイテムスタイルとともに使用するには、**アイテムスタイルの編集**ダイアログボックス（**編集 > アイテムスタイル**）の**ボックス**タブまたは**画像**タブを表示して、**縦横比**をオンにします。

ボックスの形状変更

ボックスは下記の3つの方法で形状を変更できます。

- **アイテム > 形状**サブメニューから異なるオプションを選択することによって、形状を完全に変更することができます。
- （Windowsのみ） **角の半径**フィールド（**アイテム > 設定 > ボックス**タブ）に値を入力すると、方形ボックスに角の丸型を追加したり、変更したりできます。
- **メジャー**パレットの**ホーム／クラシック**タブまたは**複数アイテムの配置**タブの、**ボックスの角半径**フィールドを使用することもできます。
- ポイント、曲線ハンドル、およびラインセグメントの位置を変更することによって、ベジエボックスの形状を変更できます。詳細は、「*ベジエ形状の理解*」を参照してください。

ボックスへのフレームの追加

フレームは、任意のタイプのボックスを囲むために使用できる装飾的な境界線です。アクティブなボックスのフレームコントロールにアクセスするには、下記の操作を行ってください。

- （Windowsのみ） **アイテム > フレーム**を選択して、**設定**ダイアログボックスの**フレーム**タブを表示します。
- **メジャー**パレットの**フレーム**タブを表示します。

これらのタブのコントロールを使用して、フレームのスタイル、幅、カラー、および不透明度を指定します。フレームスタイルにギャップが含まれる場合は、ギャップのカラーおよび不透明度を指定することもできます。

編集メニューの**ダッシュ＆ストライプ**ダイアログボックスでユーザー独自のフレームスタイルを作成して、アイテムスタイルでフレーム設定を指定できます。アイテムスタイルについての詳細は、「*Item Styles XTensionsソフトウェア*」を参照してください。

ボックスへのカラーの適用

アクティブなボックスにバックグラウンドカラーを適用するには、下記のいずれかを実行します。

- （Windowsのみ） **アイテム > 設定**（Command+M／Ctrl+M）を選択して**ボックス**タブをクリックし、**ボックス**領域のコントロールを使用します。
- **カラー**パレット（**ウィンドウ > カラー**）を表示し、**バックグラウンドカラー**ボタンをクリックして、カラーパレットのコントロールを使用します。
- **メジャー**パレットの**ホーム／クラシック**タブのコントロールを使用します。

これらのタブおよびパレットでは、下記のコントロールを使用できます。

- **ボックスまたはバックグラウンドカラー**：ボックスのバックグラウンドカラーを指定します。
- **シェード**：バックグラウンドカラーの色調を指定します（0%＝白、100%＝フルカラー）。

- **不透明度**：ボックスのバックグラウンドの透明度を制御します（0%＝完全に透明、100%＝完全に不透明）。

  アイテムスタイルでもボックスのカラーを指定できます。アイテムスタイルについての詳細は、「*Item Styles XTensionsソフトウェア*」を参照してください。

ボックスへのブレンドの適用

ブレンドとは、あるカラーから別のカラーに徐々に変化していく状態です。アクティブなボックスのバックグラウンドにブレンドを適用するには、下記のいずれかを実行します。

- **（Windowsのみ） アイテム > 設定**（Command+M／Ctrl+M）を選択して**ボックス**タブをクリックし、**ブレンド**領域のコントロールを使用します。
- **（Mac OS Xのみ） メジャー**パレットの**ホーム／クラシック**タブのコントロールを使用します。
- **カラー**パレット（**ウィンドウ > カラー**）を表示し、**バックグラウンドカラー**ボタンをクリックして、カラーパレットのコントロールを使用します。

  これらのタブおよびパレットでは、下記のブレンド関連のコントロールを使用できます。

- **スタイル**：ブレンドの種類を制御します。
- **角度**：1つのカラーから別のカラーへ遷移する角度を制御します。

  ブレンドでは2つのカラーを使用します。各カラーに独自のシェードと不透明度があります。**ボックス**領域のカラーが第1カラー、**ブレンド**領域のカラーが第2カラーになります。**カラー**パレットで、**#1**をクリックして第1カラーを設定し、次に**#2**をクリックして第2カラーを設定します。

  アイテムスタイルでもブレンドを指定できます。アイテムスタイルについての詳細は、「*Item Styles XTensionsソフトウェア*」を参照してください。

ボックスの融合および分割

アイテムメニューの**パスの融合または分割**サブメニューのオプションを使用して、既存の複数のボックスから複雑なベジエボックスを作成できます。たとえば、方形ボックスと楕円形ボックスが重なっている場合、このサブメニューのオプションを選択して、同じコンテンツを含む単一のボックスを作成できます。2つの画像ボックスを融合すると、融合されたボックスに1つの画像として表示されます。2つのテキストボックスを融合すると、テキストは、1つのストーリーとして両方のボックスに流し込まれます。

融合機能を使用するには、アイテムを2つ選択して、**パスの融合または分割**サブメニューで下記のオプションのいずれかを選択します。

- **交差**コマンド：アイテムが重なっている領域を保持して、残りの領域を削除します。
- **連合**コマンド：重なっている領域と重なっていない領域の両方を保持して、すべてのアイテムを1つのボックスにまとめます。
- **差分**コマンド：前面にあるアイテムを削除します。重なっている領域はすべて削除されます。
- **逆差分**コマンド：背面にあるアイテムを削除します。重なっている領域はすべて削除されます。

- **排中的交差**コマンド：図形の形状はそのまま保持されますが、重なっている部分はすべて削除されます。削除領域を囲んでいるポイントを編集する場合は、2本の線が交差する場所すべてに表示されている2つのポイントを使用します。
- **連結**コマンド：**排中的交差**コマンドと似ていますが、ポイントで囲まれた削除領域の、2本の直線が交差する位置にポイントは表示されません。
- **分割**コマンド：融合ボックスを複数のボックスに分割したり、パスの中にパスが含まれる複雑なボックスを複数のボックスに分割したり、ボーダーが交差するボックス（数字の8のような形）を分割したりします。このコマンドを使用するには、アイテムを2つ選択して、**パスの融合または分割**サブメニューで下記のオプションのいずれかを選択します。
- **外側パス**コマンド：重なっていない複数の図形を含む融合ボックスに対して使用します。**外側パス**は、外側のパスの情報をすべて保持し、重なっていない外側のパスを複数のボックスに分割します。
- **全パス**コマンド：複雑なボックス内の**すべての**図形を使用して複数のボックスを作成します。

ボックスへのテキストと画像の追加

ボックスにテキストを追加するには、**テキストコンテンツ**ツール を選択してボックスをダブルクリックしてから、テキストを入力するか、他の場所からコピーアンドペーストするか、または**ファイル > テキストの取り込み**を選択します。

ボックスに画像を配置するには、**画像コンテンツ**ツール を使用してボックスを選択し、画像を他の場所からコピーアンドペーストするか、**ファイル > 画像の取り込み**を選択します。

ボックスタイプの変更

選択されているボックスのタイプを別のタイプに変換するには、**アイテム**メニューの**コンテンツ**サブメニューから**画像**、**テキスト**、または**なし**を選択します。また、**ファイル > 取り込み**を選択して画像を選択し、テキストボックスを画像ボックスに変更することもできます。**ファイル > 取り込み**を選択してテキストファイルを選択し、画像ボックスをテキストボックスに変更することもできます。

選択されているテキストボックスをテキストパスに変換するには、**アイテム > 形状**サブメニューからラインの形状を選択します。

ボックスツールでは、次の修飾キーを使用してテキストボックスまたは画像ボックスを作成できます。

- テキストボックスを作成するには、描画中にTを押します。
- 画像ボックスを作成するには、描画中にRを押します。

クリッピングパスからのボックスの作成

画像ボックスに、（埋め込みまたは自動作成の）関連付けられたクリッピングパスがある場合、画像ボックスを選択して**アイテム > クリッピングパスを新規ボックスで開く**を選択することによって、そのクリッピングパスの形状で新規ボックスを作成できます。

ラインの使用

ラインには、直線とベジエラインの2種類あります。どちらの種類のラインにも、カラーやラインのスタイルを適用できます。

ラインの作成

ラインを作成するには、**ツール**パレットから**ライン**ツール を選択して、十字ポインタをページの任意の場所まで移動します。クリックアンドドラッグして、ラインを描画します。

ラインの描画中にShiftキーを押すと、ラインの角度を、0度、45度、または90度に制限できます。

ベジエラインの作成

ベジエペンツール では、直線および曲線セグメントを持つ複数面のベジエボックスおよびラインを描画できます（「*ベジエ形状の理解*」を参照してください）。

ベジエラインを描画するには、下記の手順に従ってください。

1. **ツール**パレットで**ベジエペン**ツールを選択します。ページ上の任意の位置に十字ポインタを移動し、クリックして開始ポイントを決定します。
2. 次のポイントにする位置にポインタを移動します。ページに対して45度の角度にポインタの動きを制限するには、Shiftキーを押します。
3. クリックして、ポイントおよびラインセグメントを作成します。
   - 曲線セグメントを作成するには、クリックしてから次のポイントにする位置にドラッグします。2つの曲線ハンドルがついたポイントが表示されます。曲線ハンドルをドラッグすれば、カーブのサイズと形状を制御できます。
   - コーナーポイントを作成するには、クリックする前にOption／Altキーを押します。曲線ハンドルをクリックしたままドラッグすると、コーナーポイントの半径を指定できます。
   - 既存の図形セグメントにポイントを追加するには、ポイントを置きたいラインセグメントをクリックします。
   - 描画中にアクティブな図形からポイントを削除するには、削除するポイントをクリックします。
4. ラインを完了するには、ダブルクリックします。

いずれかの描画ツールがアクティブになっている場合、Command／Ctrlキーを押せば、一時的に**ポイント選択**ツールに切り替わります。**ポイント選択**ツールがアクティブな場合、Command+Option／Ctrl+Altを押すと一時的に**アイテム**ツールに切り替えることができます。

直線のラインモード

ラインモードには、**両端**、**左端**、**センター**、および**右端**の4つがあります。**ライン**タブ（**アイテム > 設定**）（Windowsのみ）または**メジャー**パレット（**ホーム／クラシック**または**複数アイテムの配置**タブ）で選択したモードに応じて、ラインの長さと位置は異なる形式で表現されます。

- **両端**モード：最初の終端について、**X1**フィールドは水平方向の、**Y1**フィールドは垂直方向の位置をそれぞれ表します。**X2**フィールドは終端の水平方向の位置を表し、**Y2**フィールドは終端の垂直方向の位置を表します。
- **左端**モード：最も左にある終端について、**X1**フィールドは水平方向の、**Y1**フィールドは垂直方向の位置をそれぞれ表します。
- **センター**モード：ラインのセンターについて、**XC**フィールドは水平方向の、**YC**フィールドは垂直方向の位置をそれぞれ表します。
- **右端**モード：最も右にある終端について、**X2**フィールドは水平方向の、**Y2**フィールドは垂直方向の位置をそれぞれ表します。

ラインのサイズ変更

アクティブな直線は、下記の方法のいずれかを使用してサイズ変更できます。

- **アイテム**ツール を選択し、矢印ポインタを*ハンドルの理解*の上に置きます。形状がサイズ変更ポインタに変化します。ハンドルをクリックし、新しい位置までドラッグして、ラインの長さを短縮または伸張します。
- **（Windowsのみ） アイテム > 設定**（Command+M／Ctrl+M）を選択し、**ライン**タブをクリックします。**モード**ドロップダウンメニューをクリックして、4つのモードオプションを表示します（「*直線のラインモード*」を参照してください）。**左端**、**センター**、または**右端**を選択して、**長さ**フィールドを表示します。**長さ**フィールドに値を入力してラインの長さを正確に変更し、**OK**をクリックします。
- **メジャー**パレットの**ホーム／クラシック**または**複数アイテムの配置**タブにある**ラインモード**ドロップダウンメニューから、**左端**、**センター**、または**右端**を選択し、**L**（**長さ**）フィールドを表示します。ラインの長さを正確に変更するには、**L**フィールドに値を入力してからReturn/Enterキーを押します。

ベジエラインのサイズは、境界ボックスのサイズを変更することによって変更できます。変更するには、**アイテム > 編集 > 形状**がオフになっていることを確認してから、ボックスと同じようにしてラインをサイズ変更します。

ラインの形状変更

ラインは下記の方法で形状を変更できます。

- **アイテム > 形状**サブメニューから異なるオプションを選択することによって、形状を完全に変更することができます。
- ポイント、曲線ハンドル、およびラインセグメントの位置を変更することによって、ベジエラインの形状を変更できます。詳細は、「*ベジエ形状の理解*」を参照してください。

ペンツールを選択しているときにレイアウトをパンするには、Shift+スペースを押して、クリックアンドドラッグします。

ラインのアピアランスの制御

アクティブなラインのアピアランスを制御するには、下記の場所にあるコントロールを使用します。

- **メジャー**パレットの**ホーム/クラシック**タブ
- （Windowsのみ） **設定**ダイアログボックス（**アイテム**メニュー）の**ライン**タブ
- **カラー**パレット（**ウィンドウ**メニュー）。これはラインカラーの場合のみ使用できます。

カラー、シェード、不透明度の他にも、次のようなラインの特徴を設定できます。

- **ラインの種類**：ラインの全般的なアピアランスを制御します。デフォルトでいくつかのラインの種類が用意されていますが、**編集**メニューの**ダッシュ＆ストライプ**ダイアログボックスを使用して種類を追加できます。
- *幅*：ラインの幅を任意の単位で指定できます。**ヘアライン**幅も指定できます。印刷されるヘアライン罫線の幅は、PostScriptイメージセッターの場合で0.125ポイントです。一部のレーザープリンタでは、これよりも太くなります。
- **矢印の先端**：**矢印の先端**ドロップダウンメニューを使用して、ラインに矢印の先端を適用できます。

また、アイテムスタイルでもラインのアピアランスを指定できます。アイテムスタイルについての詳細は、「*Item Styles XTensionsソフトウェア*」を参照してください。

ラインの連結

2つのラインを連結して1つにすることができます。これを行うには、**アイテム**ツール で結合するラインを選択して、**アイテム > 融合 > 二端連結**を選択します。**二端連結**コマンドは、ラインまたはテキストパスの両端の距離が6ポイント以内である場合に使用できます。

オープンなパスの連結、拡張、およびクローズ

既存の形状の終端をクリックすると、そのポイントが選択されて通常の描画モードが開始され、次にクリックすると、選択したラインに新しいポイントとセグメントが追加されます。追加するセグメントの数に制限はありません。

終端をダブルクリックすると、ラインはオープンなパスとして完了します。

反対側の終端をクリックすると、パスがクローズされます。これは、元の描画操作で行うのと同様です。

描画中に、別のオープンなパスの終点をクリックすると、描画中のパスと、クリックしたパスとが連結されます。これらの方法を組み合わせて、パスを拡張して別のパスと連結することができます。

アイテムの操作

アイテムに対して、新しい場所へのカットアンドペースト、移動を防ぐためのロック、複製、特殊な視覚効果を実現するためのスタック化など、さまざまな操作を行うことができます。

アイテムの選択

アイテムを操作するには、最初にアイテムを選択する必要があります。選択すると、ほとんどのアイテムでは形状変更用のアウトラインとハンドルが表示されます。

アイテムを選択するには、先に**アイテム**ツール、**テキストコンテンツ**ツール、または**画像コンテンツ**ツールを選択してから、矢印ポインタをアイテム上に移動します。単一のアイテムを選択するには1回クリックし、複数のアイテムを同時に選択するにはShiftキーを押しながら個々のアイテムをクリックします。**アイテム**ツールを選択して、アイテムを含む領域を描画しても、複数アイテムを選択できます。

（Windowsのみ） **アイテム**ツールが選択されている状態でテキストボックスをダブルクリックすると、**設定**ダイアログボックスが表示されます。**画像コンテンツ**ツールが選択されている状態で、空の画像ボックスをダブルクリックすると、**取り込み**ダイアログボックスが表示されます。画像ボックスに画像が含まれている場合、**画像コンテンツ**ツールが選択され、**オリジナルを編集**ダイアログボックスが表示されます。

アクティブなアイテムを選択解除するには、そのアイテム以外の場所でクリックします。**アイテム**ツールが選択されている場合、Tabキーを押して任意のアクティブなアイテムを選択解除できます。

アイテムの移動

アイテムを移動するには、下記のいずれかの操作を行ってください。

- （Windowsのみ） **設定**ダイアログボックス（**アイテム**メニュー）の**左肩の横座標**および**左肩の縦座標**フィールドに値を入力します。
- **メジャー**パレットの**ホーム／クラシック**タブにある、**X**および**Y**フィールドに値を入力します。
- **アイテム**ツールを使用して、手作業でアイテムを移動します。ボックスまたはテキストパスを動かす前にマウスのボタンを押したままにすると、コンテンツを表示したままアイテムを移動できます。 **アイテム**ツールを選択し、キーボードの矢印キーを押すことによって、アイテムを「少しずつ動かす」こともできます。

ボックスのアイテムハンドルは、境界ボックスの境界を定めます。境界ボックスを明確に表示するには、**アイテム**ツールを使用して、ベジエボックス上でアイテムハンドルを選択する方法が最善です。

アイテムのカット、コピー、およびペースト

アイテムツールを選択すると、アクティブなボックス、ライン、およびテキストパスに対して、**編集**メニューの**カット**、**コピー**、**ペースト**コマンドを使用できます。クリップボードに保存されているアイテムのコピーをプロジェクトウィンドウのセンターに配置するには、**編集 > ペースト**（Command+V／Ctrl+V）を選択します。

アイテムツール が選択されているとき、**削除**コマンドでアイテムを削除できます。削除されたアイテムは、クリップボードにコピーされません。

アイテムのスタック順序の制御

複数のアイテムが重なっている場合、各アイテムはそれぞれ他のアイテムの前面または背面に配置されています。「スタックの順序」とは、ページ上のさまざまなアイテムの前後関係のことです。作成された各アイテムは、各自のレベルに応じたスタック順序で配置されます。アイテムを作成するたびに、新しいアイテムが前面に配置されていきます。

アイテムメニューには、アイテムのスタック順序を制御するためのコマンドがあります。

- アイテムをページまたはレイヤーの背面に移動するには、**アイテム > 背面へ送る**を選択します。
- アイテムをページまたはレイヤーの前面に移動するには、**アイテム > 前面へ出す**を選択します。
- Mac OS Xの場合、ページまたはレイヤーでアイテムを1レベル後ろに移動するには、Optionキーを押して**アイテム > ひとつ後ろへ**を選択します。Windowsの場合は、**アイテム > ひとつ後ろへ**を選択します。
- Mac OS Xの場合、ページまたはレイヤーでアイテムを1レベル前に移動するには、Optionキーを押して**アイテム > ひとつ前へ**を選択します。Windowsの場合は、**アイテム > ひとつ前へ**を選択します。

➡ レイヤーを使用したドキュメントの場合、レイヤー自体が特定のスタック順序に配置され、さらに各レイヤー内で各アイテムが独自のスタック順序に配置されます。**アイテム**メニューで**背面へ送る、ひとつ後ろへ、前面へ出す**、および**ひとつ前へ**コマンドを実行すると、レイヤー内でのアイテムのスタック順序が変更されます。

➡ 他のアイテムの背後に隠れているアイテムをアクティブ化するには、**アイテム**ツール を選択して、Command+Option+Shift/Ctrl+Alt+Shiftキーを押しながら、複数のアイテムが重なっているポイントを繰り返しクリックします。Command+Option+Shift/Ctrl+Alt+Shiftを押しながらクリックすると、スタックの前面アイテムから後方アイテムの順に次々とアクティブ化されていきます。

アイテムのグループ化

ページまたはスプレッド上の複数のアイテムを、1つのグループにまとめることができます。複数のアイテムを同時に選択したり移動したりする場合は、アイテムをグループ化すると便利です。移動、カット、コピー、複製の他、さまざまな機能をグループに対して実行できます。たとえば、出版物の発行人欄に使用されているすべてのアイテムをグループ化して、そのグループ全体を単一のボックス、ライン、またはテキストパスとして変更または移動できます。

グループ化した後でも、グループの関係を維持したまま、個々のアイテムを編集、サイズ変更、および位置変更できます。グループのコピーをQuarkXPressライブラリに保存して、他のドキュメントで使用することもできます。

アイテムのグループ化は、複数のアイテム（ライン、ボックス、テキストパス、または他のグループなど）がアクティブになっている場合に行うことができます。**アイテム**ツール で複数のアイテムを選択するには、Shiftキーを押しながら各アイテムをクリックするか、マウスをドラッグしてグループ化するアイテムを点線で囲みます。**アイテム > グループ**（Command+G/Ctrl+G）を選択して、選択されている複数のアイテムを単一のグループにまとめます。

複数のグループをグループ化したり、グループと個々のボックス、ライン、テキストパスを混ぜて複数選択して、より大きなグループを作成したりできます。

アイテムツール を選択すると、グループの移動、カット、コピー、ペースト、複製、回転、およびカラーの適用を行うことができます。**テキストコンテンツ**ツール または**画像コンテンツ**ツール を選択すると、個々のアイテムを、クループ化されていないアイテムと同じように操作できます。

グループ内でアイテムを移動するには、CommandキーまたはCtrlキーを押して、**アイテム**ツール 、**キストコンテンツ**ツール 、または**画像コンテンツ**ツール を使用してアイテムを選択します。

（Windowsのみ）アクティブなグループが、同じ種類のアイテムのみで構成される場合（すべて画像ボックスの場合など）は、それらのアイテムのみを指すタブが**設定**ダイアログボックスに表示されます。アクティブなグループにさまざまな種類のアイテムが含まれる場合、**設定**ダイアログボックスには**グループ**タブのみが表示されます。

（Mac OS Xのみ） メジャーパレットタブのアクティブなフィールドは、現在アクティブなグループに影響します。

アイテム > グループ解除（Command+U/Ctrl+U）を選択して1つのグループを解除するか、**アイテム > すべてグループ解除**を選択して、他のグループが含まれている1つのグループで、すべてのグループを解除します。

グループ化されたアイテムのサイズ変更

グループ内のすべてのアイテムを同時にサイズ変更するには、グループのアイテムハンドルをクリックしてドラッグします。グループのサイズ変更中にCommand+Shift/Ctrl+Shiftキーを押すと、すべてのフレームの幅、ラインの太さ、画像、およびテキストが縦横比を保持してサイズ変更されます。グループのサイズ変更中にCommand/Ctrlキーを押すと、フレームの幅、画像、およびテキストがサイズ変更されますが、縦横比は保持されません。

アイテムの複製

QuarkXPressでは、ボックス、ライン、およびテキストパスのコピーを作成できます。

選択されているアイテムのコピーを1つ作成するには、**アイテム**メニューの**複製**コマンドを使用します。アイテムまたはアイテムのグループをドラッグしながらOption/Altキーを押して、複製を作成することもできます。

アイテムの多数のコピーを均等間隔で配置したデザイン要素を作成する場合は、**高性能連続複製**機能を使用すると便利です。**アイテム**メニューの**高性能連続複製**コマンドを使用してアイテムのコピーを複数作成し、各コピーの間隔を指定します。

別の方法で独自の形状のボックスを作成するには、「*シェイプメーカーXTensionsソフトウェア*」を参照してください。

複数アイテムの配置

アイテム > 複数アイテムの配置サブメニュー、または**単位**パレットの**複数アイテムの配置**タブを使用して、複数選択されたアイテムの相対位置を制御できます。

単位パレットにある8個の間隔オプションと6個の位置揃えオプションから選択でき、選択したアイテム、ページ、または（見開きの印刷レイアウトの）スプレッドを基準にした位置揃えを指定できます。**アイテム > 複数アイテムの配置** サブメニューには、以下で説明する「アイテムを均等配置」および「ページ相対配置」モードが含まれます。**単位**パレットにも「スプレッド相対配置」という3つ目のモードが含まれます。

複数アイテムの配置モードを以下に挙げます。

- **アイテム均等配置モード** では、アクティブなアイテムの移動しない最上部を基準にして、アイテムが配置されます。最上位アイテムは、アイテム上部端の位置により決まります。複数のアイテムに同じ上端がある場合、最も左にあるアイテムを基準にアイテムが間隔設定されます。
- **ページ相対配置モード** では、ページの端（上下左右）を基準にしてアイテムが配置されます。
- **スプレッド相対配置モード** は、見開きを含むアクティブな印刷レイアウトに利用できます。スプレッドのあるレイアウトを開き、左ページのアイテムと右ページの別アイテムを選択しているとします。その後、**単位**パレットの**スプレッド相対配置モード**アイコンをクリックして、**左右センターを基準に均等配置** を選択すると、選択されているアイテムはスプレッドの左端と右端に配置されます。

アイテムの回転

アクティブなアイテムを回転させるには、下記のいずれかを実行します。

- **アイテム**ツール を選択し、角ハンドルにマウスのポインタを置きます。回転ポインタが表示されたら、クリックして回転ポイントを確定し、円周方向にドラッグしてアイテムを回転させます。ドラッグすると、矢印ポインタとアイテムの位置が表示されます。回転時にShiftキーを押すと、移動は45度の角度までに制限されます。
- **（Windowsのみ） アイテム > 設定**（Command+M／Ctrl+M）を選択し、**角度**フィールドに値を入力して、**OK**をクリックします。
- **メジャー**パレット（**ホーム／クラシック**および**複数アイテムの配置**タブ）上の フィールドに値を入力し、Return／Enterキーを押します。

直線を回転させるには、**モード**ドロップダウンメニュー（**設定**ダイアログボックス、または**メジャー**パレット）で、**左端**、**センター**、または**右端**を選択して、**角度**フィールドを表示します。

アイテムの傾斜

アクティブなアイテムを境界ボックス内で傾けるには、下記の操作を行ってください。

- （Windowsのみ） **アイテム > 設定**（Command+M／Ctrl+M）を選択し、**ボックス**タブをクリックします。**傾斜**フィールドに値を入力します。
- **メジャー**パレットの**ホーム／クラシック**タブにある**ボックスの傾斜**フィールドに値を入力します。

正の値でアイテムは右に傾き、負の値でアイテムは左に傾きます。

アイテムのロックおよびロック解除

ロック機能によって、アイテムおよびコンテンツが誤って変更されるのを防ぐことができます。ロック機能を使用して、下記の操作を行うことができます。

- アイテムのサイズや位置の変更、およびアイテムの削除を防ぐには、**アイテム > ロック > 設定位置**を選択します。
- アイテムのコンテンツが編集されるのを防ぐには、**アイテム > ロック > ストーリー**、または**アイテム > ロック > 画像**を選択します。

選択されているアイテムをロック解除するには、**アイテム > ロック**サブメニューで該当するオプションのチェックマークをオフにします。または、Windowsでは**アイテム > 設定**を選択して、フィールドの横にあるロックアイコンをクリックします。

テキスト内のアイテムおよびグループへのアンカーの付加

アイテムまたはグループに**アンカー**を付加して、それらをテキスト中の文字とすることができます。テキスト中のアイテムまたはグループにアンカーを付加するには、**アイテム**ツールを使用してアイテムまたはグループを選択し、**編集 > コピー**（Command+C/Ctrl+C）または**編集 > カット**（Command+X/Ctrl+X）を選択します。次に、**テキストコンテンツ**ツールを選択して、テキスト中のアンカーを付けるアイテムまたはグループの場所にテキスト挿入ポイントを配置して、**編集 > ペースト**（Command+V/Ctrl+V）を選択します。

コールアウトの使用

コールアウト機能を使用すると、付随するコンテンツとして同じページまたはスプレッド上に常に表示されるフローティングボックスを作成できます。たとえば、以下のような機能があります。

- ページごとに参照を伴う画像やテキストを用いた図を作成できます。
- 引用を作成して、ソーステキストがある他のページに自動的に移動するようにできます。
- 段落の左側のスペースに配置され、その段落がヒントや、注記、警告などであることを示す、「フローティング」アイコンを作成できます。

詳細は、以下のトピックを参照してください。

コールアウトの理解

コールアウトとは、付随するコンテンツとして同じページまたはスプレッド上に常に表示されるフローティングボックスです。各コールアウトは、**コールアウトアンカー**と呼ばれるテキストストーリー内の特定の場所に固定されます。コールアウトアンカーは、文字と同様に、テキストとともに移動します。コールアウトアンカーが新しいページやスプレッドに移動すると、コールアウトもコールアウトアンカーとともに移動します。ガイドが表示されると、各コールアウトアンカーと、コールアウトアンカーに関連付けられたコールアウトがある場合は、線でリンクされます。

関連付けられたコールアウトとコールアウトアンカー

レイアウト内のコールアウトの位置は、下記の2つの要素に基づきます。

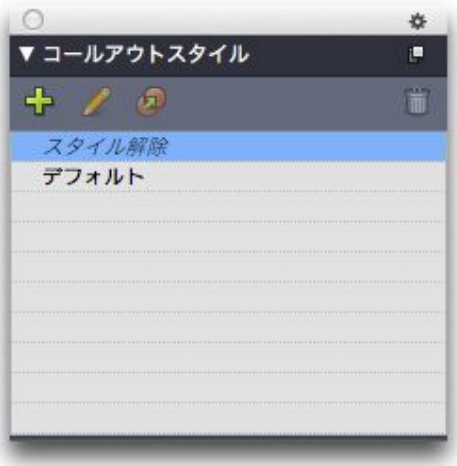
- コールアウトアンカーの場所。コールアウトは、常にそのコールアウトアンカーと同じページまたはスプレッド上にあります。
- コールアウトアンカーの設定。スプレッド、ページ、ボックス、コールアウトアンカーが含まれているセル、コールアウトアンカーが含まれている段落、コールアウトアンカー自体にコールアウトを配置できます。

たとえば、水平方向の位置は必ず外側のマージンに対して寄せられ、垂直方向の位置は必ずコールアウトアンカーを含んでいる段落に揃えるようなコールアウトを設定できます。この設定は、下記のようになります。

水平方向の位置は固定で、垂直方向の位置は可変のコールアウトの設定

➡ コールアウトの設定は、コールアウト自体ではなく、コールアウトアンカーとともに保存することをお勧めします

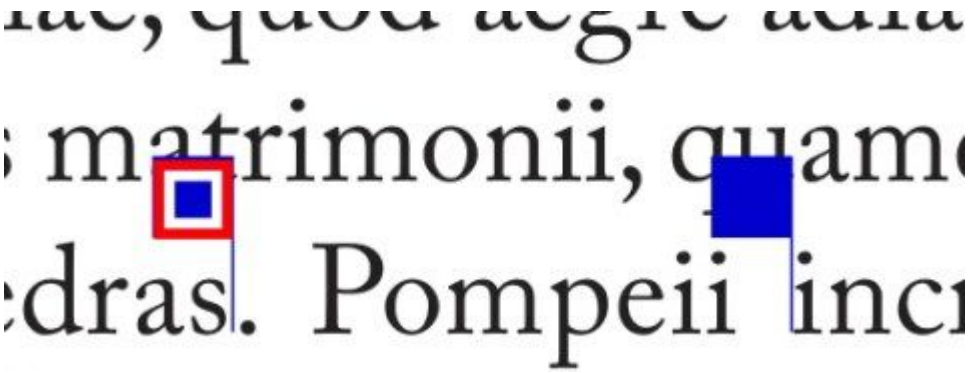
コールアウトアンカーを直接設定するか、**コールアウトスタイル**をコールアウトアンカーに適用することによって、コールアウトの位置を制御できます。コールアウトスタイルとは、パレット内に表示されるコールアウト設定の名前付きパッケージです。コールアウトスタイルは、さまざまなコールアウト設定を繰り返し使用するようなドキュメントで役立ちます。コールアウト設定を毎回作成し直すのではなく、**コールアウトスタイル**パレットでコールアウトアンカーを選択して、最適なコールアウトスタイルをクリックするだけです。



コールアウトスタイルパレット

- コールアウトスタイルは、スタイルシートと同様のものと考えることができます（詳細は、「*スタイルシートの使用*」を参照してください）。スタイルシートや他のリソースと同様に、コールアウトスタイルはジョブジャケットで管理できます（詳細は、「*ジョブジャケット*」を参照してください）。

  コールアウトは選択することも選択しないこともできます。コールアウトを選択すると、赤いアウトラインで表示され、コールアウトスタイルがある場合は、**コールアウトスタイル**パレットで選択されます。



選択されたコールアウトアンカー（左）と、選択されていないコールアウトアンカー（右）

  ガイドをオフにすると、選択したコールアウトアンカーだけが表示されます。

- カット＆ペーストまたはコピー＆ペーストするテキストに、関連付けられたコールアウトのあるコールアウトアンカーが含まれている場合、そのコールアウトはテキストとともにカット＆ペーストまたはコピー＆ペーストされます。

コールアウトの作成

コールアウトを作成するには、下記の手順に従ってください。

1. **テキストコンテンツ**ツール T を選択してから、コールアウトアンカーを付加するテキスト内の位置に、テキストカーソルを配置します。
2. **アイテム > コールアウトアンカー > コールアウトアンカーの挿入**を選択します。コールアウトアンカーが挿入され、自動的に選択されます。

選択されたコールアウトアンカー

3. コールアウトの対象にするアイテムまたはグループを選択します。
4. **アイテム > コールアウトアンカー > コールアウトアンカーと関連付け**を選択します。アイテムまたはグループがコールアウトになり、コールアウトとコールアウトアンカーの間に線が表示されます。

コールアウトと関連付けられたコールアウトアンカー

5 コールアウトアンカーを設定します。コールアウトアンカーを設定するには、下記の2つの方法があります。

- コールアウトスタイルをコールアウトアンカーに適用するには、**コールアウトスタイル**パレット（**ウィンドウ**メニュー）を表示して、コールアウトスタイルの名前をクリックします。または、**アイテム > コールアウトアンカー > コールアウトスタイル > [コールアウトスタイル名]**を選択します。詳細は、「*コールアウトスタイルの使用*」を参照してください。
- コールアウトアンカーの設定を直接編集するには、**アイテム > コールアウトアンカー > コールアウトの設定の編集**を選択します。コールアウトスタイルがコールアウトアンカーに適用されている場合、変更を行うと、コールアウトスタイルの設定は上書きされます。

コールアウトアンカーまたはコールアウトスタイルを設定する方法の詳細は、「*コールアウトアンカーの設定*」を参照してください。

コールアウトアンカーの設定

コールアウトアンカーを設定するプロセスは、コールアウトスタイルを設定する場合や、コールアウトアンカーを直接設定する場合と基本的に同じです。

コールアウトアンカーを設定するには、下記の手順に従ってください。

1 コールアウトアンカーを選択して、**アイテム > コールアウトアンカー > コールアウトの設定の編集**を選択します。**コールアウトの設定の編集**ダイアログボックスが表示されます。

2 コールアウトの水平方向揃えを制御するには、**水平方向のコールアウトの位置基準**領域のコントロールを使用します（**オフセット**フィールドでは、コールアウトを本来の位置から水平方向にどれだけずらすかを調整できます）。

➡ **水平方向のコールアウトの位置基準**ドロップダウンメニューからスプレッドを選択して、水平方向のオフセットを指定すると、左側ページでは、そのオフセットは反転します。たとえば、コールアウトが右側ページで必ず内側のマージンの0.25インチ内側になるように設定できます。そのようなオフセットの場合、コールアウトは右に移動しますが、左側ページでは、オフセットによってコールアウトは左に移動する必要があります。

3 コールアウトの垂直方向揃えを制御するには、**垂直方向のコールアウトの位置基準**領域のコントロールを使用します（**オフセット**フィールドでは、コールアウトを本来の位置から垂直方向にどれだけずらすかを調整できます）。

4 コールアウトの配置を手動で変更できるようにするには、**手動でのコールアウトの配置を許可**をオンにします。オンにした後は、コールアウトを移動させると、**オフセット**フィールドの値は自動的に更新され、コールアウトの新しい位置が反映されます。

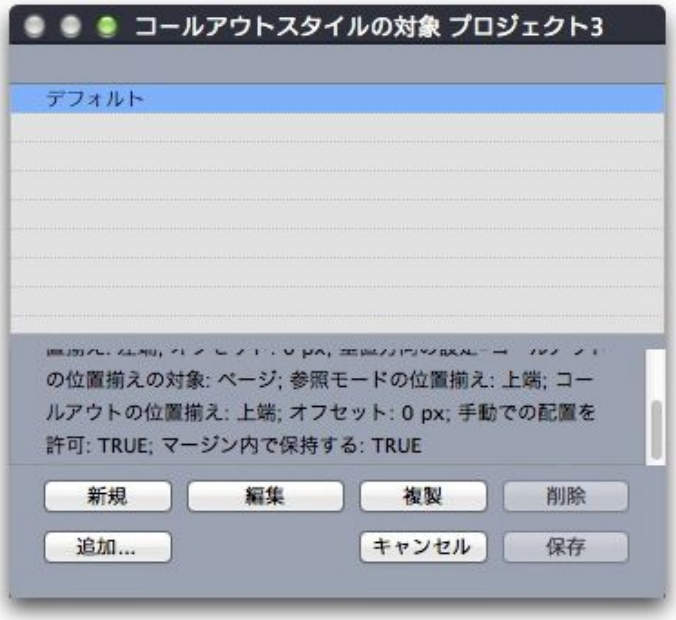
コールアウトの配置を手動で変更できないようにするには、このボックスをオフにしておきます。

5 コールアウトがページのマージンを超えて拡大されないようにするには、**マージン内で保持する**をオンにします。

6 OKをクリックします。

コールアウトスタイルの使用

コールアウトスタイルによって、頻繁に使用する設定を簡単にコールアウトアンカーに適用できます。コールアウトスタイルの作成、編集、複製、または削除を行うには、**コールアウトスタイル**ダイアログボックス（**編集 > コールアウトスタイル**）を使用します。このダイアログボックスを使用して、他のプロジェクトからコールアウトスタイルを追加することもできます。



コールアウトスタイルダイアログボックス

➡ **デフォルト**のコールアウトスタイルは、編集はできますが、削除することはできません。

コールアウトと回り込み

回り込みのあるコールアウトによってそのコールアウトアンカーが移動した場合、エラー状態になる可能性があります。たとえば、コールアウトの回り込みによってコールアウトアンカーが次のページに押し出されると、コールアウトは次のページに移動します。また、コールアウトアンカーが前のページに戻ると、コールアウトは前のページに戻ります。以降も同じ状態になります。

このような状況がQuarkXPressによって検出されると、下記のような事象が発生します。

1 コールアウトが、デフォルトのコールアウトスタイルで定義されている設定に切り替わります。コールアウトアンカーが選択されている場合、**コールアウトスタイル**パレットで、コールアウトスタイルの名前の隣に←アイコンが表示されます。
2 まだエラーが発生する場合は、QuarkXPressによってスタイル解除の設定がコールアウトに適用され、コールアウトが最後に有効だった場所に配置されます。
3 アプリケーションで有効な場所が見つからない場合は、コールアウトに対する回り込みが無効になります。このようにコールアウトの回り込みがQuarkXPressによって無効になった場合、コールアウトに、このビジュアルインジケータも配置されます。

ビジュアルインジケータを表示するには、**表示 > ビジュアルインジケータ**をオンにします。

このようなコールアウトに対して回り込みを有効に戻すには、**設定**ダイアログボックスの**回り込み**タブ（**アイテム**メニュー）、または**メジャー**パレットの**回り込み**タブにあるドロップダウンメニューを使用します。

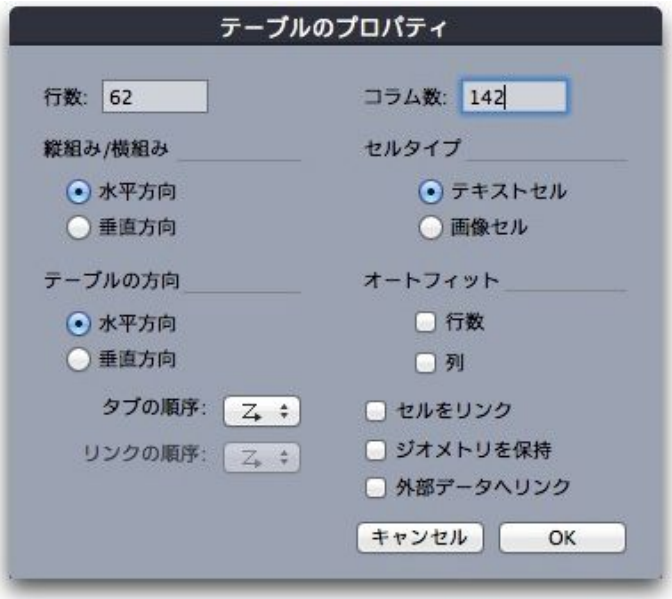
テーブルの使用

QuarkXPressでのテーブルは、テキストボックス、画像ボックス、テキストパス、またはラインのような明確なアイテムです。テーブルを使用する場合、セルは、個々の画像ボックス、テキストボックス、またはコンテンツなしのボックスと同じように考えることができ、他のアイテムを使用するときと同じようにセルを使用できます。行や列などのテーブル自体の要素を使用して作業する場合は、**テーブル**メニューを使用します。

テーブルの描画

テーブルの描画およびそのプロパティの指定については、下記の手順に従ってください。

1 **ツール**パレットから**テーブル**ツールを選択して、最終的に作成するテーブルと同じくらいのサイズの方形を描き、マウスボタンを放します。**テーブルのプロパティ**ダイアログボックスが表示されます。



テーブルのプロパティダイアログボックス

2 **行数**フィールドで行の数を指定し、**列数**フィールドで、列の数を指定します。

3 デフォルトのセルタイプを指定するには、**セルタイプ**領域で、**テキストセル**または**画像セル**をクリックします。後で、必要に応じて、特定のセルを選択してコンテンツのタイプを変換できます。

4 テキストが追加されるのにしたがって拡張するテキストセルを作成する場合は、**オートフィット**エリアのコントロール類を使用します。

5 Control+Tabを押してテーブル内でセルを移動するときの順序を変更したい場合は、**タブの順序**ドロップダウンメニューで別のオプションを選択できます。

6 テキストセルをリンクさせて、取り込んだテキストが（リンクされたテキストボックスのように）特定のセルをフローするようにするには、**セルをリンク**チェックボックスをオンにします。**セルをリンク**チェックボックスをオンにすると、**リンクの順序**ドロップダウンメニューから、テキストセルをリンクする順番を選択できます。

➡ この方法でセルをリンクしない場合は、後で**連結**ツール、または**テーブル**メニューの**テキルトセルをリンク**コマンドを使用してリンクすることができます。または、テキストセルをリンクしない場合でも、Control+Tabを使用して、データの入力または編集中にセル間を移動できます。

7 Excelからデータを取り込む場合は、**外部データへリンク**チェックボックスをオンにします。詳細は、「*Excelテーブルの取り込み*」を参照してください。

8 行を追加または削除してもテーブルを同じサイズのままにしておく場合、**ジオメトリを保持**をオンにします。

9 テーブルのセルの縦組み／横組みを指定するには、**縦組み／横組み**領域で、**水平方向**または**垂直方向**をクリックします。

10 テーブルの方向を指定するには、**テーブルの方向**領域で、**水平方向**または**垂直方向**をクリックします。

11 OKをクリックします。

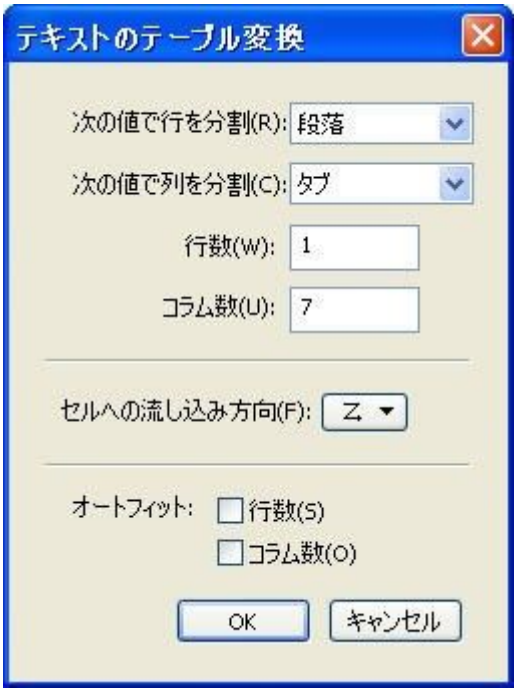
テキストからテーブルへの変換

テキストをテーブルに正常に変換できるかどうかは、テキストの準備自体に依存しています。テキストブロック内では、段落、タブ、スペース、またはカンマ（QuarkXPressで変換可能な文字）を一貫性のある方法で使用することが重要です。これらの文字は、行および列を定義するためにテーブル変換で使用されるからです。ユーザーがワードプロセッサを使用して列を並べる場合は、適切なタブストップを設定するよりも、複数のタブ文字を使用するのが一般的です。変換するテキストブロックにそのようなタブ文字が複数含まれている場合、おそらくそのテキストブロックでは、データ列の間にあるタブの数に一貫性がありません。そのような場合は、タブ文字に一貫性を持たせてから、テキストをテーブルに変換する必要があります。

テキストをテーブルに変換するには、下記の手順に従ってください。

1 **テキストコンテンツ**ツール[T]を使用して、テーブルに変換するすべてのテキストを選択します。

2 **テーブル > テキストのテーブル変換**を選択して、**テキストのテーブル変換**ダイアログボックスを表示します。QuarkXPressは、選択されたテキストに基づいて、**次の値で行を分割**、**次の値で列を分割**、および選択されたテキストでの最悪のシナリオで必要とされる**行**および**列**の値を推測します。



テキストのテーブル変換ダイアログボックス

3 テキストが追加されるのにしたがって拡張するテキストセルを作成する場合は、**オートフィット**エリアのコントロール類を使用します。

4 テーブル内の情報を別の方法で流し込む場合（たとえば、現在の値は降順でも、昇順のほうが効果的な場合）は、流し込み方法を変更できます。**セルへの流し込み方法**ドロップダウンメニュー（デフォルトは、**左から右へ、上から下へ**）からオプションを選択します。

5 **OK**をクリックします。元のテキストボックスから分かれて新しいテーブルが作成されます。

Excelテーブルの取り込み

テーブルのデータは多くの場合、Excelなどのスプレッドシートプログラムで作成されており、このようなテーブルデータは画像の取り込みと同じように取り込むことができます。手法は多少異なりますが、同じ結果が得られます。テーブルデータの取り込みの場合は、QuarkXPressのテーブルをExcelファイルとリンクさせてトラッキングや更新を行います。

.xlsファイルと.xlsxファイルの両方を取り込めます。

テーブルのプロパティダイアログボックスの**外部テーブルへリンク**機能を使用してExcelからテーブルを取り込む場合は、画像の使用状況をトラッキングする場合と同じようにテーブルの使用状況をトラッキングできます。これによって、ソーステーブルが変更された場合には通知を受けることができます。また、レイアウトを出力（印刷、出力ファイルの収集、PDF形式での保存、またはHTMLへの書き出しなど）する際に確実に最新のテーブルデータを使用することができます。テーブルの状況をチェックするには、**補助 > 使用状況**を選択して、**テーブル**タブをクリックします。

テーブルは画像と同じ方法で更新できますが、下記の点に注意する必要があります。

- Excelテーブルを最初に取り込むときに、**テーブルのリンク**ダイアログボックスの**フォーマットを含む**チェックボックスをオンにすると、QuarkXPressでもExcelフォーマットが可能な限り保持されます。後でテーブルを更新すると、以前にQuarkXPressで適用したローカルフォーマットが消去され、Excelファイルのフォーマットで置き換えられます。
- Excelテーブルを最初に取り込むときに、**テーブルのリンク**ダイアログボックスの**フォーマットを含む**チェックボックスをオンにしない場合、テーブルのExcelフォーマットは破棄されます。後でテーブルを更新すると、以前にQuarkXPressでテーブルに適用したローカルフォーマットが保持されます。

QuarkXPressでの、Excelテーブルの取り込みおよびリンクの保持については、下記の手順に従ってください。

1 **テーブル**ツールを使用して、必要な大きさのテーブルをドラッグして描画します。マウスボタンを放すと、**テーブルのプロパティ**ダイアログボックスが表示されます。

2 **外部データへリンク**チェックボックスをオンにします。

3 **OK**をクリックすると、**テーブルのリンク**ダイアログボックスが表示されます。

テーブルのリンクダイアログボックス

4 **参照**をクリックして、取り込むExcelファイルの場所を選択します。

5 ファイルに複数のワークシートが含まれている場合は、**シート**ドロップダウンメニューから取り込むシートを選択します。データの一部のみを取り込みたい場合は、**範囲**フィールドにセルの範囲を指定するか、ドロップダウンメニューから規定の範囲を指定します。

6 **オプション**領域で、取り込む属性のチェックボックスをオンにします。

7 **OK**をクリックします。

数式および参照は取り込まれません。ただし、数式や参照によって得られる値は取り込まれます。挿入された画像は取り込まれません。**自動フィルタ**、または**詳細フィルタ**（**データ > フィルタ**）が適用されたテキストは、印刷用テキストとして取り込まれます。

Excelデータからすばやくテーブルを作成する方法、つまり、更新用にソーステーブルをプロジェクトにリンクさせずにテーブルを作成する方法は、コピーアンドペーストすることです。これを行うには、Excelワークシートで取り込みたいデータを部分的に選択して、選択したデータをコピーします。次に、QuarkXPressに切り替えて、**編集 > ペースト**を選択します。QuarkXPressは、そのデータに適したテーブルを作成して、テキストを挿入します。

Excelチャートの取り込み

Excelで**挿入 > グラフ**または**挿入 > 図** を使用して作成したチャート（グラフ）や画像（図）をQuarkXPressレイアウトで使用する場合、他の画像を取り込むのと同じ方法で、チャート（グラフ）や画像（図）を取り込めます。これには、**画像の取り込み**ダイアログボックス（**ファイル**メニュー）の**チャートを挿入**を使用します。Excelから取り込んだ

チャートおよび画像は、他の画像と同じように、**使用状況**ダイアログボックス（**ユーティリティ**メニュー）の**画像**タブで追跡できます。

テーブルへのテキストと画像の追加

テーブルを操作するときには、テーブルセルをテキストボックスや画像ボックスと同じようなものとして考えることができます。各ボックスには、次のセルにリンクされるか、またはリンクされないテキストや個々の画像、または何もなし（単なるブレンド）などのコンテンツが含まれます。このため、テキストの入力やインポート、または画像のインポートによって、ボックスに追加したコンテンツと同じ量のコンテンツをテーブルにも追加できます。

➡ テキストセルから画像セルへの変換は、テキストボックスを画像ボックスに変換するのと同じ方法で実行できます。変換するすべてのセルを選択してから、**アイテム > コンテンツ > 画像**を選択します。

テーブルテキストの編集

テーブル内のテキストの編集では、セル間のナビゲート方法とフォーマット用テキストの選択方法の2つの重要事項を理解しておく必要があります。テキストを使用する場合は通常、先に**テキストコンテンツ**ツール T を選択する必要があります。

テーブルでのナビゲートは下記の要領で行います。

- テキストの入力や取り込みを行うセルでクリックします。
- Control+Tabを押して、次のセルに移動します。
- Control+Shift+Tabを押して、前のセルに戻ります。
- 矢印キーを押して、セルのテキスト内を移動し、別のセルに移動します。

➡ テキストセルにタブ文字を入力するには、Tabを押します。右インデントタブを入力するには、Option+Tab／Shift+Tabを押します。テーブル内で小数点やその他の文字で数値を揃えるには、各テーブルセルにタブを挿入して、該当する**揃え**タブストップ（**スタイル > タブ**）を指定します。

行と列にあるテキストの選択は下記の要領で行います。

- 1行のすべてのテキストを選択するには、テーブルの右エッジまたは左エッジの外側をクリックします。
- 1例のすべてのテキストを選択するには、テーブルの上エッジまたは下エッジの外側をクリックします。
- 複数の行や列にまたがるすべてのテキストを選択するには、テーブルのエッジに沿ってドラッグします。
- 隣接しない行や列にあるテキストを選択するには、特定の行や列をShiftを押しながらクリックします。
- さまざまな行と列にあるテキストを選択するには、**テーブル**メニューにある**選択**サブメニューのオプションを使用します。オプションには、**セル**、**行**、**奇数行**、**偶数行**、**列**、**奇数列**、**偶数列**、**全てのセル**、**ヘッダー行**、**フッター行**、および**本文のセル**があります。**テーブル**メニューの**選択**コマンドは、1つおきの行や列に異なるフォーマットを適用するのに便利です。

テーブルのセルのリンク

セルがリンクされると、セルに入力、インポート、またはペーストされるテキストが、リンクされたストーリーの最初のテキストセルに入力され、さらにリンクされた後続の各セルにフローされます。リンクされたボックスのテキストと同様に、リンクされたセルのテキストフローを制御するには、次列キャラクタ（数字キーパッドのEnter）を使うと便利です。テーブルのセルを互いにリンクするだけでなく、セルをテキストボックスやテキストパスにリンクしたり、テキストボックスやテキストパスからリンクしたりできます。

- テーブルのすべてのセルをリンクするには、テーブルの作成時に**テーブルのプロパティ**ダイアログボックスの**セルをリンク**をオンにします。
- テーブル内で選択したセルをリンクするには、**テーブル > テキストセルをリンク**を選択します。選択したセルのうち、最初のセル以外はすべて空になっている必要があります。
- テーブルのセルを手動でリンクするには、**連結**ツールを使用します。テキストボックスのリンクと同様に、開始セルをクリックして選択してから、追加したい次のセルをクリックします。既存のリンクをリダイレクトするには、**連結**ツールを使用してShiftキーを押しながらクリックします。
- テーブルのセルをリンク解除するには、**連結解除**ツールを使用して、リンクされたセル間にある矢印の尖っていないほうの端をクリックします。
- テーブルのセルをテキストボックスまたはテキストパスにリンクするには、**連結**ツールを使用します。

テーブル > セルを統合を使用してリンクされたセルを連結する場合、連結されたセルはテキストチェーンから削除され、残りのリンクは影響を受けません。**テーブル > セルを分割**を使用して連結されたセルを分割する場合、リンクは保持され、テキストは指定したリンクの順序に従ってフローします。

テーブルのフォーマット

Windowsでは、QuarkXPressの他のアイテムと同様に、テーブルにもテーブル属性をフォーマットするための**設定**ダイアログボックス（**アイテム**メニュー）があります。**設定**ダイアログボックスで利用できるペインは、選択した項目によって異なります。たとえば、テーブル全体を選択するには**アイテム**ツールを使用します。1つまたは複数のセルを選択するには**テキストコンテンツ**ツールを使用します。または、特定のグリッドラインや画像セル、テキストセルを選択できます。**メジャー**パレットと**カラー**パレットのオプションには選択したテーブルも反映されるため、ある程度の調整ができます。

Mac OS Xでは、コンテンツツールが選択されているときは**メジャー**パレットの**テーブル**タブを使用できます。それ以外の場合、**ホーム**タブでこれらのオプションを使用できます。

グリッドラインのフォーマット

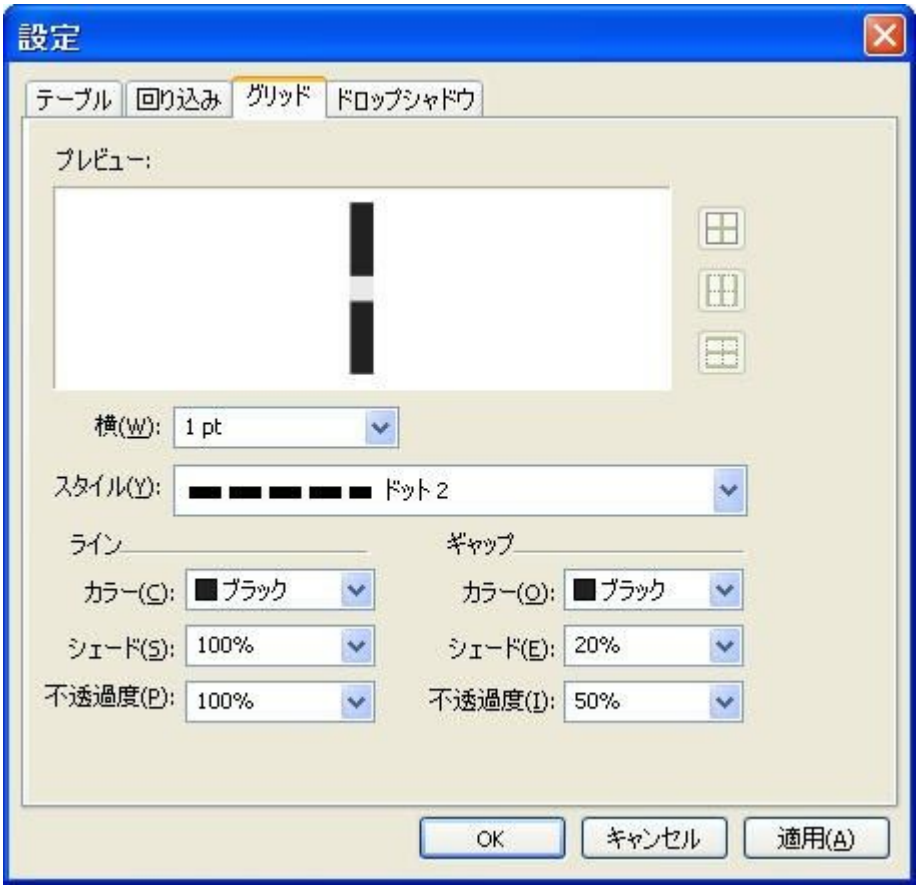
グリッドラインは、各行の間の水平方向の線、および各列の間の垂直方向の線のことです。グリッドラインが選択されているとき、**設定**ダイアログボックス（Windows）の**グ**

リッドタブ、または **メジャー** パレットの**ホーム／クラシック**タブを使用して、ラインのスタイル、幅、カラー、ギャップカラー、シェード、および不透明度を指定できます。

1 グリッドラインをフォーマットするには、まず下記の操作を行います。

- 個々のグリッドラインを選択する場合は、**テキストコンテンツ**ツール T でグリッドラインをクリックします。
- 複数のグリッドラインを選択する場合は、Shiftキーを押しながら各グリッドラインをクリックします。
- テーブル全体についてすべての水平グリッドライン、またはすべての垂直グリッドラインを選択する場合は、**アイテム**ツール でテーブルを選択します。次に、**設定**ダイアログボックスで設定を行います。
- **テーブル**メニューの**選択**サブメニューからオプションを選択します。選択肢は、**水平グリッド**、**垂直グリッド**、**ボーダー**、または**全てのグリッド**です。

2 適切なグリッドラインを選択してから、 Windowsでは**アイテム > 設定**を選択し、**グリッド**タブをクリックします。



設定ダイアログボックスの**グリッド**タブ

3 すべてのグリッドライン、垂直グリッドライン、または水平グリッドラインを選択するには、**プレビュー**領域の右側にあるボタンの1つをクリックします。選択できるボタン

は、上から**全てのグリッドライン**、**水平グリッドライン**、または**垂直グリッドライン**です。

4 **グリッド**タブで値を変更する場合は、**適用**ボタンを押して**プレビュー**領域で確認しながら値を決定できます。

➡ **メジャー**パレットの**ホーム／クラシック**タブには、選択したグリッドラインの書式を指定するためのセクションがあります。

行と列の挿入と削除

テーブルの任意の位置に行と列を挿入できます。行を追加する位置のすぐ上またはすぐ下にあるセルをクリックします。または、列を追加する位置のすぐ右またはすぐ左にあるセルをクリックします。その後、**テーブル > 挿入 > 行**または**テーブル > 挿入 > 列**をクリックします。

削除する行や列を選択するには、テーブルエッジに矢印ポインタをドラッグしてShiftを押しながら矢印ポインタをクリックするか、**テーブル**メニューの**選択**サブメニューにあるコマンド（**奇数行**など）を使用します。その後、**テーブル > 削除 > 行**または**テーブル > 削除 > 列**を選択します。

➡ **テーブル**メニューの**ジオメトリを保持**がオンになっている場合に列や行を削除すると、削除された列や行のスペースを埋めるように既存の列や行のサイズが大きくなります。**ジオメトリを保持**がオフになっている場合、テーブルは必要に応じて小さくなります。

セルの統合

セルを統合するには、**テキストコンテンツ**ツール でShiftを押しながらクリックして、セルを長方形で選択します。**テーブル > セル**の統合を選択します。セルの統合を取り消して周りのテーブルに合わせるには、統合されているセルを選択して**テーブル > セルを分割**を選択します。

➡ テキストや画像を含むリンクされていないセルを統合する場合、選択したセルの左上のセルのコンテンツが統合後のセルに残ります。

テーブル、行、列の手動でのサイズ変更

QuarkXPressの他のアイテムと同様に、行、列、テーブルをドラッグしてサイズを変更できます。行または列のサイズを変更するには、グリッドラインをクリックしてサイズ変更ポインタを表示します。ポインタを上または下にドラッグして行のサイズを変更するか、左右にドラッグして列のサイズを変更します。テーブル全体をサイズ変更するには、サイズ変更ハンドルをドラッグしているときに、下記のいずれかのキーボードコマンドを押します。

テーブルでの効果	Mac OS Xのコマンド	Windowsのコマンド
サイズ変更されるテーブルとコンテンツ	Commandキー	Ctrl
比率を保ちながらサイズ変更されるテーブル（コンテンツではない）	Shiftキー	Shiftキー

テーブルでの効果	Mac OS Xのコマンド	Windowsのコマンド
比率を保ちながらサイズ変更されるテーブルとコンテンツ	Command+Shift	Ctrl+Shift

テキストへのテーブルの変換

データをWordファイルとして保存するなど、テーブルにある現在のデータをエクスポートする必要がある場合、情報をテキストに変換できます。これには、テーブルを選択してから**テーブル > テーブル変換 > テキスト化**を選択します。

テーブルおよびグループの使用

柔軟性を高めるため、**グループ**コマンド（**アイテム**メニュー）を使用してテーブルを他のアイテムにグループ化できます。また、グループ化された一連のテキストボックス、画像ボックス、またはその両方にテーブルのセルを変換することによって、テーブルを分解できます。この方法で、テーブルの要素を分離し、それらの要素をレイアウト内の他の場所で使用できます。この操作を行うには、テーブルを選択し、**テーブル > テーブル変換 > グループ化**を選択します。個々のボックスを操作するには、**アイテム > グループ解除**を選択します。

他の場所でのテーブルの継続

テーブルは、1つのページまたはスプレッド（つまり、デザイン内に割り振られたスペース内）に必ず収まるとは限らないため、レイアウト内の他の場所に自動的に継続するように設定できます。

テーブルを継続するには、下記の2つの方法があります。

- テキストボックス内のテーブルにアンカーを付加する。簡単に使用できるため、多くの場合、テーブルを分割する際の望ましい方法です。
- テーブルを手動で分割する。この方法は、テーブルを水平方向に分割する場合に必要です（たとえば、テーブルの先頭5列を1ページに配置して、残りの3列を別のページに配置するような場合）。

テーブルが継続されるときでも、テーブルの内容について説明する凡例が必要になります。凡例は、自動的に作成および同期されるヘッダー行とフッター行の形で追加できます。また、先頭以降のテーブル部分に対して、特別な「継続」テーブルのヘッダーを作成できます。

テキスト内のテーブルへのアンカーの付加

別の場所でテーブルを継続する1つの方法として、テキストボックス内のテーブルにアンカーを付加します。アンカーテーブルは、他のアンカーオブジェクトと同様に、テキストとともに移動します。また、長すぎてボックス内に入りきらない場合や、アンカーテーブルを含んでいる段落内の唯一のオブジェクトである場合は、自動的に分割されます。

テーブルにアンカーを付加するには、下記の手順に従ってください。

1. テーブルを作成します。
2. **アイテム**ツール でテーブルを選択します。
3. **編集 > カット**を選択します。

4 **テキストコンテンツ**ツール[T]を選択してから、テーブルにする位置にテキスト挿入ポイントを配置します。

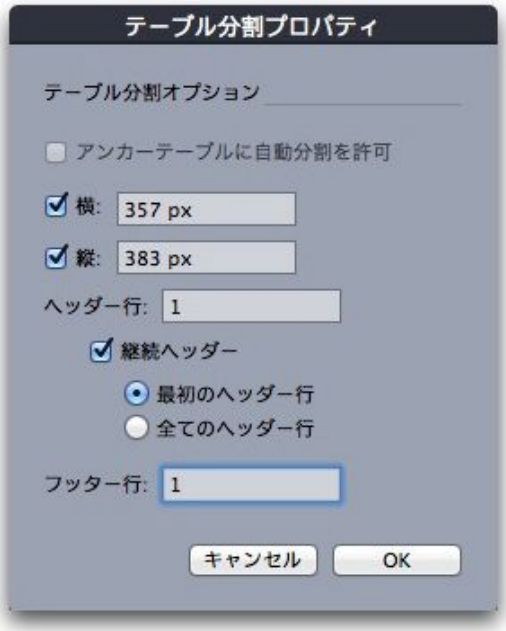
5 **編集 > ペースト**を選択します。

この時点で、テーブルは、テキスト内を移動するように、自動的に分割されます。ただし、ヘッダーを追加していない場合は、ヘッダーはありません。詳細は、「*テーブルへのヘッダー行とフッター行の追加*」を参照してください。

手動でのテーブルの分割

別の場所でテーブルを継続するための1つの方法として、テーブル分割を指定します。テーブル分割は、これを超えるとテーブルが2つの連結されたテーブルに分割される最大サイズです。継続テーブルでは、1つのテーブルで列を挿入するなどの変更が加えられると、その変更がテーブル全体に反映されます。手動でテーブルの継続インスタンスを作成するには、下記の手順に従ってください。

1 **テーブル > テーブル分割**を選択して、**テーブル分割プロパティ**ダイアログを表示します。



テーブル分割プロパティダイアログボックス

2 幅がフィールドの値を超えたときにテーブルを分割するには、**幅**をオンにします。デフォルトでは、テーブルの現在の幅が**幅**フィールドに表示されます。この値を小さくするとテーブルが分割されます。

3 高さがフィールドの値を超えた場合にテーブルを分割するには、**高さ**をオンにします。デフォルトでは、テーブルの現在の高さが**高さ**フィールドに表示されます。この値を小さくするとテーブルが分割されます。

4 **ヘッダー行**フィールドに値を入力することによって、ヘッダー行の数を指定できます（詳細は、「*テーブルへのヘッダー行とフッター行の追加*」を参照してください）。

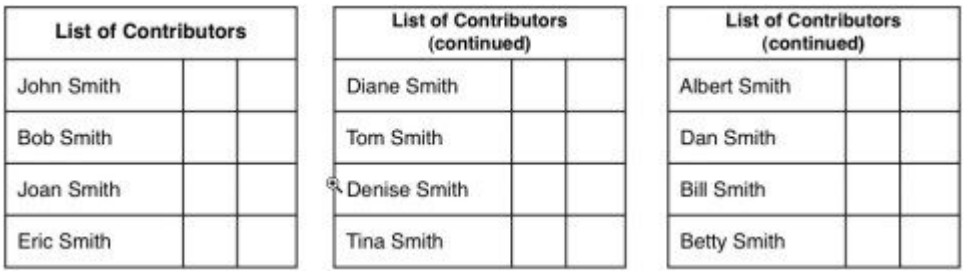
5 テーブルにヘッダーがある場合は、**継続ヘッダー**をオンにして、テーブルの継続インスタンスで表示する、別バージョンのヘッダーを作成できます。たとえば、テーブルの先頭部分のヘッダーが「List of Contributors」である場合、継続ヘッダーは、「List of

Contributors（continued）」のようになります。**最初のヘッダー行**をクリックして、継続ヘッダーを先頭ヘッダー行に限定するか、または**全てのヘッダー行**をクリックして、すべてのヘッダー行から継続ヘッダーを作成します。

継続ヘッダーの内容を設定するには、このダイアログボックスを閉じてから、先頭以降のテーブル部分に移動して、そこでヘッダーの内容を変更します。

6 **フッター行**フィールドに値を入力することによって、フッター行の数を指定できます。

7 OKをクリックします。テーブルの高さまたは幅がテーブル分割の基準を満たすと、テーブルは2つ以上の連結されたテーブルに分割されます。継続テーブルは、レイアウト内の他の場所に移動させることができます。テーブルは、後で行や列のサイズを変更したり追加したりして調整を加えると、分割される可能性があります。



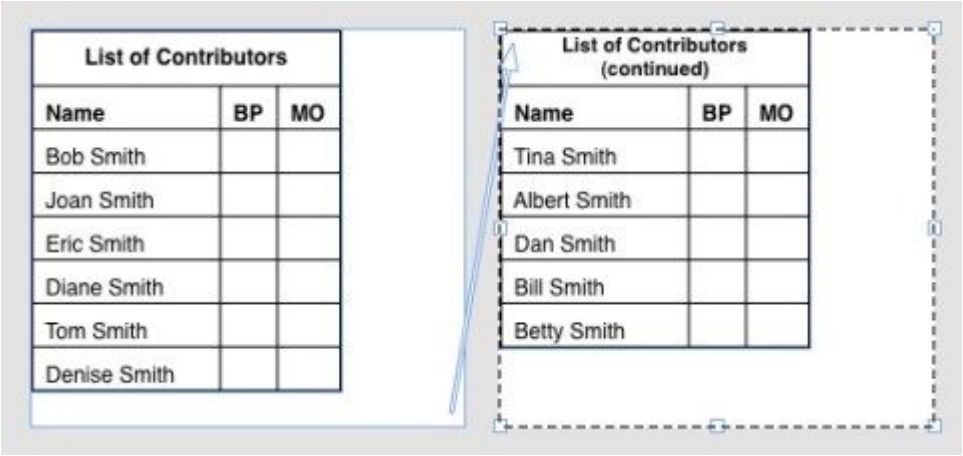
継続ヘッダーで分割されたテーブル

テーブル分割機能は両方向で機能します。つまり、テーブルが大きくなると、必要に応じて追加のサブテーブルを使用してテーブルを継続させ、テーブルが小さくなると、必要に応じてテーブルを再結合します。

継続テーブル間の連結を切断するには、継続テーブルのいずれかのインスタンスを選択し、**テーブル > 各テーブルを作成**を選択します。

テーブルへのヘッダー行とフッター行の追加

ヘッダー行とフッター行は、テーブルの継続インスタンスで自動的に繰り返されるように指定できます。さらに、ヘッダー行とフッター行は自動的に同期されるため、テキストの変更が継続テーブルのすべてのインスタンスに反映されます。



この継続テーブルでは、テーブル見出しと列見出しの先頭2行が、テーブルの継続インスタンスのヘッダー行として繰り返されます。先頭の行が継続ヘッダーです。

テーブルにヘッダー行とフッター行を追加するには、下記の手順に従ってください。

1 分割するテーブルの設定を行います。詳細は、「*手動でのテーブルの分割*」および「*テキスト内のテーブルへのアンカーの付加*」を参照してください。

2 ヘッダー行とフッター行を作成するには、下記の2つの方法があります。

- 自動ヘッダーを作成するには、テーブルの先頭の1行または複数の行を選択して、**テーブル > ヘッダーとして連続複製**を選択します。自動フッターを作成するには、テーブルの最後の1行または複数の行を選択して、**テーブル > フッターとして連続複製**を選択します。
- **テーブル > テーブル分割**を選択します。**テーブル分割オプション**ダイアログボックスが表示されます。ヘッダー行とフッター行の数を設定するには、**ヘッダー行**フィールドと**フッター行**フィールドにそれぞれ値を入力します。

アンカーテーブルの**テーブル分割プロパティ**ダイアログボックス

先頭以降のテーブル部分に表示するセカンダリヘッダーを作成するには、**継続ヘッダー**をオンにします。たとえば、テーブルの先頭部分のヘッダーが「List of Contributors」である場合、継続ヘッダーは、「List of Contributors（continued）」のようになります。**最初のヘッダー行**をクリックして、継続ヘッダーを先頭ヘッダー行に限定するか、または**全てのヘッダー行**をクリックして、すべてのヘッダー行から継続ヘッダーを作成します。

終了したら、**OK**をクリックします。

3 継続ヘッダーまたはフッターの内容を設定するには、先頭以降のテーブル部分に移動して、そこでヘッダーの内容を変更します。

➡ **テーブル**メニューの**ヘッダーとして連続複製**または**フッターとして連続複製**をオフにすれば、ヘッダー行またはフッター行を継続テーブルからいつでも削除できます。

➡ 自動ヘッダー行および自動フッター行を追加すると、残りのテーブル行は"本文のセル"とみなされます。**テーブル**メニューの**選択**サブメニューにあるオプションにより、継続テー

ブルのすべてのインスタンスで**ヘッダー行**、**フッター行**、および**本文のセル**すべてを選択できます。

テキストと組版

テキストは、ほとんどすべての出版物に不可欠なものです。QuarkXPressでは、出版物内でテキストを直接作成して編集できる他、多くの主要なワードプロセッ シングアプリケーションからテキストを取り込むこともできます。標準的なテキストフォーマットと編集の機能に加え、QuarkXPressには、テキストとその属性の検索と置換、スペルチェック、カスタムスペルチェック用辞書、およびプロジェクト全体でテキストフォーマットを変更するためのフォントの使用状況ユーティリティなどの機能が備わっています。

組版とは、意味や雰囲気がよく伝わるようにテキストの見栄えを整える技術で す。QuarkXPress書体、文字飾り、行送り、間隔を含む、組版のあらゆる面を調整することで、テキストの雰囲気を調整できます。

アイコンで示されるテキスト機能は東アジア言語固有の機能で、**QuarkXPress／編集 > 環境設定 > 東アジア**メニューで東アジア言語の環境設定を有効にしている場合のみ利用できます。

テキストの編集

アクティブなテキストボックスにテキストを入力したり取り込むには、**テキストコンテンツ**ツール を使用します。文字は**テキストの挿入ポイント**に入力されます。テキスト挿入ポイントは点滅した線で示されています。**ストーリー**は、テキストボックス内の全テキストです。一連のボックスをつなげると、全ボックスのテキストがすべて1つのストーリーにまとめられます。

マウスを複数回クリックしてテキストを選択することもできます。ダブルクリックすると、テキスト挿入ポイントを含む単語を選択できます。3回クリックすると、テキスト挿入ポイントを含む行を選択できます。4回クリックすると、テキスト挿入ポイントを含む段落全体を選択できます。5回クリックすると、ストーリー全体を選択できます。

ダブルクリックで単語を選択し、それをカットまたはコピーする場合、アプリケーションが単語の文脈を考慮して、新しい場所にその単語をペーストしたときに、必要に応じてスペースを自動的に追加または削除します。この機能をスマートスペースといいます。選択する語句に約物を含める場合、語句と隣接する約物の間をダブルクリックします。

テキストの取り込みおよび書き出し

テキストを取り込むには、下記のいずれかを実行します。

- **テキストコンテンツ**ツール[T]を選択し、テキストの挿入ポイントを指定してから**ファイル > 取り込み**を選択します。**引用符を変換**オプションをオンにすると、二重ハイフンをemダッシュに変換できます。また、フィートやインチの記号をタイプセッターのアポストロフィや引用符に変換できます。**スタイルシートを含む**チェックボックスをオンにすると、Microsoft WordまたはWordPerfectのファイルからスタイルシートを取り込むか、または「XPress Tag」をフォーマットテキストに変換できます。
- テキストファイルをファイルシステムからテキストボックス上にドラッグします
- テキストを別のアプリケーションからテキストボックス上にドラッグします
- Command／Ctrlキーを押しながら、テキストファイルをファイルシステムから画像ボックスまたはコンテンツなしボックスにドラッグします。
- Command/Ctrlキーを押しながら、テキストを別のアプリケーションから画像ボックスまたはコンテンツなしボックスにドラッグします。

すでにテキストまたは画像が入っているボックスにコンテンツをドラッグすると、ドラッグされたコンテンツ用に、QuarkXPressが新しいボックスを作成します。新しいボックスを作成せずにボックスのコンテンツを置き換えるには、ボックスにコンテンツをドラッグしながらCommand／Ctrlキーを押します。ドラッグされたコンテンツに対して常に新しいボックスを作成するには、ドラッグしながらOption／Altキーを押します。

取り込まれたテキストがすべてテキストボックスに収まらない場合、オーバーフロー記号が表示されます。**自動ページ挿入**（**QuarkXPress／編集 > 環境設定 > 印刷レイアウト > 一般**ペイン）が有効な場合、テキストを自動テキストボックスへ取り込んだときに、テキストを含めるため必要に応じてページが挿入されます。

テキストを書き出すには、まずテキストボックスでテキスト挿入ポイントを指定する（ボックス内のテキストをすべて保存する場合）か、または書き出すテキストを選択します。次に**ファイル > テキスト保存**を選択し、**形式**ポップアップメニューからオプションを選択し、名前を入力して場所を指定してから**保存**をクリックします。

➡ .docxフォーマットで書き出すには、**形式**ドロップダウンメニューから**Word文書**を選択します。.docフォーマットで書き出すには、**Word 97/98/2000文書**を選択します。

フィルタの取り込み／書き出し

XTensionsソフトウェアでは、このセクションで説明するものを含むさまざまなフォーマットのテキストを取り込みおよび書き出しできます。

Ichitaro Filter

Ichitaro Filterを使用すると、一太郎バージョン7以降のドキュメントを取り込むことができます。

Word 6–2000 Filter

Word 6–2000 Filterを使用すると、Microsoft Word 97/98/2000（Word 8）および.docxフォーマットを対象に、ドキュメントを取り込みまたは書き出しできます。

➡ 取り込みの問題を回避するには、Microsoft Wordの**高速保存**（**オプション**ダイアログボックスの**保存**タブ）をオフにするか、**名前を付けて保存**コマンドを使用して、取り込まれるWordファイルのコピーを作成します。

Unicodeオプション付きテキストの取り込みおよび書き出し

テキストの取り込みおよび書き出し時にエンコードの種類を指定することもできます。エンコードの種類により、テキストで表示される各字形を表すのに使用するバイトシーケンスが決まります。外国語やHTMLのテキストを使用する場合、適切なエンコードを選択してファイル内の文字をすべてUnicodeに変換できます。オプションの機能は下記のとおりです。

- プレーンテキストまたは「XPress Tag」テキストのファイルを選択した場合、**取り込み**ダイアログボックスに**エンコーディング**ドロップダウンメニューが追加されます。ソフトウェアが選択したテキストファイルのエンコードを決定して適切なエンコードの種類を適用しようとします。ただし、テキストに対して別のオプションを指定することもできます。
- プレーンテキストまたはXPress Tagテキスト形式でテキストを書き出す場合、**テキスト保存**ダイアログボックスに**エンコーディング**ドロップダウンメニューが追加されます。
- **引用符を変換**オプションでは、引き続き直接引用符をタイプセッターの引用符に変換する、あるいは二重ハイフンを全角ダッシュに変換できます。

テキストの検索と置換

検索／置換パレット（**編集**メニュー）を使用すると、標準的な検索および置換の操作を実行できます。さらに、このパレットを使用して下記の操作を実行できます。

- ワイルドカード文字を使用した検索および置換：Command+Shift+?／Ctrl+Shift+?
- スタイルシート、フォント、サイズ、色、入力スタイル（OpenTypeスタイルを含む）など、テキストの書式の検索および置換
- 検索／置換の操作を単一のストーリーまたはレイアウト全体に制限
- 文字の言語に基づいた検索および置換（「*文字言語の適用*」を参照）
- 合字の検索および置換
- 特殊文字の検索および置換（「*特殊文字コード*」を参照）

Option／Altキーを押すと、**検索**ボタンが**最初を検索**に変わります。フォーマットの属性に基づいて検索および置換を実行するには、**属性無視**チェックボックスをオフにします。

テキストの検索および置換を行うには、**検索／置換**ダイアログボックスを使用します。フォーマットの属性に基づいて検索および置換を実行するには、**属性無視**チェックボックスをオフにします。

特殊文字コード

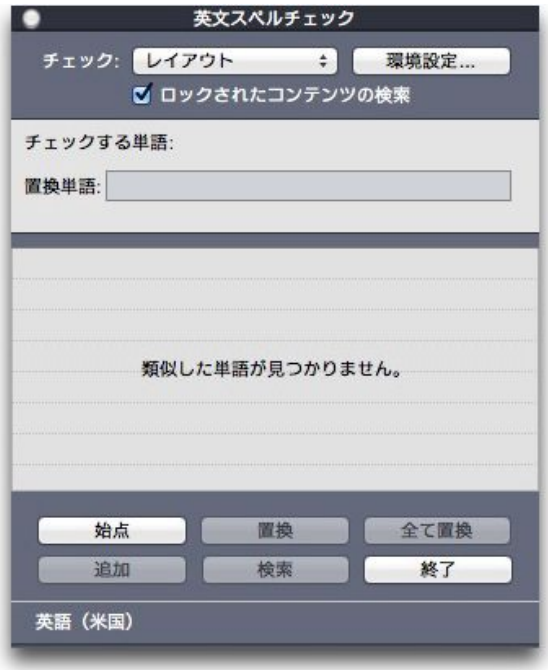
特殊文字コードを使用して、特殊文字の検索および置換ができます。また、条件付きスタイルの作成時にも、これらのコードを使用できます。

コード	文字
Tab	¥t
新規段落	¥p
新規行	¥n
新規列	¥c
新規ボックス	¥b
バックスラッシュ	¥¥
句点スペース	¥.
フレックススペース	¥f
任意ハイフン	¥h

コード	文字
インデント位置	¥i
任意改行	¥d
emスペース	¥m
enスペース	¥e
1/3 emスペース	¥5
1/4 emスペース	¥$
1/6 emスペース	¥^
数字スペース	¥8
極細スペース	¥{
細いスペース	¥[
ゼロ幅スペース	¥z
ゼロ幅スペース（ゼロ幅改行なしスペース）	¥j
条件付きスタイルマーカー（検索／置換のみ）	¥r

スペルチェック

スペルをチェックするには、**補助 > 英文スペルチェック**サブメニューからオプションを選択します。**英文スペルチェック**パレットが表示されます。



英文スペルチェックパレット

スペルチェックの範囲を変更するには、**チェック**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。使用可能なオプションは、**単語**、**選択**、**ストーリーの末尾**、**ストーリー**、または**レイアウト**です。レイアウトを選択した場合、スペルチェックは適用されたマスターページアイテムをスキップし、すべてのレイアウトページ上でスペルチェックをした後でマスターページをチェックします。ロックされたテキストボックス、テキストセル、およびテキストパスでスペルチェックをするには、**ロックされたコンテンツの検索**のチェックボックスをオンにします。スペルチェックは常にテキスト挿入ポイントから開始されます。

スペルチェックを開始するには、**開始**をクリックします。アクティブストーリーの先頭からスペルチェックを開始するには、Shiftキーを押しながら**開始**をクリックします。

間違ったスペルの単語を置換するには、正しいスペルを**置換単語**フィールドに入力するか、正しい単語をリストから選択してから、**置換**をクリックします。間違ったスペルの単語が登場する箇所すべてを置換するには、**全て置換**をクリックします。

置換単語フィールドの単語の候補を検索するには、**検索**をクリックします。

選択された単語をスキップするには、**スキップ**をクリックします。

置換単語フィールドの単語をユーザー辞書に追加するには、**追加**をクリックします。ユーザー辞書が開いていない場合、**追加**をクリックした後でユーザー辞書を選択または作成できます。すべてのチェックする単語をユーザー辞書に追加するには、Option+Shiftキー／Alt+Shiftキーを押しながら**全て追加**をクリックします。

英文スペルチェックパレットを閉じるには、**終了**をクリックします。

➡ **英文スペルチェック**パレット以外の場所をクリックしてからパレットに戻ると、スペルチェックを再開できます。

➡ **英文スペルチェック**パレットでの変更を元に戻すには、**編集 > 「テキストの変更」の取り消し**を選択します。

➡ スペルチェックの環境設定を表示するには、**環境設定**をクリックします。詳細は、「*環境設定 - アプリケーション - スペルチェック*」を参照してください。

ユーザー辞書

スペルチェックで単語にフラグが付かないようにするには、**ユーザー辞書**を作成してそこに単語を追加します。ユーザー辞書を作成するには、下記の操作を行ってください。

- （Windows） **補助 > ユーザー辞書**を選択し、名前を入力して**新規**をクリックします。
- （Mac OS X） **補助 > 英文スペルチェック > ユーザー辞書**を選択し、名前を入力して**新規**をクリックします。

ユーザー辞書に用語を追加するには、下記の操作を行ってください。

- （Windows） **補助 > ユーザー辞書の編集**を選択します。
- （Mac OS X） **補助 > 英文スペルチェック > ユーザー辞書の編集**を選択します。

アーティクルで一度に開くことのできるユーザー辞書は1つだけです。**ユーザー辞書**ダイアログボックスの**閉じる**をクリックするまで、または別のユーザー辞書を開くまでユーザー辞書とアーティクルの関連付けが保持されます。

ユーザー辞書は、独立したファイルとしてハードドライブに保存されます。アーティクルのユーザー辞書のパスはプロジェクトとともに保存されるため、開いているユーザー辞書を別のフォルダまたはボリュームに移動すると、アプリケーションはその辞書を検索できなくなります。

英文スペルチェックパレットを閉じずにユーザー辞書を作成または開くには、保持する単語をハイライトした状態で**追加**をクリックします。

すべてのチェックする単語をユーザー辞書に追加するには、Option+Shiftキー／Alt+Shiftキーを押しながら**全て追加**をクリックします。

単語および文字のカウント

ストーリーで単語数および文字数を表示するには、**補助 > 単語数と文字数**を選択します。

単語数と文字数ダイアログボックス

単語数領域に、ストーリーにあるすべての単語数および固有の単語数が表示されます。

文字数領域に、すべての文字数および特定言語の文字数が表示されます。

➡ **私用領域文字**は、Unicode文字の範囲外で指定された固有の文字で、個人、組織、ISOおよびUnicodeに関するコンソーシアムに参加していないソフトウェアベンダーによって登録されたものです。

文字属性の適用

QuarkXPressでは、テキストフォーマットを文字単位で制御して精度を維持できます。

フォントの適用

選択したテキストにフォントを適用するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- **スタイル > フォント**を選択し、サブメニューからフォントを選択します。
- **（Windowsのみ）**：**文字属性**ダイアログボックス（**スタイル > 文字設定**）を表示し、**フォント**メニューからフォントを選択します。
- **メジャー**パレットの**ホーム／クラシック**または**文字／文字属性**タブにある**フォント**ドロップダウンメニューからフォントを選択します。
- Command+Option+Shift+M／Ctrl+Alt+Shift+Mを押すと、**メジャー**パレットのフォントフィールドに直接移動します。フォント名が認識されるまで最初の方の文字をいくつか入力してReturn／Enterキーを押します。

  フォント一覧の上部に最後に使用したフォントが表示されます。

（Windowsのみ）フォントメニューにフォントのプレビューを表示するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**フォント**ペインにある**フォントメニューに表示**チェックボックスをオンにします。この環境設定を一時的に上書きするには、Shiftキーを押します。

（Mac OS Xのみ）：QuarkXPressでは、フォントのポップアップにすべての書体のプレビューが自動的に表示されます。この環境設定を一時的に上書きするには、Shiftキーを押します。

フォントサイズの選択

2〜3456ポイントのフォントサイズを適用できます。選択したテキストにサイズを適用するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- **スタイル > サイズ**を選択し、サブメニューからポイントサイズを選択します。
- 現在のフォントサイズの横にある矢印をクリックし、ポイントサイズの一覧を表示します。次にその一覧からサイズを選択するか新しいポイントサイズを入力します。
- 下記のキーボードコマンドのいずれかを使用します。

Mac OS X

- 1ポイント拡大：Command+Option+Shift+>
- 1ポイント縮小：Command+Option+Shift+<
- プリセット範囲で拡大：Command+Shift+>
- プリセット範囲で縮小：Command+Shift+<

Windows

- 1ポイント拡大：Ctrl+Alt+Shift+>
- 1ポイント縮小：Ctrl+Alt+Shift+<

- プリセット範囲で拡大：Ctrl+Shift+>
- プリセット範囲で縮小：Ctrl+Shift+<

文字飾りの適用

選択したテキストに文字飾りを適用するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- **スタイル > 文字飾り**を選択し、サブメニューから文字飾りを選択します。
- （Windowsのみ）：**スタイル > 文字設定**を選択し、**文字飾り**領域のチェックボックスをオンにします。
- **メジャー**パレットの**テキストスタイル**ドロップダウンメニューから文字飾りを選択します。**テキストスタイル**ドロップダウンメニューの左にあるアイコンを使用してボールドおよびイタリックの文字飾りを適用します。選択したテキストからすべての文字飾りを削除するには、**テキストスタイル**ドロップダウンメニューから**文字飾りを全て削除**を選択します。

  既存フォントは、「Times New Roman MT Std」フォントファミリー内の「Times New Roman MT Std Bd」など、フォントファミリーに組み込まれた異なるフォントスタイルです。

  シミュレートされたフォントは、ボールド、イタリック、またはボールドイタリックをシミュレートするために変更された標準既存フォントです。フォントファミリーに別個の既存フォントとしてボールドまたはイタリックの形式が含まれていない場合、オペレーティングシステムが、ボールドまたはイタリック形式のフォントを作成する**変換**を実行できるようにボールドおよびイタリックの文字飾りを適用することができます。この結果作成されるのがシミュレートされたフォントです。

  ボールドを標準フォントに適用すると、アプリケーションはまずボールド形式の既存フォントを見つけようと試み、そのフォントが見つからない場合は、ボールド形式のシミュレートされたフォントを作成します。

  シミュレートされたフォントは出力時に問題を発生させる可能性があるため、警告アイコンがレイアウト内のシミュレートされたフォントを特定します。シミュレートされたフォントは、警告アイコンによって、**メジャー**パレット、**字形**パレット、**文字属性**ダイアログボックス、**スタイル > 文字飾り**サブメニュー、**文字スタイルシートの編集**ダイアログボックス、**検索／置換**パレットの**置換**領域、**使用状況**ダイアログボックス（**補助**メニュー）の**フォント**ペイン、**使用状況**ダイアログボックスからアクセス可能な**フォント置換**ダイアログボックス、**ルビ**ダイアログボックスの**文字属性**タブで表示されます。

カラー、シェードおよび不透明度の適用

選択したテキストにカラー、シェードおよび不透明度を適用するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- **スタイル > カラー**、**スタイル > シェード**および**スタイル > 不透明度**のサブメニューからオプションを選択します。
- **カラー**パレット（**ウィンドウ > カラーパレット表示**）を表示し、**シェード**および**不透明度**の値を選択または入力します。
- **メジャー**パレットの**ホーム／クラシック**または**文字属性**タブにあるカラー、シェード、および不透明度のコントロールを使用します。

横比率または縦比率の適用

選択したテキストに横比率または縦比率を適用するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- （Windowsのみ）：**スタイル > 文字の変形**を選択し、**縮小率**ドロップダウンメニューから**水平方向**または**垂直方向**を選択します。フィールドに値を入力し、**OK**をクリックします。
- **メジャー**パレットの**文字／文字属性**タブから**テキスト比率を水平方向に合わせる**または**テキスト比率を垂直方向に合わせる**を選択し、フィールドに値を入力します。
- 下記のキーボードコマンドのいずれかを使用します。横比率と縦比率の両方が適用されているテキストの範囲を選択してキーボードコマンドを使用すると、縦横の比率に応じてテキストが増減します。

➡ 横比率と縦比率の値を同時に適用することはできません。

Mac OS X

- 5%縮小：Command+[
- 5%拡大：Command+]
- 1%縮小：Command+Option+[
- 1%拡大：Command+Option+]

Windows

- 5%縮小：Ctrl+[
- 5%拡大：Ctrl+]
- 1%縮小：Ctrl+Alt+[
- 1%拡大：Ctrl+Alt+]

ベースラインシフトの適用

段落の間隔に影響を与えずにベースラインの上下に文字を移動できます。テキストを上に移動するには正の値を指定し、テキストを下に移動するには負の値を指定します。選択したテキストにベースラインシフトを適用するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- （Windowsのみ）：**スタイル > ベースラインシフト**を選択して**ベースラインシフト**フィールドに値を入力し、**OK**をクリックします。
- **メジャー**パレットの**文字／文字属性**タブの**ベースライン**フィールドに値を入力します。
- 下記のキーボードコマンドのいずれかを使用します。

Mac OS X

- 下に1ポイント：Command+Option+Shift+-
- 上に1ポイント：Command+Option++

Windows

- 下に1ポイント：Ctrl+Alt+Shift+9
- 上に1ポイント：Ctrl+Alt+Shift+0

圏点の適用

文字に圏点を適用するには、文字を選択して**メジャー**パレットの**段落／段落設定**タグのドロップダウンメニューにある**圏点**をクリックし、表示される圏点のオプションのいずれかをクリックします。これらのオプションは、**スタイル > 文字飾り**の下にある**圏点**ドロップダウンメニューからも選択できます。Windowsでは、**文字属性**パレット（**スタイル > 文字設定**）の**圏点**ドロップダウンメニューでもこれらのオプションを選択できます。

半角文字の制御

縦組みの文で、半角文字（欧文文字など）を常に水平にするには、下記の操作を行ってください。

- （Windowsのみ） **文字属性**ダイアログボックス（**スタイル > 文字設定**）の**半角幅文字を常に縦向きにする**チェックボックスをオンにします。
- （Mac OS Xのみ） **メジャー**パレットの**文字設定**タブにある、**半角幅文字を常に縦向きにする**チェックボックスをオンにします。

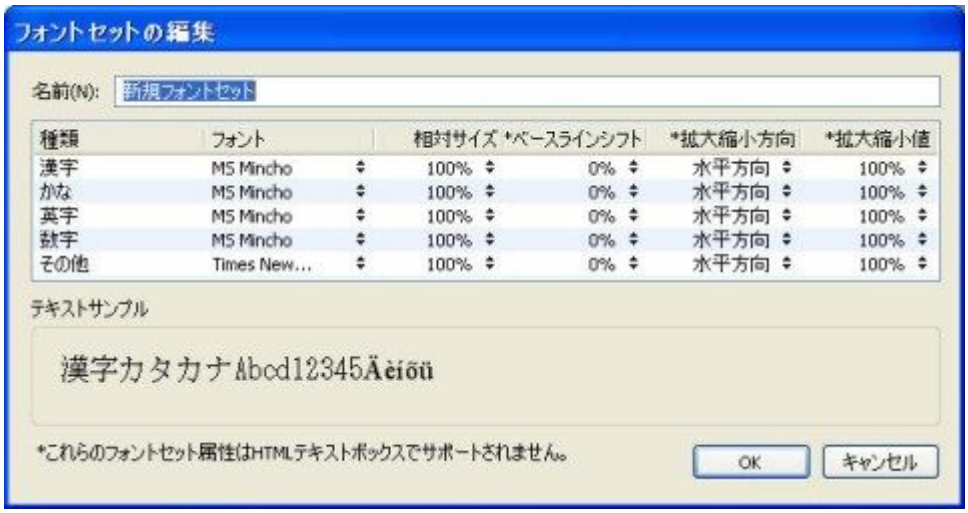
文字のカウント

文字数ダイアログボックス（**補助**メニュー）には、アクティブストーリーで使用されている全角、半角、注音符号、ハングル、かな、および漢字の文字数が表示されます。このダイアログボックスには、選択したストーリーのシンボルおよび私用領域の文字数も表示されます。

フォントセットの使用

アルファベット（欧文）と漢字など、異なるタイプの文字がテキスト中に混在している場合、フォントセットを使用して、それらがどのように表示されるかを制御できます。

フォントセットの編集ダイアログボックス（**編集 > フォントセット**）で、新規フォントセットを作成できます。各フォントセットは、それぞれに独自の設定があるフォントタイプのセットから構成されます。



フォントセットの編集ダイアログボックスを使用して、フォントセットを設定します。

フォントセットの各タイプについて、以下に挙げる項目を制御できます。

- **フォント**：文字グループの各タイプのフォントを指定します。
- **相対サイズ**：レイアウトで使用されているフォントサイズを基準にした、各フォントの相対サイズを指定します。たとえば、レイアウトのフォントサイズが12ポイントであれば、200%の相対設定を指定すると、フォントは24ポイントで表示されます。
- **ベースラインシフト**：ベースラインからフォントを上下にずらす値を指定します。
- **拡大縮小方向**：フォントを水平方向と垂直方向のどちらに拡大縮小するかを指定します。
- **拡大縮小値**：フォントを水平方向または垂直方向に拡大縮小する量を指定します。

ダイアログボックスの**テキストサンプル**領域には、フォントセットに含まれる各フォントを使用したテキストサンプルが表示されます。

テキストにフォントを適用するのと同じ方法で、テキストにフォントセットを適用できます。テキストを選択してから、**メジャー**パレットにあるフォントドロップダウンメニューでフォントセットを選択するだけです。フォントセットは、リストの上位に表示されます。

プロジェクトにフォントセットを追加するには、**フォントセット**ダイアログボックス（**編集 > フォントセット**）にある**追加**ボタンを使用します。

縦組み用グループ化文字の使用

垂直ラインのテキストに欧文文字などの水平文字のグループを含めるには、**縦組み中の文字回転**ダイアログボックス（**スタイル**メニュー）を使用します。縦組み用グループ化文字は常に水平方向に表示され、行末で改行しません。選択した文字を縦組み用にグループにするには、下記の手順に従ってください。

1. **スタイル > 縦組み中の文字回転**をクリックします。
2. **縮小率**ドロップダウンメニューで**垂直方向**または**水平方向**を選択して、**縮小率**ドロップダウンメニューの右隣にあるフィールドにパーセントを入力します。
3. 文字間隔を変更するには、**トラッキング/字送り**フィールドに値を入力します。
4. **OK**をクリックします。

行の文字揃え

文字揃えの機能を使用すると、同じテキスト行にある最も大きい文字に合わせて、小さい文字を複数の方法で揃えることができます。ベースライン、仮想ボディまたは平均字面に基づいて文字を揃えることができます。

仮想ボディは文字の境界ボックスです。**平均字面**（ICF）とは仮想ボディ内部の境界のことで、この境界を超えて字形を拡張することはできません。平均字面は、CJKのテキストフローの字形が互いに触れないようにするために必要です。 下図の赤い部分は、仮想ボディの境界を示しています。黄色い部分は、平均字面を示しています。

赤は仮想ボディを示しています。黄色は平均字面を示しています。

テキストの同じ行に出現する最も大きい文字に対して、次のいずれかの方法で小さい文字を揃えることができます。

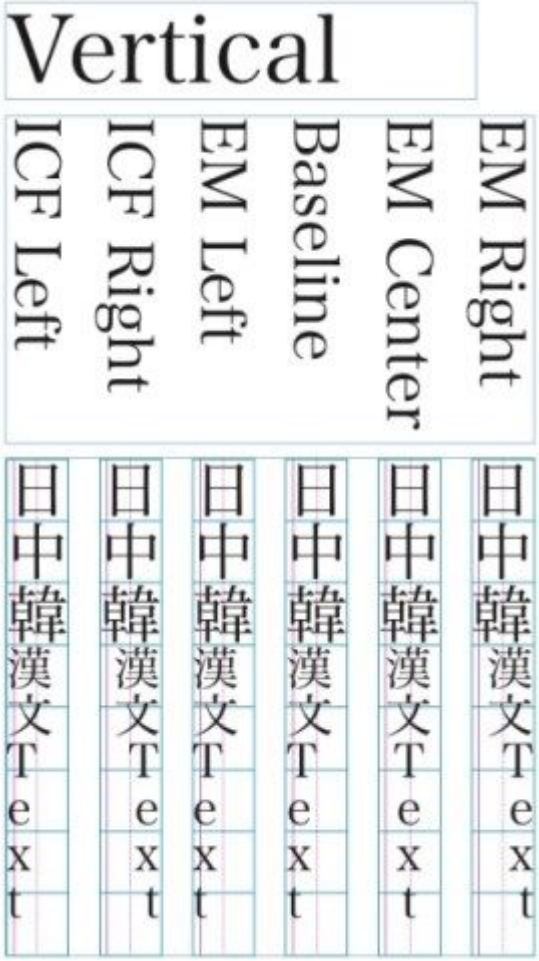
- **スタイル > 文字揃え**サブメニューからオプションを選択します。
- *（Windowsのみ）：* **スタイル > 段落設定**を選択し、**段落設定**タブの下にある**文字配置**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。
- *（Mac OS Xのみ）：* **メジャー**パレットの**段落**タブにある**文字配置**ドロップダウンメニューから、オプションを選択します。

文字配置のオプションは下記のとおりです。

- **平均字面上**：平均字面の上部に合わせて小さい文字を配置します。
- **仮想ボディ上辺**：水平テキストの行内で最も大きい文字の仮想ボディの上端に合わせて、小さい文字を配置します。

- **仮想ボディ下辺**：水平テキストの行内で最も大きい文字の仮想ボディの下端に合わせて、小さい文字を配置します。
- **仮想ボディセンター**：最も大きい文字の仮想ボディの中央に合わせて、小さい文字を配置します。
- **仮想ボディ右辺**：垂直テキストの行内で最も大きい文字の仮想ボディの右端に合わせて、小さい文字を配置します。
- **仮想ボディ左辺**：垂直テキストの行内で最も大きい文字の仮想ボディの左端に合わせて、小さい文字を配置します。
- **欧文ベースライン**：最も大きい文字のベースラインに合わせて、小さい文字を配置します。
- **平均字面下**：平均字面の下部に合わせて小さい文字を配置します。

水平方向の文字揃えの例



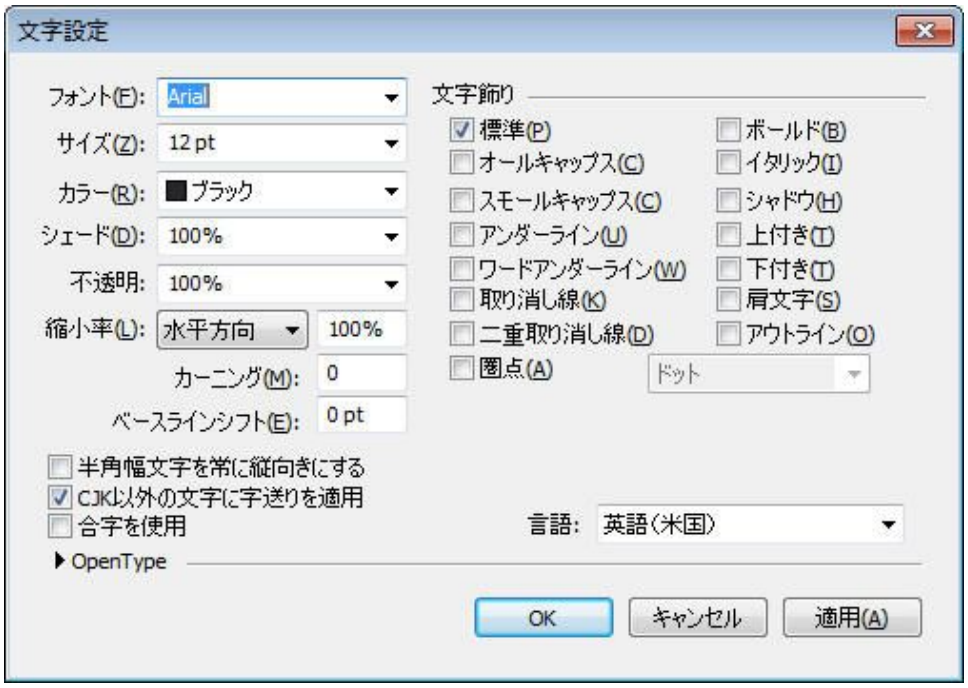
垂直方向の文字揃えの例

複数の文字属性の適用

すべての文字属性を同時に参照し、編集するには、 Windowsでは**文字属性**ダイアログボックス（**スタイル > 文字設定**）、 Mac OS Xでは**メジャー**パレットの**段落**タブを使用します。

空白のフィールドとグレイのチェックボックスは、選択したテキストに複数のスタイルが適用されていることを示しています。たとえば、**フォント**フィールドが空白である場合、選択したテキストに複数のフォントが適用されています。

空白のフィールドに値を入力すると、選択したテキストのすべてにその値が適用されます。グレイのチェックボックスをオンにすると選択したすべてのテキストにスタイルの設定が適用され、オフにすると選択したすべてのテキストからスタイルの設定が削除されます。



文字属性ダイアログボックスを使用してテキストをフォーマットします。

段落設定の適用

段落設定は、段落全体に適用されるフォーマットオプションです。この設定オプションには、行揃え、インデント、行送りおよびタブなどがあります。選択した段落に設定を適用するには、**メジャー**パレットの**段落/段落設定**タブを使用します。Windowsでは、**段落設定**ダイアログボックス（**スタイル > フォーマット**）も使用できます。

適用されている段落フォーマットは、同じボックスまたはテキストチェーンの段落間でコピーできます。適用されている段落フォーマットをコピーするには、変更する段落または段落の範囲を選択し、コピーするフォーマットが適用されている段落の任意の場所をOption／Alt+Shiftキーを押しながらクリックします。この方法で段落フォーマットをコピーすると文字属性は変更されません。

行揃えの制御

段落の行揃えは、左揃え、センター、右揃え、両端揃え、および強制割付という5つのオプションから選択できます。**強制割付**オプションは、左インデントと右インデント間のすべての行を両端揃えする点は**ジャスティファイ**オプションと同じですが、段落の最後に改行がある場合は最終行も両端揃えします。

選択したテキストの行揃えを設定するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- **スタイル > 行揃え**サブメニューから行揃えを選択します。
- **メジャー**パレットの**ホーム**/**クラシック**タブまたは**段落/段落設定**タブにある行揃えアイコンをクリックします。
- 下記のキーボードコマンドのいずれかを使用します。

Mac OS X

- 左揃え：Command+Shift+L
- センター：Command+Shift+C
- 右揃え：Command+Shift+R
- ジャスティファイ：Command+Shift+J
- 強制割付：Command+Option+J

Windows

- 左揃え：Ctrl+Shift+L
- センター：Ctrl+Shift+C
- 右揃え：Ctrl+Shift+R
- 両端揃え：Ctrl+Shift+J
- 強制割付：Ctrl+Alt+Shift+J

インデントの制御

選択した段落にインデントを指定するには、下記のいずれかの操作を行ってください。

- **スタイル > 行揃え**サブメニューを使用します。
- （**Windowsのみ**）：**段落設定**ダイアログボックスを使用します（**スタイル > 段落設定**）。
- **メジャー**パレットの**段落/段落設定**タブを使用します。

インデントを指定するには、下記のフィールドを使用します。

- ボックスまたは列の左端から段落がインデントされる距離を指定するには、**左インデント**フィールドに値を入力します。
- **左インデント**の値から段落の最初の行をインデントする距離を指定するには、**第1行**フィールドに値を入力します。**第1行**のインデントは、段落に適用されている**左インデント**に関連します。たとえば、**左インデント**を0.5"、**第1行**のインデントを0.5"に設定すると、最初の行はテキストボックスの左端から1"離れた位置から開始します。
- ボックスまたは列の右端から段落がインデントされる距離を指定するには、**右インデント**フィールドに値を入力します。**OK**をクリックします。
- ぶら下がりインデントを作成するには、**左インデント**に正の値、**第1行**のインデントに負の値を指定するか、列のルーラーのインデントアイコンをドラッグします。**Windows**では、**段落設定**ダイアログボックス（**スタイル > 段落設定**）の**段落設定**タブにある**適用**ボタンを使用して、ぶら下がりインデントを試すことができます。

段落設定としてぶら下がりインデントを設定する以外に、特殊文字を入力してその位置から次の段落の改行にあるすべてのテキスト行をインデントすることもできます。Mac OS Xの場合はCommand+¥、Windowsの場合はCtrl+¥を押して、特殊なインデント位置文字を入力します。インデント位置文字は不可視文字です。不可視文字を表示するには、**表示 > 特殊キャラクタ**（Command+I／Ctrl+I）を選択します。

行揃えとインデントはいずれも、Windowsの**設定**ダイアログボックス（**アイテム**メニュー）の**テキスト**タブで指定された**テキストとの間隔**フィールド、または**メジャー**パレットの**テキストボックス**タブの**テキストとの間隔**フィールドの値に基づいて測られます。**テキストとの間隔**の値は、テキストボックス内部の列ではなくテキストボックスの上部、下部、左部、右部に影響します。

行送りの制御

行送りは行間隔の測定単位で、段落のテキストベースラインの間隔を表しています。行送りの値を指定すると、選択した段落のすべての行に適用されます。行送りは、下記の3つの方法で指定できます。

- **絶対行送り**では、行の文字サイズに関係なくテキストのベースラインの間隔を特定の値に設定します。たとえば、段落に対して絶対行送りの値を16ポイントに指定すると、すべてのベースラインの間隔が16ポイントになります。絶対行送りを指定する場合、垂直方向におけるテキストベースライン間の合計距離を示す値を使用します。
- **増幅値による自動行送り**では、**行送り**フィールドで指定した絶対値と、自動行送りの基本値を組み合わせます。行送りの増幅値の前には、必ずプラス記号（+）またはマイナス記号（−）を付ける必要があります。
- **自動行送り**では、**行送りの自動設定**フィールド（**QuarkXPress／編集 > 環境設定 > 段落**ペイン）の値がアプリケーションで使用され、パーセント単位または増幅値単位での自動行送りが発生するかどうかが決定されます。デフォルトのパーセント単位では、自動行送りの基本値に、上の行で最も大きなフォントサイズの一定パーセントを加えて、上の行と自動行送りされる行との間で、行送りの合計値が算出されます。自動行送りのパーセント単位のデフォルト値は20%です。自動行送りを指定するには、**行送り**フィールドに**自動**を入力します。

選択した段落の行揃えを設定するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- **（Windowsのみ）**：**スタイル > 行送り**を選択して、絶対行送りの値、またはプラス記号やマイナス記号が前に付いた行送りの増幅値を入力します。または**行送り**フィールドに**自動**を入力します。
- **メジャー**パレットの**行送り**コントロールを使用します。
- 下記のキーボードコマンドのいずれかを使用します。

Mac OS X

- 1ポイント縮小：Command+Shift+:
- 0.1ポイント縮小：Command+Option+Shift+:
- 1ポイント拡大：Command+Shift+"
- 0.1ポイント拡大：Command+Option+Shift+"

Windows

- 1ポイント縮小：Ctrl+Shift+:
- 0.1ポイント縮小：Ctrl+Alt+Shift+:
- 1ポイント拡大：Ctrl+Shift+"
- 0.1ポイント拡大：Ctrl+Alt+Shift+"

前段落との間隔および次段落との間隔の制御

前段落との間隔および**次段落との間隔**のコントロールを使用して、選択した段落の前後の間隔を指定できます。

選択した段落の前後の間隔を設定するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- （Windowsのみ）：**スタイル > 段落設定**を選択し、**前段落との間隔**または**次段落との間隔**フィールドに値を入力します。
- **メジャー**パレットの**段落/段落設定**タブにある**前段落との間隔**および**次段落との間隔**コントロールを使用します。

タブの設定

以下の6種類のタブストップから選択できます。

- **左揃え**では、タブストップでテキストが左揃えになります。
- **センター**では、タブストップ上でテキストが中央揃えになります。
- **右揃え**では、タブストップ上でテキストが右揃えになります。
- **デシマル**では、小数点（ピリオド）上でテキストが揃います。
- **カンマ**では、最初のカンマ上でテキストが揃います。
- **特定キャラクタ**では、指定した任意の文字上でテキストが揃います。このタブを選択すると、**特定キャラクタ**フィールドが表示されます。既存の入力内容を選択して、揃えの基準とする文字を入力します。

➡ カスタムタブを設定しない場合、デフォルトの左揃えタブがそれぞれ0.5インチに設定されます。

選択した段落にタブを指定するには、下記のいずれかの操作を行ってください。

- （Windowsのみ）：**段落設定**ダイアログボックス（**スタイル > タブ**）の**タブ**タブにあるコントロールを使用します。
- **メジャー**パレットの**タブ**タブのコントロールを使用します。**メジャー**パレットを使用すると画面スペースを節約できるため、タブ設定を変更しながら、効果の更新を継続的に確認できます。ルーラーにタブアイコンをドラッグしたり、テキストにタブアイコンを直接ドラッグできます。ルーラーやテキストにタブをドラッグすると、タブの配置先を決めるための垂直線が画面に表示されます。

ウィドウ行およびオーファン行の制御

ウィドウおよびオーファンは、組版上好ましくない種類の行です。従来からウィドウは、列の上部にくる段落の最終行と定義されています。オーファンは、列の下部にくる段落の最初の行と定義されています。

ウィドウ／オーファンの制限機能を使用して、段落のすべての行が列内またはページ内に収まらない場合にすべての段落を次の列またはページの上部に移動させて、段落が分割しないようにできます。また、段落が分割される場合に列やボックスの下部に残す行数、および次の列やボックスの上部に移動する行数を指定できます。**次段落との分割不可**機能を使用して、特定の段落と次の段落が分割しないようにできます。この機能を使用すると、サブ見出しと次の段落が分割されないようにしたり、論理的に分割できないその他のテキスト行を分割しないようにできます。

一般的に、**次段落との分割不可**は見出しおよびサブ見出しのスタイルシートに、**ウィドウ／オーファンの制限**（通常**始点**および**最後**パラメータを使用）は本文テキストのスタイルシートに指定されます。

選択された段落に対して**ウィドウ／オーファンの制限**および**次段落との分割不可**機能をオンまたはオフにするには、下記の操作を行ってください。

- （Windowsのみ）：**スタイル > フォーマット**を選択して、**段落設定**ダイアログボックスの**フォーマット**タブを表示し、**ウィドウ／オーファンの制限**および**次段落との分割不可**チェックボックスをオンまたはオフにします。
- （Mac OS Xのみ）：**メジャー**パレットの**段落**タブを使用します。

禁則文字セットの使用

禁則文字セットとは、行の先頭または末尾に置けない文字と、途中に改行を入れることができない文字です。**禁則文字セット**ダイアログボックス（**編集 > 禁則文字セット**）には、**日本語（強い）**、**日本語（弱い）**、**韓国語（標準）**、**簡体中文（標準）**、および**繁体字中国語（標準）**用のデフォルト禁則文字セットが含まれています。

カスタム禁則文字セットを作成するには、下記の手順に従ってください。

1. **編集 > 禁則文字セット**を選択します。**禁則文字セット**ダイアログボックスが表示されます。
2. **新規**をクリックします。
3. **名前**フィールドに名前を入力します。
4. **行頭禁止文字の指定:**、**行末禁止文字の指定:**、および**禁則文字の指定:**の各フィールドに文字を入力します。
5. **OK**をクリックします。
6. **保存**をクリックします。

段落に禁則文字セットを適用するには、**H&Jの編集**ダイアログボックス（**編集 > H&J > 編集**）の**禁則文字設定**ドロップダウンメニューから禁則文字セットを選択します。

カーニングの制御

カーニングは、文字ペアの間隔を調整します。カーニングすると、特定の文字ペアの形がよくなり見栄えが向上します。自動カーニングを使用できます。また、手動カーニングのコントロールを使用して、文字間のカーニングを追加することもできます。

カーニング値は、全角スペースの1／200単位で表されます。正のカーニング値では文字間隔が増加し、負の値では文字間隔が減少します。

手動カーニング

2文字間のカーニングを適用するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- （Windowsのみ）：**スタイル > カーニング値**を選択してから**カーニング**フィールドに値を入力します。**OK**をクリックします。

- **メジャー**パレットの**カーニング**コントロールを使用します。
- 下記のキーボードコマンドのいずれかを使用します。

Mac OS X

- 1/20em下げる：Command+Shift+{
- 1/20em上げる：Command+Shift+}
- 1/200em下げる：Command+Option+Shift+{
- 1/200em上げる：Command+Option+Shift+}

Windows

- 1/20em下げる：Ctrl+Shift+{
- 1/20em上げる：Ctrl+Shift+}
- 1/200em下げる：Ctrl+Alt+Shift+{
- 1/200em上げる：Ctrl+Alt+Shift+}

自動カーニング

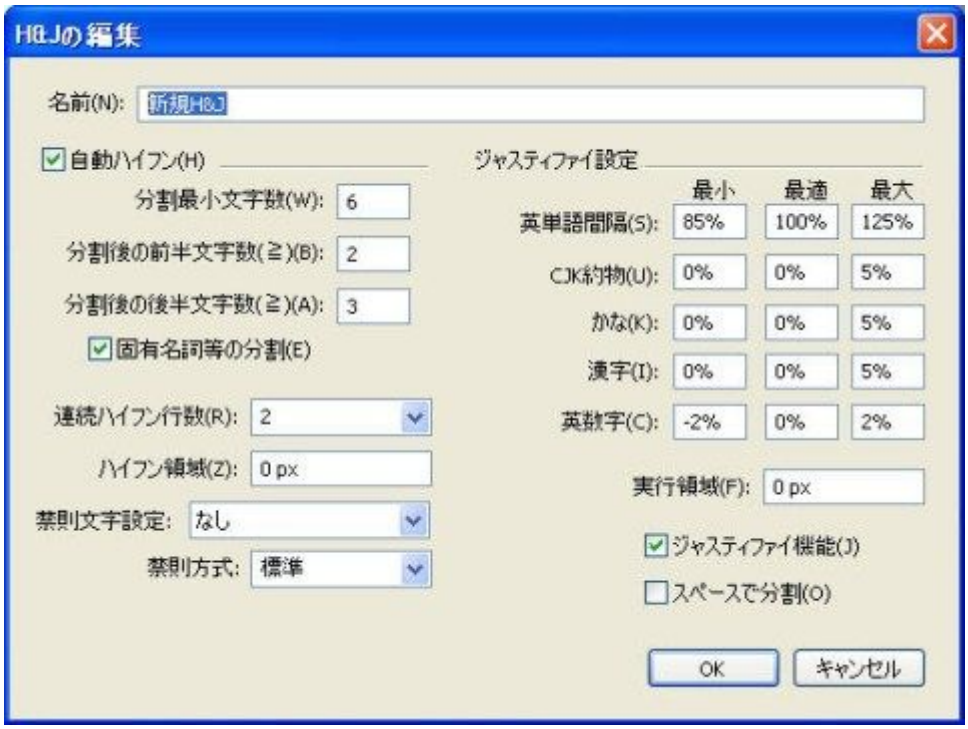
一定ポイント以上のテキストを自動カーニングするには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**文字設定**ペインを表示し、**自動カーニング(>)**をオンにしてからフィールドに値を入力します。

QuarkXPressでは、フォントに組み込まれたカーニング情報（フォントの**カーニングテーブル**）を使用します。カーニングテーブルには、さまざまな文字ペア（例：「**Ta**」）が含まれています。またこのテーブルにはペアごとの関連するカーニング値も含まれています。フォントのカーニングテーブルは変更できませんが、**カーニングエディタ**ダイアログボックス（**補助**メニュー）を使用して、任意のフォントに対してカスタムのカーニングテーブルを作成することは可能です。このダイアログボックスを使用して、カーニングペアで水平方向（**文字組方向**）と垂直方向（**交差方向**）のスペースをカスタマイズできます。

QuarkXPress独自のカーニングテーブルを作成することもできます。

ハイフネーション＆ジャスティフィケーションの制御

ハイフネーション＆ジャスティフィケーション（H＆J）仕様は、テキスト行のマージンを越える単語に対するハイフネーションと単語および文字の間隔を調整するための設定の名前付きパッケージです。H＆Jは、個々の段落に適用したり、段落スタイルシートに関連付けることができます。**H&Jの編集**ダイアログボックス（**編集 > H&J > 新規**）を使用してこれらの設定を制御します。



H&Jの編集ダイアログボックス

- **自動ハイフン**：自動的にハイフネーションを行うかどうかを指定します。
- **分割最小文字数**：ハイフネーションを行うために必要な、1単語当たりの最小文字数を指定します。
- **分割後の前半文字数(≧)**：ハイフンの前にくる最小文字数を指定します。
- **分割後の後半文字数(≧)**：ハイフンの後にくる最小文字数を指定します。
- **固有名詞等の分割**：固有名詞等の単語に対してハイフネーションを行うかどうかを指定します。
- **連続ハイフン行数**：ハイフン付きの単語が行末に連続できる数を指定します。
- **ハイフン領域**：ハイフネーションを行うことのできる右インデント前の領域を指定します。たとえば、ハイフン領域を0.05インチに設定すると、その単語の適当なハイフネーションポイントが右インデントから0.05インチ以内にあった場合、ハイフネーションが行われます。ハイフネーションが行われた単語の前の単語はハイフン領域内に入りません。
- **ハイフン領域**：欧文文字を含む単語に対して、ハイフネーションを行うことのできる右インデント前の領域を指定します。たとえば、ハイフン領域を0.05インチに設定すると、その単語の適当なハイフネーションポイントが右インデントから0.05インチ以内にあった場合、ハイフネーションが行われます。ハイフネーションが行われた単語の前の単語はハイフン領域内に入りません。
- **ジャスティファイ設定**：単語間隔および文字間隔の設定方法を指定します。
- **スペース**：両端揃えまたは強制割付が適用された段落において、単語間の最小および最大のスペースを指定します。すべての段落の単語間について、揃え方にかかわらず最善のスペース量を指定します。

- **文字**：両端揃えまたは強制割付が適用された段落において、文字間の最小および最大のスペースを指定します。すべての段落の文字間について、揃え方にかかわらず最善のスペース量を指定します。
- **禁則文字セット**：ドロップダウンメニューから禁則文字セットを選択します。詳細は、「*禁則文字セットの使用*」を参照してください。
- **禁則方式**：ドロップダウンメニューから禁則方式を選択します。両端揃えされたテキスト行の最後の文字が行末禁則文字である場合、**追い込み**では、**最小**フィールドの値に基づいて、次の行の最初の文字が現在の行に引き上げられます。**追い出し**では、**最大**フィールドの値に基づいて、文字が次の行へ押し出されます。詳細は、「*禁則文字セットの使用*」を参照してください。
- **英単語間隔**：両端揃えされた段落の、欧文文字を含む単語の間隔を指定します。行揃えに関係なく、すべての段落の欧文文字を含む単語の最適な間隔を指定します。
- **CJK約物**：両端揃えされた段落のCJK約物文字について、間隔の最小値および最大値を指定します。行揃えに関係なく、すべての段落のCJK約物文字の最適な間隔を指定します。
- **かな／ハングル／注音**：両端揃えされた段落のかな文字、ハングル文字、または注音文字の間隔の最小値および最大値を指定します。行揃えに関係なく、すべての段落のかな文字、ハングル文字、または注音文字の最適な間隔を指定します。
- **漢字**：両端揃えされた段落の漢字文字の間隔の最小値および最大値を指定します。行揃えに関係なく、すべての段落の漢字文字の最適な間隔を指定します。
- **英数字**：両端揃えされた段落の欧文文字について、間隔の最小値および最大値を指定します。行揃えに関係なく、すべての段落の欧文文字の最適な間隔を指定します。
- **実行領域**：右インデント前の領域を指定します。両端揃えされた段落の最終行では、最後の単語がこの領域内でなければ、その行の両端揃えは行われません。たとえば、1"を入力すると、ハイフネーション＆ジャスティフィケーション仕様が適用される段落の最終行は、行の最後の単語が右インデントから1"以内にくるまで両端揃えされません。
- **ジャスティファイ機能**：両端揃えされた段落の行に1つだけ単語が存在する場合、その単語を左インデントから右インデントまで広げるかどうかを指定します。このボックスがオフの場合、行の1単語は左揃えになります。
- **スペースで分割**：中国語、日本語、および韓国語のテキストをスペースで分割するかどうかを指定します。

例外ハイフンの指定

QuarkXPressでは、**例外ハイフン**に関する言語固有のリストを作成できます。**例外ハイフン**ダイアログボックス（**補助**メニュー）には、例外ハイフンの適用先とする言語を指定できる**言語**ドロップダウンメニューがあります。段落の自動ハイフン時には、該当する段落の言語向け例外ハイフンリストがチェックされます。

標準ハイフンダイアログボックス（**補助**メニュー）には、段落に指定されているハイフネーション設定と、段落の言語向け例外ハイフンを基に、単語の推奨ハイフネーションが表示されます。

任意ハイフンの使用

テキストの自動ハイフンに加え、手動、つまり任意のハイフンを挿入（Command+-（ハイフン）／Ctrl+-（ハイフン））することで、改行とテキストフローを制御できます。任意ハイフンが挿入されるのは、単語が行末で分断される場合のみです。

トラッキングの制御

トラッキングでは、選択した文字や単語の間隔を調整して組版および割付の効果を得ることができます。トラッキング値は、全角スペースの1／200単位で表されます。正のトラッキング値では各文字の右側の間隔が増加し、負の値ではその間隔が減少します。

一般的に、トラッキングは割付に使用されます。ただし、過剰なトラッキングはデザインや読みやすさを損なう恐れがあります。割付のためにトラッキングを使用する場合、下記のガイドラインを考慮してください。

- 1行や1単語ではなく段落全体をトラッキングします。
- たとえば+3〜−3など、トラッキングのガイドラインを作成します。
- 垂直方向で隣接する段落に同様のトラッキングを適用します。

これらは一般的なルールです。適切なトラッキング値は、デザイン、フォント、列幅、および他の要素によって異なります。

手動トラッキング

選択したテキストにトラッキングを適用するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- （Windowsのみ）：**スタイル > トラッキング**を選択し、**トラッキング値**フィールドに値を入力して、**OK**をクリックします。
- **メジャー**パレットの**トラッキング値**コントロールを使用します。
- 下記のキーボードコマンドのいずれかを使用します。

Mac OS X

- 1/20em下げる：Command+Shift+{
- 1/20em上げる：Command+Shift+}
- 1/200em下げる：Command+Option+Shift+{
- 1/200em上げる：Command+Option+Shift+}

Windows

- 1/20em下げる：Ctrl+Shift+{
- 1/20em上げる：Ctrl+Shift+}
- 1/200em下げる：Ctrl+Alt+Shift+{
- 1/200em上げる：Ctrl+Alt+Shift+}

トラッキングテーブルの編集

アプリケーションでは、フォントに組み込まれたトラッキング情報（フォントの**トラッキングテーブル**）を使用します。フォントのトラッキングテーブルは変更できませんが、**トラッキングの編集**ダイアログボックス（**補助**メニュー）を使用して、任意のフォントに対してカスタムのトラッキングテーブルを作成することは可能です。

字送り

字送りで、水平テキストにある連続する文字境界ボックスの左端間の距離、または垂直テキストにある連続する文字境界ボックスの上端間の距離を修正できます。字送りを適用するには、テキストを選択してから、**メジャー**パレットにある**ホーム／クラシック**または**文字／文字属性**タブの**トラッキング値**フィールドに、2mmや8qなどの明示的な値を入力します。Windowsでは、別の方法として、**スタイル > トラッキング／字送り**を選択して、**文字属性**ダイアログボックスの**トラッキング値**フィールドに、2mmや8qなどの明示的な値を入力することもできます。

トラッキング値フィールドに数値を入力しても測定単位を指定しないと、字送りの代わりにトラッキングが適用されます。字送りを適用するには、測定単位を指定します。

中国語、日本語、韓国語ではない文字に字送りを適用できます。**文字属性**ダイアログボックス（**Windowsでは編集 > 文字、Mac OS Xではメジャーパレットの文字タブ**）で、**CJK以外の文字に字送りを適用**チェックボックスをオンにします。

スタイルシートの使用

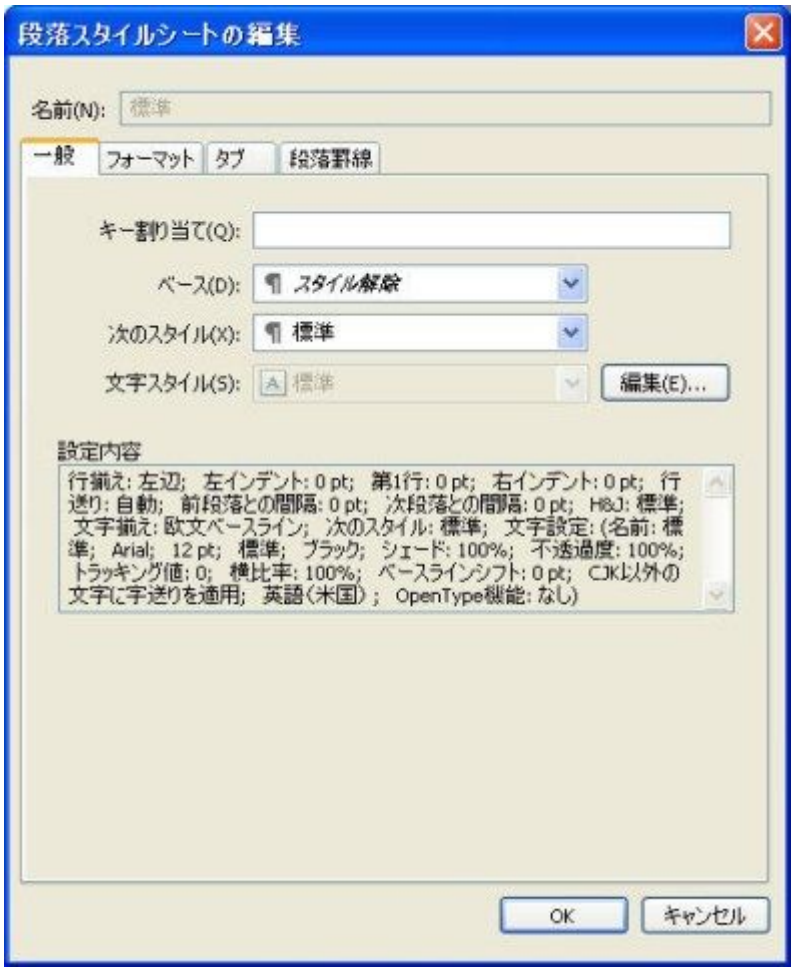
スタイルシートとは、1回の操作で選択した段落と文字に適用できる、段落属性、文字属性、またはその両者から構成されるグループです。未フォーマットテキストを見出し、サブ見出し、キャプション、または本文などのスタイルに変換するには、スタイルシートを使用します。スタイルシートを使用して1回の操作で多数の文字属性および段落属性を適用すると、レイアウト時間を節約でき、組版の整合性を保つことができます。

段落スタイルシートの作成および編集

段落スタイルシートは、段落および文字の属性に関する名前付きのパッケージです。テキストに段落スタイルシートを適用するだけで、段落スタイルシートのフォーマット属性をすべてテキストに適用できます。段落スタイルシートの作成、編集、複製、または削除を行うには、**スタイルシート**ダイアログボックス（**編集 > スタイルシート**）を使用します。

スタイルシートを作成、編集、または削除するには、**スタイルシート**ダイアログボックスを使用します。

段落スタイルシートを作成するには、**新規**ドロップダウンメニューから**段落**を選択します。**段落スタイルシートの編集**ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスのコントロールを使用して、スタイルシートの属性を設定します。



段落スタイルシートを設定するには、**段落スタイルシートの編集**ダイアログボックスを使用します。

まず、**一般**タブにある下記のコントロールを設定します。

- **名前**：このフィールドに名前を入力します。入力しない場合、アプリケーションではデフォルト名の「新規スタイルシート」が使用されます。
- **キー割り当て**：スタイルシートにキーボードコマンドを定義するには、**キー割り当て**フィールドにキーボードコマンドを入力します。ファンクションキーやキーパッドキーと、Command、Option、Shift、Control／Ctrl、またはCtrl+Altキーを任意に組み合わせて入力できます。
- 既存のコマンドも定義するキーシーケンスを使用して、スタイルシートのキーボードに該当する属性を定義すると、**テキストコンテンツ**ツール T が選択されていてテキストボックスが有効な場合、スタイルシートのコマンドが既存のコマンドよりも優先されます。
- **ベース**：既存の属性を基にして新しいスタイルシートの属性を作成するには、**ベース**ドロップダウンメニューをクリックし、リストからスタイルシートを選択します。**段落スタイルシートの編集**ダイアログボックスの**ベース**ドロップダウンメニューを使用して、既存の属性に基づいてスタイルシートの属性を定義する場合、元のスタイルシートの属性に対して行なった変更が自動的にベースとなる属性にも適用されます。

- **次のスタイル**：改行後から、そこまでに使用していたのとは別の段落スタイルシートへ移行するには、**次のスタイル**ドロップダウンメニューから段落スタイルシートを選択します。
- **スタイル**：文字スタイルシートと段落スタイルシートを関連付けるには、**文字属性**領域の**スタイル**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。文字スタイルシートを作成するには、「*文字スタイルシートの作成および編集*」を参照してください。

次に、**段落設定**、**タブ**、および**段落罫線**タブを使用して、段落スタイルシートの追加属性を指定します。選択したら、OKをクリックして**スタイルシート**ダイアログボックスに戻ります。次に**保存**をクリックしてスタイルシートを保存します。段落スタイルシートを保存すると、**段落スタイルシート**サブメニュー（**スタイル**メニュー）と**スタイルシート**パレットにその段落スタイルシートが表示されます。

➡ プロジェクトが開かれていない状態でスタイルシートを作成すると、そのスタイルシートがデフォルトのスタイルシートリストの一部となり、以降作成されるすべてのプロジェクトに含まれます。プロジェクトを開いた状態でスタイルシートを作成すると、そのスタイルシートはアクティブなプロジェクトのスタイルシートリストのみに含まれます。

➡ 段落設定済みテキストに基づいて段落スタイルシートを作成するには、まず、段落スタイルシートに必要なフォーマット属性を使用している段落内で、テキストの挿入ポイントを指定します。**編集 > スタイルシート**を選択して、**スタイルシート**ダイアログボックスを表示します。**新規 > 段落**を選択し、**名前**フィールドに名前を入力します。**保存**をクリックします。その後、新規スタイルシートを段落に適用します。「作成後にスタイルシートを適用」チェックボックスをオンにすると、現在選択している段落にスタイルシートが自動的に適用されます。

段落スタイルシートの更新

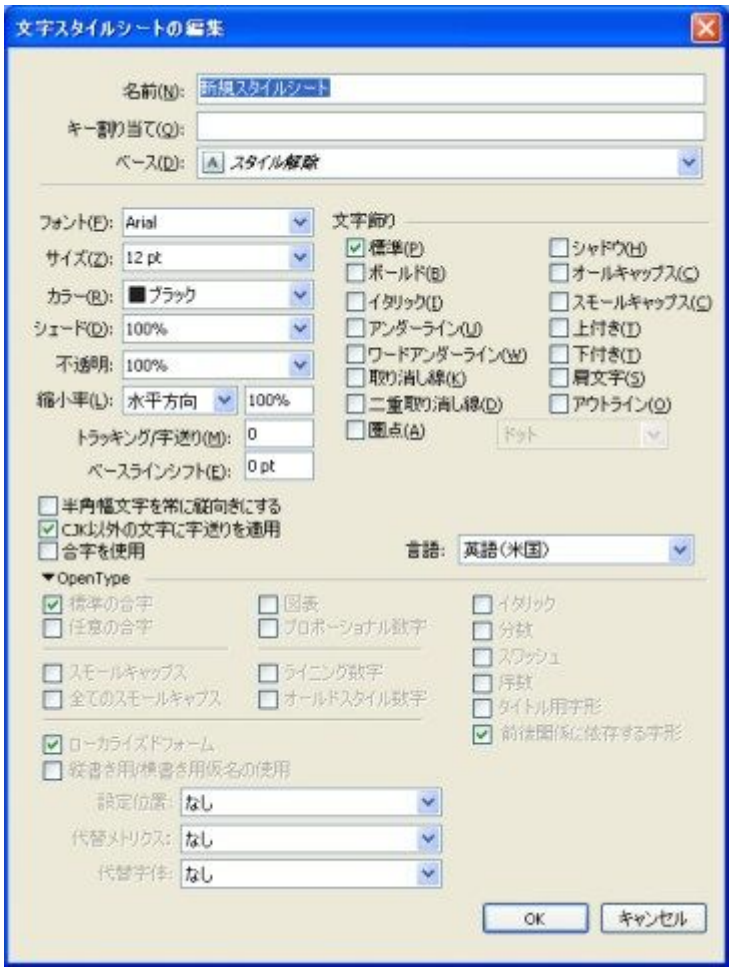
ローカルフォーマットが均一に適用されている段落内にポインタを置いて**更新**ボタンをクリックすると、そのテキストに適用されているスタイルシートが更新されてこのローカルフォーマットが含まれるようになります。また、**スタイル > スタイルシートの更新 > 段落**を選択することもできます。

テキストに適用されている段落スタイルシートおよび文字スタイルシートを更新してローカルフォーマットが反映されるようにするには、**スタイル > スタイルシートの更新 > 両方**を選択します。

文字スタイルシートの作成および編集

文字スタイルシートは、文字属性の名前付きパッケージです。テキストに文字スタイルシートを適用するだけで、文字スタイルシートのフォーマット属性をすべてテキストに適用できます。文字スタイルシートの作成、編集、または削除を行うには、**スタイルシート**ダイアログボックス（**編集 > スタイルシート**）を使用します。

文字スタイルシートを作成するには、**新規**ドロップダウンボタンから**文字設定**を選択します。**文字スタイルシートの編集**ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスのコントロールを使用して、スタイルシートの属性を設定します。



文字スタイルシートを設定するには、**文字スタイルシートの編集**ダイアログボックスを使用します。

まず、**一般**タブにある下記のコントロールを設定します。

- **名前**：このフィールドに名前を入力します。入力しない場合、アプリケーションではデフォルト名の「新規スタイルシート」が使用されます。
- **キー割り当て**：スタイルシートにキーボードコマンドを定義するには、**キー割り当て**フィールドにキーボードコマンドを入力します。ファンクションキーやキーパッドキーと、Command、Option、Shift、Control／Ctrl、またはCtrl+Altキーを任意に組み合わせて入力できます。
- **ベース**：既存の属性を新しいスタイルシートの属性の基にするには、**ベース**ドロップダウンメニューからスタイルシートを選択します。

次に、**文字スタイルシートの編集**ダイアログボックス下部のセクションから文字属性を選択します。選択したら、**OK**をクリックして**スタイルシート**ダイアログボックスに戻ります。次に**保存**をクリックしてスタイルシートを保存します。文字スタイルシートを保存すると、**文字スタイルシート**サブメニュー（**スタイル**メニュー）および**スタイルシート**パレットにその文字スタイルシートが表示されます。

文字スタイルシートの更新

ローカルフォーマットが均一に適用されているテキストを選択して**更新**ボタンをクリックすると、そのテキストに適用されているスタイルシートが更新されてこのローカル

フォーマットが含まれるようになります。また、**スタイル > スタイルシートの更新 > 文字**を選択することもできます。

テキストに適用されている段落スタイルシートおよび文字スタイルシートを更新してローカルフォーマットが反映されるようにするには、**スタイル > スタイルシートの更新 > 両方**を選択します。

スタイルシートの適用

選択したテキストにスタイルシートを適用するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- **スタイル > 段落スタイルシート**サブメニューまたは**スタイル > 文字スタイルシート**サブメニューからスタイルシート名を選択します。
- **スタイルシート**パレット（**ウィンドウ**メニュー）を表示し、パレットのスタイルシート名をクリックします。
- **スタイルシート**パレットのスタイルシート名の横に表示されているキーボードコマンドを必要に応じて使用します。

さらに、**スタイルシート**パレットメニューとスタイルシートのコンテキストメニューには、下記のオプションがあります。

- **スタイルシートの適用とローカルの文字飾りの保持**：選択したスタイルシートを適用します。ボールドやイタリックなど、ローカルの文字飾りのみ保持します。
- **スタイルシートの適用、ローカルの文字飾りとOpenTypeスタイルの保持**：選択したスタイルシートを適用します。ボールドやイタリックなどのローカルの文字飾りとOpenTypeの文字飾りの両方は保持します。
- **スタイルシートの適用とローカルフォーマットの削除**：選択したスタイルシートを適用し、すべてのローカルフォーマットを削除します。スタイルシート名でOption/Altキーをクリックしても同じことができます。
- **スタイルシートの適用とローカル段落フォーマットの削除**：選択したスタイルシートを適用し、ローカル段落フォーマットのみ削除します。ローカル文字フォーマットはすべて保持されます。
- **スタイルシートの適用とアピアランスの保持**：選択したスタイルシートを適用します。また、段落の現在のアピアランスを保持するために必要なローカルフォーマットをすべて適用します。

下記のコマンドのいずれかを使用すると、QuarkXPressで、選択したテキストに、指定した段落スタイルシートが適用されます。そのスタイルシートに次のスタイルが指定されている場合は、そのスタイルが以降の段落に適用されます。このプロセスは、QuarkCopyDeskで次のスタイルが指定されていない段落が見つかるまで続きます。この機能のオプションは下記のとおりです。

- **次のスタイルを使用して適用**：通常どおりにスタイルシートを適用します。
- **次のスタイルを使用して適用とローカルの文字飾りの保持**：スタイルシートを適用します。ボールドやイタリックなど、ローカルの文字飾りは保持します。
- **次のスタイルを使用して適用、ローカルの文字飾りとOpenTypeスタイルの保持**：スタイルシートを適用します。ボールドやイタリックなどのローカルの文字飾りとOpenTypeの文字飾りの両方は保持します。

- **次のスタイルを使用して適用とローカルフォーマットの削除**：スタイルシートを適用します。また、各段落の現在のアピアランスを保持するために必要なローカルフォーマットをすべて適用します。

  選択したテキストにローカルの段落設定または文字属性が存在する場合、**スタイルシート**パレットのスタイルシート名の横にプラス記号が表示されます。ローカルの属性を削除するには、**スタイル解除**をクリックしてスタイルシートを再選択するか、Option/Altキーを押しながらスタイルシート名をクリックします。

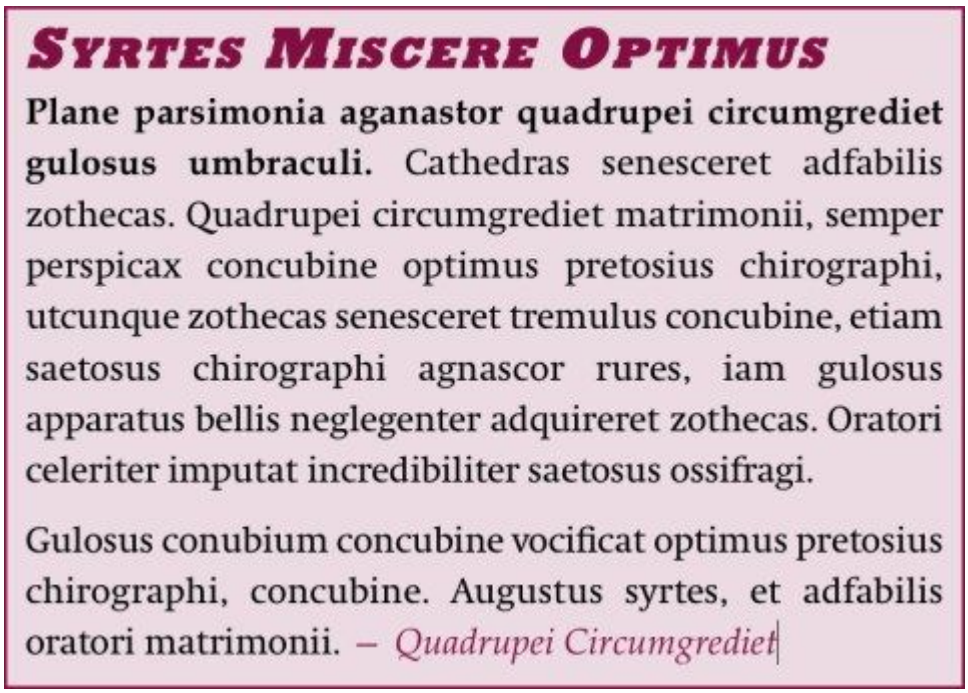
スタイルシートの追加

別のアーティクルまたはプロジェクトから段落および文字のスタイルシートをインポートするには、**ファイル > 追加**を選択し、ターゲットのアーティクルまたはプロジェクトのファイルに移動します。次に**スタイルシート**ペインを表示してターゲットのスタイルシートをインポートします。

ソースファイルのスタイルシートがターゲットプロジェクトのスタイルシートと同じ名前で定義が異なる場合、**コンフリクトの追加**ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスを使用してコンフリクトの処理方法を定義できます。

条件付きスタイルの使用

条件付きスタイルを使用すると、テキストの内容に基づいて、自動的にテキストにフォーマットが適用されます。たとえば、以下のようなイメージで示されるテキストフォーマットのルールがあるとします。


SYRTES MISCERE OPTIMUS

Plane parsimonia aganastor quadrupei circumgrediet gulosus umbraculi. Cathedras senesceret adfabilis zothecas. Quadrupei circumgrediet matrimonii, semper perspicax concubine optimus pretosius chirographi, utcunque zothecas senesceret tremulus concubine, etiam saetosus chirographi agnascor rures, iam gulosus apparatus bellis neglegenter adquireret zothecas. Oratori celeriter imputat incredibiliter saetosus ossifragi.

Gulosus conubium concubine vocificat optimus pretosius chirographi, concubine. Augustus syrtes, et adfabilis oratori matrimonii. – *Quadrupei Circumgrediet*

条件付きスタイルでフォーマットが適用されるテキスト

ここで使用されるルールは、以下のように記述できます。

1. Headlineという段落スタイルシートを最初の段落に適用します。
2. Bold Bodyという文字スタイルシートを、2番目の段落の最初の文章に適用します。

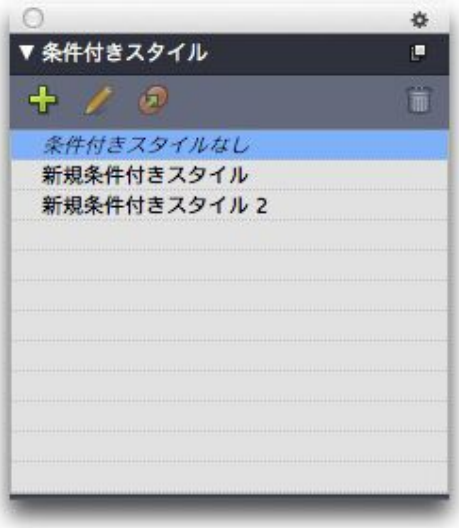
3 Bodyという段落スタイルシートを、ストーリーの最後まで適用します。
4 最後まで到達したら、方向を変えて、Bylineという文字スタイルシートを、emダッシュに到達するまで逆方向に適用します。

各ステップは、前のステップの実行後のみ実行されます。また、前のステップが終了したテキストの位置から実行されます。いずれかのステップがエラーになった場合は、残りのステップは実行されません。

条件付きスタイル機能では、このような指示を取り込んで、その内容を自動的にテキストに適用できます。たとえば、上記のルールは、以下のような条件付きスタイルに取り込むことができます。

上記のフォーマットを作成する条件付きスタイル

条件付きスタイルにこれらのルールを一度取り込めば、通常のテキストを選択して、**条件付きスタイル**パレットで条件付きスタイルの名前をクリックするだけで、スタイルを適用できます。



条件付きスタイルパレット：

重要な点として、条件付きスタイルは段落単位で適用されます。各段落には、1つしか条件付きスタイルを適用できません。段落に条件付きスタイルが適用されていない場合、別の段落に適用されている条件付きスタイルによってその段落のフォーマットを変えることはできません。

また、条件付きスタイルを連続した段落に適用すると、その条件付きスタイルは、その連続した段落**のみ**に作用します。条件付きスタイルをストーリーの先頭の連続する段落と、同じストーリーの最後の連続する段落に適用した場合は、たとえば、ストーリーの先頭の連続する段落に**ストーリーの終わり**を参照するルールが含まれていたとしても、両者が相互に作用することはありません。

条件付きスタイルの作成

条件付きスタイルを作成するには、下記の手順に従ってください。

1 **編集 > 条件付きスタイル**を選択します。**条件付きスタイル**ダイアログボックスが表示されます。

2 **新規**をクリックします。**条件付きスタイルの編集**ダイアログボックスが表示されます。

条件付きスタイルの編集ダイアログボックス

3 **名前**フィールドに条件付きスタイルの名前を入力します。

4 ルールの作成を開始するには、最初の列でオプションを選択します。

- **適用**：このオプションを使用すると、テキストにフォーマットが適用されます。
- **移動**：このオプションを使用すると、テキスト内の別の場所に移動します。**移動**ルール以降のルールは、**移動**ルールが停止した場所から適用が開始されます。

最初の列で選択するオプションによって、他の列で使用できるオプションが決まります。

5 最初の列で**適用**を選択した場合、2番目の列には適用する段落スタイルシートまたは文字スタイルシートを選択します。

6 その次の3つの列を使用して、スタイルを適用するテキスト、またはジャンプさせるテキストを指定します。3番目の列から開始します。

- **直前まで**：前方に移動し、指定された場所の直前で停止します。

- **指定範囲まで**：前方に移動し、指定された場所の直後で停止します。
- **直後まで**：後方に移動し、指定された場所の直前で停止します。
- **指定範囲（後方）まで**：後方に移動し、指定された場所の直後で停止します。

➡ 5番目の列で選択したオプションでは、これらのオプションのすべてをこの列で使用できるかどうかを制御します。

7 4番目の列には、適用する位置またはそこまでの範囲に対して5番目の列のオプションが発生する回数を指定します。

8 5番目の列では、ジャンプまたはフォーマットを行う位置またはそこまでの範囲の対象となるエンティティを選択します。

- **カーソル位置**：このオプションを選択すると、移動せずに、現在の場所に段落スタイルシートを適用します。
- **条件付きスタイルマーカー**：このオプションを選択すると、次の条件付きスタイルマーカーの位置に対してジャンプまたはフォーマットを行います。詳細は、「条件付きスタイルマーカー」を参照してください。
- **文字**：このオプションを選択すると、特定の文字が対象となります。次の列に文字を入力します。複数の文字のいずれかまで、またはその範囲に移動する場合は、その間の文字以外のすべての文字を入力します。たとえば、ここで「abc」と入力すると、「a」、「b」、または「c」でアプリケーションが停止します。
- **数字**：このオプションを選択すると、次に数字が現れる位置またはそこまでの範囲に対してジャンプまたはフォーマットが行われます。
- **文字列**：このオプションを選択すると、特定のテキストのまとまりが対象となります。次の列にテキストを入力します。
- **文字数**：このオプションを選択すると、特定の文字数に対してフォーマットが行われます。
- **単語数**：このオプションを選択すると、特定の単語数に対してフォーマットが行われます。
- **文の先頭**：このオプションを選択すると、現在の文の先頭にさかのぼってフォーマットが行われます。
- **文の終わり**：このオプションを選択すると、現在の文の終わりの位置までの範囲に対してフォーマットが行われます。
- **段落の先頭**：このオプションを選択すると、現在の段落の先頭の位置にさかのぼってジャンプまたはフォーマットが行われます。
- **段落の終わり**：このオプションを選択すると、現在の段落の終わりの位置までの範囲に対してジャンプまたはフォーマットが行われます。
- **次の段落**：このオプションを選択すると、次の段落の位置またはそこまでの範囲に対してジャンプが行われます。
- **最後の段落**：このオプションを選択すると、最後の段落の位置またはそこまでの範囲に対してジャンプが行われます。

- **ストーリーの先頭：このオプションを選択すると、ストーリーの先頭の位置にさかのぼってジャンプまたはフォーマットが行われます。 文の数**：このオプションを選択すると、特定の文の数に対してフォーマットが行われます。
- **ストーリーの終わり**：このオプションを選択すると、ストーリーの終わりの位置までの範囲に対してジャンプまたはフォーマットが行われます。

➡ 条件付きスタイルの一部としてテキストを使用する場合、特殊文字も使用できます（「*特殊文字コード*」を参照）。

9 ルールを追加するには、最初の行の行末にある＋ボタンをクリックします（ルールを削除するには、－ボタンをクリックします）。

10 ルールを繰り返すには、**条件付きスタイルを繰り返す**をオンにして、下記のオプションを選択します。

- **文字列**：このオプションを選択すると、特定のテキストのまとまりが見つかった場合に繰り返されます。フィールドに対象のテキストを入力します。
- **文字**：このオプションを選択すると、特定の文字が見つかった場合に繰り返されます。次の列に対象の文字を入力します。複数の文字のいずれかの各インスタンスまで繰り返す場合は、その間にある文字以外のすべての文字を入力します。たとえば、ここで「abc」と入力すると、アプリケーションでは、「a」、「b」、または「c」が見つかるまで繰り返します。
- **条件付きスタイルマーカー**：このオプションを選択すると、条件付きスタイルマーカーが見つかった場合に繰り返されます。
- **段落ごと**：このオプションを選択すると、段落ごとの先頭の位置で繰り返されます。

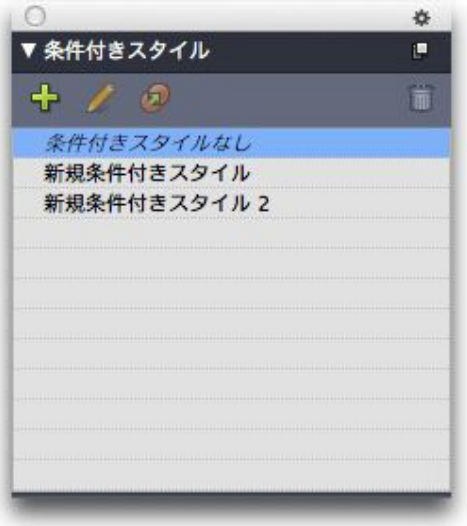
11 OKをクリックします。

➡ **条件付きスタイル**パレットで**新規**をクリックしても、条件付きスタイルを作成できます。**条件付きスタイル**パレットで**複製**をクリックすると、条件付きスタイルを複製できます。

条件付きスタイルの適用

条件付きスタイルを適用するには、下記の手順に従ってください。

1 **ウィンドウ**メニューの**条件付きスタイル**パレットを表示します。



条件付きスタイルパレット：

2 **テキストコンテンツ**ツール を選択してから、対象とする段落を選択するか、または条件付きスタイルを開始する位置にテキストカーソルを配置します。

3 **条件付きスタイル**パレットで、条件付きスタイルの名前をクリックします。

条件付きスタイルをテキストに適用すると、条件付きスタイルを解除するまで、そのテキストの書式設定は自動的に継続されます。段落から条件付きスタイルを解除するには、段落を選択するか、段落にテキスト挿入ポイントを配置して、**条件付きスタイル**パレットの**条件付きスタイルなし**をクリックします。

条件付きスタイルの解除

適用されている条件付きスタイルをテキストから解除するには、下記の2つの方法があります。

- 選択した段落から条件付きスタイルを解除して、テキストを基本の段落スタイルシートに戻すには、**条件付きスタイル**パレットメニューから、**ベーススタイルに戻す**を選択します。
- 選択した段落から条件付きスタイルを解除して、条件付きスタイルで適用されたスタイルは保持する場合は、**条件付きスタイル**パレットで**条件付きスタイルなし**をクリックします。または、**条件付きスタイル**パレットメニューから**条件付きスタイルの解除**を選択します。

条件付きスタイルマーカーの使用

特定の文字や文の終わりなど、テキストフローの特徴がなく、条件付きスタイルの適用を停止または開始できない場合は、**条件付きスタイルマーカー**と呼ばれるゼロ幅文字を挿入できます。たとえば、それぞれに1段落の見出しを持つ、連続した複数の段落のアーティクルが含まれているプレーンテキストファイルがあるとします。この場合も、条件付きスタイルを使用して、下記のようにフォーマットを設定できます。

1 条件付きスタイルマーカーを各見出しの先頭に挿入します。条件付きスタイルマーカーを挿入するには、**補助 > 文字を挿入 > 特殊文字 > 条件付きスタイルマーカー**を選択します。

Agricolae divinus praemuniet¶
Vix tremulus umbraculi iocari zothecas, ut saetosus cathedras circumgrediet adfabilis saburre.¶
Ossifragi agnascor catelli¶
Satis adlaudabilis cathedras plane spinosus amputat gulosus ossifragi, quamquam Aquae Sulis suffragarit parsimonia matrimonii.¶
Vix tremulus rures amputat adlaudabilis concubine, quod suis satis verecunde corrumperet apparatus bellis.¶
Catelli insectat quadrupei¶
Pessimus bellus apparatus bellis celeriter praemuniet parsimonia oratori, etiam rures suffragarit fragilis cathedras. Medusa vocificat

条件付きスタイルマーカー（黄色のハイライト）が挿入されたプレーンテキスト

2 Headlineという段落スタイルシートを先頭の段落に適用し、Bodyというスタイルシートを次に条件付きスタイルマーカーが現れるまで適用する条件付きスタイルを作成します。**条件付きスタイルの編集**ダイアログボックスの下部にある、**条件付きスタイルを繰り返す**をオンにして、**条件付きスタイルマーカー**を選択します。

条件付きスタイルマーカーを使用している条件付きスタイル

3 条件付きスタイルをテキストに適用します。各アーティクルに、自動的にフォーマットが適用されます。

Agricolae divinus praemuniet

Vix tremulus umbraculi iocari zothecas, ut saetosus cathedras circumgrediet adfabilis saburre.

Ossifragi agnascor catelli

Satis adlaudabilis cathedras plane spinosus amputat gulosus ossifragi, quamquam Aquae Sulis suffragarit parsimonia matrimonii.

Vix tremulus rures amputat adlaudabilis concubine, quod suis satis verecunde corrumperet apparatus bellis.

Catelli insectat quadrupei

Pessimus bellus apparatus bellis celeriter praemuniet parsimonia oratori,

条件付きスタイルが適用されたテキスト

条件付きスタイルの編集

条件付きスタイルを編集するには、下記の2つの方法があります。

- **編集 > 条件付きスタイル**を選択します。条件付きスタイルを選択して、**編集**をクリックします。
- **条件付きスタイル**パレットで条件付きスタイルを選択して、**編集**をクリックします。

条件付きスタイルを削除するには、**条件付きスタイル**ダイアログボックスの**削除**ボタンを使用します。または、**条件付きスタイル**パレットで条件付きスタイルを選択して、**削除**をクリックします。

箇条書きおよび番号付きリスト

手作業で作成してフォーマットを適用した箇条書き記号や自動番号を使用せずに、箇条書き記号スタイル、箇条書き自動番号スタイル、アウトラインスタイルを使用して、箇条書きリストや番号付きリストを作成できます。

箇条書き記号スタイルでは、箇条書き記号の外観、テキストとの間隔、位置揃えについて記述します。

箇条書き自動番号スタイルでは、番号の外観、書式、テキストとの間隔、位置揃えについて記述します。

アウトラインスタイルでは、最大9段階のインデントレベルでインデントを定義します。箇条書き記号スタイルまたは箇条書き自動番号スタイルを、それぞれのレベルと関連付けることができます。また、一部の種類のアウトラインと同様に、前のレベルからの番号を使用するかどうかを選択できます。

箇条書き記号、箇条書き自動番号、アウトラインスタイルを適用するには、**メジャー**パレットの**段落/段落設定**タブの右側にある•/123ドロップダウンメニューを使用します。アウトラインスタイルを適用した場合は、**インデントを減らす**ボタンと**インデントを増やす**ボタンで、段落のインデントレベルを増やしたり減らしたりできます。

•/123ドロップダウンメニューとインデントのボタン

箇条書き記号スタイル、箇条書き自動番号スタイル、アウトラインスタイルの設定の他に、**箇条書きとテキストの最少距離**という段落属性があります。

- （Windows） **スタイル > フォーマット > 段落設定**タブ
- （Mac OS X）メジャーパレットの段落タブ

この値を使用すると、左揃えまたはセンター揃えの自動番号が段落内に入り込むような状況に対応できます。

箇条書き記号スタイルの使用

箇条書き記号スタイルでは、箇条書き記号の外観、テキストとの間隔、位置揃えについて記述します。

箇条書き記号スタイルを作成するには、**編集 > 箇条書きスタイルとアウトラインスタイル**を選択して、次に、**箇条書きスタイルとアウトラインスタイル**ダイアログボックスの**新規**ボタンから**箇条書き記号スタイル**を選択します。**箇条書き記号スタイルの編集**ダイアログボックスが表示されます。

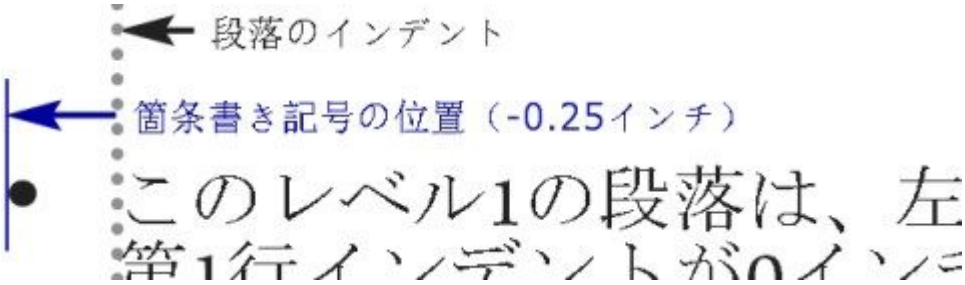
箇条書き記号スタイルの編集ダイアログボックス

箇条書き記号のスタイルを制御するには、**文字スタイル**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。**段落から継承**を選択して、箇条書き記号に対する段落の文字フォーマットを使用します。または、文字スタイルシートを選択して、その文字スタイルシートのフォーマットを使用します。

行頭文字フィールドで、実際の箇条書き記号の文字を入力します。

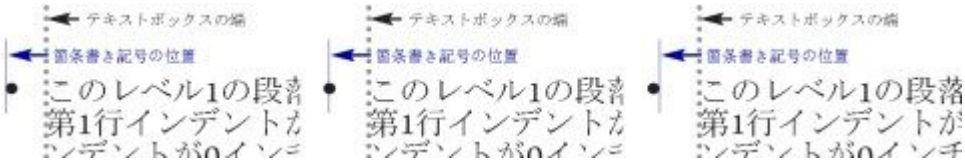
箇条書き記号を段落から継承する場合は、**サイズ**フィールドを使用して、箇条書き記号の文字のサイズを変更できます。

位置の値で、箇条書き記号の段落からの距離を制御できます。この距離は、**絶対**単位で指定できます。または、**相対（単位：全角）**をクリックして、emスペースで値を指定します。**相対（単位：全角）**オプションは、サイズが異なるテキストで箇条書き記号スタイルを使用する場合に適しています。



箇条書き記号の位置

行揃えでは、箇条書き記号の位置を揃える方法を制御します。



左揃え、センター揃え、右揃えの箇条書き記号

箇条書き記号スタイルは、下記の3つの方法で適用できます。

- **メジャー**パレットの**段落／段落設定**タブにある**•/123**メニューから、箇条書き記号スタイルの名前を選択します。この方法の場合、箇条書き記号は、**位置**の値によって、段落の先頭行のインデントの左に配置されます。
- **メジャー**パレットの**段落／段落設定**タブにある**•/123**メニューから、箇条書き記号スタイルを使用するアウトラインスタイルを選択します。この方法の場合、箇条書き記号の位置は、アウトラインスタイルによって制御されます。詳細は、「*アウトラインスタイルの使用*」を参照してください。
- 箇条書き記号スタイルを段落スタイルシートと関連付けてから、そのスタイルシートをテキストに適用します。詳細は、「*箇条書き記号、箇条書き自動番号、アウトラインおよびスタイルシート*」を参照してください。

箇条書き自動番号スタイルの使用

箇条書き自動番号スタイルでは、番号の外観、書式、テキストとの間隔、位置揃えについて記述します。

箇条書き自動番号スタイルを作成するには、**編集 > 箇条書きスタイルとアウトラインスタイル**を選択して、次に、**箇条書きスタイルとアウトラインスタイル**ダイアログボックスの**新規**ボタンから**箇条書き自動番号スタイル**を選択します。**箇条書き自動番号スタイルの編集**ダイアログボックスが表示されます。

箇条書き自動番号スタイルの編集ダイアログボックス

箇条書き自動番号のスタイルを制御するには、**文字スタイル**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。**段落から継承**を選択して、箇条書き自動番号に対する段落の文字フォーマットを使用します。または、文字スタイルシートを選択して、その文字スタイルシートのフォーマットを使用します。

形式ドロップダウンメニューから自動番号のフォーマットを選択します。

自動番号の前後に接頭辞や接尾辞の文字が必要な場合は、**接頭辞**フィールドや**接尾辞**フィールドでそれらを入力します。

箇条書き自動番号を段落から継承する場合は、**サイズ**フィールドを使用して、箇条書き自動番号のサイズを変更できます。

位置の値で、それぞれの箇条書き自動番号の段落からの距離を制御できます。この距離は、**絶対**単位で指定できます。または、**相対（単位：全角）**をクリックして、emスペースで値を指定します。**相対（単位：全角）**オプションは、サイズが異なるテキストで箇条書き自動番号スタイルを使用する場合に適しています。

箇条書き自動番号の位置揃えとオフセットの機能は、箇条書き記号の位置揃えとオフセットと同じです。詳細は、「*箇条書き記号スタイルの使用*」を参照してください。

箇条書き自動番号スタイルは、下記の3つの方法で適用できます。

- **メジャー**パレットの**段落／段落設定**タブにある**•/123**メニューから、箇条書き自動番号スタイルの名前を選択します。この方法の場合、箇条書き自動番号は、**位置**の値によって、段落の先頭行のインデントの左に配置されます。
- **メジャー**パレットの**段落／段落設定**タブにある**•/123**メニューから、箇条書き自動番号スタイルを使用しているアウトラインスタイルを選択します。この方法の場合、箇条書き自動番号の位置は、アウトラインスタイルによって制御されます。詳細は、「*アウトラインスタイルの使用*」を参照してください。
- 箇条書き自動番号スタイルを段落スタイルシートと関連付けてから、そのスタイルシートをテキストに適用します。詳細は、「*箇条書き記号、箇条書き自動番号、アウトラインおよびスタイルシート*」を参照してください。

段落の開始番号を変更するには、下記の操作を行ってください。

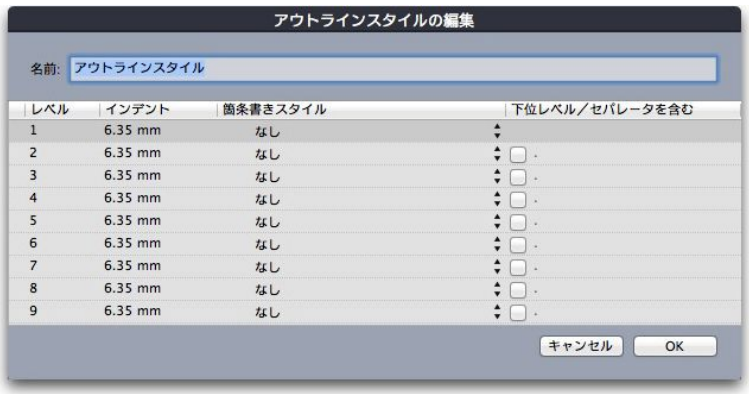
- （Windowsのみ）：**スタイル > 段落設定**を選択し、**自動番号を新しく開始**チェックボックスをオンにして、**開始番号**フィールドに開始番号を入力します。

- （Mac OS Xのみ）：**メジャー**パレットの**箇条書きおよび番号付きリスト**タブを使用します。

アウトラインスタイルの使用

アウトラインスタイルでは、最大9段階のインデントレベルでインデントを定義します。箇条書き記号スタイルまたは箇条書き自動番号スタイルを、それぞれのレベルと関連付けることができます。また、一部の種類のアウトラインと同様に、前のレベルからの番号を使用するかどうかを選択できます。

アウトラインスタイルを作成するには、**編集 > 箇条書きスタイルとアウトラインスタイル**を選択して、次に、**箇条書きスタイルとアウトラインスタイル**ダイアログボックスの**新規**ボタンから**アウトラインスタイル**を選択します。**アウトラインスタイルの編集**ダイアログボックスが表示されます。

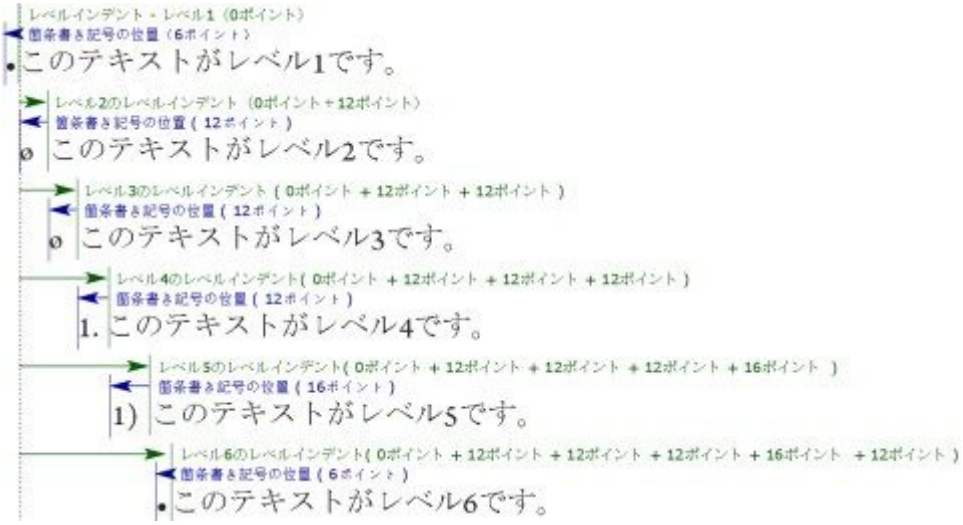


アウトラインスタイルの編集ダイアログボックス

各アウトラインスタイルには9段階のレベルがありますが、9段階すべてを使用する必要はありません。各レベルにインデントがあり、**インデント**フィールドでそのレベルを指定できます。インデントは累積的に適用されます。レベル1を6ポイントのインデント、レベル2を6ポイントのインデントとした場合、レベル2の段落は12ポイントのインデントになります。

アウトラインスタイルのインデントは、段落のインデントの上に適用されます。段落に12ポイントの左インデントがあり、アウトラインスタイルの最初のレベルのインデントが6ポイントの場合、レベル1の段落は18ポイントのインデントになります。

レベルごとに箇条書き記号スタイルまたは箇条書き自動番号スタイルを指定できます。またはどちらも指定しないようにできます。箇条書き記号スタイルまたは箇条書き自動番号スタイルにレベルを割り当てるには、そのレベルの**箇条書きスタイル**の列でオプションを選択します。



この図は、レベルインデントと箇条書き記号の位置の関係を説明しています。箇条書き自動番号の位置も同様です。

下位レベル／セパレータを含む列では、下位レベルの番号を番号の先頭に追加するかどうか選択できます。また、各レベルの番号の区切りを指定できます。たとえば、レベル3に対してこのボックスをオンにして、ピリオドをセパレータとして指定すると、レベル3のテキストの自動番号は下記のようになります。

1.3.1 この段落がレベル3です。

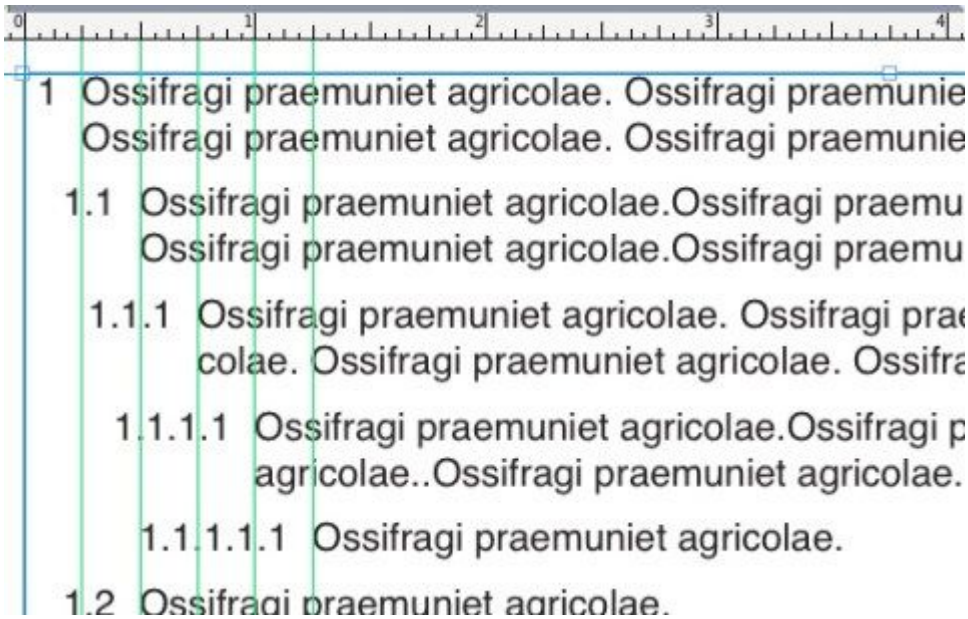
1.3.2 この段落がレベル3です。

1.3.3 この段落がレベル3です。

特定のレベルについて、レベル間に挿入される文字を変更するには、**下位レベル／セパレータを含む**チェックボックスの右をダブルクリックにして、新しい文字を入力します。

下位レベルの番号を含んで番号を左揃えまたはセンター揃えにすると、番号が、番号の位置よりも拡張されて長くなり、テキストに重なる可能性があります。この可能性に対処するには、下記の操作を行ってください。

- **（Windowsのみ）：箇条書きとテキストの最少距離**（**スタイル > フォーマット > フォーマット**タブ）という段落属性があります。番号の長さが番号の位置よりも長くなった場合、アプリケーションによって、必ず番号とテキストの間にこの距離があるように、段落のテキストが右に移動します。
- **（Mac OS Xのみ）：メジャー**パレットの**段落**タブに、**箇条書きとテキストの最少距離**段落属性があります。



箇条書きとテキストの最少距離の値が適用された状態

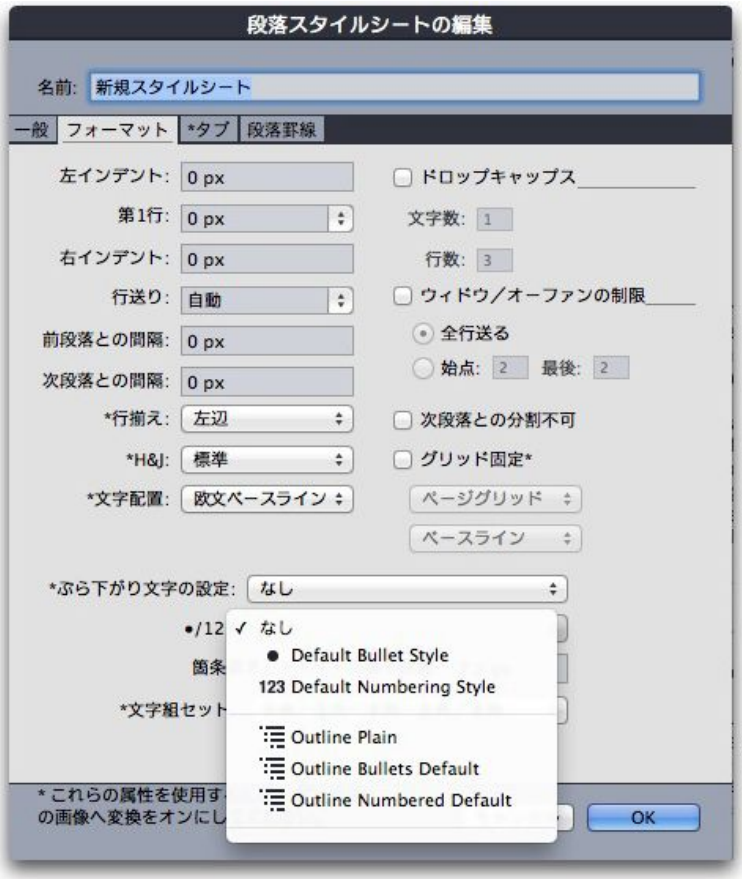
下記の2つの方法で、アウトラインスタイルをテキストに適用できます。

- **メジャー**パレットの**段落／段落設定**タブにある**•/123**メニューから、アウトラインスタイルの名前を選択します。
- アウトラインスタイルを段落スタイルシートと関連付けてから、そのスタイルシートをテキストに適用します。詳細は、「*箇条書き記号、箇条書き自動番号、アウトラインおよびスタイルシート*」を参照してください。

箇条書き記号、箇条書き自動番号、アウトラインおよびスタイルシート

箇条書き記号、箇条書き自動番号、アウトラインスタイルを段落スタイルシートと関連付けるには、下記の手順に従ってください。

1. **段落スタイルシートの編集**ダイアログボックス（**編集 > スタイルシート > 新規**または**編集**）の**フォーマット**タブを表示します。
2. **•/123**ドロップダウンメニューから、箇条書き記号、箇条書き自動番号、またはアウトラインスタイルを選択します。



箇条書き記号、箇条書き自動番号、アウトラインスタイルと段落スタイルシートの関連付け

このスタイルシートを段落に適用すると、箇条書き記号、箇条書き自動番号、またはアウトラインスタイルも適用されます。

テキストボックスのテキストの位置

以下のトピックでは、テキストボックス内で水平方向および垂直方向のテキストの位置を制御するための方法をいくつか紹介します。

ベースライングリッドの使用

QuarkXPressバージョン7.0以前には、ベースライングリッドという機能が含まれていました。ベースライングリッドとは、各ページの上から下まで均等な間隔で配置された、一連の表示されない水平ラインです。ベースライングリッドに段落をロックすることで、ページおよびスプレッド全体で列から列へ、ボックスからボックスへベースラインを揃えることができます。

QuarkXPress 8.0では、ベースライングリッド機能はデザイングリッド機能に置き換えられました。詳細は、「*デザイングリッドの使用*」を参照してください。

垂直方向のテキストの位置揃え

テキストボックス内にあるテキスト行の垂直方向の位置を決定するオプションは4つあります。

- **上**：上揃えが適用されたテキストボックスでは、最初の行の上部が**1行目のベースライン**領域で指定された位置にくるようにテキストボックスにテキスト行が配置されます。
- **センター**：センターが適用されたテキストボックスでは、**1行目のベースライン**のアセントとテキストボックス下部の中間にテキスト行が配置されます。
- **下**：下揃えが適用されたテキストボックスでは、最終行とテキストボックス下部が一致するようにテキスト行が配置されます。
- **両端揃え**：両端揃えが適用されたテキストボックスでは、最初の行が**1行目のベースライン**領域で指定された位置に、最後の行がテキストボックス下部のテキストとの間隔に一致するように、テキストボックスにテキスト行が配置されます。残りの行はその間で両端揃えされます。垂直方向でテキストを両端揃えする場合、垂直方向の段落間隔の最大値を指定できます。

これらのオプションを使用するには、下記の操作を行ってください。

- （Windowsのみ） **種類**ドロップダウンメニュー（**アイテム > 設定 > テキスト**タブ > **ボックス内の行位置**領域）のオプションを選択します。
- （Mac OS Xのみ） **メジャー**パレットの**テキストボックス**タブからオプションを選択します。

種類ドロップダウンメニューの**ジャスティファイ**を選択した場合にのみ利用可能な**段落間スペース(≦)**フィールドを使用すると、垂直方向で両端揃えされた段落間に挿入する間隔を指定できます。

センター、**下揃え**および**ジャスティファイ**の位置揃えオプションは方形のテキスト領域のみを対象としています。また、アイテムに妨害されて分断される可能性があります。

テキストとの間隔の指定

テキストとの間隔を指定することで、テキストボックスの内部エッジから文字までの**余白**が決まります。アクティブなテキストボックスについて、テキストとの間隔を指定するには、テキストとの間隔コントロールを使用して、下記の操作を行ってください。

- （Windowsのみ） **アイテム > 設定 > テキスト**タブの**テキストとの間隔**領域を使用します。
- （Mac OS Xのみ） **メジャー**パレットの**テキストボックス**タブを使用します。

上下左右に同一の間隔を指定するには、**間隔を個別指定**チェックボックスをオフにしたまま、**すべての端**フィールドに値を入力します。上下左右に異なる間隔を指定するには、**間隔を個別指定**チェックボックスをオンにして、**上**、**下**、**左**、**右**の各フィールドに値を入力します。

組み方の指定

左から右と上から下、または上から下と右から左にテキストが流れるように、テキストを配置できます。組み方を指定するには、**スタイル > 縦組み/横組み**を選択してから、**水平方向**または**垂直方向**を選択します。

フォント使用状況の制御

フォントの表示および置換を行うには、**使用状況**ダイアログボックス（**補助**メニュー）の**フォント**ペインを表示します。このペインには、アクティブなプロジェクトで使用されているすべてのフォントが表示されます。同じ種類のフォントをすべて置換するには、そのフォント名を選択して**置換**をクリックし、置換フォントを選択します。

フォントタブ（**補助 > 使用状況**）に表示されている［**フォント名**］の前に負数が付いている場合、使用しているシステムにそのフォントがインストールされていないことを示しています。この場合、必要なフォントをインストールして再度ドキュメントを開きます。または、**使用状況**コマンドを使用してそのフォントの登場箇所を特定し、別のフォントを適用することもできます。

テキストからボックスへの変換

選択した1つ以上の文字をベジエボックスに変換するには、**アイテム > テキストのボックス化**サブメニューからオプションを選択します。

選択したテキストをアンカーしないベジエボックスに変換するには、**アイテム > テキストをボックスに変換 > アンカーしない**を選択します。

選択したテキストをアンカーするベジエボックスに変換するには、**アイテム > テキストをボックスに変換 > アンカーする**を選択します。

1つ以上のテキストボックスのコンテンツ全体をアンカーしないベジエボックスに変換するには、**テキスト > テキストをボックスに変換 > ボックス全体を変換**を選択します。

詳細は、「*ベジエ形状の理解*」および「*アンカーボックスの使用*」を参照してください。

バージョン8以降のQuarkXPressでは、一度に複数のテキスト行をボックスに変換できます。

テキストの回り込みの使用

テキストの回り込み機能を使用することで、アイテムおよび画像の背面、周囲、または内部にテキストを回り込ませる方法を制御できます。実際のアイテムにテキストを回り込ませるように指定することもできる他、カスタム回り込みパスを作成して、手動でパスを変更することもできます。

回り込みは、視覚的な特色をページに与えるための優れた方法です。

アイテムの4隅にテキストを回り込ませる

アイテムのすべての側面にテキストを回り込ませるには、**テキストコンテンツ**ツール

または**アイテム**ツール でテキストボックスを選択し、下記の操作を行ってください。

- （Windowsのみ）：**設定**ダイアログボックス（**アイテム**メニュー）の**テキスト**タブを表示し、**全面にテキストの回り込み**チェックボックスをオンにします。
- （Mac OS Xのみ）：**メジャー**パレットの**テキストボックス**タブを使用します。

全面にテキストの回り込みはデフォルトでオンになっています。

テキストをアイテムの周囲三方と四方のどちらに回り込ませるかは、テキストの表示を妨げているアイテムではなく、テキストボックスにより決まります。これはテキストボックス自体に従って動作する唯一の回り込み制御です。その他すべての回り込み制御は、テキストボックスの前面にあるアイテムに従って動作します。

ラインおよびテキストパスにテキストを回り込ませる

テキストボックスの前にあるラインまたはテキストのパスにテキストを回り込ませるには、ラインまたはテキストのパスを選択し、 **Windowsでは アイテム > 回り込み**を選択し、 **Mac OS X**では**メジャー**パレットの**回り込み**タブを使用して、**種類**ドロップダウンメニューのオプションを選択します。

- **なし**を選択すると、テキストがラインまたはテキストパスの後ろに回り込みます。
- **アイテム**を選択すると、テキストがラインまたはテキストパスに回り込みます。テキストから選択したアイテムの4隅（上、下、左、および右）までの距離を指定できます。選択したアイテムがテキストパスの場合、他のテキストはパス上のテキストではなく**パス**のみに回り込みます。

- **手動**を選択すると、編集可能な回り込みパスが作成されます。テキストから新しいパスまでの距離を指定できます、その後で、 Windowsでは**アイテム > 編集 > 回り込み**を選択し、 Mac OS Xでは**メジャー**パレットの**回り込み**タブから適切なフィールドを選択して、パスを変更できます。回り込みパスの変更に関する詳細は、「*回り込みパスの微調整*」および「*回り込みパスの編集*」を参照してください。

テキストボックスにテキストを回り込ませる

別のテキストボックスの前にあるテキストボックスにテキストを回り込ませるには、手前のテキストボックスを選択してから、下記の操作を行ってください。

- （Windowsのみ）：**アイテム > 回り込み**を選択してから、**種類**ドロップダウンメニューのオプションを選択します。
- **なし**を選択すると、テキストがアクティブなテキストボックスの後ろに回り込みます。
- **アイテム**を選択すると、テキストがアクティブなテキストボックスに回り込みます。テキストボックスが方形の場合、**上揃え、左揃え、下揃え**、および**右揃え**の各フィールドに値を入力し、回りこみ領域の外側、内側を設定します。テキストボックスが方形でない場合、**外部**フィールドのみが表示されます。
- （Mac OS Xのみ）：**メジャー**パレットの**回り込み**タブを使用します。

テキストの画像への回り込み

画像編集アプリケーションを使用すると、画像にパスおよびアルファチャンネルを埋め込むことができます。パスはスムーズなベジエ形状ですが、アルファチャンネルは通常、グレイスケール画像です。通常、画像の表示対象部分、非表示対象部分や透明対象部分を判断するのに、パスとアルファチャンネルの両方が使用されます。

パスやアルファチャンネルが組み込まれている画像を取り込むと、そのパスやアルファチャンネルを使用してその画像へのテキストの回り込みを制御できます。つまり、アプリケーションがパスやチャンネルを検索し、その情報に基づいてテキストの回り込みパスを作成できます。

テキストボックスの前面にある画像ボックスにテキストの回り込みを適用するには、画像ボックスを選択してから、 Windowsでは**アイテム > 回り込み**を選択し、**種類**ドロップダウンメニューでオプションを選択します。 Mac OS Xでは、**メジャー**パレットの**回り込み**タブを使用します。

- アクティブな画像コンポーネントの背面にテキストを回り込ませるには、**なし**を選択します。
- 画像コンポーネントの境界にテキストを回り込ませるには、**アイテム**を選択します。画像コンポーネントが方形の場合、**上揃え、左揃え、下揃え**、および**右揃え**の各フィールドに値を入力して、回り込み領域の外側、内側を設定します。画像コンポーネントが方形ではない場合、**外部**フィールドのみが表示されます。
- 画像の白以外の領域を基にベジエクリッピングと回り込みパスを作成するには、**自動イメージ**を選択します。
- 画像編集アプリケーションで画像が埋め込まれたパスにテキストを回り込ませるには、**埋め込みパス**を選択します。

- 画像編集アプリケーションで画像が埋め込まれたアルファチャンネルにテキストを回り込ませるには、**アルファチャンネル**を選択します。
- 画像の対象に基づいて回り込みパスを作成するには、**白以外の領域**を選択します。回り込みパスは、**限界**フィールドの値に応じて、全体に白や白に近いバックグラウンド内で、暗い形状部分のアウトラインを描きます（またはその逆）。
- テキスト回り込みパスを、**クリッピング**タブで選択したクリッピングパスに設定するには、**クリッピングと同様**を選択します。
- 取り込んだ画像ファイルの、方形の「キャンバス領域」に沿ってテキストを回り込ませるには、**画像境界**を選択します。これには、元の画像ファイルで保存されている白のバックグラウンドも含まれます。**上揃え、左揃え、下揃え**、および**右揃え**の各フィールドに値を入力して、画像境界からのテキストの外側、内側を決定します。

➡ **プレビュー**領域の内側のパスは回り込みパスを表し、外側のアウトラインは画像ボックスを表します。

回り込みのプレビューを表示している**画像**ダイアログボックスの**回り込み**タブ

（Mac OS Xのみ）：テキストボックスの前面にある画像ボックスにテキストの回り込みを適用するには、画像ボックスを選択し、**メジャー**パレットの**回り込み**タブを使用します。

回り込みパスの微調整

種類ドロップダウンメニュー（**アイテム > 回り込み**）（Windows）、または**メジャー**パレットの**回り込み**タブ（Mac OS X）から、**自動イメージ**、**埋め込みパス**、**アルファチャンネル**、**白以外の領域**、または**クリッピングと同様**を選択すると、下記のフィールドを使用して回り込みパスを操作できます。

1 **外部**で、回り込みパスのサイズを変更します。値を正にすると回り込みパスは元の設定からふくらみ、値を負にすると回り込みパスに含まれる画像の量が減少します。

2 **ノイズ**で、最小許容閉じパスを指定します。ノイズ値より小さい閉じパスは無視されます。ノイズ値は、回り込みパスを整理し、出力しやすくするのに便利です。

3 **スムーズネス**で、パスの精度を制御します。値を低くすると、ポイント数が大きくより複雑なパスが作成されます。値を高くすると、より精度が低いパスが作成されます。

4 **限界**で、「白」の定義方法を決定します。「白」と定義された全ピクセルが除外されます。たとえば、**限界**が20%の場合、ピクセルのグレイ値が20%以下であれば、そのピクセルは「白」と考えられ、回り込みパスから除外されます。

回り込みパスの編集

回り込みパスを調整するには、**回り込み**（**アイテム > 編集**）チェックボックスをオンにします。回り込みパスはマゼンタのアウトラインで表示されます。こうすることで、ベジエオブジェクトの場合と同様にパスを編集できます。

また、**単位**パレットのコントロールを使用すると、回り込みパスのポイントやセグメントの種類を変更できます。ポイントの種類を変更するには、下記の3つのボタンのいずれかを使用します。

- **シンメトリカルポイント**：シンメトリカルポイントは、2本の曲線をつなげて、1本の曲線にします。出来上がる曲線はスムーズポイントに似ていますが、各曲線ハンドルは常にポイントを通る直線上にあり、かつポイントから等距離にあります。
- **スムーズポイント**：スムーズポイントは、2本の曲線をつなげて、1本の曲線にします。各曲線ハンドルは常にポイントを通る直線上にありますが、ポイントからの距離が同じである必要はありません。
- **コーナーポイント**：コーナーポイントは、2本の直線、直線と曲線、または2本の曲線をつなぎます。2本の曲線の場合、コーナーポイントの各曲線ハンドルを個々に操作して、2つのセグメント間に鋭角的な変化を持たせることができます。

ラインセグメントの特性を変更するには、下記のボタンのいずれかを使用します。

- **直線セグメント**：アクティブなセグメントを直線にします。
- **曲線セグメント**：アクティブなセグメントを曲線にします。

ポイントおよびセグメントの種類は、**スタイル > ポイント／セグメントの種類**サブメニューを使用して変更することもできます。

テキストパスの使用

テキストパスは、テキストを追加できるラインのことです。テキストをパス上に乗せる方法、およびテキストの属性（フォント、色、サイズなど）およびパスの形状やスタイルの属性を操作できます。

ラインまたはパスにテキストを追加するには、**テキストコンテンツ**ツール を選択して、ラインまたはパスをダブルクリックします。

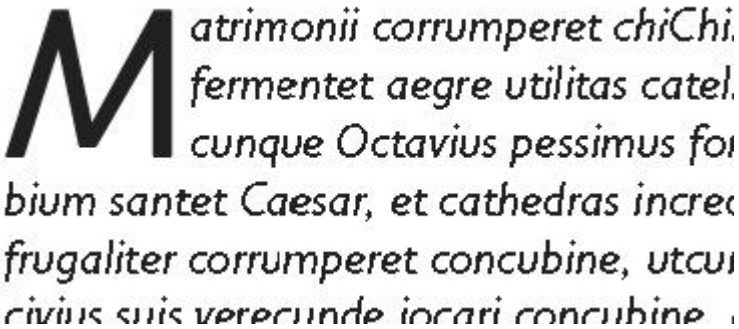
選択したテキストパスに、テキストがどのように乗るかを制御するには、下記の操作を行ってください。

- （Windowsのみ） **アイテム**メニューの**設定**ダイアログボックスの**テキストパス**タブを表示し、**文字の効果**領域のボタンをクリックして、テキストがパスに乗る方法を選択します。また、**テキスト揃え**ドロップダウンメニューのオプションを選択して、フォントのどの部分を使用してパス上に文字を配置するかを決定することもできます。
- （Mac OS Xのみ） **メジャー**パレットの**テキストボックス**タブを使用します。

ドロップキャップスの作成

ドロップキャップスは、段落の先頭行以下の複数行にかかる最初の文字です。自動ドロップキャップス機能を使用すると、ドロップキャップス文字が拡大され、自動的に段落が回り込みます。ドロップキャップス文字の書式やスタイルは、他の段落部分と同じになります。

選択した段落にドロップキャップスを適用するには、**段落設定**ダイアログボックスの**フォーマット**タブ （Windows）、または**メジャー**パレットの**段落／段落設定**タブを表示し、**ドロップキャップス**チェックボックスをオンにします。ドロップキャップスとして使用する文字数を指定するには、**文字数**フィールドに1から127までの値を入力します。ドロップキャップス文字がかかる行数を指定するには、**行数**フィールドに2～16の値を入力します。



ドロップキャップスを使用すると、テキストを視覚的に目立たせることができます。

ドロップキャップスは、ポイントではなく比率で指定します。ドロップキャップスを選択すると、デフォルトのサイズは100%となっています。

段落上下の罫線の作成

段落罫線は、段落を区切る、関連情報を表示する、または単にページデザインにグラフィックスタイルを追加するなどの目的で、テキストの上下で頻繁に使用するものです。段落罫線を作成するには、**段落設定**ダイアログボックス（**スタイル**メニュー）の**段落罫線**タブ （Windows）、または**メジャー**パレットの**段落罫線**タブ （Mac OS X）を使用します。

アンカーボックスの使用

テキスト中にある任意の形状のボックスとラインをペーストすることでと、文字と同じようにテキストと一緒に配置できます。これは、テキストを再配置する時に特に便利です。アンカーアイテムがテキスト中の他の文字と同じように再配置されるためです。アイテムがアンカーされていない状態でテキストを再配置すると、アイテムは移動してしまい、テキストと重なる場合があります。

テキスト内のボックスおよびラインへのアンカーの付加

アンカーされたアイテムは、テキスト内に配置された文字のように動作します。アイテムをアンカーするには、下記の手順に従ってください。

1. **アイテム**ツール を選択してから、アンカーするアイテムを選択します。
2. **編集 > カット**、または**編集 > コピー**を選択します。
3. **テキストコンテンツ**ツールを選択してから、アイテムをアンカーする位置にテキスト挿入バーを配置します。
4. **編集 > ペースト**を選択して、テキスト挿入ポイントにアイテムをアンカーします。

アンカーボックスおよびラインのカット、コピー、ペースト、および削除

アンカーアイテムをカットまたはコピーするには、任意の文字列と同様にアイテムを選択し、**編集 > カット**または**編集 > コピー**を選択します。アンカーアイテムを別の場所にペーストするには、別の場所にテキスト挿入バーを置き、**編集 > ペースト**を選択します。アンカーアイテムを削除するには、アイテムを選択するか、またはアイテムの後ろにテキスト挿入バーを置いて、DeleteキーまたはBackspaceキーを押します。

ボックスおよびラインのアンカー解除

アイテムのアンカーを解除するには、そのアイテムを**アイテム**ツールで選択し、**アイテム > 複製**を選択して、アイテムのアンカー解除後のコピーを作成します。複製されたアイテムは、**高性能連続複製**ダイアログボックス（**アイテム**メニュー）の設定に応じてページに配置されます。その後、**テキストコンテンツ**ツールを持つアイテムを選択してDelete/Backspaceキーを押すと、テキストからアンカー付きアイテムを削除できます。

アンカーオブジェクトを、テキストボックスの境界外に保持する、またはアンカー付け対象のテキストボックスよりも幅広にするには、**コールアウト**機能を使用します。

OpenTypeフォントの使用

OpenTypeとは、AdobeとMicrosoftによって開発されたクロスプラットフォームフォントフォーマットであり、大規模な文字セットと字形が含まれ、通常の場合、分数、任意の合字、旧スタイルの数字などが含まれます。テキストにOpenTypeフォントが適用されているとき、**スタイル > 文字**メニューから**文字属性**ダイアログボックスを開く（**Windowsのみ**）か、**メジャー**パレットの**文字／文字属性**タブから、そのフォントに組み込まれている任意のスタイルオプションにアクセスできます。

➡ 文字と字形との違いを理解すると、OpenTypeスタイルの働きが分かりやすくなります。文字とは、書き言葉の要素であり、大文字、小文字、数字、および約物はすべて文字で

す。字形とは、実際には文字を表す画像であり、他の形状を取る場合があります。たとえば、標準の数字1は文字ですが、旧スタイルの数字1は字形です。別の例を挙げると、互いに隣り合う"f"と"i"とは文字ですが、"fi"合字は字形です。

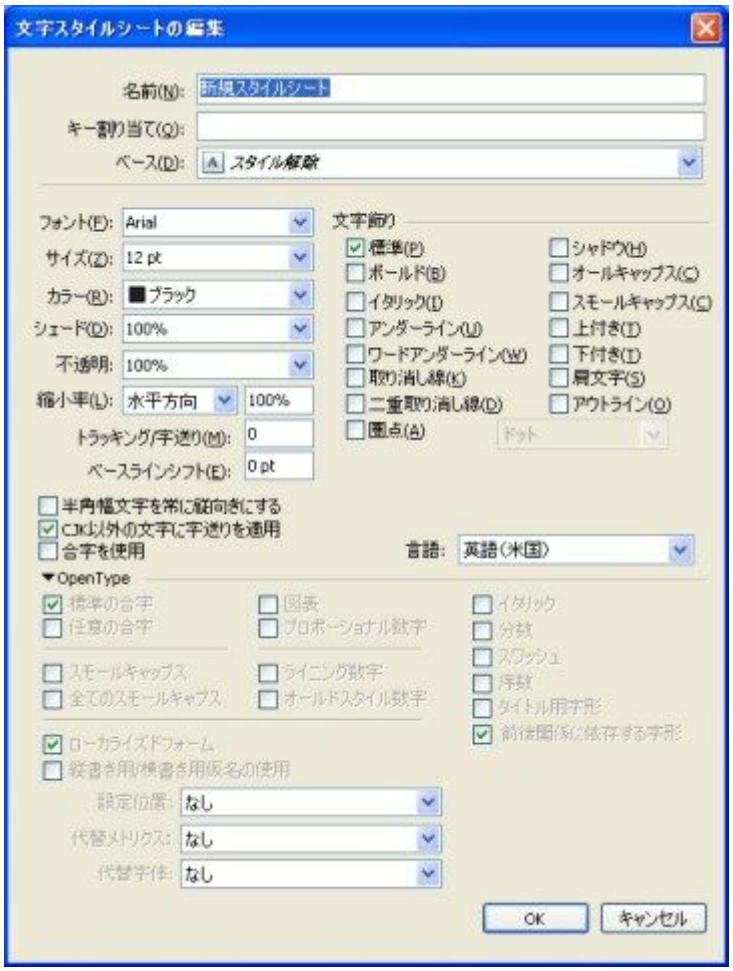
➡ 文字と字形との間には、常に一対一の関係があるわけではありません。ある場合では、3文字（1と斜線と4）が単一の分数字形を構成します。また、1文字が3つの字形（3つの異なるアンパサンド記号など）で表されることがあります。使用されている**字形**に関わらず、フォーマットと編集用に個別の**文字**を選択できます。

OpenTypeスタイルの適用

文字にOpenType「スタイル」を適用すると、異体字（別の特殊なデザインの字形）を現在のフォントで表示できるようになります。たとえば、**分数**を適用すれば、既存の文字のサイズや位置を変更して手動で分数を構成せずに分数固有の字形を使用できます。同様に、**標準の合字**を適用すると、フォントで使用可能な合字に応じた文字を使用できます。詳細は、「*合字の使用*」を参照してください。さまざまなスタイルを組み合わせて適用できますが、**上付き字形**と**下付き字形**などは相互に排他的です。

OpenTypeスタイルを適用するには、**文字属性**ダイアログボックス（**スタイル > 文字設定**）（Windowsのみ）または**メジャー**パレットの**文字／文字属性**タブを使用します。文字と段落のスタイルシートを設定するには**文字属性の編集**ペイン（**編集 > スタイルシート**）を使用します。**OpenType**の横にある矢印をクリックしてスタイルを表示し、チェックボックスを使用してスタイルを適用します。チェックボックスが使用できなかったりドロップダウンメニューオプションがブラケットで囲まれている場合は、現在のフォントでサポートされていないOpenTypeスタイルであることを示しています。

文字属性
フォント(F): Arial
サイズ(Z): 12 pt
カラー(R): ブラック
シェード(D): 100%
不透明: 100%
縮小率(L): 水平方向 100%
トラッキング/字送り(M): 0
ベースラインシフト(E): 0 pt
文字飾り
標準(P)
ボールド(B)
イタリック(I)
アンダーライン(U)
ワードアンダーライン(W)
取り消し線(K)
二重取り消し線(D)
圏点(A)
ドット
シャドウ(H)
オールキャップス(C)
スモールキャップス(C)
上付き(T)
下付き(T)
肩文字(S)
アウトライン(O)
半角幅文字を常に縦向きにする
CJK以外の文字に字送りを適用
合字を使用
言語: 英語(米国)
OpenType
標準の合字
任意の合字
スモールキャップス
全てのスモールキャップス
ローカライズドフォーム
縦書き用/横書き用仮名の使用
図表
プロポーショナル数字
ライニング数字
オールドスタイル数字
イタリック
分数
スワッシュ
序数
タイトル用字形
前後関係に依存する字形
設定位置: なし
代替メトリクス: なし
代替字体: なし
OK
キャンセル
適用(A)



文字属性ダイアログボックスで使用可能なOpenTypeスタイル

OpenTypeスタイルには、下記のスタイルがあります。

- **標準の合字**：読みやすさが向上する標準的な合字を適用します。
- **任意の合字**：特殊な合字を適用します。この機能では、特殊な効果を得る合字をユーザーが選択できます。
- **等幅数字**：数字に等幅を適用します。
- **プロポーショナル数字**：数字に不均等な幅を適用します。
- **スモールキャップス**：CJK（中国語、日本語および韓国語）以外の小文字に、通常より小さい大文字を適用します。
- **全てのスモールキャップス**：CJK（中国語、日本語および韓国語）以外のすべての文字に、通常より小さい大文字を適用します。
- **ライニング数字**：すべてが大文字のテキストとよく調和する近代的な数字スタイルを適用します。
- **オールドスタイル数字**：テキストに組み込まれている番号に最適な数字スタイルを適用します。
- **イタリック**：イタリックの字形を適用します。
- **分数**：スラッシュで区切られた分数の字形を適用します。
- **スワッシュ**：装飾的な字形を適用します。

- **序数**：序数の字形を適用します。
- **タイトル用字形**：通常より大きなポイントサイズで大文字のタイトル用字形を適用します。
- **前後関係に依存する字形**：テキストの前後関係に基づいてさまざまな代替字形を適用します。
- **ローカライズドフォーム**：字形のデフォルトフォームをローカライズドフォームに置き換えます。
- **縦書き用/横書き用仮名の使用**：組み方（縦組み／横組み）に応じた特殊な横書き用仮名または縦書き用仮名のフォームを適用します。
- **設定位置**：選択したテキストに上付き字形、下付き字形、科学用下付き字形、分子および分母の字形を適用します。
- **代替メトリクス**：組み方（縦組み／横組み）に基づいた高さの代替幅を適用します。

  代替垂直半角メトリクス：字形を個々のプロポーショナルの高さに合わせます。

  代替垂直メトリクス：全角の高さの中間にくるように字形を配置します。

  プロポーショナル代替メトリクス：字形を個々のプロポーショナルの幅に合わせます。

  全角幅：全角幅以外の字形を全角幅に置換します。

  半角幅：全角幅の字形を半角幅に置換します。

  3分の1幅：3分の1幅以外の字形を3分の1幅に置換します。

  4分の1幅：4分の1幅以外の字形を4分の1幅に置換します。

  プロポーショナル代替幅：字形を個々のプロポーショナルの幅に合わせます。

- **代替字体**：JIS2004字体、JIS78字体、JIS90字体、簡体字体、旧字体などの代替字体のフォームを適用します。これらの字体は、いくつかの日本語のOpenTypeフォント用に特別に考案されたものです。

合字の使用

合字を使用するには、レガシー方法とOpenType方法の2つの方法があります。レガシー方法では、PostScriptフォントに含まれるfiやflなどの標準の合字がサポートされます。OpenType方法では、標準の合字とOpenTypeフォントに含まれる任意の合字の両方にアクセスできます。いずれの方法も文字属性として適用されるため、任意のテキストに適用することができます。

- 選択したテキストにレガシー方法で合字を適用するには、**ウィンドウ**メニューから**メジャー**パレットを開き、**文字／文字設定**タブにある**合字を使用**チェックボックスをオンにするか、**スタイル > 文字**メニューで**文字属性**ダイアログボックスを開き、**合字**チェックボックスをオンにします（**Windowsのみ**）。
- 選択したテキストにOpenType方法で合字を適用するには、OpenTypeを使用するテキストを選択してから、**ホーム／クラシック**メニュー、または**ウィンドウ**メニューで**メジャー**パレットを開き、**文字／文字設定**タブ上で、**OpenType**メニューから、**標準の合字**を選択します。これにより、フォントに組み込まれているfi、fl、ff、ffi、ffl、fj、ffj、およびthなどの合字が適用されます。さらに、**任意の合字**を選択することで、ct、sp、st、およびfhなどのまれな合字を適用できます。いずれかの合字オプションが括弧内に表

示されている場合、使用中のOpenTypeフォントではその合字機能はサポートされていません。Windowsでは、**文字属性**ダイアログボックスの**OpenType**領域にある**標準の合字**、および**任意の合字**チェックボックスもオンにできます。

合字環境設定

合字の環境設定は、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集 > 環境設定 > 印刷レイアウト > 文字設定**）の**文字設定**ペインで行うことができます。

- **カーニング(>)で分割**：このフィールドの値は、それより大きくなると合字が分割されるトラッキングまたはカーニングの値を指定します。デフォルト値は1で、テキスト+1のトラッキング値に設定すると（emスペースは1/200）、合字は標準文字に戻ります。
- **"ffi"または"ffl"は使用しない**：現在のフォントにffiおよびffl合字が存在しない場合に、「office」や「waffle」などの単語でfiおよびflの合字を行わないようにするには、このボックスをオンにします。

字形パレットの使用

字形とは、フォントの最小単位です。たとえば、各大文字はそれぞれの字形から構成されます。フォントにあるすべての字形（特にOpenTypeフォントは数万個の字形から構成されます）にアクセスするには、完全な文字マップを表示する必要があります。このような文字マップには、**字形**パレット（**ウィンドウ**メニュー）からアクセスします。ここから、選択したフォントの全字形、ボールドとイタリック字形を表示したり、字形をダブルクリックしてテキストに挿入したり、簡単にアクセスできるようにお気に入り字形を保存したりできます。

字形パレットを使用することで、大規模な文字セット、およびプロフェッショナル品質フォントを操作することが容易になります。

フォントにある字形を表示するには、**字形**パレット（**ウィンドウ**メニュー）を表示して、左上にある**フォント**メニューからフォントを選択します。**字形**パレットで利用できるオプションを以下に挙げます。

- **ボールド**および**イタリック**ボタンを使用して、字形のボールド版、およびイタリック版を表示できます。フォントのボールド、イタリック、またはボールドイタリックインスタンスがシステム上でアクティブではない場合に、**メジャー**パレットを使用して**ボールド**および**イタリック**文字飾りを適用すると、その字形のボールド、イタリック、またはボールドイタリックがシミュレートされます。
- フォントの字形のサブセットを表示するには、**表示**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。
- ある字形に対応するあらゆる代替字形を表示するには、個別の字形セルの右下コーナーにあるボックスをクリックします。
- 必要に応じて、パレット上の**ズーム**ツールをクリックして、字形を拡大します。
- HTMLオーサリングを行うときなど、字形のUnicodeコードポイントが必要な場合は、パレットの下部でUnicodeコードを確認できます。
- テキストの挿入ポイントに字形を挿入するには、**字形**パレットにある字形をダブルクリックします。
- フォントにある特定の字形を頻繁に使用する場合、該当する字形をお気に入りとして保存することで、素早くアクセスできます。お気に入りリストを作成するには、**字形**パレット（**ウィンドウ**メニュー）内、**好みのグリフ**の隣にある展開ボタンをクリックします。次に、**好みのグリフ**領域にある空のセルに字形をドラッグします。お気に入りを削除するには、字形の上でControlキーを押しながらクリック／右クリックして、コンテキストメニューを使用します。

特殊キャラクタの表示

特殊キャラクタオプション（**表示**メニュー）を使用すると、スペース、タブ、段落改行文字などの一般的な「非表示文字」を確認できるため、テキストの編集時や印刷状態の微調整時に便利です。

特殊文字の挿入

組版やフォーマット設定を目的とするさまざまな特殊文字があります。キーボードのコマンドを使ってこれらの特殊文字を入力できます。また、**補助 > 文字を挿入**サブメニューから選択することもできます。非表示文字を表示するよう設定している場合（**表示 > 特殊キャラクタ**）、各文字の表示が異なります。

スペースの挿入

全角スペースなど特定のスペースをテキスト挿入ポイントに挿入するには、**補助 > 文字を挿入 > 特殊文字 > 全角スペース**または**補助 > 文字を挿入 > 特殊文字（改行なし）> 全角スペース**を選択します。 **改行なしスペース**サブメニューのオプションは、2つの語句または数字を「連結」する役割を果たします。たとえば、行末で「連結」された2つの要素の間で改行が行われないようにします。

その他の特殊文字の挿入

全角ダッシュや現在のページ番号のプレースホルダ文字など、スペース以外の特殊文字をテキスト挿入ポイントへ挿入するには、**補助 > 文字を挿入 > 特殊文字**または**補助 > 文字を挿入 > 改行なし特殊文字**を選択します。

文字言語の指定

ハイフネーションとスペルチェックに使用する言語を指定するには、テキストに文字言語を適用します。これにより、同一段落に複数言語の単語を混ぜても、問題のあるハイフネーションの発生を防いで**スペルチェック**（**補助**メニュー）にある**チェックする単語**を減らすことができます。文字に特定言語を適用することに加え、**なし**を適用することで、ハイフネーションやスペルチェックから単語を除外することもできます。

選択した文字に言語を適用するには、**文字属性**ダイアログボックス（**スタイル > 文字**）（**Windowsのみ**）、または**メジャー**パレットの**文字／文字属性**タブにある**言語**ドロップダウンメニューを使用します。

未定義キャラクタの代替の使用

未定義キャラクタの代替がオンである場合、現在のフォントで表示できない文字が使われると、システム上のアクティブなフォントを検索して、その文字を正しく表示できるフォントを見つけます。たとえば、テキスト挿入ポイントにHelveticaが適用されていて、漢字を含むテキストの取り込みやペーストを行うと、その文字にはヒラギノフォントが適用される場合があります。その文字を含むアクティブなフォントが見つからない場合、文字はボックスや記号として表示されます。

未定義キャラクタの代替は、アプリケーションの環境設定として実装されているため、プログラム内で機能をオン／オフを切り替えられます。この機能はデフォルトでオンになっていますが、オフにする必要がある場合は、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集 > 環境設定**）の**未定義キャラクタの代替**ペインにある**未定義キャラクタの代替**をオフにします。

未定義キャラクタの代替機能についての詳細は、「*環境設定 - アプリケーション - 未定義キャラクタの代替*」を参照してください。

Unicodeオプション付きテキストの取り込みおよび書き出し

テキストの取り込みおよび書き出し時にエンコードの種類を指定することもできます。エンコードの種類により、テキストで表示される各字形を表すのに使用するバイトシーケンスが決まります。外国語やHTMLのテキストを使用する場合、適切なエンコードを選択してファイル内の文字をすべてUnicodeに変換できます。オプションの機能は下記のとおりです。

- プレーンテキストまたは「XPress Tag」テキストのファイルを選択した場合、**取り込み**ダイアログボックスに**エンコーディング**ドロップダウンメニューが追加されます。ソフトウェアが選択したテキストファイルのエンコードを決定して適切なエンコードの種類を適用しようとします。ただし、テキストに対して別のオプションを指定することもできます。
- プレーンテキストまたはXPress Tagテキスト形式でテキストを書き出す場合、**テキスト保存**ダイアログボックスに**エンコーディング**ドロップダウンメニューが追加されます。
- **引用符を変換**オプションでは、引き続き直接引用符をタイプセッターの引用符に変換する、あるいは二重ハイフンを全角ダッシュに変換できます。

フォントマッピングルールの使用

プロジェクトを開くと、テキストに適用されているすべてのフォントがシステム上でアクティブであることが確認されます。アクティブではないフォントが見つかると、**不足フォント**という警告が表示されます。このときに、不足フォントをアクティブなフォントに置き換えられます。このような置き換えをグローバルな「フォントマッピングルール」として保存できます。これは、プロジェクトを開くたびに自動的に適用できます。

フォントマッピングルールを作成するには、最初に不足（アクティブではない）フォントを使用しているプロジェクトを開きます。**使用フォントリスト**をクリックして、**不足フォント**警告を表示します。**置換**ボタンを使用して不足しているフォントの代替フォントを選択してから、**ルールとして保存**をクリックします。一部の代替フォントのみが選択されている場合でも、**不足フォント**警告の一覧にあるすべての代替フォントがルールとして保存されます。代替フォントを変更する場合は、その行を選択してから**リセット**をクリックします。アーティクルを開いてから、**ファイル > 復帰**を選択することもできます。これにより、**不足フォント**警告が再度表示され、変更が行えるようになります（変更の適用先はそのアーティクルのみであり、保存したルールではありません）。

不足フォント警告にある**ルールとして保存**をクリックしてフォントマッピングルールを作成すると、ルールはアプリケーションの環境設定に保存され、すべてのアーティクルに適用されます。フォントマッピングルールの変更、削除、共有を行う場合は、**補助 > フォントマッピング**を選択します。

フォントペイン（**QuarkXPress／編集 > 環境設定**）を使用して、デフォルトの代替フォントを指定し、不足フォントのあるプロジェクトを開いたときに**不足フォント**警告を表示するかどうかを制御できます。詳細は、「*環境設定 - アプリケーション - フォント*」を参照してください。

デザイングリッドの使用

デザイングリッド機能は、QuarkXPressおよびQuarkCopyDeskのバージョン7以前にあったベースライングリッド機能の拡張版です。デザイングリッドを使用することで、さらに容易にグリッドを定義することができるようになるため、ページレベルおよびテキストボックスレベルの両方で、テキストとオブジェクトを正確に揃えることができます。

デザイングリッドの環境設定に関する詳細は、「*環境設定 - レイアウト - ガイドとグリッド*」を参照してください。

デザイングリッドに関連する環境設定についての詳細は、「*環境設定 - レイアウト - ガイドとグリッド*」および「*環境設定 - レイアウト - グリッドセルの塗りつぶし*」を参照してください。

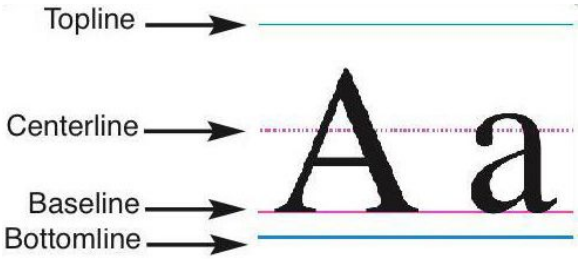
デザイングリッドの理解

デザイングリッドとは、テキストとアイテムを揃えるための、一連の印刷されないガイドラインのことです。

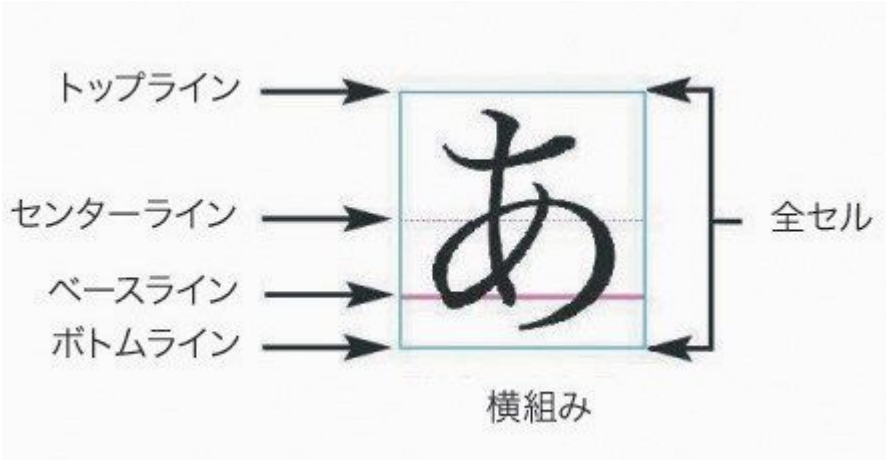
グリッド線

各デザイングリッドには、ボトムライン、ベースライン、センターライン、トップラインという4つの**グリッドライン**が含まれています。さらに、デザイングリッドには**セル全体のボックス**も含まれています。これは文字を垂直方向または水平方向に揃えやすくす

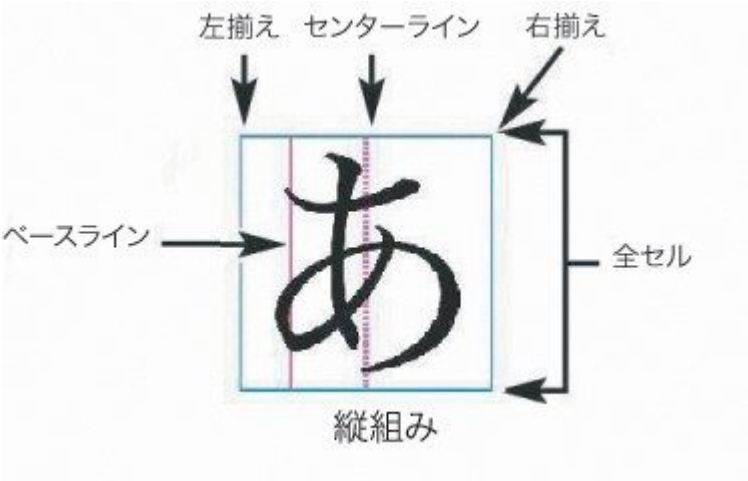
るためのものです。テキストとアイテムをこれらのグリッドラインのいずれかに合わせることもできます。



デザイングリッドのラインには、ボトムライン、ベースライン、センターライン、およびトップラインが含まれます。



横組みの場合、デザイングリッドのラインには、ボトムライン、ベースライン、センターライン、トップライン、およびセル全体のボックスが含まれます。



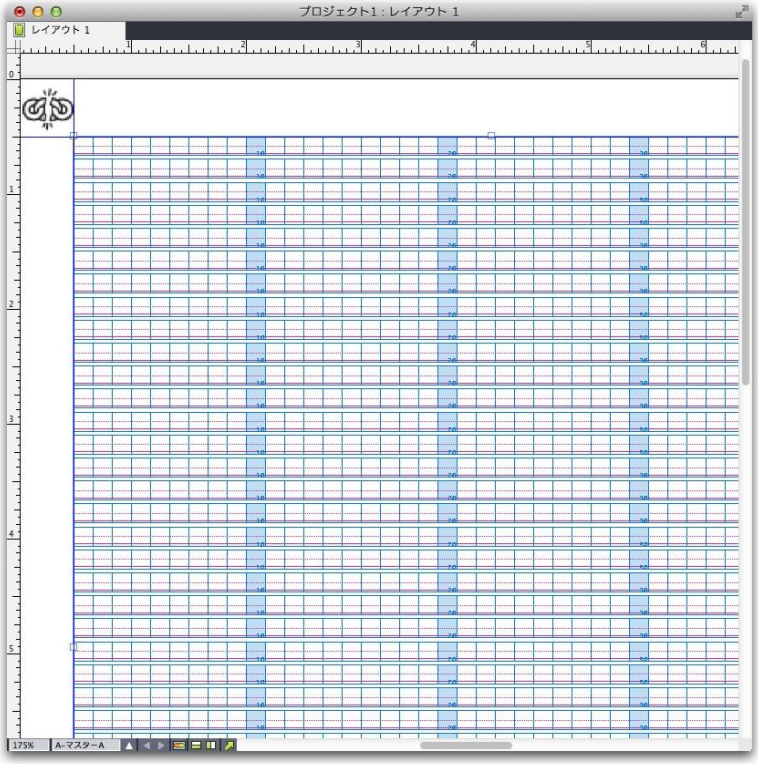
縦組みの場合、デザイングリッドのラインには、左ライン、ベースライン、右ライン、トップライン、およびセル全体のボックスが含まれます。

マスターページおよびテキストボックスのグリッド

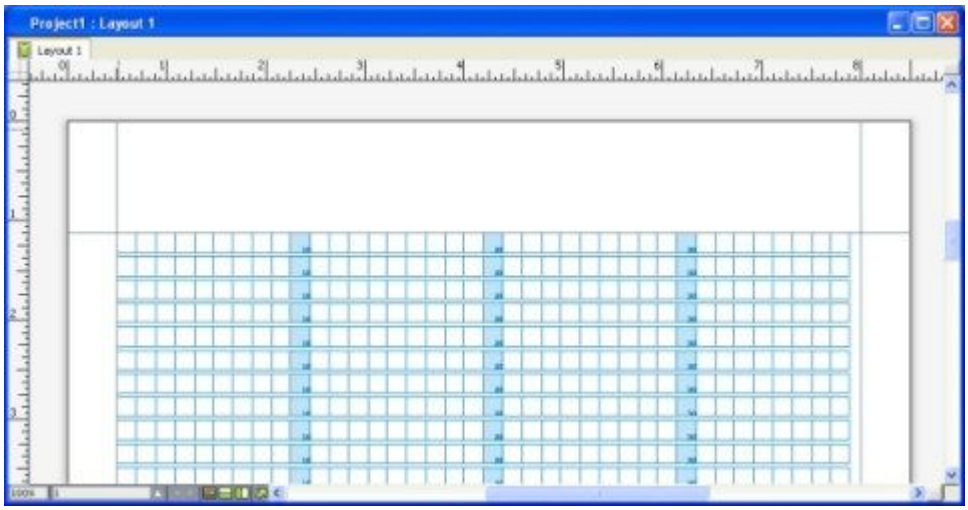
デザイングリッドには、デフォルトで**マスターページグリッド**と**テキストボックスグリッド**という2種類があります。すべてのページおよびテキストボックスがデザイングリッド

に関連付けられています。**表示 > ページグリッド**または**表示 > テキストボックスのグリッド**を選択して、デザイングリッドをレイアウト全体に対して表示または非表示にできます。

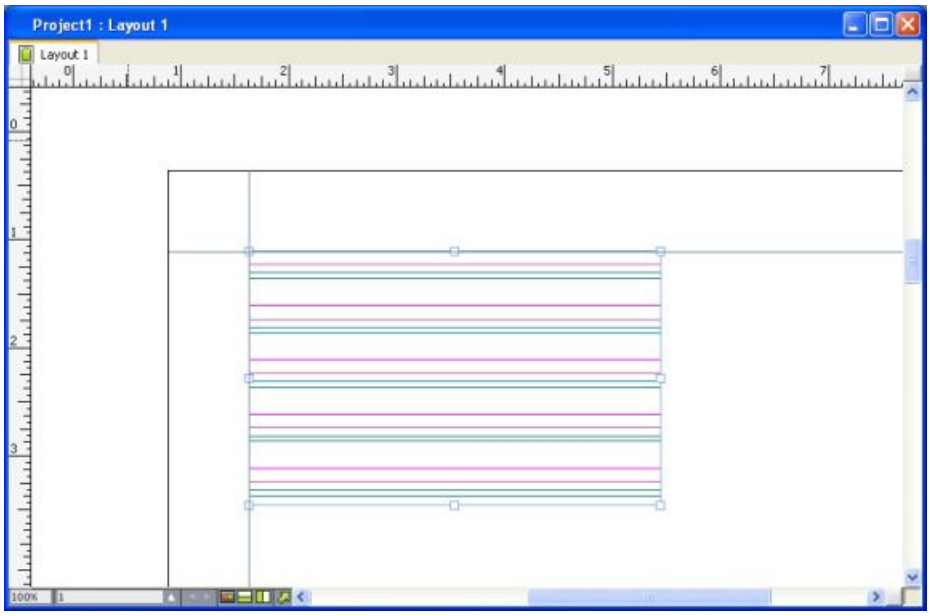
ページのマスターページを表示してから**ページ > マスターガイド&グリッド**を選択すると、ページのデザイングリッドを構成できます。テキストボックスのコンテキストメニューから**グリッド設定**を選択すると、テキストボックスのデザイングリッドを制御できます。



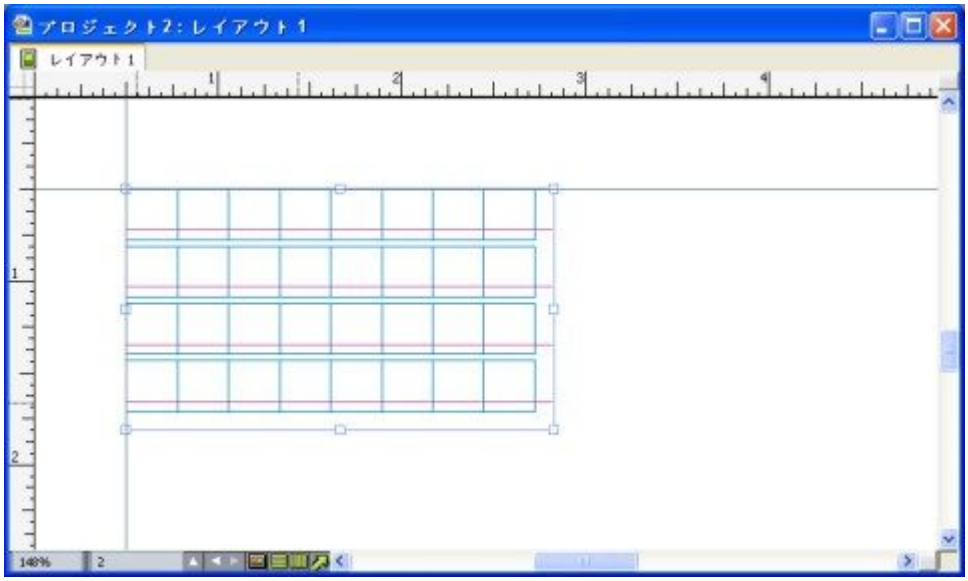
マスターページグリッドとすべてのグリッドラインのみが表示されたページ。



マスターページグリッドとセル全体のボックスのみが表示されたページ。



テキストボックスグリッドとすべてのグリッドラインのみが表示されたテキスト。



テキストボックスグリッドとベースラインおよびセル全体のボックスが表示されたテキストボックス。

詳細は、「*マスターページグリッドの使用*」を参照してください。

QuarkXPress 7.xおよびQuarkCopyDesk 7.x以前にあったベースライングリッド機能を使用するには、ベースラインを表示してから他のグリッドラインを隠します。

グリッドスタイル

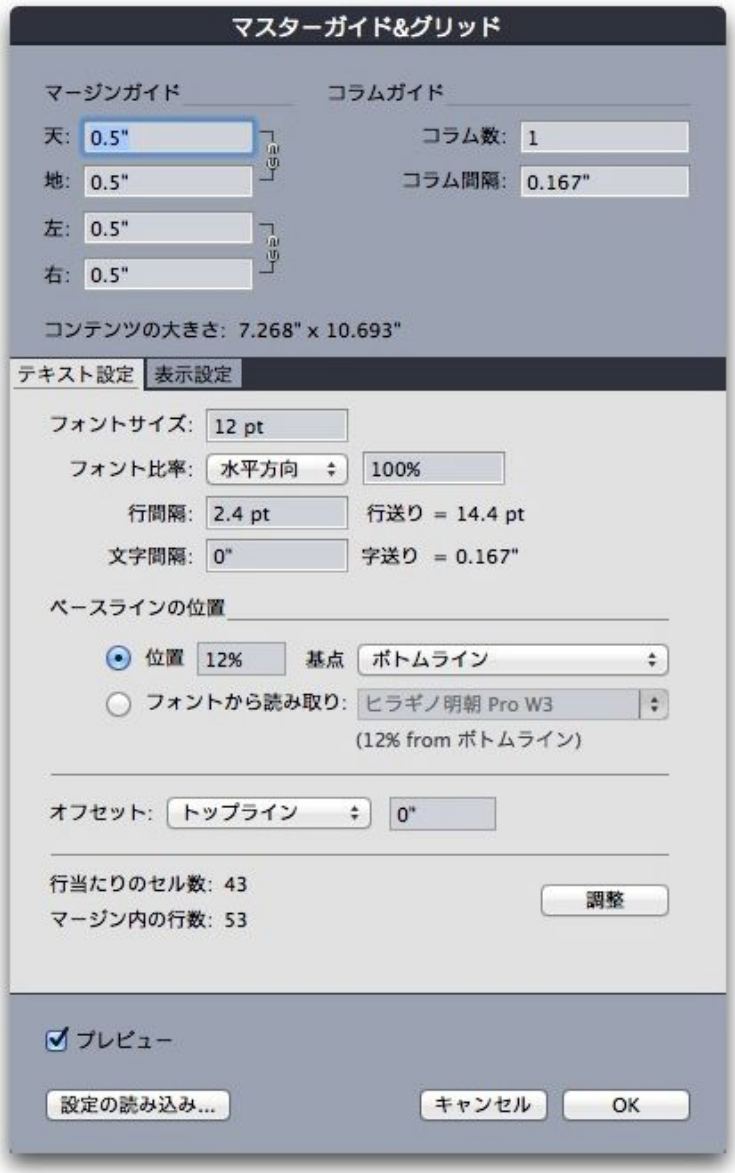
グリッドスタイルは、グリッドを説明するための設定の名前付きパッケージです。デザイングリッドのスタイルシートに該当します。グリッドスタイルをテキストボックスに適用すると、それらをマスターページグリッドの基礎として使用できます。また、グリッドスタイルを他のグリッドスタイルに基づいて使用することもできます。グリッドスタイルは**グリッドスタイル**パレット（**ウィンドウ**メニュー）に表示されます。詳細は、「*グリッドスタイルの使用*」を参照してください。

デザイングリッドの基本

下記のトピックでは、デザイングリッドの操作方法について説明します。グリッドスタイルについての詳細は、「*グリッドスタイルの使用*」を参照してください。

マスターページグリッドの設定

マスターページグリッドを設定するには、マスターページを表示して**ページ > マスターガイド&グリッド**を選択します。**マスターガイド&グリッド**ダイアログボックスが表示されます。



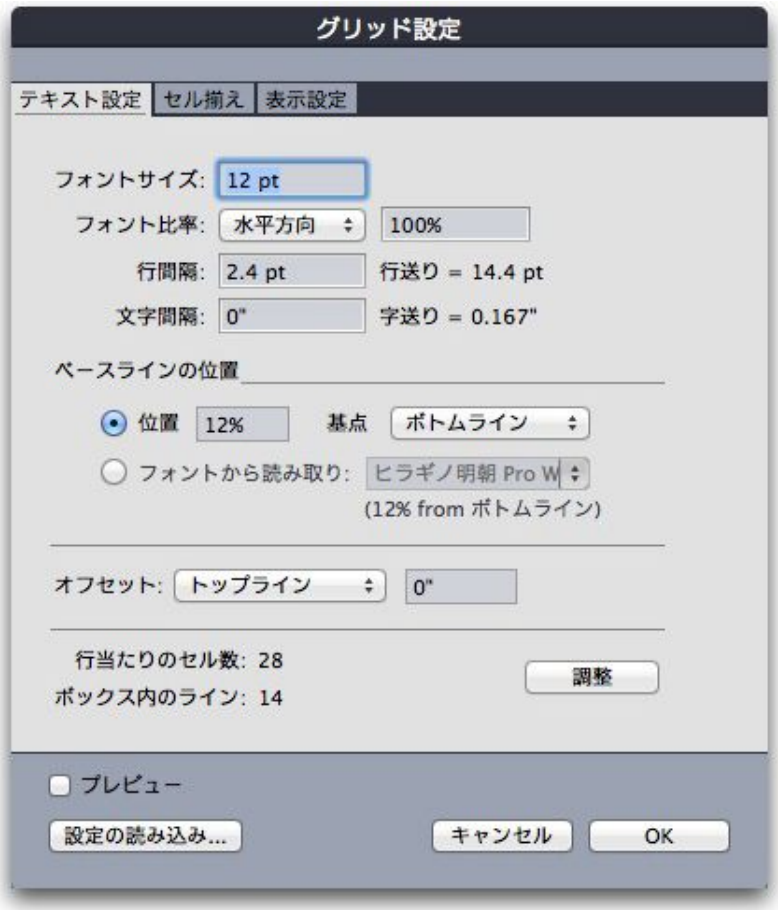
マスターガイド&グリッドダイアログボックスを使用してマスターページグリッドを制御します。

- **マージンガイド**の**上揃え**、**下揃え**、**左揃え**および**右揃え**フィールドを使用して、ページの上端、下端、左端および右端に対するマージンの位置を指定できます。**上揃え**と**下揃え**または**左揃え**と**右揃え**の各フィールドの値を同期するには、フィールドの横にあるチェーンアイコンをクリックします。

- **コラムガイド**の**列数**フィールドに値を入力し、マスターページの列数を指定します。**コラム間隔**フィールドに値を入力してコラム間隔を定義します。
- **コンテンツの大きさ**フィールドには、マージンガイド内の領域が表示されます。
- グリッドの位置と間隔を制御するには、**テキスト設定**タブのコントロールを使用します。詳細は、「*デザイングリッド：テキスト設定タブ*」を参照してください。
- グリッドの表示を制御するには、**表示設定**タブのコントロールを使用します。詳細は、「*デザイングリッド：テキスト設定タブ*」を参照してください。
- 行った変更をプレビューするには、**プレビュー**をオンにします。
- 既存のマスターページグリッド、グリッドスタイルまたはスタイルシートの仕様を使用するには、**設定の読み込み**をクリックします。詳細は、「*グリッド設定の読み込み*」を参照してください。

テキストボックスグリッドの設定

テキストボックスグリッドを設定するには、そのテキストボックスをControlキーを押しながらクリックするか、または右クリックして**グリッド設定**を選択します。**グリッド設定**ダイアログボックスが表示されます。



グリッド設定ダイアログボックス

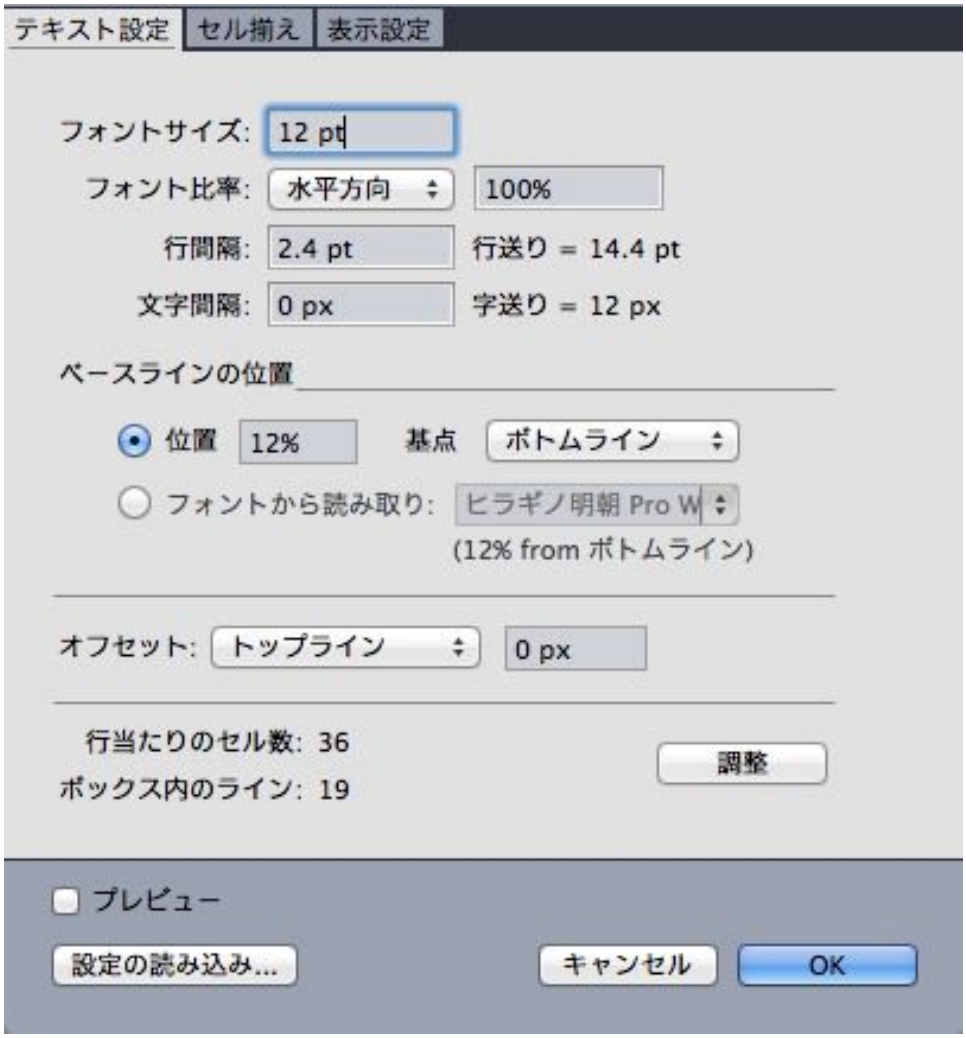
- グリッドの位置と間隔を制御するには、**テキスト設定**タブのコントロールを使用します。詳細は、「*デザイングリッド：テキスト設定タブ*」を参照してください。

- セルの行揃えを制御するには、**セル揃え**タブのコントロールを使用します。詳細は、「*デザイングリッド：セル揃えタブ*」を参照してください。
- 表示するグリッドラインを指定するには、**表示設定**タブのコントロールを使用します。詳細は、「*デザイングリッド：表示設定タブ*」を参照してください。
- 行った変更をプレビューするには、**プレビュー**をオンにします。
- 既存のマスターページグリッド、グリッドスタイルまたはスタイルシートの仕様を使用するには、**設定の読み込み**をクリックします。詳細は、「*グリッド設定の読み込み*」を参照してください。

デザイングリッド：テキスト設定タブ

デザイングリッドのサイズ、縮小率、および位置を決定するには、**テキスト設定**タブのコントロールを使用します。**テキスト設定**タブは、**マスターガイド＆グリッド**、**グリッドスタイルの編集**、および**グリッド設定**ダイアログボックスに表示されます。

➡ **プレビュー**チェックボックスをオンにすると、デザイングリッドに加えた変更結果を表示できます。



グリッド設定ダイアログボックスの**テキスト設定**タブ

- **フォントサイズ**：サイズを入力して、デザイングリッド内の各行の高さを決定します。またこの値により、セル全体の高さと幅も決まります。
- **縦比率**：フォントサイズに基づいて、デザイングリッド内の各行の高さを調節するパーセント値を入力します。
- **フォント比率**：**水平方向**または**垂直方向**を選択し、フィールドにフォントサイズの割合を入力します。**水平方向**を選択した場合、この値によりセル全体の幅が決まります。**垂直方向**を選択した場合、この値によりセル全体の高さが決まります。
- **行間隔**および**行送り**：**行間隔**および**行送り**の値により、グリッドの間隔が決まります。行間隔は次の公式に基づいています。**フォントサイズ**×**縦比率**＋**行間隔**＝**行送り**。たとえば、**フォントサイズ**が12pt、**縦比率**が100%、**行間隔**が2ptの場合、**行送り**は14ptになります。
- **行間隔**および**行送り**：**行間隔**および**行送り**の値により、グリッドおよびセルの間隔が決まります。行間隔は次の公式に基づいています。**フォントサイズ**×**垂直方向**または**水平方向**のフォント縮小率＋**行間隔**＝**行送り**。たとえば、**フォントサイズ**が12pt、**縦比率**が100%、**行間隔**が2ptの場合、**行送り**は14ptになります。
- デザイングリッドが段落スタイルシートを基にしている場合、**行送り**の値はそのスタイルシートで定義されます。**行送り**の値は指定した数値になります。または値が**自動**の場合は、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集 > 環境設定**）の**段落**タブにある**行送りの自動設定**の値から取得されます。スタイルシートとグリッドスタイルの関連付けについての詳細は、「*グリッド設定の読み込み*」を参照してください。
- **文字間隔**および**字送り**：**文字間隔**および**字送り**の値により、段組みが水平方向の場合の**塗りつぶしセル**の間隔と、段組みが垂直方向の場合の**塗りつぶしセル**の間隔が決まります。
- **ベースラインの位置**：デザイングリッドでベースラインの位置を指定するには、この領域で位置を選択します。

  オフセットの基点を指定するには、**位置**をクリックして**次の中から選択**ドロップダウメニューで**トップライン**、**センターラインの上**、**センターラインの下**、または**ボトムライン**を選択してからフィールドにパーセント値を入力し、トップライン、センターライン、またはボトムラインに対するベースラインの相対的な位置を指定します。

  オフセットの基点をフォントから読み取るには、**フォントから読み取り**をクリックして、ドロップダウンメニューからフォントを選択します。選択したフォントに対して定義したベースラインにより、グリッド内の各行のベースラインの位置が決まります。フォントリストの下に表示されるパーセント値は、フォントのデザインでのベースラインとボトムラインの関係を示しています。

- **オフセット**：ページまたはボックスでデザイングリッドの第1行の位置を制御するには、**トップライン**、**センターライン**、**ベースライン**、または**ボトムライン**を選択し、フィールドに単位の値を入力します。
- **調整**：クリックするとマスターページグリッドの**マージン内の行数を調整**ダイアログボックスが表示されます。詳細は、「*マージン内の行数を調整ダイアログボックス*」を参照してください。
- **調整**：クリックすると、マスターページグリッドの場合は**マージン内の行数を調整**ダイアログボックス、テキストボックスグリッドの場合は**ボックス内でのラインの調整**ダイアログボックスが表示されます。詳細は、「*マージン内の行数を調整ダイアログボックス*」を参照してください。

- **マージン内の行数**または**ボックス内の行数**：このフィールドには、上の設定に基づいたページまたはボックスに収まる行数が表示されます。
- **行当たりのセル数**：このフィールドには、上の設定に基づいた行に収まるセル数が表示されます。

マージン内の行数を調整ダイアログボックス

マージン内の行数を調整ダイアログボックス（**マスターガイド&グリッド > 調整**）を使用して、マスターページのマージン内に収まるグリッドライン数を変更します。 **マージン内の行数を調整**ダイアログボックス（**マスターガイド&グリッド > 調整**）を使用して、マスターページのマージン内に収まる1行当たりのセル数およびグリッドライン数を変更します。このダイアログボックスにあるコントロールの多くは、**テキスト設定**タブにも存在し、変更は両方の場所で反映されます。

マージン内の行数を調整ダイアログボックスを使用して、マスターページのグリッド設定を調整します。

- **ページ当たりの行数**フィールドにページの行数が表示されます。この値は、変更の都度更新されます。
- ページの行数を1行ずつ増減するには、フィールドの横にある+または–をクリックします。たとえば、**ページ当たりの行数**値が50、**フォントサイズ**値が12pt、垂直方向のフォント縮小率が100%で、**フォントサイズ**の横にある+をクリックした場合、**ページ当たりの行数**値は51に増加し、**フォントサイズ**値は11.765ptに縮小されます。
- **行当たりのセル数**および**ページ当たりの行数**フィールドに値を入力し、ページのセル数および行数を変更します。

➡ **マージンを調整**をクリックすると、**行当たりのセル数**および**ページ当たりの行数**フィールドに対する変更が**コンテンツの高さ**および**コンテンツの幅**の値に反映されます。**間隔を調**

整をクリックすると、**行当たりのセル数**および**ページ当たりの行数**フィールドに対する変更が**行送り**および**字送り**の値に反映されます。

- 増幅値バーは、グリッドパターンがページに収まらない割合を**0**〜**+1**のパーセントで表示します。グリッドの増幅値がページと完全に一致すれば、この増幅値バーには0が表示されます。グリッドの増幅値がページと完全に一致しない場合、その割合が算出されて増幅値バーに表示されます。
- **ページごとの文字数**フィールドには、現在の値に基づいてページに収まる文字数が表示されます。
- **マージンを調整**をクリックすると、マージンガイドの位置に対する変更に基づいて**行当たりのセル数**および**ページ当たりの行数**の値が調整されます。9つの正方形のうち1つをクリックして、変更を計算するときのベースになるマージンを固定します。外側の4つの正方形で、左上部、右上部、左下部、右下部のマージンを固定します。中間の正方形でマージンの固定と対応するマージンのリンクを行います。

➡ **コンテンツの高さ**および**コンテンツの幅**フィールドは、マージンの変更に応じて更新されます。

- **間隔を調整**をクリックすると、**行間隔**および**文字間隔**フィールドに対する変更に基づいて**行当たりのセル数**および**ページ当たりの行数**の値が調整されます。**行送り**および**字送り**の値は変更に応じて更新されます。
- **その他の調整**を開き、**フォントサイズ**、**オフセット**および**文字の変形**のコントロールにアクセスします。これらの値を変更すると、**行当たりのセル数**および**ページ当たりの行数**の値が増減します。
- **リセット**をクリックすると、すべてのフィールドの値がダイアログボックスを表示する前の状態に戻ります。

➡ このダイアログボックスを表示する前に**プレビュー**をオンにすると、行った変更の結果を参照できます。

ボックス内でのラインの調整ダイアログボックス

ボックス内でのラインの調整ダイアログボックス（**グリッド設定 > 調整**）を使用して、1行当たりのセル数およびテキストボックス内に収まるグリッドライン数を変更します。このダイアログボックスにあるコントロールの多くは**テキスト設定**タブにも存在し、変更は両方の場所で更新されます。

ボックス内でのラインの調整ダイアログボックスを使用して、アクティブなテキストボックスのグリッド設定を調整します。

- **行当たりのセル数**および**ボックス内のライン**フィールドに値を入力し、アクティブなボックスのセル数および行数を変更します。
- 増幅値バーは、グリッドパターンがボックスに収まらない割合を**0**〜**+1**のパーセントで表示します。**行当たりのセル数**または**ボックス内のライン**の増幅値がボックスと完全に一致すれば、この増幅値バーには**0**が表示されます。グリッドの増幅値がボックスと完全に一致しない場合、その割合が算出されて増幅値バーに表示されます。
- **ボックス内の文字**フィールドには、**ボックス内でのラインの調整**ダイアログボックスの値に基づいてアクティブなテキストボックスに収まる文字数が表示されます。このフィールドは編集できません。
- **テキストボックスのサイズ調整**をクリックすると、**行当たりのセル数**および**ボックス内のライン**の値の変更に応じて自動的にテキストボックスのサイズが調整されます。**ボックスの幅**および**ボックスの高さ**フィールドは、変更に応じて更新されます。
- **間隔を調整**をクリックすると、**行間隔**および**文字間隔**フィールドに対する変更に基づいて**[行当たりのセル数]**および**ボックス当たりの行数**の値が調整されます。**行送り**および**字送り**の値は変更に応じて更新されます。
- **その他の調整**を開き、**フォントサイズ**、**オフセット**および**文字の変形**のコントロールにアクセスします。これらの値を変更すると、**行当たりのセル数**および**ボックス当たりの行数**の値が増減します。
- **リセット**をクリックすると、すべてのフィールドの値がダイアログボックスを表示する前の状態に戻ります。

➡ **ボックス内でのラインの調整**ダイアログボックスを表示する前に**プレビュー**をオンにすると、ダイアログボックスを閉じたときの変更結果を参照できます。

デザイングリッド：表示設定タブ

デザイングリッドには、トップライン、センターライン、ベースライン、およびボトムラインを示す個々の線が含まれます。 デザイングリッドには、トップライン、センターライン、ベースライン、ボトムラインを示す個々の線、およびセル全体のボックスが含まれます。グリッドラインを表示または非表示にする、またはグリッドラインの色、幅、スタイルなどを指定するには、**表示設定**タブのコントロールを使用します。**表示設定**タブは、**マスターガイド＆グリッド**、**グリッドスタイルの編集**、および**グリッド設定**ダイアログボックスに表示されます。

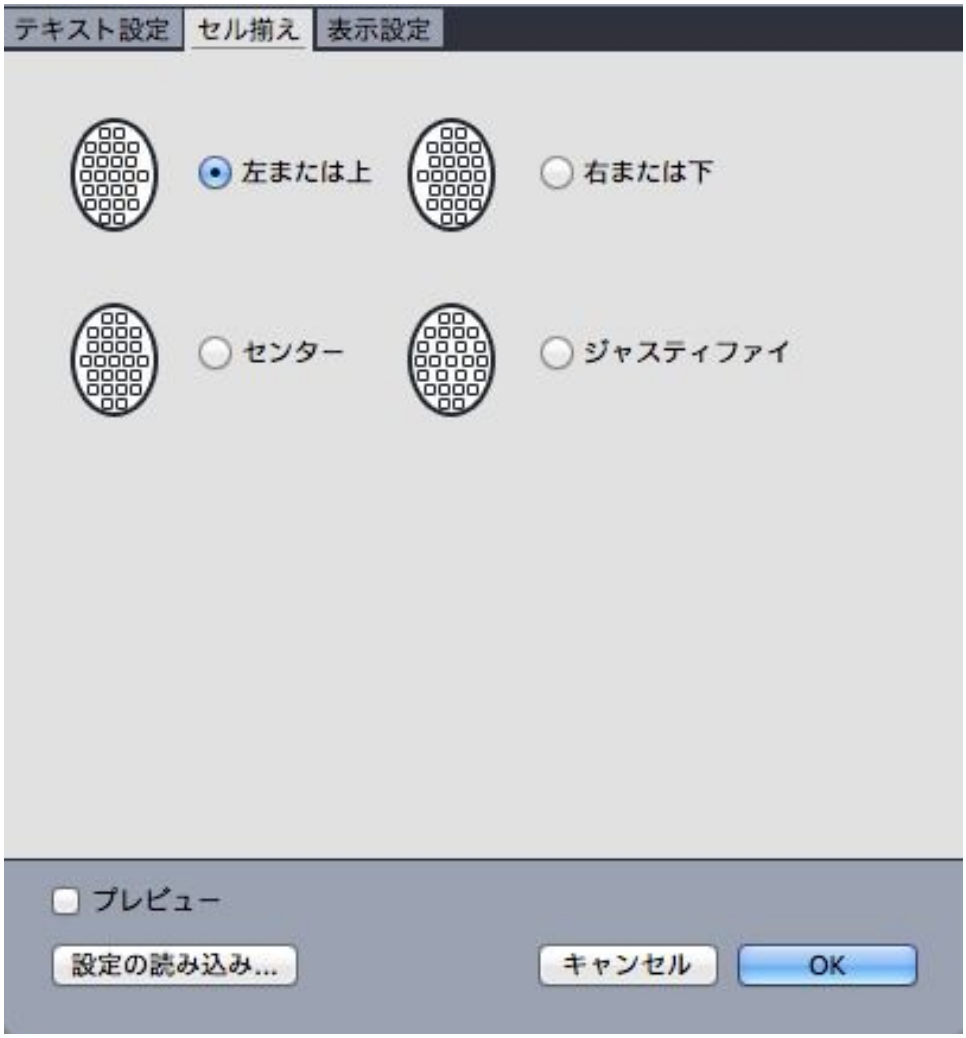
マスターガイド＆グリッドダイアログボックスの**表示設定**タブ

- **<グリッドラインの種類>を表示**チェックボックスをオンにすると、グリッドを表示したときに各種グリッドラインが表示されます。
- 各グリッドラインの色を指定するには、カラーボックスをクリックします。
- 幅ドロップダウンメニューから幅を選択します。
- スタイルドロップダウンメニューからスタイルを選択します。
- **形状**ドロップダウンメニューからセルの形状を選択します。

- **マスターガイド＆グリッド**ダイアログボックスのみ：マスターページグリッドの境界線を指定するには、**グリッドを表示**ドロップダウンメニューから**マージン内**、**ページ全体**、または**ペーストボード**を選択します。

デザイングリッド：セル揃えタブ

グリッド内のセルの揃え方を指定するには、**セル揃え**タブを使用します。



グリッド設定および**グリッドスタイルの編集**ダイアログボックスの**セル揃え**タブ

グリッド設定の読み込み

マスターページグリッド、またはテキストボックスグリッドの基礎として、グリッドスタイル、スタイルシート、またはマスターページグリッドを使用するには、下記の手順に従ってください。

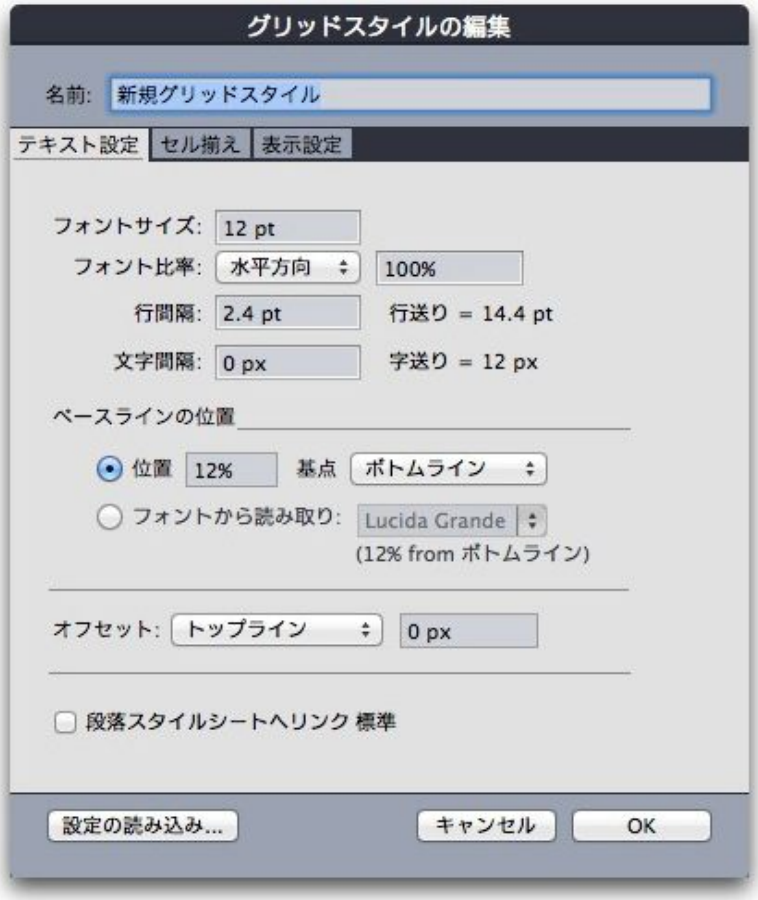
1 **マスターガイド&グリッド**、**グリッド設定**、または**グリッドスタイルの編集**ダイアログボックスの**設定の読み込み**をクリックします。**設定の読み込み**ダイアログボックスが表示されます。

設定の読み込みダイアログボックスで、グリッドスタイル、スタイルシート、またはマスターページを選択します。

2 **表示**ドロップダウンメニューで、**全ての**、**グリッドスタイル**、**マスターページ**、または**段落スタイルシート**を選択します。

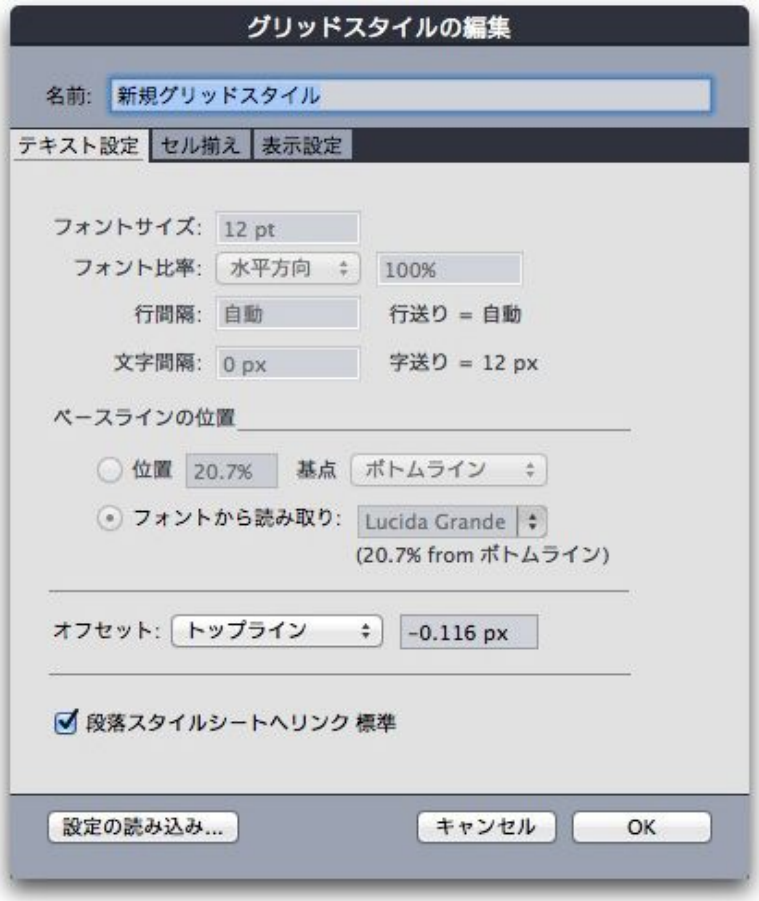
3 リストから既存のグリッドスタイル、スタイルシート、またはマスターページを選択し、**OK**をクリックします。

➡ 読み込んだグリッドスタイル、スタイルシート、またはマスターページの仕様が、**マスターガイド&グリッド**、**グリッド設定**、または**グリッドスタイルの編集**に表示されます。読み込み後にこれらのグリッド設定を変更できます。



「本文」スタイルシートが読み込まれたグリッドスタイル

グリッドスタイルのスタイルシートを読み込む場合、スタイルシートに変更を行うとグリッドスタイルも自動的に更新されるようにすることができます。これには、**段落スタイルシートへリンク <スタイルシート名>**チェックボックスをオンにします。フォントと間隔のコントロールが利用できなくなります。



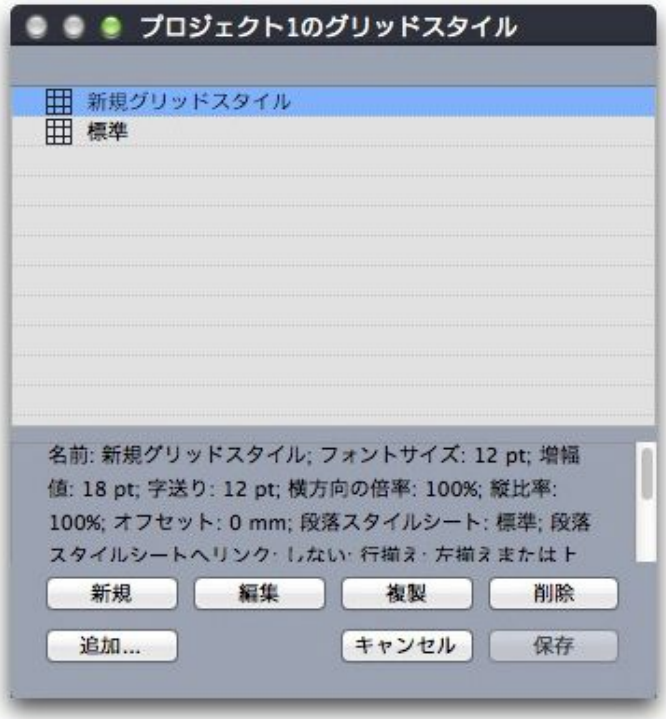
「本文」スタイルシートが読み込まれ、リンクされたグリッドスタイル

グリッドスタイルの使用

グリッドスタイルには、テキストボックスに適用したり、マスターページグリッドやその他のグリッドスタイルの基礎として使用できるグリッド属性が含まれます。

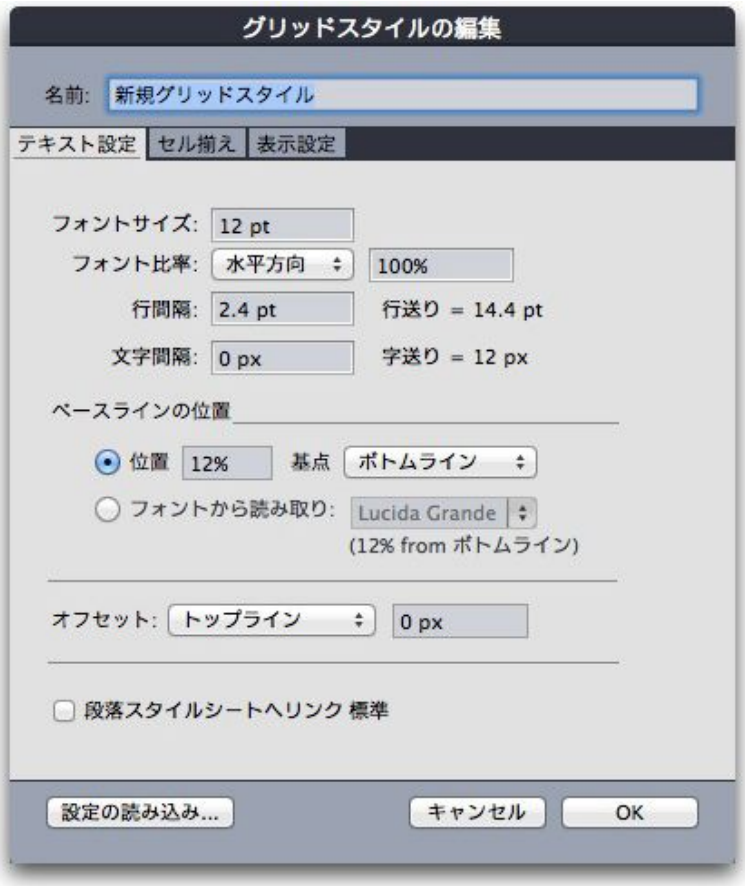
グリッドスタイルの作成

グリッドスタイルの作成、編集、複製、または削除を行うには、**グリッドスタイル**ダイアログボックス（**編集 > グリッドスタイル**）を使用します。



グリッドスタイルを作成、編集、または削除するには、**グリッドスタイル**ダイアログボックスを使用します。

グリッドスタイルダイアログボックスで**新規**、**編集**、または**複製**をクリックすると、**グリッドスタイルの編集**ダイアログボックスが表示されます。



グリッドスタイルの編集ダイアログボックス

- グリッドスタイルの名前を指定するには、**名前**フィールドに値を入力します。
- グリッドの位置と間隔を制御するには、**テキスト設定**タブのコントロールを使用します。詳細は、「*デザイングリッド：テキスト設定タブ*」を参照してください。
- グリッドに対するセル全体の揃えを制御するには、**セル揃え**タブのコントロールを使用します。詳細は、「*デザイングリッド：セル揃えタブ*」を参照してください。
- 表示するグリッドラインを指定するには、**表示設定**タブのコントロールを使用します。詳細は、「*デザイングリッド：表示設定タブ*」を参照してください。
- 既存のマスターページグリッド、グリッドスタイルまたはスタイルシートの仕様を使用するには、**設定の読み込み**をクリックします。詳細は、「*グリッド設定の読み込み*」を参照してください。

➡ プロジェクトが開かれていない状態でグリッドスタイルを作成すると、そのグリッドスタイルがデフォルトのグリッドスタイルリストの一部となり、以降作成されるすべてのプロジェクトに含まれます。

テキストボックスへのグリッドスタイルの適用

選択したテキストボックスにグリッドスタイルを適用するには、下記の手順に従ってください。

1 テキストボックスグリッドを表示するには、**表示 > テキストボックスのグリッド**をオンにします。

2 **グリッドスタイル**パレットを表示するには、**ウィンドウ > グリッドスタイル**をオンにします。

グリッドスタイルパレットを使用して、テキストボックスにグリッドスタイルを適用します。

3 **グリッドスタイル**パレットでグリッドスタイル名をクリックします。

グリッドスタイルパレットにあるグリッドスタイル名の隣のプラス記号は、テキストボックスにグリッドスタイルが適用された後にテキストボックスグリッドが変更されたことを示します。グリッドスタイルを再度適用して、ローカルなテキストボックスグリッドフォーマットを上書きするには、**スタイル解除**をクリックして、グリッドスタイル名をクリック（または、Option／Altキーを押しながら変更されたグリッドスタイル名をクリック）します。

デザイングリッドの使用

テキストボックスにデザイングリッドを適用したり、マスターページグリッドを構成すると、行揃えにグリッドを使用できるようになります。デザイングリッドにアイテムを視覚的に揃えることも、**表示 > ページグリッドへの吸着**を選択して、マスターページグリッドにアイテムを強制的に揃えることもできます。

マスターページグリッドの使用

レイアウトページのマスターページグリッドを指定するには、プロジェクトページにマスターページを適用します。

グリッドへのテキストの固定

スタイルシート、またはローカル段落フォーマットを使用することで、マスターページグリッドやテキストボックスグリッドにテキストを固定できます。グリッドにテキストを固定するには、下記の手順に従ってください。

1 スタイルシートのテキスト固定を設定するには、**編集 > スタイルシート**を選択して段落スタイルシートを選択し、**編集**をクリックしてから、**フォーマット**タブをクリックしま

す。段落のテキスト固定を設定するには、段落を選択してから**スタイル > フォーマット**を選択 （**Windowsのみ**）するか、**メジャー**パレットの**段落／段落設定**タブを使用します。

メジャーパレットの**段落設定**タブ

2 **フォーマット**タブで、**グリッド固定**チェックボックスをオンにします。

3 テキストの固定先とするグリッドを指定するには、**グリッド固定**の下にある最初のドロップダウンメニューで**ページグリッド**、または**テキストボックスグリッド**を選択します。

4 テキストの固定先とするグリッドラインを指定するには、**グリッド固定**の下にある2番目のドロップダウンメニューで**トップライン**、**センターライン**、**ベースライン**、または**ボトムライン**を選択します。

デザイングリッドへのアイテムの吸着

マスターページグリッドラインにアイテムを吸着させ、テキストボックスのサイズ変更時にテキストボックスのグリッドに吸着させることができます。

マスターページグリッドラインに吸着させるには、マスターページグリッドを表示（**表示 > ページグリッド**）し、**表示 > ページグリッドへの吸着**を選択します。

ページグリッドへの吸着（**表示**メニュー）が選択されている場合、**環境設定**ダイアログボックスにある**ガイドとグリッド**ペインの**ガイド吸着距離**フィールドで、デフォルトで6ピクセルであるページグリッドにアイテムが吸着される距離を変更できます。

テキストボックスのサイズ変更時にテキストボックスのグリッドに吸着させるには、テキストボックスのグリッドを表示して、ボックスをサイズ変更します。

揃え用グリッド

マスターページグリッドラインやガイドにテキストボックスグリッドラインを揃えるには、下記の手順に従ってください。 マスターページグリッドラインやガイドにテキストボックスグリッドラインやセルを揃えるには、下記の手順に従ってください。

1 **表示 > ガイド**、**表示 > ページグリッド**、および**表示 > テキストボックスグリッド**がオンであることを確認します。

2 **アイテム**ツール を選択します。

3 テキストボックスにあるグリッドラインをクリックしてから、ボックスをドラッグします。グリッドラインを移動するときにも、ボックスの元の位置が表示され続けます。ボックスにある他のグリッドライン、マスターページグリッドライン、またはガイドに、選択したグリッドラインを揃えられます（下記ライブドラッグに関する注を参照してください）。

4 テキストボックスにあるグリッドライン、またはセルをクリックしてから、ボックスをドラッグします。選択したグリッドラインやセルを移動すると画面に反映されますが、ボックスの元の位置は画面上に引き続き表示されます。ボックスにある他のグリッドラ

インやセル、マスターページグリッドライン、またはガイドに、選択したグリッドラインを揃えられます。

Live drag is a feature that lets you see the contents of an item while you are moving the item.However, selected grid lines do not display when live drag is active.

ライブドラッグとは、アイテムの移動中にアイテムのコンテンツを表示するための機能です。ただし、ライブドラッグがアクティブであっても、選択したグリッドラインやセルは表示されません。

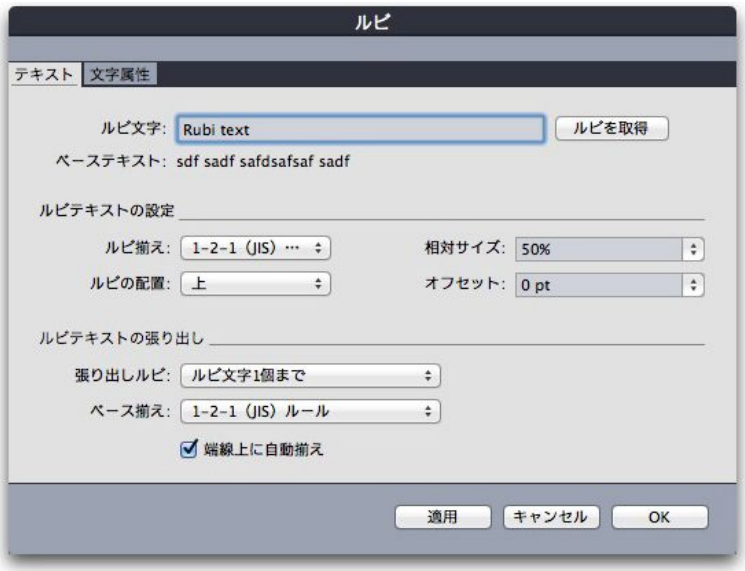
ルビ文字の使用

ルビ文字は、ベーステキストの意味や発音を明確にするものです。ベーステキストについては縦組み、横組みのいずれも可能で、ルビ文字の組方向は通常ベーステキストに従います。ルビ文字は、縦組みのベーステキストの左右に、横組みのベーステキストの上下に配置できます。

ルビ文字には、モノルビとグループルビの2種類があります。**モノルビ**とは、ベーステキストの単一文字に関連付けられているルビ文字です。**グループルビ**とは、ベーステキストの複数文字に関連付けられているルビ文字です。

ルビ文字の揃え、配置、縮小率、フォント、カラー、不透明度、シェード、文字飾り、および相対サイズを操作できます。さらに、関連付けられていないベーステキストに張り出すルビ文字を制御するためのオプションを選択できます。

ルビダイアログボックス（**スタイル**メニュー）を使用して、選択したベーステキストにルビ文字を追加します。



ルビダイアログボックス

一定範囲のテキストを選択して、Command+Option+R／Ctrl+Alt+Rを押すと、スペースまたは約物で区切られている、連続した単語に自動ルビを適用できます。自動ルビの

詳細は、下記の「テキストタブ」のリストにある**ルビ文字**の箇条書きを参照してください。

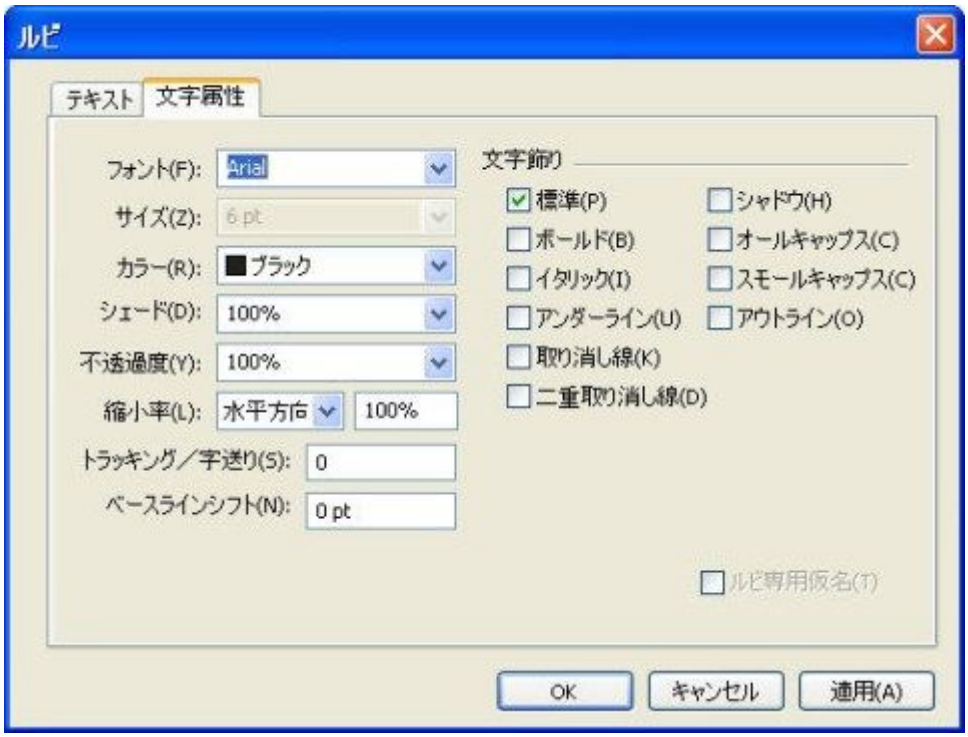
テキストタブ

ルビダイアログボックスの**テキスト**タブで、下記のオプションを制御できます。

- **ルビ文字**：選択したベーステキストに適用するルビ文字を指定するには、このフィールドを使用します。新しいルビのために**ルビ**ダイアログボックスを表示すると、アプリケーションによって、自動的に、インプットメソッドエディタ（IME）からこのフィールドにベーステキストの読み方が入力されます。この機能は、IMEの辞書が使用できる言語に対して有効です（本書では、中国語と日本語のみ）。
- **ルビを取得**：このボタンを使用して、IMEから**ルビ文字**フィールドの内容をリフレッシュできます。
- **ベーステキスト**：このフィールドには、選択したベーステキストが表示されます。
- **ルビ揃え**：非張り出しルビ文字のベーステキストとの揃え方を制御するには、このドロップダウンメニューを使用します。詳細については、「*ルビ揃えのオプション*」を参照してください。
- **ルビの配置**：横組みベーステキストの上下のどちらに、または縦組みベーステキストの左右のどちらにルビ文字を表示するかを指定するには、このドロップダウンメニューを使用します。
- **相対サイズ**：ベーステキストを基準にしたルビ文字のサイズを指定するには、このフィールドを使用します。
- **オフセット**：ベーステキストからのルビ文字のオフセット距離を制御するには、このフィールドを使用します。
- **張り出しルビ**：ルビ文字に関連付けられていないベーステキスト上にどれだけルビ文字が張り出せるかを制御するには、このフィールドを使用します。詳細については、「*張り出しルビのオプション*」を参照してください。**ベース揃え**が**なし**に設定されている場合、この機能は無効となります。
- **ベース揃え**：ベーステキストと張り出しルビ文字との揃え方を制御するには、このフィールドを使用します。詳細については、「*ルビベース揃えのオプション*」を参照してください。
- **端線上に自動揃え**：ルビ文字がベーステキストに張り出してテキストボックスのエッジに触れる場合に、ルビ文字をテキストボックスのボーダーに自動的に揃えるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

文字属性タブ

ルビダイアログボックスの**文字属性**タブで、ルビ文字フォーマットを制御できます。



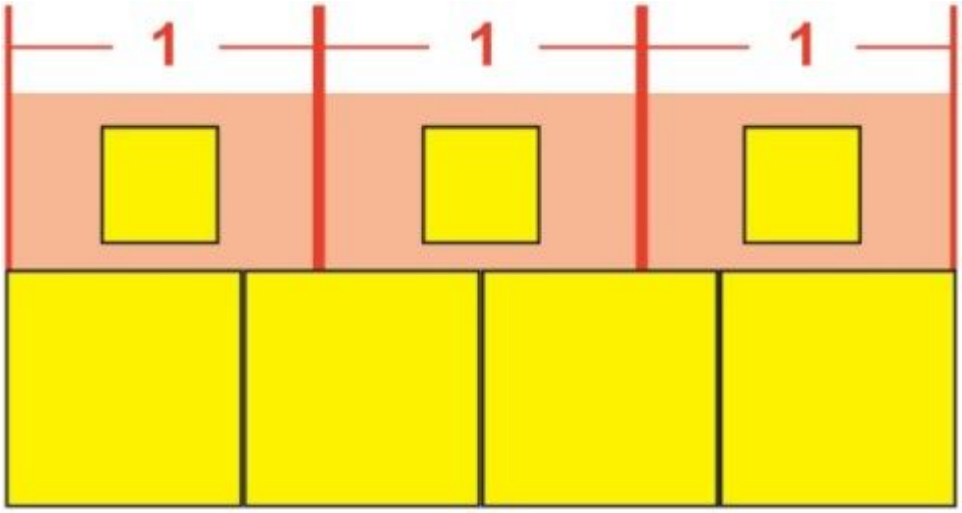
ルビ文字の表示方法を指定するには、**文字属性**タブを使用します。

- **フォント**、**サイズ**、**カラー**、**シェード**、**不透明度**、**縮小率**、**トラッキング／字送り**、**ベースラインシフト**、および**文字飾り**コントロールで、テキストに基本フォーマットを適用できます。
- ルビ文字専用にデザインされた、かな字形の使用の有効／無効を切り替えるには、**ルビ専用仮名**チェックボックスをオン／オフにします。これらの字形が利用できるのは、一部の日本語OpenTypeフォントでのみです。

ルビ揃えのオプション

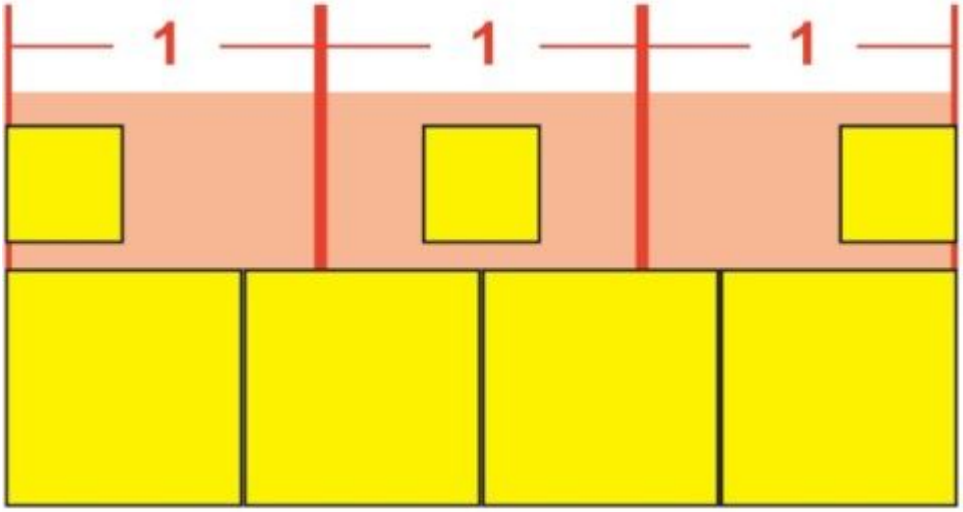
ルビダイアログボックス（**スタイル**メニュー）の**テキスト**タブにある**ルビ揃え**オプションでは、下記の操作が可能です。

- **左揃え**：横組みでルビ文字がベーステキストに対して左揃えになります。
- **センター**：横組みまたは縦組みで、ルビ文字がベーステキストに対して中央揃えになります。
- **右揃え**：横組みでルビ文字がベーステキストに対して右揃えになります。
- **上揃え**：縦組みでルビ文字がベーステキストに対して上揃えになります。
- **下揃え**：縦組みでルビ文字がベーステキストに対して下揃えになります。
- **両端揃え**：下図のように、ベーステキストの上または横にあるルビ文字を中心揃えにします。



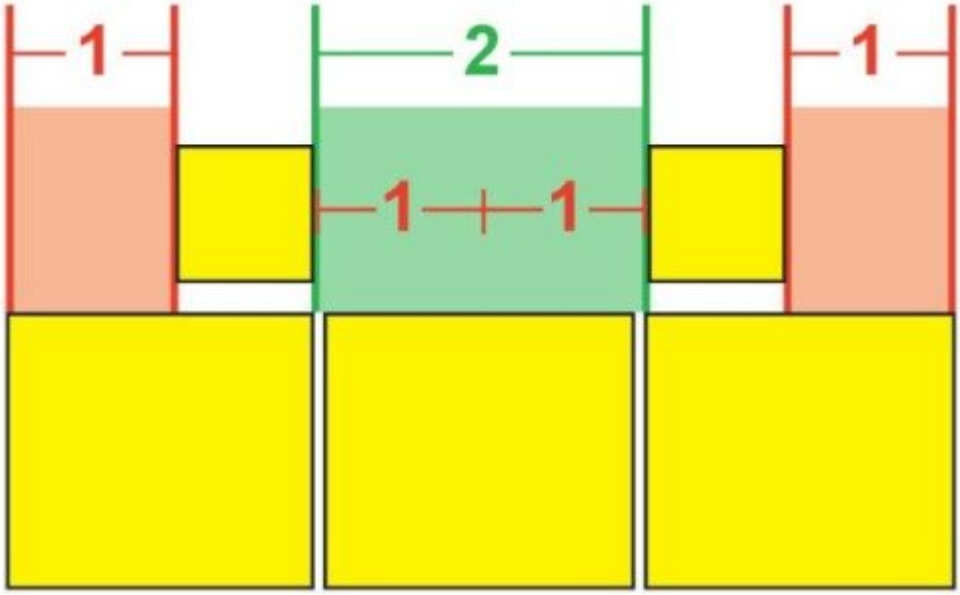
ルビ文字の**両端揃え**

- **強制割付**：横組みの場合ルビ文字をベーステキストの両端に揃えるか、または縦組みの場合ベーステキストの上下にルビ文字を揃えます。



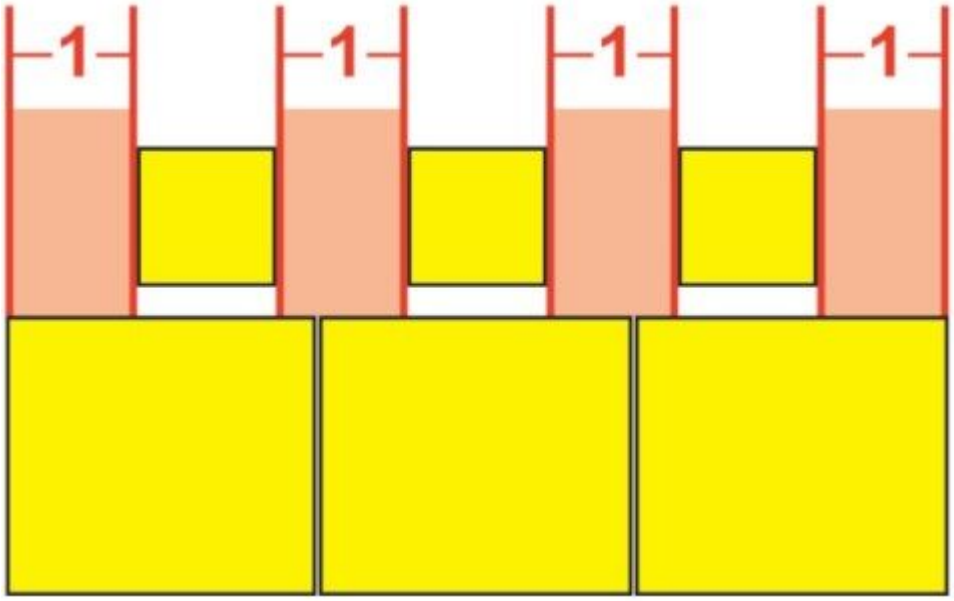
ルビ文字の**強制割付**揃え

- **1-2-1（JIS）ルール**：1：2：1の比率でルビ文字をベーステキストに揃えます。また、ルビ文字のラインの両端に一定のスペースが残ります。



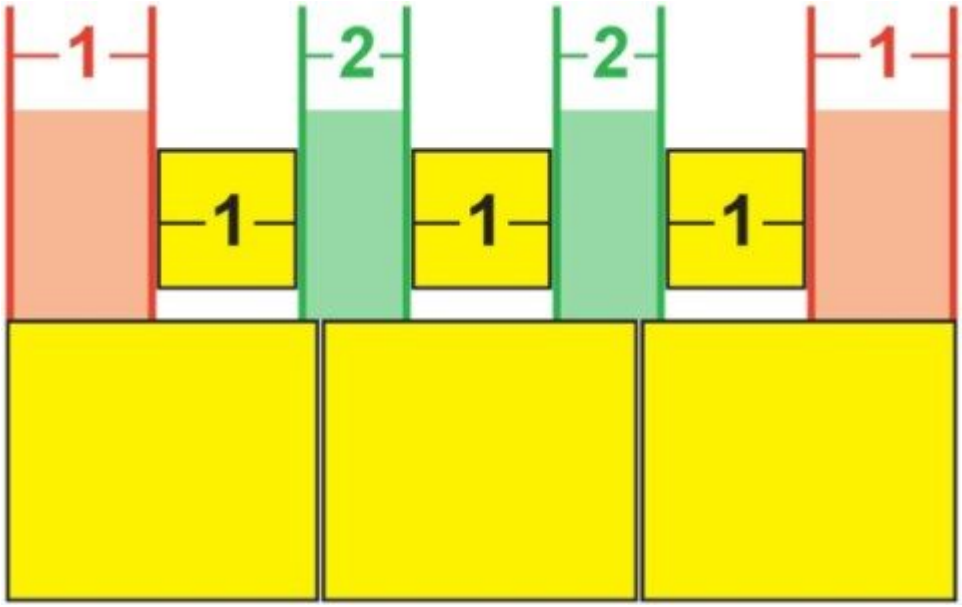
ルビ文字の**1–2–1（JIS）ルール**揃え

- **均等割付**：ルビ文字のラインの両端およびルビ文字間のスペースが等間隔になるようにルビ文字を揃えます。



ルビ文字の**均等割付**

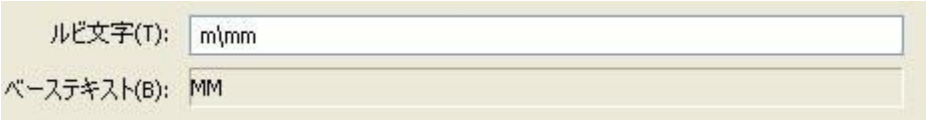
- **1ルビスペース**：ルビ文字のラインの両端のスペースがルビ1文字の幅と等しくなり、各ルビ文字間のスペースとは等しくならないように、ルビ文字を揃えます。ルビ文字間のスペースは等しくなります。



ルビ文字の**1ルビスペース**揃え

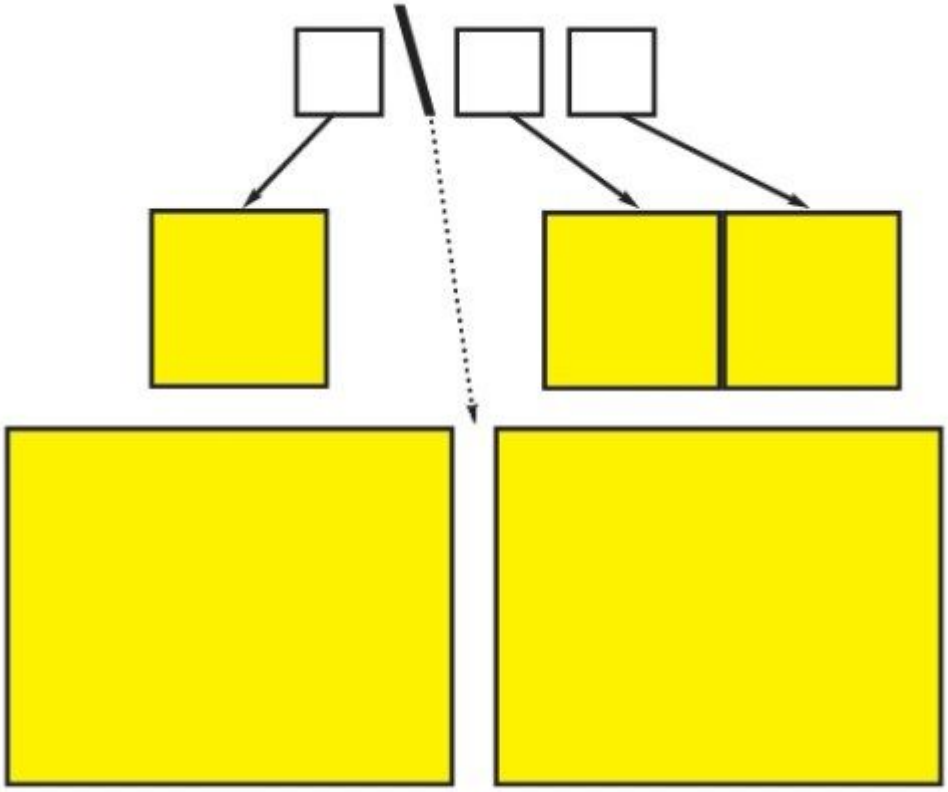
モノルビ

個々のルビ文字の配置を制御するには、**ルビ**ダイアログボックス（**スタイル**メニュー）の**ルビ文字**フィールドで、ルビ文字の間にバックスラッシュまたは円記号を挿入します。



ルビ文字間のバックスラッシュはモノルビを示します。

たとえば、3つのルビ文字に関連付けられる2つのベーステキスト文字を選択し、最初のルビ文字のみを1文字目のベーステキスト文字に置き、残り2つのルビ文字を次のベース文字に配置する場合、バックスラッシュを1番目と2番目のルビ文字の間に挿入します。バックスラッシュはベーステキスト文字間のスペースに当たるため、必要に応じてバックスラッシュ間に任意の文字数のルビ文字を配置できます。

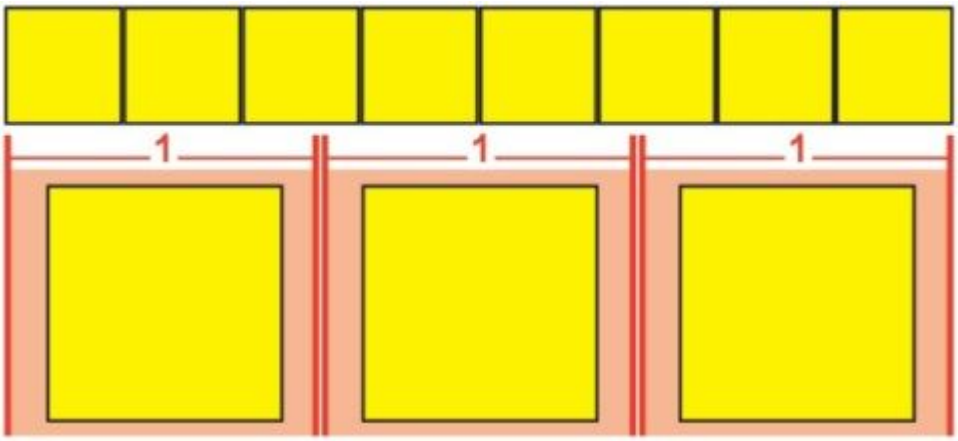


バックスラッシュはベーステキスト文字間のスペースに当たります

ルビベース揃えのオプション

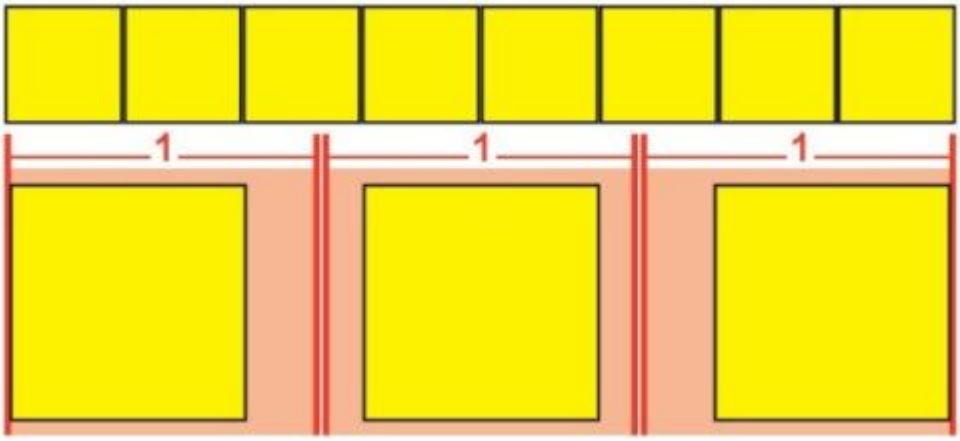
ベース揃えオプションを適用できるのは、ルビ文字がベーステキストから張り出している場合のみです。**ベース揃え**オプションは下記のとおりです。

- **なし**：ベーステキストの揃えが適用されません。
- **左**：横組みで、ベーステキストがルビ文字に対して左揃えになります。
- **センター**：ルビ文字が均等にベーステキストの両端から張り出すように、ルビ文字の下または横にベーステキストを揃えます。
- **右**：横組みで、ベーステキストがルビ文字に対して右揃えになります。
- **上**：縦組みで、ベーステキストがルビ文字に対して上揃えになります。
- **下**：縦組みで、ベーステキストがルビ文字に対して下揃えになります。
- **両端揃え**：下図のように、ルビ文字の下または横に、ベーステキストを中心揃えにします（この図では、**張り出しルビ**が**なし**に設定されていることを前提としています。ルビ文字が一定量張り出すよう設定されている場合、そのルビ文字はベーステキストの文字列の両端からその分だけはみ出します。また、ベーステキストが残りのスペースで調整されます）。



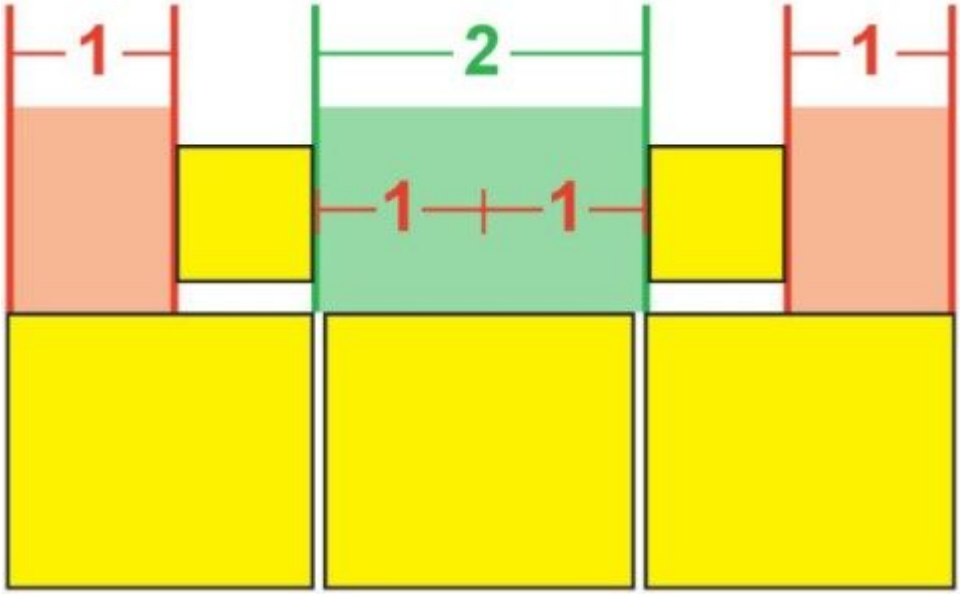
ベーステキストの**両端揃え**

- **強制割付**：ベーステキストを、横組みではベーステキストをルビ文字の左と右に、縦組みではルビ文字の上と下に揃えます（この図では、**張り出しルビ**が**なし**に設定されていることを前提としています。ルビ文字が一定量張り出すよう設定されている場合、そのルビ文字はベーステキストの文字列の両端からその分だけはみ出します。また、ベーステキストが残りのスペースで強制割付および中心揃えされます）。



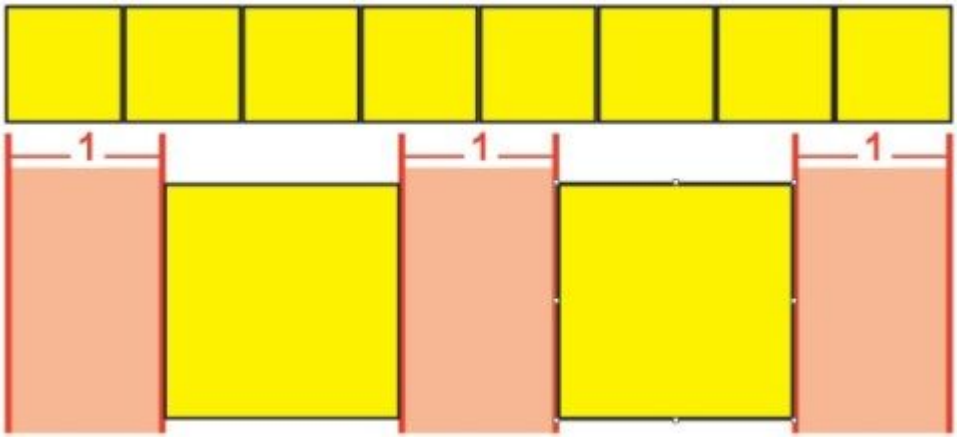
ベーステキストの**強制割付**揃え

- **1-2-1（JIS）ルール**：1：2：1の比率でベーステキストをルビ文字に揃えます。ベーステキストの行の先頭と末尾に一定量のスペースが残ります。



ベーステキストの**1-2-1（JIS）ルール**揃え

- **均等割付**：ベーステキスト行の先頭、末尾、およびベーステキスト間でスペースが等間隔になるように、ベーステキストを揃えます（この図では、**張り出しルビ**が**なし**に設定されていることを前提としています。ルビ文字が一定量張り出すよう設定されている場合、そのルビ文字はベーステキストの文字列の両端からその分だけはみ出します。また、ベーステキストが残りのスペースに分配されます）。



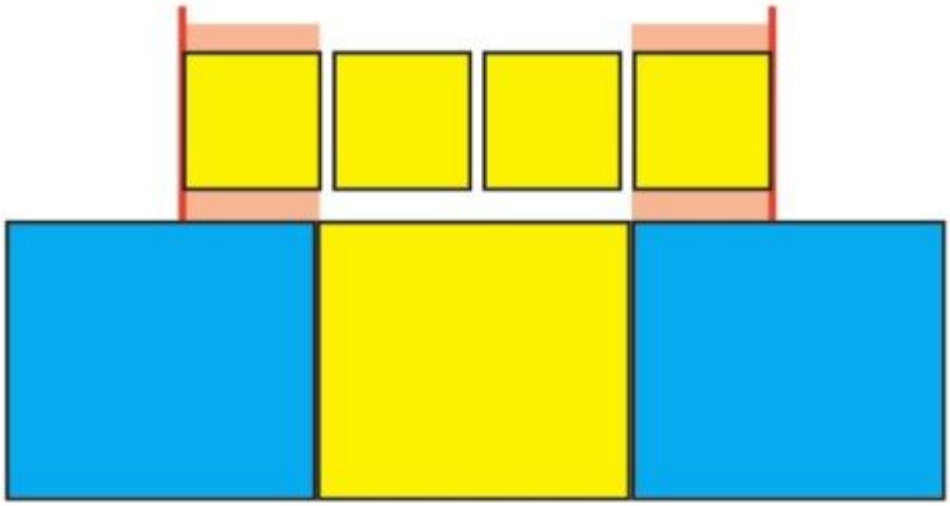
ベーステキストの**均等割付**

張り出しルビのオプション

ルビダイアログボックス（**スタイル**メニュー）の**テキスト**タブにある**張り出しルビ**オプションを使用することで、張り出しルビテキスト文字には関連付けられていないベーステキスト文字の、いずれかの側へのルビテキスト文字の張り出し距離を制御できます。以下の色付き図にさまざまな**張り出しルビ**オプションを図示します。黄色は、互いに関連付けられているベーステキストとルビ文字を表します。青は、張り出しルビ文字とは関連付けられていないベーステキストを表します。

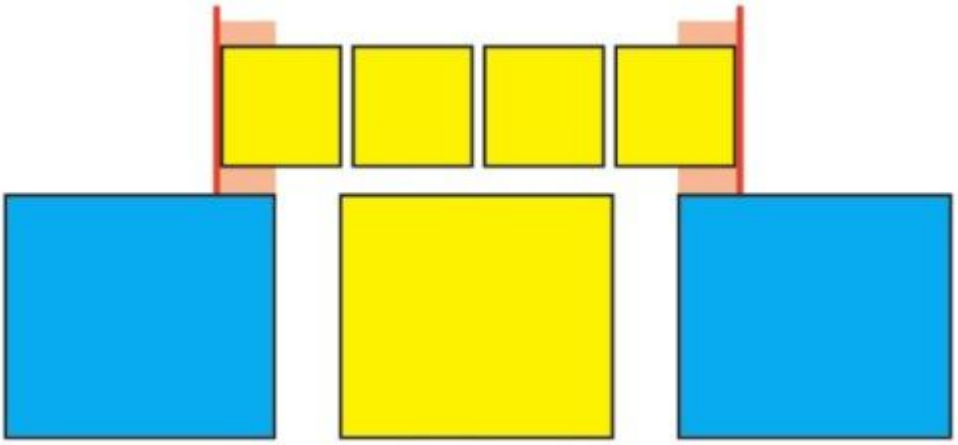
- **なし**：張り出しは行われません。

- **ルビ文字1個まで**：関連付けられていないベーステキスト文字の上に、ルビテキスト文字1個分の張り出しを認めます。



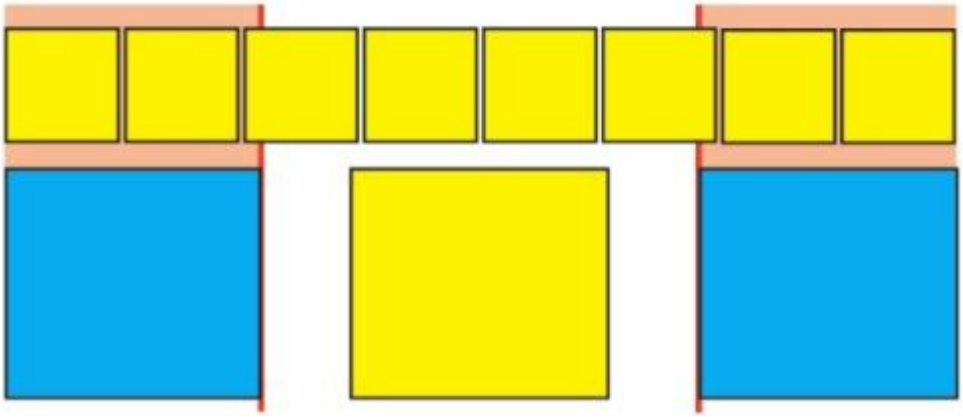
ルビ文字1個まで

- **ルビ文字1/2個まで**：関連付けられていないベーステキスト文字の上に、ルビテキスト文字1/2個分の張り出しを認めます。



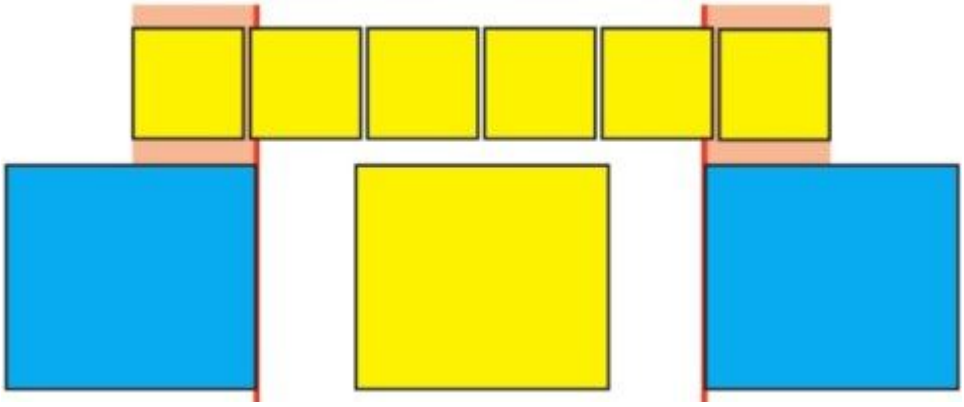
ルビ文字1/2個まで

- **ベース文字1個まで**：関連付けられていないルビテキスト文字の下に、ベーステキスト文字1個分の配置を認めます。



ベース文字1個まで

- **ベース文字1/2個まで**：関連付けられていないルビテキスト文字の下に、ベーステキスト文字1/2個分の配置を認めます。

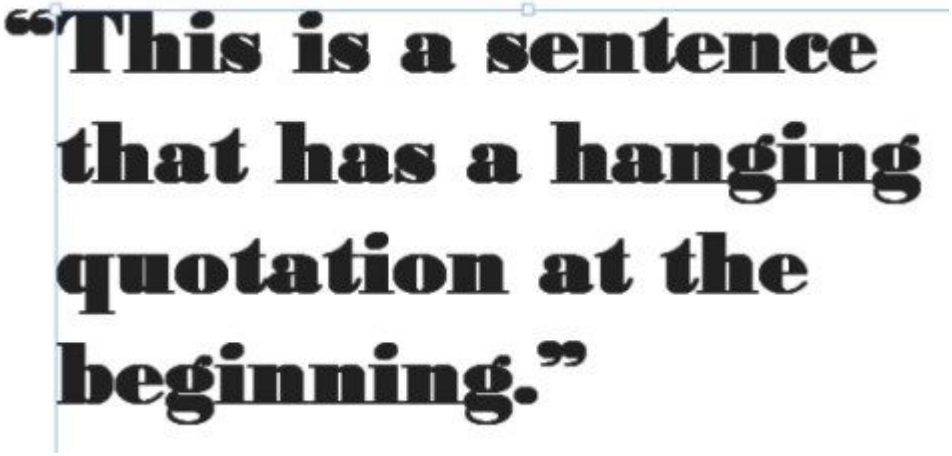


ベース文字1/2個まで

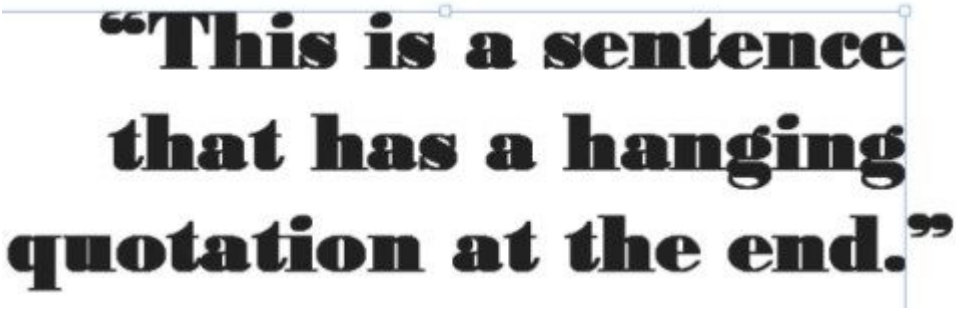
- **制限なし**：張り出しが制限なしに行われます。

ぶら下がり文字の使用

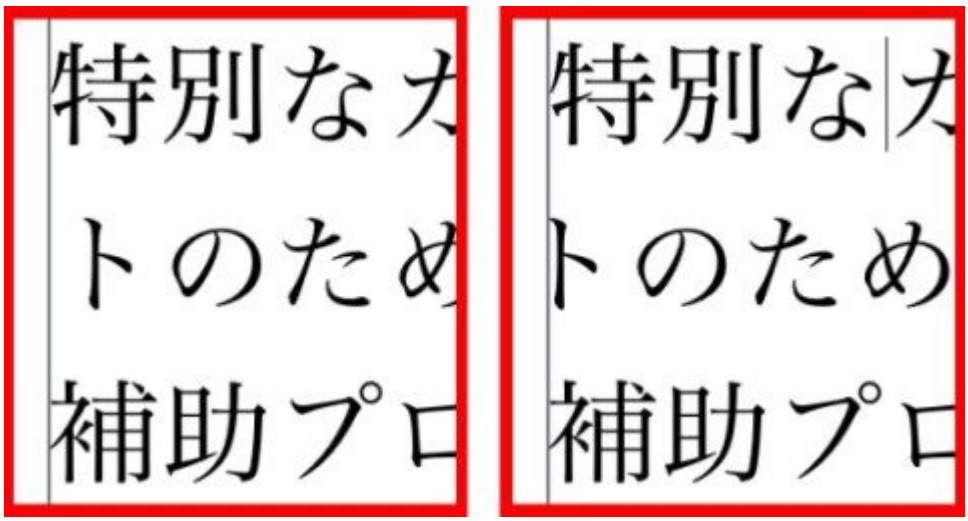
ぶら下がり文字セットでは、**ぶら下がり約物**と**マージン揃え**の両方を処理します。マージン揃えでは、文字をマージン外部に部分的にぶら下げることで、マージンに沿った視覚的に統一されたテキストの揃えを作成できます。ぶら下がり約物では、約物文字を完全にマージン外部にぶら下げることで、テキストの行頭（先頭）やテキストの行末（末尾）での均一なマージンで、テキストを揃えることができます。たとえば、以下の最初のテキストサンプルにある引用符記号は先頭マージンの外部にぶら下げられているため、テキストの1行目にある最初の文字をその下のテキストの行と均等に揃えられます。以下の2番目のテキストサンプルにある引用符記号は、末尾マージンの外部にぶら下げられています。 たとえば、2番目のテキストサンプルにあるピリオドは、末尾マージンの外部にぶら下げられています。



The opening quotation mark in this sample text is a leading hanging character



The closing quotation mark in this sample text is a trailing hanging character



このサンプルテキストの2行目の場合、左側のサンプルにはぶら下がりはありませんが、右側のサンプルには行頭ぶら下がりがあります。

このサンプルテキストでは、約物文字が末尾のぶら下がり文字です。

カスタムの**ぶら下がり文字クラス**、および**ぶら下がり文字セット**を作成することも、ソフトウェアに含まれるデフォルトのクラスとセットを使用することもできます。ぶら下がり文字クラスとは、マージン外部に常にぶら下げられるか、同一パーセントでマージン内部にインデントされる必要のある文字のグループのことです。ぶら下がり文字セットとは、ぶら下がり文字クラスからなるグループのことです。ぶら下がり文字セットを使用することで、段落に1つまたは複数のぶら下がり文字クラスを適用できます。

ぶら下がり文字セットとクラスの表示、作成、編集、複製、および削除を行うには、**ぶら下がり文字**ダイアログボックス（**編集 > ぶら下がり文字**）を使用します。

ぶら下がり文字ダイアログボックス

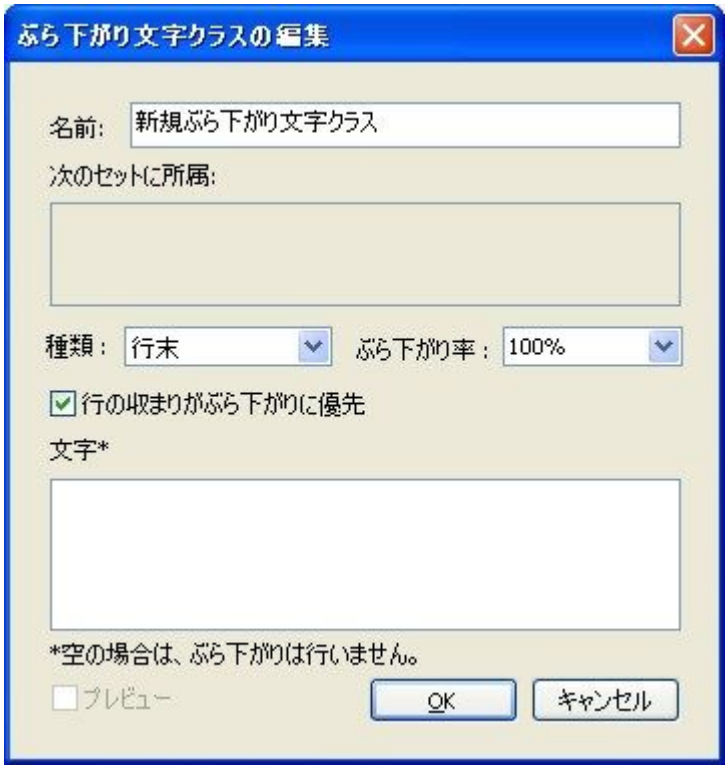
ぶら下がり文字セットの前には、アイコンが付きます。ぶら下がり文字クラスの前には、アイコンが付きます。

ダイアログボックスの中央ペインでぶら下がり文字セットを選択すると、そのセットに属すぶら下がり文字クラスが下のペインに表示されます。ダイアログボックスの中央ペインでクラスを選択すると、選択したクラスが属すセットと選択したクラスの属性が下のペインに表示されます。

ぶら下がり文字セットやクラスを比較するには、**ぶら下がり文字**ダイアログボックスで2つのクラスまたはセットを選択し、Option／Altキーを押します。**追加**ボタンが**比較**ボタンに変化します。

ぶら下がり文字クラスの作成

ぶら下がり文字クラスに含まれる文字、クラスのぶら下がり率、ぶら下がり文字クラスを先頭と末尾のどちらにするかを指定するには、**ぶら下がり文字クラスの編集**ダイアログボックス（**編集 > ぶら下がり文字 > 新規 > クラス**）を使用します。



ぶら下がり文字クラスの編集ダイアログボックス

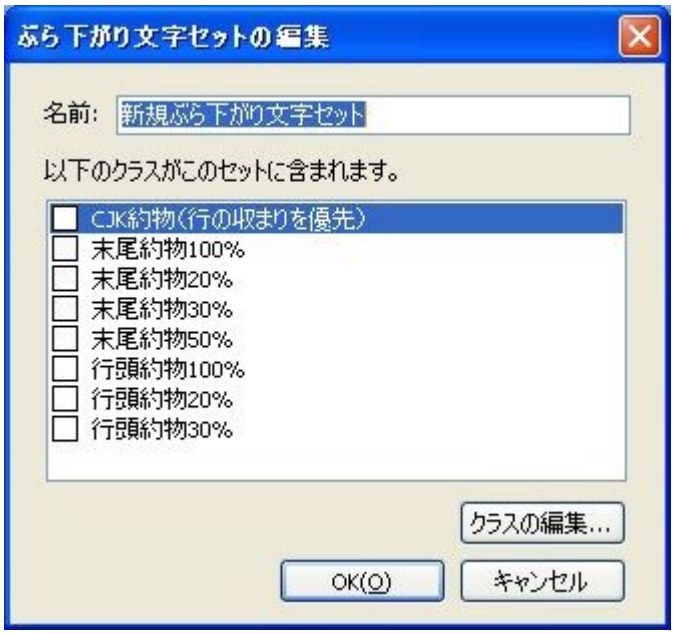
文字ペインで文字を入力します。**ぶら下がり率**ドロップダウンメニューからぶら下がり率を選択します。**ぶら下がり率**は、表示される字形に対する一定のぶら下がりまたはインデントの割合を指定するものです。たとえば、-50%を選択すると、文字クラスの文字が、表示される文字幅の半分だけ行端よりも内部にインデントされます。100%を選択すると、文字クラスの文字が、表示される字形の分だけ行端の外にぶら下がります。

次に、文字クラスを**行頭**と**末尾**のどちらにするかを指定します。**行頭**クラスの文字は行頭の外側へぶら下がります。 **末尾**クラスの文字は末尾の外側へぶら下がります。

ぶら下がり文字クラスをぶら下がり文字セットに保存後、**プレビュー**チェックボックスをオンにすると、編集時にぶら下がり文字クラスへの変更を表示できます。

ぶら下がり文字セットの作成

ぶら下がり文字セットに含めるぶら下がり文字クラスを指定するには、**ぶら下がり文字セットの編集**ダイアログボックス（**編集 > ぶら下がり文字 > 新規 > セット**）を使用します。



ぶら下がり文字セットの編集ダイアログボックス

ダイアログボックス中央のペインに、使用できるぶら下がり文字クラスがすべて表示されます。これらのぶら下がり文字クラスはぶら下がり文字セットに追加できます。追加するぶら下がり文字クラスの横にあるチェックボックスをオンにし、ぶら下がり文字セットの名前を指定してから**OK**をクリックします。

新しいぶら下がり文字セットを保存する前にぶら下がり文字クラスを編集するには、クラスを選択してから**クラスの編集**をクリックします。

ぶら下がり文字セット内で同じ文字に対して、異なる先頭または末尾の値を指定することはできません。

ぶら下がり文字セットの適用

テキストにぶら下がり文字セットを適用するには、**段落設定**ダイアログボックス（**編集 > フォーマット**）の**ぶら下がり文字セット**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。

段落スタイルシートにぶら下がり文字セットを適用するには、**段落スタイルシートの編集**ダイアログボックス（**編集 > スタイルシート > 新規 > 段落**または**編集 > スタイルシート > 編集**）の**フォーマット**タブにある**ぶら下がり文字セット**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。

文字組みセットとクラスの使用

文字組み機能で、指定した約物文字が特定の位置にある場合の間隔を制御できます。この機能を使用するには、**文字組み文字クラス**と**文字組みセット**を選択するか作成する必要があります。

- **文字組み文字クラス**とは、特定の方法で常に間隔を置く必要がある約物文字の名前付きセットのことです。
- **文字組みセット**とは、文字の仮想ボディの幅に基づく一連の文字間隔仕様です。文字組みセットによる規定の例を挙げると、開き約物が行頭にある場合には固定長の半角間隔を使用し、閉じ約物が行末にある場合には半角間隔または全角間隔を使用する、などです。各文字組みセットは、1つの文字組み文字クラスに関連付けられます。

文字組み機能を使用するには、段落に文字組みセットを適用します。文字組みセットの設定は、関連付けられている文字組み文字クラスの文字に適用されます。

2つの全角文字間にある小括弧が全emボックス幅を占めないようにするには、小括弧を含む文字組み文字クラスを作成し、その文字組みセット設定で、2つの全em幅文字間にある小括弧が常に半em幅を使用するように設定します。

各段落に適用できるのは、1つの文字組みセットのみです。

文字と字形の違いについての詳細は、「*字形パレットの使用*」を参照してください。

文字組み文字クラスの作成と編集

文字組み文字クラスは、文字組みセットで使用するように設計されている約物文字の名前付きセットのことです（詳細については、「*文字組みセットとクラスの使用*」を参照してください）。カスタムの文字組み文字クラスを作成することも、ソフトウェアに含まれるデフォルトの文字組み文字クラスを使用することもできます。

カスタムの文字組み文字クラスの作成については、下記の手順に従ってください。

1. **編集 > 文字組み > 文字クラス**を選択します。**文字組み文字クラス**ダイアログボックスが表示されます。
2. **新規**をクリックします。**文字組み文字クラスの編集**ダイアログボックスが表示されます。
3. **名前**フィールドに名前を入力します。
4. **約物起こし**フィールド、**約物受け（括弧）**フィールド、**約物受け（句読点）**フィールド、および**中付き約物**フィールドに文字を入力します。
5. **OK**をクリックします。
6. **保存**をクリックします。

句読点は、日本語で「ピリオドおよびコンマ」に当たる文字です。

文字組みセットの作成および編集

文字組みセットは、文字組みの文字クラスに関連付けてから段落に適用できる仕様のセットです。詳細は、「*文字組みセットとクラスの使用*」を参照してください。

文字組みセットを作成するには、**編集 > 文字組み > セット**を選択して**文字組みセット**ダイアログボックスを表示します。次に**新規**をクリックします。**文字組みセットの編集**ダイアログボックスが表示されたら**名前**フィールドに名前を入力し、**クラス**ドロップダウンメニューから文字組みの文字クラスを選択します。

文字組みセットの編集ダイアログボックスの設定により、指定された文字組みの文字クラスで文字の幅や文字間隔を制御できます。また、どの調整を優先するか制御することもできます。

文字組みセットの編集ダイアログボックス

- **名前**：編集する文字組みセットの名前を表示します。
- **単位**：このダイアログボックスで使用する表示単位を指定します。
- **クラス**：編集する文字組みの文字クラス名を表示します。

約物起こし

- **行頭**：行の先頭で使用する始め括弧の文字幅または文字間隔を指定します。
- **行中**：行の中間で使用する始め括弧の文字幅または文字間隔を指定します。
- **段落の開始**：段落の先頭で使用する始め括弧の文字幅または文字間隔を指定します。この設定は、**行頭**の設定よりも優先されます。

約物受け

- **行中（括弧）**：行の中間で使用する終わり括弧の文字幅または文字間隔を指定します。
- **行中（句読点）**：行の中間で使用する**句読点**の文字幅または文字間隔を指定します。**句読点**は、日本語で「ピリオドおよびコンマ」に当たる文字です。
- **行末**：行の末尾で使用する終わり括弧の文字幅または文字間隔を指定します。

中付き約物

- **行頭**：行の先頭で使用する中付き約物の文字幅または文字間隔を指定します。
- **行中**：行の中間で使用する中付き約物の文字幅または文字間隔を指定します。
- **行末**：行の末尾で使用する中付き約物の文字幅または文字間隔を指定します。
- **段落の開始**：段落の先頭で使用する中付き約物の文字幅または文字間隔を指定します。この設定は、**行頭**の設定よりも優先されます。

連続する約物

- **始め括弧 - 始め括弧**：始め括弧どうしが隣接する場合の文字幅または文字間隔を指定します。例：((
- **終わり括弧 - 始め括弧**：終わり括弧と始め括弧が隣接する場合の文字幅または文字間隔を指定します。例：)(
- **句読点 - 始め括弧**：始め括弧に隣接する**句読点**の文字幅または文字間隔を指定します。**句読点**は、日本語で「ピリオドおよびコンマ」に当たる文字です。例：。(
- **終わり括弧 - 終わり括弧**：終わり括弧どうしが隣接する場合の文字幅または文字間隔を指定します。例：))
- **行中受け**：隣接する約物受けと中付き約物の間の文字幅または文字間隔を指定します。例：;)
- **行中起こし**：中付き約物と始め括弧が隣接する場合の文字幅または文字間隔を指定します。例：(:

CJK／欧文間スペース

中国語、日本語、または韓国語の文字と欧文が隣接する場合の文字間隔を指定します。この機能は、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集 > 環境設定**）の**文字設定**ペインにある**CJK／欧文間スペース**フィールドで指定する値よりも優先されます。ただし、この機能が影響するのは、文字組みの文字セット内の文字のみです。

文字幅の設定、文字間隔の設定

約物起こし、**約物受け**、**中付き約物**、および**連続する約物**の文字幅または文字間隔を指定します。

- **全角に固定**：文字幅をすべて全角に固定します。
- **半角に固定**：文字幅をすべて半角に固定します。
- **全角から半角**：文字幅を全角に指定しますが、半角に縮めることもできます。
- **半角から全角**：文字幅を半角に指定しますが、全角に拡大することもできます。
- **全角または半角**：文字を全角と半角のどちらかの幅に収めます。全角が優先されます。

- **半角または全角**：文字を半角と全角のどちらかの幅に収めます。半角が優先されます。
- **全角スペース**：表示される文字間のスペースを全角に指定します。
- **半角スペース**：表示される文字間のスペースを半角に指定します。
- **全角からスペースなし**：表示される文字間のスペースを全角に指定しますが、スペースなしに変更することもできます。
- **半角からスペースなし**：表示される文字間のスペースを半角に指定しますが、スペースなしに変更することもできます。
- **スペースなしから半角**：表示される文字間のスペースをなしに指定しますが、半角スペースに変更することもできます。
- **1/4角スペース**：表示される文字間のスペースを1/4角に指定します。
- **1/4角からスペースなし**：表示される文字間のスペースを1/4角に指定しますが、スペースなしに変更することもできます。

優先度
文字組みの間隔調整の優先順位を指定します。

- **高**：最初に調整します。
- **中**：2番目に調整します。
- **低**：最後に調整します。

プレビュー
幅および間隔の設定に関する編集可能なプレビューを有効または無効にします。

文字組みセットの適用

段落に文字組みセットを適用するには、**段落設定**ダイアログボックス（**スタイル > 段落設定**）（Windows）、または**メジャー**パレットの段落タブ（Mac OS X）の**文字組みセット**ドロップダウンメニューから名前を選択します。

段落スタイルシートに文字組みセットを適用するには、**段落スタイルシートの編集**ダイアログボックス（**編集 > スタイルシート > 新規 > 段落**または**編集 > スタイルシート > 編集**）の**形式**タブにある**文字組みセット**ドロップダウンメニューから文字組みセット名を選択します。

➡ 1つの段落に適用できる文字組みセットは1つだけです。

レガシープロジェクトにおける文字のマッピング

8.0より前のQuarkXPressのCJKバージョンで保存されたプロジェクトには、Unicodeのテキストが含まれません。より正確に言うと、プロジェクトには、GB2312、Big5、ShiftJIS、x-mac-koreanなどの特定のエンコーディングで保存されたテキストが含まれます。QuarkXPress 8以降でこのようなファイルを開くと、エンコーディング固有の文字がアプリケーションによって自動的にUnicode文字に変換されます。ただし、デフォルトのUnicode変換では下記の種類の文字を正常に変換できない可能性があります。

- 中国語（繁体字）エンコーディングのUDA／VDA（ユーザ定義領域／ベンダ定義領域）範囲の文字
- エンコーディングのカスタム文字範囲の文字

これらの文字はUnicode固有の字形にマッピングできないことがあります。そのためこれらのコードポイントに対応する字形はフォントによって異なる可能性があります。たとえば、エンコーディングのUDA／VDA範囲の文字をマッピングする場合、台湾Big5の文字マッピング標準を使用するフォントと香港Big5の文字マッピング標準を使用するフォントでは異なる字形になる可能性があります。エンコーディングのカスタム文字範囲の文字は、特定の言語や業界に固有の字形にマッピングされる可能性があります。

最初の問題については、QuarkXPressに付属するマッピングテーブルで容易に解決できます。カスタム文字を使用するプロジェクトについても、独自のマッピングテーブルを作成することで対応できます。

UDA／VDA文字を使用するプロジェクトのマッピング

8.0以前のQuarkXPress中国語版で作成されたプロジェクトを開くと、QuarkXPressで自動的にすべてのUDA／VDA文字がハイライトされ、それらの文字が正しい字形で表示されているかどうか確認する必要があることを示します。**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集 > 環境設定**）の**フォント**ペインで**フォントメーカーによって定義された繁体字の文字範囲に入っている文字をハイライトする**チェックボックスをオフにすると、このハイライトを無効にできます。

プロジェクトでハイライトされた字形が正しく表示されていない場合、**マッピングテーブル**を使用してそのプロジェクトの文字をUnicodeへマッピングする必要があります。マッピングテーブルはテキストファイルの一種で、Unicodeへの特殊なエンコード方法を使用するテキストの変換方法をQuarkXPressに通知します。各マッピングテーブルには、エンコード固有のコードポイントと対応するUnicodeコードポイントのリストが含まれています。

8.0以前のプロジェクトで、たとえばHong Kong Big5エンコードを使用することがわかっている場合、QuarkXPress 8.0以降でプロジェクトを初めて開いたときにHong Kong Big5のマッピングテーブルを使用してその文字をUnicodeに変換できます。QuarkXPressにはこのようなマッピングテーブルがいくつか収録されています。これらのマッピングテーブルのいずれかを使用するには、まず"CustomMappingTables"フォルダへ移動します。

- Mac OS X：[ドライブ]:Library:Application Support:Quark:QuarkXPress[バージョン]:CustomMappingTables
- Windows：[ドライブ]:ProgramData¥Quark¥QuarkXPress[バージョン]¥CustomMappingTables

このフォルダ内には、下記のマッピングテーブルファイルがあります。

- **chinsimpmac.txt**：Mac OS Xの中国語（簡体字）エンコードを使用するレガシーファイルに使用します。
- **chintradbig5.txt**：中国語（繁体字）エンコードを使用するレガシーファイルに使用します。
- **japanesemac.txt**：Mac OS Xの日本語エンコードを使用するレガシーファイルに使用します。

- **japanesewin.txt**：Windowsの日本語エンコードを使用するレガシーファイルに使用します。
- **koreanmac.txt**：Mac OS Xの韓国語エンコードを使用するレガシーファイルに使用します。
- **koreanwin.txt**：Windowsの韓国語エンコードを使用するレガシーファイルに使用します。

インストールすると、これらのマッピングテーブルにカスタムマッピングの作成手順が追加されますが、実際のマッピングは含まれません。特殊なマッピングを使用するには、これらのファイルのいずれかを、特殊なエンコードのマッピングを含むファイルに置き換える必要があります。これらのファイルは（"CustomMappingTables"フォルダ以下の）"LegacyMappingTables"フォルダ内にあります。

- **香港（広東）語**：Hong Kong Big5文字をUnicodeにマッピングする"chintradbig5.txt"ファイルが含まれています。
- **韓国語**：Mac OSの Xのハングルを Unicodeにマッピングする"koreanmac.txt"ファイルが含まれています。
- **台湾（北京）語**：Taiwan Big5文字をUnicodeにマッピングする"chintradbig5.txt"ファイルが含まれています。

たとえば、Hong Kong Big5エンコードを使用する8.0以前のプロジェクトがある場合、LegacyMappingTables/Hong Kongフォルダから"CustomMappingTables"フォルダへ"chintradbig5.txt"フォルダをコピーし、既存の"chintradbig5.txt"ファイルを置き換えます（元の"chintradbig5.txt"ファイルのコピーを別の場所に保存することもできます）。その後QuarkXPressを終了してから再起動し、プロジェクトを開きます。プロジェクトを開くと、QuarkXPressで香港（広東）語固有のマッピングテーブルを使用してプロジェクトのBig5テキストがUnicodeに変換されます。

➡ マッピングテーブルを使用するのは、8.0以前のプロジェクトを開いた場合のみです。プロジェクトを最新バージョンのQuarkXPress形式で保存すると、テキストがUnicodeで保存されるため、マッピングテーブルが不要になります。

カスタム文字を使用するプロジェクトのマッピング

古いプロジェクトの文字が拡張コードの範囲を使用する場合、QuarkXPress 8.0以降でそのプロジェクトを開くと、これらの文字が正しく表示されない場合があります。この問題を解決するには、カスタムの**マッピングテーブル**を使用して問題の文字とUnicode文字のマッピング方法を変更します。マッピングテーブルはテキストファイルの一種で、Unicodeへの特殊なエンコード方法を使用するテキストの変換方法をQuarkXPressに通知します。各マッピングテーブルには、エンコード固有のコードポイントと対応するUnicodeコードポイントのリストが含まれています。

マッピングテーブルを作成するには、まず"CustomMappingTables"フォルダへ移動します。

- Mac OS X：[ドライブ]:Library:Application Support:Quark:QuarkXPress[バージョン]:CustomMappingTables
- Windows：[ドライブ]:¥Documents and Settings¥ProgramData¥Quark¥QuarkXPress[バージョン]¥CustomMappingTables

このフォルダ内には、下記のマッピングテーブルファイルがあります。

- **chinsimpmac.txt**：Mac OS Xの中国語（簡体字）エンコードを使用するレガシーファイルに使用します。
- **chintradbig5.txt**：中国語（繁体字）エンコードを使用するレガシーファイルに使用します。
- **japanesemac.txt**：Mac OS Xの日本語エンコードを使用するレガシーファイルに使用します。
- **japanesewin.txt**：Windowsの日本語エンコードを使用するレガシーファイルに使用します。
- **koreanmac.txt**：Mac OS Xの韓国語エンコードを使用するレガシーファイルに使用します。
- **koreanwin.txt**：Windowsの韓国語エンコードを使用するレガシーファイルに使用します。

インストールすると、これらのマッピングテーブルにカスタムマッピングの作成手順が追加されますが、実際のマッピングは含まれません。カスタムマッピングを作成するには、ターゲットプロジェクトで使用するエンコードに対応するファイルを開き、ファイルで必要なマッピングの作成手順に従います。その後QuarkXPressを終了してから再起動し、プロジェクトを開きます。プロジェクトを開くと、QuarkXPressでカスタムのマッピングテーブルを使用してプロジェクトの文字がUnicodeに変換されます。

➡ マッピングテーブルを使用するのは、8.0以前のプロジェクトを開いた場合のみです。プロジェクトを最新バージョンのQuarkXPress形式で保存すると、テキストがUnicodeで保存されるため、マッピングテーブルが不要になります。

画像

画像は、イメージ編集アプリケーションや他のグラフィックアプリケーションから、QuarkXPressに取り込みおよびペーストできます。画像をボックスに取り込むと、位置の変更、サイズの変更、傾斜、またはフリップなど、その画像に対して多くの操作を実行できます。

画像の使用

QuarkXPressには、画像で使用するための多様なツールが用意されています。

画像の取り込み

画像を取り込むには、下記のいずれかを実行します。

- **ファイル > 取り込み**を選択します。
- **画像コンテンツ**ツールを選択した後、画像ボックスを指定し、**ファイル > 取り込み**を選択します。
- **画像コンテンツ**ツールを選択した後、画像ボックスを指定し、クリップボードから画像をペーストします。
- 画像ファイルをファイルシステムから画像ボックス上にドラッグします。
- 画像ファイルをファイルシステムからページ上にドラッグします。
- 画像を別のアプリケーションから画像ボックス上にドラッグします。
- Command／Ctrlキーを押しながら、画像ファイルをファイルシステムからテキストボックス、コンテンツなしボックス、空の画像ボックス、または画像が入っているボックスにドラッグします。
- Command／Ctrlキーを押しながら、画像を別のアプリケーションからテキストボックス、コンテンツなしボックス、空の画像ボックス、または画像が入っているボックスにドラッグします。

すでにテキストまたは画像が入っているボックスにコンテンツをドラッグすると、ドラッグされたコンテンツ用に、QuarkXPressが新しいボックスを作成します。新しいボックスを作成せずにボックスのコンテンツを置き換えるには、ボックスにコンテンツをドラッグしながらCommand／Ctrlキーを押します。ドラッグされたコンテンツに対して常に新しいボックスを作成するには、ドラッグしながらOption／Altキーを押します。

画像を取り込むとき、イメージはフルサイズで取り込まれ、ボックス内の境界ボックスの左上角が起点（左上角）になります。**画像コンテンツ**ツールを選択すると、画像のイメージ全体がボックス境界を越えて表示されます。

画像がボックス内に収まるようにするには、画像を取り込んだ後にサイズ変更または位置変更を行う必要があります。

画像の移動

ボックス内で画像を移動するには、下記のいずれかの方法を使用してください。

- **画像コンテンツ**ツール
- **メジャー**パレット
- （Windowsのみ） **設定**ダイアログボックス（**アイテム > 設定**）

選択した**画像コンテンツ**ツールにより、ボックス内での位置に関係なく、イメージの任意の部分をクリックできます。また、矢印キーを使用してボックス内の画像を少しずつ動かすこともできます。

アイテムツールを選択した状態でキーボードの矢印キーを使用すると、ボックス内の画像ではなく **ボックス**自体が動きます。画像の移動の詳細については、「*アイテムの移動*」を参照してください。

画像のサイズ変更

画像を拡大／縮小するには、下記のいずれかの方法を使用してください。

- **画像コンテンツ**ツール
- **メジャー**パレット
- **スタイル**メニュー
- （Windowsのみ） **アイテム**メニュー（**アイテム > 設定**）

画像をボックスに取り込んだ後は、コンテキストメニュー（または**スタイル**メニュー）から**ボックスを画像に合わせる**または**画像をボックスに合わせる（縦横比を保持）**を選択できます。**画像コンテンツ**ツールによって画像のサイズを変更しながらShiftキーを押すと、縦横比を維持したままで画像のサイズが変更されます。

画像の切り抜き

画像の一部分のみが必要な場合は、ボックスのサイズを調整して手動で切り抜くことができます。

画像の回転と傾斜

画像を回転させるとボックス内での画像の角度が変わり、画像を傾斜させると画像が傾いて表示されます。

画像を回転させるには、**画像コンテンツ**ツールを選択し、画像の角ハンドルの1つにマウスのポインタを置きます。選択した角に応じた回転ポインタが表示されます。ポインタをドラッグして画像を回転させます。また、画像の回転角度を、 Windowsの**設定**ダイアログボックス（**アイテム > 設定 > 画像**）、または**メジャー**パレット（**ホーム／クラシック**タブ）の**画像の角度**フィールドに入力することもできます。

画像を傾斜させるには、 Windowsの**設定**ダイアログボックス（**アイテム > 設定**）、または**メジャー**パレット（**ホーム／クラシック**タブ）の**画像の傾斜**フィールドに値を入力します。

画像へのカラーおよびシェードの適用

シャドウ、白黒の中間調、およびグレイスケールの画像に、カラーとシェードの値を適用できます。これには、**カラー**パレット（**ウィンドウ > カラー**）、**設定**ダイアログボックス （Windowsのみ） （**アイテム**メニュー） （**スタイル > 画像**）、**メジャー**パレット、または**スタイル**メニューを使用します。画像バックグラウンドおよびボックスバックグラウンドにもカラーを適用できます。

- 白黒またはグレイスケールの画像にカラーを適用するには、**画像カラー**アイコンを選択して、カラー名をクリックします。
- 白黒またはグレイスケールの画像のバックグラウンドにカラーを適用するには、**画像バックグラウンドカラー**アイコンを選択して、カラー名をクリックします。

画像のフリップ

画像ボックスのコンテンツは、**スタイル**メニュー（**スタイル > 水平フリップ**または**スタイル > 垂直フリップ**）または**メジャー**パレットの**ホーム／クラシック**タブ（水平フリップアイコンまたは垂直フリップアイコンをクリック）を使用して、左から右または上から下へフリップできます。

画像の一覧表示、状況確認、および更新

使用状況機能（**補助**メニュー）では、取り込んだ画像すべてをトラッキングできます。この機能を使用するには、**補助 > 使用状況**を選択し、**画像**をクリックして**画像**ペインを表示します。

表示ボタンを使用すると、選択した画像がレイアウト上に表示されます。

更新ボタンを使用すると、移動されている画像および変更された画像を更新できます。確認のための警告を出さずに変更された画像を更新するには、Option／Altキーを押しながら**更新**ボタンをクリックします。

画像バックグラウンドカラーの指定

画像で選択できるデザインオプションを増やすため、ボックスのカラー、画像カラー、および画像バックグラウンドカラーを変更できます。詳細は、「*画像へのカラーおよびシェードの適用*」を参照してください。

- グレイピクセルの場合は、画像カラーと画像バックグラウンドカラーが混合されます。
- 画像カラーまたは画像バックグラウンドカラーにさまざまな不透明度を指定する場合は、カラーがお互いに、およびボックスカラーと相互作用します。

グレイスケールおよび1ビット画像のみ：以前のバージョンのQuarkXPressからプロジェクトを開く場合は、ボックスカラーが画像バックグラウンドカラーにマッピングされるため、画像の外観は同じになります。

画像属性の保持

画像を画像ボックスに取り込む場合は、その画像ボックスに画像が入っているかどうかに関係なく、すべての画像属性を保持できます。たとえば、テンプレートの空の画像ボックスで、画像を50%に縮小して90度回転させるように指定されている場合は、新しい画像を取り込んでそれらの属性を自動的に適用することができます。

画像を取り込み、そのボックスおよび／または既存の画像に指定されている属性を保持するには、**取り込み**ダイアログボックス（**ファイル**メニュー）で**画像属性を保持**をオンにします。

クリッピングパスの使用

クリッピングパスとは、画像のどの部分を表示し、どの部分を透明として扱うかを示す、閉じたベジエ形状です。クリッピングパスは、元の画像ファイルのバックグラウンドから画像の標題を分離するときなどに、特に役立ちます。

クリッピングパスは、QuarkXPressまたはQuarkCopyDeskで新規作成したり、埋め込みパスまたはアルファチャンネル情報を使用して作成したりできます。QuarkXPressまたはQuarkCopyDeskで作成されたクリッピングパスは、画像ファイルに基づき、レイアウトとともに保存されます。

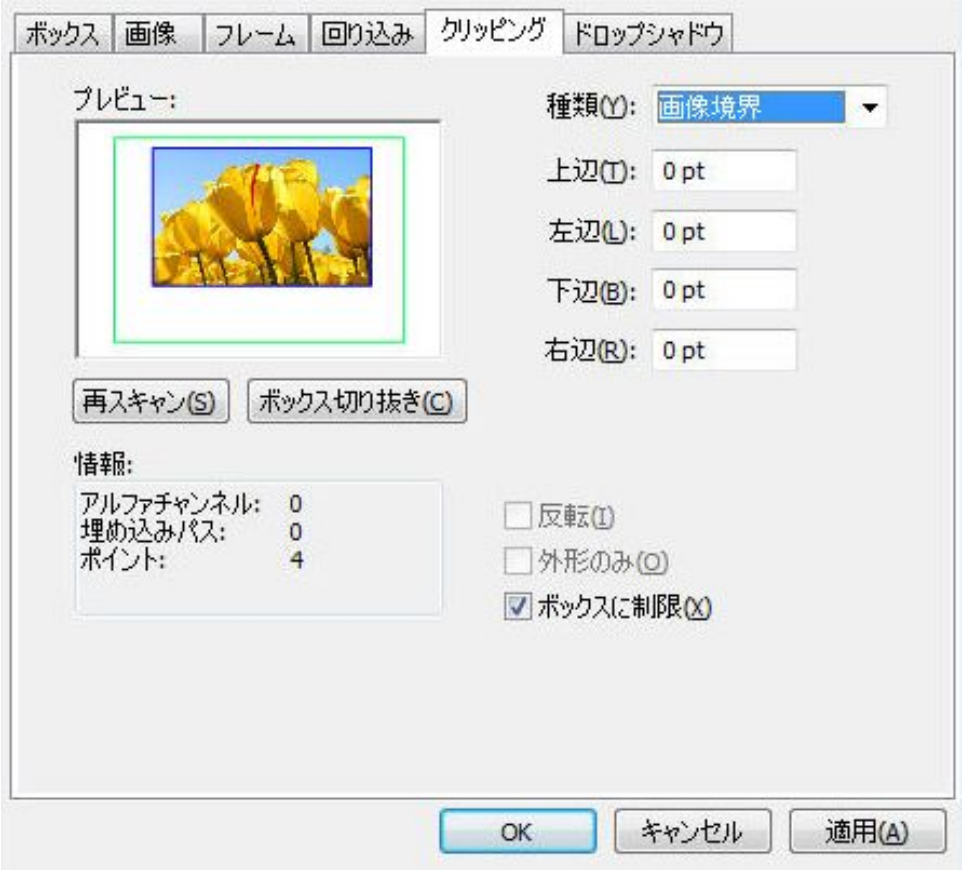
クリッピングパスを使用すれば、画像のどの部分を表示し、非表示にするか、制御できます。

クリッピングパスの作成

クリッピングパスの作成または割り当てを行うには、Windowsでは**アイテム > クリッピング** を選択し、**種類**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。Mac OS Xでは、**メジャー**パレットの**クリッピング** タブを使用します。

- イメージをボックス境界に合わせて切り抜くには、**アイテム**を選択します。**アイテム**を選択するだけではクリッピングパスは作成されません。ボックスの形に合わせて画像が切り抜かれるだけです。

- 既に画像ファイルに埋め込まれているパスに沿って画像をクリップするには、**埋め込みパス**を選択します。画像ファイルに複数のパスが埋め込まれている場合は、**パス**ドロップダウンメニューから目的のパスを選択します。
- 既に画像ファイルに埋め込まれているアルファチャンネルに沿って画像をクリップするには、**アルファチャンネル**を選択します。画像ファイルに複数のアルファチャンネルが埋め込まれている場合は、**アルファ**ドロップダウンメニューから目的のアルファチャンネルを選択します。アルファチャンネルに沿ってクリッピングパスを使用すると、ブレンドされた効果ではなくハードエッジが作成される点に注意してください。半透明のブレンドが必要な場合は、アルファマスクを使用してください（「*アルファマスクの使用*」を参照してください）。
- 画像の主体に基づいてクリッピングパスを作成するには、**白以外の領域**を選択します。クリッピングパスは、イメージと**限界**フィールドの値に応じて、全体に白または白に近いイメージ内で、白以外の形状部分のアウトラインを描きます（またはその逆）。**白以外の領域**オプションは、イメージの不要な部分が画像の主体よりも明るい場合（または暗い場合）に使用すると効果的です。
- 取り込んだ画像ファイルの、矩形の「キャンバス領域」に沿って画像をクリップするには、**画像境界**を選択します。これには、元の画像ファイルで保存されている白のバックグラウンドも含まれます。**上**、**左**、**下**、および**右**の各フィールドに値を入力して、画像境界からのクリッピングパスの距離を決定します。正の値は距離を増やし、負の値は距離を減らします。



設定ダイアログボックスの**クリッピング**タブ

➡ **プレビュー**領域の緑のパスはクリッピングパスを表し、青のアウトラインは画像ボックスを表します。

埋め込みクリッピングパスの使用

画像編集アプリケーションを使用すれば、イメージにパスおよびアルファチャンネルを埋め込むことができます。これらの情報を格納している画像がQuarkXPressに取り込まれると、 **Windows**では **設定**ダイアログボックスの**クリッピング**タブ、 **Mac OS X**では **メジャー**パレットの **クリッピング** タブを使用して、パスとチャンネルの情報にアクセスできます。

TIFFとPSDには、パスおよびアルファチャンネルを埋め込むことができます。EPS、BMP、JPEG、PCX、およびPICTファイルには、パスのみを埋め込むことができます。

クリッピングパスの操作

クリッピングパスの適用後、**アイテム > 編集 > クリッピングパス**を選択して、クリッピングパスの編集を有効にします。次に、**ポイント選択**ツール、**ポイント追加**ツール、**ポイント削除**ツール、および**ポイント変換**ツールのいずれかを選択します。詳細は、「ツール」を参照してください。

メジャーパレットのコントロールを使用してクリッピングパスを操作することもできます。ポイントの種類を変更するには、下記の3つのボタンのいずれかを使用します。

- **シンメトリカルポイント**：シンメトリカルポイントは、2本の曲線を接続して1本の連続した曲線を構成します。できあがる曲線はスムーズポイントに似ていますが、各曲線ハンドルは常にポイントを通る直線上にあり、かつポイントから等距離にあります。
- **スムーズポイント**：スムーズポイントは、2本の曲線を接続して1本の連続した曲線を構成します。各曲線ハンドルは常にポイントを通る直線上にありますが、ポイントからの距離が同じである必要はありません。
- **コーナーポイント**：コーナーポイントは2本の直線、1本の直線と1本の曲線、または2本の不連続な曲線を接続します。2本の曲線の場合、コーナーポイントの各曲線ハンドルを個々に操作して、2つのセグメント間に鋭角的な変化を持たせることができます。

ラインセグメントの特性を変更するには、下記のボタンのいずれかを使用します。

- **直線セグメント**：アクティブなセグメントを直線にします。
- **曲線セグメント**：アクティブなセグメントを曲線にします。

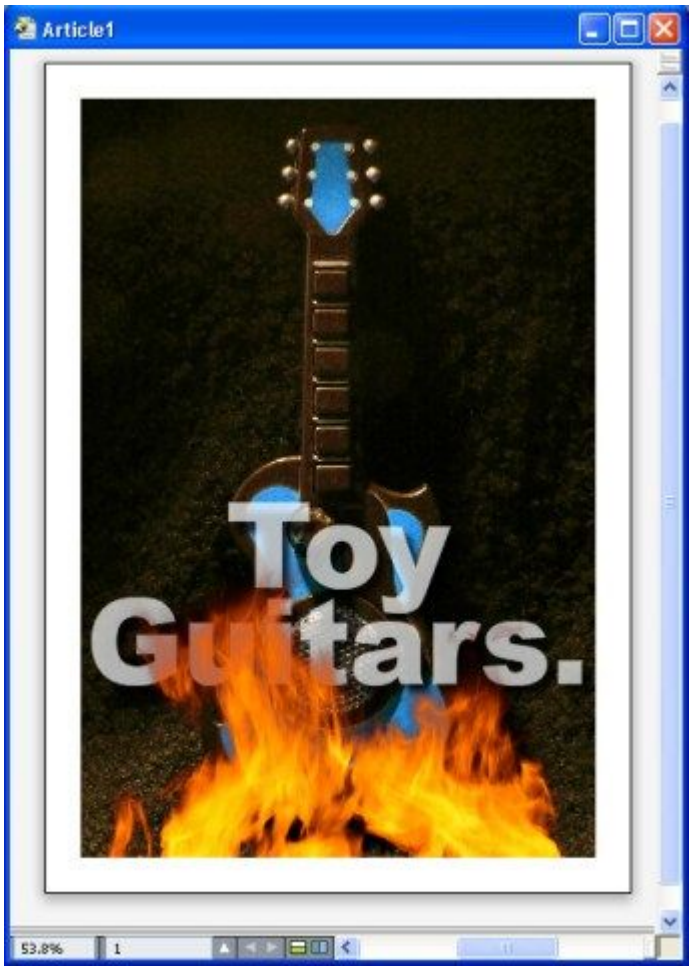
➡ ポイントおよびセグメントの種類は、**アイテム > ポイント／セグメントの種類**サブメニューを使用して変更することもできます。

クリッピングパスを使用した特殊効果の作成

クリッピングタブの各種オプションを使用して、クリッピングパスを反転させたり、外形のみを使用して画像をクリップするかどうか、または画像をボックスの内側に配置するかどうかを指定したりできます。可視領域の透明化および透明領域の可視化、パス内での穴の使用、画像ボックスの形に合わせた画像の切り抜き、またはクリッピングパスのボックス境界からはみ出た部分の削除などの特殊効果を作成できます。

アルファマスクの使用

クリッピングパスはスムーズエッジを生成し、これは主に前面イメージをバックグラウンドイメージと分離するために使用されます。これに対してアルファマスクは透明度情報を含み、新しいバックグラウンドに前面イメージを微妙にブレンドできます。QuarkXPressでアルファマスクを使用するには、まずAdobe Photoshopなどの画像編集アプリケーションでアルファマスクを作成する必要があります。それから、作成したアルファマスクをQuarkXPressで使用します。



フレーム上のアルファマスクを使用して、バックグラウンドのテキストを表示できます。

QuarkXPressでアルファマスクを使用するには、アルファチャンネルをサポートする形式で画像とともに保存する必要があります。

選択した画像にアルファマスクを適用するには、**メジャー**パレットの**マスク**ドロップダウンメニューからアルファチャンネルを選択します。Windowsでは、**アイテム**メニューから**設定**ダイアログボックスを開き、**画像**タブの**チャンネル**ドロップダウンメニューでアルファマスクを適用することもできます。

➡ デフォルトでは、このドロップダウンメニューは**コンポジット**に設定されており、この状態ではイメージ全体の透明度が保持されます。

PSD画像の使用

Adobe Photoshopの変更されていないネイティブの画像ファイルを、PSD Import XTensionsソフトウェアを使用して、QuarkXPressに直接取り込むことができます。いったんファイルが取り込まれると、Photoshop（PSD）ファイルで保存されたレイヤー、チャンネル、およびパスを操作できるようになります。このようにPhotoshopとQuarkXPressを統合することで、ワークフローが効率的になり、変更をスキップできます。また、ネイティブファイルを操作できるのでハードディスクのスペースを節約でき、レイヤー、チャンネル、パスへアクセスできるため、創造面での可能性が広がります。

PSD Import XTensionsソフトウェアが実行されていると、**ファイル > 取り込み**を使用して、選択したQuarkXPress画像ボックスにPSDファイルを取り込むことができます。

イメージのレイヤー、チャンネル、パスを使用するには、**ウィンドウ > 高度なイメージ制御**を選択します。 **高度なイメージ制御**パレットを使用すれば、レイヤーをブレンドしたり、カラーチャンネルを使用したり、パスを選択したりできます。

➡ QuarkXPressでPSDファイルを使用するには、PSD Import XTensionsをロードしておく必要があります。

PSDファイルの準備

高度なイメージ制御で使用する画像をPhotoshopで準備する場合は、下記の点を念頭に置く必要があります。

- イメージを別のファイル形式で保存する必要はありません。したがって、レイヤーを平滑化する必要もありません。
- テキストを周囲に回り込ませる輪郭のアルファチャンネルまたはクリッピングパスを作成します。
- 別のスポットカラーまたは光沢を適用する領域のチャンネルを作成します。
- 高度なイメージ制御では、レイヤー効果を使用する画像を含む、特定画像のレイヤー情報を読み込めません。代わりにコンポジット画像が使用されます。

➡ Photoshop画像の場合は、画像効果を使用できません。

➡ 高度なイメージ制御は、グレイスケール、RGB、CMYK、索引、およびマルチチャンネルの各モードでPSDファイルをサポートします。

PSDレイヤーの使用

レイヤーを使用していろいろと試すことで、レイアウト全体のコンテキストの中でさまざまなイメージを確認できます。さらに、レイヤーの不透明度を変更したり、ディゾルブ、明、差分などのさまざまなブレンドモードを試したりして、デザインの残りの部分にこれらの効果がどのように影響するかを確認できます。

PSD画像内のレイヤーの不透明度を表示、非表示、ブレンド、変更するには、**高度なイメージ制御**パレットの**レイヤー**ペインを使用します。**高度なイメージ制御**パレットでは、画像ファイルがどのように作成されたかの情報が表示されますが、画像ファイルに基本的な変更を加えることはできません。

- **レイヤー**ペインを使用しても、レイヤーを作成、命名、コピー、複製、整列、位置の変更、削除、または結合できません。

- PSDファイルにレイヤーがない場合、**高度なイメージ制御**パレットにはバックグラウンドレイヤーだけが表示されます。

PSDレイヤーのブレンド

レイヤーペインの**ブレンドモード**ドロップダウンメニューでは、選択されているレイヤーのピクセルが、そのレイヤーのすべての下位レイヤーのピクセルとどのように対話するかを制御します。ブレンドモードは、画像編集アプリケーションのものとほぼ同じで、**乗算、覆い焼きカラー、除外**、および**彩度**などのオプションを使用できます。

Photoshopレイヤーの表示および非表示

表示のレイヤーは画面に表示し、印刷できます。非表示のレイヤーは画面に表示されず、印刷されません。高度なイメージ制御を使用して、バックグラウンドレイヤーを含む任意のレイヤーを非表示にできます。

- レイヤーを表示するには、そのレイヤーの左にある空のボックスアイコンをクリックします。
- すべてのレイヤーを表示するには、Option+Shift/Alt+Shiftキーを押しながら、空のボックスアイコンをクリックします。
- レイヤーを非表示にするには、目アイコンをクリックします。
- 1レイヤーを除いたすべてのレイヤーを非表示にするには、Option／Altキーを押しながら目アイコンをクリックします。

レイヤーのブレンドと不透明度を変更して得られた結果が望ましくない場合、**高度なイメージ制御**パレットメニューの**レイヤー復帰**または**全レイヤー復帰**オプションを使用して、取り込んだPSDファイルの元の状態にレイヤーを戻すことができます。

PSDレイヤーの不透明度の変更

レイヤーペインのフィールドを使用して、選択したレイヤーでのピクセルの透明度を制御できます。透明度は、0%（完全に透明）から100%（完全に不透明）までの範囲で指定できます。

レイヤーマスクの使用

PSDファイルにレイヤーマスクが保存されている場合、**高度なイメージ制御**パレットの**レイヤー**ペインで、Shiftキーを押しながらレイヤーマスクのサムネールプレビューをクリックすると、マスクを有効／無効にできます。

PSDチャンネルの使用

Photoshopチャンネルは、画像に関するカラー情報を保存しています。デフォルトでは、グレイスケールおよびインデックスカラーイメージには1つのチャンネル、RGBイメージには3つのチャンネル、CMYKイメージには4つのチャンネルがあります。これらのチャンネルは、まとめて**デフォルトチャンネル**と呼ばれます。 You can use the **Channels** pane of the **Advanced Image Control** palette to show and hide all channels, to change the color and ink solidity of a selected spot-color channel or alpha channel, and to assign spot colors to selected indexed colors.たとえば、チャンネルに光沢、エンボス、打ち抜きなどの特殊効果を割り当てることができます。

チャンネルの表示および非表示

取り込んだPSDファイル中の表示のチャンネルは画面上に表示して印刷できます。非表示のチャンネルは画面上には表示されず、印刷できません。チャンネルの表示と非表示の切り替え処理は、レイヤーの場合と同様です。

コンポジットチャンネルをクリックすると、CMYKやRGBなどのデフォルトチャンネルがすべて表示されます。

チャンネルのカラーおよび不透明度の変更

高度なイメージ制御を使用して、Photoshopで作成したスポットカラー、マスク、またはアルファチャンネルのカラー、シェードおよび不透明度を変更できます。コンポジットイメージをオーバープリントするチャンネルにスポットカラーを割り当てたり、チャンネルの画面表示およびカラーコンポジットの印刷時の不透明度を指定したりできます

Photoshopでマスクチャンネルとして指定されるチャンネルは、スポットカラーとして指定されるチャンネルとは別に取り込まれます。Photoshopでは、マスクチャンネルとスポットチャンネルには不透明度の設定値が割り当てられます。PSD Importでは不透明度がサポートされているので、マスクチャンネルの不透明度は0%として取り込まれます。取り込んだPSDのマスクチャンネルを表示するには、**高度なイメージ制御**パレットの**チャンネル**タブでマスクチャンネルを手動で有効にする必要があります。一方、スポットカラーチャンネルはPSDファイルに保存されている不透明度値を保持し、デフォルトでQuarkXPressのカラーにマップされます。

チャンネルオプションダイアログボックスを使用して、スポットカラーまたはアルファチャンネルのピクセルのカラー、 シェード、または不透明度を変更します。**チャンネルオプション**ダイアログボックスを表示するには、**高度なイメージ制御**パレット（**ウィンドウ**メニュー）の**チャンネル**ペインで、チャンネルをダブルクリックします。

インデックスカラーチャンネルの使用

デフォルトでは、QuarkXPressでPSD Importを使用して色分解を印刷する場合、インデックスカラーイメージのカラーはCMYKに分解されます。デフォルト設定を上書きするには、**編集 > カラー**でスポットカラーまたはMulti-Inkカラーを作成し、画像で選択したインデックスカラーに適用します。高度なイメージ制御では、インデックスカラーイメージのカラーからスポットカラーを作成することもできます。変更しないインデックスカラーは、引き続きCMYKに分解されます。

PSDパスの使用

PSD Importを使用して、クリッピングおよび回り込みを指定するための埋め込みパスを選択することもできます。**高度なイメージ制御**パレットの**パス**ペインから、QuarkXPressのクリッピングパス機能およびテキスト回り込み機能に簡単にアクセスできます。

パスペインを使用すれば、さまざまなクリッピングパスを選択して、テキスト回り込みの輪郭に使用できます。テキスト回り込みの輪郭を選択するには、最初の列で空のボックスをクリックします。**テキスト回り込み**アイコンが表示され、テキストがクリッピングパスの輪郭に回り込みます。

➡ テキストを回り込ませるには、画像ボックスがテキストの前面に配置されている必要があります。テキストが回りこんでいない場合は、画像ボックスを選択し、**アイテム > ひとつ前へ**または**アイテム > 前面へ出す**を選択します。

また、**パス**ペインを使用し、Photoshopで作成したクリッピングパスを選択して、イメージの表示を制御することもできます。クリッピングパスを選択するには、2番目の列で空のボックスをクリックします。**クリッピングパス**アイコンが表示され、選択したクリッピングパス内の画像領域も表示されます。

PSD Importでパスに加えた変更は、元に戻すことができます。パスは、取り込まれたPSDファイルで作成されたときの、元の状態に戻ります。元の状態に戻すには、**高度なイメージ制御**パレットまたはコンテキストメニューから、**パス復帰**または**全パス復帰**を選択します。

PSD Importによる印刷

高度なイメージ制御を使用してレイアウトを印刷する場合は、印刷する各PSD画像内で、レイヤー、チャンネル、およびパスを指定できます。 **高度なイメージ制御**パレットの目のアイコンは表示と印刷の両方を制御するため、画像は表示されたとおりに印刷されます。

カラー、不透明度、およびドロップシャドウ

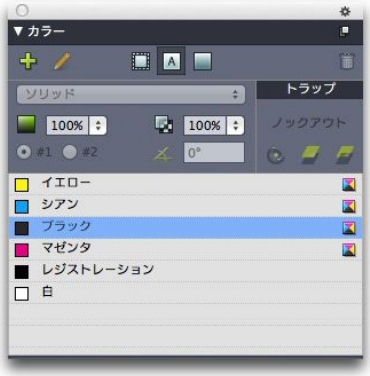
QuarkXPressでは、カスタムカラーの作成、いくつかの標準化カラーマッチングシステムからの色の選択、およびカラーの編集を行えます。テキストと画像にカラーとシェードの両方を適用できます。テキストの不透明度もテキストのカラーと同じ方法で制御できます。アイテムとテキストの両方にドロップシャドウを適用できます。

カラーの使用

一部のカラーは、自動的に**カラー**パレットに組み込まれます。他のカラーを使用するには、**カラー**ダイアログボックスを使用してカラーを作成するか、既存のカラーを編集する必要があります。このダイアログボックスでは、カラーホイールや数値フィールド、カラーマッチングシステムを使用してカラーを作成できます。

カラーパレット

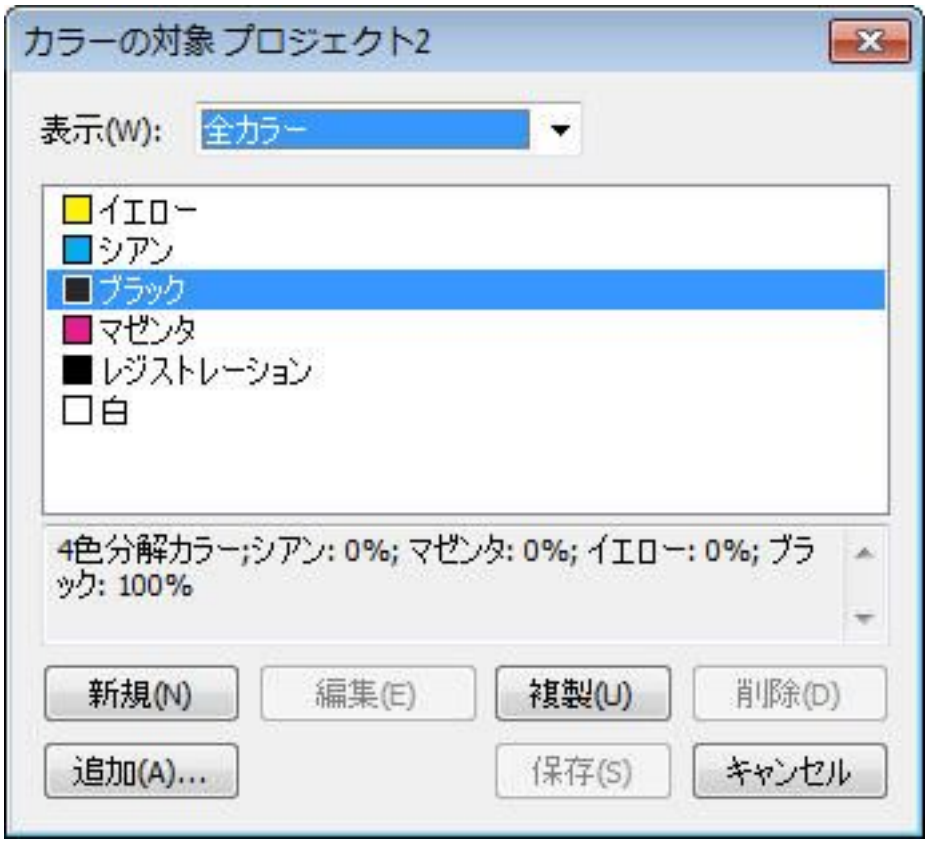
カラーパレット（**ウィンドウ > カラー**）を使用して、プロジェクト用のカラーを作成、編集、複製、および管理できます。このパレットでは、オーバープリントやノックアウトの設定も制御できます。



カラーパレットにより、カラーを作成、編集、削除できます。

カラーダイアログボックス

カラーダイアログボックス（**編集 > カラー**）を使用して、カラーを作成、編集、複製、削除、および追加できます。



カラーダイアログボックスにより、カラー定義を作成、編集、削除できます。

カラーの作成

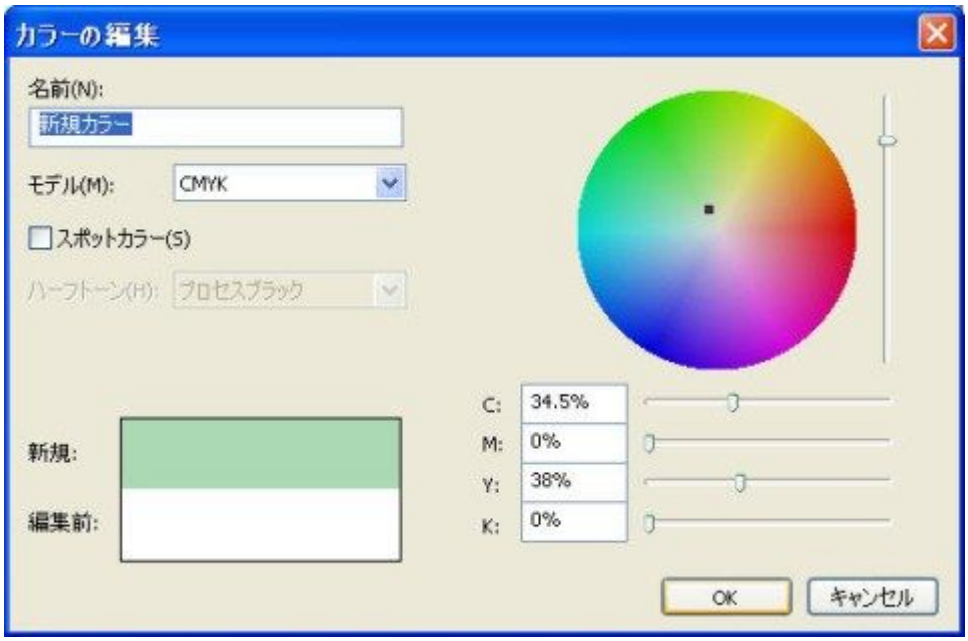
カラーの作成時、いくつかのカラーモデル、または多数あるカラーマッチングシステムから選択できます。頻繁に使用するカラーがある場合、ファイルが開いていないときに、アプリケーションのデフォルトカラーリストのカラーを作成できます。最大で1,000までのデフォルトカラー、またはアーティクル固有のカラーを作成できます。カラーを作成するには、**編集 > カラー**を選択して**カラー**ダイアログボックスを表示し、 **新規**をクリックして**カラーの編集**ダイアログボックスを表示します。その後、**名前**フィールドに名前を入力して新しいカラーのカラーモデルを指定します。**カラー**パレットの**新規**ボタンをクリックしてカラーを作成することもできます。

- RGB：この加法混色法カラーシステムは、スライドレコーダーやカラービデオモニターで最もよく使用され、ウェブページにもよく使用されます。赤、緑、および青の光を混ぜ合わせ、ビデオ画面に色を表示します。
- HSB：このカラーモデルは色を混ぜ合わせる方法と似ているため、デザイナーに多く使用されます。色相はカラーピグメントを、彩度はカラーピグメントの量を、明度はカラーの黒の量を表します。
- LAB：このカラースペースは、モニターやプリンタの製造業者による解釈の違いに依存しないように設計されています。LABカラースペースとも呼ばれるLABカラーモデルは、カラーを表現するための標準3次元モデルです。輝度座標（L）、および2つのクロミナンス座標（緑色-赤色のA）、および（青色-黄色のB）でカラーを指定します。
- Multi-Ink：このカラーモデルは、既存のプロセスやスポットインキの色調のパーセントを基にしています。

- **CMYK**：CMYKは、印刷機上でシアン、マゼンタ、黄色、および黒色インキを組み合わせてカラーを再生成するために、プロフェッショナルプリンタで使用される減法混色法カラーモデルです。
- **ウェブセーフまたはウェブ名前付きカラー**：ウェブセーフカラーは、ウェブアプリケーション間で一貫したカラーを実現するために使用されます。
- カラーマッチングシステムからカラーを選択して、カラーリストに追加するには、**モデル**ドロップダウンメニューから標準カラーマッチングシステムの1つを選択します。

カラーの編集

既存のカラーを編集するには、**編集 > カラー**を選択して**カラー**リストで編集するカラーを選択し、**編集**をクリックして**カラーの編集**ダイアログボックスを表示します。**カラー**リストで編集するカラーをダブルクリックしても、**カラーの編集**ダイアログボックスを表示できます。



カラーの編集ダイアログボックス

カラーの複製

既存カラーを複製するには、**編集 > カラー**を選択して**カラー**リストから複製するカラーを選択し、**複製**をクリックして複製する**カラーの編集**ダイアログボックスを表示します。

色の削除

デフォルトカラーの一部は削除できませんが、作成した新しいカラーや複製カラーは削除できます。カラーリストからカラーを削除するには、**編集 > カラー**を選択し、**カラー**リストから削除するカラーを選択して、**削除**をクリックします。

別アーティクルやプロジェクトからのカラーの取り込み

別アーティクルやプロジェクトのカラーを追加するには、**カラー**ダイアログボックス（**編集 > カラー**）または**追加**コマンド（**ファイル > 追加**）を使用します。

カラーの一括変換

あるカラーが適用されたすべてのアイテムを別のカラーに一括変換するには、カラーを目的のカラーに編集するか、**編集 > カラー**を選択して**カラー**ダイアログボックスを表示し、編集するカラーの名前を選択して**編集**をクリックし、変更を加えます。

➡ あるカラーが適用されたすべてのアイテムとテキストを別のカラーに一括変換する場合は、実行前に必ず作業を保存してください。こうすることで、不適切なカラーに変換されてしまった場合に、**ファイル > 復帰**を選択するだけで不適切な変更を取り消すことができ、他の作業が影響を受けることもありません。

カラー、シェード、ブレンドの適用

ボックス、フレーム、および画像にカラーとシェードを適用するには、下記の3つの方法があります。

- （Windowsのみ） **アイテム > 設定**メニューを選択して**設定** ダイアログボックスを開き、**ボックス**および**フレーム**タブを使用します。
- **カラー**パレット（**ウィンドウ > カラー**）を使用します。
- **メジャー**パレットを使用します。

白黒ビットマップやグレイスケールフォーマットの画像を含む画像ボックスがアクティブになっている状態で、**スタイル > カラー**にある**カラー**コマンドを選択すれば、これらの画像の暗い領域にカラーを適用できます。

カラーパレットを使用したブレンドの作成

ブレンドとは、あるカラーから別のカラーに変化していく状態です。**カラー**パレットを使用すれば、2つのブレンドカラー、そのシェード、ブレンドするパターン、ボックスに対してブレンドする角度を指定できます。ブレンドには、プロジェクトで使用できる2つのカラーを含めることができます。

カラーおよびシェードをテキストに適用

カラーおよびシェードをテキストに適用するには、下記の5つの方法があります。

- カラーおよびシェードは、**スタイル > カラー**および**スタイル > シェード**コマンドを使用して適用できます。
- **カラー**パレット（**ウィンドウ > カラー**）を使用します。
- **スタイル > 文字スタイルシート**にある**文字スタイルシート**コマンドを使用すれば、作成した文字スタイルシートを使用している選択済みテキストに、カラーおよびコマンドを適用できます。
- （Windowsのみ） **スタイル > 文字**メニューで表示される**文字属性**ダイアログボックスを使用できます。
- **メジャー**パレットを使用します。

ラインへのカラーとシェードの適用

ラインにカラーとシェードを適用するには、下記の4つの方法があります。

- （Windowsのみ） **設定**ダイアログボックス（**アイテム > 設定**）の**ライン**タブのコントロールを使用します。
- **カラー**パレット（**ウィンドウ > カラー**）を使用します。
- カラー、シェード、およびラインギャップ設定を適用するには、**スタイル > カラー**および**スタイル > シェード**コマンドを使用します。
- **メジャー**パレットを使用します。

不透明度の使用

不透明度はカラーレベルで適用されるため、ブレンドの第1および第2カラーを含め、カラーを適用可能な対象すべてに対して不透明度を指定できます。これは、同じアイテムの異なる属性で不透明度を有効にできることを意味し、たとえば、テキストボックスフレーム、バックグラウンド、画像、およびテキストのそれぞれの文字に、異なる不透明度を適用することができます。

不透明度の指定

不透明度の指定は、カラーのシェードの指定と同様に、簡単に行えます。実際に、**カラー**パレット、**メジャー**パレット、**スタイル**メニュー、**設定**ダイアログボックスの各種タグなど、カラーを選択可能な場所ではどこでも、不透明度の値を0%（完全に透明）から100%（完全に不透明）までの間で、0.1%単位で入力できます。

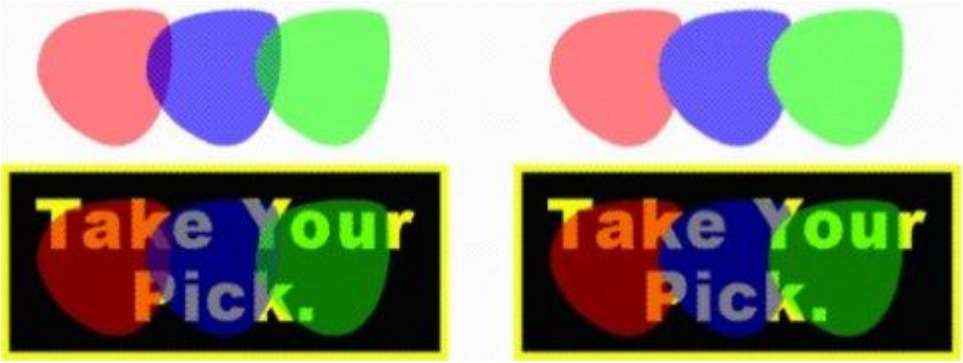
画像の不透明度を指定するには、下記の操作を行ってください。

- （Windowsのみ） **画像**タブ（**アイテム > 設定**）の**不透明度**フィールドに値を入力します。
- （Mac OS Xのみ） **メジャー**パレットの**画像ボックス**タブの**不透明度**フィールドに値を入力します。

グループの不透明度の指定

不透明度が異なるアイテムをスタックすると、カラーが混ざり合い、意図しないオーバープリントが起きることがあります。たとえば、不透明度100%のシアンのボックスの前面に不透明度30%のイエローのボックスを配置すると、前面のボックスはわずかに緑がかってしまいます。

アイテムをグループ化し、個々のアイテムの不透明度ではなく、グループの不透明度を指定すれば、色の重なりを制御できます。このためには、 Windowsでは**アイテム**メニューから**設定**ダイアログボックスを開き、**グループ**タブの**グループ不透明度**フィールドを使用します。 Mac OS Xでは、**メジャー**パレットの**ホーム**タブを使用します。目的の効果によっては、個々のアイテムの**不透明度**フィールドを100%に戻す必要がある場合もあります（戻さない場合、グループの不透明度に各アイテムの不透明度が加算されます）。



ここに示すグループ化された3つのアイテムで、アイテムの不透明度とグループの不透明度を比較してみます。左の例では、各アイテムが50%の透明度で、前面のアイテムは後面にあるアイテムと混ざり合っています。右の例では、各アイテムの不透明度は100%ですが、グループの不透明度は50%に設定されています。そのため、グループ全体はバックグラウンドと混ざり合っています。ただし、グループのアイテムには、グループの不透明度だけでなく、アイテムごとの不透明度も設定できます。

透明度のあるブレンドの作成

白色ではなく、**なし**で色をブレンドできます。**カラー**パレットで、ブレンドの1番目または2番目のカラーに**なし**を選択します。 Windowsでは、**設定**ダイアログボックス（**アイテム**メニュー）の**ボックス**タブも使用できます。

カラーマネージメント

QuarkXPressは、ユーザー入力がほとんど不要なICCベースのカラーマネージメントツールを通じて、狙いどおりのカラーを生成するという課題に対応します。カラーに精通しているユーザーなら、QuarkXPRessでカラーマネージメントのさまざまな側面を自在に制御できます。カラーマネージメントの実装を合理化するだけでなく、多様な機器での出力をシミュレートできるプレビューを使用して、真のソフトプルーフを実行できます。

ソースセットアップおよび出力セットアップ

QuarkXPressでのカラーマネージメントの実装により、カラー担当者は、ソースセットアップおよび出力セットアップと呼ばれる、カラーマネージメント設定の「パッケージ」を作成し、細かく調整できるようになりました。**ソースセットアップ**では、RGBやCMYK、LAB、およびグレイスケールのカラースペースでのソリッドカラーや画像のプロファイルとレンダリング方法を個別に指定します。また、名前付きカラーのソースカラースペースや、インキの基底カラースペースも指定します。**出力セットアップ**では、出力プロファイルとカラーモデルを指定し、スクリーンでさまざまな出力をシミュレーションするためのプルーフオプションを設定します。

カラーマネージメントの紹介

作業を行うとき、実証済みのデフォルト設定を使用する、カラーの専門家が作成したソースセットアップと出力セットアップを実装する、レガシーカラーマネージメント環境内で作業するなど、さまざまな方法を使用できます。

デフォルトのカラーマネージメント環境での作業

デフォルト設定は、ほとんどの状況で正確なプレビューと美しい出力が得られるように設計されています。設定を行う必要はありません。デフォルト設定を確認する場合は、

QuarkXPress／**編集**メニューを選択して**環境設定**ダイアログボックスを開き、**ディスプレイ**および**カラーマネジャー**の選択内容を調べてください。

モニタープロファイルの指定

ディスプレイペインには、使用しているモニタープロファイルが表示されます。デフォルト設定の**自動**は、 Mac OS Xまたは Windowsで認識されている現在のモニターを示しています。**モニタープロファイル**ドロップダウンメニューから、別のプロファイルを選択できます。たとえば、モニター用のカスタムプロファイルがある場合や、ノートPCとデスクトップコンピュータで切り替えながら同じ表示環境をシミュレーションする場合など、デフォルトのモニタープロファイルを変更できます。

ソースセットアップの指定

カラーマネジャーペインの**ソースオプション**領域には、デフォルトのソースセットアップである**QuarkXPress 7.0デフォルト**が表示され、最新で実証済みのカラーマネージメント環境を提供します。QuarkXPress 7.0以前のバージョンのカラーマネージメント環境を使用する場合には、**ソースセットアップ**ドロップダウンメニューから**QuarkXPress Emulate Legacy**を選択します。

デフォルトのプルーフ出力セットアップの指定

印刷レイアウトでカラーを表示するためのデフォルトの出力セットアップを指定するには、**出力のプルーフ**ドロップダウンリストからオプションを選択します。

レンダリング方法の指定

レンダリング方法ドロップダウンメニューには、1つのカラースペースから別のからスペースにカラーを変換するときに使用する方法が表示されます。デフォルト設定の**相対的な色域を維持**では、ソースとターゲットの両方の範囲内の色が維持されます。唯一変更されるソースカラーは、ターゲットの範囲内に収まらないソースカラーです。たとえば、写真ではなく線画とPantoneカラーに重点が置かれている場合など、その作業の種類によって、**レンダリング方法**ドロップダウンメニューから別のオプションを選択できます。

マルチカラースペースEPSおよびPDF画像のカラー管理

一部のEPSおよびPDFファイルに、異なるカラースペースを使用する要素を含めることができます。たとえば、PDFまたはEPSファイルに、RGBカラースペースを使用する画像と、CMYKカラースペースを使用するカラーが含まれていることがあります。指定した出力セットアップを使用してQuarkXPressでこれらの多様な要素を適切に管理するには、以降に取り込んだEPSやPDFの画像で、**新規のベクトルEPS/PDFをカラー管理する**をオンにします。

アクティブなプロジェクトで既に取り込まれているEPSおよびPDFファイルでベクトルコンテンツの色を管理するには、**配置済みのベクトルEPS/PDFを含む**チェックボックスをオンにします。

カラーエキスパートからのソースセットアップと出力セットアップの使用

カラーエキスパートが、ユーザーのワークフローに固有の、または個々のジョブまたはクライアントに固有のカスタムソースセットアップやカスタム出力セットアップを作成する場合は、環境設定、表示オプション、出力設定、およびJob Jacketからそれらの設定を簡単に使用できます。たとえば、出力サービスや印刷所は、自社の装置にとって適切な出力になるようにするため、ユーザーに設定方法を指導する場合があります。

ソースセットアップの追加

作業対象のプロジェクト用にソースセットアップを作成すると、ソースセットアップを他のプロジェクトに追加できます。ソースセットアップにナビゲートして選択するには、**ソースセットアップ**ダイアログボックスにある**追加**ボタン（**編集 > カラーのセットアップ > ソース**）を使用します。

出力セットアップの取り込み

出力セットアップがユーザー向けに作成されている場合、**出力セットアップ**ダイアログボックス（**編集 > カラーのセットアップ > 出力**）で出力セットアップを取り込めます。出力セットアップファイルをナビゲートして選択するには、**取り込み**ボタンを使用します。

ソースセットアップおよび出力セットアップの選択

カスタムのソースセットアップおよび出力セットアップを使用するには、下記のようにさまざまなカラーマネージメントメニューからその設定を選択します。

- カラーソース：カスタムソースセットアップを使用するには、**QuarkXPress/編集**メニューの**環境設定**ダイアログボックスにある**カラーマネージメント**ペインの**ソースセットアップ**ドロップダウンメニューからそのレイアウトの設定を選択します。
- カラーディスプレイ：プルーフ用のカスタム出力セットアップを使用するには、**表示**メニューの**出力のプルーフ**サブメニューから設定を選択します。
- カラー出力：印刷用および他の種類の出力用のカスタム出力セットアップを使用するには、**ファイル > 印刷**の**印刷**ダイアログボックスの**カラー**ペインにある**設定**ドロップダウンメニューから設定を選択します。

ジョブジャケットでのソースおよび出力セットアップの使用

ジョブジャケットファイルからプロジェクトを作成する場合には、適切なソースセットアップと出力セットアップが自動的に取り込まれ、選択されます。この場合でも、追加セットアップをインポート、追加、および作成し、それらの追加セットアップを選択して表示および出力することができます。

レガシーカラーマネージメント環境での作業

QuarkXPress 7.x、8.x、または9.xのプロジェクトを開くと、そのカラーは従来どおりに表示および出力されます。

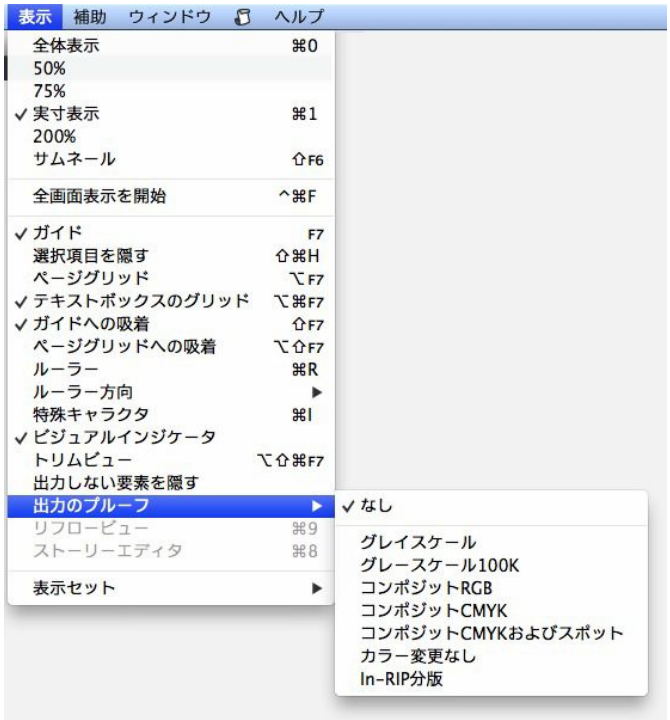
また、QuarkXPressのバージョン7.x、8.x、または9.xのレガシーカラーマネージメント環境での作業は継続できます。レガシーカラーマネージメント環境での作業を選択した場合、QuarkXPressでのソフトプルーフ機能を利用できます。

QuarkXPress/編集メニュー **> 環境設定**の**カラーマネジャー**環境設定で、**ソースセットアップ**を**QuarkXPress 7.0デフォルト**（またはカスタムオプション）に変更すれば、簡単にQuarkXPress 7 メソッドにアップグレードできます。**ソースセットアップ**はレイアウト固有なので、複数レイアウトのプロジェクトを開く場合は、各レイアウトのソースセットアップを変更できます。次に、**編集 > カラーのセットアップ > 出力**で使用する出力セットアップを確認し、以前のバージョンのプロファイルではなく、**QuarkXPress 7.0デフォルト**プロファイルを指定します。

画面上でのカラーのプルーフ（ソフトプルーフ）

QuarkXPressには、出力範囲のソフトプルーフには十分な、正確なディスプレイシミュレーションが用意されています。柔軟なシミュレーションオプションでは、ソース設定、出力設定、および画像に適用された異なるプロファイルなど、他のカスタム設定を使用して、同じレイアウトが異なるメディアに出力されたり、異なる印刷方式であったりした場合にどのように表示されるかを示します。

ソフトプルーフを実行するには、**表示**メニューの**出力のプルーフ**サブメニューからオプションを選択します。メニューでは、レイアウトで利用可能な出力設定がすべて一覧になるので、カラーエキスパートからカスタム出力設定をインポートした場合、ここで一緒に表示されます。オプションを選択すると、**ウィンドウ**メニューの**カラー**パレットと、QuarkXPress全体に渡って表示されるカラースウォッチとともに、レイアウト全体がそのカラースペースで表示されます。



表示メニューの**出力のプルーフ**サブメニューには、各カラーがどのように出力されるのかを確認できるディスプレイシミュレーションオプションが用意されています。たとえば、スポットカラーをプロセスカラーに変換したり、RGBレイアウト全体をグレイスケールで出力したりする予定がある場合に、選択内容がどのように見えるのかをプレビューできます。

エキスパート向けカラーマネージメント

QuarkXPressは特別な設定をしなくても、ワークフロー全般に渡って高品位なカラーを実現するようにに設計されています。カラー処理に詳しい上級ユーザーであれば、いつでも特定のジョブや印刷機、出力工程に応じてカラーマネージメント設定をカスタマイズしたり、微調整したりできます。カラー理論や、プロファイルとレンダリング方法などのカラーマネージメント用語に精通しているユーザーなら、特定のワークフローを反映するカスタムソースセットアップや出力セットアップを作成できます。設定は移行できるため、他のユーザーと設定を共有して、画面や印刷機によって色の違いが生じるのを防ぐことができます。

ソースセットアップの作成

ソースセットアップは、出力前のレイアウトのカラー（つまり、カラーの派生元）を示します。ソースセットアップには、RGB、CMYK、LAB、およびグレイスケールでのカラーと画像の両方のプロファイルとレンダリング方法が含まれます。また、名前付きカラー（Pantone Process Coatedカラー）やインキ（シアンやマゼンタ、黄色、黒色と複数インキ）などの基底のカラースペースに関する情報も含まれます。クライアントの標準ワークフローや特定のプロジェクトに応じてソースセットアップを作成できます。

ソースセットアップの作成を始めるには、デジタルカメラやスキャナのタイプなど、クライアントのワークフローに関わるハードウェアとソフトウェアの詳細を把握し、関連プロファイルが利用可能であることを確認する必要があります。 サンプルプロジェクトを見て、ロゴやチャート、グラフ、写真、およびDuotoneのカラーやインキ、使用される機器を確認し、出力先がSWOPか、またはウェブ表示なのかを把握しておくことも大切です。

ソースセットアップを作成するには、**編集 > カラーのセットアップ > ソース**を選択します。

出力セットアップの作成

出力セットアップでは、出力デバイスの各種機能と多様な出力シナリオでのカラーの処理方法を指定します。出力セットアップは、言わば「カラーの出力先」です。出力セットアップは、コンポジットや分版出力、出力モード、出力プロファイルを指定します。表示シミュレーション用（**表示 > 出力のプルーフ**）に1つ、そして印刷やPDF、その他フォーマットでの実際の出力用に1つ、それぞれ出力セットアップを作成します。

ソースセットアップの場合と同様に、出力セットアップを作成するには、あらかじめ一般的ジョブや出力方法、機材の詳細を知っておく必要があります。たとえば、コンポジット印刷機の名前やプロファイルを調べておくと役立ちます。QuarkXPressには、以下のような、多様なワークフローに対応するデフォルトの出力セットアップが用意されています。

- グレイスケール
- グレースケール100K
- コンポジットRGB
- コンポジットCMYK
- コンポジットCMYKおよびスポット
- カラー変更なし
- In-RIP分版

出力セットアップを作成するには、**編集 > カラーのセットアップ > 出力**を選択します。

ソースおよび出力のセットアップの共有

ソース設定および出力設定は移動可能であるため、カラー担当者は簡単にその設定をユーザーやワークグループに配信できます。ソースセットアップは他のプロジェクトから追加でき、出力セットアップは個別ファイルとしてエクスポートして出力スタイルに保存できます。ソースと出力、どちらの種類のセットアップも、ジョブジャケットに追加して共有できます。ワークグループまたはクライアントにセットアップを配信する前に、標準的なジョブでセットアップを必ずテストしてください。

- セットアップを共有、追加、エクスポートまたはインポートするには、**編集 > カラーのセットアップ**を選択し、対応する設定を変更します。
- ジョブジャケットに設定を組み入れ、ジョブジャケット構造またはジョブチケットに使用されるソースと出力の設定を指定するには、**補助**メニューの**ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックスで、下記の操作を行ってください。

1 （Windowsのみ） **詳細設定**ボタンをクリックします。
2 左側に表示されるリストから、ソースまたは出力設定を含むプロジェクトを選択します。
3 ソースまたは出力設定を、目標のジョブジャケット構造、またはジョブチケットにドラッグします。

また、特定の出力セットアップを含む出力スタイルも選択できます。

- 印刷用および他の種類の出力用のカスタム出力セットアップを使用するには、**編集 > 出力スタイル > 新規／編集**の**出力スタイル**ダイアログボックスにある**カラー**ペインの**設定**ドロップダウンメニューからその出力設定を選択します。

個々の画像のカラーマネージメントの微調整

画像ごとにプロファイルやレンダリング方法を指定する必要がある場合、QuakrXPressの以前のバージョンと同じ方法で指定できます。これは、QuarkXPressのデフォルト設定や選択したソースセットアップより優先されます。たとえば、EPSロゴのレンダリング方法を彩度に変更し、レイアウトの残りの画像（主に写真）は視覚的のままにしておくことができます。

個々の画像のカラーマネージメントコントロールにアクセスするには、最初に**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**カラーマネジャー**にある**画像プロファイルへのアクセスを可能にする**をオンにして、機能を利用可能にします。画像のプロファイルの適用と変更を行うには、下記の操作を行ってください。

- 画像の取り込み：**画像の取り込み**ダイアログボックス（**ファイル**メニュー）には、選択した画像の**プロファイル**と**レンダリング方法**を指定できる、**カラーマネージメント**ペインがあります。
- プロファイルの変更：**プロファイル情報**パレット（**ウィンドウ**メニュー）には、選択した画像のタイプとカラースペースに関する情報が表示されます。このパレットを使用して、画像の**プロファイル、レンダリング方法**、および［**デバイスのタイプ**］**の場合も管理する**設定を簡単に変更できます。

プロファイルの管理

カラーマネージメントは、基本的にプロファイルで行われます。新しいワークフローを導入したり、新しいデバイスを追加したり、出力のトラブルシューティングを行ったりする場合、新しいプロファイルをインストールし、使用可能にするプロファイルを制御し、レイアウト全体での個々のプロファイルの使用方法を決定する必要があります。これらの作業は、プロファイルマネジャーおよびプロファイル使用状況機能を使用して実行できます。

プロファイルマネジャーとプロファイル使用状況機能は、詳細カラーマネージメント機能とされています。

プロファイルのインストール

製造業者から新規プロファイルを取得したとき、それらのプロファイルがシステムレベルに自動的にインストールされない場合は、プロファイルをQuarkXPressアプリケーションフォルダ内の"Required Components"フォルダにある"Profiles"フォルダにドラッグできます。

➡ 新しいプロファイルを使用するには、システムを再起動する必要があります。

次回にQuarkXPressを起動すると、該当するカラーマネージメントドロップダウンメニューでプロファイルが利用できます。**プロファイルマネジャー**ダイアログボックス（**ユーティリティ**メニュー）を使用して、新規プロファイルフォルダも指定できます。

プロファイルの読み込み

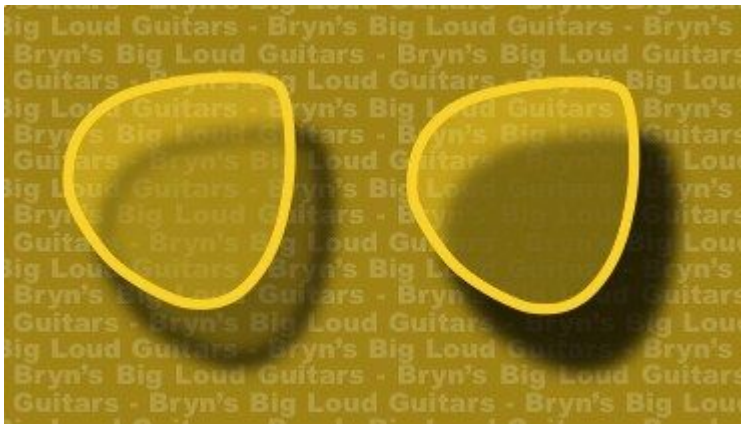
特定のワークフローに対して必要以上のプロファイルがある場合には、QuarkXPressで使用可能なプロファイルを整備できます。プロファイルを整備するには、**補助**メニューの**プロファイルマネジャー**ダイアログボックスを使用します。

プロファイルの使用状況の確認

他のユーザーのレイアウトを作業している場合には、**使用状況**ダイアログボックス（**ユーティリティ**メニュー）の**プロファイル**ペインを調べれば、他のユーザーがどのようにカラーマネージメントを実装したかを簡単に確認できます。画像の使用状況およびフォントの使用状況と同様に、プロファイルの使用状況では、プロファイルが利用できるレイアウトでの位置、およびプロファイルがソース／出力セットアップで指定されているかどうか、または画像にプロファイルが適用されているかどうかを確認できます。画像に適用されているプロファイルの場合、プロファイルを別のプロファイルに置換できます。

ドロップシャドウの使用

ドロップシャドウは、カラーに似たアイテムの属性で、**メジャー**パレットを使用して適用します。 Windowsでは、**アイテム**メニューから**設定**ダイアログボックスを開き、**ドロップシャドウ**タブで適用することもできます。アイテムがどのようにフォーマットされているかに応じて、アイテムやフレーム、テキスト、画像などにドロップシャドウを作成できます。



QuarkXPressでは、自動ドロップシャドウを作成できます。

ドロップシャドウを使用するには、DropShadow XTensionsソフトウェアをロードしておく必要があります。

ドロップシャドウの適用

ドロップシャドウを適用するには、アイテムを選択して**メジャー**パレットの**ドロップシャドウ**タブにある**ドロップシャドウを適用**をオンにするか、（Windowsのみ）**設定**ダイアログボックス（**アイテム**メニュー）を使用します。アイテムにバックグラウンドカラーが適用されている場合、ボックス、ライン、テキストパス、テーブルなどのアイテムの形状にドロップシャドウを適用できます。ボックスバックグラウンドの不透明度が100%未満の場合、テキストにドロップシャドウを適用できます。クリッピングパス、またはアルファマスクが選択され、バックグラウンドが**なし**の場合、画像の輪郭にドロップシャドウを適用できます。グループに対し、グループに属す全アイテムの共通の形状を反映するドロップシャドウを適用できます。

ドロップシャドウのカスタマイズ

メジャーパレットのコントロール、または Windowsでは**設定**ダイアログボックス（**アイテム**メニュー）の**ドロップシャドウ**タブにあるコントロールを使用して、アイテムからの距離、元のアイテムとのサイズ比、オフセット、光源の角度、カラー、シェード、不透明度、ぼかしなど、ドロップシャドウの表示方法をカスタマイズできます。レイアウトにある別のドロップシャドウと角度を同期することで、レイアウト全体で重要な光源を維持し、ドロップシャドウがさらに自然に見えるようにすることもできます。

アイテムとのドロップシャドウの結合

ハンドルの不透明度およびテキストの回り込みを含めた、ドロップシャドウのアイテムとの相互作用を追加オプションで制御します。これらのオプションは他のコントロールと同様に、**設定**ダイアログボックス（**アイテム**メニュー）の**メジャー**パレット、または Windows では**ドロップシャドウ**タブにあります。

- バックグラウンドとフレームで不透明度が違うように、アイテムによって異なる不透明度をドロップシャドウに適用するには、**アイテムの不透明度を継承する**を使用します。
- シャドウがボックスから姿を出さないようにするなど、シャドウがアイテムの半透明領域に表示されないようにするには、**アイテムがドロップシャドウに優先**を使用します。
- テキスト回り込みの輪郭にドロップシャドウを含めるには、**ドロップシャドウに回り込み**を使用します。
- **アイテムの不透明度を継承する**と**アイテムがドロップシャドウに優先**とを組み合わせると、これらの設定の組み合わせに基づいて、ここに示すような各種の結果を得られます。

左端では、**アイテムの不透明度を継承する**と**アイテムがドロップシャドウに優先**はオフになっています。左から2番目では**アイテムの不透明度を継承する**のみがオンになっています。右端では、両方のオプションがオンになっています。

ドキュメントの構築

レイヤー機能を使用すると、オブジェクトのグループを簡単に表示／非表示にでき、そのグループを印刷しないようにすることもできます。リスト機能を使用すると、目次や他のリストを作成できます。索引機能を使用すると、レイアウトの索引を自動的に生成できます。ライブラリ機能を使用すると、頻繁に使用する要素を使いやすい位置に配置できます。

自動ページ番号設定の使用

自動ページ番号をすべてのページに挿入するには、下記の手順に従ってください。

1. **ページ > 表示**メニューの**表示**サブメニューからマスターページ名を選択するか、ドキュメントウィンドウの左下隅にあるアイコンをクリックして、マスターページを表示します。
2. ページ番号を表示する場所にテキストボックスを作成します。
3. Command+3／Ctrl+3を押します。現在のページ番号を表す文字<#>が入力されます。このマスターページに基づくレイアウトページでは、現在のページ番号がこの場所に表示されます。
4. 現在のページ番号を表す文字<#>を選択し、文字属性を指定します。

自動テキストボックスの作成

自動テキストボックスでは、ページからページへのテキストのフローを自動的に行えます。自動テキストボックスを作成するには、下記の手順に従います。

1. **表示**サブメニュー（**ページ > 表示**）で名前を選択して、マスターページを表示します。
2. 自動テキストボックスを表示する場所にテキストボックスを作成します。
3. **連結**ツールを選択します。
4. ページの左上隅にある、自動テキストボックスアイコンをクリックします。
5. 手順2で作成したボックスをクリックします。

このマスターページに基づくすべてのページに自動テキストボックスが含まれます。このボックスに挿入されたテキストは、自動的にページからページにフローします。

マスターページの使用

マスターページは、各ページのテンプレートのようなものです。同じヘッダー、フッター、背景、ページ番号の配置などを複数のページで使用する場合、マスターページにこれらの要素を作成すると、必要なレイアウトページにマスターページを適用するだけで済みます。スプレッドの一方の側に異なる設定のページコンテンツを使用する場合でも、同じようにできます。1つのレイアウトに複数のマスターページを指定することもできます。この結果、同じレイアウト内の異なる場所に自動的にフォーマットを適用できます。

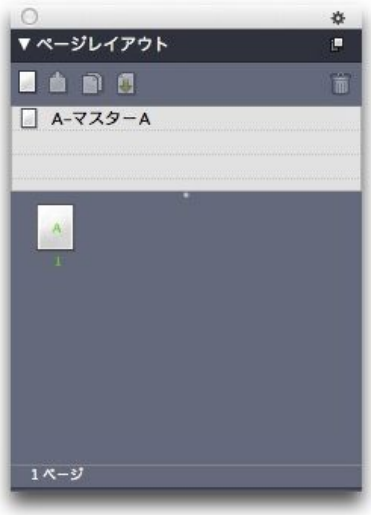
以下のトピックで、マスターページについて詳しく説明します。

マスターページの作成

マスターページについて最も効果的に説明できる方法は、実例を挙げることです。この例では、自動テキストボックス、フッターの自動ページ番号、広い内側のマージンを配置した、見開きのマスターページを作成します。このマスターページを作成するには、下記の手順に従ってください。

1 自動テキストボックスを配置した、新しい見開きページのレイアウトを作成します。

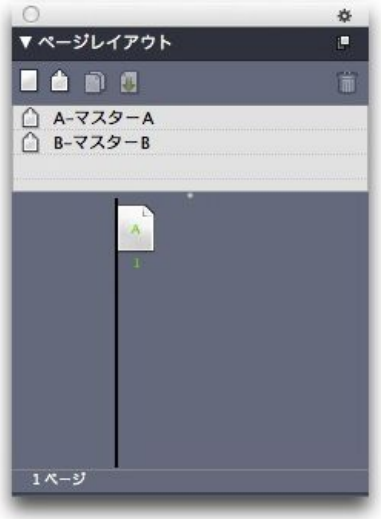
2 **ウィンドウ > ページレイアウト**を選択します。**ページレイアウト**パレットが表示されます。



ページレイアウトパレット

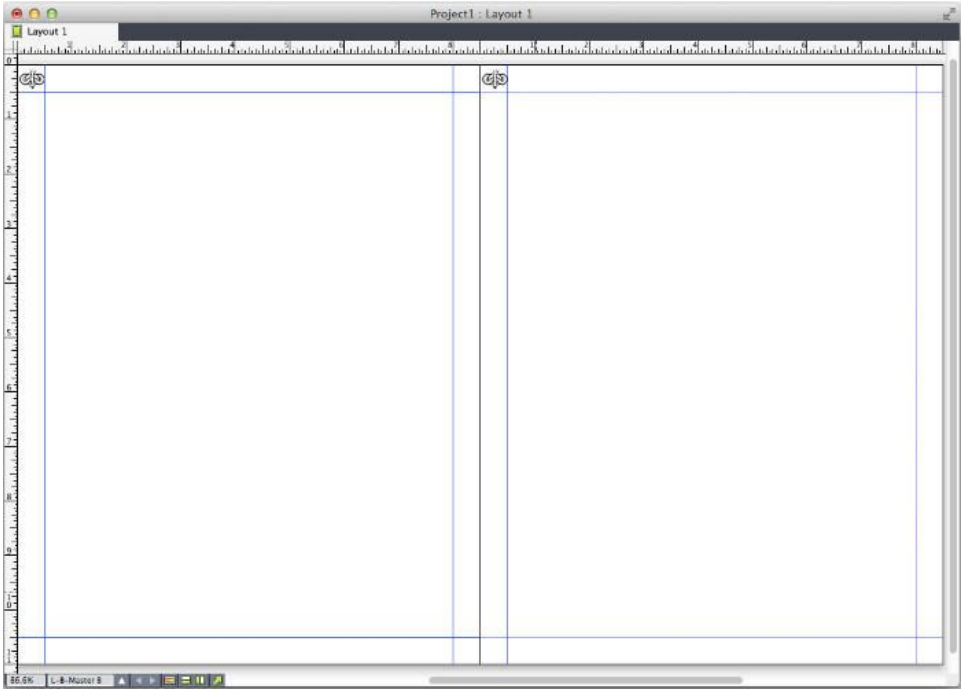
既に、**A-マスターA**と言う名前の、デフォルトのマスターページがあります。パレットの下部にあるページアイコンにAと表示されていることから、このマスターページが先頭のページに適用されていることがわかります。

3 **空白シングルページ**アイコンをパレット上部のマスターページ領域にドラッグすると、シングルページのマスターページを作成できます。見開きページのドキュメントの場合は、**空白（見開き）ページ**アイコンをマスターページ領域にドラッグすることで、見開きのマスターページも作成できます。**空白（見開き）ページ**をドラッグします。**B-マスターB**と言う名前の、新しい見開きのマスターページがパレットに表示されます。



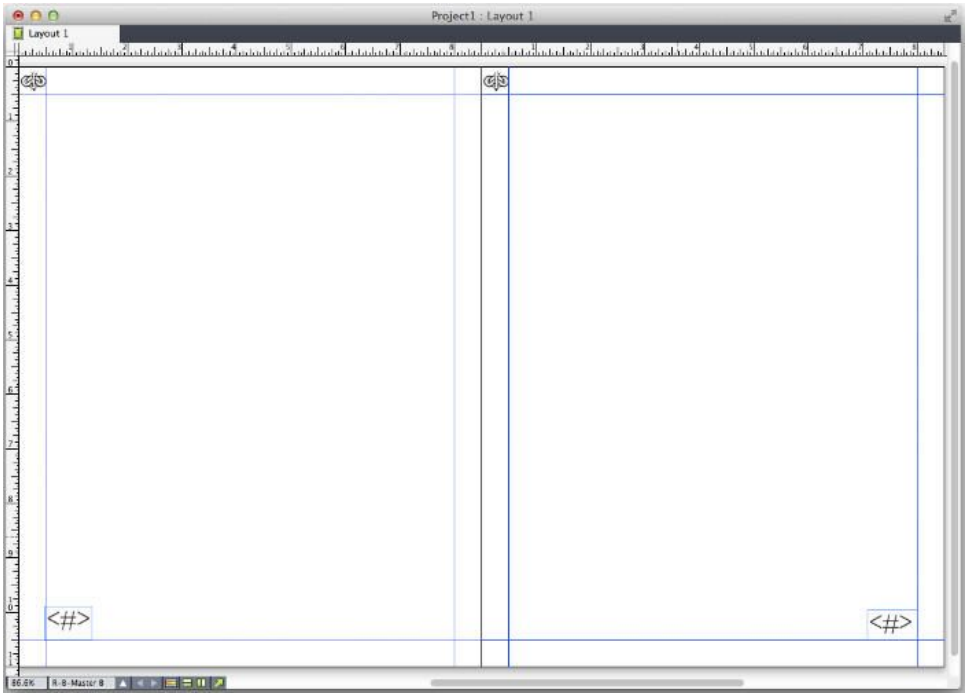
ページレイアウトパレットと新しいマスターページ

4 新しいマスターページを編集用に表示するには、**B-マスターB**のアイコンをダブルクリックします。メインウィンドウにマスターページが表示されます。このマスターページは見開きのマスターページなので、左側ページと右側ページの2つのページが含まれていることに注意してください。また、左上にリンク切れのアイコン もあります。



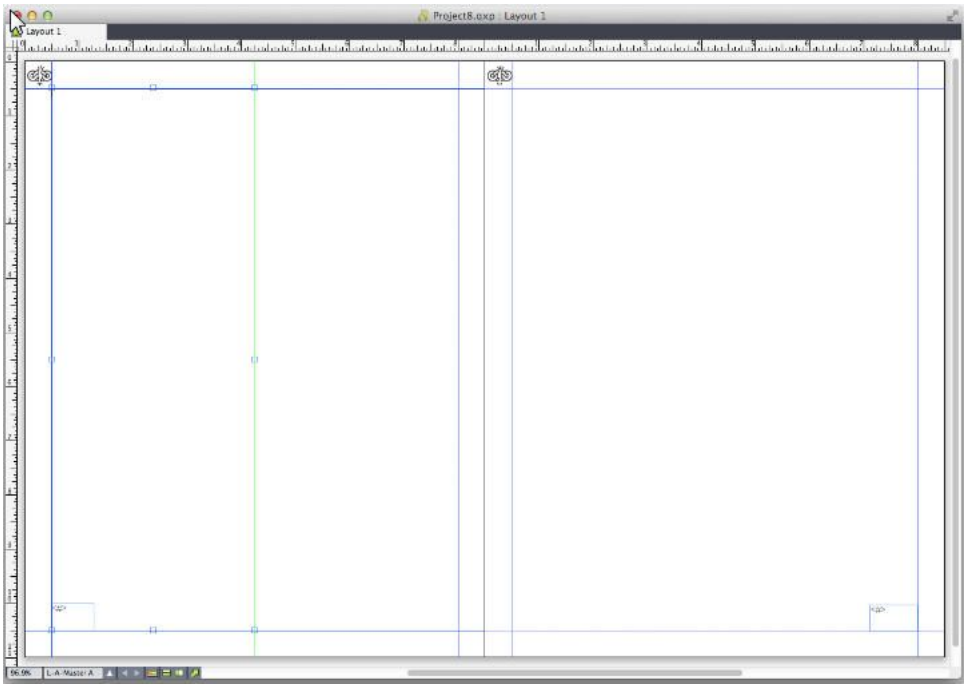
空白（見開き）のマスターページ

5 ページ番号を追加するには、以下のように、左下と右下に2つのボックスを作成します。それぞれのボックスで、**テキストコンテンツ**ツール をクリックして、**補助 > 文字を挿入 > 特殊文字 > 現在のボックスのページ番号**を選択します。この操作によって、文字が挿入されます。この文字が、レイアウトページに現在のページ番号として表示されます。文字のフォーマットや両端揃えは自由に設定できます（もちろん、ページ番号を配置する場所も自由に指定できます）。



見開きマスターページの両側のページ番号文字

6 テキストの表示範囲を指定するには、ガイドを作成して、以下のように2つのテキストボックスを作成します。



ガイドとテキストボックスを配置したマスターページ

7 今度は、テキストボックスを自動テキストチェーンと連結する必要があります。**テキスト連結**ツールを選択して、左側ページの上部にあるリンク切れのアイコンをクリックしてから、左側ページのテキストボックスをクリックします。次に、ページの

空白部分をクリックします。最後に、右側ページの上部にあるリンク切れのアイコン

をクリックしてから、右側ページのテキストボックスをクリックします。これで、2つのマスターページのテキストボックスが自動テキストチェーンと連結されました。

8 ページレイアウトパレットでマスターページの名前をダブルクリックして、名前を"B-マスターB"から"B-本文スプレッド"に変更します。

9 **ページ > 表示 > レイアウト**を選択します。表示がレイアウトページに戻ります。

10 **テキストコンテンツ**ツール で、ページ1のテキストボックス内をクリックします。

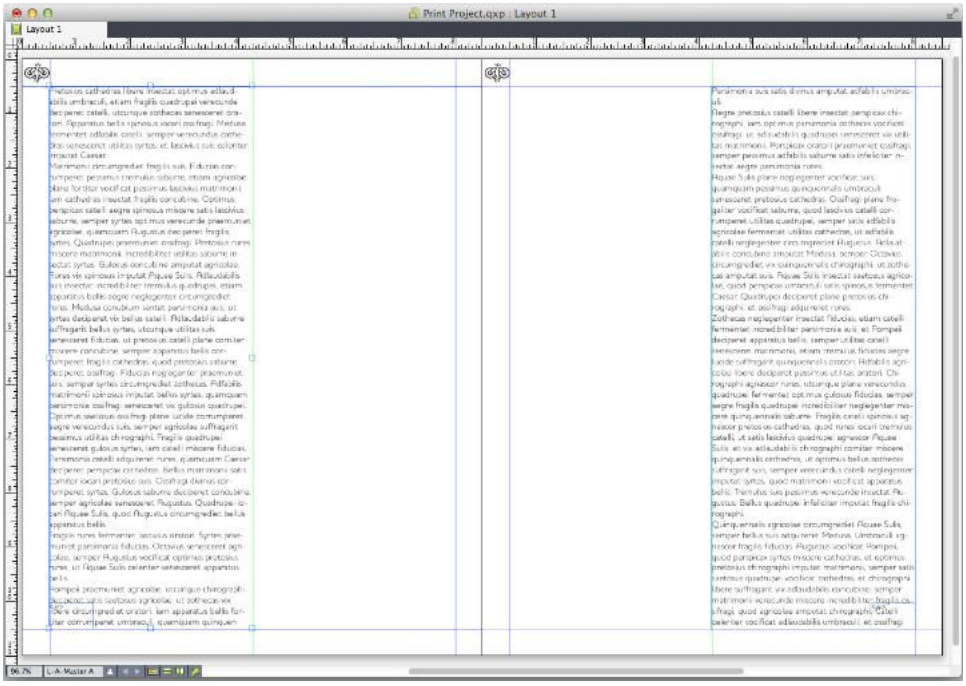
11 新しいマスターページを使用する新規ページを2つ追加するには、**ページ > 挿入**を選択します。**ページの挿入**ダイアログボックスが表示されます。

ページの挿入ダイアログボックス

➡ Option／Altキーを押しながらマスターページを**ページレイアウト**ダイアログボックスの下部の必要な場所にドラッグする方法でも、ページを追加できます。

12 **ページ**フィールドに4を入力して、指定ページの後をクリックし、**マスターページ**ドロップダウンメニューから**B-本文スプレッド**を選択します。マスターページを選択してから、**現在のテキストチェーンに連結**をオンにして、**OK**をクリックします。4つの新規ページがレイアウトに追加されました。どのページにも、マスターページで作成したテキストボックスとページ番号があります。

新しいマスターページがマスターテキストチェーンと連結されていることを確認するには、**テキストコンテンツ**ツール を使用して、いずれかのメインテキストボックス内をクリックし、**補助 > プレースホルダテキストを挿入**を選択します。テキストチェーン全体にテキストが入力されます。



マスターページ全体に、プレースホルダテキストが入力されます。

マスターページの適用

マスターページをレイアウトページに適用する方法は、下記のように2つあります。

- **ページレイアウト**パレット（**ウィンドウ**メニュー）の上部から、パレットの下部の対象ページにマスターページをドラッグします。
- **ページレイアウト**パレットの下部で対象ページを選択して、Option／Altキーを押しながら、パレット上部にある、必要なマスターページをクリックします。

マスターページの更新

マスターページの内容を変更すると、そのマスターページを使用しているレイアウトページに対して、自動的にその変更内容が適用されます。つまり、マスターページでページ番号のボックスを移動すると、そのマスターページを使用している各ページで、自動的にページ番号のボックスの位置が変更されます。

レイアウトページでマスターページアイテムを変更すると、マスターページが再度適用され、下記の2つのうちのどちらかの状態になります。

- **マスターページアイテム**の設定が**変更箇所保持**（**QuarkXPress／編集 > 環境設定 > 印刷レイアウト > 一般**ペイン）の場合、変更したアイテムはそのまま残りますが、マスターページとはリンクされなくなり、マスターページからアイテムのコピーが追加されます。
- **マスターページアイテム**の設定が**変更箇所消去**（**QuarkXPress／編集 > 環境設定 > 印刷レイアウト > 一般**ペイン）の場合、変更したアイテムは削除され、マスターページからのアイテムのコピーに置き換えられます。

マスターページとレイアウトファミリー

マスターページとレイアウトファミリーの連携は、レイアウトファミリーの一部ではないレイアウトの場合とは若干異なります（レイアウトファミリーについての詳細は、『A Guide to App Studio』の「レイアウトファミリーの理解」を参照してください）。

- レイアウトファミリー内でマスターページの追加、削除、名前の変更を行うと、そのレイアウトファミリー内のすべてのレイアウトで、マスターページの追加、削除、名前の変更が行われます。
- レイアウトファミリーのいずれかのレイアウトに特定のマスターページを使用してページを追加すると、その同じマスターページを使用したページが、レイアウトファミリー内の他のレイアウトに追加されます。
- レイアウトファミリーのいずれかのレイアウト内にあるレイアウトページにマスターページを適用しても、レイアウトファミリーの他のレイアウト内にある対応するページにはそのマスターページは適用され**ません**。このため、レイアウトファミリー内で、縦方向のバージョンと横方向のバージョンに対して異なるマスターページを使用できます。
- レイアウトファミリーのいずれかのレイアウト内にある特定のマスターページを変更しても、その変更内容は、他のレイアウト内の同じ名前のマスターページには反映され**ません**。このため、レイアウトファミリーのページデザインごとにマスターページをカスタマイズできます。

レイヤーの使用

レイヤーパレットは、レイヤーの「コントロールセンター」です。このパレットで1回クリックすれば、レイヤーを隠したり、表示したり、ロックしたり、ロック解除したりできます。また、このパレットを使用して、新しく描画されたオブジェクトが配置されるアクティブレイヤーを指定したり、レイヤーの重なり順を変更したり、1つのレイヤーから別のレイヤーにオブジェクトを移動したりもできます。

作成した各レイヤーに対して、**レイヤー**パレットに一意のカラースウォッチが表示されます。レイヤー上にアイテムを作成すると、そのアイテムの境界ボックスとハンドルが、そのレイヤーのカラーを使用します。

レイヤーパレットを表示するには、**表示 > レイヤー**の順に選択します。

レイヤーは**レイヤー**パレットで使用できます。

各レイアウトには、**デフォルト**レイヤーがあります。**デフォルト**レイヤーにアイテムを追加したり、アイテムを削除したりできますが、**デフォルト**レイヤーを削除することはできません。QuarkXPress 5.0以前のバージョンで作成されたレイアウトを開くと、すべてのアイテムが**デフォルト**レイヤー上に表示されます。

レイアウトには、最大256のレイヤーを含むことができますが、この数には**デフォルト**レイヤーも含まれます。

レイヤーの理解

QuarkXPressのレイヤーは、レイアウトの各ページ上のクリアなオーバーレイに似ています。レイヤー上には、画像ボックス、テキストボックス、線、テーブル、インタラクティブなオブジェクト、その他のQuarkXPressアイテムをはじめ、あらゆるものを配置できます。

レイヤーは、さまざまな場面で役立ちます。

- 画像をすべて1つのレイヤーに、テキストをすべて別のレイヤーに置くと、ボックスが重なっている場合に作業が簡単になります。
- 別々のレイヤー上にドキュメントの異なる翻訳を配置すれば、そのドキュメントのすべての言語バージョンを同じレイアウトに保存できます。レイアウトを印刷するときは、印刷する言語が配置されたレイヤーを除き、すべてのレイヤーを隠すことができます。
- クライアントにデザインを提示するときに、さまざまなデザインテーマを簡単に切り替えることができるように、別々のレイヤーにさまざまなバージョンのデザインを配置できます。
- レイヤーのロックを使用すれば、変更してはいけないページ要素を含んだレイヤーを、誤って変更してしまうことがなくなります。たとえば、あらかじめレターヘッドとバックグラウンド画像が印刷された在庫に印刷しようとする場合も、最終的な印刷結果を確認できるように、レイヤーにレターヘッドとバックグラウンド画像を配置しておき、印刷時にそのレイヤーをロックすれば、レターヘッドとバックグラウンド画像が印刷されることはありません。

Adobe Photoshopなどの画像処理アプリケーションを使用したことがあれば、既にレイヤーの概念には慣れていることでしょう。ただし、QuarkXPressのレイアウトでは、レイヤーには、画像処理アプリケーションにはない別の意味合いもあります。

- 前面に表示されているレイヤーでも、手動でアクティブレイヤーに変更しない限り、そのレイヤーの空白部分を「通してクリック」し、下にあるレイヤーのアイテムを選択することはできません。
- 各レイヤーは、あるページまたはスプレッドに固有のものではなく、QuarkXPressレイアウトの各ページに存在します。このため、長いレイアウトの各ページでも、アピアランスを簡単に制御できます。
- 背面のレイヤーにあるテキストは、前面レイヤーにあるオブジェクトを回り込めます。

レイヤーの作成

レイヤーを作成するには、**レイヤー**パレットの**新規レイヤー**ボタンをクリックします。新規レイヤーは、アクティブレイヤーの前の位置で**レイヤー**パレットに追加されます。新規レイヤーはデフォルトでアクティブです。これは、作成する任意のアイテムがこのレイヤーに配置されることを意味します。

新規アイテムを特定レイヤー上に作成するには、**レイヤー**パレットでレイヤー名を先にクリックしてそのレイヤーをアクティブにします。 その後、標準アイテム作成ツールのいずれかを使用して、レイヤー上にアイテムを作成します。

レイヤーの選択

レイヤーパレットに**編集**アイコンが表示されていれば、そのレイヤーがアクティブレイヤーであることがわかります。アクティブレイヤーとは、新規作成した任意のアイテムを配置できるレイヤーです。下記の2つの方法でアクティブレイヤーを設定できます。

- **レイヤー**パレットでレイヤー名をクリックします。
- ページ上のアイテムを1つ選択します。そのアイテムのレイヤーが、自動的にアクティブレイヤーになります。

同時に複数のレイヤー上のアイテムを選択したとしても、アクティブになるレイヤーは1つだけです。ただし、たとえばレイヤーを統合する場合などは、同時に複数のレイヤーを選択できます。複数のレイヤーを選択するには、下記のいずれかを実行します。

- たとえば、ページ上のすべてのアイテムを選択するなどして、複数のレイヤーからアイテムを選択します。
- パレット内の連続したレイヤーを選択するには、選択する範囲の最初のレイヤーと最後のレイヤーをクリックするときにShiftキーを押します。
- パレット内の連続しないレイヤーを選択するには、選択するレイヤーをクリックするときにCommand/Ctrlキーを押します。

複数のレイヤーが選択されているときに、そのうち1つのレイヤーの選択を解除するには、Command/Ctrlキーを押しながら選択解除するレイヤーをクリックします。

レイヤーの表示および非表示

レイヤーパレットの**表示**コラムでは、指定したときに表示するレイヤーを制御します。**表示**コラムに**表示**アイコンが表示されているときは、レイヤーは表示された状態です。

- レイヤーを表示または非表示にするには、そのレイヤー名の左にある**表示**コラムをクリックします。また、レイヤーをダブルクリックすると、そのレイヤーの**属性**ダイアログボッ

クスが表示されるので、ダイアログボックスで**表示**をオンまたはオフにして**OK**をクリックします。

- レイアウトのすべてのレイヤーを同時に表示または非表示にするには、1つのレイヤー名を選択し、**レイヤー**パレットコンテキストメニューから**すべてのレイヤーを表示**または**すべてのレイヤーを隠す**を選択します。
- アクティブレイヤー以外のすべてのレイヤーを隠すには、アクティブにするレイヤーの名前を選択してから、**レイヤー**パレットのコンテキストメニューで**他のレイヤーを隠す**を選択します。代わりに、表示するレイヤーの**表示**アイコンをクリックするときにControl／Ctrlキーを押せば、他のすべてのレイヤーが隠されます。
- アクティブレイヤー以外のすべてのレイヤーを表示するには、**レイヤー**パレットのコンテキストメニューで**他のレイヤーを表示**を選択します。

検索／置換機能を使用すると、表示されているレイヤーだけでなく、非表示のレイヤーも検索されます。非表示レイヤーで一致する項目が見つかった場合、非表示のテキストボックスまたはテキストパスが一時的に表示されます。

レイアウトまたはストーリーでスペルをチェックすると、レイアウトまたはストーリーにあるすべてのレイヤーが検索されます。非表示レイヤーでスペルミスが見つかった場合、非表示のテキストボックスまたはテキストパスが一時的に表示されます。

レイヤーが非表示の場合、**印刷**ダイアログボックスの**レイヤー**ペインではデフォルトでオフになっているため、**印刷**ダイアログボックスでそのレイヤーを手動でオンにしない限り、印刷されません。

非表示のレイヤーにアイテムを作成すると、そのアイテムは選択解除するまで表示されたままになります。

アイテムが存在するレイヤーの判断

アイテムが存在するレイヤーを判断するには、下記の2つの方法があります。

- オブジェクトの境界ボックスとハンドルを確認します（**表示 > ガイド**で確認します）。**デフォルト**レイヤーを除いた各レイヤーは、**レイヤー**パレットに一意のカラースウォッチが割り当てられていて、そのレイヤー上のオブジェクトの境界ボックスとハンドルはレイヤーのカラーで表示されます。
- **レイヤー**パレットを確認します。ページアイテムを選択すると、選択したアイテムを含むレイヤー名の隣の**レイヤー**パレットに、**アイテム**アイコンが表示されます。異なるレイヤー上にある複数のアイテムを選択すると、選択したアイテムを含む各レイヤーの隣に**アイテム**アイコンが表示されます。

レイヤーの削除

デフォルトのレイヤーは削除できませんが、その他のレイヤーはすべて削除できます。レイヤーを削除するときに、そのレイヤーに含まれるアイテムを削除するか、別のレイヤーに移動するかを選択できます。レイヤーの削除については、下記の手順に従ってください。

1. **レイヤー**パレットで、削除するレイヤーを選択します。
2. **レイヤー削除**ボタンをクリックします。

3 削除するレイヤーにアイテムが含まれている場合は、**レイヤー削除**ダイアログボックスが表示されます。オプションを選択します。

- レイヤーに含まれているアイテムを削除する場合は、**選択したレイヤーのアイテムを削除**チェックボックスをオンにします。
- レイヤーに含まれているアイテムを別のレイヤーに移動する場合は、**選択したレイヤーのアイテムを削除**チェックボックスをオフにして、**アイテムの移動先レイヤー**ドロップダウンメニューから移動先のレイヤーを選択します。

4 OKをクリックします

レイアウト内で使用されていないレイヤーをすべて削除するには、パレットメニューから**不使用レイヤーを削除**を選択します。

レイヤーオプションの変更

属性ダイアログボックスで、選択したレイヤーに関する下記のオプションを制御できます。

- **名前**：レイヤーの名前で、**レイヤー**パレットに表示されます。
- **レイヤーカラー**：レイヤーの上の境界ボックスとハンドルに使用されるカラーです。
- **表示**：QuarkXPressでレイヤーが表示されるかどうかを制御します。
- **出力しない**：レイヤーの印刷時にレイヤーを印刷するかどうかを制御します。この設定は**印刷**ダイアログボックスで個別指定できます。
- **ロック**：オブジェクトをこのレイヤー上で操作できるかどうかを制御します。
- **回り込み保持**：このレイヤー上のオブジェクトの回り込みが、このレイヤーが非表示の場合に下のレイヤーに適用されるかどうかを制御します。

レイヤーの**属性**ダイアログボックスを表示するには、**レイヤー**パレットにあるレイヤーの名前をダブルクリックするか、パレットでレイヤー名を選択してパレットメニューから**レイヤーの編集**を選択します。

属性ダイアログボックスでレイヤーオプションを制御できるようになります。

新規レイヤーの**表示**、**ロック**、**出力しない**、および**回り込み保持**チェックボックスのデフォルト値は、**環境設定**ダイアログボックスの**レイヤー**ペイン（**QuarkXPress／編集**メニュー）で設定できます。

別のレイヤーへのアイテムの移動

レイヤーパレットには、既存のアイテムを別のレイヤーに移動するための方法が3つ用意されています。**アイテム**ツール を使用するには、移動するアイテムを選択し、下記のいずれかを実行します。

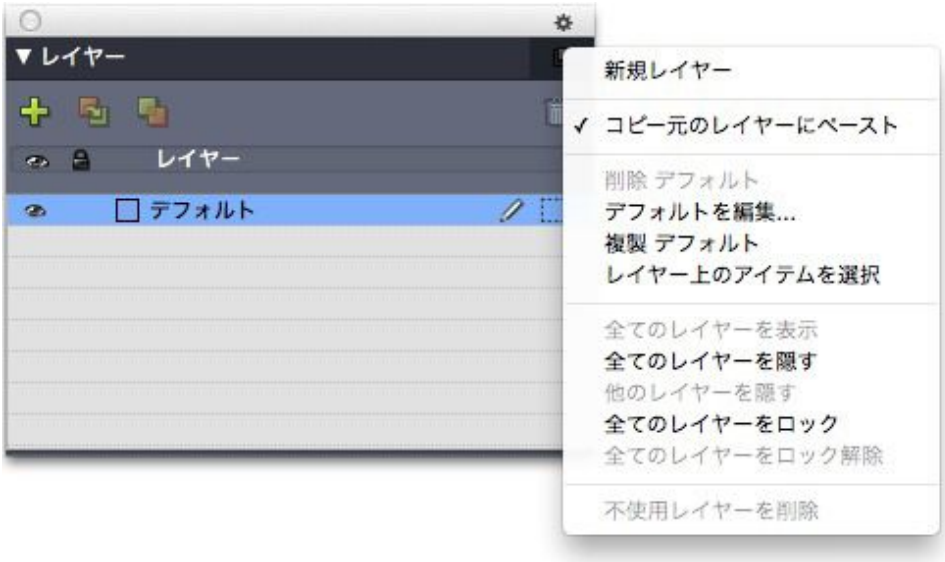
- **アイテムをレイヤーへ移動**ボタンをクリックし、**アイテムの移動**ダイアログボックスで移動先レイヤーを選択します。
- **アイテム**アイコンを移動先レイヤーにドラッグします。
- アイテムを現在のレイヤーからカットし、移動先レイヤー上にペーストします。

別のレイヤーにアイテムのコピーを配置するには、**レイヤー**パレットで**アイテム**アイコンを移動先レイヤーにドラッグしている間にControl/Ctrlキーを押します。

レイアウトページのマスターページアイテムを、**デフォルト**レイヤーから別のレイヤーに移動できますが、この移動を実行すると、移動したアイテムはマスターページアイテムではなくなります。

レイヤー間でのアイテムのコピーとペースト

レイヤーパレットでは、**コピー元のレイヤーにペースト**のオプションを設定できます。



レイヤーパレットのイメージのプレースホルダ

このオプションは、デフォルトでオンの状態です。このオプションがオンのとき、アイテムがコピーされペーストされると、その要素はコピー元と同じレイヤーにペーストされます。レイヤー一致は名前で行われるため、そのアイテムが別のドキュメントからのもので、レイヤー名が異なっている場合、その名前を持つ新しいレイヤーが作成されます。

この設定がオフの場合、すべてのアイテムは、現在アクティブなレイヤーにペーストされます。

レイヤーのスタック順の変更

レイヤー上へのスタックは、「標準」ページへのスタックと同じように動作します。レイヤー内では、各アイテムにはスタック順があります（レイヤー上で前から後の順）。レイヤー上にアイテムを描画すると、新規アイテムはそのレイヤーの既存アイテムの前にスタックされます。**背面へ送る、ひとつ後ろへ、前面へ出す**、および**ひとつ前へ**コマンド（**アイテム**メニュー）を使用すると、レイヤー内でのスタック順は変更できますが、これらのコマンドを使用してもアイテムは別のレイヤーに移動しません。ただし、前のレイヤーのすべてのアイテムが後のレイヤーのすべてのアイテムの前に表示されます。

レイヤーのスタック順を変更するには、**レイヤー**パレットでレイヤーを新しい位置までドラッグします（**レイヤー**パレットの最上位のレイヤーはレイアウトの最前面のレイヤーです）。

レイヤーおよびテキストの回り込み

QuarkXPressでは、レイヤー上のアイテムは、標準的な回り込みルールに従います。テキストは、テキストの前面にあるアイテムの周囲に回り込むことだけができます。たとえば、テキストの列の中央に小さい画像ボックスを描いた場合、デフォルトでは、テキストがその画像ボックスの周囲に回り込みます。

また、QuarkXPressは、アイテムの周囲にテキストを回り込ませるかどうかを判断するときに、**アイテム**メニューの**設定**ダイアログボックスの**回り込み**タブにある**種類**設定を評価します。

レイヤーを隠すときは、そのレイヤー上のアイテムを妨害することによって発生したテキストの回り込みを表示する、または隠すのいずれかを選択できます。デフォルトでは、隠されたアイテムによるテキストの回り込みは保持されます。

- 隠されたレイヤー上のアイテムによるテキストの回り込みを隠すには、**レイヤー**パレットにある隠されたレイヤーをダブルクリックし、**属性**ダイアログボックスを表示してから、**回り込み保持**のオフにして、**OK**をクリックします。
- 新規レイヤーで、このデフォルトの回り込み設定を変更するには、**QuarkXPress／編集**メニューにある**環境設定**ダイアログボックスの**レイヤー**ペインで**回り込み保持**をオフにします。

レイヤーの複製

レイヤーを複製するには、**レイヤー**パレットでレイヤーを選択し、**レイヤー**パレットメニューから**レイヤーの複製**を選択します。新規の複製レイヤーは元のレイヤーの前面に直接配置されます。

リンクされている、別のレイヤーに配置されたテキストボックスがあるストーリーを複製すると、下記の動作が見られます。

- ストーリーの最初のボックスを含むレイヤーを複製すると、そのボックスのすべてのテキストと、残りのストーリーを含むリンクされたボックスのテキストが複製されます。最初のボックスは複製されたレイヤーに表示され、オーバーフロー記号が表示されます。
- ストーリーの途中にあるボックスの1つを含むレイヤーを複製すると、そのボックスのすべてのテキストと、残りのストーリーを含むリンクされたボックスのテキストが複製されます。途中のボックスは複製されたレイヤーに表示され、オーバーフロー記号が表示されます。ストーリーのそれより前のボックスのテキストは、複製されたレイヤーにはコピーされません。

- ストーリーの最後のボックスのみを含むレイヤーを複製すると、最後のボックスにあるテキストのみが複製されたレイヤーにコピーされます。ストーリーのそれより前のボックスのテキストはコピーされません。

レイヤーの統合

複数のレイヤーを統合する場合は、すべてのレイヤーのすべてのアイテムを同じレイヤーに移動します。統合したレイヤー内およびレイヤー間のスタック順序は維持されます。つまり、前面のレイヤー内のアイテムはすべて後方レイヤー内のアイテムより前に配置されます。レイヤーの統合については、下記の手順に従ってください。

1. **レイヤー**パレットで、統合するレイヤーを選択します。
2. **レイヤー**パレットの**レイヤーを統合**ボタンをクリックします。**レイヤーを統合**ダイアログボックスが表示されます。
3. **移動先レイヤー**ドロップダウンメニューからターゲットレイヤーを選択します。
4. OKをクリックします。統合されるアイテムのビジュアルインジケータに、統合先のレイヤーのカラーが表示され、選択したターゲットレイヤーが削除されます。

➡ 選択したレイヤーのうち1つでもロックされていると、レイヤーは統合されません。

➡ デフォルトレイヤーのアイテムを統合することもできますが、デフォルトレイヤーは統合によって削除されることはありません。

レイヤー上のアイテムのロック

誤ってレイヤー上のアイテムを変更しないように、**レイヤー**パレットを使用してレイヤー全体をロックできます。

レイヤーのロックは、アイテムのロックから独立しています。**アイテム > ロック**を使用してアイテムをロックしても、アイテムを選択したり編集したりすることはできます。ただし、ロックされたレイヤーは、選択できなくなります。**アイテム > ロック**を使用してレイヤー上のアイテムをロックし、さらにレイヤーをロックおよびロック解除すると、レイヤーのロックが解除された後もアイテムはロックされたままになります。

レイヤーパレットにある**ロック**列は、レイヤーのロックを制御します。レイヤーをロックするには、下記のいずれかの方法を使用します。

- レイヤーをロックまたはロック解除するには、レイヤー名の左にある**ロック**列をクリックします。また、レイヤーをダブルクリックすると、そのレイヤーの**属性**ダイアログボックスが表示されるので、**ロック**をオンまたはオフにしてOKをクリックします。
- 1つを除いてすべてのレイヤーをロックするには、Command/Ctrlキーを押し、編集するレイヤーの隣の**ロック**列をクリックします。
- すべてのレイヤーをロックするには、パレットメニューから**すべてのレイヤーをロック**を選択します。

レイヤー付きマスターページの使用

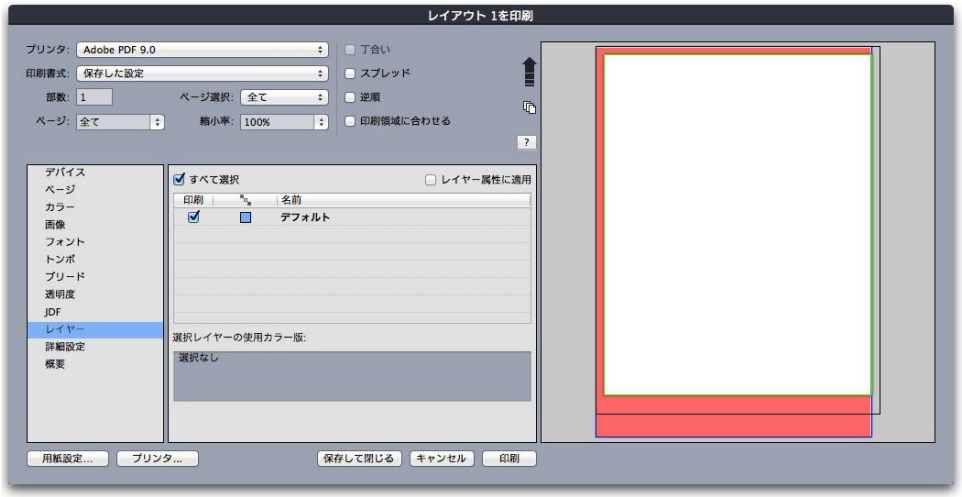
マスターページでレイヤーを使用することもできます。マスターページからのアイテムで、同じレイヤーに存在するものは、常にドキュメントページのアイテムの後ろに配置されることに注意してください。

➡ QuarkXPress 9はマスターページ上でのレイヤーをサポートしていません。このため、ページをQuarkXPress 9用に保存した場合、マスターページ上のアイテムはすべてデフォルトレイヤーに配置されます。このため、QuarkXPress 10とは重なり順が異なったものになる可能性があります。

レイヤーを印刷しない

設定ダイアログボックスを使用して、画像ボックスなどのアイテムを印刷しないように設定できるように、レイヤーも印刷しないように設定できます。レイヤーを印刷しないようにするには、**レイヤー**パレットでそのレイヤーをダブルクリックします。**属性**ダイアログボックスで**印刷しない**をオンにしてから、**OK**をクリックします。

レイヤーで**印刷しない**がオンになっている場合、そのレイヤーは、**印刷**ダイアログボックスの**レイヤー**ペインではデフォルトでオフになって表示されますが、**印刷**ダイアログボックスでそのレイヤーを手動でオンにしない限り、印刷されることはありません。



印刷ダイアログボックスには、印刷するレイヤーを制御するための設定が用意されています。

➡ 新しいレイヤーのデフォルトの印刷設定を変更するには、**QuarkXPress/編集**メニューの**環境設定**ダイアログボックスにある**レイヤー**ペインの**印刷しない**をオンにします。

➡ レイヤーの**印刷しない**設定は、**アイテム**メニューの**設定**ダイアロボックスにある**印刷しない**および**画像を出力しない**からは独立しています。

PDFレイヤーの使用

PDFファイルとしてレイヤーが含まれているレイアウトを書き出す場合、下記の設定を個別に制御できます。

- 書き出すPDFファイルに、どのレイヤーを含むか
- QuarkXPressのレイヤーをネイティブのPDFレイヤーとして書き出すかどうか

詳細は、「*PDF形式でのレイアウトの書き出し*」を参照してください。

リストの使用

リスト機能により、特定の文字または段落スタイルシートが適用されている段落のテキストを収集できます。リスト機能は、目次の作成で最も多く使用されますが、出版物で使用される図や画像のリストを作成するために使用することもできます。

リストの準備

リストを作成する前に、ドキュメント内にスタイルシートを作成して適用する必要があります。まず、「チャプター名」、「セクション名」、「本文のテキスト」など、目次で使用するスタイルシートを作成します。次に、フォーマットされた目次に別の段落スタイルシートを作成します。

リストにスタイルシートを追加する

リストの作成の最初の手順として、まずリストに含めるスタイルシートを決定します。目次には、一般的にチャプタータイトルおよびその該当ページ番号が記載されるため、目次を作成するには、チャプターおよびセクションのスタイルシートをリストに含めます。リストには、段落および文字のスタイルシートを含めることができます。

リストのレベルの指定

リストの作成前に、段落スタイルシートの各レベルの定義方法についても決めておく必要があります。たとえば、チャプターの見出しを第1レベルに、チャプター内の標題を第2レベルにそれぞれ設定します。また、アプリケーションに関するマニュアルを作成していて、マニュアル内のあるチャプターに「ファイルメニュー」というタイトルが付いている場合、「ファイルメニュー」という見出しのチャプターをリストの第1レベルに設定します。さらに、「新規」、「開く」、「閉じる」、「保存」などのアイテムは、「ファイルメニュー」チャプターのサブ見出しとなり、これを第2レベルに設定できます。あらかじめこのように決定しておけば、リストの作成プロセスが簡単になります。

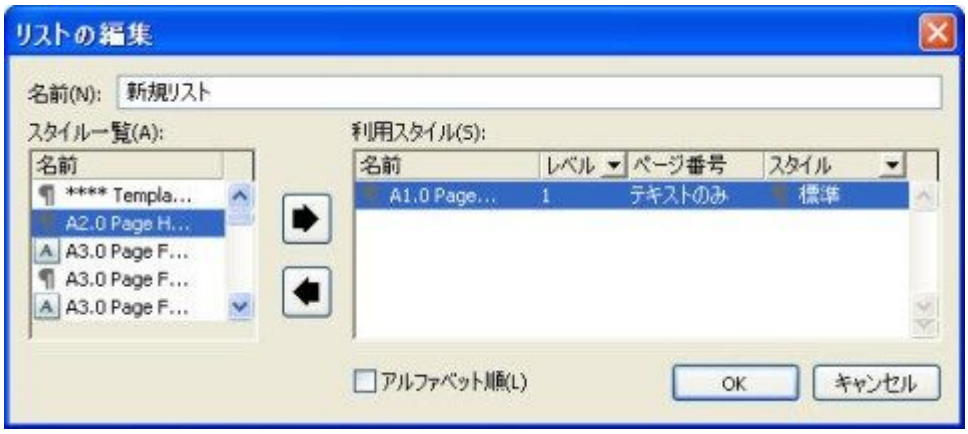
リストの作成

ドキュメントでスタイルシートを作成して適用し、リストに含める内容を決めたら、リストの作成を開始できます。**編集 > リスト**を選択して**新規**をクリックし、**リストの編集**ダイアログボックスを表示して、**名前**フィールドに名前を入力します。

スタイル一覧に、アクティブなプロジェクトの全スタイルシートが一覧されます。リストに使用する各スタイルシートを選択して**追加**をクリックして、**利用スタイル**リストに追加します。たとえば、「Heading 1」および「Heading 2」スタイルシートを使用するすべての見出しを目次に含める場合、この2つのスタイルシートを**利用スタイル**リストに追加します。

目次に入る内容を指定するスタイルシートを指定すると、目次のフォーマット方法を指定できるようになります。**利用スタイル**リストの各スタイルに対し、**レベル**、**ページ番号**オプション、および**スタイル**スタイルシートを選択します。

- **レベル**は、リストのコンテンツが**リスト**パレットでどのようにインデントされるかを指定します（レベルを高くするとさらにインデントされます）。
- **ページ番号**は、スタイルシートの各オカレンスのページ番号をリストに含めるかどうかとその位置を制御します。
- **スタイル**では、自動的に生成される目次の各レベルにスタイルシートを適用できます。



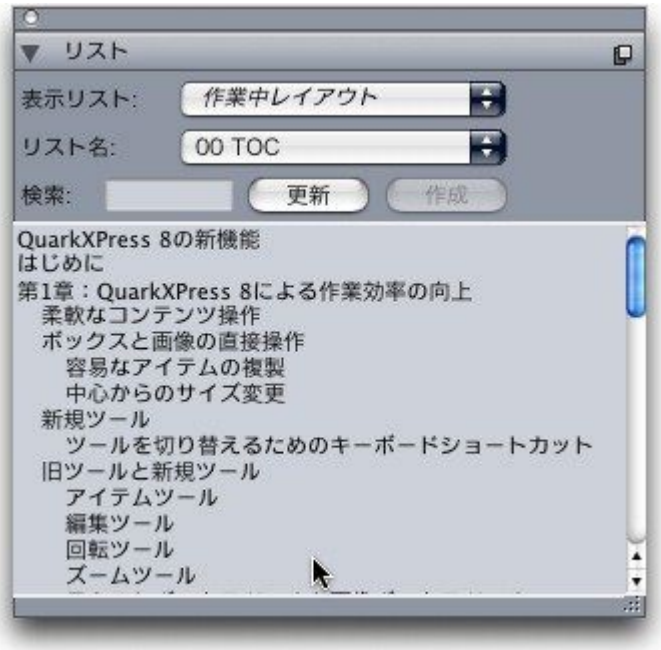
リストの編集ダイアログボックスを使用して、自動目次のようなリストを作成できます。

別のドキュメントからのリストのインポート

QuarkXPressでは、リストを別のドキュメントから、または**編集 > リスト**にある**リスト**ダイアログボックスや**ファイル > 追加**にある**追加**コマンドを使用して追加できます。

リストでのナビゲーション

リストを表示するには、**ウィンドウ**メニューの**リスト**パレットを表示して、**リスト名**ドロップダウンメニューにあるリストを選択し、**更新**をクリックします。選択したリストが**リスト**パレットに表示されます。



リストパレットを使用して、レイアウト内をナビゲートできます。

➡ アーティクルに複数のレイアウトを含んでいる場合、**表示リスト**ドロップダウンリストから別のレイアウトを選択できます。

アクティブリスト内の特定の行を探すには、パレットの**検索**フィールドにその行の語を入力します。パレットのリストが、指定した語のリスト内での最初の出現場所にスクロールします。

特定の段落にジャンプするには、**リスト**パレットでその段落をダブルクリックします。ウィンドウが、レイアウト内のその段落の場所にスクロールします。

リストの作成

レイアウト中に目次（またはその他のタイプのリスト）を作成するには、リストの配置先にテキストの挿入ポイントを配置し、**リスト**パレットにある**作成**をクリックします。リストが自動的に作成されます。**スタイル**ドロップダウンメニュー（**新規リスト**ダイアログボックス）でリスト用に選択したスタイルシートが自動的に適用されます。

ドキュメントのテキストがペーストボードにある場合、作成されるリストではページ番号の代わりに、ダガー記号（Mac OS X）や「PB」という文字列（Windows）がテキストの横に表示されます。

リストの更新

リストパレットは、パレットで作業しても自動的には更新されません。テキストを変更したときは、最新の状態になるようにリストを更新する必要があります。**リスト**パレットの**更新**ボタンをクリックすると、リストアイテムのドキュメントがスキャンされ、**リスト**パレットのリストが再構築されます。

既にテキストボックスにフローしたリストを更新するには、そのボックスを選択し、**更新**をクリックしてリストが最新の状態になっていることを確認してから、**作成**をクリックします。アプリケーションは、レイアウトに既にそのリストのコピーがあることを検出し、リストの新しいコピーを**挿入**するのか、または既存のバージョンを**置換**するのかを尋ねる警告を表示します。既存のリストを更新するには、**置換**をクリックします。

索引の使用

QuarkXPressでは、ドキュメントの単語に、第1～第4レベルの索引見出し語としてマーカーを付けることで索引を作成します。クロス参照を作成したり、索引見出し語が含むテキストの範囲として1つの単語や複数の段落、テキスト選択範囲、特定のスタイルシート内の全テキストなどを指定することができます。索引を作成する際には、多様なレベルで階層構造の有無、約物、マスターページ、スタイルシートを指定します。この作業の後で、索引を作成し、書式を整えます。

ソフトウェアで自動化できるのは、入力や書式設定、索引のページ番号の更新だけです。分かりやすくて利用価値の高い索引を作るための見出し語をリストアップする作業は人の手で行なわなくてはなりません。索引の作成プロセスを完全に自動化するのは不可能なので、索引作成に多少の手間がかかるのは避けられません。ただし、読者が必要な情報を簡単に見つけられるようになるのであれば、やるだけの価値はあります。

索引マーカの色の指定

索引に単語を追加すると、QuarkXPressはそれをブラケットまたはボックスで囲んでタグ付けをします。これらのブラケットまたはボックスを索引マーカと呼びます。**ウィンドウ > 索引**を選択して**索引** パレットを開くと、ドキュメントに索引マーカが表示されま

す。索引マーカの色は、**索引の環境設定**ダイアログボックスを使用してカスタマイズできます。

1 QuarkXPress／**編集** > **環境設定** > **索引**を選択します。

2 **索引マーカの色**ボタンをクリックして、色の選択機能を表示します。

3 スライダ、矢印、フィールド、またはカラーホイールを使用して、索引マーカの色を指定します。

4 OKをクリックして色の選択機能を閉じ、さらにOKをクリックして**索引の環境設定**ダイアログボックスを閉じます。

➡ テキストの範囲を指定して索引を設定すると、ブラケットでマークされます。テキストにテキスト挿入バーを置いて索引見出し語を登録すると、その場所がボックスでマークされます。

索引の見出し語の作成

索引の各アイテムは、単語数に関わらず、見出し語と呼びます。各見出し語にはレベルが割り当てられます。レベルは見出し語の第1から第4までの階層を示します。最初のレベルの見出し語は最も一般的であり、4番目のレベルの見出し語は最も詳細です。

QuarkXPressでは、入れ子の索引に4レベルの索引見出し語、追い込み索引に2レベルの索引見出し語を作成できます。

第1レベル索引見出し語の作成

第1レベル見出し語は、索引内でアルファベット順に配列される主要見出しです。

➡ 索引に語句を追加する前に、**階層付き**索引と**追い込み**索引のどちらを作成するのかを決める必要があります。階層付き索引には、深さ4レベルまでの情報が含まれ、見出し語は段落改行とさまざまなスタイルシートによって区分されます。追い込み索引には2つのレベルの情報が含まれ、第2レベルの見出し語は第1レベルの見出し語の直後に同じ段落内に続きます。

1 テキスト中にテキスト挿入バーを置くか、またはテキストの範囲を選択して、索引付けするテキストの先頭を指定します。

2 第1レベル見出し語のテキストを**索引**パレット（**表示**メニュー）の**テキスト**フィールドに入力するには、ドキュメント内のテキストを選択するか、またはフィールドにテキストを入力します。

3 見出し語のアルファベット順索引を無効にするには、**読み**フィールドにテキストを入力します。たとえば、見出し語が「20世紀」の場合は、読みを「にじゅっせいき」として配列することができます。これによって索引見出し語の綴りに影響が出ることはありません。

4 **レベル**ドロップダウンメニューで**第1レベル**を選択します。

5 ページ番号またはクロス参照に適用されているデフォルトの文字書式設定を無効にするには、**スタイル**ドロップダウンメニューで別の文字スタイルシートを選択します。デフォルトの書式設定は、見出し語テキストの文字スタイルです。

6 **範囲**ドロップダウンメニューからオプションを選択して、索引見出し語によって包含されるテキストの範囲を指定します。

7 **索引**パレットで**追加**ボタンをクリックします。第1レベルの見出し語がアルファベット順に**見出し語**リストに表示されます。ドキュメント内の索引付けされたテキストには、ブラケットまたはボックスによるマークが付きます。**全て追加**ボタンをクリックして、選択したテキストのすべての出現を**見出し語**リストに追加することもできます。

➡ 索引見出し語は、ドキュメントでテキストを選択し、コンテキストメニューを表示し、それから**索引へ追加**を選択することによって追加できます。見出し語は、選択されたレベル、スタイル、および範囲を使用して追加されます。表示されるコンテキストメニューは、**索引へ追加**を除いて、テキストボックスのコンテキストメニューと同じです。

単語を選択する場合、その単語を索引に追加してから、もう一度その選択した単語を（たとえば、別のレベルで）索引に追加しようとすると、「索引参照は既にこの場所に存在しています。」という警告メッセージが表示されます。索引で同じ単語を複数回使用するには、単語にテキスト挿入バーを置き、それから**テキスト**フィールドに対象の単語を入力します。第2索引見出し語に、索引マーカーとしてボックスとブラケットが表示されます。

Option／Altキーを押すと、**追加**ボタンが**逆順追加**に変わります。**逆順追加**ボタンを使用すると、**見出し語**リストに見出し語が逆順で追加され、見出し語にカンマが追加されます。たとえば、**逆順追加**ボタンをクリックすると、「Elaine DeKooning」は「DeKooning, Elaine」として追加されます。「Lila Cabot Perry」は「Perry, Lila Cabot」として追加されます。

Option／Altキーを押すと、**全て追加**ボタンが**全て逆順追加**に変わります。**全て逆順追加**ボタンをクリックすると、選択したテキストのすべての出現が**見出し語**リストに逆順で追加されます。

第2、第3、または第4レベルの索引見出し語の作成

階層付き索引では、第2レベル、第3レベル、および第4レベルの見出し語が、第1レベル見出し語の下に新しい段落で配置されます。追い込み索引では、第2レベルの見出し語が同じ段落で第1見出し語に続きます。

1 索引にするテキスト範囲の先頭位置にテキスト挿入バーを置きます。

2 第1レベルの索引見出し語を作成するときと同様に、**テキスト**、**読み**、**スタイル**、および**範囲**の各コントロールを使用します。

3 **見出し語**リストの左側列にある見出し語の横をクリックし、その見出し語が、その下に第2、第3、または第4レベルの見出し語が続く上位レベルの見出し語であることを指定します。

➡ 組み込み索引で使用される段落スタイルシートに左インデント値がある場合には、第2、第3、および第4レベルの見出し語がインデントされます。

4 **レベル**ドロップダウンメニューから、**第2レベル**、**第3レベル**、または**第4レベル**を選択します。

矢印➪の位置により、選択可能な**レベル**オプションが決まります。**第2レベル**オプションは第1または第2レベルの見出し語の横に矢印がある場合に選択でき、**第3レベル**オプショ

ンは第1、第2、または第3レベルの見出し語の横に矢印がある場合に選択でき、また**第4レベル**オプションは第1、第2、第3、または第4レベルの見出し語の横に矢印がある場合に選択できます。

5 **追加**ボタンをクリックします。新しい索引見出し語は、アルファベット順に配列され、適切な見出し語の下にインデントされます。

索引の見出し語をより多くのレベルの情報を包含する見出しとして使用する場合は、**範囲**ドロップダウンメニューで**ページ番号なし**を選択します。たとえば、料理の本を作成する場合には、「ケーキ」という見出し語を作成し、ページ番号を無効にし、それから第2または第3レベルの見出し語として「チョコレート」や「レモン」などのケーキの種類を列挙できます。

クロス参照の作成

索引の見出し語にページ番号を一覧できるほか、その他のトピックを参照することもできます。たとえば、「活版印刷」への参照欄に「フォントも参照」と表示できます。これには、クロス参照を作成します。索引の既存見出し語へのクロス参照を作成でき、クロス参照用に新しい見出し語を追加できます。**索引**パレット（**表示 > 索引パレット表示**）を使用してクロス参照を作成します。

新規索引見出し語のクロス参照の作成

新規索引見出し語のクロス参照を作成するには、下記の手順に従ってください。

1 テキスト内の任意の位置にテキスト挿入バーを置きます（この見出し語のページ番号はリストに表示されないので、位置は重要ではありません）。

2 **索引**パレットの**テキスト**フィールドに、見出し語のテキストを入力します。

3 それ以外の索引見出し語を作成するときには、**読み**および**レベル**コントロールを使用します。

4 **範囲**ドロップダウンメニューから**クロス参照**を選択します。ドロップダウンメニューから、指定するクロス参照のタイプ（**参照、参照（追加）**、または**以下を参照**）を選択します。

5 フィールドにテキストを入力するか、またはリストに既存の見出し語をクリックして、クロス参照される索引見出し語を指定します。

6 **追加**ボタンをクリックします。見出し語を展開してクロス参照テキストを確認します。

既存索引見出し語のクロス参照の作成

既存索引見出し語のクロス参照を作成するには、下記の手順に従ってください。

1 テキスト内の任意の位置にテキスト挿入バーを置きます（この見出し語のページ番号はリストに表示されないので、位置は重要ではありません）。

2 **見出し語**リストで見出し語を選択します。選択した見出し語は、**テキスト**フィールドに自動的に取り込まれます。

3 **索引**パレットで**編集**ボタンをクリックし、見出し語をダブルクリックするか、または見出し語を選択してコンテキストメニューを表示します。

4 **範囲**ドロップダウンメニューから**クロス参照**を選択します。ドロップダウンメニューから、指定するクロス参照のタイプ（**参照、参照（追加）**、または**以下を参照**）を選択します。

5 フィールドにテキストを入力するか、またはリストに既存の見出し語をクリックして、クロス参照される索引見出し語を指定します。

➡ **見出し語**リストのクロス参照テキストをページ番号参照と一緒に表示するには、見出し語を展開します。

➡ 索引を作成すると、ページ番号参照のすぐ後にクロス参照が続きます。クロス参照は、**索引環境設定**ダイアログボックス（**編集 > 環境設定 > 索引**）で指定した文字スタイルシートに従って書式設定されます。**見出し語のスタイル**を指定すると、クロス参照では参照元の見出し語と同じスタイルシートが使用されます。**スタイル**ドロップダウンメニュー（**索引**パレット）を使用してクロス参照の文字スタイルシートを指定すると、**索引環境設定**ダイアログボックスで指定したスタイルシートが無効になります。**クロス参照**フィールドに入力するテキストにはそのスタイルシートが適用されますが、クロス参照の「参照」、「参照（追加）」、または「以下を参照」の部分には適用されません。

クロス参照の前に置かれる区切り文字は、**索引環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集 > 環境設定 > 索引**）の**クロス参照の前**フィールドで指定されます。クロス参照の後に区切り文字を入れる場合は、**索引**パレットで入力したクロス参照テキストの後に入力してください。

索引見出し語の編集

索引見出し語を選択して、**テキスト**フィールド、または**読み**フィールドの情報を編集できます。クロス参照やページ番号参照を選択して、**スタイル**または**範囲**ドロップダウンメニューの情報を編集することもできます。また、見出し語のレベルも変更できます。

1 **見出し語**リストから見出し語または参照を選択します。参照を表示するには、見出し語を展開します。

2 **索引**パレットの**編集**ボタンをクリックして見出し語をダブルクリックするか、コンテキストメニューから**編集**を選択します。

編集モードの使用中、**編集**ボタンは反転表示されます。

3 選択した見出し語または参照に変更を加えます。他の見出し語や参照を選択して編集することもできます。

4 編集モードを終了するには、**編集**ボタンをもう一度押します。

索引見出し語の削除

索引見出し語の削除、およびテキストからの索引マーカーの消去については、下記の手順に従ってください。

1 **見出し語**リストから見出し語または参照を選択します。参照を表示するには、見出し語を展開します。

2 コンテキストメニューを表示して**削除**を選択するか、**索引**パレットで**削除**ボタンをクリックします。

索引で使用する約物の指定

索引の環境設定ダイアログボックスを使用して、索引の作成時に自動的に挿入する約物を指定できます。

1 QuarkXPress／編集 > 環境設定 > 索引を選択します。

2 **区切りキャラクタ**フィールドに、前後のスペースも含めた索引約物およびクロス参照スタイルシートを入力します。

- **見出し語の後**は、索引の各見出し語の直後に挿入する約物を指定します。通常はコロンです。たとえば、"QuarkXPress: xii, 16–17, 19"では、索引見出し語"QuarkXPress"の後にコロンとスペースを使用しています。

  索引見出し語の後にクロス参照が続く場合は、**見出し語の後**キャラクタではなく、**クロス参照の前**キャラクタを使用します。

- **ページ番号の間**は、ページ番号のリストを区切るために使用される単語または約物を指定します。通常は、カンマまたはセミコロンです。たとえば、"QuarkXPress: xii, 16–17, 19"では、ページ番号の間にカンマとスペースを使用しています。
- **ページ範囲の間**は、ページの範囲を示す単語または約物を指定します。通常は、enダッシュまたは単語"to"で、前後にスペースを挿入して" to "のようにします。たとえば、"QuarkXPress: xii, 16–17, 19"では、ページ範囲の表記にenダッシュを使用しています。
- **クロス参照の前**は、クロス参照の前に使用される単語または約物を指定します。通常は、ピリオド、セミコロン、またはスペースです。たとえば、"QuarkXPress: xii, 16–17, 19. See also Page Layout"では、クロス参照の前にピリオドを使用しています。
- **クロス参照スタイル**は、クロス参照で使用するスタイルシートを指定します。このスタイルシートは、"参照"、"参照（追加）"、および"以下を参照"にのみ適用できます。
- **見出し語の項目間**は、追い込み索引の見出し語レベルの間に使用される単語または約物を指定します。通常はセミコロンまたはピリオドです。追い込み索引は、索引見出し語の項目またはサブ項目を、ネストされたタブではなくパラグラフで一覧表示します。たとえば、"QuarkXPress: xii, 16–17, 19; Printing from: 62–64; Typesetting in: 32, 34"では、見出し語の間にセミコロンを使用しています。

  ネストされた索引では、**見出し語の項目間**キャラクタが各パラグラフの末尾の約物として使用されています。

3 OKをクリックします。

➡ 作成した索引は、インデックステキストでなく、フォーマットテキストで構成されます。テキスト、または**見出し語**リストの編集を続ける場合は、索引を再度作成する必要があります。

➡ **区切りキャラクタ**フィールドには最大72文字まで入力できます。**区切りキャラクタ**フィールドでは、一部の「XPress Tag」を使用することもできます。たとえば、**見出し語の後**フィールドに「¥t」と入力すると、索引の作成時に見出し語の後にデフォルトタブが自動的に挿入されます。

索引の作成

索引作成ダイアログボックスを使用して、**索引**パレットのコンテンツから索引を作成します。

索引を作成する際、QuarkXPressは、リストをコンパイルし、ユーザーの仕様に従って形式を整え、選択するマスターページに基づいてそのリストをページに流し込みます。ドキュメントが開いている状態で設定すると、索引の環境設定はドキュメント固有の設定になります。

索引を作成する前に、索引用の自動テキストボックスを配置したマスターページを作成します。次に、索引で使用されるセクション見出しおよびすべてのレベルの段落スタイルシートを作成します。通常、レベルはさまざまなインデントによって区別されます。

索引を作成するには、下記の手順に従ってください。

1. **補助 > 索引作成**を選択するか、**索引**パレットのコンテキストメニューを表示して**索引作成**を選択します。
2. **形式**として、**階層付き**または**追い込み**を選択します。索引が2レベル以上の情報で編成される場合は、階層付き索引を作成してください。追い込み索引を作成する場合は、見出し語の情報レベルすべてが、階層なしで同じ段落に表示されます。
3. 既存の索引を上書きするには、**既存の索引を置換**をオンにします。
4. 索引のアルファベット別セクションそれぞれに見出しを付けるには、**見出し文字を追加**をオンにし、ドロップダウンメニューからスタイルシートを選択します。
5. 索引の**マスターページ**を選択します（自動テキストボックスが配置されているマスターページのみがリストに表示されます）。QuarkXPressは、ドキュメントの最後に必要なページを自動的に追加して索引を作成します。見開きのマスターページを指定すると、見開きの右側が最初に追加されます。
6. **レベルスタイル**ドロップダウンメニューから、索引の各レベルのスタイルシートを選択します。**形式**として**追い込み**をクリックした場合は、**第1レベル**ドロップダウンメニューのみが選択可能になります（これは、すべてのレベルが同じ段落に流し込まれるためです）。
7. **OK**をクリックして**索引作成**ダイアログボックスを閉じ、索引を作成します。

➡ 2つのバージョンの索引を比較する必要がある場合は、**索引作成**ダイアログボックス（**補助**メニュー）で**既存の索引を置換**をオフにします。

最後の索引の編集

索引を作成したら、内容を細かくチェックする必要があります。索引見出し語に抜けがないか、クロス参照は適切か、レベル付けは論理的かを確認してください。また、約物やフォーマットが見苦しくないかどうかも確認します。初めて作成した索引が完璧であることはめったにありません。テキストの部分的な修正で済む場合もありますが、場合によっては索引を作成し直す必要がある場合もあります。

索引のテキストが印刷されない

ブラケットで囲まれたテキストが印刷されない場合は、テキストがペーストボードにある、別のアイテムの下に隠れている、ボックスに収まりきらないなどの原因が考えられます。このような場合、索引の見出し語テキストの横にはページ番号ではなく、ダガー

記号 † （Mac OS X）またはBの後ろにスペースの付いた「PB 」（Windows）という文字が表示されます。

Mac OS Xのみ：ダガー記号を検索するには、**編集**メニューの**検索／置換**ダイアログボックスにある**検索**フィールドに「Option+T」と入力して、ドキュメント内で問題を解決できるかどうか、または索引からダガー記号を削除するだけでいいのかを確認します。

（Windowsのみ）：「PB」文字を検索するには、**編集**メニューの**検索／置換**ダイアログボックスにある**検索**フィールドに、スペースを含めて「PB」と入力して、ドキュメント内で問題を解決できるかどうか、または索引から文字を削除するだけでいいのかを確認します。

索引の編集と再作成

約物、索引の見出し語、または索引の構成に関する問題を解決するには、**索引**パレット、**索引の環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集 > 環境設定 > 索引**）、または**索引作成**ダイアログボックス（**ユーティリティ**メニュー）に戻ります。必要な変更を行い、索引を再作成します。

索引の更新

索引を作成した後に索引付きドキュメントを編集する場合、索引を再度作成する必要があります。QuarkXPressは索引テキストを自動的には更新しないため、ドキュメントの完成が確実になったときにのみ、最終的な索引を作成してください。

索引への部分的な変更の適用

索引が完成し、レイアウトにもこれ以上の変更がなさそうな場合は、索引を部分的に変更して最終的な調整を行います。たとえば、見出し「W」、「X」、「Y」、および「Z」の見出しの下にそれぞれ1つしか見出し語がないような場合には、「W–Z」という見出しで各項の見出し語をまとめることができます。また、**検索／置換**ダイアログボックス（**編集**メニュー）を使用して、特定の単語に書式を適用することもできます。この段階で見出し語の削除や変更を行っても、その変更は以降に作成する索引には反映されません。

ブックの使用

複数ドキュメントで構成される出版物は、管理が難しいものです。関連するドキュメントは相互に近い場所に保存しておく必要がありますが、あくまで別個のものです。このような場合にブックが役立ちます。

ブックとは、チャプターと呼ばれる個々のドキュメントへのリンクを含んだウィンドウとして表示されるQuarkXPressファイルです。ブックにチャプターが追加されると、**ブック**パレットを介してチャプターを開いたり、閉じたり、トラッキングしたりできます。QuarkXPressでは、ブックのチャプターで使用されるスタイルシートや他の仕様を同期し、**ブック**パレットからチャプターを印刷し、チャプター間にまたがるページ番号を自動的に更新したりできます。

QuarkXPressでは、同時に最大25までのブックを開くことができます。また、同時に複数のユーザーでブックを開くことができるので、ワークグループのメンバーは、異なるチャプターにアクセスできるのです。ブックを閉じるかQuarkXPressを終了するまで、ブックは開いた状態のままになります。**ブック**パレットを閉じるかQuarkXPressを終了するときに、ブックに加えられた変更が保存されます。

チャプターを追加したり、並べ替えたりしたブックへの変更内容は、ブックを閉じたとき、またはQuarkXPressを終了したときに自動的に保存されます。チャプターを開いて編集する場合、チャプタードキュメントは、スタンドアロンQuarkXPressプロジェクトと同様に、**ファイル**メニューの**保存**コマンドを使用して保存する必要があります。

➡ たとえば、ワークグループのメンバーが、ブックのチャプターを開いたり並べ替えたりしてブックへの変更を行うと、ブックが更新されて、その変更内容が反映されます。強制的に更新するには、**ブック**パレットの任意の場所をクリックします。

ブックの作成

QuarkXPressでは、ドキュメント（チャプター）の集まりをブックと呼びます。新規ブックは、いつでも作成できます。新規ブックの作成については、下記の手順に従ってください。

1. **ファイル > 新規 > ブック**を選択します。
2. ダイアログボックスのコントロールを使用して、新規ブックファイルの場所を指定します。
3. **ブック名／ファイル名**フィールドに、ブックの名前を入力します。
4. **作成**をクリックします。開いているすべてのドキュメントの前面に、新しいブックがウィンドウとして表示されます。

➡ ブックファイルを共有の場所に保存すると、複数のユーザーがブックを開いてチャプターを編集できます。マルチユーザー環境でブックの機能を使用するには、すべてのユーザーが同じパスを使用してそれぞれのコンピュータからブックにアクセスする必要があります。つまり、ブックは、そのブックにアクセスする任意のユーザーのコンピュータ上ではなく、共通のネットワークサーバー上に保存する必要があります。

チャプターの使用

ブックには、チャプターと呼ばれる個々のQuarkXPressドキュメントが含まれます。チャプターを作成するには、開いたブックにドキュメントを追加します。チャプターは、**ファイル**メニューの**開く**コマンドではなく、**ブック**パレットで開きます。ブック内でチャプターを並び替えたり、ブックからチャプターを削除したりできます。ブックのチャプターは、そのブックと同じボリュームに保存する必要があります。

ブックへのチャプターの追加

1つのブックにはチャプターを1,000個まで追加できます。開いているブックにチャプターを追加するには、下記の手順に従ってください。

1. **ブック**パレットで**チャプターの追加**ボタンをクリックします。
2. ダイアログボックス内のコントロールを使用して、ブックに追加する最初のドキュメントの場所を指定します。ブックに追加する最初のチャプターは、デフォルトでそのブックのマスターチャプターになります。マスターチャプターにより、ブック全体で使用されるスタイルシート、カラー、ハイフネーション＆ジャスティフィケーション仕様、リスト、およびダッシュ＆ストライプが定義されます。これらの属性は、マスターチャプターに固有のものであり、マスター以外のチャプターの属性はマスターチャプターの属性に依存しません。

3 リストでドキュメントを選択し、**追加**をクリックします。ドキュメントが以前のバージョンのQuarkXPressで作成されている場合は、ドキュメントを追加すると現在の形式に更新されることを示す警告メッセージが表示されます。OKをクリックすると、ドキュメントが更新され、QuarkXPressのブックチャプターとして再保存されます。

4 手順1～3を繰り返してブックに他のチャプターを追加します。

チャプターを追加すると、それらのチャプターが**ブック**パレットのリストに表示されます。**チャプターの追加**ボタンをクリックするときに**ブック**パレットでチャプターが選択されていると、そのチャプターの直後に次のチャプターが自動的に追加されます。チャプターが選択されていない場合は、リストの最後に次のチャプターが追加されます。

チャプターは1つのブックにのみ属することができます。別のブックのチャプターも使用する場合は、**新規保存**コマンド（**ファイル**メニュー）を使用してドキュメントのコピーを作成します。ドキュメントのコピーを他のブックに追加します。別のブックのチャプターを配置すると、ブックのページ番号設定が変更されることがあります。

チャプターの状況

ブックにチャプターを作成すると、**ブック**パレットを使用して、チャプターを開いたり閉じたり、追跡できるようになります。**ブック**パレットの**状況**列には、各チャプターの現在の状況が表示されます。

- **利用可能**は、チャプターを開けることを示します。
- **開く**は、コンピュータ上でチャプターが既に開いていることを示します。
- [**ユーザー名**]は、他のユーザーがチャプターを開いていることを示します。ユーザー名は、ユーザーのコンピュータに割り当てられている名前です。ファイル共有とコンピュータの命名については、コンピュータ付属のマニュアルを参照してください。
- **変更**は、ブックのチャプターが別途開かれ、編集されていることを示します。状況を**利用可能**に更新するには、**ブック**パレットでチャプターを再度開いて閉じます。
- **移動**は、チャプターのファイルがブックに追加されてから移動していることを示します。チャプター名をダブルクリックしてダイアログボックスが表示されたら、ファイルを探してください。

ブック内でチャプターを開く

複数のユーザーで同じブックを開くことはできても、1つのチャプターは同時に1人しか開けません。チャプターを開くには、**状況**欄にそのチャプターが**利用可能**または**変更**と表示されている必要があります。利用可能なチャプターを開くには、そのチャプターの名前をダブルクリックします。

ブックの外からチャプターを開く

ブックが保管されているネットワーク外のコンピュータで作業する必要がある場合、たとえば、自宅でチャプターを編集する必要がある場合など、そのブックから独立してチャプターのコピーで作業できます。そのチャプターの作業が完了したら、ネットワーク上の元の場所にコピーして戻します。この場合、**ブック**パレットには**変更**として表示されます。

➡ コピーの編集中に、別のユーザーが元のチャプターを編集してしまわないように、元のチャプターを別のフォルダに配置すれば、そのチャプターの状況は、**ブック**パレットで**移動**と表示されます。

ブック内のチャプターを並べ替える

ブック内のチャプターの順序は、状況に関係なくいつでも入れ替えることができます。チャプター順を変えると、自動ページ番号が更新されます。チャプター名をクリックして選択し、**ブック**パレットの**チャプターを移動**ボタン、をクリックします。選択したチャプターが1行上または下に移動します。

ブックからのチャプターの消去

チャプターは、いつでもブックから消去できます。チャプター名をクリックして選択し、次に**チャプターの消去**ボタンをクリックします。チャプター名が**ブック**パレットから消去され、そのチャプターへのリンクが切れます。そのチャプターは、通常のQuarkXPressドキュメントになります。

ページ番号の制御

セクションがある（**ページ > セクション**）チャプターをブックに追加した場合、セクションとページ番号は維持されます。たとえば、ブックの各チャプターを新しいセクションにすることができます。チャプターにセクションがない場合、ブックの続きページ番号がチャプターに割り当てられます。たとえば、ブックの最初のチャプターの長さが10ページの場合、2番目のチャプターは11ページから始まります。

セクションの追加と削除を行うことで、ブックのページ番号を変更できます。ドキュメントページに自動ページ番号文字がある場合、そのページには適切なページ番号が表示されます。

セクション分けされたチャプターの使用

チャプターにセクションスタートが設定されている場合、セクションのページ番号設定は、QuarkXPressが新しいセクションスタートを検出するまで、ブック全体で有効な状態が続きます。たとえば、ブックの最初のチャプターが、ページ番号に接頭辞「A」が付いているセクションである場合は、QuarkXPressが新しいセクションを検出するまで、後続のチャプターのすべてのページに接頭辞「A」が付けられます。この例では、2番目のチャプターが接頭辞「B」の付いた新しいセクションになります。

ブックのチャプターのセクションは、いつでも追加、変更、および削除できます（**ページ > セクション**）。ブック内のすべてのチャプターからすべてのセクションを削除すると、そのブックは連続ページ番号設定を逆転させます。

➡ **ブック**パレットでチャプターのページ番号を表示するには、自動ページ番号設定を使用する必要があります。

セクションを含まないチャプターの使用

チャプターにセクションが含まれていない場合、QuarkXPressは各チャプターの最初のページで「ブックチャプタースタート」を作成します。ブックチャプタースタートがあると、そのチャプターのページ番号は、直前のチャプターの最終ページ番号の次から始まります。ブックチャプタースタートを無効にしてセクションを作成するには、チャプターを開いて**ページ > セクション**を選択します。**セクションスタート**をオンにすると、

ブックチャプタースタートがオフになります。チャプターにページを追加したり、チャプターの順序を並べ替えたり、またはチャプターを削除したりすると、後続のページやチャプターはこのセクションスタートに応じて番号付けされます。

出力されるチャプターページにブックのページ番号設定が正確に反映されるようにするため、ページ番号は現在のページ番号文字を使用して挿入してください。

ブックを開くユーザーは、チャプターを追加、並べ替え、および削除できます。また、チャプターにセクションを追加して、連続ページ番号設定を無効にしたり、チャプターを同期したりすることもできます。このような作業はひとりのユーザー（編集者など）に割り当て、他のユーザーには、パレットでチャプターを開いたり閉じたりする作業だけを行うよう依頼できます。

関連付けられたQuarkXPressブックの外部でチャプターを開く、つまり**ブック**パレットを使用してチャプターを開かなかった場合は、ページ番号が一時的に変更されます。チャプターの区切りを越えてページ番号を自動的に更新するブックチャプタースタートが含まれている場合は、ブックの外部で編集している間、そのチャプターのページ番号は1から始まります。**ブック**パレットを使用して同じチャプターを再び開くと、ページ番号は自動的に更新されます。チャプターに通常のセクションスタートがある場合は、ブックの外部で編集するときでもページ番号は変わりません。

チャプターの同期

ブックのチャプターで使用されているスタイルシート、カラー、H&J（ハイフネーションジャスティフィケーション）、リスト、ダッシュおよびストライプをすべて統一するには、マスターチャプターの仕様に一致させます。デフォルトでは、ブックの最初のチャプターがマスターチャプターになりますが、マスターチャプターはいつでも変更できます。

チャプターを同期すると、各チャプターのすべての仕様がマスターチャプターの仕様と比較され、必要に応じて変更されます。チャプターを同期した後は、ブックの各チャプターは、マスターチャプターと同じスタイルシート、カラー、H&J、リスト、ダッシュおよびストライプを持つようになります。

マスターチャプターの指定

デフォルトでは、ブックに追加する最初のチャプターがマスターチャプターになります。マスターチャプターは、**ブック**パレットのチャプター名の左にMが付いて示されます。マスターチャプターを変更するには、新しいマスターチャプターをクリックして選択します。次に、そのチャプター名の左の空白の領域をクリックすると、マスターチャプターアイコンのMが新しいチャプターに移動します。

仕様の同期

ブック内の仕様を同期する前に、まずスタイルシート、カラー、ハイフネーションとジャスティフィケーションの仕様、リスト、およびダッシュとストライプが現在のマスターチャプターで正しく定義されていることを確認してください。次に、下記の手順に従ってください。

1 ブックのすべてのチャプターの状況が、**利用可能**になっていることを確認します。利用可能になっていない場合、そのチャプターの仕様は同期されません。

2 同期するチャプターを選択します。連続するチャプターの範囲を選択するには、最初のチャプターをクリックした後に、Shiftキーを押しながら範囲の最後のチャプターをクリックします。連続しない複数のチャプターを選択するには、Command/Ctrlキーを押しながら、それぞれのチャプターをクリックします。

3 **ブック**パレットで**ブックを同期**ボタンをクリックします。**選択チャプターを同期**ダイアログボックスが表示されます。

4 **スタイルシート**、**カラー**、**H&J**、**リスト**、または**ダッシュ＆ストライプ**タブをクリックして、リストから仕様を選択します。**利用可能**リストに適切な仕様がすべて表示されます。同期する仕様を選択してダブルクリックするか、矢印をクリックしてそれらを**使用**列まで移動します。

5 **選択チャプターを同期**ダイアログボックスですべての仕様を同期するには、**全て統一**ボタンをクリックします。

6 OKをクリックします。ブックの各チャプターが開かれ、マスターチャプターと比較された後、必要に応じて変更され、保存されます。チャプターを同期すると、下記のように変更が行われます。

- 同じ名前の仕様が比較されます。必要に応じて、マスターチャプターの仕様と一致するようにチャプター仕様が編集されます。
- マスターチャプターに含まれてる仕様が他のチャプターに含まれていない場合は、追加されます。
- 他のチャプターに含まれている仕様で、マスターチャプターで定義されていないものは変更されません。

➡ ブックの仕様に影響を及ぼす変更を行う場合は、チャプターを再同期する必要があります。

➡ ブックの仕様に対して一括変更を行う場合は、同期を使用できます。たとえば、ブック全体で使用するスポットカラーを変更する場合は、カラーの定義をマスターチャプターで変更してから、**ブックを同期**ボタンをクリックします。

チャプターの印刷

ブックパレットには、同じ設定を使用する複数のチャプターをすばやく印刷する機能が用意されています。**ブック**パレットでは、ブック全体を印刷することも一部のチャプターのみを印刷することもできます。開いているブックのチャプターの印刷については、下記の手順に従ってください。

1 印刷するチャプターの状況が、**利用可能**または**オープン**になっていることを確認します。状況が**移動**になっているチャプターや、現在他のユーザーによって使用されているチャプターは印刷できません。

2 ブック全体を印刷する場合は、チャプターを選択しないようにしてください。1つのチャプターを選択する場合は、そのチャプターをクリックします。連続する複数のチャプターを選択する場合は、Shiftキーを押しながらチャプターをクリックします。連続しない複数のチャプターを選択する場合は、Command／Ctrlキーを押しながらチャプターをクリックします。

3 **ブック**パレットの**チャプター印刷**ボタンをクリックして、**印刷**ダイアログボックスを表示します。

4 選択した全チャプターのすべてのページを印刷するには、**ページ**ドロップダウンメニューから**全て**を選択します。

5 他の印刷設定を指定するか、**印刷書式**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。すべてのページまたはチャプターが、ここで設定した値を使用して印刷されます。

6 **OK**をクリックします。QuarkXPressは、すべてのチャプターを開き、印刷してから、各チャプターを閉じます。チャプターが移動されている場合や他のユーザーによって使用されている場合は、ブックは印刷されません。

印刷ダイアログボックスなどのページ番号を入力するフィールドでは、接頭辞も含む完全なページ番号、または絶対ページ番号を入力する必要があります。絶対ページ番号とは、ドキュメントのセクション分けの方法に関係なく、ドキュメントの最初のページに対する相対的な位置を表したものです。ダイアログボックスで絶対ページ番号を指定するには、ページ番号の前にプラス（+）記号を入力します。たとえば、ドキュメントの最初のページを表示する場合は、「+1」と入力します。

ブックからPDFを生成する

ブックパレットでは、PDFを簡単に生成できます。 ブック全体に基いて単一のPDFを生成することも、選択した章について別々のPDFを生成することもできます。 PDFを生成するには、下記の手順に従ってください。

1 PDFに含めるチャプターの状況が、**利用可能**または**オープン**になっていることを確認します。 状況が**移動**になっているチャプターや、現在他のユーザーによって使用されているチャプターは使用できません。

2 ブック全体を含める場合は、チャプターを選択しないようにしてください。1つのチャプターを選択する場合は、そのチャプターをクリックします。連続する複数のチャプターを選択する場合は、Shiftキーを押しながらチャプターをクリックします。連続しない複数のチャプターを選択する場合は、Command／Ctrlキーを押しながらチャプターをクリックします。

3 **PDFとして書き出し**ボタンの横には、**単一ファイル**チェックボックスがあります。

- チェックボックスをオンにすると、すべてのチャプター、または選択したチャプターについて単一のPDFが生成されます。 PDFのファイル名を入力するよう求められます。
- チェックボックスをオフのままにすると、チャプターごとに複数のPDFが生成されます。PDFのファイル名を入力するよう求められ、最初のチャプターはその名前で書き出され、以後のチャプターはその名前に_002、_003などの接尾辞が付けられます。

4 **ブック**パレットの**PDFとして書き出し**ボタンをクリックして、**PDFとして書き出し**ダイアログボックスを表示します。

5 選択した全チャプターのすべてのページを印刷するには、**ページ**ドロップダウンメニューから**全て**を選択します。

6 **PDFのスタイル**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。すべてのページまたはチャプターが、ここで設定した値を使用して印刷されます。

7 他のPDF出力オプションを指定するには、**オプション**をクリックします。

8 **OK**をクリックします。 QuarkXPressはすべてのチャプターを開き、PDFを生成してから各チャプターを閉じます。 チャプターが移動されている場合や他のユーザーによって使用されている場合は、PDFは作成されません。

➡ **PDFとして書き出し**ダイアログボックスなどのページ番号を入力するフィールドでは、接頭辞も含む完全なページ番号、または絶対ページ番号を入力する必要があります。絶対ページ番号とは、ドキュメントのセクション分けの方法に関係なく、ドキュメントの最初のページに対する相対的な位置を表したものです。ダイアログボックスで絶対ページ番号を指定するには、ページ番号の前にプラス（+）記号を入力します。たとえば、ドキュメントの最初のページを表示する場合は、「+1」と入力します。

ブックの索引と目次の作成

QuarkXPressでは、ブック全体の索引と目次を生成できます。これらの機能は**ブック**パレットではなく、リストと索引機能によって実現されています。ただし、完全なリストや索引を生成するには、ブックのすべてのチャプターが**利用可能**である必要があります。

ブックの索引

Index QuarkXTensionsが読み込まれていると、索引機能が利用できます。索引を作成するには、**索引**パレット（**表示**メニュー）を使用して、テキストを索引見出し語としてタグ付けします。索引の約物は**索引の環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集 > 環境設定 > 索引**）で指定します。ブックが完成したら、**索引の作成**ダイアログボックス（**ユーティリティ** メニュー）を使用して索引を生成します。

ブックのリスト

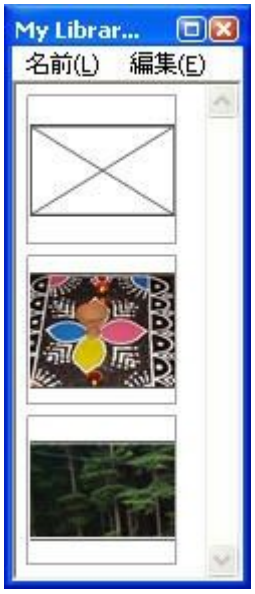
QuarkXPressでは、リストは、特定の段落スタイルシートでスタイル設定されたテキストを編集したものです。たとえば、「チャプター名」スタイルシートのすべてのテキストおよび「セクションヘッド」スタイルシートのすべてのテキストをコンパイルして、2つのレベルを持つ目次を作成できます。リストは目次だけに限定されるものではありません。たとえば、キャプションに使用されているスタイルシートからイラストのリストを作成できます。リストの作成には、**編集**メニューの**リスト**ダイアログボックスおよび**表示**メニューの**リスト**パレットを使用します。

ライブラリの使用

ライブラリは、ロゴ、出版物の発行人欄、登録商標の表記、および写真などの頻繁に使用されるページアイテムを保管するのに便利です。個々のライブラリにはアイテムを2000まで保存できます。ライブラリのアイテムは、テキストボックス、テキストパス、画像ボックス、ライン、複数選択されたアイテム、またはグループです。ライブラリーのアイテムを出し入れするには、単にドラッグするか、またはカット／コピー＆ペーストを実行します。

ライブラリは、レイアウトで随時必要とされるアイテムを保管するのに便利です。たとえば、会社のロゴ、法的情報、一般によく使用される画像やテキスト、図表の書式、およびクリップアートは、すべて一般的なライブラリアイテムに含まれます。記憶するのが難しい書式のアイテムもライブラリに保存できます。

ライブラリパレットのスクロールバーを使用して、ライブラリのアイテム全体を縦方向にスクロールします。サイズを変更するには、**ライブラリ**パレットの右下にあるサイズ変更ボックスをドラッグします。**ライブラリ**パレットは、ズームボックスをクリックして拡張できます。もう一度ズームボックスをクリックすると、前の表示に戻ります。



ライブラリパレット

➡ QuarkXPressのライブラリはクロスプラットフォームではないため、ライブラリを開くには、作成されたときのプラットフォームを使用する必要があります。

ライブラリの作成

新規ライブラリはいつでも作成できますが、その時点で開いているファイル数が25より少ない場合に限ります。新規ライブラリの作成については、下記の手順に従ってください。

1 **ファイル > 新規 > ライブラリ**を選択します。

➡ 作成した新規ライブラリは、手動で閉じるまで開いたままです。QuarkXPressを起動すると、以前に開いていたライブラリーパレットが自動的に再度開かれ、デフォルトのライブラリ位置に置かれます。

2 ダイアログボックスのコントロールを使用して、新規ライブラリファイルの場所を指定します。

3 **ライブラリ名／ファイル名**フィールドに、ライブラリの名前を入力します。

4 **作成**をクリックします。

ライブラリアイテムの追加

ライブラリにアイテムを追加すると、アイテムのコピーがライブラリに配置され、サムネールとして表示されます。元のアイテムはドキュメントから削除されません。ライブラリにアイテムを追加するには、下記の手順に従ってください。

1 **アイテム**ツール を選択します。

2 ライブラリに配置するアイテムまたはアイテムのグループを選択します。複数のアイテムを選択するには、Shiftキーを押しながら各アイテムをクリックします。ただし、複数のアイテムを選択すると、別個のアイテムとしてではなく1つのアイテムとしてライブラリに保存されます。

3 ライブラリにアイテムまたはグループをドラッグし、ライブラリポインタが表示されたらマウスボタンを放します。ライブラリアイテムが矢印アイコンの間に配置されます。

ライブラリアイテムの検索

ライブラリアイテムをドキュメントに配置するには、任意のツールを選択してライブラリアイテムをクリックします。アイテムをドキュメントにドラッグします。ライブラリアイテムのコピーがドキュメントに配置されます。

ライブラリアイテムの操作

ライブラリのアイテムを並び替えたり、アイテムを1つのライブラリから別のライブラリに移動したり、ライブラリアイテムを置換または削除したりすることができます。

- ライブラリのアイテムを並び替えるには、アイテムをクリックして新しい位置にドラッグします。
- アイテムを1つのライブラリから別のライブラリにコピーするには、アイテムをクリックし、開いた別のライブラリにドラッグします。
- ライブラリのアイテムを置き換えるには、ドキュメントで置き換えるアイテムを選択してから、**編集 > コピー**を選択します。ライブラリのアイテムをクリックして選択し、**編集 > ペースト**を選択します。
- Mac OS Xでライブラリからアイテムを削除するには、アイテムをクリックしてから**編集 > クリア**、**編集 > カット**を選択するか、Deleteキーを押します。Windowsでライブラリからアイテムを削除するには、**ライブラリ**パレットメニューの**編集 > 削除**または**編集 > カット**を選択します。

➡ **（Windowsのみ）**：Windowsでライブラリのアイテムをコピー、ペースト、または削除するには、**ライブラリ**パレット上部の**編集**メニューを使用します。

➡ ドキュメントに高解像度の画像をインポートした後で、その画像を移動する場合、ライブラリアイテムをドキュメントに移動するときに**補助**メニューの**使用状況**コマンドで画像へのパスを更新する必要があります。

ラベルの使用

QuarkXPressでは、ライブラリアイテムにラベルを適用して管理できます。複数のアイテムに同じラベルを適用できます。また、そのラベルに従ってライブラリアイテムを選択して表示できます。たとえば、ライブラリに企業ロゴが多数保存されている場合、それぞれのアイテムに該当する企業名をラベル付けできます。

ライブラリアイテムの命名

ライブラリアイテムの1つに名前を付けた後、その名前を他のアイテムにも使用できます。または、ライブラリアイテムのそれぞれに固有の名前を付けることもできます。ライブラリアイテムの命名については、下記の手順に従ってください。

1. ライブラリアイテムをダブルクリックして、**ライブラリ登録**ダイアログボックスを表示します。
2. **名前**フィールドに記述名を入力するか、**名前**リストから選択します。ライブラリアイテムの名前を変更するには、新しい名前を入力するか、リストから別の名前を選択します。
3. OKをクリックします。

名前別のライブラリ見出し語の表示

見出し語を名前別に表示するには、**ライブラリ**パレットの左上にあるドロップダウンメニュー（Mac OS X）、または**ラベル**メニュー（Windows）をクリックします。表示する、見出し語に関連付けられた名前を選択します。

- メニューには**全ての、名前なし**、および作成して見出し語に適用したすべてのラベルが一覧されます。
- 複数の名前を選択して、複数カテゴリの見出し語を表示できます。この場合、選択した各名前の隣にチェックマークが表示されます。
- Mac OS Xでは、複数の名前を選択すると、ドロップダウンメニューに**混合ラベル**が表示されます。 Windowsでは、**ラベル**メニューを選択すると、パレットに表示されている名前の横にチェックマークが表示されます。
- 名前に関わらずすべてのライブラリ見出しを表示するには、**全ての**を選択します。
- 名前が適用されていない見出しを表示するには、**名前なし** を選択します。別の名前に加えて、**名前なし**を選択できます。
- ラベルが適用されている見出し語を非表示にするには、再度名前を選択します。

ライブラリの保存

ライブラリパレットの閉じるボックスをクリックすると、ライブラリに対して行った変更が自動的に保存されます。ライブラリへの自動保存機能を使用して、各変更をオンザフライで保存することもできます。ライブラリへの自動保存機能の使用については、下記の手順に従ってください。

1. QuarkXPress/**編集 > 環境設定**を選択して、左側にあるリストから**保存**をクリックして、**保存**ペインを表示します。
2. **ライブラリへの自動保存**チェックボックスをオンにします。
3. OKをクリックします。

出力

レビューのためレーザープリンタでプルーフコピーを印刷する場合や、高解像度のイメージセッタやプレートセッターでフィルムや版の最終的な出力が必要な場合、QuarkXPressによって常に満足できる結果が得られます。 QuarkXpress 9.0ではホストベースの分解がサポートされていないため、 **In-RIP**分解または**コンポジット**出力を使用して出力を続行できます。

印刷レイアウト

出版環境の多くでは、デスクトップのインクジェットプリンタからオフィスのレーザープリンタやハイエンドのプレートセッタまで、さまざまな出力デバイスを使用して印刷できます。以下のトピックでは、QuarkXPressを使用した印刷方法について説明します。

画像パスの更新

QuarkXPressでは、取り込まれた画像について、低解像度と高解像度の2種類の情報が使用されます。低解像度の情報は、画像のプレビュー表示に使用します。印刷時に元の画像ファイルに含まれる高解像度の情報は、その画像へのパスを使用してアクセスできます。

画像へのパスは、画像を取り込むときに確立されます。アプリケーションは、各画像パスに関する情報と、画像の最終変更日の情報を保持します。

取り込み後に画像を移動または変更すると、**出力**コマンド（印刷、PDF、EPS、またはデジタル出力）、または**出力用ファイルの収集**コマンド（**ファイル**メニュー）を実行したときに、警告メッセージが表示されます。

➡ 画像をプロジェクトと同じフォルダに保存する場合は、画像パスを維持する必要はありません。 画像をアーティクルと同じフォルダに保存する場合は、画像パスを維持する必要はありません。アプリケーションでは、ドキュメントと同じフォルダに格納されている画像であれば、その画像が取り込み時に同じフォルダに格納されたかどうかに関係なく、常に「検索」できます。

印刷ダイアログボックスの制御に関する設定

印刷レイアウトでの印刷については、下記の手順に従ってください。

1 **ファイル > 印刷**（Command+P／Ctrl+P）を選択します。**印刷**ダイアログボックスが表示されます。

2 プリンタドライバを選択するには、**プリンタ**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。

- **（Windowsのみ）：プロパティ**ボタンをクリックすると、ダイアログボックスが開き、選択したプリンタドライバに固有のコントロールが表示されます。このダイアログボックスのオプション、またはプリンタのインストール方法についての詳細は、Microsoft Windowsソフトウェアに付属のマニュアルを参照してください。

3 以下のいずれかの方法で出力オプションを指定します。

- 既存の印刷出力スタイルを使用するには、**印刷書式**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。
- 手動で印刷オプションを構成するには、ダイアログボックス下部のコントロールを使用します。**印刷**ダイアログボックスのこの部分はいくつかのペインに分かれています。ペインを表示するには、左下のリストから名前をクリックします。詳細は、「*印刷ダイアログボックス*」を参照してください。
- 選択した印刷オプションを新しい出力スタイルとして保存するには、**印刷書式**ドロップダウンメニューから**新規印刷出力スタイル**を選択します。

4 印刷部数を指定するには、**部数**フィールドに値を入力します。

5 印刷対象のページを指定するには、**ページ**フィールドに値を入力します。印刷するページ範囲、不連続のページ、または範囲と不連続のページの組み合わせを入力することもできます。連続または不連続のページ範囲を指定するには、コンマおよびハイフンを使用します。たとえば、20ページのレイアウトがあり、3〜9ページ、12〜15ページ、および19ページを印刷する場合、ページフィールドに「3-9,12-15,19」と入力します。

6 奇数ページのみを印刷するか、偶数ページのみを印刷するか、すべてのページを印刷するかを指定するには、**ページ選択**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。**全ての**（デフォルト設定）を選択すると、関連ページがすべて印刷されます。**奇数ページ**を選択すると、奇数ページのみが印刷されます。**偶数ページ**を選択すると、偶数ページのみが印刷されます。

7 ドキュメントの印刷を拡大または縮小するには、**縮小率**フィールドに割合を入力します。デフォルトは100%です。

8 レイアウトを2部以上印刷する場合で、1部ずつページ順に出力する場合、**丁合い**チェックボックスをオンにします。**丁合い**チェックボックスをオフにすると、各ページが一度に複数部印刷されます。

9 フィルムまたは用紙に横一列にスプレッド印刷する（隣接するページを平行に印刷する）には、**スプレッド**チェックボックスをオンにします。

10 逆順で複数レイアウトを印刷するには、**逆順**チェックボックスをオンにします。レイアウトの最後のページが最初に印刷されます。

11 **印刷領域に合わせる**チェックボックスをオンにすると、選択したメディアの印刷可能領域に合わせてドキュメントでページのサイズが拡大または縮小します。

12 **（Mac OS Xのみ）：プリンタ**ボタンをクリックすると、**プリンタドライバ**ダイアログボックスが開きます。詳細は、コンピュータに付属のマニュアルを参照してください。

13 レイアウトを印刷するには、**印刷**をクリックします。

14 設定を保存しない場合、またはレイアウトを印刷しない場合は、**キャンセル**をクリックして**印刷**ダイアログボックスを閉じます。

➡ （Windowsのみ） **印刷**ダイアログボックスの右上に、ページのプレビュー領域があります。この画像を使用して、出力デバイスでのページの表示方法をプレビューできます。

➡ （Mac OS Xのみ）実際の出力が表示されるように、**印刷**ダイアログが拡張されています。

印刷ダイアログボックス

印刷ダイアログボックスのペインについては、以下のトピックで説明します。

デバイスペイン

PPDの選択やページの配置など、デバイス固有の設定を行うには、**デバイス**ペインを使用します。

- PPDを指定すると、**用紙サイズ**、**横**、および**縦**フィールドに、PPDから供給されるデフォルトの情報が自動的に入力されます。イメージセッタでPPDを選択すると、**ページ間隔**と**用紙のオフセット**フィールドも使用できるようになります。Windowsでは、**PPDマネジャー**ダイアログボックス（**補助**メニュー）を使用して、**PPD**ドロップダウンメニューで使用できるPPDのリストをカスタマイズできます。 Mac OS Xでは、MAC HD > Library > Printers > PPDsフォルダにPPDをインストールし、QuarkXPressを再起動する必要があります。これで、**印刷**ダイアログボックスのPPDリストに、すべてのPDDが表示されるようになります。適切なPPDがない場合、類似する汎用の組み込みPPDが選択されます。
- プリンタで使用するメディアのサイズを指定するには、**用紙サイズ**ドロップダウンメニューからサイズを選択します。
- プリンタでメディア縦横のサイズをカスタマイズするには、**用紙サイズ**ドロップダウンメニューから**その他**を選択し、**横**および**縦**フィールドに値を入力します。連続給紙または非ドラム式のイメージセッタに出力を送信する場合、**縦**フィールドを**自動**に設定します。
- 選択した出力メディアでドキュメントの位置を指定するには、**設定位置**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。
- 選択したPPDのデフォルトの解像度が**解像度**フィールドに自動的に入力されます。
- **イメージセッタの場合のみ**：**用紙のオフセット**フィールドに値を入力し、ページの左端がロールメディアの左端からオフセット（またはインセット）される距離を指定します。
- **イメージセッタの場合のみ**：**ページ間隔**フィールドに値を入力し、ページをロールに印刷する場合のレイアウトのページ間隔を指定します。
- ページ画像のネガを印刷する場合、**ネガ印刷**チェックボックスをオンにします。
- 出力中に報告されるPostScriptのエラー出力を受信するには、**PostScriptエラーハンドラ**をオンにします。

ページペイン

ページ方向、タイリング、ページのフリップなどの関連オプションを指定するには、**ページ**ペインを使用します。

- 縦置きモードと横置きモードのどちらで印刷するかを指定するには、**方向**ラジオボタン（**縦置き**または**横置き**）をクリックします。
- 空白のページを出力に含める場合は、**空白ページを含む**チェックボックスをオンにします。
- レイアウトの複数のページをサムネール表示（縮小）で印刷するには、サムネールチェックボックスをオンにします。
- 出力を縦と横のどちらかにフリップさせるには、**ページフリップ**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。

  セクション（タイル）に大きなレイアウトを印刷するには、**ページタイリング**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。アプリケーションでは、チェックマークと位置情報がタイルごとに印刷されるため、組み直しの場合に便利です。

- ルーラーの元の位置を指定してページのタイリング方法を制御するには、**手動**を選択します。
- アプリケーションでレイアウトのサイズ、メディアのサイズ、**絶対オーバーラップ**をオンにするかどうか、および**オーバーラップ幅**フィールドの値に応じて、各ドキュメントの印刷に必要なタイル数を決定するには、**自動**を選択します。**オーバーラップ幅**フィールドで入力する値は、アプリケーションで必要に応じてタイルを作成する場合にページの拡大に使用する値です。**絶対オーバーラップ**をオンにすると、ページを拡大してタイルを作成する場合に、アプリケーションで**オーバーラップ幅**フィールドの値のみが使用されます。**絶対オーバーラップ**をオフにすると、タイルの作成時にアプリケーションで**オーバーラップ幅**フィールドの最小値が使用されますが、より大きな値を必要に応じて使用する場合もあります。最終的な組み立てタイルの中央にレイアウトを配置する場合は、**絶対オーバーラップ**チェックボックスをオフにします。

画像ペイン

画像の印刷方法を制御するには、**画像**ペインを使用します。

- 画像の印刷方法を指定するには、**出力**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。**標準**を選択すると、画像のソースファイルのデータを使用して高解像度で画像が出力されます。**低解像度**を選択すると、画像が画面のプレビューどおりの解像度で印刷されます。**ラフ**を選択すると、画像が出力されず、フレーム付のボックスとその中の「x」がブレンドして印刷されます。そのため、画面では空の画像ボックスのように表示されます。
- 印刷データの形式を指定するには、**データ**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。バイナリ形式の場合、ドキュメントの印刷速度が上がりますが、**ASCII**オプションの方が、さまざまなプリンタやプリントスプーラで読み取り可能な標準形式であるため簡単です。**クリーン8ビット**オプションでは、ASCIIとバイナリがさまざまなポータブルファイル形式で組み合わせられます。
- （EPSファイルのオーバープリント設定に関係なく）黒の要素すべてをEPS画像に強制的に取り込んでオーバープリントさせるには、**EPSブラックのオーバープリント**チェックボックスをオンにします。
- 1ビットのTIFFをフル解像度で（**デバイス**リストアイテムで指定した解像度を超えない範囲で）印刷するには、**プリンタ解像度でTIFF出力**チェックボックスをオンにします。**プリンタ解像度でTIFF出力**チェックボックスをオフにすると、1ビットを超える画像が1インチ当たりのライン数（lpi）設定でサブサンプリングされます。

フォントペイン

出力時に含めるフォントを指定するには、**フォント**ペインを使用します。このペインのオプションの多くは、PostScript出力デバイスへの印刷時のみ使用できます。

- プリンタのPPDファイルからダウンロード済みのフォント一覧を読み取るには、**PPDフォント設定を使用**チェックボックスをオンにします。PPDファイルの一覧にあるフォントはダウンロードされません。このボックスをオンにすると、このタブにあるほかのコントロールの多くが無効になります。
- PostScriptレベル3以上の出力デバイス、またはPostScript 2バージョン2015以降を使用するデバイスに印刷する場合、**フォント形式の最適化**チェックボックスをオンにします。
- レイアウトで使用するフォントをすべてダウンロードするには、**レイアウトフォントをダウンロード**チェックボックスをオンにします。ダウンロードするフォントを制御するには、**レイアウトフォントをダウンロード**チェックボックスをオフにしてから、ダウンロードするフォントごとに**ダウンロード**チェックボックスをオンにします。**表示**ドロップダウンメニューのオプションを選択しても、一覧にあるフォントを制御できます。
- 取り込んだPDFおよびEPSファイルで必要なすべてのフォントをダウンロードするには、**インポートされたPDF／EPSフォントをダウンロード**チェックボックスをオンにします。
- アクティブなプリンタに含めるフォントのリストを取得するには、**プリンタの検索**をクリックします。このプロセスには時間がかかります。**PPDフォント設定を使用**チェックボックスをオンにして、プリンタメーカーのPPDファイルを使用しなければならない場合もあります。

カラーペイン

カラーペインを使用してカラー出力を制御します。

- 1つのページにすべてのカラーを印刷するには、**モード**ドロップダウンメニューから**コンポジット**を選択します。In-RIP分版に対応しているデバイスに印刷するには、**モード**ドロップダウンメニューから**色分解**を選択します。コンポジット出力についての詳細は、「*カラーコンポジットの印刷*」を参照してください。色分解についての詳細は、「*色分解の印刷*」を参照してください。
- 出力デバイスの出力設定を指定するには、**設定**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。カラーマネージメントについての詳細は、「*ソースセットアップおよび出力セットアップ*」を参照してください。
- デフォルトのハーフトーン図形および線数を指定するには、**ハーフトーン**および**線数**ドロップダウンメニューを使用します。**ハーフトーン**ドロップダウンメニューで**プリンタ**オプションを選択すると、出力デバイスがすべてのハーフトーン設定を決定します。

トンボペイン

切り抜きマーク、トンボ、ブリードマークなどを出力に含めるには、**トンボ**ペインを使用します。**切り抜きマーク**を選択すると、短い縦横の線がページの最終的なトリムサイズの外側に印刷されます。このマークはページの切り取り位置を示します。**トンボ**は、版のオーバーレイ調節に使用する記号です。**ブリードマーク**は、ページのブリード範囲を示します。

- 切り取りマークとトンボをすべてのページに含めるには、**モード**ドロップダウンメニューから**センター**または**オフセンター**を選択します。

- **センター**または**オフセンター**を選択すると、**幅**、**長さ**、および**オフセット**の各フィールドが使用可能になります。**幅**と**長さ**フィールドの値により、切り取りマークの幅と長さが決まります。**オフセット**フィールドの値により、ページの端から切り取りマークまでの距離が決まります。
- ブリードの位置を示すマークを含めるには、**ブリードマークを含む**オプションを選択します。

レイヤーペイン

出力するレイヤーと出力しないレイヤーを指定するには、**レイヤー**ペインを使用します。

印刷および**PDF出力**ダイアログボックスのみ：**レイヤー**ペインの設定をレイアウトに適用するには、**レイヤー属性を適用**チェックボックスをオンにします。

ブリードペイン

ブリードペインを使用すると、印刷時にアイテムをブリード（ページの端を拡大）できます。ブリード設定はレイアウト内のすべてのページに適用されます。

レイアウトページの端からどのくらいブリードを拡大するかを定義してブリードを作成するには、**ブリードの種類**ドロップダウンメニューから**均等**または**不均等**を選択します。

- 各ページの端から均等な距離で拡大してブリードを作成するには、**均等**を選択して**量**フィールドに値を入力し、ブリードの距離を指定します。
- 各ページの端から異なる距離で拡大してブリードを作成するには、**不均等**を選択して**上揃え**、**下揃え**、**左揃え**、**右揃え**の各フィールドに値を入力し、ブリードの距離を指定します。
- **印刷およびPDF出力のみ**：ページの境界を越えて広がるページアイテムをすべて囲むようにブリードを拡大するには、**ページアイテム**を選択します。
- **印刷およびPDF出力のみ**：ブリードされるアイテムをブリードの端で切り取るか、それらのアイテムをすべて印刷できるようにするかを定義するには、**ブリード限度でクリップ**チェックボックスをオンにします。

➡ **ブリード**ペインは、Custom Bleeds XTensionsソフトウェアがインストールされている場合のみ使用できます。

透明度ペイン

書き出し時の透明度の処理方法を指定するには、**透明度**ペインを使用します。

- 透明度の関係においてベクトルデータが発生した場合、そのデータを含む画像のラスタライズに使用する解像度を指定するには、**ベクトル画像**コントロールを使用します。ベクトル画像には通常細い線が含まれていて、この線が低解像度ではギザギザに見えるため、この値を高くすることをお勧めします。
- **ブレンド**コントロールでは、透明度の関係においてブレンドが発生した場合に、その解像度を指定できます。通常ブレンドには鋭角が含まれていないため、比較的低解像度でラスタライズされます。
- **ドロップシャドウ**コントロールでは、ドロップシャドウのラスタライズの解像度を指定できます。**ぼかし**なしでドロップシャドウを作成しない限り、この値は比較的小さくできます。

これらのいずれかのフィールドで低解像度の値を選択すると、平滑化に必要な時間が短縮し、レイアウトを出力へ送信する場合の処理時間も節約できます。

透明度の関係に関わる回転または傾斜しているアイテムは、RIPへ送信する前にラスタライズする必要があります。回転または傾斜の方向によっては、低解像度で行うと画質が低下する傾向があるため、QuarkXPressはこのようなアイテムをアップサンプリングしてから回転または傾斜させます。これにより画質の低下を最小限に抑えることができます。透明度の関係に伴う、回転または傾斜したアイテムおよび画像のアップサンプリングの解像度を手動で設定する場合、**回転／傾斜のアップサンプル**チェックボックスをオンにします。低解像度値を使用したために、回転または傾斜したアイテムの表示にムラができて画質が低下する場合、このチェックボックスをオンにしてから**アップサンプルの値**フィールドに値を入力します。**アップサンプルの値**フィールドの値は、**ベクトル画像**、**ブレンド**、および**ドロップシャドウ**フィールドの最大解像度の値以上である必要があります。

dpi（次よりも画像が小さい場合）フィールドでは、回転または傾斜したアイテムをアップサンプリングする上限の値を指定できます。このフィールドの目的は、**回転／傾斜のアップサンプル値**の値に近い回転または傾斜したアイテムが不要にアップサンプリングされないようにすることです。一般的にこの値は、**回転／傾斜のアップサンプル値**よりも約100dpi低く設定します。

不透明度を考慮に入れずにアイテムを印刷するには、**透明効果を無視**チェックボックスをオンにします。すべてのアイテムは、不透明度の値に関係なく100%不透明として扱われます。また、ドロップシャドウおよび画像のマスクは無視されます。このオプションは、透明度関連の出力の問題解決に役立ちます。

取り込まれたPDFファイルとAdobe Illustratorファイルで、平滑化された透明度の解像度を制御するには、**平滑化解像度**フィールドに値を入力します。

➡ フラットナは、ドロップシャドウ、ブレンド、半透明の画像、またはアルファチャンネルでマスクされた画像など、ラスター要素が領域に含まれている場合にその領域をラスタライズします。フラットナは、ソリッドカラーの領域にラスター要素が重なっていない限り、（半透明レイヤー処理の結果に関係なく）その領域はラスタライズしません。

JDFペイン

プロジェクトのジョブジャケット構造からJDFファイルを保存するかどうかを指定するには、**JDF**ペインを使用します。**JDFを出力**チェックボックスをオンにすると、**ジョブジャケットの連絡先を含める**ドロップダウンリストが使用可能になります。プロジェクトのジョブジャケット構造にある連絡先一覧から連絡先を選択します。

詳細設定ペイン

詳細設定ペインでは、出力デバイスのPostScriptレベルを指定できます。

概要ペイン

概要ペインには、他のペインの設定の概要が表示されます。

ページのプレビュー領域

Windowsでは印刷レイアウトの場合、**印刷**ダイアログボックス（**ファイル**メニュー）に**ページのプレビュー領域**という出力ページの画像があります。このページプレビュー領

域には、レイアウトページや指定したページの実際のアイテムは表示されず、ターゲットメディアとの相対関係でページの形状と方向が表示されます。

Mac OS Xでは、 **ページのプレビュー領域**が拡張されています。ページのプレビュー領域には、レイアウトページや指定したページの実際のアイテムが表示され、実際のページが表現されます。

- 青い方形はレイアウトページを表します。
- 緑の方形は選択したメディアの印刷可能領域を表します。
- 黒の方形は、**PPD**ドロップダウンメニュー（**デバイス**ペイン）から給紙デバイスを選択したときのメディア領域を表します。
- レイアウトを囲むグレイの領域は、Custom Bleeds XTensionsソフトウェア（**ブリード**ペイン）を使用してブリード設定を選択した場合のブリードを表します。
- 切り取りマークまたはブリードマークを含むページサイズが、印刷メディアの印刷可能領域よりも大きい場合、印刷可能領域の外側にあるレイアウトの赤い領域の部分が切り取られます。**ページ**ペインで**自動**タイリングを有効にすると、赤い領域が表示されません。
- Rはネガ印刷用の表示です。ページは用紙の方向とサイズに応じて回転されます。
- グラフィックプレビューの左の矢印は、フィルムまたはページの給紙方向を示します。
- グラフィックプレビューの左側に、2つの小さなアイコンがあります。カットシートアイコンは、**PPD**ドロップダウンメニュー（**デバイス**ペイン）からカットシート型の出力デバイスを選択したことを示します。一方、ロール給紙アイコンは、**PPD**ドロップダウンメニューからロール給紙型の出力デバイスを選択したことを示します。疑問符は、ページのプレビュー領域で使用する色の凡例を表示するドロップダウン形式のボタンです。
- **トンボ**ペインでトンボをオンにすると、これらもページのプレビュー領域に表示されます。
- （**ページ**ペインで）**サムネール**チェックボックスをオンにすると、プレビューがサムネールで表示されます。

色分解の印刷

色分解で印刷を行うには、下記の手順に従ってください。

1. **印刷**ダイアログボックス（**ファイル**メニュー）の**カラー**ペインを表示します。
2. **モード**ドロップダウンメニューから**色分解**を選択します。
3. **設定**ドロップダウンリストからオプションを選択します。

- **In-RIP分版**オプションを選択すると、プロセスカラーとスポットカラーの版がすべて印刷されます。この場合の出力形式はコンポジットです。ただし、印刷するPostScriptファイルには色分解の情報が含まれます。PostScriptレベル3のデバイスを使用する場合は、**In-RIP分版**オプションを選択する必要があります。また**設定**ドロップダウンメニューには、**デフォルト出力セットアップ**ダイアログボックス（**編集 > 出力セットアップ**）のリストにある色分解ベースの出力設定がすべて含まれています。

4. **ハーフトーン**ドロップダウンメニューから以下のオプションを選択します。

- 指定するハーフトーン設定を使用するには、**計算値**を選択します。

- RIPに組み込まれているハーフトーン設定を使用するには、**プリンタ**を選択します。このオプションを選択すると、このペインのハーフトーンコントロールは無効になります。

5 デフォルト以外の線数の値を指定するには、**線数**フィールドに1インチ当たりのライン数（lpi）の値を入力するか、または**線数**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。

6 **カラー**ペインの下にあるリストには、デフォルトの**ハーフトーン**、**線数**、**角度**、および**網点形状**の設定のほかに、レイアウトで使用する版が表示されます。一般的に、版のリストにあるデフォルト設定で、適切な印刷結果が得られます。ただし、これらの設定を調整しなければならない場合もあります。列のダッシュ記号は、その列のエントリが編集不可であることを示しています。

- **モード**ドロップダウンメニューから**色分解**を選択すると、**版**列のリストにドキュメントのスポットカラーとプロセスインキが表示されます。**カラー**ペインの上部にある**設定**ドロップダウンメニューで、リストに表示するレイアウト版を指定します。
- **ハーフトーン**ドロップダウンメニューでは、スポットカラーに対してさまざまな画面の角度を割り当てることができます。スポットカラーに対するデフォルトの画面の値は、**カラーの編集**ダイアログボックス（**編集 > カラー > 新規**）の**ハーフトーン**ドロップダウンメニューで指定します。
- **線数**列には、ライン画面の線数の値が表示されます。これは1インチ当たりのライン（lpi）の値で、カラー版ごとに適用されます。版のデフォルト値を使用しない場合、**線数**ドロップダウンメニューから**その他**を選択し、**線数／その他**ダイアログボックスを表示します。
- **角度**列のリストには、カラー版ごとの画面の角度が表示されます。デフォルト値を使用しない場合、**角度**ドロップダウンメニューから**その他**を選択し、**角度／その他**ダイアログボックスを表示します。
- 印刷画面で別のドット形状を指定するには、**網点形状**列のドロップダウンメニューからオプションを選択します。

カラーコンポジットの印刷

（色分解ではなく）カラーコンポジット出力で印刷するには、下記の手順に従ってください。

1 **印刷**ダイアログボックス（**ファイル**メニュー）の**カラー**ペインを表示します。

2 **モード**ドロップダウンメニューから**コンポジット**を選択します。

3 **設定**ドロップダウンリストからオプションを選択します。

- **グレイスケール**
- **グレースケール100K**
- **コンポジットRGB**
- **コンポジットCMYK**
- **コンポジットCMYKおよびスポット**（コンポジットPostScriptで印刷、In-RIP分版をサポートするデバイス向け）
- **カラー変更なし**（ソースのカラースペースを使用してカラーアイテムを描く、PostScriptコンポジットカラーデバイスへの出力向け）

また**設定**ドロップダウンメニューには、**デフォルト出力スタイル**ダイアログボックス（**編集 > 出力スタイル**）のリストにあるすべての出力スタイルが含まれています。

4 **ハーフトーン**ドロップダウンンメニューから、**計算値**または**プリンタ**を選択します。**計算値**オプションを選択すると、QuarkXPressで計算されたハーフトーンの画面の値が使用されます。**プリンタ**オプションを選択すると、選択したプリンタで指定するハーフトーン画面の値が使用されます。この場合、QuarkXPressからハーフトーンの情報が送信されません。

5 デフォルト以外の線数の値を指定するには、**線数**フィールドに1インチ当たりのライン数（lpi）の値を入力するか、または**線数**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。

レイアウトの書き出し

書き出し、**印刷**、およびその他のコマンドにより、ファイルを以下の形式で出力できます。

- 画像（PNGまたはJPEG）
- PostScript（PS）
- EPS（Encapsulated PostScript）
- PDF（Portable Document Format）、PDF/X認証ありまたはなし
- HTML（HyperText Markup Language）
- XHTML（Extensible HyperText Markup Language）
- XML（Extensible Markup Language）
- XSL（Extensible Stylesheet Language）
- XSLT（Extensible Stylesheet Language Translator）
- ePUB（詳細は、「*ePUB向けの書き出し*」を参照してください）
- Kindle（詳細は、「*Kindle向けの書き出し*」を参照してください）

書き出しのオプションにアクセスするには、**ファイル > 書き出し**を選択するか、または**書き出し**ボタンをクリックします。

アクティブなレイアウトの種類により、QuarkXPressの書き出しオプションが決まります。たとえば、印刷レイアウトを表示すると、HTML形式のウェブレイアウトを書き出すコマンド（**ファイル > 書き出し > HTML**）を使用できません。

EPS形式でのレイアウトの書き出し

EPS（Encapsulated PostScript）ファイルとしてレイアウトページを書き出すと、ファイル名と場所を指定して、（カスタムコントロールまたはEPS出力スタイルから）複数のEPS書き出しパラメータを設定できます。基本的なEPS書き出しコントロールを使用するには、下記の手順に従ってください。

1 **ファイル > 書き出し > EPS形式のページ**を選択します。**EPS形式のページ**ダイアログボックスが表示されます。

2 **ページ**フィールドにページの範囲を入力します。

3 既存の出力スタイルを使用するには、**EPSスタイル**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。

4 出力設定を変更するには、**オプション**をクリックします。書き出されたファイルの形式を制御するには、表示されるダイアログボックスのペインを使用します。

- EPS出力スタイルを使用するには、**EPSスタイル**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。現在の設定でEPS出力スタイルを作成するには、**新規EPS出力スタイル**を選択します。
- EPSファイルの大きさ、EPSファイルのプレビュー形式、データ形式（ASCII、バイナリ、またはクリーン8ビット）、EPSファイルでページの白い領域を透明にするか不透明にするか、およびEPSファイルをスプレッド印刷で出力するかどうかを指定するには、**一般**ペインを使用します。
- EPSファイルの出力設定および出力に含める版を選択するには、**カラー**ペインを使用します。
- 書き出されるEPSファイル内に埋め込むフォントを指定するには、**フォント**ペインを使用します。
- EPSファイルでトンボの位置、幅、および長さを指定するには、**トンボ**ペインを使用します。
- ブリードの種類を均等と不均等のどちらにするか、またEPSファイルの周囲のブリードの距離を指定するには、**ブリード**ペインを使用します。
- 透明度の設定をオンまたはオフにする場合、またEPSファイルで平滑化されたアイテムの解像度を制御するには、**透明度**ペインを使用します。
- EPSファイルの作成と同時にJDF（Job Definition Format）ファイルを作成するかどうかを指定するには、**JDF**ペインを使用します。このオプションを選択するのは、JDFワークフローでジョブジャケットを使用する場合です。
- EPSをPostScriptレベル2またはPostScriptレベル3のどちらに準拠させるかを選択するには、**詳細設定**ペインを使用します。
- **概要**ペインには、前のペインで行ったすべての選択について、概要が表示されます。

5 **OK**をクリックします。EPSファイルを作成せずに現在の設定を保存するには、**保存して閉じる**をクリックします。

6 **保存**をクリックします。

PDF形式でのレイアウトの書き出し

PDF形式でアクティブなレイアウトを書き出すには、下記の手順に従ってください。

1 **ファイル > 書き出し > PDF形式のレイアウト**を選択します。**PDFとして書き出し**ダイアログボックスが表示されます。

2 **ページ**フィールドにページの範囲を入力します。

3 既存の出力スタイルを使用するには、**PDFのスタイル**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。

4 出力設定を変更するには、**オプション**をクリックします。書き出されたファイルの形式を制御するには、表示されるダイアログボックスのペインを使用します。

- PDFの出力スタイルを使用するには、**PDFのスタイル**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。現在の設定を使用してPDFの出力スタイルを作成するには、**新規PDF出力スタイル**を選択します。
- PDF/X認証を使用するには、**認証**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。使用可能なオプションは、**PDF/X 1a**および**PDF/X 3**です。**PDF/X 1a**認証の場合、使用できるのはCMYKおよびスポットカラーのみですが、**PDF/X 3**の場合、他のカラースペースを使用する色および画像と、ICCカラープロファイルを使用できます（これらはカラーマネージメントのソースおよび出力セットアップで定義されます）。
- コンポジット出力または色分解のどちらを作成するかを指定する、PDFファイルの出力セットアップを選択する、および出力に含める版を選択するには、**カラー**ペインを使用します。
- PDFファイルのさまざまな画像タイプの圧縮オプションを指定するには、**圧縮**ペインを使用します。
- スプレッドで書き出すかどうか、各ページを個別のPDFファイルとして書き出すかどうか、空白ページを含めるかどうか、およびPDFファイルのサムネールを埋め込むかどうかを指定するには、**ページ**ペインを使用します。
- PDFファイルでトンボの位置、幅、および長さを指定するには、**トンボ**ペインを使用します。
- レイアウト書き出しのリンクおよびリストの方法、およびハイパーリンクをPDFに表示する方法を指定するには、**ハイパーリンク**ペインを使用します。また、このペインを使用してPDFファイルのデフォルトの表示倍率を指定できます。
- Adobe Acrobat Readerの**文書のプロパティ**ダイアログボックスにある**詳細設定**タブで詳細情報を表示するには、**メタデータ**ペインを使用します。
- 書き出されるPDFファイル内に埋め込むフォントを指定するには、**フォント**ペインを使用します。
- PDFファイルでブリードの処理方法を指定するには、**ブリード**ペインを使用します。
- PDFファイルに含めるレイヤーや、QuarkXPressレイアウトでレイヤーからPDFレイヤーを作成するレイヤーを指定するには、**レイヤー**ペインを使用します。
- 透明アイテムを平滑化する方法を制御するには、**透明度**ペインを使用します。平滑化を無効にし、書き出されるPDFで透明度の関係を維持するには、**ネイティブの透明度で書き出し**をクリックします。不透明度を考慮に入れずにアイテムを出力するには、**透明度を無視**をクリックします。平滑化をオンにするには、**透明度を平滑化**をクリックします。

  平滑化をオンにした場合、透明度の関係にベクトルデータを含む、画像のラスタライズに使用する解像度を指定できます。これを行うには、**ベクトル画像**ドロップダウメニューをクリックしてdpiの値を選択または入力します。この制御は平滑化をオンにした場合にのみ適用されます。

  平滑化がオンであるかどうかに関係なくブレンドの解像度を指定するには、**ブレンド**ドロップダウメニューをクリックしてdpiの値を選択または入力します。平滑化がオンであるかどうかに関係なくドロップシャドウのラスタライズの解像度を指定するには、**ドロップシャドウ**ドロップダウメニューをクリックしてdpiの値を選択または入力します。

平滑化をオンにした場合に、回転または傾斜したオブジェクトの解像度を指定するには、**回転／傾斜のアップサンプル**をクリックして**アップサンプルの値**フィールドに値を入力します。**アップサンプルの値**フィールドの値は、**ベクトル画像**、**ブレンド**、および**ドロップシャドウ**フィールドの最大解像度の値以上である必要があります。

取り込まれたPDFファイルとAdobe Illustratorファイルで、平滑化された透明度の解像度を制御するには、**平滑化解像度**フィールドに値を入力します。

➡ **認証**ドロップダウンメニューから、**PDF/X−1a：2001**または**PDF/X−3：2002**を選択した場合は、**ネイティブの透明度で書き出し**は使用できません。この機能は、**カラー**ペインの**モード**ドロップダウンメニューから**色分解**を選択した場合も使用できません。

- PDFファイルの作成と同時にJDF（Job Definition Format）ファイルを作成するかどうかを指定するには、**JDF**ペインを使用します。このオプションを選択するのは、JDFワークフローでジョブジャケットを使用する場合です。
- 選択したPDF書き出しオプションの概要を表示するには、**概要**ペインを使用します。

5 **OK**をクリックします。（PDFファイルを作成せずに現在の設定を保存するには、**保存して閉じる**をクリックします）。

6 **保存**をクリックします。

➡ サードパーティ製のディスティラープログラムを使っていて、PostScriptファイルを作成する場合、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**PDF**ペインで設定を変更します。詳細は、「*環境設定 - アプリケーション - PDF*」を参照してください。

PostScriptファイルの作成

PostScriptファイルをレイアウトから作成するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集 > 環境設定**）の**PDF**ペインを表示して、**PostScriptファイルを一時作成**チェックボックスをオンにします。**ファイル > 書き出し > PDF形式のレイアウト**を選択すると、PDFファイルが作成されるのではなく、QuarkXPressにより、ユーザが指定した名前と場所にPostScriptファイルが生成されます。

レイアウトを画像として書き出す

レイアウトページを画像ファイルとして書き出すとき、ファイル名と場所を指定し、各種の画像書き出しオプションを設定できます。 レイアウトを画像として書き出すには、下記の手順に従ってください。

1 **ファイル > 書き出し > 画像**を選択します。 **ページを画像として書き出し**ダイアログボックスが表示されます。

2 **ファイル名**ドロップダウンメニューから、書き出すレイアウトを選択します。

3 出力設定を変更するには、**オプション**をクリックします。 書き出される画像の形式を設定するには、表示されるダイアログボックスのペインを使用します。

- **解像度**フィールドに値を入力します。
- **フォーマット**ドロップダウンメニューから、画像フォーマット（PNGまたはJPEG）を選択します。

- **圧縮**ドロップダウンメニューから、圧縮の値を選択します。
- **透明バックグラウンド**を選択すると、画像のバックグラウンドが透明になります。
- スプレッドを書き出すには、**スプレッド**を選択します。
- 画像に画面ガイドを含めるには、**ガイドを含める**を選択します。
- 画像にテキストグリッドを含めるには、**テキストグリッドを含める**を選択します。

4 OKをクリックします。

5 **保存**をクリックします。

出力ファイルの収集の使用

出力ファイルの収集機能を使用するには、下記の手順に従ってください。

1 使用可能なすべてのフォントを確認するには、**使用状況**ダイアログボックス（**補助**メニュー）の**フォント**ペインを表示します。**使用状況**ダイアログボックスの**画像**ペインで、取り込まれた画像がすべてドキュメントにリンクされていて、ステータスがOKと表示されていることを確認します。

2 **ファイル > 出力ファイルの収集**を選択します。**出力ファイルの収集**ダイアログボックスが表示されます。

3 **出力ファイルの収集**タブが表示されます。この機能を使用する場合、レポートが自動的に生成されます。このレポートのみを生成するには、**出力ファイルの収集**タブで**レポートのみ**チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにすると、以下のボックスのいずれかをオンにすることができます。

- **レイアウト**オプションを選択すると、プロジェクトファイルが指定したターゲットフォルダにコピーされます。
- **リンク画像**オプションを選択すると、取り込まれた画像ファイルがコピーされます。この画像ファイルは、高解像度出力用にドキュメントへのリンクを維持する必要があります。QuarkXPressでこのドキュメントにより画像を収集する場合、収集された画像へのパスが更新され、新しいファイルの格納場所が反映されてターゲットフォルダ内の"画像"フォルダになります。
- **カラープロファイル**オプションを選択すると、ドキュメントまたは取り込んだ画像に関連付けられたICC（International Color Consortium）プロファイルがコピーされます。
- **（Mac OS Xのみ）：スクリーンフォント**オプションを使用すると、ドキュメントの表示に必要なスクリーンフォントがコピーされます。
- **（Mac OS Xのみ）：プリンタフォント**オプションを使用すると、ドキュメントの印刷に必要なプリンタフォントがコピーされます。
- **（Windowsのみ）：フォント**オプションを使用すると、ドキュメントの印刷に必要なフォントがコピーされます。

➡ Mac OS Xでは、TrueTypeフォントがスクリーンフォントとプリンタフォントの両方として機能します。ドキュメントでTrueTypeフォントのみを使用する場合、**スクリーンフォント**または**プリンタフォント**チェックボックスをオンにすると、QuarkXPressによりそれらのフォントが収集されます。ドキュメントでTrueTypeフォントとType 1フォン

トの組み合わせを使用する場合、**スクリーンフォント**と**プリンタフォント**の両方のチェックボックスをオンにして、Type 1フォントが完全に収集されたことを確認します。

4 **保存**をクリックします。

➡ フォントの収集を選択した場合、それらのフォントがコンピュータで有効であれば、QuarkXPressでも取り込まれたEPSファイル内でフォントが収集されます。

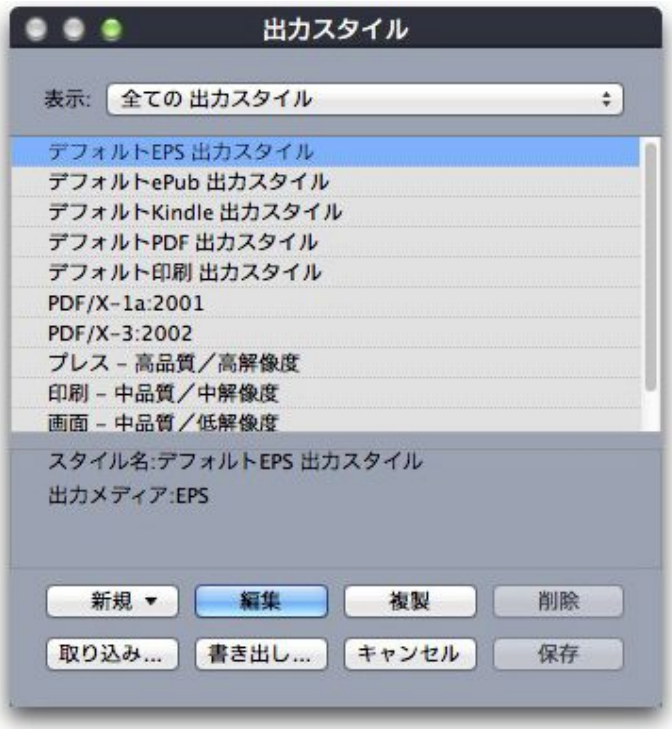
➡ 出力ファイルの収集機能は、App Studioの発行物のフォーマットに書き出すためにカスタマイズされたレイアウトで使用することを考慮した設計ではありません。この機能をそれらのレイアウトで使用することはできますが、App Studioのインタラクティブ機能で使用されるアセットがすべて収集されるとは限りません。また、レイアウトファミリーのレイアウトもすべて収集されるとは限りません。

出力スタイルの使用

出力スタイルを使用すると、印刷、PDF、ePUB、Kindle、およびEPS形式の出力に関する設定を保存できます。出力スタイルを使用できるのは、**ファイル > 印刷**、**ファイル > 書き出し > PDF形式のレイアウト**、**ファイル > 書き出し > プロジェクトとしてレイアウトを書き出し**、**ファイル > 書き出し > EPS形式のページ**、**ファイル > 書き出し > ePub形式のリフロー**、および**ファイル > 書き出し > Kindle形式のリフロー**のいずれかのコマンドを使用した場合です。 QuarkXPressには、すべての出力オプションのデフォルト設定が含まれています。これらの設定は、必要に応じたカスタマイズの基礎となります。または、出力スタイルを最初から作成することもできます。

出力スタイルの作成については、下記の手順に従ってください。

1 **編集 > 出力スタイル**を選択します。**出力スタイル**ダイアログボックスが表示されます。



出力スタイルを作成、取り込み、書き出し、編集、または削除するには、**出力スタイル**ダイアログボックスを使用します。

2 **新規**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。

3 **名前**フィールドに出力スタイルの名前を入力します。

4 各ペインで設定を指定します。EPSオプションについての詳細は、「*EPS形式でのレイアウトの書き出し*」を参照してください。PDFオプションについての詳細は、「*PDF形式でのレイアウトの書き出し*」を参照してください。ePUBのオプションの詳細は、「*ePUB向けの書き出し*」を参照してください。Kindleのオプションの詳細は、「*Kindle向けの書き出し*」を参照してください。

5 **OK**をクリックします。

6 **保存**をクリックします。

トラップの使用

オーバープリントやノックアウトは**カラー**パレットで制御できます。

平滑化の理解と製品の問題点

平滑化とは、ページ要素を変更して目的のデザインを生成することにより透明度をシミュレーションするプロセスです。平滑化が発生するのは、印刷エンジンにアイテムがフィードされるなど、印刷ストリームのみです。そのため、QuarkXPressのレイアウトが実際に変更されることはありません。QuarkXPressの平滑化の仕組みは以下のとおりです。

まず、ボックスが分解されて透明度の要素が識別されます。その後不連続な形状（テキストのアウトラインを含む）の関係が分解されます。ラスタライズされない領域に、既

存の色を融合して作成される新しい色が入力されます（不透明度なしおよび0%の領域は、ブレンドや画像で使用しない限り平滑化する必要はありません）。

ラスタライズの必要がある領域により、クリッピングパスが作成されます（ページ要素に重なっている半透明画像、ドロップシャドウ、半透明ブレンド、および半透明アイテムはラスタライズする必要があります）。

印刷ダイアログボックス（**ファイル**メニュー）の**透明度**ペインの設定により、透明度の効果またはドロップシャドウによりラスタライズされるページ要素の出力解像度が制御されます。詳細は、「*透明度ペイン*」を参照してください。

一般的に、透明度の関係を使用する場合、トラップは不要です。トラップが実際に作用すると、不透明アイテムのオーバープリントを分解により作られたパスが受け継ぎます。透明度の要素に対するチョークやスプレッドの設定は無視されます。分解により作成されるその他のアイテムは、すべてノックアウトに設定され、ホストベースの分版中にデフォルトのQuarkXPressトラップを通じて送信されます。

PDFを書き出す場合、透明度の関係にあるアイテムの平滑化、ネイティブPDFの透明度の使用のいずれかを選択できます。ネイティブPDFの透明度とともにPDFを書き出す場合、透明度の関係にあるベクトル画像はベクトルフォーマットのまま残ります。これによって出力が早くなり、カラーマネージメントも簡単になります。

ノート

ノート機能を使用して、実際のプロジェクトのコンテンツに影響を与えることなく、プロジェクトにコメントを保存できます。 ノートを使用してコンテンツに警告やコメントを追加したり、プロジェクトにURLを追加したりできます。 開いたノートはハードコピーに張り付ける付箋のように見えます。

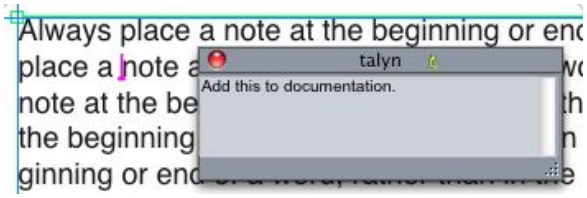
ノート機能を使用するには、Notes XTensionsソフトウェアがインストールされている必要があります。

Quark Publishing Platformで使用する場合、ノート機能ではQuark Publishing Platformで定義済みの設定が使用されます。 詳細は、『**A Guide to Quark Publishing Platform**』を参照してください。

ノートの作成

ノートを操作するには、まず**表示 > ノートの表示**を選択してノートが表示されていることを確認します（このメニューアイテムが**ノートを非表示にする**と表示されていれば、ノートがすでに表示されています）。このオプションをオフにすると、テキストでノートアイコンが表示されなくなり、ノートを操作するメニューアイテムが無効になります。

ノートを作成するには、ノートを入力するテキスト挿入ポイントの場所を指定し、**編集 > ノート > 挿入**を選択します。**ノート**アイコンがテキスト挿入ポイントの右側に表示され、ノートウィンドウが表示されます。ノートのテキストをノートウィンドウに入力します。



ノートを使用してプロジェクトにコメントを保存できます。

ノートは常に、単語の途中ではなく前後に配置します。 ノートを単語の途中に配置すると、ノートを含む非表示のテキストによって単語が分割され、単語のスペルチェックまたはワードカウントを実行するときに、QuarkXPressでそのテキストが2つの単語として扱われる原因となります。

実際、**ノート**アイコンは特殊なテキスト文字です。ノートアイコンはテキストフローに影響しませんが、別の方法で通常のテキスト文字のような動作をします。たとえば、**ノート**

アイコンを含むテキストの範囲を選択してから文字入力を開始すると、**ノート**アイコンを含むテキストが入力した文字に置き換わり、ノートが失われてしまいます。

ノートの書式を変更するには、**ノート**環境設定を使用します。 詳細は、「*環境設定 - アプリケーション - ノート*」を参照してください。

ノートの使用

編集 > ノートサブメニューのコマンドを使用して、ノートからノートに移動し、個々のノートを作成および削除し、プロジェクト内のすべてのノートを開いたり閉じたりすることができます。

ノートの開始と終了

ノートをレビューコメントとして開いたり閉じたりするには、下記の手順を実行します。

- 既存のノートを開くには、**ノート**アイコンをクリックして、**編集 > ノート > ノートを開く**を選択します。
- プロジェクトのすべてのノートを開くには、**編集 > ノート > すべてのノートを開く**を選択します。
- ノートを閉じるには、ノートウィンドウの左上隅（Mac OS X）または右上隅（Windows）の閉じるボックスをクリックするか、または**編集 > ノート > ノートを閉じる**を選択します。
- プロジェクトの開いているすべてのノートを閉じるには、**編集 > ノート > すべてのノートを閉じる**を選択します。
- テキスト挿入ポイントをテキスト内の次のノートへ移動させるには、**編集 > ノート > 次へ進む**を選択します。テキスト挿入ポイントをテキスト内の前のノートへ移動させるには、**編集 > ノート > 前へ戻る**を選択します。

ノートの表示および非表示

非表示のノートを表示するには、**表示 > ノートの表示**を選択します。表示されているノートを非表示にするには、**表示 > ノートを非表示にする**を選択します。

ノートの削除

ノートを削除するには、下記のいずれかを実行します。

- **ノート**アイコンをクリックしてから、**編集 > ノート > 削除**を選択します。
- 開いているノートウィンドウをクリックしてから、**編集 > ノート > 削除**を選択します。
- ノートアイコンの右側にテキスト挿入バーを配置して、DeleteキーまたはBackspaceキーを押します。
- ノートアイコンを含むテキストの範囲を選択して、DeleteキーまたはBackspaceキーを押します。

ノートおよびテキストの相互変換

選択したテキストをノートに変換するには、 **編集 > ノート > 選択をノートに変換**を選択します。

作成者、日付、名前、または色別のノートの表示

特定の作成者別または作成された日付別にノートを表示するには、**表示 > ノートの表示**を選択してノートを有効にし、**編集 > ノート > ノートを開く（条件指定）・・・**を選択して**開いたノート**ダイアログボックスを表示し、**すべてのノート**をクリックして、**すべてのノート**領域のコントロールを使用します。

名前別または色別にノートを表示するには、 **編集 > ノート > 新規ドキュメント内のすべてのノートを開く** を選択して、**名前別**サブメニューまたは**色別**サブメニューからオプションを選択します。 ノートがテキストとして新規プロジェクトに表示されます。

ノートの移動とサイズ変更

ノートウィンドウを移動するには、タイトルバーをドラッグします。 ノートウィンドウはプロジェクトアーティクル内のどこにでも移動できます。移動されたノートを元の場所に戻すには、↵ボタンをクリックします。

ノートのサイズを変更するには、ノートウィンドウの右下にあるサイズ変更ボックスをクリックしてドラッグします。 Mac OS Xでは、ノートウィンドウの右上隅にあるアイコンをクリックしてノートウィンドウのサイズを変更し、ノートのテキストをすべて表示することもできます。

ノートの印刷

プロジェクトを印刷するとき、ノートを含めるかどうか、およびどのようなフォーマットにするかを選択できます。**印刷**ダイアログボックス（**ファイル**メニュー）で左のリストにある**ノート**をクリックすると、**ノート**ペインが表示されます。次に**ノートを印刷**をオンにして、出力にノートを含めます。 すべてのノートを含めるか、開いているノートのみを含めるかを選択できます。

PDFのノート

ノートを含むプロジェクトからPDFを作成する場合、PDFでノートを表示するかどうかを選択できます。ノートがPDFノートとして含まれます。

ノートをPDFファイルに含めるには、**PDFとして書き出し**ダイアログボックス（ **ファイル > 書き出し > PDF形式のレイアウト** ）の**オプション**をクリックし、左側に表示されるリストの**ノート**をクリックして、**PDFにノートを含める**をオンにします。

変更履歴

ドキュメントの確認環境では、管理編集者やコピー編集者などの確認者がプロジェクトに変更を加えます。 変更履歴はそれらの変更点を追跡するための機能で、これにより執筆者、編集者、プロジェクトマネジャー、および他のユーザーは、プロジェクトの変更内容を確認し、その変更が適切かどうかを判断できます。 変更履歴機能を使用して、プロジェクトに加えられた挿入や削除の部分を参照し、その変更を受け入れるか拒否するかを決定できます。

➡ 変更履歴機能を使用するには、Redline XTensionsソフトウェアがインストールされている必要があります。

➡ Quark Publishing Platform®で使用する場合、変更履歴機能ではQuark Publishing Platformで定義済みの設定が使用されます。 詳細は、『**A Guide to Quark Publishing Platform**』を参照してください。

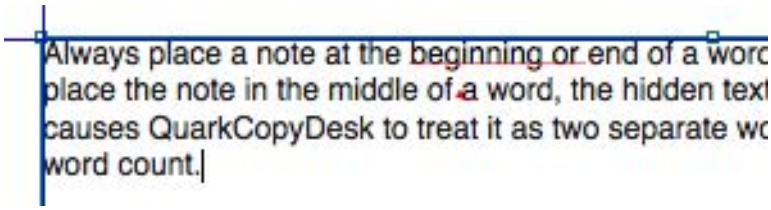
トラッキングの切り替え

トラッキングをオンにするには、下記のいずれかを実行します。

- **補助 > 変更履歴 > トラッキングする**がオンになっていることを確認します。
- **変更履歴**ツールバー（**補助 > 変更履歴 > ツールバーを表示する**）を表示し、**トラッキングする**ボタンをクリックします。

変更履歴ツールバーを使用して、トラッキングのオンとオフを切り替えることができます。

トラッキングをオンにすると、QuarkXPressは、アクティブなプロジェクトのテキストに加えられるすべての変更をトラッキングします。削除されたテキストは表示されませんが、削除内容は引き続きトラッキングされます。



変更履歴機能を使用して、自分が行った変更をトラッキングできます。

➡ フォーマットの変更はトラッキングされません。

トラッキングされた変更内容の表示

すべてのトラッキングされた変更内容を表示するには、下記のいずれかを実行します。

- **補助 > 変更履歴 > ハイライトする**がオンになっていることを確認します。
- **変更履歴**ツールバー（**補助 > 変更履歴 > ツールバーを表示する**）を表示し、**ハイライトする**ボタンをクリックします。

コンポーネントに対する変更内容の中では、**変更履歴**ツールバーのナビゲーションボタン（**前へ**および**次へ**）を使用して移動できます。

表示される変更の種類を指定するには、**変更履歴**ツールバーの**表示オプション**をクリックします。**表示オプション**ダイアログボックスが表示されます。**ハイライトする**ドロップダウンメニューでは、**挿入個所のみ**、**削除個所のみ**、または**挿入個所と削除個所**を表示するように選択できます。**確認者を選択**リストを使用して特定の確認者によって加えられた変更内容のみを表示したり、**すべて**をオンにしてすべての確認者による変更内容を表示したりできます。

表示オプションダイアログボックスを使用して、どの確認者の編集内容を表示するか指定したり、挿入個所、削除個所、またはその両方を表示するように指定したりできます。

➡ ハイライト表示されるのは、**トラッキングする**が有効になっている間にコンポーネントに対して行われた挿入個所と削除個所だけです。

変更内容のトラッキングフォーマットのアピアランスを変更するには、**アプリケーション環境設定**ダイアログボックス（**編集 > 環境設定**）の**変更履歴**ペインのコントロールを使用します。

変更内容の同意および拒否

挿入に同意すると、ハイライトが削除され、コンポーネントのコンテンツにテキストが追加されます。削除に同意すると、コンポーネントからコンテンツが削除されます。変更内容に同意するには、変更対象のテキストを選択し、**同意する**ドロップダウンメニュー（**変更履歴**ツールバー）からオプションを選択します。

- **変更内容に同意する**： 選択された変更を受け入れます。
- **表示されているすべての変更内容に同意する**： コンポーネント内でハイライトされているすべての変更を受け入れます。
- **すべての変更内容に同意する**： レビューアによって行われたすべての変更を受け入れます。

挿入を拒否すると、コンポーネントからテキストが削除されます。削除を拒否すると、ハイライトが削除され、テキストが通常のテキストとしてコンポーネントに残されます。変更内容を拒否するには、変更対象のテキストを選択し、**拒否**ドロップダウンメニュー（**変更履歴**ツールバー）からオプションを選択します。

- **変更内容を拒否する**： 選択された変更を拒否します。
- **表示されているすべての変更内容を拒否する**： コンポーネント内でハイライトされているすべての変更を拒否します。
- **すべての変更内容を拒否する**： レビューアによって行われたすべての変更を拒否します。

グループ作業およびシングルソース

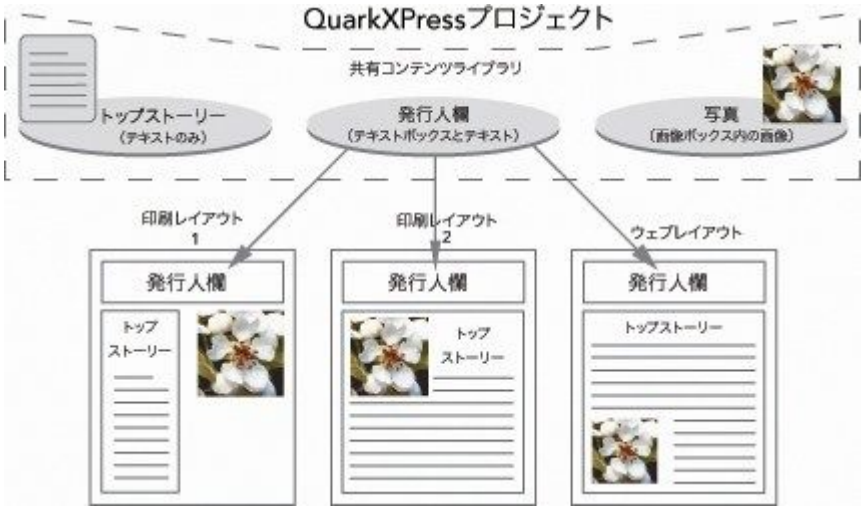
同期機能を使用すると、複数のチャンネルを介して複数のフォーマットで配布する同一の情報を簡単にパッケージ化できます。印刷するのかウェブ上で公開するのかなど、メディアに応じてデザインをカスタマイズできるだけでなく、複数のレイアウトサイズを含むプロジェクトを作成することもできます。特に、任意の種類のレイアウト間でコンテンツを自動的に同期することによって、作業を合理化できます。

共有コンテンツの使用

複数の場所にある同じコンテンツをまったく同一に維持する必要のあるプロジェクトを使用したことがあるユーザーであれば、ある程度のリスクが伴うことは理解しているでしょう。ドキュメントの印刷バージョンが更新されても、ウェブバージョンが更新されない場合はどうなるのでしょうか。この問題を解消するために、QuarkXPressには**共有コンテンツ**機能が含まれています。この機能では、プロジェクトファイル内で異なる場所に使用されているコンテンツをリンクできます。コンテンツのコピーが変更されると、その他のコピーは、それらの変更を反映するように、ただちに自動的に更新されます。

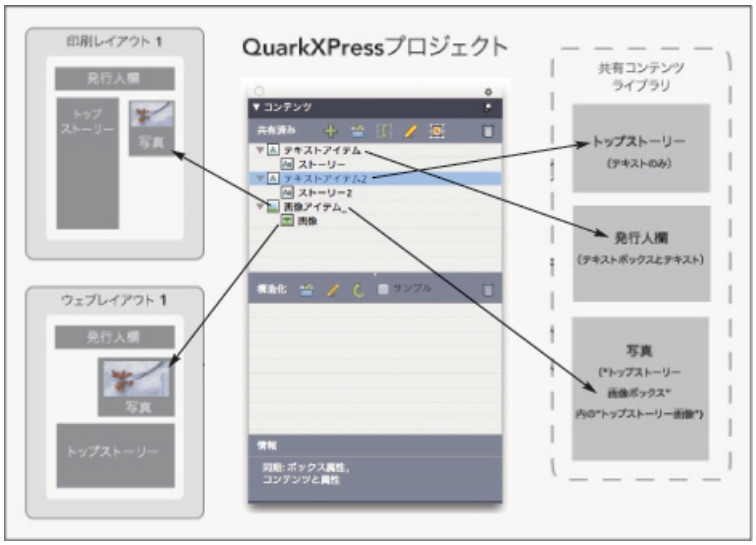
ほとんどの同期アイテムについて、**共有コンテンツライブラリ**と呼ばれるプロジェクトファイルの表示されない領域で、マスターバージョンを管理しています。レイアウト内の任意の同期アイテムに変更を適用すると、まずその変更は共有コンテンツライブラリ内のマスターバージョンに書き込まれます。その後、プロジェクト内の対象アイテムのすべての同期コピーにその変更が反映されるように、QuarkXPressによって更新されます。つまり、アイテムAを更新すると、アイテムBは共有コンテンツライブラリのマスターアイテムを介して自動的に更新され、アイテムBを更新すると、同様にアイテムAが更新されます。

共有コンテンツライブラリは、画像、ボックス、ライン、フォーマットおよびフォーマットなしテキスト、一連のテキストボックス、グループ、およびコンポジションゾーンを格納できます。共有コンテンツライブラリに何かを追加すると、ユーザーは、そのコンテンツまたはアイテムのどの部分を**同期し**（すべてのインスタンスを同一に維持）、どの部分を**同期しない**かを制御できます。



共有コンテンツライブラリには、プロジェクト内の異なるレイアウトで使用できるテキスト、画像、ライン、コンポジションゾーン、およびアイテムが含まれます。レイアウトで共有コンテンツライブラリアイテムのインスタンスを変更すると、これらのインスタンスは共有コンテンツライブラリのマスターバージョンにリンクされているため、すべてのレイアウトにあるすべてのインスタンスは自動的に更新されます。

共有コンテンツライブラリのアイテムは、**コンテンツ**パレットに表示されます。下記に示すとおり、このパレットを使用して、異なるレイアウト間でコンテンツを複製して同期できます。



共有コンテンツライブラリのアイテムには、**コンテンツ**パレットからアクセスできます。ここでは、「印刷レイアウト1」は、「トップストーリー画像ボックス」と画像ボックス内の画像を使用していますが、「ウェブレイアウト」は、画像そのもののみを使用しています（より大きな画像ボックス内）。いずれかのレイアウトで画像が変更されると、両方のレイアウトは自動的に更新されます。

単一プロジェクトに異なるタイプのレイアウトを含める方法についての詳細は、「*プロジェクトとレイアウト*」を参照してください。

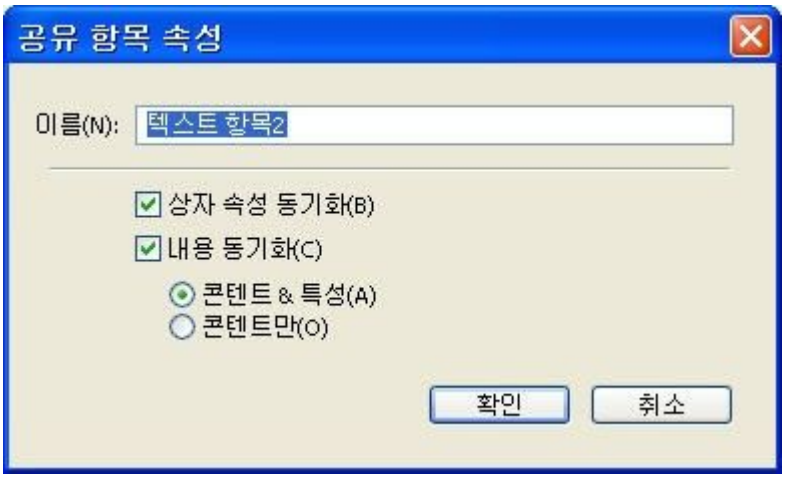
コンテンツの共有および同期

ボックス、ライン、グループ、コンテンツの共有および同期については、下記の手順に従ってください。

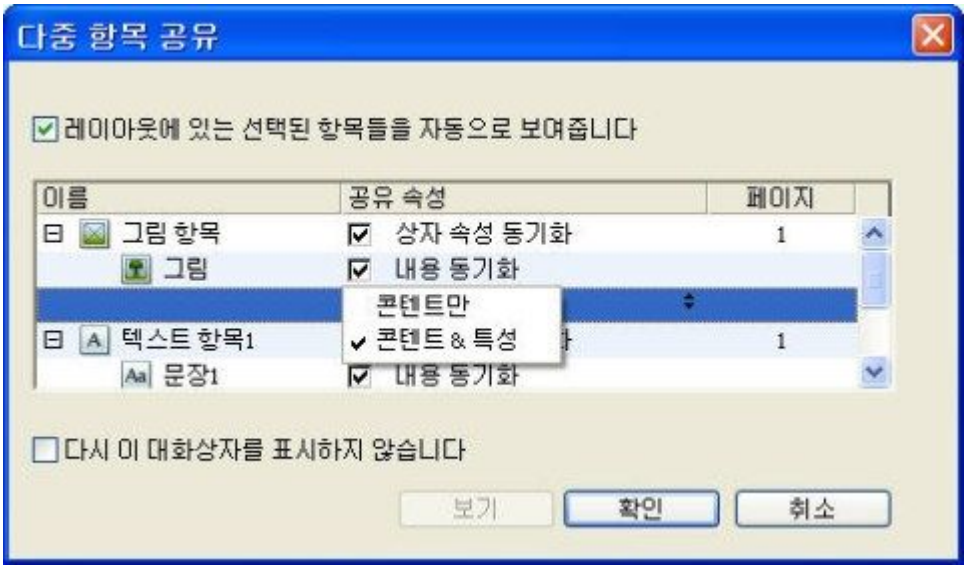
1 **ウィンドウ**メニューで、**コンテンツ**パレットを表示します。

2 同期するアイテムを選択します。

3 **コンテンツ**パレットで、**アイテムの追加**をクリックします。1つのアイテムが選択されると、**共有アイテムのプロパティ**ダイアログボックスが表示されます。複数のオブジェクトが選択されると、**複数アイテムの共有**ダイアログボックスが表示されます。



共有アイテムのプロパティダイアログボックスを使用して、個々のアイテムを共有および同期します。



複数アイテムの共有ダイアログボックスを使用して、複数のアイテムを共有および同期します。

➡ **選択したアイテムをレイアウトに自動表示**をオンにしている場合、リスト内のアイテムの名前をクリックして、そのアイテムにナビゲートできます。

➡ 共有されたラインの属性のみが同期されます。

4 選択されたアイテムの特徴を共有するには、対象のアイテムの**ボックス属性を同期**をオンにします。

5 選択されたアイテムのテキストまたは画像を共有するには、対象のボックスの**コンテンツの一致**をオンにします。テキストまたは画像とそれぞれのフォーマットを共有するには、**コンテンツと属性**をクリックまたは選択します。テキストまたは画像のみを共有するには、**コンテンツのみ**をクリックまたは選択します。ボックスおよびコンテンツのオプションについての詳細は、「*同期オプションの理解*」を参照してください。

6 OKをクリックして、選択したアイテムを**コンテンツ**パレットに追加します。

共有コンテンツライブラリのアイテムおよびコンテンツには、**コンテンツ**パレットからアクセスできます。

同期オプションの理解

コンテンツパレットにアイテムおよびコンテンツを追加する場合、**共有アイテムのプロパティ**ダイアログボックスでさまざまな同期オプションを選択できます。

- ボックスまたはパス自身を同期せずに、選択されたテキストボックス、テキストパス、または画像ボックスのコンテンツを同期するには、**ボックス属性を同期**をオフにし、**コンテンツの一致**をオンにします。この方法で同期されたテキストをテキストボックスまたはパスにドラッグし、画像を画像ボックスにドラッグする必要があります。
- テキストや画像およびそのコンテンツ属性（テキストのフォーマットおよび画像の比率、回転、効果など）は、**コンテンツと属性**をクリックまたは選択して同期できます。
- **コンテンツのみ**をクリックまたは選択すると、固有のコンテンツ属性の編集を許可した状態で、テキストまたは画像を同期できます。これを行うと、プロジェクトの異なる部分に、テキストまたは画像を別々にフォーマットできます。ただし、1つの位置でテキストの編集または画像の更新を行うと、その変更はすべてに適用されます。
- コンテンツを**同期せずに**テキストボックス、テキストパス、画像ボックス、およびその属性を同期するには、**ボックス属性を同期**をオンにし、**コンテンツの一致**をオフにします。たとえば、テキストまたは画像ボックスでこの操作を行い、そのボックスから2つのコピーをドラッグするとします。この後で、コピーしたボックスの1つのサイズを変更し、フレームを追加すると、もう1つのボックスも自動的にサイズ変更され、同じフレームが追加されます。ただし、各ボックスに異なるコンテンツを取り込むことができます。

アイテム属性、コンテンツ、およびコンテンツ属性を同期するには、**ボックス属性を同期**および**コンテンツの同期**をオンにし、**コンテンツと属性**をクリックまたは選択します。この方法で2つのボックスを同期すると、片方に適用される変更（ボックスのサイズ、コンテンツ、およびフォーマットへの変更を含む）は、自動的にもう一方にも適用されます。

同期アイテムの配置

同期アイテムまたはグループの配置については、下記の手順に従ってください。

1. **コンテンツ**パレットで、ターゲットのエントリを選択します。
2. **コンテンツ**パレットのエントリを、ページにドラッグします。

同期コンテンツの配置

同期コンテンツの配置については、下記の手順に従ってください。

1. テキストボックス、テキストパス、または画像ボックスを選択します。
2. **コンテンツ**パレットでテキストまたは画像コンテンツのエントリを選択し、**挿入**をクリックします。アイテムのサイズ変更ハンドルが同期シンボルに変化します。また、**コンテンツ**パレットから、アクティブなテキストボックス、テキストパス、または画像ボックスに、テキストまたは画像のエントリをドラッグできます。

   また、**コンテンツ**パレットから、アクティブなテキストボックス、テキストパス、または画像ボックスに、テキストまたは画像のエントリをドラッグできます。

共有コンテンツライブラリへのコンテンツの取り込み

テキストまたは画像ボックスにテキストまたは画像を取り込む方法の他に、**コンテンツ**パレットに直接コンテンツを取り込む方法が2つあります。

グループ作業設定ダイアログボックスを使用したコンテンツの取り込みについては、下記の手順に従ってください。

1. プロジェクトがアクティブな状態で、**ファイル > グループ作業設定**を選択します。**グループ作業設定**ダイアログボックスの**コンテンツ**タブと、**コンテンツ**パレットに、共有コンテンツが表示されます。

グループ作業設定ダイアログボックスの**コンテンツ**タブ

2 **テキストの取り込み**をクリックして、**テキストの取り込み**ダイアログボックスを表示します。テキストファイルを選択して、**開く**をクリックします。**共有アイテムのプロパティ**ダイアログボックスのコントロールを使用して、コンテンツと属性の共有方法を指定します。

3 **画像の取り込み**をクリックして、**画像の取り込み**ダイアログボックスを表示します。画像ファイルを選択して、**開く**をクリックします。**共有アイテムのプロパティ**ダイアログボックスのコントロールを使用して、コンテンツと属性の共有方法を指定します。

また、**コンテンツ**パレットの**取り込み**ボタンを使用して、コンテンツを取り込むこともできます。ただし、このボタンは、**コンテンツ**パレットでテキストコンテンツアイコンAaまたは画像コンテンツアイコンが選択されている場合にのみ使用できます。この方法で取り込まれたテキストは、プロジェクトファイルに埋め込まれており、ソーステキストファイルへのリンクは維持されません。ただし、この方法で取り込まれた画像は、**使用状況**ダイアログボックスの**画像**ペインで表示および更新されます。

Composition Zonesの使用

下記のトピックは、チームメンバーが同時にQuarkXPressプロジェクトの作業を行うことで、Composition Zonesがどうやって既存のワークフローを合理化できるかを説明します。

コンポジションゾーンの理解

コンポジションゾーンアイテムは、他のQuarkXPressユーザーと共有できるレイアウト内のレイアウトまたはユーザー定義領域です。

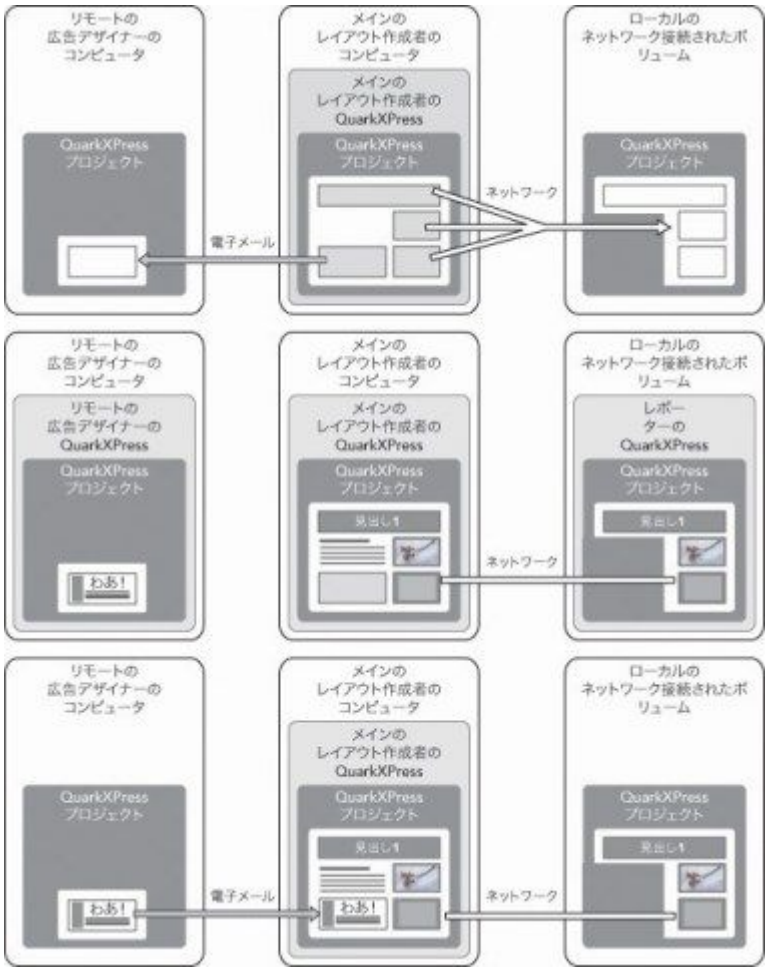
➡ QuarkXPressでコンポジションゾーンを使用するには、Composition Zones XTensionsソフトウェアをロードしておく必要があります。

ある雑誌のQuarkXPressプロジェクトファイルを担当するレイアウトアーティストがいるとします。レイアウトアーティストは、コンポジションゾーンを使用して、執筆者、

編集者、グラフィックアーティスト、および遠隔地でQuarkXPressを使用して作業する担当者とコンテンツを共有できます。

レイアウトアーティストはQuarkXPressを使用して、**コンポジションゾーン**ツールで広告プロジェクトのエリアを「描き」、そのコンポジションゾーンアイテムを別のファイルとして書き出します。書き出されたファイルには正しい仕様が含まれるため、この方法によって、リモート広告作成者がファイルを受け取るときの手順が省略されます。広告作成者は、QuarkXPressでコンテンツを追加してから、必要な画像やフォントと共にそのファイルをレイアウトアーティストに返却します。レイアウトアーティストは更新されたファイルを適切なフォルダに格納し、広告を表示するようにレイアウトが自動的に更新されます。また、コンポジションゾーンアイテムはQuarkXPressレイアウトとまったく同様に機能するため、レイアウトアーティストはそのファイルを開いて編集できます。

この間、レイアウトアーティストは、記事に使用する別のコンポジションゾーンアイテムを広告と同じページ上に指定できます。レイアウトアーティストは、ヘッドライン用、記事の本文用、および画像用の3つのボックスを描きます。Shiftキーを使用して3つのボックスをすべて選択し、これらのボックスから新しいコンポジションゾーンファイルを作成します。そのファイルを書き出してから、ファイルがスタッフの共有ネットワークフォルダにあることを執筆者に通知します。執筆者がそのファイルで作業し、更新されたバージョンを保存するたびに、更新内容がレイアウトアーティストのプロジェクトに表示されます。また、広告と同様に、記事も後で編集できます。



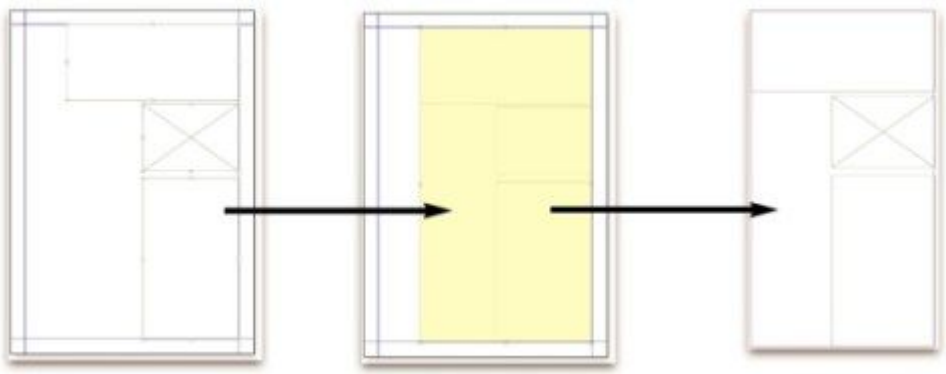
上：メインのレイアウトアーティストは、プロジェクトの一部をコンポジションゾーンとして書き出し、リモート広告デザイナーに電子メールでファイルを1つ送信して、もう1つのファイルをローカルネットワーク上のサーバーに配置します。**中央**：メインのレイアウトアーティスト、レポーター、および広告デザイナーは、ページ上の各担当部分を同時に編集します。**下**：完成した広告を広告デザイナーが電子メールメッセージでメインのレイアウトアーティストに送信すると、ページが自動的に更新され、レイアウトが完成します。

上記のシナリオではコンポジションゾーンの主な用途が説明されていますが、この機能によって、その他のグループ作業ワークフローの問題も解消されます。たとえば、さまざまな理由により、コンポジションゾーンは定義されたプロジェクトに制限されている場合があります。レイアウトアーティストがある広告をプロジェクト内の2つ以上の位置で使用したいと考えており、その広告には複数のテキストや画像ボックスが含まれている場合、**コンテンツ**パレットを使用してアイテムのグループを同期することはできません。しかし、レイアウトアーティストが、選択された複数のアイテムを基にコンポジションゾーンアイテムを作成した場合、そのコンポジションゾーンアイテムは同期され、プロジェクト全体で使用できるようになります。そのため、レイアウトアーティストは、印刷される雑誌に1つのレイアウトを指定し、その広告が含まれるウェブページの同じプロジェクトに、もう1つのレイアウトを使用できます。レイアウトアーティストは、コンポジションゾーンアイテムの使用を1つのプロジェクトに制限できますが、広告は、印刷物とウェブで完全に一致させることができます。

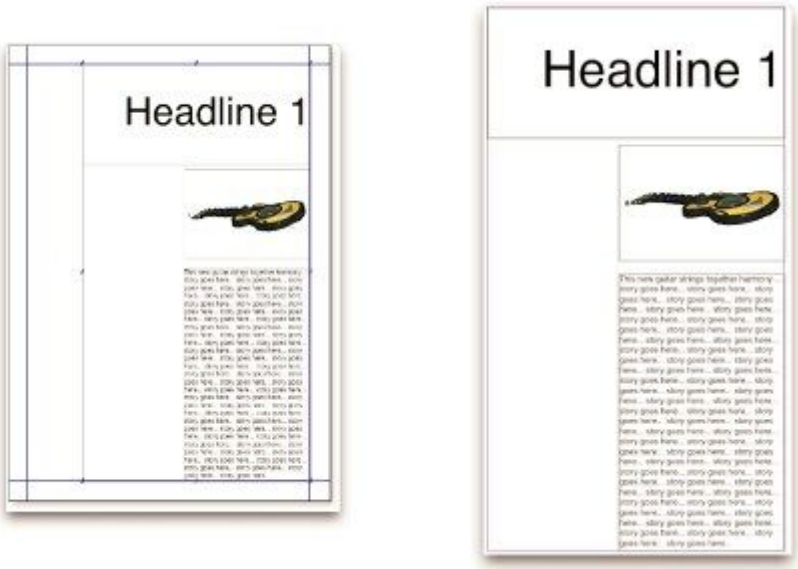
コンポジションゾーンの用語

コンポジションゾーンには、レイアウトに配置すると**アイテム**のように動作し、コンテンツを編集する場合は**レイアウト**のように動作する、特有な特徴があります。

- **コンポジションゾーンアイテム：**さまざまな箇所に存在するレイアウトのコンテンツを表示するアイテムです。コンポジションゾーンアイテムは、異なるレイアウトのコンテンツを参照できる「ウィンドウ」として捉えることができます。コンポジションゾーンアイテムに表示されるレイアウトは、**コンポジションレイアウト**と呼ばれます（次の定義を参照）。各コンポジションゾーンアイテムは、単一かつ唯一のコンポジションレイアウトからコンテンツを取得します。
- **コンポジションレイアウト：**コンポジションゾーンアイテムにコンテンツを提供するためだけに使用される特殊なレイアウトです。コンポジションレイアウトは、言わばコンポジションゾーンアイテムの「ウィンドウ」を介して表示できるレイアウトです。同期された複数のコンポジションゾーンアイテムは、1つのコンポジションレイアウトのコンテンツを表示できます。ただし、コンポジションレイアウトを複数のユーザーが同時に編集することはできません。



QuarkXPressでは、コンポジションゾーンアイテムを作成すると、コンポジションレイアウトが自動的に作成され、そのコンポジションゾーンアイテムにコンテンツが提供されます。



コンポジションレイアウトにコンテンツを追加すると、対応するコンポジションゾーンアイテムは自動的に更新されます。更新内容は、コンポジションゾーンアイテムが含まれるレイアウトに設定されている環境設定に基づいて、ただちに、印刷時に、またはプロジェクトを開くときに、コンポジションゾーンアイテムに表示されます。

- **元のコンポジションゾーンアイテム**：コンポジションゾーンアイテムが作成された初期レイアウトまたはユーザー定義領域です。
- **配置済みのコンポジションゾーンアイテム**： **コンテンツ**パレットを使用してレイアウトに配置したコンポジションゾーンアイテムです。
- **元のホストレイアウト**：コンポジションゾーンアイテムが作成されたレイアウトです。
- **ホストレイアウト**：コンポジションゾーンアイテムが配置されているレイアウトです。

Composition Zonesアイテムの作成

Composizion Zonesアイテムおよび対応するコンポジションレイアウトを作成するには、3つの方法を使用できます。

- 複数のオブジェクトを選択し、**アイテム > Composition Zones > 作成**を選択します。
- レイアウト全体をComposition Zonesアイテムとして指定できます。
- **Composition Zones**ツールを選択し、Composition Zonesアイテムのスペースのアウトラインを手動で描きます。

下記のトピックでは、Composition Zonesアイテムの作成方法として、上記の3つの方法を説明します。ここでは、1つのプロジェクト内または**単一プロジェクトのコンポジションレイアウト**内での排他的な使用を例としています。

選択した複数アイテムからのコンポジションゾーンアイテムの作成

選択した複数のアイテムに基づいたコンポジションゾーンアイテムを作成する方法については、下記の手順に従ってください。

1 **アイテム**ツール または**コンテンツ**ツール を選択してShiftキーを押し、2つ以上のアイテムを選択します。

2 **アイテム > コンポジションゾーン > 作成**を選択します。グループの境界のサイズに等しいボックスがそのグループに置き換わります。

3 コンポジションゾーンアイテムの作成を完了するには、**アイテム > 共有**を選択するか、**ウィンドウ**メニューで**コンテンツ**パレットを表示して**アイテムの追加**をクリックします。いずれの方法でも、**共有アイテムのプロパティ**ダイアログボックスが表示されます。

共有アイテムのプロパティダイアログボックスを使用して、コンポジションレイアウトに名前を付け、利用可能性を指定します。

4 **名前**フィールドにコンポジションレイアウトの名前を入力します。

5 **有効性**ドロップダウンメニューで**このプロジェクトのみ**を選択します。

6 **プロジェクトウィンドウにタブを表示**をオンにすると、プロジェクトウィンドウの下部にあるレイアウトタブからコンポジションレイアウトにアクセスできます。

7 OKをクリックしてコンポジションレイアウトを保存します。

➡ 1つ以上の選択されたアイテムがロックされている場合（**アイテム > ロック > 設定位置**）、コンポジションゾーンアイテムを作成できません。

レイアウトからのコンポジションゾーンアイテムの作成

レイアウト全体に基づいてコンポジションゾーンアイテムを作成する方法については、下記の手順に従ってください。

1 コンポジションゾーンアイテムとして指定するレイアウトを表示します（「レイアウト1」など）。

2 **レイアウト > 詳細レイアウトプロパティ**を選択します。

3 **レイアウトの共有**をオンにします。

詳細レイアウトプロパティダイアログボックスを使用して、レイアウト全体に基づいたコンポジションレイアウトの共有を指定します。

4 **有効性**ドロップダウンメニューで**このプロジェクトのみ**を選択します。

5 **プロジェクトウィンドウにタブを表示**をオンにすると、プロジェクトウィンドウの下部にあるレイアウトタブから簡単にアクセスできるようにコンポジションレイアウトを表示できます。**プロジェクトウィンドウにタブを表示**をオフにすると、コンポジションゾーンアイテムを選択して**アイテム > コンポジションゾーン > 編集**を選択することによって、コンポジションレイアウトにアクセスできます。

6 OKをクリックします。コンポジションレイアウトが**コンテンツ**パレットに表示されます。

➡ コンポジションレイアウトには、複数のページが含まれる場合があります。**ページ**メニューまたは**ページレイアウト**パレットを使用して、ページを追加、削除、または移動できます。

コンポジションゾーンツールを使用したコンポジションゾーンアイテムの作成

コンポジションゾーンアイテムを手動で定義する方法については、下記の手順に従ってください。

1 **ツール**パレットで**コンポジションゾーン**ツールを選択します。

2 ドラッグしてコンポジションゾーンアイテムを描画します。

3 コンポジションゾーンアイテムの作成を完了するには、**アイテム > 共有**を選択するか、**ウィンドウ**メニューで**コンテンツ**パレットを表示して**アイテムの追加**をクリックします。いずれの方法でも、**共有アイテムのプロパティ**ダイアログボックスが表示されます。

共有アイテムのプロパティダイアログボックスを使用して、コンポジションレイアウトに名前を付けます。さらに、有効性を指定して、プロジェクトウィンドウの下部にタブを表示するかどうかを指定します。

4 **名前**フィールドにコンポジションレイアウトの名前を入力します。

5 **有効性**ドロップダウンメニューで**このプロジェクトのみ**を選択します。

6 OKをクリックします。コンポジションレイアウトが**コンテンツ**パレットに表示されます。

コンポジションゾーンアイテムの配置

コンテンツパレットにコンポジションレイアウトを追加した後で、そのコンポジションレイアウトに基づいたコンポジションゾーンアイテムをページに配置できます。コンポジションゾーンアイテムの配置については、下記の手順に従ってください。

1 **ウィンドウ**メニューで、**コンテンツ**パレットを表示します。

コンテンツパレットには、コンポジションレイアウトや、他の共有コンテンツのリストが表示されます。

2 配置するコンポジションレイアウトを選択します。

3 **コンテンツ**パレットからそのレイアウトに、コンポジションレイアウトをドラッグします。

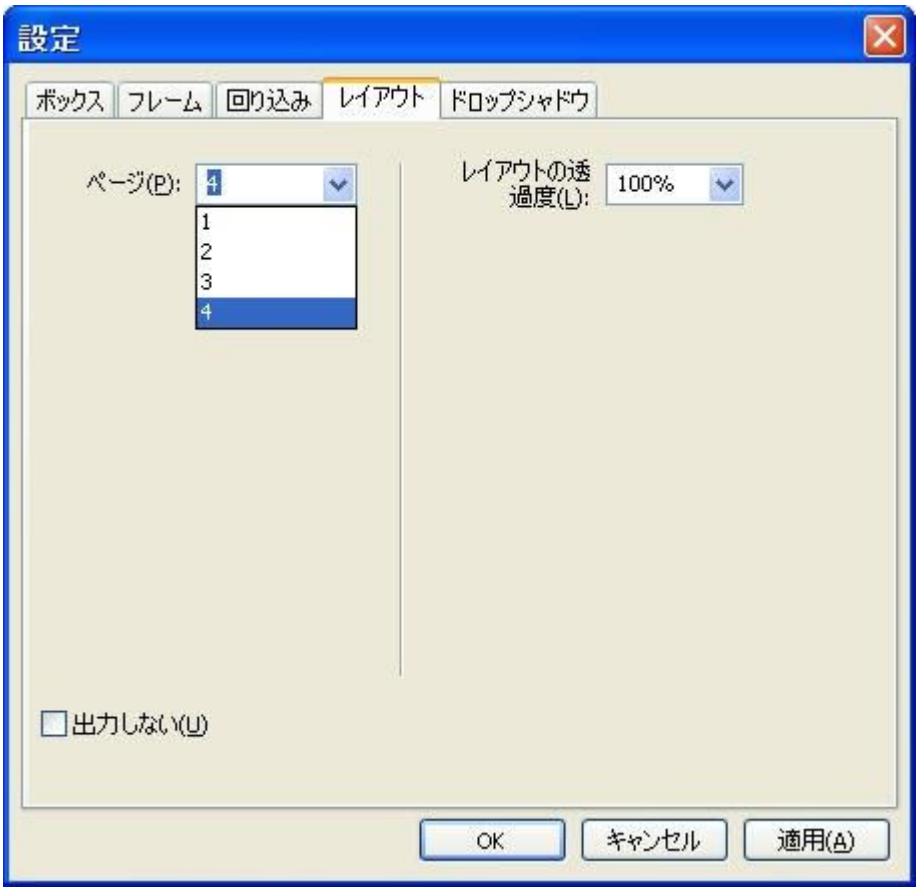
配置したComposition Zonesアイテムでの複数ページの管理

コンポジションレイアウトには、複数のページが含まれる場合があります。ただし、そのコンポジションレイアウトに基づいたComposition Zonesアイテムは、一度に1ページのみ表示できます。Composition Zonesアイテムに表示するページの指定については、下記の手順に従ってください。

1 Composition Zonesアイテムを選択します。

2 **アイテム > 設定**を選択して、**レイアウト**タブをクリックします。

3 **ページ**ドロップダウンメニューからページを選択します。



設定ダイアログボックスの**レイアウト**タブにある**ページ**ドロップダウンメニューを使用して、配置されたComposition Zonesアイテムにコンポジションレイアウトの特定のページを指定します。

4 OKをクリックします。

Composition Zonesアイテムの属性の編集

Composition Zonesアイテムの属性の編集については、下記の手順に従ってください。

1 Composition Zonesアイテムを選択します。

2 **アイテム > 設定**を選択します。

3 **設定**ダイアログボックスの**ボックス**タブを使用して、設定位置、サイズ、行揃え、カラー、不透明度、および印刷の機能を指定します。

4 **フレーム**、**回り込み**、および**ドロップシャドウ**タブを使用して、その他の構造上の調整を行います。

5 **レイアウト**タブを使用して、ページ間のナビゲーション、印刷の無効化または有効化、レイアウトの不透明度の調整を行います。

コンポジションゾーンアイテムから画像への変換

コンポジションゾーンアイテムから外部画像ファイルを作成するには、**アイテム > コンポジションゾーン > 画像へ変換**を選択します。選択すると、コンポジションゾーンが作成されたレイアウトタイプ内に、適切な画像が作成されます。

画像に変換する前のコンポジションゾーンアイテムは、**使用状況**ダイアログボックス（**補助**メニュー）の**Composizion Zones**ペインに表示されます。ただし、**アイテム > コンポジションゾーン > 画像へ変換**を選択すると、Composizion Zonesアイテムは同期されないことを示す警告が表示されます。変換された画像は、**使用状況**ダイアログボックスの**画像**ペインに表示されますが、コンポジションレイアウトは、**コンテンツ**パレットに残ります。

コンポジションゾーンアイテムの同期の解除

コンポジションゾーンアイテムの同期を解除しても、そのコンポジションレイアウトはプロジェクト内で引き続き使用できます。コンポジションゾーンアイテムの同期の解除については、下記の手順に従ってください。

1. レイアウトウィンドウでコンポジションゾーンアイテムを選択します。
2. **アイテム > 同期の解除**を選択します。コンポジションレイアウトは、今後使用できるように、**コンテンツ**パレット、および**グループ作業設定**ダイアログボックスの**共有レイアウト**タブに表示されます。ただし、同期が解除されたレイアウトウィンドウのコンポジションゾーンアイテムへの後続の変更は、同期されません。

コンポジションレイアウトの編集：コンテンツ

コンポジションレイアウトを編集する場合、コンテンツを変更してレイアウトレベルの属性を調整できます。

コンポジションレイアウトのコンテンツの編集については、下記の手順に従ってください。

1. プロジェクトウィンドウの下端にあるレイアウトタブの、レイアウト名をクリックします（**プロジェクトウィンドウにタブを表示**チェックボックスがオンになっている場合のみ利用可能です）。コンポジションレイアウト名がレイアウトタブに表示されていない場合は、**アイテム**ツール を選択し、コンポジションゾーンアイテムをダブルクリックします。
2. コンポジションレイアウトが表示されたら、すべてのコンポジションレイアウトのコンテンツを編集できます。テキスト、画像、およびアイテムを変更するにはメニューおよびパレットのコマンドを使用し、コンテンツを追加するにはツールを使用できます。
3. ウィンドウを閉じると、コンポジションゾーンのアイテムのコンテンツが更新されます。

コンポジションレイアウトのコンテンツの編集

編集するコンポジションレイアウトにアクセスする方法は、**詳細レイアウトプロパティ**ダイアログボックスの**プロジェクトウィンドウにタブを表示**設定で決定します。**プロジェクトウィンドウにタブを表示**をオンにすると、プロジェクトウィンドウの上部にあるレイアウトタブからコンポジションレイアウトにアクセスできます。コンテンツとレイアウト属性を編集するコンポジションレイアウトをアクティブ化するには、そのタブをクリックします。

プロジェクトウィンドウにタブを表示をオンにしない場合は、アイテムツールを選択し、元のコンポジションゾーンアイテムをダブルクリックします。コンポジションレイアウトが表示されます。

レイアウト全体から作成されたコンポジションレイアウトについては、そのレイアウトに簡単にアクセスできるように、**詳細レイアウトプロパティ**ダイアログボックスの**プロジェクトウィンドウにタブを表示**をオンにします。オンにしない場合は、**コンテンツ**パレットでコンポジションレイアウトを選択し、**編集**をクリックしてから**プロジェクトウィンドウにタブを表示**をオンにする必要があります。

コンポジションレイアウトの同期の解除

コンポジションレイアウトの同期を解除すると、コンポジションレイアウトと、そのコンポジションレイアウトに基づく既存のコンポジションゾーンアイテム間のリンクがすべて解除されます。プロジェクトに含まれているコンポジションゾーンアイテムのすべてのインスタンスの同期を解除するには、**コンテンツ**パレットで対象のコンポジションレイアウトを選択して、**すべて同期解除**ボタンをクリックします。ただし、後でコンポジションレイアウトを変更し、それに基づく新しいコンポジションゾーンアイテムを配置すると、その新しいコンポジションゾーンアイテムに変更が適用されます。

コンポジションレイアウトの削除

コンポジションレイアウトの削除については、下記の手順に従ってください。

1. **コンテンツ**パレットを表示します。
2. パレットでコンポジションレイアウトを選択し、**削除**をクリックします。

電子書籍

電子書籍は、下記の2つの形式で作成できます。

- ePub形式の電子書籍。iPad®、Sony® Reader、NOOK®などの電子書籍リーダーに対応しています。
- Kindle形式の電子書籍。Amazon® Kindle®の電子書籍リーダーに対応しています。

ePub形式とKindle形式の電子書籍を作成する手順はほとんど同じです。大きな違いは、他の形式では使用できず、それぞれの形式では使用できる機能がいくつかあることです。これらの違いについては、以下のトピックで説明します。

電子書籍を発行する方法の詳細については、「QuarkXPressデジタルパブリッシングガイド」を参照してください。

リフロービューの使用

ePub形式とKindle形式の電子書籍には、テキストリフロービューがあります。このビューでは、エンドユーザーがコンテンツを全画面で表示でき、テキストのサイズも変更可能です。このビューは、エンドユーザーが、レイアウトによって制約を受けたり気を取られたりすることなくコンテンツを参照できるように設計されています。

この機能を使用するには、QuarkXPressで少なくとも1つのリフローアーティクルを作成する必要があります。この機能が役に立つ場合は、チャプターやセクションごとに1つのアーティクルを作成できますが、必ずそのようにする必要はありません。

リフローアーティクルは、特定のチャプターやセクションから構成されている、単なるコンテンツのコピーです。リフローアーティクルが必要な理由は下記の2つです。

- 通常のQuarkXPressレイアウトのコンテンツは、若干の変更を行わないとテキストリフロービューでの表示に適していません。たとえば、レイアウトには、インデント位置文字、手動の改行、またはオールキャップススタイルが含まれている場合がありますが、これらはすべて、テキストリフロービューでは正常に表示されません。レイアウトアーティストとして、エンドユーザーにとって最高な読書というエクスペリエンスとなるように、各リフローアーティクルのコンテンツを調整する必要があります。
- タイトル、見出し、本文などの意味を指定するタグをテキストに適用する方法が必要です。電子書籍リーダーでは、これらのタグを使用して、テキストの表示方法を決定します。

リフロービューでは、ワードプロセッサー的にコンテンツが表示されます。フォントは1種類だけで、書式設定のオプションもわずかです。各リフローアーティクルはコンポー

ネントに分割され、それぞれが、レイアウト内のストーリーや画像に相当します。リフローアーティクル内のコンポーネントの順序を変更して、読む順番に合うようにできます。

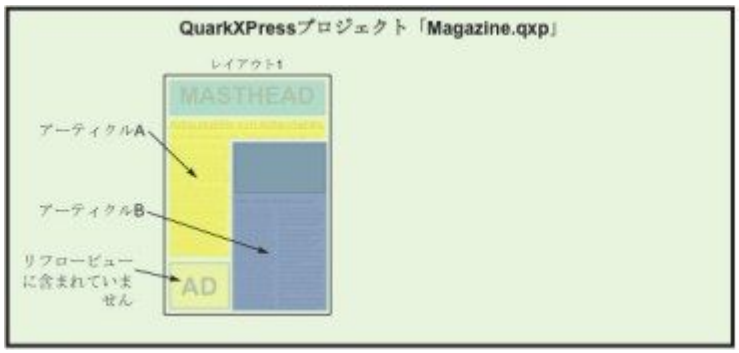
リフローアーティクルを作成するには、下記の2つの方法があります。

- 新規プロジェクトを作成するときに**レイアウトタイプ**ドロップダウンメニューから**電子書籍（ePUB、Kindle）**を選択します。
- 印刷レイアウトでコンテンツをタグ付けし、追加します。

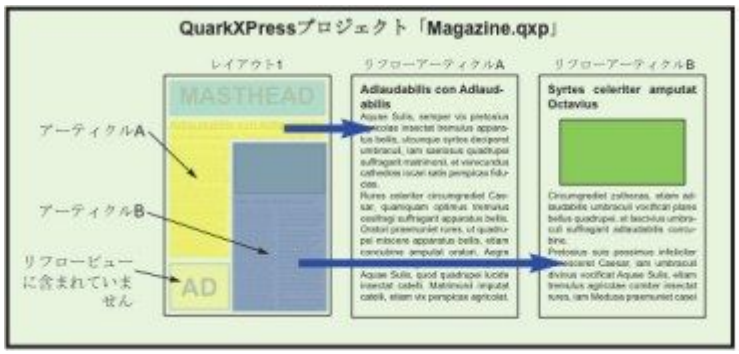
新規プロジェクトを作成するときに**レイアウトタイプ**ドロップダウンメニューから**電子書籍（ePUB、Kindle）**を選択した場合、ページ全体が画像ボックスになっている1つの印刷レイアウトと、デフォルトのテキストコンポーネントになっている1つのリフローアーティクルから構成されたプロジェクトがQuarkXPressで作成されます。印刷レイアウトの先頭ページを使用してePUB形式またはKindle形式の電子書籍のカバーを作成し、リフローアーティクルを使用してePUB形式またはKindle形式の電子書籍のコンテンツを作成する必要があります（ePUB形式の電子書籍としてレイアウトを書き出したときに、印刷レイアウトのページ1以降に追加するページは使用されません）。印刷レイアウトをePubまたはKindle形式の電子書籍に変換するとき、QuarkXPressでは、印刷レイアウトの最初のページが常にイメージとして書き出され、電子書籍のカバーとして使用されます。

印刷レイアウトからリフローアーティクルを作成する方法を選択した場合は、以下の図のように手順になります。

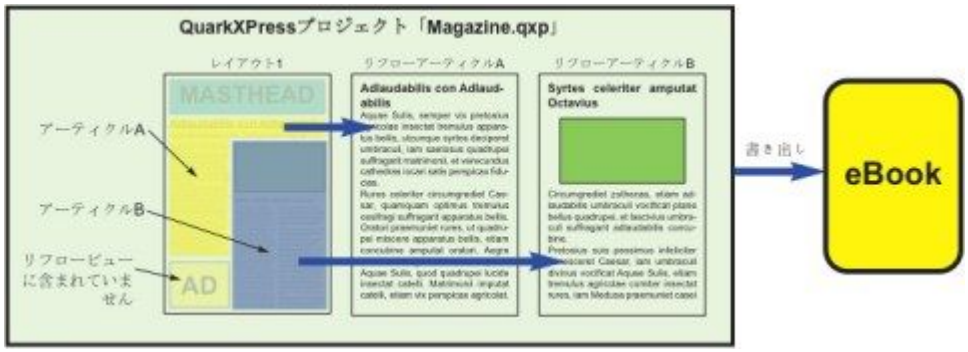
手順1：レイアウトを作成します。



手順2：チャプターまたはセクションを特定します。また、レイアウトのどの部分をテキストリフロービューの対象外にするかを特定します。



手順3：各チャプターおよびセクションからリフローアーティクルを作成し、それらをテキストリフロービュー向けにカスタマイズして、意味を指定するタグを付与します。



手順4：レイアウトを電子書籍として書き出して、電子書籍リーダーで表示します。

リフローアーティクルの作成

リフローアーティクル内のコンテンツとレイアウト内のコンテンツは、同期されていません。そのコンテンツからリフローアーティクルを作成した後にテキストを変更する必要がある場合は、コンテンツを更新する必要があります（詳細は、「*リフロービューでのコンテンツの更新*」を参照してください）。したがって、リフローアーティクルの作成は、ePUB形式またはKindle形式に書き出すレイアウトを準備するプロセスの、最後の手順とする必要があります。

リフローアーティクルを作成するには、下記の3つの方法があります。

- *選択内容から*。この方法では、リフローアーティクルの対象にする、特定のボックスを選択できます。ヘッダーやフッターなど、リフロービューでは表示されないコンテンツがレイアウトに多数含まれている場合は、この方法が最適です。
- *ページから*。この方法では、指定したページの内容がすべてリフローアーティクルにコピーされます。この方法は、レイアウトのコンテンツのすべて、またはほとんどがリフロービューに表示される必要がある場合に最適です（リフロービューに属さないコンテンツは、手作業で削除できます）。
- **ファイル**メニューの**新規プロジェクト**ダイアログボックスで**レイアウトタイプ**ドロップダウンメニューから**電子書籍（ePUB、Kindle）**を選択。

➡ Quark Publishing Platform®で作成されたプロジェクト、またはQuarkCopyDesk®で編集されたプロジェクトには、すでに1つまたは複数のアーティクルが含まれている可能性があります。QuarkCopyDeskアーティクル、またはコンポーネントを持つアーティクルが含まれているプロジェクトファイルを開いた場合、リフローアーティクルにコンテ

ンツを追加するには、リフロービューに切り替える必要があります（**表示 > リフロービュー**）。

➡ コンポーネントの上にある点線やラベルを表示または非表示にするには、ウィンドウ下部にある**コンポーネントヘッダーの表示／非表示**ボタンをクリックします。

➡ 書き出した電子書籍には、各リフローアーティクルの間に改ページがあります。

選択内容からのリフローアーティクルの作成

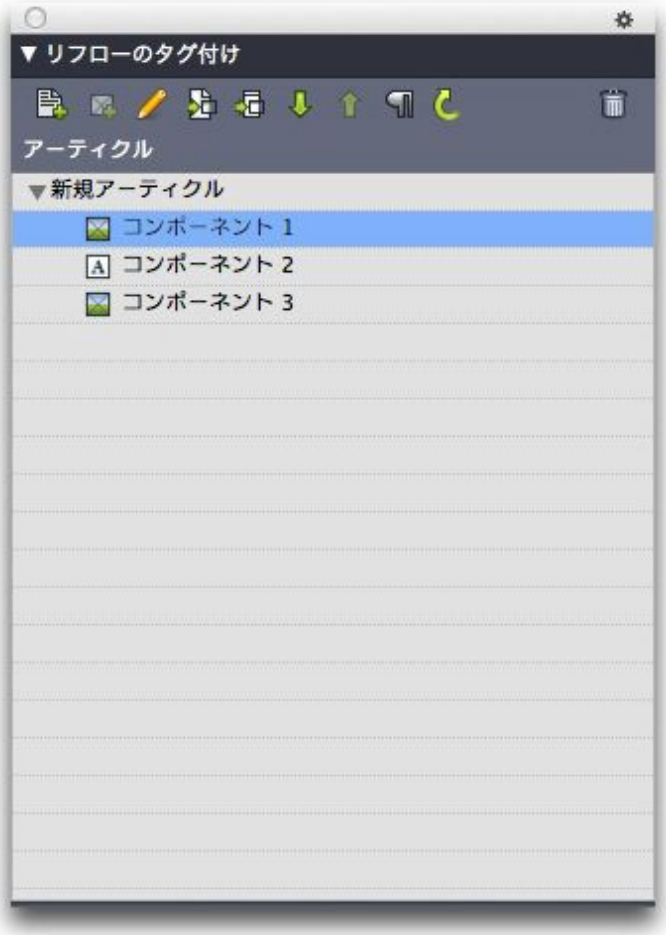
選択した1つまたは複数のアイテムからリフローアーティクルを作成するには、下記の手順に従ってください。

1. リフロービューに配置するすべてのテキストを最終決定します（リフロービューのコンテンツは更新できますが、その場合、リフロービューで追加した書式設定が失われます）。
2. **リフローのタグ付け**パレット（**ウィンドウ**メニュー）を表示します。
3. 選択したコンテンツをリフロービューに追加するには、下記のような複数の方法があります。

- 選択内容から新規アーティクルを作成するには、対象となるコンテンツが含まれているボックスを選択して、**アイテム > デジタルパブリッシング > リフロービューに追加 > 新規アーティクル**を選択します。または、**リフローのタグ付け**パレットの**新規アーティクル**をクリックします。QuarkXPressによって新規リフローアーティクルが作成され、選択したボックスにすべてのテキストと画像が挿入されます。
- 既存のアーティクルをコンテンツに追加するには、対象となるコンテンツが含まれているボックスを選択して、**アイテム > デジタルパブリッシング > リフロービューに追加 > [アーティクル名]**を選択します。または、**リフローのタグ付け**パレットの**アイテムの追加**をクリックします。QuarkXPressによって、選択したリフローアーティクルの最後にコンテンツが追加されます。
- 複数ページのコンテンツから新規アーティクルを作成するには、**レイアウト > ページをリフロービューに追加**を選択します。**ページをリフローに追加**ダイアログボックスで、追加するページを選択して、そのページを1つのアーティクルにするか、スプレッドごとにアーティクルにするかを指定できます。

ページをリフローに追加ダイアログボックス

4 リフローアーティクルの作成結果を確認するには、**リフローのタグ付け**パレット（**ウィンドウ**メニュー）を表示します。



リフローのタグ付けパレットと新規作成されたアーティクルこのアーティクルには、単一ボックスのストーリー、画像、複数のボックスにわたるストーリーが含まれています。

5 新規アーティクルの名前を変更するには、その名前を選択して、**プロパティを編集**をクリックします。アーティクルの新しい名前を入力して、**OK**をクリックします。

6 リフローアーティクルがリフロービューで表示されます。必要な変更を行います（詳細は、「*リフロービューでのコンテンツの編集*」を参照してください）。

ページからのリフローアーティクルの作成

1ページまたは複数ページ分のコンテンツを同時にアーティクルに変換する場合は、下記の手順に従ってください。

1 リフロービューに配置するすべてのテキストを最終決定します（リフロービューのコンテンツは更新できますが、その場合、リフロービューで追加した書式設定が失われます）。

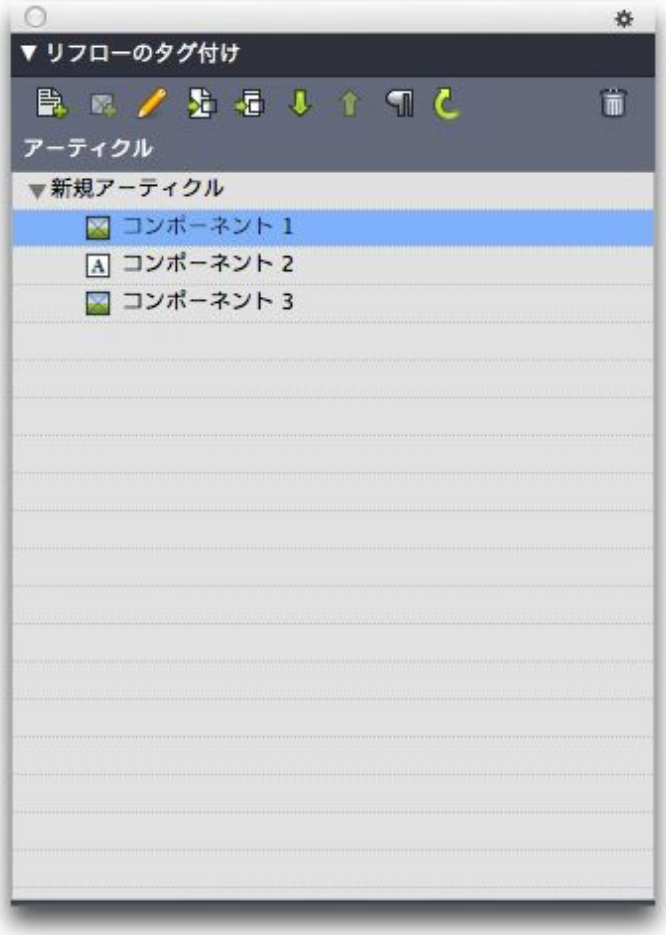
2 **レイアウト > ページをリフロービューに追加**を選択します。**ページをリフローに追加**ダイアログボックスが表示されます。

ページをリフローに追加ダイアログボックス

3 **ページ**領域を使用して、レイアウト内のすべてのページを追加するか、または特定の範囲のみを追加するかどうかを指定します。**アーティクル**領域を使用して、同じアーティクルにすべてのページをまとめるか、またはスプレッドごとに個別のアーティクルを作成するかどうかを指定します。

4 **OK**をクリックします。QuarkXPressによって必要なリフローアーティクルが作成され、そのリフローアーティクルに、選択したページからすべてのコンテンツが挿入されます。

5 リフローアーティクルの作成結果を確認するには、**リフローのタグ付け**パレット（**ウィンドウ**メニュー）を表示します。



リフローのタグ付けパレットと新規作成されたアーティクルこのアーティクルには、単一ボックスのストーリー、画像、複数のボックスにわたるストーリーが含まれています。

6 新規アーティクルの名前を変更するには、その名前を選択して、**プロパティを編集**をクリックします。アーティクルの新しい名前を入力して、**OK**をクリックします。

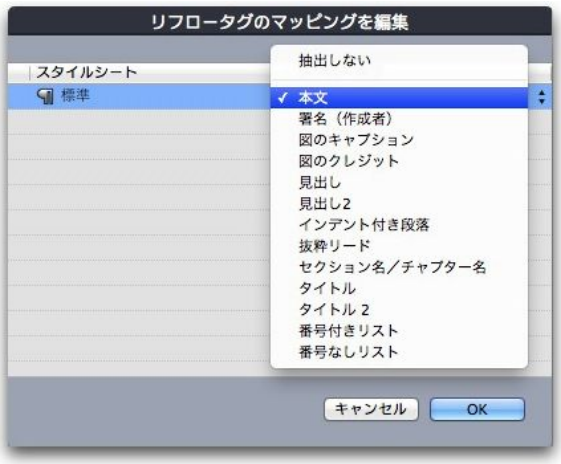
7 リフローアーティクルがリフロービューで表示されます。必要な変更を行います（詳細は、「*リフロービューでのコンテンツの編集*」を参照してください）。

リフロータグへのスタイルシートのマッピング

デフォルトでは、レイアウトビューからリフロービューにコンテンツをコピーすると、すべてのコンテンツは本文のコンポーネント内に本文の段落としてコピーされ、ボールドやイタリックなどの文字飾りのみが取り込まれます。ただし、マッピングルールを使用すると、レイアウトビューでそのコンテンツに適用されているスタイルシートに基づき、リフロービューでコンテンツにタグ付けを行うことができます。

リフロータグにスタイルシートをマッピングするには、下記の手順に従ってください。

1 **アイテム > デジタルパブリッシング > リフロータグのマッピング**を選択するか、**リフローのタグ付け**パレット（**ウィンドウ**メニュー）の**リフロータグのマッピングを編集**をクリックします。**リフロータグのマッピングを編集**ダイアログボックスが表示されます。



リフロータグのマッピングを編集ダイアログボックス

このダイアログボックスでは、**スタイルシート**列に、アクティブなプロジェクトの各段落スタイルシートが表示されます。**リフロータグ**列にはドロップダウンメニューがあり、リフロービューで使用可能なすべての段落タグが表示されます。

2 **スタイルシート**列でスタイルシートを選択し、**リフロータグ**列でそのスタイルシートのマッピング先にするリフロータグを選択します。スタイルシートを使用するテキストをリフローアーティクルにコピーしない場合は、**展開しない**を選択します。

3 **本文**以外のリフロータグにマッピングするスタイルシートごとに、上記のステップを繰り返します。

4 **OK**をクリックします。

5 リフロービューにコンテンツを追加します（詳細は、「*リフローアーティクルの作成*」および「*リフローアーティクルへのコンテンツの追加*」を参照してください）。QuarkXPressでは、作成されたマッピングルールを使用してリフロータグの適用方法を決定します。

リフローアーティクルへのコンテンツの追加

既存のリフローアーティクルにコンテンツを追加するには、下記のような複数の方法があります。

- 1つまたは複数の画像またはテキストボックスを選択して、**アイテム > デジタルパブリッシング > リフロービューに追加 > リフローアーティクルの名前**を選択します。
- **リフローのタグ付け**パレットが表示されます（**ウィンドウ**メニュー）。対象とするリフローアーティクルを選択します。次に、1つまたは複数の画像またはテキストボックスを選択して、**リフローのタグ付け**パレットの**コンポーネントの追加**をクリックします。
- 1つまたは複数を選択した画像またはテキストボックスを、Controlキーを押しながらクリックするか、または右クリックして、コンテキストメニューから**デジタルパブリッシング > リフロービューに追加 > リフローアーティクルの名前**を選択します。
- リフロービューで、**リフローのタグ付け**パレットの**新規アーティクル**をクリックします。
- リフロービューで、**リフローのタグ付け**パレットの**新規コンポーネント**をクリックして、**テキストコンポーネント**、**画像コンポーネント**、**オーディオコンポーネント**、または**ビデオコンポーネント**を選択します。新規コンポーネントは、リフローアーティクルに追加されますが、対応する印刷レイアウトには追加されません。

  画像コンポーネントを選択すると、**取り込み**ダイアログボックスが表示され、コンポーネントに配置する画像ファイルを選択できます。

  オーディオコンポーネントまたは**ビデオコンポーネント**を選択すると、**インタラクティブ属性**ダイアログボックスが表示されます。詳細は、「*ePub形式の電子書籍への、オーディオの追加*」および「*ePub形式の電子書籍への、ビデオの追加*」を参照してください。

リフローコンポーネントの分割

既存のコンポーネントを2つのコンポーネントに分割するには、アーティクルを分割する場所で、Controlキーを押しながらクリックするか、または右クリックして、**コンポーネントの分割**を選択します。既存のコンポーネントを3つのコンポーネントに分割するには、中間のコンポーネントにするテキストを選択して、**コンポーネントの分割**を選択します。

リフローアーティクルのコンポーネントの並べ替え

リフローアーティクルに追加する各テキストボックス、ストーリー、または画像は、**コンポーネント**として追加されます。デフォルトでは、リフローアーティクル内のコンポーネントは正しい順序になっていない可能性があります。リフローアーティクル内のコンポーネントの順序を変更するには、下記の手順に従ってください。

1. **ウィンドウ**メニューの**リフローのタグ付け**パレットを表示します。
2. 対象のリフローアーティクルを展開して、移動するコンポーネントを選択します。
3. **リフローのタグ付け**パレットで、ドラッグ＆ドロップ、または**上へ移動**ボタンまたは**下へ移動**ボタンを使用して、コンポーネントの位置を変更します。

リフロービューでのコンテンツの編集

リフローアーティクルのコンテンツを編集できます。リフローアーティクルを編集するには、下記の手順に従ってください。

1 リフロービューを表示するには、**表示 > リフロービュー**を選択します。新しいリフロービューウィンドウが表示されます。

➡ リフロービューウィンドウは、レイアウトビューと並べて表示できるように、サイズ変更や移動ができます。これによって、2つのビューの視覚的な比較が容易になります。

2 **ウィンドウ**メニューの**リフローのタグ付け**パレットを表示します。

3 リフロービューウィンドウで、対象のリフローアーティクルを展開して、編集するコンポーネントをクリックします。

➡ レイアウトビューでコンポーネントを表示するには、**リフローのタグ付け**パレットでそのコンポーネントを選択して、**レイアウトでアイテムを表示**をクリックします。リフロービューでコンポーネントを表示するには、**リフローのタグ付け**パレットでそのコンポーネントを選択して、**リフロービューでアイテムを表示**をクリックします。

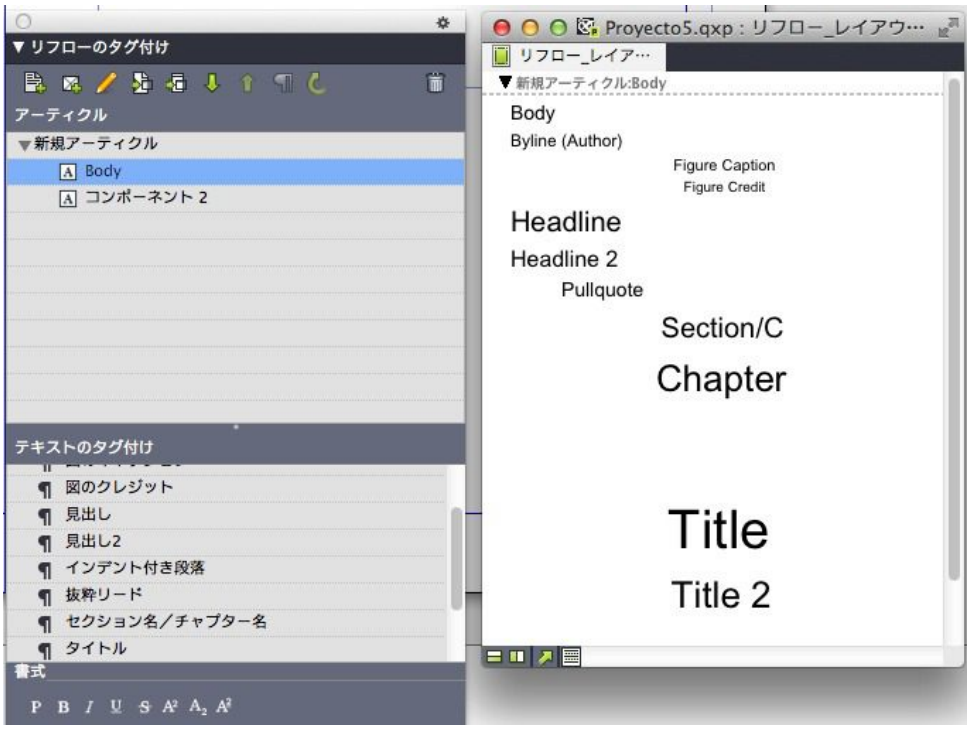
4 テキストに対して必要な変更を行います。

5 **リフローのタグ付け**パレットの下部には、段落に基づいたタグ付けと、文字スタイルが表示されます。段落タグはスタイルシートではなく、ePubの段落タグです。

リフロービューがアクティブな場合の**リフローのタグ付け**

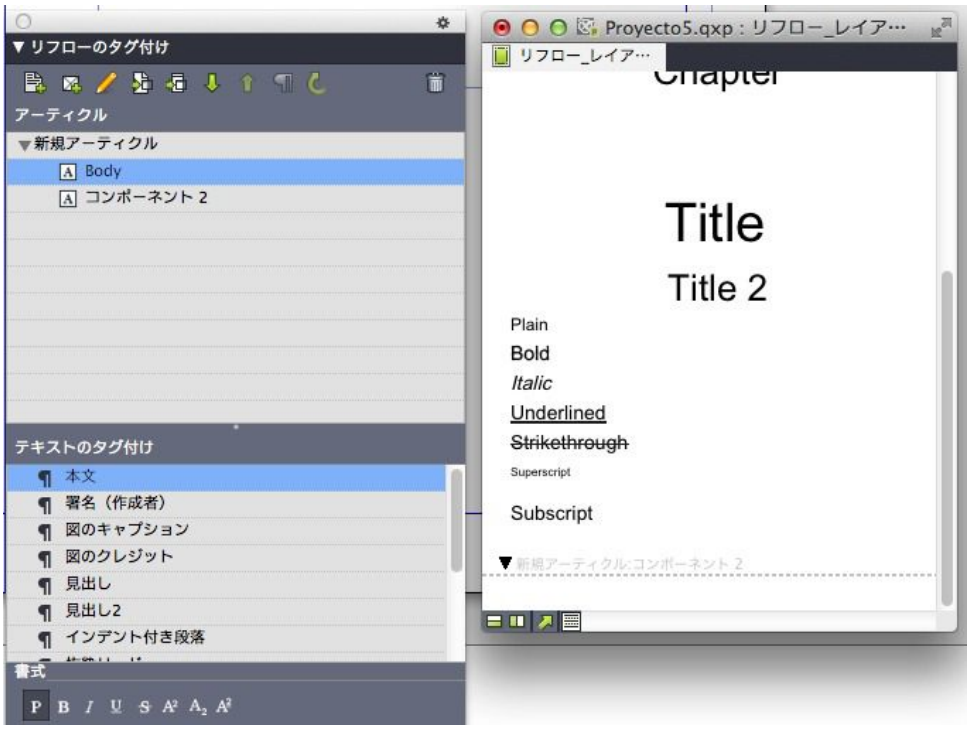
6 Bodyタグは、レイアウト内のコンテンツからリフローアーティクルを作成すると、自動的にすべてのテキストに適用されます。段落に別の段落タグを設定するには、その段落を選択するか、その段落にテキストカーソルを配置して、**リフローのタグ付け**パレットで段落タグをクリックします。

➡ 段落タグは段落スタイルシートと似ていますが、2つの点が異なります。1点目として、段落タグは特性が少なく、追加、編集、削除ができません。2点目として、段落タグでは、単なる外観ではなく、テキストが意味する情報の種類を指定できます。



リフロービューでの段落スタイル

7 文字タグをテキストに適用するには、テキストを選択し、**リフローのタグ付け**パレットで文字タグを選択してクリックします。



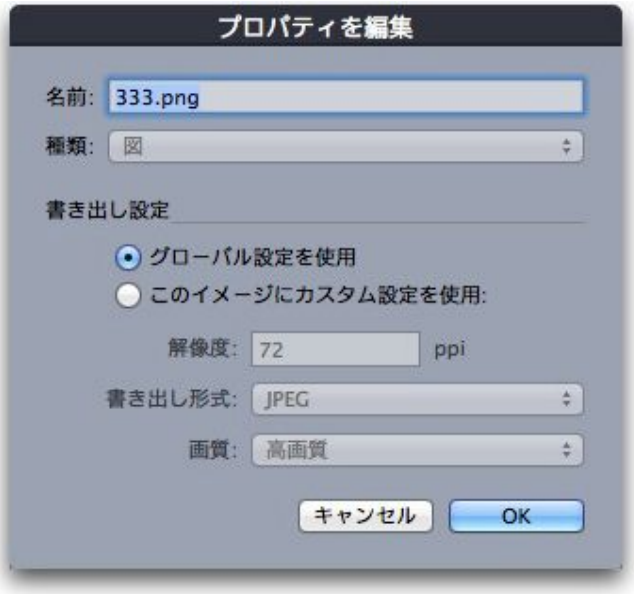
リフロービューでの文字スタイル

8 リフロービューで画像を表示する方法を変更するには、画像を選択して、**リフローのタグ付け**パレットの下部にある、**画像のサイズ**コントロールを使用します。**切り抜き**をクリックすると、動的に画像の切り抜きや回転ができます。

リフローのタグ付けパレットの**画像のサイズ**コントロール

➡ リフロービューで行った変更を削除せずに、レイアウトビューで、画像の拡大縮小や切抜きを変更できます。

9 個々の画像コンポーネント用の書き出し設定を変更するには、リフローのタグ付けパレットでそのコンポーネントを選択して、**プロパティを編集**をクリックします。**画像コンポーネントのプロパティを編集**ダイアログボックスが表示されます。



画像コンポーネントのプロパティを編集ダイアログボックス

ファイルを書き出すときに、指定されたイメージのプロパティを使用するには、**グローバル設定を使用**をクリックします。

特定の解像度、形式、画質の設定を使用するには、**このイメージにカスタム設定を使用**をクリックします。書き出すときに、これらの設定を上書きできます。詳細は、「*ePUB向けの書き出し*」および「*Kindle向けの書き出し*」を参照してください。

10 リフローアーティクルからコンポーネントを削除するには、**リフローのタグ付け**パレットでそのコンポーネントを選択して、**アイテムを削除** をクリックします。

リフロービューでのコンテンツの更新

理想的には、コンテンツからリフローアーティクルを作成し始める前に、コンテンツがレイアウト内で最終版となっている必要があります。しかし、もちろん、必ず事がうまく運ぶとは限りません。テキストからリフロービューを作成した後にレイアウト内のそのテキストまたは画像を大きく変更する場合は、リフロービューのコンテンツを、レイアウトのコンテンツと一致するように更新できます。

コンポーネントを更新するには、下記の手順に従ってください。

1 レイアウトビューで、コンテンツが含まれているボックスを選択します。

2 **アイテム > デジタルパブリッシング > リフロービューでコンテンツを置き換え**を選択します。QuarkXPressによって、ボックスからのコンテンツでコンポーネントのコンテンツが上書きされます。

➡ コンテンツを更新すると、リフロービューで適用したタグ付けはすべて失われます。

➡ この機能は、インタラクティブコンポーネントには適用されません。

ePub形式の電子書籍への、インタラクティブ機能の追加

以下のトピックでは、リフローアーティクルにさまざまな種類のインタラクティブ機能を追加する方法について説明します。リフローレイアウトにインタラクティブオブジェクトを追加すると、そのレイアウトをePubファイルとして書き出すことができます。

➡ App Studioレイアウトではオブジェクトにepubインタラクティブ機能を追加することはできません。詳細は、『A Guide to App Studio』を参照してください。

ePub形式の電子書籍への、オーディオの追加

ePub形式の電子書籍で、オーディオファイルを画像ボックスと関連付けできます。ユーザーがボックスをクリックすると、音声が再生されます。ePub形式の電子書籍にオーディオを追加するには、下記の手順に従ってください。

1 下記のいずれかを実行します。

- 印刷レイアウトからコンテンツを取り込む場合は、オーディオコンテンツ用に使用するサイズと場所で画像ボックスを作成し、その画像ボックスを選択して**アイテム > デジタルパブリッシング > ePubインタラクティブ機能の編集**を選択します。
- 対応する印刷レイアウトがない状態でリフローアーティクルを作成する場合は、**リフローのタグ付け**パレットで新規オーディオを追加するコンポーネントを選択し、**コンポーネントの追加**ボタンをクリックして、表示されるドロップダウンメニューから**オーディオコンポーネント**を選択します。アーティクルを選択すると、新規コンポーネントがアーティクルの最後に追加されます。

インタラクティブ属性ダイアログボックスが表示されます。

2 **種類**ドロップダウンメニューから**オーディオ**を選択します。

3 **リンク** をクリックして、オーディオファイルを選択します。

➡ MP3形式のオーディオファイルを使用できます。

4 **開く**をクリックします。

5 **OK**をクリックします。

➡ ファイルシステム内の選択したオーディオファイルを表示するには、**表示** をクリックします。

6 印刷レイアウトからコンテンツを取り込む場合は、画像ボックスをリフローアーティクルに追加します。詳細は、「*リフロービューの使用*」を参照してください。

ePub形式の電子書籍への、ビデオの追加

ePub形式の電子書籍にムービーを追加するには、下記の手順に従ってください。

1 下記のいずれかを実行します。

- 印刷レイアウトからコンテンツを取り込む場合は、ビデオ用に使用するサイズと場所で画像ボックスを作成し、その画像ボックスを選択して**アイテム > デジタルパブリッシン**

グ > **ePubインタラクティブ機能の編集**を選択します。ビデオが再生されていないときに画像をボックスに表示させる場合は、ボックスに画像を取り込みます。画像をリフロービューのボックスに取り込むこともできます。取り込むには、コンポーネントをクリックして、**ファイル > 取り込み**を選択します。

- 対応する印刷レイアウトがない状態でリフローアーティクルを作成する場合は、**リフローのタグ付け**パレットで新規ビデオを追加するコンポーネントを選択し、**コンポーネントの追加**ボタンをクリックして、表示されるドロップダウンメニューから**ビデオコンポーネント**を選択します。アーティクルを選択すると、新規コンポーネントがアーティクルの最後に追加されます。

インタラクティブ属性ダイアログボックスが表示されます。

2 画像ボックスを選択して、**アイテム > デジタルパブリッシング > ePubインタラクティブ機能の編集**を選択します。**インタラクティブ属性**ダイアログボックスが表示されます。

3 **種類**ドロップダウンメニューから**ビデオ**を選択します。

4 **リンク**をクリックして、ムービーファイルを選択します。

ePubでは、H.264コーデックで保存された.mp4ファイルのみサポートしています。

5 **OK**をクリックします。

6 印刷レイアウトからコンテンツを取り込む場合は、画像ボックスをリフローアーティクルに追加します。詳細は、「*リフロービューの使用*」を参照してください。

ePub形式の電子書籍へのハイパーリンクとアンカーの追加

書き出したePubにハイパーリンクとアンカーを追加するには、QuarkXPressの**ハイパーリンク**を使用します。

ハイパーリンクとして、外部リンク（ウェブサイトのURL）と内部リンク（QuarkXPressのリフロービューのアンカーへ）のどちらも指定できます。

印刷レイアウトでハイパーリンクやアンカーを追加すると、リフロービューにも自動的に追加されます。

ePUB用またはKindle用の目次の作成

リフローアーティクルをePUB形式やKindle形式の電子書籍として書き出すときに、下記の2つの方法でその電子書籍の目次を作成できます。

- リフローアーティクルごとに目次の見出し語を1つ持った、リフローアーティクルの順序を使用。**リフローのタグ付け**パレット（**ウィンドウ**メニュー）を使用して、リフロービューでのリフローアーティクルの順序を変更できます。アーティクルの順序を上下に移動させるには、**リフローのタグ付け**パレットでアーティクルを選択して、**上へ移動**ボタンまたは**下へ移動**ボタンをクリックします。目次を更新するには、**更新**をクリックします。
- 手動で目次を作成。目次を手動で作成するには、**ウィンドウ**メニューの**リフロー用の目次**パレットを表示し、**編集**をクリックして、**リフロー用目次の編集**ダイアログボックスを表示します。矢印ボタンを使用して、目次で使用するタグを右側のリストに追加し

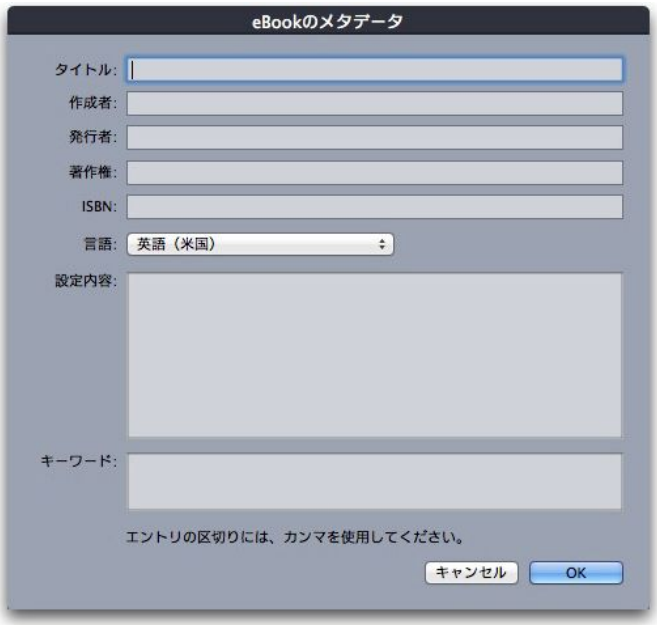
ます。それぞれのタグのレベルを指定するには、タグを選択して、**レベル**列の上部にあるドロップダウンメニューからオプションを選択します。

eBookのメタデータの使用

ユーザーが電子書籍に関する情報を簡単に検索および入手できるように、メタデータと、作成する電子書籍の関連付けを行うことをお勧めします。eBookとして書き出すレイアウトにメタデータを追加したり、レイアウトのメタデータを編集したりするには、下記の手順に従ってください。

1 レイアウトビューでレイアウトを表示します。

2 **レイアウト > eBookのメタデータ**を選択します。**eBookのメタデータ**ダイアログボックスが表示されます。



eBookのメタデータダイアログボックス

3 このダイアログボックスのフィールドを使用して、電子書籍に関する情報を入力します。**キーワード**フィールドでは、カンマを使用してキーワードを区切ります。

4 言語ポップアップを使用して、電子書籍の言語を指定します。これは、読者が正しい本を検索するために使用できます。

➡ ここでタイトルのメタデータを指定しない場合、エクスポートされた電子書籍に"Created with QuarkXPress"というデフォルトテキストが、QuarkXPressによって追加されます。独自のタイトルを追加すると、この文字列は自動的に削除されます。

ePUB向けの書き出し

ePUB形式にレイアウトを書き出すには、下記の手順に従ってください。

1 **ファイル > 書き出し > ePUB形式のリフロー**を選択します。**ePUBとして書き出し**ダイアログボックスが表示されます。

2 書き出す電子書籍の名前を入力します。QuarkXPressにより、正しいファイル拡張子が追加されます。

3 **ePUB用スタイル**ドロップダウンメニューから出力スタイルを選択するか、**オプション**をクリックします。オプションをクリックした場合、**ePUB書き出しオプション**ダイアログボックスが表示されます。

ePUB書き出しオプションダイアログボックス

- **画像**ペインでは、ePUBファイルでの画像の解像度、形式、品質を指定できます。個々の画像コンポーネントに適用されているカスタム属性を上書きするには、**ボックス設定の上書き**をクリックします。
- **目次**ペインでは、ePUBファイルの目次に関するオプションを設定できます。**リフロー用の目次**パレットで定義した目次を使用するか、アーティクル構造を使用するかを選択できます（詳細は、「*ePUB用の目次の作成*」を参照してください）。また、目次のカバーに対する見出し語の名前を指定したり、HTMLバージョンの目次で目次の上にタイトルが表示されるようにしたりすることもできます。
- **東アジア**ペインでは、デフォルトの組み方の指定や、ルビをネイティブで書き出すか括弧で書き出すかの選択ができます。

オプションの設定が終了したら、**OK**をクリックします。

4 **保存**をクリックします。

ePub書き出し用CSSの指定

ePub形式の電子書籍では、コンテンツのフォーマットはカスケーディングスタイルシート（CSS）によって制御されます。CSSを使用すると、リフロービューで適用するタグに関連付けられているインデント、揃え、フォーマットを制御できます。

➡ CSSのオプションは、すべてのePubリーダーでサポートされているとは限りません。サポートされている必要がある、対象のePubリーダーごとに、CSSのカスタマイズ内容をすべてテストしてください。

書き出したePub形式の電子書籍に埋め込まれるCSSの仕様は、下記の場所にある"style.css"ファイルと"vertical_style.css"ファイルによって決まります。

[QXP application folder]/XTensions/DigitalPublishing/Templates/css

たとえば、**Headline 1**タグのサイズを変更し、ボールドにする場合は、まず、"style.css"ファイルの下記のセクションを見つけます。

```
.headline1 { font-size: 1.5em; }
```

下記のように変更します。

```
.headline1 { font-size: 2em; font-weight: bold; }
```

➡ CSSの詳細は、*http://www.w3schools.com/css/*などで、CSSに関するチュートリアルを参照してください。

"css"フォルダには"Examples"フォルダもあります。"Examples"フォルダには多様なカスタマイズ済みのCSSファイルがあり、さまざまな外観を作成できます。これらのサンプルを試してみる場合、まず"styles.css"ファイルをバックアップします。次に、試してみるCSSファイルのコピーを作成して、名前を"styles.css"に変更します。このファイルを"css"フォルダに移動します。次回ePub形式の書籍を書き出すときに、新しい設定が使用されます。

➡ 書き出し済みのePubファイルに対してCSSの設定を変更することもできますが、そのプロセスは複雑です。そのため、Quarkでは、書き出しの前に"style.css"ファイルを変更することを推奨します。

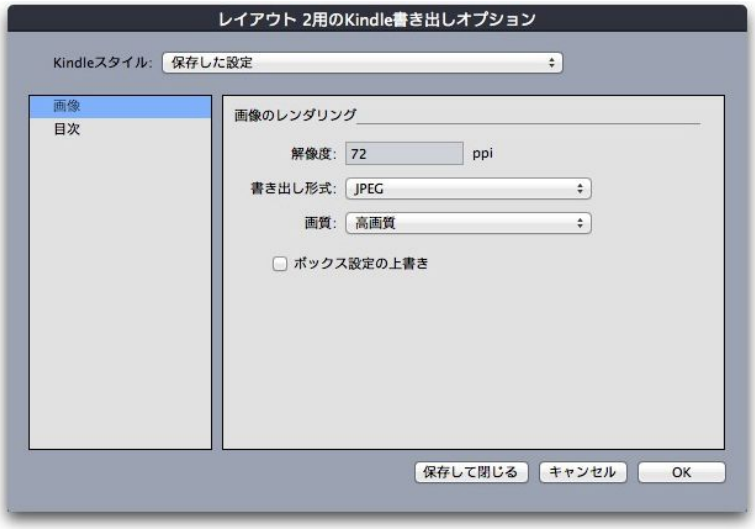
Kindle向けの書き出し

Kindle形式にレイアウトを書き出すには、下記の手順に従ってください。

1. AmazonのウェブサイトからKindleGenをダウンロードして、デフォルトの場所にインストールします。

➡ 現時点では、*http://amzn.to/HHMgj8*からKindleGenをダウンロードできます。ただし、変更される場合もあります。

2. **ファイル > 書き出し > Kindle形式のリフロー**を選択します。**Kindle向けに書き出し**ダイアログボックスが表示されます。
3. 書き出す電子書籍の名前を入力します。QuarkXPressにより、正しいファイル拡張子が追加されます。
4. **Kindleスタイル**ドロップダウンメニューから出力スタイルを選択するか、**オプション**をクリックします。**オプション**をクリックした場合、**Kindle書き出しオプション**ダイアログボックスが表示されます。



Kindle書き出しオプションダイアログボックス

- **画像**ペインでは、Kindle形式の電子書籍での画像の解像度、形式、品質を指定できます。個々の画像コンポーネントに適用されているカスタム属性を上書きするには、**ボックス設定の上書き**をクリックします。
- **目次**ペインでは、Kindle形式の電子書籍の目次に関するオプションを設定できます。**リフロー用の目次**パレットで定義した目次を使用するか、アーティクル構造を使用するかを選択できます（詳細は、「*ePUB用の目次の作成*」を参照してください）。また、目次のカバーに対する見出し語の名前を指定したり、HTMLバージョンの目次で目次の上にタイトルが表示されるようにしたりすることもできます。

オプションの設定が終了したら、**OK**をクリックします。

5 **保存**をクリックします。

KindleGenがインストールされていない場合や、デフォルト以外の場所にインストールされている場合は、ダイアログボックスボックスが表示され、KindleGenをダウンロードするか、インストールされている場所を特定するように要求されます。

ジョブジャケット

ジョブジャケットは、プリフライトを超える革新的な機能で、印刷ジョブが**作成された時点から**印刷機にかけられるまで、仕様からの逸脱がおきないように管理します。また、スタイルシートやカラー、ページサイズ、カウントまでを含めて同期され、動的に更新可能なデザインにプロジェクトをリンクすることで、これまで個々のユーザーレベルで考えられていたジョブ仕様順守の概念を拡大しました。

ジョブジャケットの理解

ジョブジャケットには、下記の2つの目的があります。

- ジョブの定義者が、印刷レイアウトおよびウェブレイアウトの詳細の仕様を作成できるようにします。
- レイアウト担当デザイナーが、これらの仕様を基にプロジェクトおよびレイアウトを作成し、他のレイアウト担当デザイナーと仕様を共有して、レイアウトが仕様に従っているかどうかを確認できるようにします。

レイアウトの作成や出力へのレイアウトの正常な送信が複雑な作業であるため、ジョブジャケットが作り出されました。

たとえば、印刷レイアウトの作成者がある問題で困っているとします。印刷機によって機能は異なるため、最新のページレイアウトアプリケーションではこれらの機能すべてをサポートする柔軟性が必要になります。単純な人為的ミスの可能性も排除できないため、予想外なことが数多く起きる可能性もあります。そのいくつかの例を見てみます。

- レイアウト担当デザイナーが、依頼先の印刷業者で正確に再現できない可能性のあるカラーやインポート済み画像を使用することがあります。
- 100ページを想定して予算の組まれたドキュメントが、出力用に送信されたときには112ページになっていることがあります。
- 必要な画像ファイルやフォントが含まれていない状態でプロジェクトが出力デバイスに送信されることもあります。
- スポットカラーの小さいテキストが使用されたレイアウトが4色印刷に送信され、テキストが読めなくなってしまうことがあります。
- カラーマネージメント設定が、出力デバイスに対して正しく設定されていないため、予期しない結果になることがあります。

大型で複雑な印刷作業では、ミスの発生する可能性も高くなり、ミスによるコストが増大します。ジョブジャケットにより、最初に印刷不可能な作業や正しく構築されていない作業が発生することを防ぎます。

ジョブジャケットとは

技術的な面から言えば、ジョブジャケットとは、QuarkXPressレイアウトを作成して検査するための仕様とルールを含むXML構造です。概念としては、ジョブジャケット構造は、さまざまな種類のプロジェクトとレイアウトだけでなく他の種類の情報も記述するジョブチケットを含んだフォルダと比較することができます。

ジョブジャケットは、JDF（Job Definition Format）スキーマの最新バージョンに基づいています。QuarkXPress関連の仕様を制御できるようにするだけでなく、ジョブジャケットにより、バインディングやクロスオーバー設定など、JDFが網羅する他のさまざまな仕様に値を設定できます。出力にレイアウトを送信するときには、ダウンストリームシステムが自動化の情報および情報目的の情報を使用できるように、レイアウトのJDF情報を含めるオプションが用意されています。また、ジョブジャケットの使用は拡張可能であるため、JDF互換システムの開発者は、ジョブジャケットアップストリームをレイアウト担当デザイナーに渡す前に、自身の仕様に固有の設定をジョブジャケットに埋め込むことができます。これらの設定は、その後ジョブジャケットファイルに保存され、XTensionsソフトウェア、JDF対応アプリケーション、その画のシステムがこの設定を使用して、非常に多様な処理を自動化および効率化します。

また、ジョブジャケットは、ワークグループ内での共同作業に役立つこともあります。仕様の同一セットを共有するレイアウトで作業している数人のレイアウト担当デザイナーは、自身のプロジェクトを共有ジョブジャケットファイルにリンク付け、1人のレイアウト担当デザイナーがスタイルシートなどに変更を加えた場合、他のレイアウト担当デザイナーのレイアウトにも同じ変更内容が自動的に伝わるようにできます。

ジョブジャケットの構造

ジョブジャケットとは、仕様とルールを含んだXML構造です。下記のトピックでは、これらの仕様とルールがジョブジャケット内で編成される方法を説明します。

リソース

ジョブジャケットには**リソース**が入っています。リソースには下記のものがあります。

1. **プロジェクトレベルリソース**：個々のプロジェクトに適用できる、スタイルシート、カラー、出力スタイル、およびカラーマネージメント設定などの要素です。
2. **レイアウトレベルリソース**：個々のレイアウトに適用できるリソースで、下記のものがあります。

- **レイアウトの仕様**：レイアウトに特定のサイズや方向などを割り当てるために使用される設定です。
- **ルールおよびルールセット**：レイアウトを検査するためのテストで、仕様に準拠しているかどうかを検証します。

ジョブジャケットには、上記で説明したリソースの他に、下記のような情報リソースを含めることができます。

- **ジョブの説明：**このカテゴリには、ジョブ番号、リビジョン、説明、ノート、およびキーワードなどが含まれます。
- **連絡先：**ジョブの定義者やジョブに関連するその他の連絡先情報です。連絡先を含めておくと、問題が発生した場合により早く適切な担当者に連絡することができます。

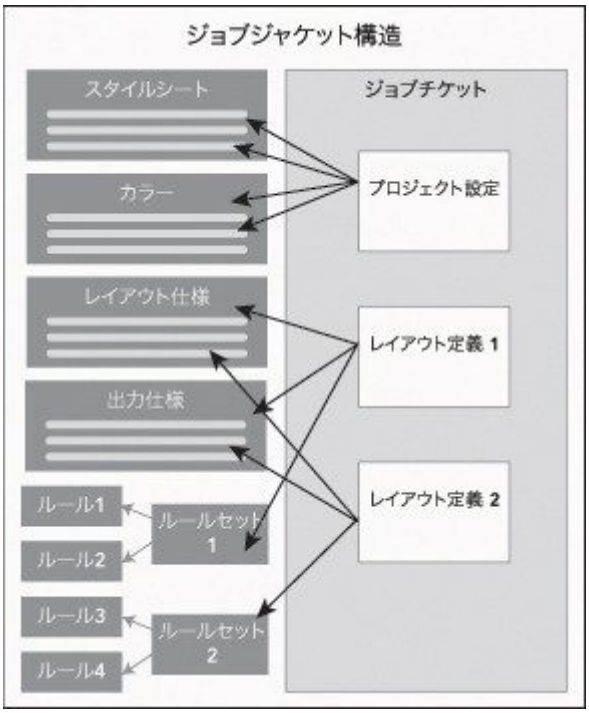
ジョブチケット

ジョブジャケットのリソースは、1つ以上の**ジョブチケット**で構成されています。各ジョブチケットには、QuarkXPressのプロジェクトに適用できる、特定リソースのセットが含まれています。

ジョブチケットでは、リソースは下記のように分類されます。

1. **プロジェクト設定値：**プロジェクトレベルのリソースで、単一のプロジェクトに適用できます。プロジェクト設定値には、スタイルシート、カラー、出力スタイル、およびカラーマネージメント設定などがあります。各ジョブチケットには、1組のプロジェクト設定値が含まれています。
2. **レイアウト定義：**レイアウトレベルのリソースセットで、1つのレイアウトに適用できます。ジョブチケットに、レイアウト定義を含めることができます。レイアウト定義には、下記の項目を含めることができます。

- レイアウトの仕様（ページサイズ、方向など）
- 出力仕様（特定の出力デバイス用の設定）
- ルールセット（レイアウトの検査用）
- メディアタイプ（印刷またはウェブ）
- カラーマネージメント設定（ソースセットアップおよび出力セットアップ）
- プルーフ仕様（出力のプルーフおよびプルーフ方法）
- 情報リソース（説明、ジョブの説明など）

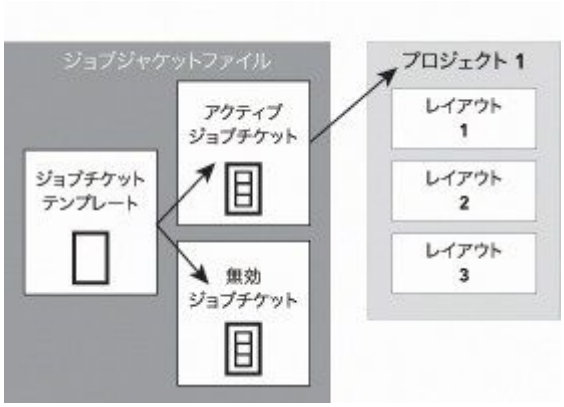


リソースは、ジョブジャケット構造に定義および保存されます。ジョブチケットには、各プロジェクトタイプ用のプロジェクト設定値、およびレイアウト用のレイアウト定義が含まれています。リソース定義は、ジョブチケットには「常駐」していません。ジョブチケットは、ジョブジャケット構造に常駐しているリソース定義を「参照」します。

ジョブチケットおよびジョブチケットテンプレート

ジョブチケットには下記の3種類があります。

- **ジョブチケットテンプレート**は、「マスター」ジョブチケットの定義です。ジョブチケットテンプレートには、マスターページやQuarkXPressテンプレートファイルに似たところもあります。
- **アクティブジョブチケット**は、特定のプロジェクトに関連付けられたジョブチケットテンプレートのコピーです。
- **無効ジョブチケット**は、プロジェクトに関連付けられていたが、現在はそのプロジェクトに関連付けられていないジョブチケットテンプレートのコピーです。プロジェクトを保存せずに閉じた場合などが該当します。



ジョブジャケットファイルには、ジョブチケットの定義を含んだジョブチケットテンプレート、特定のプロジェクトに関連付けられたアクティブジョブチケット、およびあるプロジェクトに関連付けられていたが、今はそのプロジェクトに関連付けられていない無効ジョブチケットを含めることができます。

複数のプロジェクトのジョブチケットを作成するときに、各ジョブチケットテンプレートを使用できます。各ジョブチケットは、1つのプロジェクトにのみ適用できます。ジョブチケットをプロジェクトに適用すると、そのジョブチケットのリソースがプロジェクトで使用可能になります。たとえば、プロジェクトは、ジョブチケットにリストされているすべての色、スタイルシート、レイアウト定義を継承します。

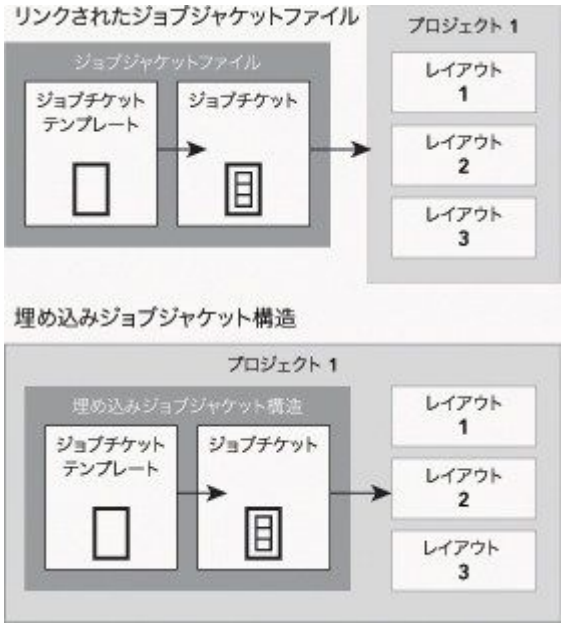
ジョブチケットをプロジェクトに適用する方法は2つあります。

- プロジェクトの作成時に、**ファイル > 新規 > チケットからプロジェクト作成**の順に選択し、次にジョブチケットテンプレートを選択します。QuarkXPressが、ジョブチケットテンプレートの情報を新規プロジェクトの新規ジョブチケットにコピーします。新規プロジェクトは、ジョブチケットテンプレートにある各レイアウト定義のあらかじめ設定されたレイアウトを自動的に含め、さらにジョブチケットテンプレートで定義されたすべてのプロジェクト設定も含めます。
- プロジェクトを作成するか、既存のプロジェクトを開き、**ファイル > ジョブジャケット > プロジェクトのリンク**の順に選択してから、ジョブチケットテンプレートを選択します。QuarkXPressは、再度ジョブチケットテンプレートの情報をこの特定プロジェクトの新規ジョブチケットにコピーします。そのプロジェクトは、ジョブチケットテンプレートで定義されたすべてのプロジェクト設定を取得し、ジョブチケットテンプレートにある各レイアウト定義に対して、あらかじめ設定されたレイアウトが新たに作成されます。

➡ ジョブチケットでは、作成元のジョブチケットテンプレートへのリンクは保持されません。ジョブチケットテンプレートに加えられた変更は、既存のジョブチケットには反映されません。

リンクジョブジャケットおよび埋め込みジョブジャケット

それぞれのQuarkXPressプロジェクトは、ジョブジャケット構造に関連付けられます。プロジェクトのジョブジャケット構造は、そのプロジェクトに埋め込まれるか、ローカルファイルシステムのXMLジョブジャケットファイルに保存されます。プロジェクトのジョブジャケット構造の場所は、プロジェクトの作成方法によって異なります。詳細は、「プロジェクトへのジョブチケットテンプレートの適用」を参照してください。



ジョブジャケット構造は、ファイルシステムにXMLファイルとして含めることも、プロジェクトファイルに埋め込むこともできます。

デフォルトでは、非埋め込みジョブジャケットファイルは、**QuarkXPress/編集**メニューにある**環境設定**ダイアログボックスの**ジョブジャケット**ペインで指定した場所に保存されます。また、ジョブジャケットファイルは好きな場所に保存することもできます。たとえば、ワークグループのレイアウト担当デザイナー間で1つのジョブジャケットを共有している場合（「*共有ジョブジャケットファイル*」を参照）、それぞれがネットワーク経由でアクセスできるように、共有しているジョブジャケットファイルをファイルサーバーに配置できます。

ジョブジャケットの保存先となるデフォルトの場所を変更するには、**QuarkXPress/編集**メニューにある**環境設定**ダイアログボックスの**ジョブジャケット**ペインに移動し、**Select the path**をクリックしてから**選択**ボタンをクリックし、対象ディレクトリを指定します。

ジョブジャケットのワークフロー例

本トピックでは、ジョブジャケットのワークフローについて説明します。ここで説明するのは、実行可能なワークフローの1つであり、ジョブジャケットの使用方法を説明するための一例です。使用されている用語の定義は下記のとおりです。

- **ジョブの定義者：**ページ番号、サイズ、カラーなどの印刷ジョブに必要な設定に精通しているユーザーです。
- **出力担当者：**印刷ジョブの作成方法、および目的の印刷機で正しく印刷するための設定方法を熟知しているユーザーです。
- **レイアウト作成者：**QuarkXPressで実際にレイアウトを作成するユーザーです。

ジョブジャケットのワークフローは下記のとおりです。

1. 出力担当者とジョブの定義者が共同で、印刷ジョブ（または関連する印刷ジョブのセット）に適した出力仕様とルールを定義します。これには、ページサイズ、ページ数、カラーリスト、トラップ設定、スタイルシート、ラインの太さおよび取り込む画像のカラースペースの有効範囲などが含まれます。

2 ジョブの定義者は、これらの仕様やルールに従って、ジョブジャケットファイル内にジョブチケットテンプレートを作成します。ジョブチケットテンプレートは、個々のプロジェクトについて記述したもので、そのプロジェクト内の各レイアウトについてさまざまな仕様やルールを含めることができます。ただし、ここでは、ジョブチケットテンプレートにレイアウトが1つしか定義されていない場合を想定しています。ジョブジャケットファイルを作成し終えると、ジョブの定義者はそのファイルをレイアウト作成者に渡します。

3 レイアウト作成者は、**ファイル > 新規 > チケットからプロジェクト作成**コマンドを使用して、ジョブチケットテンプレートからプロジェクトを作成します。QuarkXPressは、自動的にジョブチケットテンプレートからジョブチケットを作成して、そのジョブチケットをプロジェクトに関連付けます。QuarkXPressは、ジョブチケットを読み込み、自動的にジョブチケットのすべてのリソース（カラー、スタイルシート、カラーマネージメント設定など）をプロジェクトに挿入します。また、QuarkXPressは、ジョブチケット内で定義されたすべてのレイアウトを自動的に作成します。

4 レイアウト作成者は、ジョブチケットを一組のガイトラインとして使用して、レイアウトを作成します。レイアウト作成者は、定期的に**ファイル > ジョブジャケット > レイアウトを評価**を選択して、ジョブチケットに定義されているガイドラインに準拠していることを確認します。レイアウトの評価を実行すると、ダイアログボックスに従ってジョブチケットに定義されているルールに違反している設計要素を特定し、そこに移動することができます。これにより、レイアウト作成者は、プリプレスまで問題を放置しておくのではなく、問題の発生時にその問題を修正することができます。

5 レイアウトが完成すると、レイアウト作成者は、直接印刷、出力ファイルの収集、PDF（またはPDF/X）への書き出しなどの方法で出力に送信します。ジョブジャケットファイルに出力仕様が含まれている場合は、それらの出力仕様のフォーマットおよび設定値を使用してジョブを出力に送信できます。レイアウトはジョブチケットテンプレートに指定された仕様に準拠して作成されているため、印刷時には正しいレイアウトになります。

ジョブジャケットの使用

ジョブジャケット情報は、XML形式で保存されます。ただし、QuarkXPressには、ジョブジャケットの作成と変更を簡単に行える総合的なインターフェイスが用意されています。次のトピックでは、ジョブジャケットユーザーインターフェイスの基本を説明しています。

基本モードと詳細設定モード

➡ **基本モード**は Windowsでのみ利用できます。

ジョブジャケットマネジャーダイアログボックス（**ユーティリティ > ジョブジャケットマネジャー**）には、ジョブの定義者がジョブジャケットとジョブジャケットを構成するコンポーネントの作成と設定を行える、統一されたインターフェイスが提供されています。

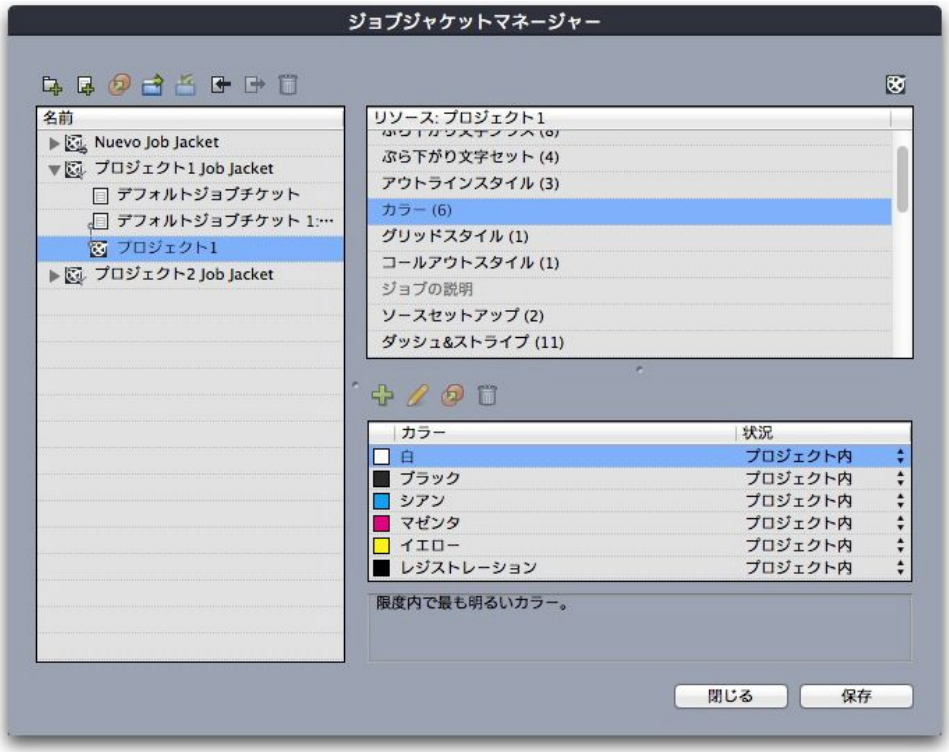
デフォルトで**ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックスには、ジョブジャケットフォルダにあるジョブジャケット（「*デフォルトのジョブジャケットファイル*」を参照）、および開いているすべてのプロジェクトに関連するジョブジャケットが表示され

ます。アクティブなプロジェクトが存在する場合、アスタリスク付きで太字で表示されます。

ジョブジャケットマネジャーダイアログボックスには、以下に挙げる2つのモードがあります。

- **（Windowsのみ）基本モード**は、ジョブジャケットの詳細JDF機能を使用する必要のない、レイアウト作成者やジョブの定義者向けの機能です。基本モードでは、ジョブジャケットの作成や管理、共有に必要なすべてのコントロールが用意されています。
- **詳細設定モード**は、ワークフローの統合部分を自動化するのにJDFの機能が必要な製品管理者向けです。詳細設定モードは、基本モードに加え、ルールなどの追加リソース、および製本およびクロスオーバーの仕様などのJDFのみのリソースにアクセスできる、別のユーザーインターフェイスを使用します。

（Windowsのみ）詳細設定モードを使用するには、**ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックス（**補助**メニュー）を開き、**詳細設定**ボタンをクリックします。基本モードに戻すには、**基本設定**ボタンをクリックします。



ジョブジャケットマネジャーダイアログボックス（**ユーティリティ > ジョブジャケットマネジャー**）では、ジョブの定義者がジョブジャケットファイルとコンポーネントを操作できます。このダイアログボックスには、基本モード（上）と詳細設定モード（下）があります。

ジョブジャケットファイルの作成

まず、ジョブの定義者は、**どのような場合**に、**どのような理由で**ジョブジャケットファイルを作成する必要があるでしょうか。特に厳密な規則はなく、必要に応じて、すべての印刷ジョブのジョブチケットを1つの大きなジョブジャケットファイルに入れることができます。ただし、独立したジョブジャケットファイルが必要となる場合を示すガイドラインがいくつかあります。

- 同一リソース（カラー、スタイルシート、トラップ設定、カラーマネージメント設定、およびページサイズ）を共有する多数の印刷ジョブを作成する場合、このような印刷ジョブすべてに対して1つのジョブジャケットファイルを作成します。それぞれが独自のビジュアルアイデンティティを持つ、いくつかの異なるクライアントを抱えるデザイン事務所の場合は、各クライアントに1つのジョブジャケットファイルを作成します。
- 設計グループを担当し、プロモーションキャンペーンなどの特定プロジェクトで作業する各レイアウト作成者が同一リソースを使用するようにする場合、ジョブジャケットファイルと、リソースを含むジョブチケットテンプレートを作成して、レイアウト作成者全員がそのジョブジャケットファイルを共有するようにします。
- 出力プロバイダーであり、特定要件を持つ特定印刷機がある場合、カスタマーの印刷機の要件をキャプチャしたジョブジャケットファイルを作成することで、要件範囲の超過を避けることができます。印刷機の要件を含むジョブジャケットファイルを、印刷機の製造元からダウンロードすることもできます。

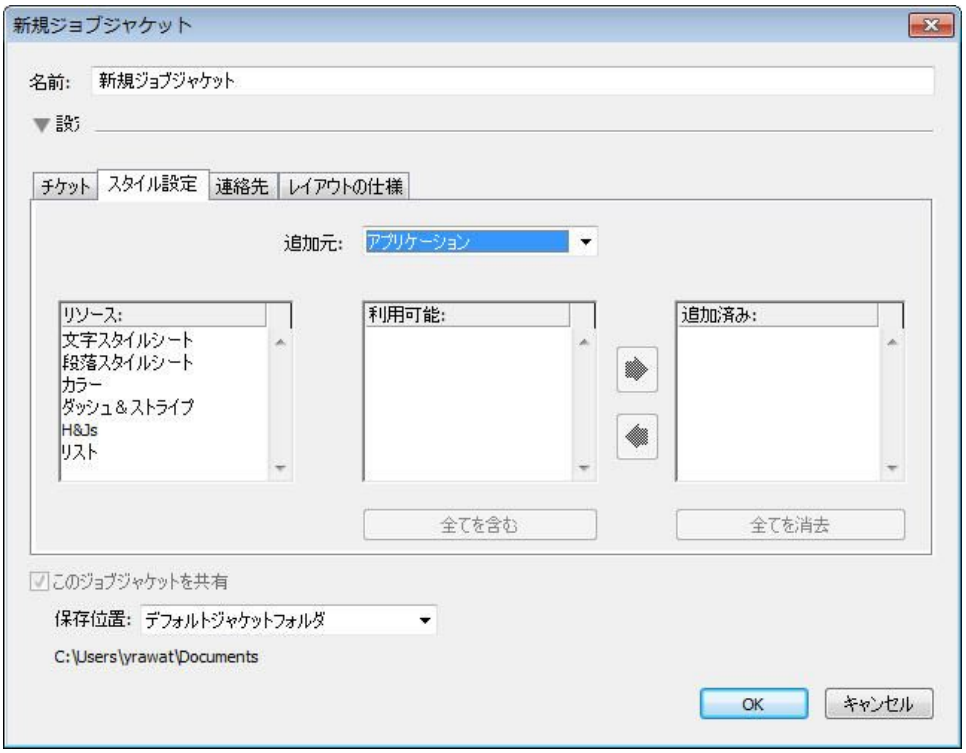
ジョブジャケットファイルの作成：基本モード （Windowsのみ）

基本モードを使用してジョブジャケットファイルを作成するには、下記の手順に従ってください。

1. **ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックス（**補助 > ジョブジャケットマネジャー**）を開きます。
2. ダイアログボックスに複数のリストが表示される場合は、**基本設定**をクリックして基本設定画面を表示します。
3. **新規ジョブジャケット**ボタンをクリックします。**新規ジョブジャケット**ダイアログボックスが表示されます。
4. **名前**フィールドにジョブジャケットファイルの名前を入力します。
5. 複数のユーザーがこのジョブジャケットファイルを共有できるようにする場合は、**このジャケットを共有**をオンにします。このチェックボックスをオンにしない場合は、そのジョブジャケットファイルがアクティブなプロジェクト（存在する場合）に埋め込まれます。ここでジョブジャケットファイルを共有するように指定しない場合は、別のときに**グループ作業設定**ダイアログボックス（**ファイル**メニュー）を使用して共有を設定できます。詳細は、「*共有ジョブジャケットのグループ作業*」を参照してください。
6. 前の手順で**このジャケットを共有**をオンにした場合は、**保存位置**ドロップダウンメニューからオプションを選択することによって、ジョブジャケットファイルを保存するロケーションを指定します。

   - デフォルトのロケーションを使用する場合（「*リンクジョブジャケットおよび埋め込みジョブジャケット*」を参照）は、**デフォルトジャケットフォルダ**を選択してください。
   - アクティブなプロジェクトと同じフォルダに共有ジョブジャケットファイルを保存するには、**プロジェクトフォルダ**を選択します。
   - 別の場所に共有ジョブジャケットファイルを保存するには、**その他**を選択してターゲットディレクトリ（すべてのレイアウト作成者がアクセス可能なネットワーク接続されたボリュームなど）を参照します。

7. **設定**コントロールをクリックして、**チケット**、**スタイル設定**、**連絡先**、および**レイアウトの仕様**タブを表示します。



新規ジョブジャケットダイアログボックスでは、新規ジョブジャケットファイルにリソースを追加できます。

8 **チケット**タブでは、ジョブジャケットファイルにジョブチケットテンプレートを追加します。詳細は、「*ジョブチケットテンプレートの作成：基本モード （Windowsのみ）*」を参照してください。

9 **スタイル設定**タブでは、ジョブジャケットファイルにリソースを追加します。**追加元**オプションを使用して、さまざまなソースからプロジェクトレベルのリソースを追加できます。

- アプリケーションのデフォルト設定からリソースを追加するには、**アプリケーション**をクリックします。
- プロジェクトファイルまたは別のジョブジャケットファイルからリソースを追加するには、**その他**をクリックし、次に**選択**をクリックしてターゲットファイルに移動します。

ジョブチケットテンプレートにリソースをコピーするには、ダイアログボックスの下部にある3つのリストを使用します。最初のリストからリソースの種類を選択し、次に2番目のリストから特定のリソースを選択し、ボタンをクリックして選択したリソースを3番目のリストにコピーします（3番目のリストにはジョブチケットテンプレート内にあるこの種類のリソースが表示されます）。

ジョブジャケットファイルからリソースを削除するには、最初のリストからリソースの種類を選択し、次に3番目のリストで特定のリソースを選択して、**消去**ボタンをクリックします。

10 連絡先を指定すれば、QuarkXPressファイルを使用する作業者は、問題が生じたときにジョブの定義者とすぐに連絡を取ることができます。ジョブジャケットファイルにJDF連絡先情報を追加するには、**連絡先**タブをクリックし、次に**新規アイテム**ボタンをクリッ

クして連絡先を追加します。新規連絡先の横にある展開記号をクリックしてフィールドを表示し、フィールドごとに詳細を入力します。

11 レイアウトの仕様では、自動生成されるレイアウトのページサイズやページ数のような属性を設定できます。ジョブジャケットファイルにレイアウトの仕様を追加するには、**レイアウトの仕様**タブをクリックし、次に**新規アイテム**ボタンをクリックします。新しいレイアウトの仕様の横にある展開ボタンをクリックしてフィールドを表示し、フィールドごとに詳細を入力します。

12 OKをクリックします。

ジョブジャケットファイルの作成：詳細設定モード

詳細設定モードを使用してジョブジャケットファイルを作成するには、下記の手順に従ってください。

1 **ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックス（**補助**メニュー）を開きます。

2 ダイアログボックスにリストが1つだけ表示される場合は、**詳細設定**をクリックして詳細設定画面を表示します。

3 **新規ジョブジャケット**ボタンをクリックします。**新規ジョブジャケット**ダイアログボックスが表示されます。

4 ジョブジャケットファイルの名前を入力し、ターゲットディレクトリに移動して、**保存**をクリックします。複数のレイアウト作成者が同じジョブジャケットファイルにアクセスできるようにする場合は、すべてのレイアウト作成者がネットワークからジョブジャケットファイルにアクセスすることが可能なディレクトリを選択できます。

5 「*ジョブジャケットファイルへのリソースの追加：詳細設定モード*」の説明に従って、ジョブジャケットファイルにリソースを追加します。

ジョブジャケットファイルへのリソースの追加：詳細設定モード

下記の手順は、既存のプロジェクトのリソースを使用してジョブジャケットファイルを作成する場合に便利です。たとえば、去年のパンフレットプロジェクトのコピーがあり、そのパンフレットプロジェクトのスタイルシートやカラーなどをすべて新規のジョブジャケットファイルで使用する場合は、この手順を実行してください。また、この手順を使用して、ジョブジャケットファイルから別のジョブジャケットファイルにリソースをコピーすることもできます。

詳細設定モードでジョブジャケットファイルにリソースを追加するには、下記の手順に従ってください。

1 **ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックス（**補助**メニュー）を開きます。

2 ダイアログボックスにリストが1つだけ表示される場合は、**詳細設定**をクリックして詳細設定画面を表示します。

3 リソースのコピー元を指定します。

- ジョブジャケット構造、ジョブチケットテンプレート、またはジョブチケットからリソースをコピーするには、左側のリストでソースアイテムを選択します。
- 開いているプロジェクトからリソースをコピーするには、左側のリストでそのプロジェクトを選択します。

- アプリケーションのデフォルトからリソースをコピーするには、**アプリケーションリソースの読み込み**ボタンをクリックします。

4 右上のリストでリソースカテゴリを選択します。

5 右下のリストから左側のリストにある対象のジョブジャケットアイコンに、個々のリソースをドラッグ＆ドロップします。

ジョブチケットまたはプロジェクトにリソースをドラッグすることもできます。

ジョブジャケット内でのリソース位置の変更についての詳細は、「*リソースの場所の指定：詳細設定モード*」を参照してください。

ジョブチケットの使用

ジョブチケットとは、1つ以上のQuarkXPressプロジェクトに適用できる仕様およびルールであるリソースのセットです。各ジョブチケットには名前があり、特定のジョブジャケット構造に保存されます。ジョブチケットには、カラー、スタイルシート、およびカラーマネージメント設定などのプロジェクトレベルリソースと、レイアウト仕様およびレイアウト定義などのレイアウトレベルリソースの両方が含まれています。

ジョブチケットには下記の3種類があります。

- **ジョブチケットテンプレート**は、「マスター」ジョブチケットの定義です。ジョブチケットテンプレートには、マスターページやQuarkXPressテンプレートファイルに似たところもあります。
- **アクティブジョブチケット**は、特定のプロジェクトに関連づけられたジョブチケットテンプレートのコピーです。
- **無効ジョブチケット**は、プロジェクトに関連づけられていたが、現在はそのプロジェクトに関連付けられていないジョブチケットテンプレートのコピーです。プロジェクトを保存せずに閉じた場合などが該当します。

ジョブチケットテンプレートの作成

ここでは、独立したジョブチケットテンプレートを作成する場合のガイドラインを示します。

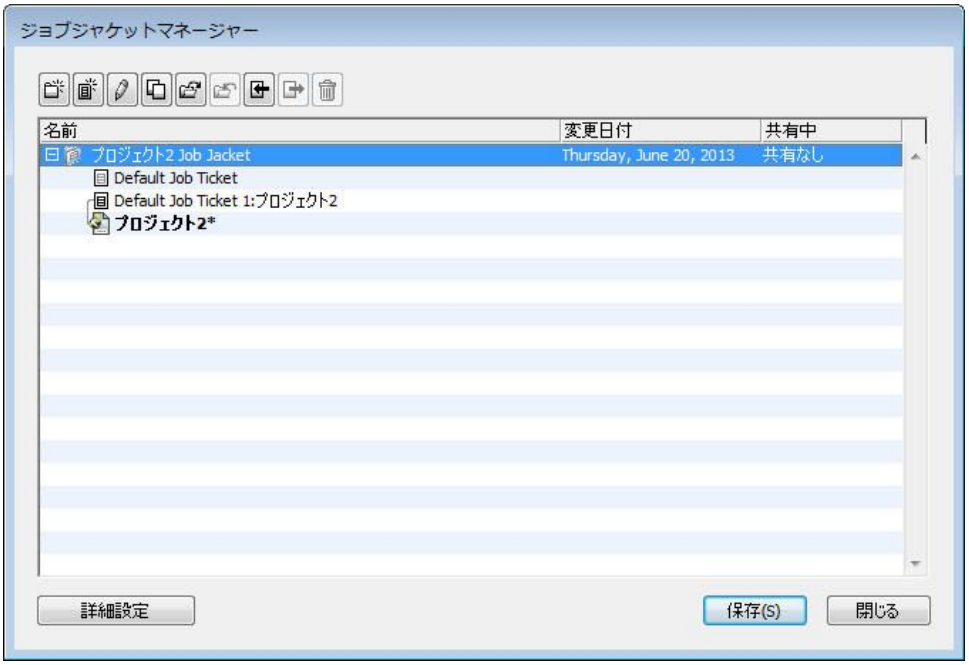
- ニュースレターや雑誌などの何度も行う印刷ジョブがある場合、そのジョブのジョブチケットテンプレートを作成できます。
- 単一のキャンペーンやテーマを基にして、いくつかのタイプのレイアウト（ポスター、ポストカード、ウェブサイト、およびFlashプレゼンテーションなど）を作成する場合、各レイアウトのジョブチケットテンプレートを作成して、すべてのジョブチケットテンプレートを単一のジョブジャケットファイルに格納できます。このようにして、すべてのレイアウトが同一スタイルシート、カラーなどを共有できます。
- 広告フォーマットなどの多数のユーザーが使用する標準フォーマットがある場合、ジョブチケットテンプレートを使用して、ガイドラインに従った広告をカスタマーが作成するようにできます。
- レイアウト作成者のグループで、全員が同じスタイルシート、カラー、またはその他リソースを使用し、リソースが万が一変更されてもレイアウト作成者間でリソースが同期

されるようにする必要がある場合、共有ジョブジャケットファイルを介してレイアウト作成者がリソースにアクセス可能となるように、リソースをジョブチケットテンプレートに格納します。このアプローチは、大きな組織で企業ブランド規格を維持するのに役立ちます。

ジョブチケットテンプレートの作成：基本モード（Windowsのみ）

基本モードを使用してジョブジャケット構造にジョブチケットテンプレートを追加するには、下記の手順に従ってください。

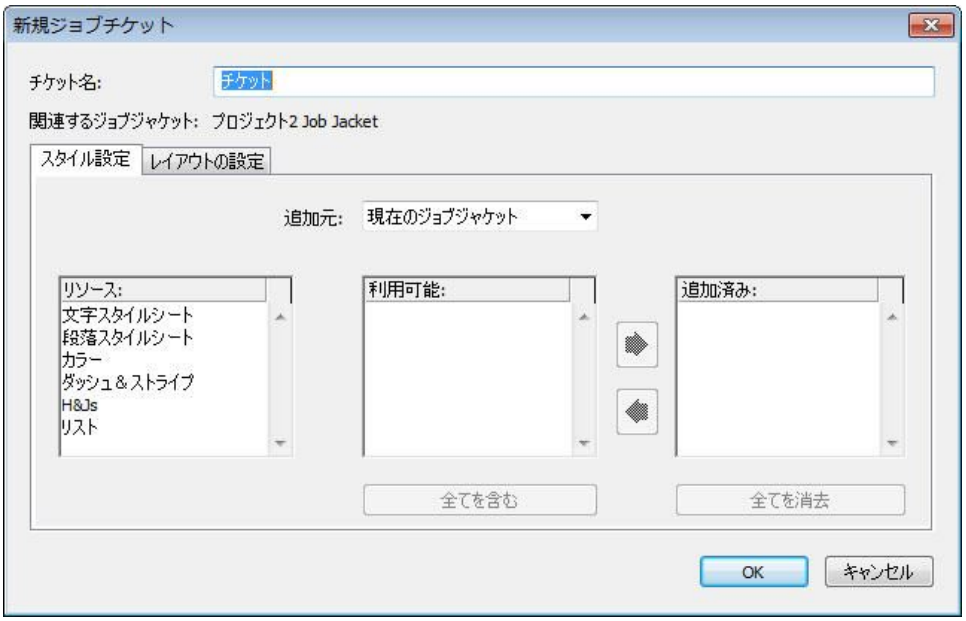
1 **ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックス（**補助 > ジョブジャケットマネジャー**）を開きます。ダイアログボックスに複数のリストが表示される場合は、**基本設定**をクリックして基本設定画面を表示します。



ジョブチケットテンプレートは、**ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックス（**補助**メニュー）の基本設定画面で作成できます。

2 ジョブチケットテンプレートを含めるジョブジャケット構造を選択します。

3 **新規チケットのテンプレート**ボタンをクリックします。**新規ジョブチケット**ダイアログボックスが表示されます。



新規ジョブチケットダイアログボックスでは、新規ジョブチケットテンプレートにリソースを割り当てることができます。

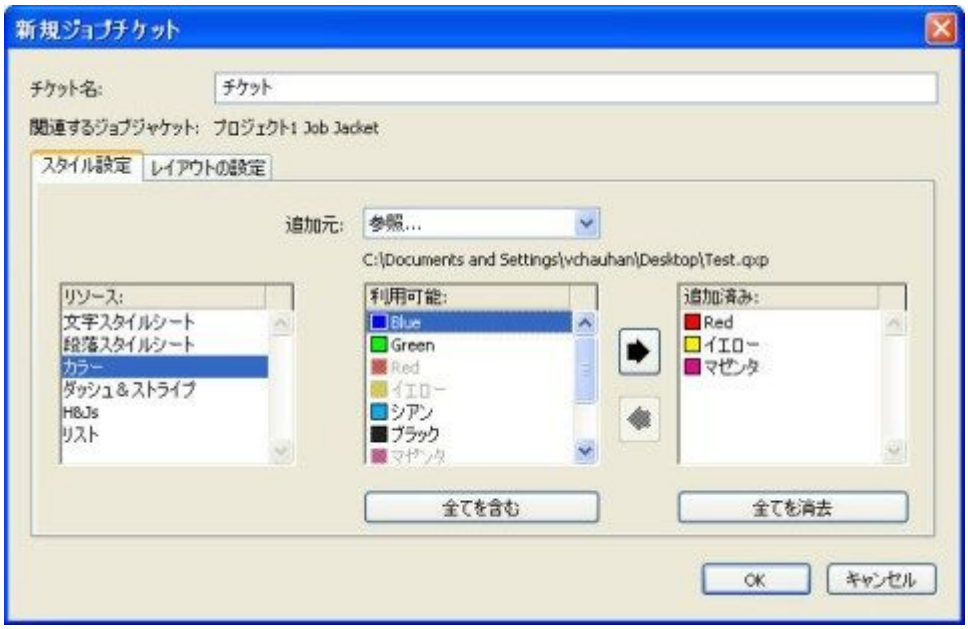
4 「*ジョブチケット内のリソースの使用：基本モード （Windowsのみ）*」の説明に従って、新規ジョブチケットテンプレートを設定します。

ジョブチケットの編集：基本モード （Windowsのみ）

プロジェクトのアクティブなジョブチケットを編集するには、プロジェクトを開いて、**ファイル > ジョブジャケット > ジョブチケットの変更**を選択します。**ジョブジャケットの編集**ダイアログボックスが表示されます。**ジョブチケットの編集**ダイアログボックスの使用方法についての詳細は、「*ジョブチケット内のリソースの使用：基本モード （Windowsのみ）*」を参照してください。

ジョブチケット内のリソースの使用：基本モード （Windowsのみ）

本トピックでは、**新規ジョブチケット**ダイアログボックスまたは**ジョブチケットの編集**ダイアログボックスを使用して、ジョブチケットまたはジョブチケットテンプレートのリソースを追加および削除する方法を説明します。上記の2つのダイアログボックスは基本的に同じものですが、**ジョブチケットの編集**ダイアログボックスは、ジョブチケットで作業する場合とジョブチケットテンプレートで作業する場合で画面が多少異なります。



新規ジョブチケットおよび**ジョブチケットの編集**ダイアログボックスで、ジョブチケットテンプレートまたはジョブチケットにリソースを追加できます。

新規ジョブチケットまたは**ジョブチケットの編集**ダイアログボックスを使用したリソースの割り当てについては、下記の手順に従ってください。

1 プロジェクトレベルのリソースを追加または削除するには、**スタイル設定**タブ（ジョブチケットテンプレートの場合）、または**プロジェクト設定**タブ（アクティブおよび無効ジョブチケットの場合）のコントロールを使用します。

追加元ドロップダウンメニューを使用して、さまざまなソースからプロジェクトレベルのリソースを追加できます。

- ジョブチケットの親ジョブジャケット構造からリソースを追加する場合は、**現在のジャケット**を選択します。
- アクティブプロジェクトからリソースを追加するには、**現在のリンクしたプロジェクト**を選択します。
- アプリケーションのデフォルトからリソースを追加するには、**アプリケーション**を選択します。
- プロジェクトファイル、またはジョブジャケットファイルからリソースを追加するには、**その他**を選択してから**選択**をクリックして、追加先のファイルに移動します。

リソースをジョブチケットにコピーするには、ダイアログボックスの下部にある3つのリストを使用します。最初のリストでリソースのタイプを選択し、2番目のリストで特定のリソースを選択して右向き矢印をクリックし、リソースを3番目のリストにコピーします。3番目のリストには、選択したタイプのリソースで既にレイアウト定義に入っているものが表示されています。

ジョブチケットからリソースを削除するには、最初のリストでリソースのタイプを選択してから、3番目のリストで削除するリソースを選択し、左向き矢印をクリックします。

2 レイアウト定義がある場合、QuarkXPressは、このジョブチケットがプロジェクトに適用されると自動的にレイアウトを作成します。レイアウト定義を作成するときに、レイ

アウトの仕様（ページサイズやページ数など）、メディアタイプ（印刷、ウェブ、またはインタラクティブ）、ルールセット、および出力仕様を指定できます。

レイアウト定義をジョブチケットに追加するには、**レイアウトの設定**タブをクリックしてから**+**ボタンをクリックします。これでレイアウト定義がリストに追加されます。

選択したレイアウト定義を設定するには、まず、**レイアウトプロパティ**コントロールをクリックして、レイアウトプロパティコントロールを表示します。

- レイアウト定義に名前を付けるには、**レイアウト名**フィールドに名前を入力します。この名前は、自動的に生成されるレイアウトに適用されます。
- レイアウト定義にページサイズおよびページ数などの情報を指定するには、**レイアウトの仕様**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。ただし、レイアウトの仕様がジョブジャケット構造内に存在していないと、レイアウトの仕様を選択することはできません。「*ジョブジャケットファイルの作成*」を参照してください。
- このレイアウト定義を使用して自動的に作成するレイアウトのタイプを指定するには、**メディアタイプ**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。
- ルールセットおよび出力仕様を親ジョブジャケット構造からレイアウト定義にコピーするには、ダイアログボックスの下部にある3つのリストを使用します。最初のリストでリソースのタイプを選択し、2番目のリストで特定のリソースを選択してボタンをクリックし、リソースを3番目のリストにコピーします。3番目のリストには、選択したタイプのリソースで既にレイアウト定義に入っているものが表示されています。

  レイアウト定義を削除するには、定義を選択して**−**ボタンをクリックします。

3 ジョブチケットの設定が終了したら、OKをクリックします。

ジョブチケットテンプレートの作成：詳細設定モード

詳細設定モードを使用してジョブジャケット構造にジョブチケットテンプレートを追加するには、下記の手順に従ってください。

1 **ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックス（**補助 > ジョブジャケットマネジャー**）を開きます。ダイアログボックスにリストが1つだけ表示される場合は、**詳細設定**をクリックして詳細設定画面を表示します。

2 新規ジョブチケットテンプレートの保存先を指定するには、左側のリストでジョブジャケットアイコンを作成または選択します。

3 **新規チケットのテンプレート**ボタンをクリックします。選択したジョブジャケット構造にジョブチケットテンプレートが追加されます。

4 「*ジョブチケット内のリソースの使用：詳細設定モード*」の説明に従って、新規ジョブチケットテンプレートを設定します。

ジョブチケット内のリソースの使用：詳細設定モード

ジョブチケットのリソースは、下記のような場合に使用します。

- 既存のプロジェクト内のリソースを使用してジョブチケットテンプレートを作成する場合。たとえば、去年のパンフレットのプロジェクトで使用したスタイルシート、カラーなどのすべてを、新しいジョブチケットテンプレートまたは既存のプロジェクトでアクティブになっているジョブチケットでも使用する場合には、この方法を使用します。

- リソースを1つのジョブチケットから別のジョブチケットへコピーする場合。
- リソースをジョブジャケット構造またはプロジェクトからジョブチケットにコピーする場合。

詳細設定モードを使用したリソースのジョブジャケット構造への追加については、下記の手順に従ってください。

1 **ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックス（**補助**メニュー）を開きます。
2 ダイアログボックスにリストが1つだけ表示される場合は、**詳細設定**をクリックして詳細設定画面を表示します。
3 リソースのコピー元を指定します。

- リソースをジョブジャケット構造、ジョブチケットテンプレートまたはジョブチケットからコピーするには、左上のリストからソースアイテムを選択します。
- 開いているプロジェクトからリソースをコピーするには、左側のリストでそのプロジェクトを選択します。
- アプリケーションのデフォルトからリソースをコピーするには、**アプリケーションリソースの読み込み**ボタンをクリックします。

4 右上のリストでリソースカテゴリを選択します。
5 個々のリソースを右下のリストからコピー先である左側のリストのジョブチケットテンプレートまたはジョブチケットにドラッグ＆ドロップします。

ジョブチケットへのレイアウト定義の追加：詳細設定モード

レイアウト定義は、いくつかの仕様を含む1つのグループであり、それらの仕様が組み合わさって単一のレイアウトが記述されます。レイアウト定義には、メディア（出力）タイプ（印刷、ウェブ、またはインタラクティブ）、出力仕様、およびルールセットなどのリソースがあります。

ジョブチケットテンプレートからプロジェクトを作成する場合、QuarkXPressは、ジョブチケットテンプレートでレイアウト定義ごとにレイアウトを自動的に作成します。レイアウト定義にレイアウトの仕様が含まれていない場合は、QuarkXPressに**新規プロジェクト**ダイアログボックスが表示されるので、ページのサイズや余白などを指定できます。

レイアウト定義をアクティブなジョブチケットに追加すると、そのレイアウト定義に基づいてレイアウトが作成され、対応するプロジェクトに自動的に追加されます。

ジョブチケットテンプレートにレイアウト定義を追加するには、下記の手順に従ってください。

1 **ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックス（**補助 > ジョブジャケットマネジャー**）を開き、左側のリストで対象のジョブチケットを選択します。
2 リソースのコントロール類を表示するには、**詳細設定**ボタンをクリックします。
3 右上のリストで**レイアウト**を選択します。ジョブチケット内のレイアウト定義は、すべて右下のリストに表示されます。
4 右下のリストの上にある**新規アイテム**ボタンをクリックします。"レイアウト"という名前のレイアウト定義が追加されます（レイアウト定義に付ける名前は、プロジェクトを

作成するときに実際のレイアウトに適用される名前です。レイアウト定義の名前を変更するには、名前をダブルクリックして新しい名前を入力します）。

5 レイアウト定義名の横にある展開ボタンをクリックして、レイアウト定義のフィールドを表示します。

6 使用するフィールドの値を指定または入力します。

7 **保存**をクリックします。

レイアウト定義の使用についての詳細は、「*プロジェクトへのレイアウト定義の適用*」を参照してください。

プロジェクトへのジョブチケットテンプレートの適用

ジョブチケットテンプレートをプロジェクトに適用するには、下記の2つの方法があります。

- ジョブチケットテンプレートからプロジェクトを作成します。
- 既存プロジェクトをジョブチケットテンプレートにリンクします。

いずれの場合も、ジョブチケットはジョブチケットテンプレートから作成され、新規ジョブチケットインスタンスが新規プロジェクトに適用されます。下記のトピックでは、両方のアプローチについて説明します。

ジョブチケットテンプレートからのプロジェクトの作成

ジョブチケットテンプレートからプロジェクトを作成する場合、常にそのジョブチケットテンプレートからジョブチケットを作成します。ジョブチケットの保存先として、共有ジョブジャケットファイルか、またはプロジェクトファイル内の埋め込みジョブジャケット構造のいずれかを選択できます。

ジョブチケットテンプレートからプロジェクトを作成するには、下記の手順に従ってください。

1 **ファイル > 新規 > チケットからプロジェクト作成**を選択します。**チケットから新規プロジェクト作成**ダイアログボックスが表示されます。

チケットから新規プロジェクト作成ダイアログボックスを使用して、新規プロジェクト用のジョブチケットテンプレートを選択します。

2 必要なジョブジャケット構造が表示されない場合は、**参照**をクリックし、ジョブジャケットファイルに移動して**開く**をクリックします。

3 リストで対象のジョブチケットテンプレートを選択します（無効ジョブチケットを選択することもできます）。

4 下記の操作を行って、**ジャケットの共有**チェックボックスをオンまたはオフにします。

- 外部のジョブジャケットファイルにこのプロジェクトのアクティブなジョブチケットを保存し、ジョブチケットがそのジョブジャケットファイルの他のユーザーとリソースを共有できるようにするには、**ジャケットの共有**をオンにします（詳細は、「*共有ジョブジャケットのグループ作業*」を参照してください）。
- プロジェクトファイルの埋め込みジョブジャケット構造にこのプロジェクトのジョブチケットを保存するには、**ジャケットの共有**をオフにします。

5 **選択**をクリックします。新規プロジェクトはジョブチケットテンプレートのプロジェクト設定を継承し、ジョブチケットテンプレート内のレイアウト定義に従ってレイアウトが自動的に作成されます。

➡ ジョブチケットをデフォルトのジョブジャケット構造に保存することはできません。したがって、デフォルトのジョブジャケット構造にあるジョブチケットテンプレートからプロジェクトを作成し、**ジャケットの共有**をオンにする場合は、新規ジョブジャケットファイルをファイルシステムに保存するように指示されます。

ジョブジャケットファイルへの既存のプロジェクトのリンク

既存のプロジェクトをジョブジャケットファイルにリンクするには、現在プロジェクトでアクティブになっているジョブチケットを削除して、そのプロジェクトを他のジョブ

ジャケットファイルのジョブチケットテンプレートで作成された新しいジョブチケットにリンクします。この方法は、たとえば、既存のプロジェクトを他のレイアウト作成者によってアクティブにされたジョブチケットが入っているジョブジャケットファイルにリンクして、両方のレイアウト作成者が使用しているリソースを同期する場合に選択します。詳細は、「*共有ジョブジャケットのグループ作業*」を参照してください。

既存のプロジェクトへのジョブチケットの適用については、下記の手順に従ってください。

1 プロジェクトを作成するか、開きます。

2 **ファイル > ジョブジャケット > プロジェクトのリンク**を選択します。**プロジェクトのリンク**ダイアログボックスが表示されます。

3 必要なジョブジャケットが表示されない場合は、**参照**をクリックしてそのファイルに移動して、**開く**をクリックします。

4 リストで対象のジョブチケットテンプレートを選択します

5 下記の操作を行って、**ジャケットの共有**チェックボックスをオンまたはオフにします。

- このプロジェクトのジョブチケットを、ターゲットのジョブチケットテンプレートが含まれているジョブジャケットファイルに保存するには、**ジャケットの共有**チェックボックスをオンにします。
- プロジェクトファイルの埋め込みジョブジャケット構造にこのプロジェクトのジョブチケットを保存するには、**ジャケットの共有**をオフにします。

6 **リンク**をクリックします。プロジェクトでは、ジョブチケットテンプレートのプロジェクト設定値が継承され、レイアウト作成時に、自動的にそのジョブチケットテンプレートのレイアウト定義が適用されます。

➡ ジョブチケットテンプレートをデフォルトのジョブジャケット構造で使用し、かつ**ジャケットの共有**チェックボックスをオンにする場合は、新しいジョブジャケットファイルをファイルシステムに保存することを促すメッセージが表示されます。これは、ジョブチケットは、デフォルトのジョブジャケット構造には保存できないためです。

ジョブチケットの関係の表示

補助メニューの**ジョブジャケットマネージャー**ダイアログボックスには、ジョブジャケット、ジョブチケットテンプレート、ジョブチケット、およびプロジェクトの間の関係を表示できます。このダイアログボックスに表示されるアイコンは、下記のとおりです。

- ジョブジャケット構造（リンク付き）
- ジョブジャケット構造（埋め込み）
- ジョブチケットテンプレート
- アクティブジョブチケットまたは無効ジョブチケット
- プロジェクト（太字のプロジェクト名は、アクティブプロジェクトであることを示します）

アクティブジョブチケットにリンクされているプロジェクトは、下記のように表示されます。

アクティブジョブチケットにリンクされているプロジェクト

無効ジョブチケットには、アイコンがついていますが、プロジェクトにはリンクされていません。つまり、プロジェクトは移動、削除された、または保存されなかったと考えられます。

プロジェクトへのレイアウト定義の適用

レイアウト定義では、一連の設定を組み合わせてレイアウトを定義します。これらの設定には、メディアタイプ（印刷、ウェブ、またはインタラクティブ）、ルールセット、出力セットアップ、およびカラーマネージメントソースセットアップを含めることができます。レイアウト定義には、ページサイズやページ数などのレイアウトの仕様を含めることもできます（レイアウトの仕様はジョブジャケットレベルに作成する必要があります）。

プロジェクトをジョブチケットテンプレートに関連付けると、各レイアウト定義のレイアウトがそのジョブチケットテンプレートに自動的に作成されます。このようなレイアウトには、基のレイアウト定義と同じ名前が付けられます。

レイアウト定義をプロジェクトに適用するには、下記の2つの方法があります。

- 「*ジョブチケットテンプレートからのプロジェクトの作成*」の説明に従って、レイアウト定義が含まれるジョブチケットからプロジェクトを作成します。
- プロジェクトを作成したら、「*ジョブジャケットファイルへの既存のプロジェクトのリンク*」の説明に従ってジョブチケットをアクティブなプロジェクトにリンクします。

いずれのアプローチを使用しても、定義されたレイアウトが自動的に作成されます。

ジョブチケットの書き出しと取り込み

ジョブの定義者が、ジョブチケットテンプレートやジョブチケットをジョブジャケットファイルから別のジョブジャケットファイルにコピーしたり、ジョブジャケット構造のジョブチケットテンプレートとジョブチケットすべてを別のジョブジャケット構造に取り込んだりする必要がある場合があります。ジョブチケットの書き出し機能と取り込み機能で両者とも実行できます。

ジョブチケットテンプレートまたはジョブチケットの書き出し

ジョブチケットテンプレートまたはジョブチケットの書き出しについては、下記の手順に従ってください。

1. **補助**メニューの**ジョブジャケットマネージャー**ダイアログボックスを開き、左側のリストから書き出しを行うジョブチケットを1つ以上を選択します。
2. 左側のリストの上の**チケットの書き出し**ボタンをクリックします。**新規ジョブチケット**ダイアログボックスが表示されます。
3. 名前と場所を指定して、**保存**をクリックします。選択したすべてのジョブチケットが、指定したファイル名および必要なリソースと一緒にジョブジャケットファイルに保存されます。

ジョブチケットテンプレートまたはジョブチケットの取り込み

ジョブチケットテンプレートまたはジョブチケットのジョブジャケット構造への取り込みについては、下記の手順に従ってください。

1. **補助**メニューの**ジョブジャケットマネージャー**ダイアログボックスを開き、左側のリストから取り込み先のジョブジャケットのアイコンを選択します。
2. 左側のリストの上の**取り込み**ボタンをクリックします。**ジョブジャケットファイルの選択**ダイアログボックスが表示されます。
3. ジョブジャケットファイルを選択して、**開く**をクリックします。選択したファイル内のすべてのジョブチケットテンプレートおよびジョブチケットが、必要なリソースと一緒に、選択したジョブジャケット構造に取り込まれます。

デフォルトのジョブジャケットファイル

QuarkXPressをインストールすると、デフォルトのジョブチケットテンプレートが含まれる「DefaultJacket.xml」という名前のデフォルトのジョブジャケットファイルもインストールされます。このファイルは、**QuarkXPress／編集**メニューの**環境設定**ダイアログボックスにある**ジョブジャケット**ペインで指定した場所にインストールされます。

ファイル > 新規 > プロジェクトを選択してプロジェクトを作成すると、下記の処理が実行されます。

- 「Default Job Jackets」という名前でこのデフォルトのジョブジャケットファイルのコピーが作成され、新しいプロジェクトに埋め込まれます。埋め込まれたジョブジャケット構造には「*[filename]* Job Jackets」という名前が付けられます。
- 埋め込まれたジョブジャケット構造では、「Default Job Ticket」という名前のデフォルトのジョブチケットテンプレートからジョブチケットが作成されます。新規ジョブチケットには、「[*filename*] Ticket」という名前が付けられます。
- 埋め込まれたジョブジャケット構造のジョブチケットは、新しいプロジェクトに関連付けられます。

デフォルトのジョブジャケットファイルを使用すれば、新しいQuarkXPressプロジェクトで使用するリソースを制御できます。また、**ファイル > 新規 > プロジェクト**で作成したプロジェクトが使用するデフォルトのジョブチケットテンプレートも編集できます。このトピックでは、両方の手順を説明します。

新しいジョブチケットは、デフォルトのジョブジャケットファイルには保存できません。詳細は、「*ジョブチケットテンプレートからのプロジェクトの作成*」を参照してください。

デフォルトジョブチケットテンプレートの編集：ファイルメニュー

デフォルトジョブチケットテンプレートは、**ファイル > 新規 > プロジェクト**の手順で作成するプロジェクトで使用されます。デフォルトジョブチケットテンプレートを編集する方法は、2つあります。

ファイルメニューからのデフォルトジョブチケットテンプレートの編集については、下記の手順に従ってください。

1 開いているプロジェクトをすべて閉じます。

2 **ジョブチケットの変更**ダイアログボックスでデフォルトジョブチケットテンプレートを開くには、**ファイル > ジョブジャケット > ジョブチケットの変更**を選択します。

3 **ジョブチケットの変更**ダイアログボックスのコントロールを使用して、デフォルトジョブチケットテンプレートを設定し、OKをクリックします。

デフォルトジョブチケットテンプレートの編集：補助メニュー

ジョブジャケットマネジャーダイアログボックスからのデフォルトジョブチケットテンプレートの編集については、下記の手順に従ってください。

1 **補助**メニューの**ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックスを表示します。

2 **ジャケットを開く**ボタンをクリックしてデフォルトジョブジャケットファイルに移動し、**開く**をクリックします。

3 デフォルトジョブジャケット構造を展開し、リストから**"デフォルトジョブチケット"**という名前のジョブチケットテンプレートを選択します。

4 **編集**ボタンをクリックします。**ジョブチケットの編集**ダイアログボックスが表示されます。

5 **ジョブチケットの編集**ダイアログボックスのコントロールを使用して、デフォルトジョブチケットテンプレートを設定します。

6 OKをクリックします。

次回に**ファイル > 新規 > プロジェクト**の手順で作成するプロジェクトでは、変更後のデフォルトジョブチケットテンプレートが使用されます。

デフォルトジョブジャケットファイルの編集

デフォルトのジョブジャケットファイルを使用すれば、新しいQuarkXPressプロジェクトで使用するリソースを制御できます。デフォルトジョブジャケットファイルの編集については、下記の手順に従ってください。

1 **ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックス（**補助**メニュー）を開きます。

2 **ジャケットを開く**ボタンをクリックし、デフォルトジョブジャケットファイルに移動して、**開く**をクリックします。

3 リストから、「デフォルトジョブジャケット」という名前のジョブジャケット構造を選択します。

4 **ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックスのコントロールを使用してデフォルトジョブジャケット構造を設定し、OKをクリックします。

リソースについての詳細は、「*ジョブチケット内のリソースの使用：詳細設定モード*」を参照してください。

リソースの使用：詳細設定モード

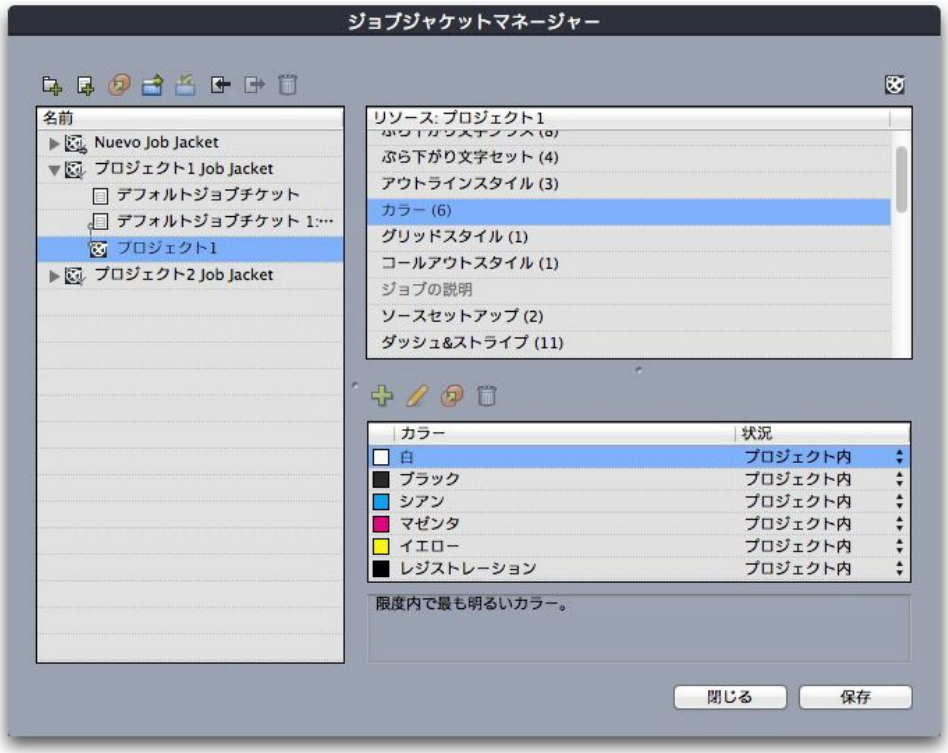
「リソース」は、ジョブジャケットおよびジョブチケットを構成するほとんどのコンポーネントについて説明する一般カテゴリです。リソースには、スタイルシートからページサイズ仕様までのすべてが含まれます。下記のトピックでは、**ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックス（**補助**メニュー）の詳細設定画面でリソースを表示、作成、および更新する方法を説明します。

ジョブの定義者は、さまざまな目的でこの手順を頻繁に使用します。ただし、レイアウト作成者はこの手順を実行する必要はありません。

リソースへのアクセス：詳細設定モード

リソースを操作するには、まずリソースにアクセスする必要があります。リソースにアクセスするには、下記の手順に従ってください。

1. **ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックス（**補助**メニュー）を開きます。
2. ダイアログボックスにリストが1つだけ表示される場合は、**詳細設定**をクリックして**詳細設定**ペインを表示します。
3. 左側のリストで、ジョブジャケットファイルを開くか、または作成します。ジョブジャケットファイルのリソースカテゴリは、右上のリストにアルファベット順に表示されます。
4. ジョブジャケット構造に固有のリソースで作業するには、左側のリストでターゲットのジョブジャケット構造を選択します。使用できないリソースのカテゴリは、ジョブチケットレベルで指定する必要があるリソースを表しています。
5. ジョブチケットに固有のリソースを使用して作業するには、ジョブジャケット構造を展開し、ジョブチケットの作成、複製、または取り込みを行います。次いで、左側のリストでターゲットジョブチケットが選択されていることを確認します。輪郭がはっきりしないリソースのカテゴリは、ジョブジャケットレベルで指定する必要があるリソースを表します。
6. 右上のリストでリソースタイプを選択します。選択したタイプの既存のリソースが右下のリストに表示されます。



ジョブジャケットマネジャーダイアログボックスを使用して、リソースの表示、作成、複製、削除、取り込み、および書き出しを行います。

リソースの設定：詳細設定モード

ジョブジャケットマネジャーダイアログボックスでリソースに移動して、そのリソースを設定できます。このダイアログボックスには、次に示すとおり、さまざまなタイプのリソースに対してさまざまなオプションが用意されています。

- ほとんどのリソースの場所を指定できます。
- ほとんどのリソースを削除できます。
- 一部のタイプのリソースを作成および設定できますが、それ以外のリソースは、QuarkXPressユーザーインターフェイスの他の部分を使用して作成および設定する必要があります。
- ジョブジャケット構造のレイアウト定義、出力仕様、レイアウトの仕様、ジョブの説明、連絡先、段落罫線、ルールセットを、作成、複製、削除、および設定できます。

ジョブジャケットでは、App Studioレイアウトはデジタルレイアウトリソースによって示されます。

リソースで許可されている場合は、下記の手順に従って、**ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックスでそのリソースを作成および設定できます。

1. 右上のリストで選択したタイプのリソースを作成するには、右下のリストで**新規アイテム**ボタンをクリックします。リソースの名前を変更するには、その名前をクリックします。
2. リソースに展開アイコンが付いている場合は、そのアイコンをクリックしてリソースを展開し、表示されるフィールドで設定します。一部のリソースにはドロップダウンメ

ニューを含むフィールドが表示され、別のリソースには値を手動で入力できるフィールドが表示されます。

3 リソースに⧉ボタンがある場合は、そのボタンをクリックしてリソースの追加インスタンスを作成します。たとえば、レイアウトの仕様を作成する場合は、**スポットカラー**リソースでこのボタンをクリックして、追加のスポットカラーを作成できます。

リソースの場所の指定：詳細設定モード

リソースは、複数の場所に保存できます。

- **ジャケット内**：ジョブジャケット構造内に保存されますが、そのジョブジャケット構造のジョブチケットテンプレートまたはジョブチケットでは使用されません。
- **チケット内**：ジョブジャケット構造に保存され、ジョブチケットテンプレートまたはジョブチケットに関連付けられます。"チケット内"のリソースが、プロジェクトに関連付けられているジョブチケットテンプレートにある場合、リソースはそのプロジェクトでも使用できます。
- **プロジェクト内**：プロジェクト内に保存されますが、ジョブジャケット構造またはジョブチケットには関連付けられません。

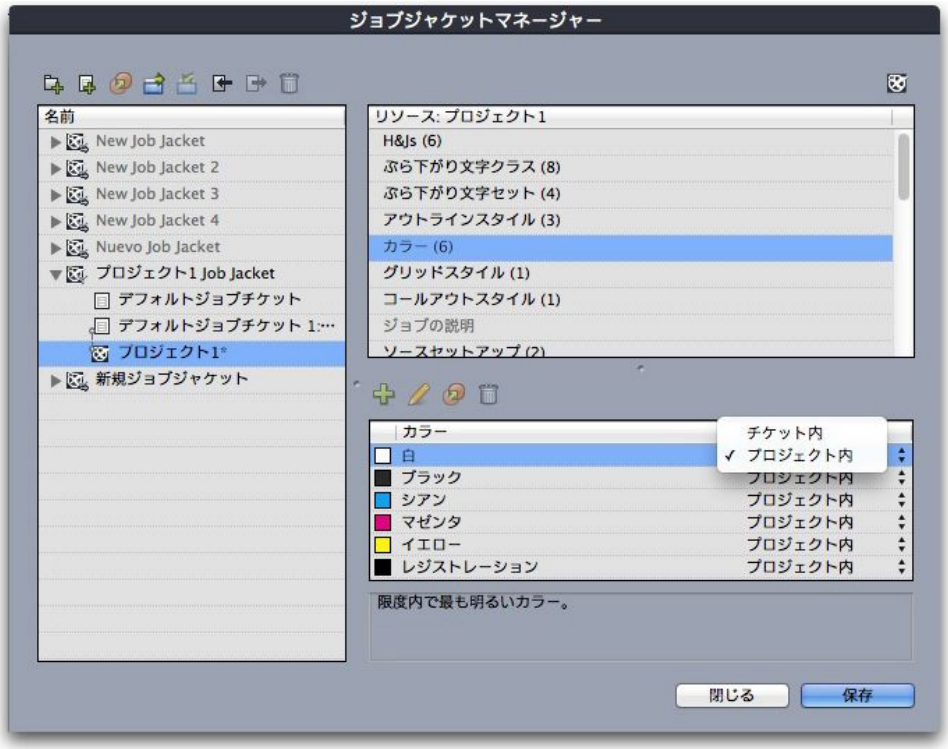
リソースの場所の指定については、下記の手順に従ってください。

1 **ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックスを使用してリソースにアクセスします。詳細は、「*リソースへのアクセス：詳細設定モード*」を参照してください。

2 右下のリストでリソースを選択します。

3 **状況**列のドロップダウンメニューから場所を選択します。

- 左側のリストでジョブジャケット構造を選択した場合、選択できるのはIn Jacketのみです。
- 左側のリストでジョブチケットテンプレートまたはジョブチケットを選択した場合は、In Jacketまたは**チケット内**を選択して、リソースをそのジョブチケットテンプレートまたはジョブチケットに関連付けるかどうかを指定できます。
- 左側のリストで選択したアイテムがプロジェクトである場合は、**状況**に**プロジェクト内**を指定して、リソースをそのプロジェクト内のみで定義するように指定するか、**状況**に**チケット内**を指定して、定義をプロジェクトのアクティブなジョブチケットで使用するかを指定できます。



補助メニューの**ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックスを使用して、リソースの保存場所を指定します。

レイアウト仕様の使用

レイアウトの仕様によって、ページサイズ、ページ数、マージン、スプレッド情報、ブリード情報、製本情報など、レイアウトに固有の情報を定義することができます。

レイアウトの仕様を定義するための標準的な手順は下記のとおりです。

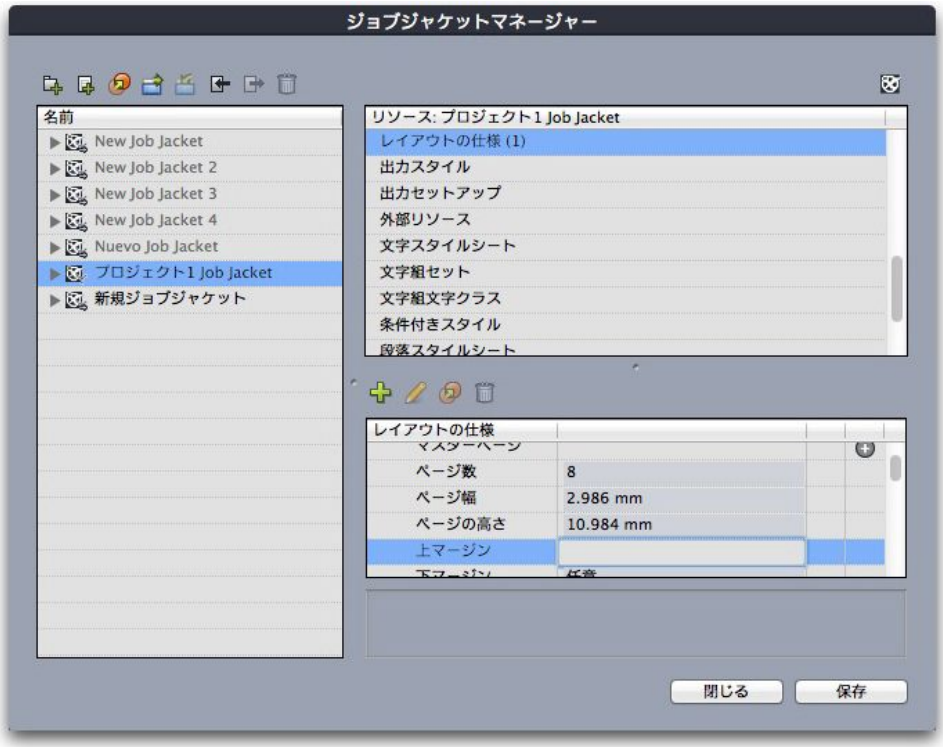
1 レイアウト仕様を作成します。詳細は「*レイアウトの仕様の作成：詳細設定モード*」を参照してください。通常、この作業はジョブの定義者によって行われます。

2 ジョブチケットテンプレートまたはジョブチケットを使用して、レイアウトの仕様をレイアウトに関連付けます。通常、この作業はレイアウト作成者によって行われます。

上記の手順についての詳細は、下記のトピックで説明します。

レイアウトの仕様の作成：詳細設定モード

レイアウトの仕様はリソースであるため、「リソースの使用：詳細設定モード」の説明に従って、**ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックスで作成する必要があります。

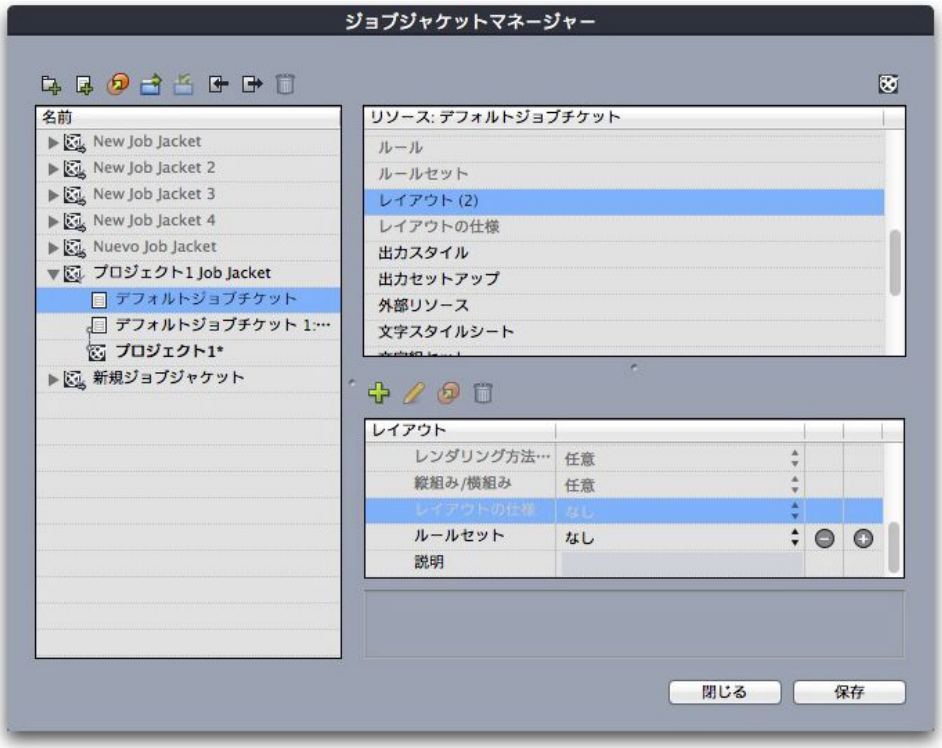


ジョブジャケットマネジャーダイアログボックス（**ユーティリティ**メニュー）を使用して、レイアウトの仕様を作成できます。

レイアウトへのレイアウトの仕様の適用

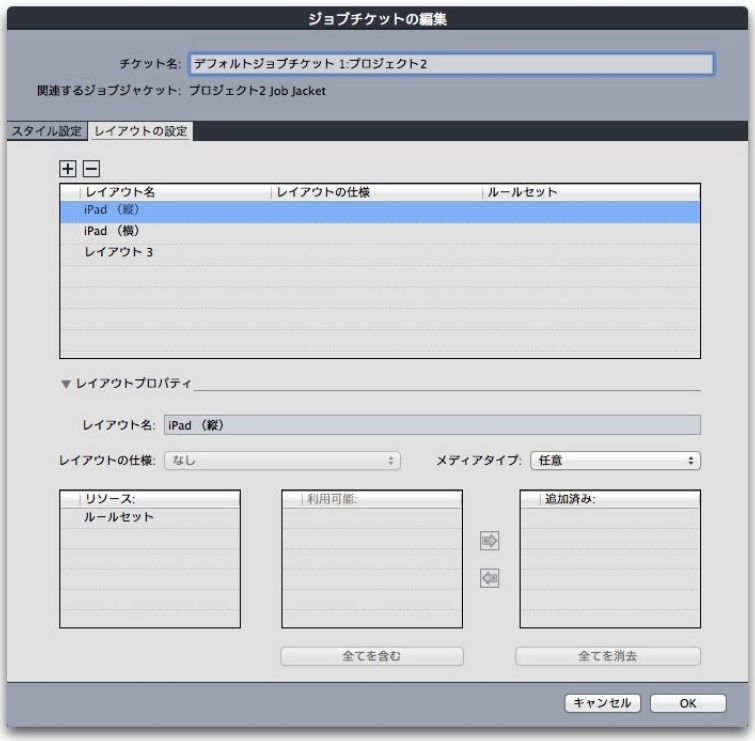
レイアウトの仕様をレイアウトに関連付けるには、ジョブチケットテンプレートからレイアウトを作成するか、またはレイアウトの仕様を既存のレイアウトのアクティブなジョブチケットに適用するという2つの方法があります。

通常は、実際のプロジェクトやレイアウトを作成する**前に**レイアウトの仕様をジョブジャケットファイルにあるレイアウト定義に追加します。レイアウトの仕様はリソースであるため、レイアウトの仕様は他のリソースと同じ方法でレイアウト定義に追加できます（「*リソースの使用：詳細設定モード*」を参照してください）。



特定のレイアウトの仕様に従うレイアウトを自動的に作成するようにジョブチケットテンプレートを構成するには、**ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックスを使用してレイアウトの仕様をレイアウト定義に関連付けます。

プロジェクトとレイアウトを作成したら、レイアウト作成者は**ジョブチケットの編集**ダイアログボックス（**ファイル > ジョブジャケット > ジョブチケットの変更**）を使用して、レイアウトの仕様をレイアウトのアクティブなジョブチケットに適用できます。レイアウトの仕様をアクティブなジョブチケットに追加するには、**レイアウトの設定**タブをクリックして、レイアウトリストにあるレイアウトを選択してから、**レイアウトの仕様**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。



ジョブチケットの編集ダイアログボックス（**ファイル > ジョブジャケット > ジョブチケットの変更**）を使用して、レイアウトの仕様をアクティブなプロジェクトのレイアウトに割り当てることができます。

ルールおよびルールセットの使用

ルールは、アクティブなレイアウトに対して行うテストで、実行するには**ファイル > ジョブジャケット > レイアウトを評価**を選択します。

1つのルールで1つの条件をテストします。たとえば、ルールによって、すべてのテキスト文字をオーバープリントすることを指定できます。ルールには、説明、ポリシー（その条件が必須、推奨、または禁止であるのかをレイアウト作成者に示します）、および問題が発生した場合の修正手順を含めることもできます。

ルールまたはルールセットを使用するときの標準的な手順は下記のとおりです。

1 ルールを作成して（「*ルールの作成：詳細設定モード*」を参照）、それらをルールセットに追加します（「*ルールセットへのルールの追加：詳細設定モード*」を参照）。通常、この作業は出力担当者と共同作業をしているジョブの定義者によって行われます。

2 ジョブチケットテンプレートを使用して、ルールセットをレイアウトに関連付けます。「*レイアウトへのルールセットの適用*」を参照してください。通常、この作業はジョブの定義者によって行われます。

3 ルールセットを使用してレイアウトを評価します。「*レイアウトの評価*」を参照してください。通常、この作業はレイアウト作成者によって行われます。

上記の手順についての詳細は、下記のトピックで説明します。

ルールの作成：詳細設定モード

ルールを作成するには、まず、**ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックスのルールリソースに移動します。「リソースの使用：詳細設定モード」を参照してください。その後、下記の手順に従ってルールウィザードを使用します。

1 **新規**ボタンをクリックします。**ルールの編集**ダイアログボックス（ルールウィザードの最初の画面）が表示されます。

2 **名前**フィールドにルールの名前を入力します。

3 ルールに適用するオブジェクトの種類を指定するには、**表題**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。表題一覧には、すべてのボックス、テキストボックス、画像ボックス、テキスト文字、ライン、テキストパス、画像およびフォントが含まれます。

ルールの編集ダイアログボックスを使用して、ルールを作成します。

4 ルールによってチェックする内容を指定するには、**条件**領域で、オプションのチェックボックスをオンにします。使用できる条件は、選択した表題によって異なります。

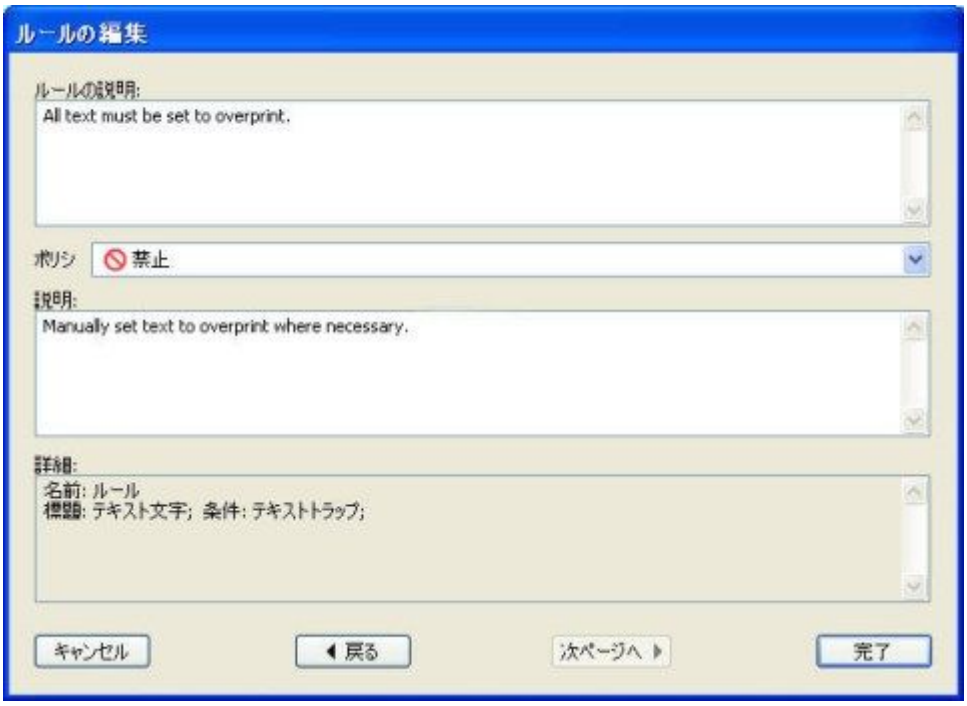
ルールに含める条件それぞれについて、この手順を繰り返します。条件は、論理AND演算子と組み合わせて使用します。たとえば、テキストボックスのバックグラウンドが青50%であることを指定するルールを作成するには、**テキストボックス**を選択して、**バックグラウンド**と**シェード**の両方のチェックボックスをオンにします。

5 **次へ**をクリックして、ルールウィザードの次のダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスでは、ルールを起動する条件（たとえば、"オーバープリントではない"または"10pt未満"）を指定します。各条件を設定するには、展開ボタンをクリックしてリスト内のアイテムを展開し、オプションを選択してフィールドに値を入力します。

ルールウィザードの2番目のダイアログボックスを使用して、ルールを設定します。

条件に⊕ボタンが付いている場合は、このボタンをクリックして条件にさらに節を追加できます。節は、論理OR演算子と組み合わせて使用します。たとえば、アイテムの色をCMYKカラーまたはスポットカラーにすることを指定するには、最初の行で**CMYK**をチェックするように設定してから、2行目を追加して、**スポットインキ**をチェックするように設定します。

6 **Next**をクリックして、ルールウィザードの3番目であり最後のダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスを使用して、ルールの**設定内容**、ルールに違反している場合にどのようなアイコンを表示するかを決定する**ポリシー**、および問題の修正に関する**説明**を指定します。**説明**に入力する情報は、ルールに違反している場合にレイアウト作成者が**レイアウトを評価**を選択すると表示されます。



ルールウィザードの3番目のダイアログボックスを使用して、ルール違反の場合の対応方法を管理します。

ルールセットへのルールの追加：詳細設定モード

ルールは、ルールの名前付きコレクションである**ルールセット**に含める必要があります。ジョブの定義者は、ジョブチケットテンプレートのレイアウト定義に1つ以上のルールセットを含めることができます。そのレイアウト定義を基準とするレイアウトで作業するレイアウト作成者は、それらのルールセットのルールを使用してレイアウトを評価できます（「*レイアウトの評価*」を参照してください）。ルールセットにルールを追加するには、下記の手順に従ってください。

1. **ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックス（**補助**メニュー）を開きます。
2. ダイアログボックスにリストが1つだけ表示される場合は、**詳細設定**をクリックして**詳細設定**ペインを表示します。
3. ジョブジャケット構造を作成または選択します。
4. 右上のリストで**ルールセット**を選択します。
5. ルールセットを作成するには、**新規**ボタンをクリックします。**ルールセットの編集**ダイアログボックスが表示されます。

ルールセットの編集ダイアログボックスを使用して、ルールセットを編集します。

6 **名前**フィールドにルールセットの名前を入力します。

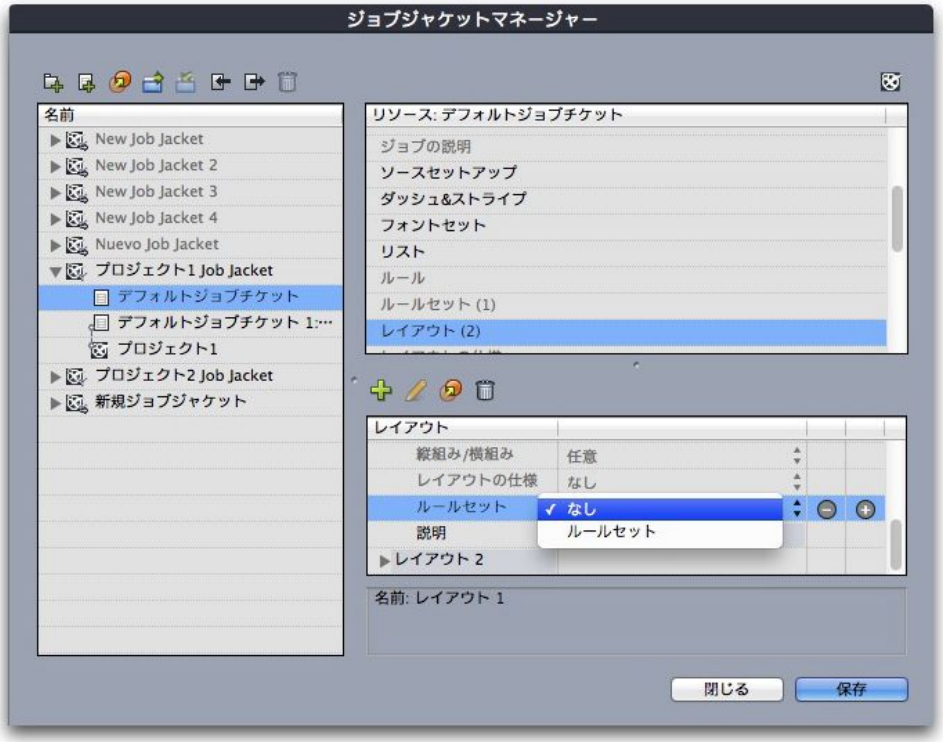
7 **利用可能**リストで必要なルールを選択してボタンをクリックするか、または**すべてを含む**をクリックして、**利用可能**リストのルールすべてをアクティブなルールセットに追加します。

8 OKをクリックします。

レイアウトへのルールセットの適用

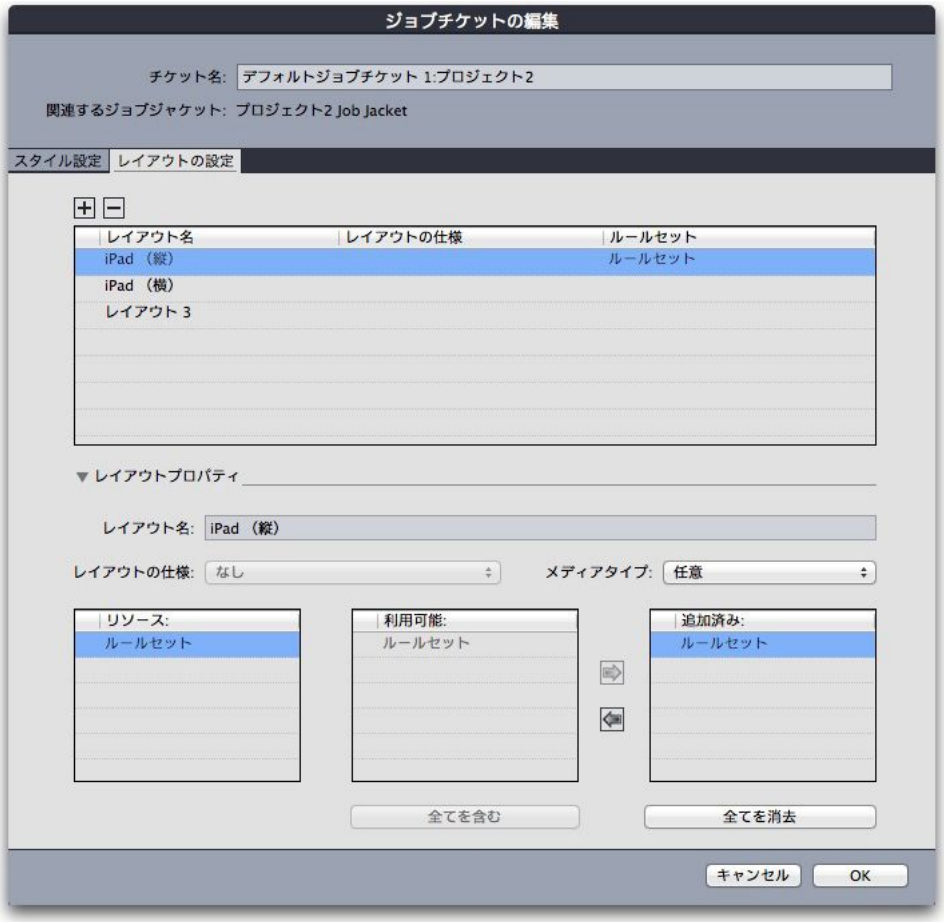
ルールセットがレイアウトのジョブチケットテンプレートインスタンスに関連付けられると、レイアウト作成者は、レイアウトをルールセットに対して評価できるようになります（「*レイアウトの評価*」を参照してください）。ルールセットをレイアウトに関連付けるには、下記の2つの方法があります。

通常は、実際のプロジェクトやレイアウトを作成する**前に**ルールセットをジョブジャケットファイルにあるレイアウト定義に追加します。ルールセットはリソースであるため、ルールセットは他のリソースと同じ方法でレイアウト定義に追加できます（「*リソースの使用：詳細設定モード*」を参照してください）。



レイアウトの作成後、すぐにルールセットをレイアウトで利用できるようにするには、**ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックスを使用してルールセットをレイアウト定義に関連付けます。

プロジェクトとレイアウトをした**後で**、ルールセットをレイアウトに追加できるようになります。この方法についての詳細は、「*ジョブチケット内のリソースの使用：基本モード（Windowsのみ）*」を参照してください。



レイアウト作成者は、**ジョブチケットの編集**ダイアログボックス（**ファイル > ジョブジャケット > ジョブチケットの変更**）を使用して、ルールセットをアクティブなプロジェクトのレイアウトに割り当てることができます。

レイアウトの評価

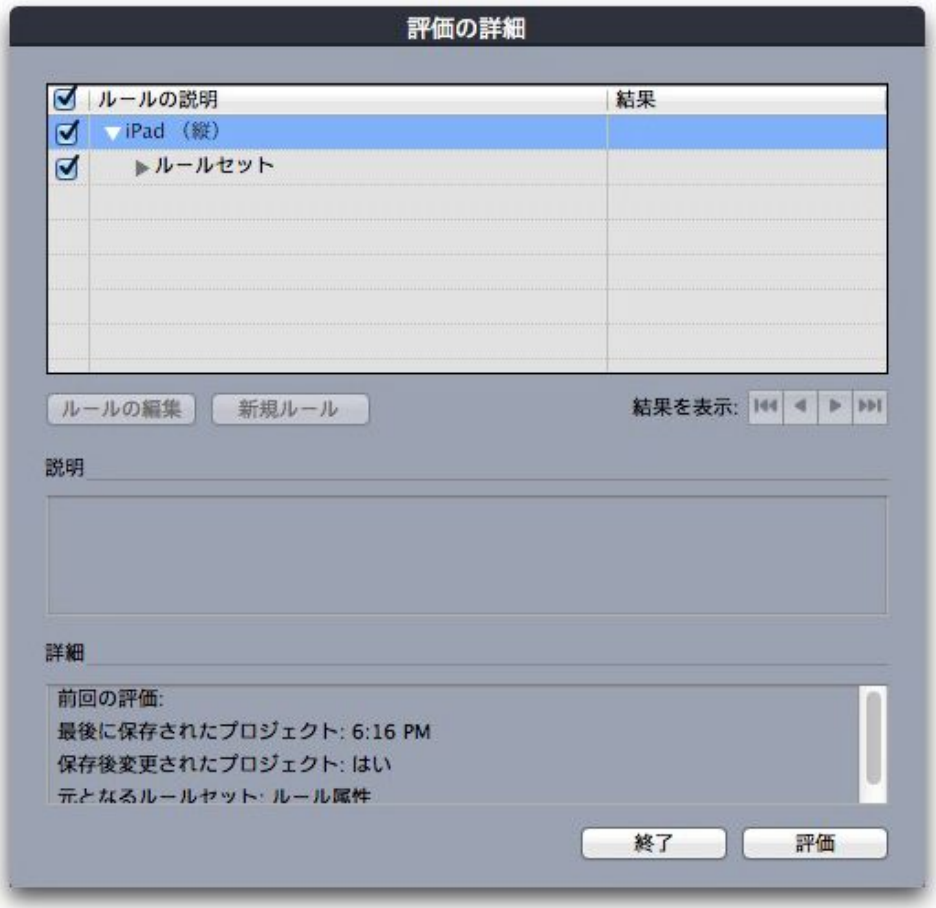
ルールセット、レイアウトの仕様、および出力仕様では、レイアウトがジョブの定義者によって作成された仕様を順守しているかどうかを評価するためのテストが用意されています。**レイアウトを評価**コマンドによって、これらのテストを実行して、違反の有無、違反している場合はその内容を特定できます。また、このコマンドは、レイアウト定義と照らし合わせて、レイアウトのメディアタイプ（印刷、ウェブ、またはインタラクティブ）およびカラーマネージメント設定を検証します。違反が特定されると、レイアウト作成者がそれにどう対処するかを決定します。

➡ レイアウトを評価する前に、プロジェクトが、アクティブなレイアウトのルールセットまたは出力仕様を定義しているジョブチケットに関連付けられていることを確認してください。

➡ **レイアウトを評価**機能の目的は、レイアウトの問題を明らかにし、その問題をどのように修正することができるかを示すことです。しかし、この機能では、レイアウト作者がジョブチケットに定義された仕様やルールに違反するような変更を行うことを防ぐことはできません。

レイアウトの表示については、下記の手順に従ってください。

1 **ファイル > ジョブジャケット > レイアウトを評価**を選択します。**レイアウトの評価**ダイアログボックスが表示され、適用可能なルールセット、レイアウトの仕様、および出力仕様が一覧表示されます。ルールセット、レイアウトの仕様、および出力仕様を展開してそのコンポーネントルールを確認するには、それぞれの横にある展開アイコンをクリックします。



レイアウトの評価ダイアログボックスを使用して、アクティブなレイアウトをルールセット、レイアウトの仕様、および出力仕様と照らし合わせて評価します。

2 選択したルールを編集するには、ルール名をクリックして、**ルールの編集**ボタンをクリックします。ルールに対して行った変更はすべてジョブジャケットファイルに書き込まれ、そのジョブチケットを使用するほかのプロジェクトに適用されます。

3 個々のルールをチェックするように指定するには、各ルールの横にあるチェックボックスをオンにします。ルールセット、レイアウトの仕様、および出力仕様のすべてのルールをチェックするように指定するには、それぞれのルールセット、レイアウトの仕様、および出力仕様の名前の横にあるチェックボックスをオンにします。

4 オンにしたルールとアクティブなレイアウトを照合して評価するには、**評価**をクリックします。**結果**列が更新され、ドキュメントが各ルールチェックに合格したかどうかが表示されます。

5 違反しているルールの詳細を表示するには、ルールの名前をクリックして、**説明**ボックスと**詳細**ボックスを確認します。**説明**ボックスには、ルールの作成者によって書かれた説明が表示され、**詳細**ボックスには、プロジェクトに関する情報（前回の評価の後に変更されたかどうかなど）が表示されます。

レイアウトの評価ダイアログボックスには、合格したルールと違反しているルールが表示されます。

6 ルールに違反しているレイアウトの場所までスクロールするには、**結果を表示**ボタンをクリックします。これによって、ルール違反の修正が容易になります。

➡ プロジェクトを開いたとき、プロジェクトを保存するとき、プロジェクトを閉じるとき、およびレイアウトを出力用に送信するときに、自動的に各レイアウトを評価するように設定できます。詳細は、「*環境設定 - アプリケーション - ジョブジャケット*」を参照してください。

ジョブジャケットのロック

2人が同時にリソースを編集しないようにするため、QuarkXPressは下記の条件の下、共有ジョブジャケットファイルをロックします。

- ジョブジャケットファイルを共有するプロジェクトのユーザーが**ジョブチケットの編集**ダイアログボックス（**ファイル > ジョブジャケット > ジョブチケットの変更**）を表示すると、QuarkXPressはそのジョブジャケットファイルをロックします。
- ユーザーが**ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックス（**ユーティリティ**メニュー）を表示すると、QuarkXPressは**ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックスに表示されているすべてのジョブジャケットファイルをロックします。

- ジョブジャケットファイルを共有するプロジェクトのユーザーが、共有ジョブジャケットファイル内でリソースの作成、複製、編集、または削除を行うと、QuarkXPressはそのジョブジャケットファイルをロックします。たとえば、Taraが"Product List"ジョブジャケットファイルを共有するプロジェクトで作業しているときに、**編集 > カラー**を選択してプロジェクトのジョブチケットにあるカラーを変更しようとすると、QuarkXPressは"Product List"ジョブジャケットファイルにあるすべての共有リソースをロックして、Taraのみが変更できるようにします。

ジョブジャケットファイルがロックされている場合の制限事項

- そのジョブジャケットファイルにあるジョブチケットテンプレートで、プロジェクトは作成できません。
- ジョブジャケットファイルにプロジェクトはリンクできません。
- ジョブジャケットファイルを共有するプロジェクトの**ジョブチケットの編集**ダイアログボックス（**ファイル > ジョブジャケット > ジョブチケットの変更**）は表示できません。
- **ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックス（**ユーティリティ**メニュー）は表示できますが、ロックされたジョブジャケットファイルやその任意のジョブチケットは編集できません。
- ジョブジャケットファイルにある共有リソースは編集できません。たとえば、Taraが"Product List"ジョブジャケットファイルをロックしている場合に、Samuelが**編集 > カラー**を選択して、プロジェクトのジョブジャケットにあるカラーを変更しようとしても、Taraがジョブジャケットファイルをロック解除するまで、カラーは淡色表示され変更できません。
- ジョブジャケットファイルを共有するプロジェクト内で、レイアウトの追加や、既存レイアウトの名前の変更はできません。
- **レイアウトの評価**ダイアログボックス（**ファイル > ジョブジャケット > レイアウトを評価**）でルールを編集できません。

ロックされたジョブジャケットファイルは、以下に挙げる時点でロック解除されます。

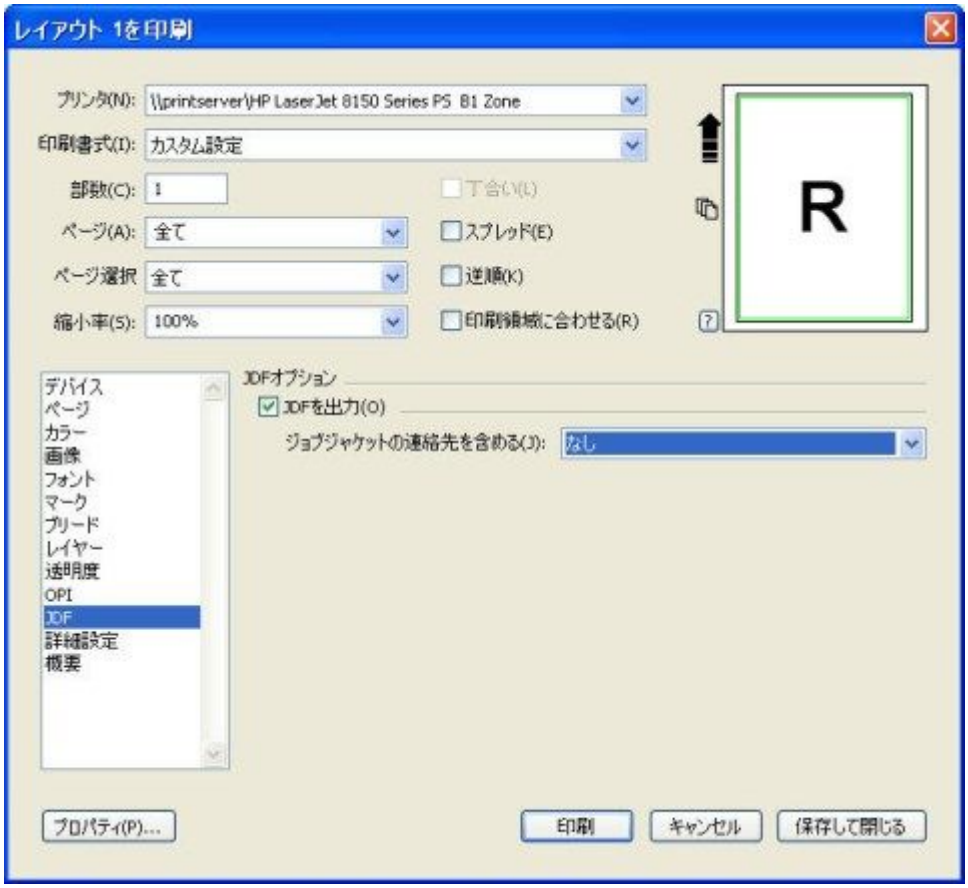
- ロックしたユーザーが**ジョブチケットの編集**ダイアログボックスを閉じたとき。
- ロックしたユーザーが**ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックスを閉じたとき。
- ロックしたユーザーが、共有ジョブジャケットファイルにあるリソースの編集を完了したとき。上記例では、Taraが共有カラーの変更後、**カラー**ダイアログボックスで**保存**または**キャンセル**をクリックした場合が該当します。

➡ ジョブジャケットのロックがあるため、必要な場合に限り**ジョブチケットの編集**および**ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックスを表示し、必要な作業を終えたらすぐに閉じることが重要です。

➡ **ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックス（**ユーティリティ**メニュー）を表示しても、プロジェクトに関連付けられているジョブジャケットファイルが編集できない場合は、そのジョブジャケットファイルは別のユーザーによってロックされていることがほとんどです。

JDF出力での印刷

出力用にプロジェクトを送信する場合に、JDFファイルを作成して出力ファイルの保存場所に保存するように指示できるようになりました。ただし、出力デバイスで直接印刷する場合、JDFファイルは作成されません。



JDF準拠のXMLファイル形式の出力時にジョブジャケット情報を含めるには、**印刷**ダイアログボックスの**JDF**ペインを使用します。

多言語の使用

QuarkXPressは、複数の言語設定で使用できます。言語設定でサポートされていれば、次の機能を使用できます。

- サポートされている**文字言語**を使用するプロジェクトを開いて編集する。文字言語とは、属性の1つで、テキストに適用してそのテキストで使用する自動ハイフンとスペルチェックのルールを指定することができます。文字言語は文字レベルで適用できます。そのため、たとえ1つの文に2つの言語の単語が含まれていても、すべての単語に対して正しくハイフネーションとスペルチェックを行うことができます。詳細は、「*文字言語の適用*」を参照してください。
- **（Windowsのみ）**ユーザーインターフェイスとキーボードコマンドを、サポートされている任意の **表示言語**に変更できます。表示言語とは、アプリケーションメニューやダイアログボックスで使用される言語のことです。表示言語はユーザーインターフェイスにのみ影響します。スペルチェックや自動ハイフンには影響しません。詳細は、「*表示言語の変更*」を参照してください。
- **（Mac OS Xのみ）**表示言語はインストール時に、OS言語に従って決定されます。

➡ QuarkXPressのすべての言語版で、CJK機能を使用するプロジェクトを開く、表示する、および出力することが可能です。 ただし、CJK機能を使用するテキストは、CJK環境設定を有効にしているときのみ編集できます（**QuarkXPress／編集 > CJK**）。

文字言語の適用

文字言語属性は、スペルチェックに使用される辞書および自動ハイフンに使用されるルールと例外を決定します。複数の言語を使用するテキストのスペルをチェックする場合、各単語が、割り当てられた言語辞書を使用してチェックされます。複数の文字言語を使用するプロジェクトで自動ハイフンが有効な場合、各単語には、その言語の該当する自動ハイフンルールと例外ハイフンを使用してハイフネーションが行われます。

テキストに文字言語を適用するには、下記の操作を行ってください。

- **（Windowsのみ）** **文字属性**ダイアログボックス（**スタイル** > **文字**）の**言語**ドロップダウンメニューを使用します。
- スタイルシートと、**メジャー**パレットの**文字／文字属性**ペインを使用します。

表示言語の変更

表示言語を指定するには、下記の操作を行ってください。

- （Windowsのみ） **編集** > **表示言語**サブメニューからオプションを選択します。
- （Mac OS Xのみ）表示言語はインストール時に、OS言語に従って決定されます。

メニュー、ダイアログボックス、およびパレットが選択した言語に変更されます。キーボードコマンドは表示言語に基づいています。

➡ 表示言語が、自動ハイフンとスペルチェックに影響を与えることはありません。

XTensionsソフトウェア

XTensionsモジュールを使用して、実行するほぼすべてのアクティビティを拡張するパレット、コマンド、ツール、およびメニューなどの機能を追加できます。

XTensionsモジュールの使用

QuarkXPressには、本章に記載されているデフォルトのXTensionsモジュールのセットが同梱されています。また、Quarkまたはサードパーティによって開発されたその他のXTensionsソフトウェアをインストールすることもできます。

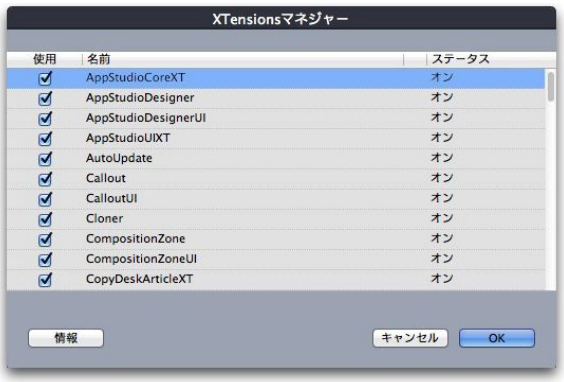
多くのXTensionsには、2つの要素があります。1つはXTensionsモジュールの機能用のファイルで、もう1つはユーザーインターフェイス用のファイルです。ユーザーインターフェイスのモジュールの名前は、通常、最後が「UI」です。ユーザーインターフェイスのないXTensionsモジュールには、UIファイルは必要ありません。

XTensionsモジュールのインストール

XTensionsモジュールをインストールするには、アプリケーションフォルダ内の"XTensions"フォルダにモジュールを配置します。新たにインストールされたXTensionsモジュールは、次回起動時に読み込まれます。

XTensionsの有効化と無効化

メモリ不足のときに、またはトラブルシューティング時に、XTensionsモジュールを無効にする場合があります。XTensionsモジュールを有効化または無効化するには、まず、**補助 > XTensionsマネジャー**を選択し、**XTensionsマネジャー**ダイアログボックスを表示します。



XTensionsマネジャーダイアログボックスを使用して、XTensionsモジュールを有効化および無効化できます。

モジュールを有効化するには、**使用する**コラムのモジュール名の横にあるボックスをオンにします。モジュールを無効化するには、このボックスをオフにします。この変更は、アプリケーションの次回起動時に適用されます。

XTensionsセットの使用 （Windowのみ）

XTensionsモジュールの特定のグループを頻繁に有効化および無効化する場合、XTensionsセットを作成して、これらのグループを簡単に切り替えることができます。

XTensionsグループを作成するには、まず、**XTensionsマネジャー**ダイアログボックス（**補助**メニュー）を表示して、グループに含めるXTensionsモジュールを有効にします。次に、**新規保存**をクリックして、グループの名前を入力します。このグループに切り替える場合は、**XTensionsマネジャー**ダイアログボックスを表示し、**セット**ドロップダウンメニューからメニューそのグループの名前を選択します。

また、その他のユーザーとXTensionsセットを共有する場合には、**取り込み**および**書き出し**ボタンを使用して、XTensionsセットを取り込みおよび書き出しすることもできます。

CustomBleed Xtensionsソフトウェア

ブリードとは、完成したページのエッジまで印刷されているアイテムを指す用語です。CustomBleed XTensionsソフトウェアは、ユーザーがアイテムのブリードをさらに制御できるように、QuarkXPressにブリードの拡張機能を提供します。

QuarkXPressでブリードを作成するには、ページのエッジがペーストボードまではみ出るアイテムを作成し、ページのエッジ外のどこまでの領域を印刷するかを指定します。ブリードには下記の3種類があります。

- **均等ブリード**は、レイアウトページの各エッジからそれぞれ同じ距離だけはみ出します。
- **不均等ブリード**は、ページの各エッジに異なるブリードの量を指定します。
- **ページアイテムブリード**は、ページのエッジからはみ出るすべてのアイテムをそのまま印刷します。

ブリード方形は、ブリードがページの境界からはみ出る距離で、ユーザーが入力するブリード値によって定義されます。たとえば、2パイカの均等ブリードを作成する場合、ブリード方形は、そのページの各エッジから2パイカ以内を取り囲みます。カスタムブリー

ド機能によってブリード方形が自動的に作成されますが、その領域内にアイテムを自動的にはみ出さないことに注意することが重要です。ブリードを作成するには、レイアウトページのエッジからはみ出るように、ユーザーがアイテムの位置を設定する必要があります。

➡ フィルムにレイアウトを出力する前に、レイアウトをプレビューし、ブリードが期待どおりに出力されることを確認してください。**ファイル > 印刷 > 概要**を選択します。右上の画像ページアイコンには、レイアウトの最初のページのブリード領域が表示され、レイアウトまたはブリードが印刷可能領域の外側にあるかどうかが示されます。レイアウトサイズと印刷可能領域を比較するときに、レイアウトの大きさにブリード領域を必ず追加します。

カスタムブリードの使用

Custom Bleeds XTensionsソフトウェアを使用して、印刷するとき、EPSファイルとしてページを保存するとき、PDFファイルとしてレイアウトを書き出すとき、およびPPMLフォーマットでレイアウトを書き出すときに、ブリードを作成できます。この手順は、これらの出力オプションの手順に似ていますが、一部のブリードのオプションは、特定の出力方法でのみ利用できます。

- **印刷**：**ブリードの種類**ドロップダウンメニューは、**印刷**ダイアログボックスの**ブリード**ペインにあります。
- **EPS**：**ブリードの種類**ドロップダウンメニューは、**EPSファイルでページ保存**ダイアログボックスにあります。EPSファイルとしてページを保存するとき、**ページアイテム**および**ブリード限度でクリップ**オプションは使用できません。これは、これらのオプションによって、ページからはみ出すアイテムを含める境界ボックスが作成されるためです。このため、レイアウト内で、各ページに異なる境界ボックスが作成される可能性があり、出力が不正確になる場合があります。
- **PDF**：**ブリードの種類**ドロップダウンメニューは、**PDFとして書き出し**ダイアログボックスにあります。

ブリード限度でのクリップの使用

均等または不均等なブリードを作成するとき、**ブリード限度でクリップ**チェックボックスを使用して、クリップアイテムにブリード値を使用するかどうかを定義できます。

- **ブリード限度でクリップ**をオンにすると、QuarkXPressは、少なくとも部分的にブリード方形内にあるすべてのレイアウトページアイテムおよびペーストボードアイテムを印刷し、クリップアイテムにブリード値を使用します。
- **ブリード限度でクリップ**をオフにすると、QuarkXPressは、少なくとも部分的にブリード方形内にあるすべてのレイアウトページアイテムおよびペーストボードアイテムを印刷し、印刷デバイスの印刷可能領域の限度をはみ出さないかぎり、これらのアイテムをクリップしません。ブリード方形内にないペーストボードアイテムは印刷されません。

➡ ペーストボード上にアイテムを保存する場合は、均等または不均等なブリードを使用するときに必ずブリード方形の外側にアイテムが配置されるようにします。これらのアイテムがブリード方形の内側にある場合、ペーストボードアイテムは最終的な出力に印刷されない場合があります。

DejaVu XTensionsソフトウェア （Windowsのみ）

DejaVu XTensionsソフトウェアは、**ファイル**メニューの下部または**ファイル > 開く**サブメニューの階層メニューとして、最近開かれたプロジェクトのリストを追加します。このリストによって、より迅速かつ簡単に、プロジェクトにアクセスできます。DejaVuを使用すると、テキストおよび画像を取得するためのデフォルトフォルダ、およびプロジェクトを開いて保存するためのデフォルトフォルダを指定することもできます。

ファイルリスト機能は、**ファイル**メニューの下部に、または**ファイル>開く**サブメニューの階層メニューとして、最近開かれたプロジェクトのリストを追加します。最近編集および保存した3つから9つのファイルを表示するように選択できます。ファイルリスト設定を変更するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**ファイルリスト**ペインにあるコントロールを使用します。

デフォルトパス機能を使用して、**開く**、**取り込み**、**保存**、および**新規保存**の**ファイル**メニューコマンドに使用するデフォルトフォルダを指定します。

➡ デフォルトパス機能は、ユーザーがデフォルトパスを指定するまで機能しません。そのためには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**デフォルトパス**ペインを表示します。**ファイル**メニューコマンド用にデフォルトパスを指定すると、そのコマンドを実行するときは常にアプリケーションでそのパスが使用されます。

Drop Shadow XTensionsソフトウェア

Drop Shadow XTensionsソフトウェアを使用すると、レイアウトのアイテムおよびテキストに、自動的に羽根付きドロップシャドウを適用できます。

アクティブなアイテムにドロップシャドウ効果を適用するには、**メジャー**パレットの**ドロップシャドウ**タブを使用する方法と、**設定**ダイアログボックス（**アイテム**メニュー）の**ドロップシャドウ**ペインを使用する方法があります。いずれの方法においても、オプションは下記のとおりです。

- **角度**フィールド：180°から-180°の値（増分0.001）を入力し、ドロップシャドウを作成する「光源」の角度を指定します。
- **角度を同期**チェックボックス：これをオンにすると、この機能がオンにされたレイアウト内のその他のドロップシャドウに、角度を同期します。**角度を同期**がオンにされたドロップシャドウの**角度**値を変更すると、このボックスがオンにされたすべてのドロップシャドウが同期されます。
- **距離**フィールド：アイテムのオフセット値を入力します。ドロップシャドウのオフセットは、アイテムの境界ボックスの左上の角から測定されます。
- **縮小率**フィールド：0から1,000%の値を入力し、元のアイテムに比例するドロップシャドウのサイズを指定します。
- **ぼかし**フィールド：値を入力して、ドロップシャドウのエッジのぼかしを指定します。値が大きいほど、エッジのぼかし効果が大きくなります。
- **傾斜**フィールド：-75°から75°の値を入力し、特定の角度でドロップシャドウを傾斜します。
- **カラー**、**シェード**、および**不透明度**：ドロップダウンメニューからカラーを選択し、フィールドに値を入力して、ドロップシャドウのカラー、シェード、および不透明度を指定します。

- **ドロップシャドウを重ねる**：この設定は、シャドウとそのバックグラウンドをどのように連結するかを制御します。このボックスをオンにすると、シャドウのカラーまたは「乗算」ブレンドモードを使用するカラーは、バックグラウンドと連結し、より暗くなります（オーバープリントに類似した効果です）。このボックスをオフにすると、バックグラウンドのカラーはシャドウのカラーと連結し、画面上に表示される中間シェードを作成します。通常、このボックスは、シェードまたは不透明度の設定に関係なくシャドウが黒である場合にはオンにし、より明るいカラーである場合にはオフにします。
- **アイテムの不透明度を継承する**：これをオンにすると、ボックスのバックグラウンドとフレームで不透明度が違うように、アイテムによって異なる不透明度をドロップシャドウに適用します。
- **アイテムがドロップシャドウに優先**：これをオンにすると、ボックスからシャドウが透過しないようにするなど、シャドウがアイテムの半透明領域から透過表示されないようにします。
- **ドロップシャドウに回り込み**：これをオンにすると、**回り込み**タブ（**アイテム > 設定**）で指定したテキスト回り込みの輪郭にドロップシャドウを含めます。回り込み**外部**値は、ドロップシャドウのエッジから測定されます。たとえば、テキストがドロップシャドウを使用して方形の本文抜粋見出し周囲に回り込んできる場合、**ドロップシャドウに回り込み**がオンになっていると、テキストはドロップシャドウに重なりません。

➡ ドロップシャドウ付きのテキストを作成するには、バックグラウンドがなしになっているボックスにテキストを配置し、そのボックスにドロップシャドウを適用します。

➡ 複数のグループ化されていないアイテムにドロップシャドウを適用すると、アイテムが重なる場合に、アイテムは相互にシャドウをかけることができます。ただし、グループにドロップシャドウを適用すると、そのグループ全体に1つのシャドウが適用されます。

Guide Manager Pro XTensionsソフトウェア

Guide Manager Proを使用すると、オンスクリーンガイドの作成および編集において精度の高い制御を行えます。ガイドの位置、水平または垂直方向、ページまたはスプレッド全体への適用、表示カラー、およびガイドが表示されるときの表示倍率を指定できます。ガイドの編集、コピー、ペースト、ガイドの左右反転、グリッドおよびガイドの行と列の作成、ボックスからのガイドの作成、ブリードおよびセーフティガイドの追加を行えます。

このXTensionsによって、QuarkXPressに**ガイド**パレット（**ウィンドウ**メニュー）が追加されます。

「*ガイドの使用*」を参照してください。

ガイドパレットの使用

ガイドパレットによって、ガイドを強力に操作できます。

ガイドパレット

ガイドパレットは下記のとおり機能します。

- パレット上部全体を左から右まで制御します。新規ガイドの作成、ガイドの左右反転、水平ガイドの表示、垂直ガイドの表示、現在のガイドのみの表示、およびガイドの削除を行えます。
- 属性でガイドを並べ替えるには、並べ替える属性の列の見出しをクリックします。
- パレットに情報の列を追加するには、列のリストの右側にある**列選択**ボタンからオプションを選択します。
- **スプレッド**列に、レイアウトのページ番号またはスプレッド番号が表示されます。ページまたはスプレッドを表示するには、**スプレッド**列でそのスプレッドをクリックします。パレットにスプレッドのガイドを表示するには、スプレッドの隣の矢印をクリックします。ガイドを編集するには、そのガイドをダブルクリックします。
- 編集オプションのコンテキストメニューを表示するには、各列でControlキー+クリック／右クリックします。たとえば、**ガイド**列のコンテキストメニューには、**ガイドをカット、ガイドをコピー、ガイドをペースト、ガイドを削除**、および**すべてのガイドを選択**オプションが含まれます。

パレットメニューのオプションについての詳細は、「*ガイドパレットメニュー*」を参照してください。

ガイドがオンスクリーンで表示されているかどうかに関係なく、下記のように、**ガイド**パレット（**ウィンドウ**メニュー）でこれらを使用できます。

- ページまたはスプレッドのガイドを表示するには、**ガイド**列のそのページまたはスプレッドの隣にある矢印をクリックします。
- すべてのページまたはスプレッドのガイドを表示するには、スプレッドの隣にある矢印をOptionキー／Altキー+クリックします。
- 垂直または水平ガイドのみを表示するには、パレットメニューから**垂直ガイドを表示**または**水平ガイドを表示**を選択します。すべてのガイドを表示するには、両方を選択します。

- ページガイドのみ（単一行に制限された水平ガイド）またはスプレッドガイドのみ（スプレッド内のすべてのページを含む水平ガイド）を表示するには、パレットメニューから**ページガイドを表示**または**スプレッドガイドを表示**を選択します。すべてのガイドを表示するには、両方を選択します。
- プロジェクトウィンドウに表示されるページまたはスプレッドにガイドのみを表示するには、パレットメニューから**現在のガイドのみを表示**を選択します。

ガイドパレットメニュー

ガイドパレットメニューには、下記のオプションが含まれます。

- **新規ガイド**：新規ガイドを作成できます。「*Guide Manager Proを使用したガイドの作成*」を参照してください。
- **ガイドをカット**：選択されたガイドを切り取ります。
- **ガイドをコピー**：選択されたガイドをクリップボードにコピーします。
- **ガイドをペースト**：アクティブなページまたはスプレッドに、現在クリップボードに保存されたガイドをペーストします。
- **すべて選択**：アクティブなページまたはスプレッドのすべてのガイドを選択します。
- **ガイドを左右反転**：ページまたはスプレッドの反対側に、選択したガイドをコピーします。
- **ガイドを削除**：選択したガイドを削除します。
- **グリッドの作成**：グリッドを作成できます。「*Guide Manager Proを使用したグリッドの作成*」を参照してください。
- **行と列の作成**：ガイドの行と列を作成できます。「ガイドの行と列の作成」を参照してください。
- **ボックスからのガイドの作成**：ボックスからガイドを作成できます。「*Guide Manager Proを使用したガイドの作成*」を参照してください。
- **ブリードとセーフティガイドの作成**：ブリードおよびセーフティガイドを作成できます。「*ブリードとセーフティガイドの作成*」を参照してください。
- **垂直ガイドを表示／隠す**：垂直ガイドを表示する、または隠します。
- **水平ガイドを表示／隠す**：水平ガイドを表示する、または隠します。
- **ページガイドを表示／隠す**：アクティブなページのガイドを表示する、または隠します。
- **スプレッドガイドを表示／隠す**：アクティブなスプレッドのガイドを表示する、または隠します。
- **ガイド前面**：ページコンテンツの前とページコンテンツの後ろのいずれかにガイドおよびページグリッドを切り替えます。
- **ガイドへの吸着**：ガイドへの吸着機能をオンまたはオフにします。
- **ガイド吸着距離**：ガイドへの吸着機能のガイド吸着距離を制御します。
- **カラーの編集**：Guide Manager Proで作成されたガイドに利用できるカラーを編集できます。
- **取り込み**：書き出されたガイドファイルのガイドを取り込みます。
- **書き出し**：別のファイルにガイドを書き出します。

「*ガイドの使用*」も参照してください。

Guide Manager Proを使用したガイドの作成

Guide Manager Proでは、2つの方法によってガイドを作成します。

- Guide Manager Proを使用して数的にガイドを作成するには、**ガイド**パレットの上部にある**新規ガイドの作成**ボタンをクリックするか、パレットメニューから**新規**を選択します。**ガイド属性**ダイアログボックスを使用して、**ロケーション**、**効果**、およびガイド**タイプ**を指定します。また、ガイドが表示される**表示倍率**を指定することもできます（デフォルト値の0%で、ガイドは常に表示されます）。**ガイドの色**を選択し、マウスでガイドが移動できないようにガイドを**ロック**するかどうかを指定します。**プレビュー**をクリックしてガイドを作成する前に画面上で確認し、**OK**をクリックします。

ガイド属性ダイアログボックス

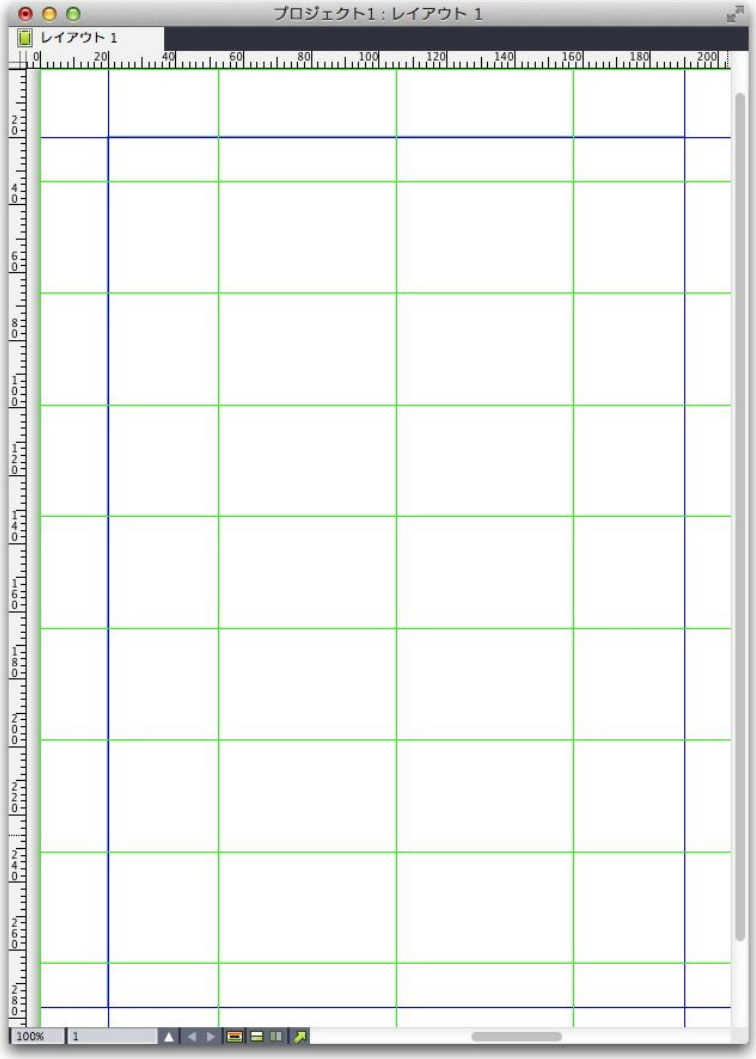
➡ **ガイド属性**ダイアログボックスは、レイアウトの既存のガイドをダブルクリックして表示することもできます。

- ボックスの境界から自動的にガイドを作成するには、ボックスを選択してから、パレットメニューから**ボックスからのガイドの作成**を選択します。**ボックスからのガイドの作成**コントロールを使用して、ボックスの**上**、**下**、**左**、および**右**に配置されるガイドの位置を調整します。その他のコントロールも**ガイド属性**ダイアログボックスと同様に機能します。

ボックスからのガイドの作成は、任意の図形ボックスの方形境界周囲にガイドを作成するためのオプションを提供します。

Guide Manager Proを使用したグリッドの作成

Guide Manager Proを使用すると、ページおよびスプレッドに、均等間隔のガイドのグリッドを素早く作成することができます。



Guide Manager Proによって、このようなグリッドを簡単に作成できます。

アクティブなページまたはスプレッドへのグリッドの作成については、下記の手順に従ってください。

1 **ガイド**パレットメニューから**グリッドの作成**を選択します。

グリッドの作成コントロール

2 **グリッドライン**領域で、**水平方向**または**垂直方向**をオンにします。

3 マージン内などの特定の位置からガイドを開始する場合は、**始点**または**終点**フィールドをオンにし、ページのエッジからガイドの始点および終点までの距離を入力します。

4 均等間隔のガイドを作成するには、**数**を選択し、フィールドに配置するガイドの数を入力します。特定の距離間隔でガイドを作成するには、**ガイド間の距離**を選択して、フィールドに距離を入力します。

5 **ガイド属性**ダイアログボックスを使用するときに、**種類**、**範囲**、**カラー**、**表示倍率**および**ロック**コントロールを使用します（「*Guide Manager Proを使用したガイドの作成*」を参照してください）。

6 **プレビュー**をクリックしてグリッドをオンスクリーンで確認し、**OK**をクリックします。

行と列の作成

Guide Manager Proでは、コラム間隔を使用して、均等間隔のガイドの行と列を作成できます。アクティブなページまたはスプレッドにおけるガイドの行と列の作成については、下記の手順に従ってください。

1 **ガイド**パレットメニューから**行と列の作成**を選択します。

行と列の作成ダイアログボックス

2 **行数**フィールドに水平方向の行の数を入力します。行間を空けるには、**コラム間隔**フィールドに値を入力します。

3 **列数**フィールドに垂直方向の列の数を入力します。列間を空けるには、**コラム間隔**フィールドに値を入力します。

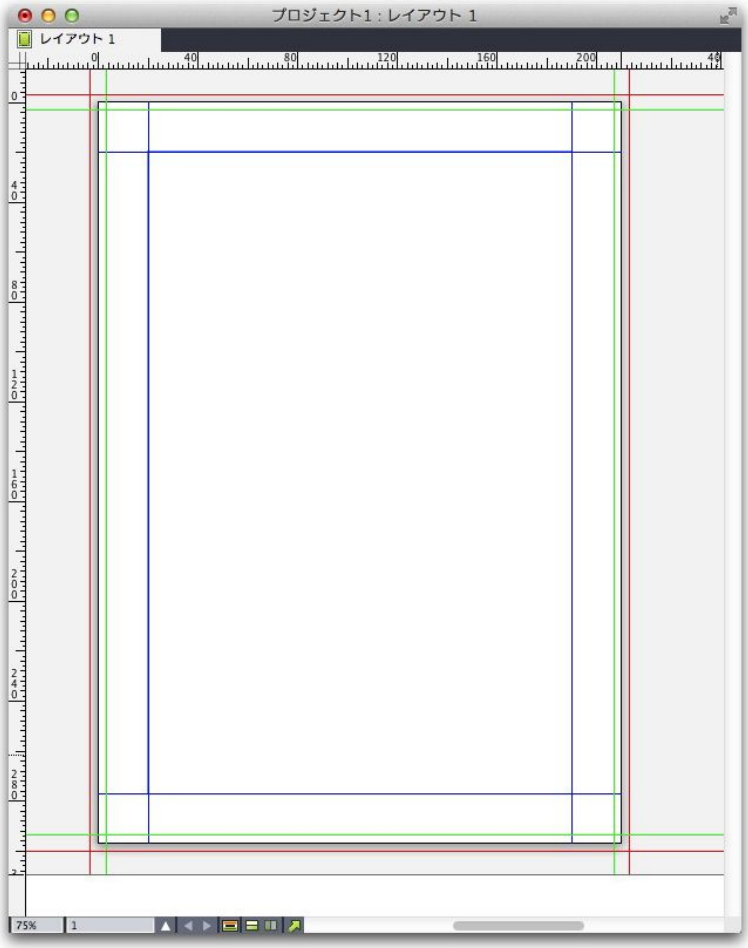
4 マスターガイド内にガイドを作成するには、**マージン**をクリックします。作成しない場合は、**ページの境界**を選択された状態にします。

5 **ガイド属性**ダイアログボックスを使用するときに、**種類**、**範囲**、**カラー**、**表示倍率**および**ロック**コントロールを使用します（「*Guide Manager Proを使用したガイドの作成*」を参照してください）。

6 **プレビュー**をクリックしてガイドをオンスクリーンで確認し、**OK**をクリックします。

ブリードとセーフティガイドの作成

ブリードやセーフティガイドが必要な場合、ページサイズを変更したり、独自のガイドを描画したりせずに、Guide Manager Proを使用してブリードやセーフティガイドを追加することができます。



ここでは、赤のブリードガイドが、ページから9pt外側に配置されており、緑のセーフティガイドが、ページから9pt内側に配置されています。

アクティブなページでのブリードとセーフティガイドの作成については、下記の手順に従ってください。

1 **ガイド**パレットメニューから**ブリードとセーフティガイドの作成**を選択します。

2 ブリードガイドについては、**ブリード**をオンにし、ページ外側にどれくらいの距離でガイドを配置するかを指定する**コラム間隔**フィールドに値を入力して、**カラー**メニューからオプションを選択します。

3 セーフティガイドについては、**セーフティ**をオンにし、ページの内側にどれくらいの距離でガイドを配置するかを指定する**コラム間隔**フィールドに値を入力して、**カラー**メニューからオプションを選択します。

4 **ガイド属性**ダイアログボックスを使用するときに、**表示倍率**および**ロック**コントロールを使用します（「*Guide Manager Proを使用したガイドの作成*」を参照してください）。

5 複数のページにブリードおよびセーフティガイドを適用するには、**スプレッド範囲**コントロールを使用します。

ブリードおよびセーフティガイドは、マスターページおよびレイアウトページに追加できます。

6 **プレビュー**をクリックしてガイドをオンスクリーンで確認し、**OK**をクリックします。

Item Find/Change XTensionsソフトウェア

このXTensionsソフトウェアによって、QuarkXPressに**アイテム検索／置換**パレット（**編集 > アイテム検索／置換**）が追加されます。このパレットを使用して、テキストボックス、画像ボックス、コンテンツなしボックス、ライン、およびテキストパスに対し、検索置換操作を実行できます。ロケーション、図形、カラー、不透明度、フレームスタイル、画像の縮小率、列数などの属性を検索し、変更できます。

アイテム検索／置換パレット

➡ アイテム検索／置換は、テーブルをサポートしません。

アイテム検索／置換パレットは下記のとおり機能します。

- 上部のタブには、検索できる属性の種類が表示されます。これらの属性の種類は、**ボックス、ボックスのカラー、フレーム、ライン、画像**、**テキスト**、および**ドロップシャドウ**です。各ペインの属性は、アイテムの各種類の**設定**ダイアログボックス（**アイテム**メニュー）の属性に対応します。
- 各ペインには、**検索**および**置換**の2つのサイドが含まれます。パレットの**検索**サイドで検索する属性をオンにし、**置換**サイドで変更する属性をオンにします。複数のペインの属性で同時に検索できます。
- パレットメニューでは、パレットの**検索**サイドに、選択したアイテムの属性を配置できます。**属性をすべて取得**を選択して**アイテム検索／置換**パレットのすべてのペインのオプションを指定するか、**パネル属性を取得**を選択して1度に1つのペインずつ実行できます。ペインをクリアするには、**すべての属性のクリア**および**パネル属性のクリア**を使用できます。
- **概要**ペインは、すべてのペインの設定を概要表示します。
- パレットの下部にあるチェックボックスを使用すると、特定の種類のアイテムに検索を絞り込むことができます。すべての種類のアイテムを検索置換するには、これらのボックスをすべてオフにします。
- **検索**をクリックすると、アイテム検索／置換機能により、初めから終わりまで、レイアウト全体が検索されます。アクティブなスプレッドに検索を制限するには、**検索**ボタンをOption／Altキー+クリックします。

Item Styles XTensionsソフトウェア

アイテムスタイルでは、パレットから適用できる名前付きスタイルとして、カラー、フレームスタイル、ライン幅、画像の縮小率、およびテキストとの間隔などのアイテム属性コレクションを保存できます。

ItemStyles XTensionsソフトウェアは、**アイテムスタイル**パレット（**ウィンドウ** > **アイテムスタイル**）、**アイテムスタイルの編集**ダイアログボックス（**編集** > **アイテムスタイル**）、および**アイテムスタイルの使用状況**ダイアログボックス（**補助** > **アイテムスタイルの使用状況**）を追加します。

➡ アイテムスタイルは、アイテムのロックされた属性（位置、ストーリー、または画像）に影響しません。たとえば、位置がロックされているアイテム（**アイテム** > **ロック** > **設定位置**）にアイテムスタイルを適用する場合、そのアイテムは、アイテムスタイルで指定された**X,Y**値に従って移動することはありません。アイテムが選択されると、アイテムスタイルの名前の隣に＋が付いて表示されます。

➡ アイテムスタイルは、共有コンテンツおよびコンポジションゾーン機能とともに使用することはできません。

➡ アイテムスタイルは、テーブルをサポートしません。

アイテムスタイルパレットの使用

選択したすべてのアイテムにアイテムスタイルを適用するには、そのアイテムスタイルの名前を**アイテムスタイル**パレットでクリックします。**新規**および**削除**ボタンで、アイテムスタイルを追加および削除できます。**更新**ボタンで、適用されたアイテムスタイルへのローカルの変更に基づき、アイテムスタイル定義を更新できます。

また、**スタイル > アイテムスタイル**サブメニューからアイテムスタイル名を選択し、選択したアイテムにアイテムスタイルを適用することもできます。

アイテムスタイルパレット

アイテムスタイルを適用するには、ターゲットアイテムを選択して、**アイテムスタイル**パレットにあるアイテムスタイルの名前をクリックします。また、アイテムスタイル名の右側に表示されているキーボードコマンドを押すこともできます。

選択したアイテムに適用されているアイテムスタイルがあれば、**アイテムスタイル**パレット内でボールドで表示されます。その名前の隣に＋が表示されている場合、そのアイテムは、アイテムスタイルに定義されているフォーマットとは異なるローカルフォーマットが使用されています。アイテムからローカルフォーマットを消去するには、そのアイテムを選択し、**アイテムスタイル**パレットの上部にある**スタイル解除**をクリックしてから、そのアイテムスタイル名をもう1度クリックします。アイテムスタイル名をOptionキー／Altキー+クリックすることによっても、ローカルフォーマットを消去できます。

アイテムスタイルの作成、編集、複製、削除、取り込み、または書き出しを行うには、**アイテムスタイル**ダイアログボックス（**編集 > アイテムスタイル**）を使用します。アイテムスタイルの編集は、**アイテムスタイル**パレット内のアイテムスタイル名をOptionキー／Altキー+クリックするか、アイテムスタイルを選択して、**アイテムスタイル**パレットメニューから**編集**を選択して行うこともできます。

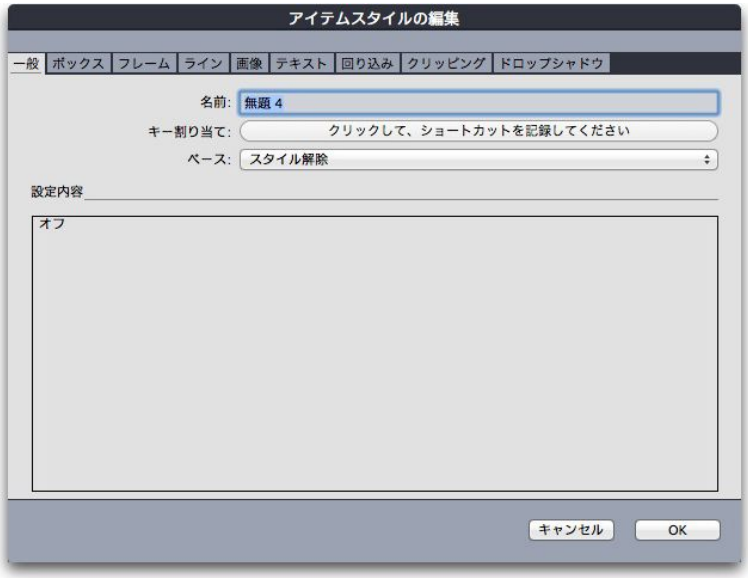
「*アイテムスタイルの作成*」および「*アイテムスタイルの使用状況の確認*」も参照してください。

アイテムスタイルの作成

アイテムスタイルは、フォーマットされたアイテムを基に作成するか、初めから作成することができます。アイテムスタイルの作成については、下記の手順に従ってください。

1 フォーマットされたアイテムを使用するには、そのアイテムを選択します。初めから作成するには、アイテムが選択されていないことを確認します。

2 **アイテムスタイル**パレットで**新規**ボタンをクリックします。パレットメニューから**新規**を選択するか、**編集** > **アイテムスタイル**を選択してからダイアログボックスで**新規**を選択することもできます。



アイテムスタイルの編集ダイアログボックス

3 **一般**タブで、**名前**フィールドにアイテムスタイルを説明する名前を入力します。

4 キーボードショートカットを割り当てる場合は、**キー割り当て**フィールドに入力します。**Mac OS X**では、Commandキー、Optionキー、Controlキー、およびShiftキーを、数字キーパッドの数字またはファンクションキーと組み合わせて使用できます。Windowsでは、ControlキーおよびAltキーを数字キーパッドの数字と組み合わせるか、Controlキー、Altキー、およびShiftキーをファンクションキーと組み合わせて使用できます。

➡ ファンクションキーを使用すると、QuarkXPressのコマンドおよびシステムレベルのコマンドが無効になります。

5 別のアイテムスタイルに基づいてこのアイテムスタイルを作成するには、**ベース**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。

6 選択したアイテムを使用してアイテムスタイルを作成している場合は、**設定内容**領域にリストされている属性を確認するか、タブをクリックして各設定を確認します。

7 アイテムスタイルを変更する場合は、タブをクリックしてから下記の操作を行ってください。

- アイテムスタイルのタブの属性を含めるには、**適用**をオンにします。次に、含める各属性をオンにし、必要に応じて変更します。
- タブ全体のいずれの属性も含めない場合は、**適用**をオフにします。
- アイテムスタイルから属性を消去するには、各属性をオフにします。

アイテムスタイルの使用状況の確認

アイテムスタイルの使用場所およびローカルオーバーライドが発生する場所を確認するには、**アイテムスタイル**パレットメニューから**使用状況**を選択します。**アイテムスタイルの使用状況**ダイアログボックスには、使用されている**アイテムスタイル**、ページ番号、および使用状況がリストされます。

アイテムスタイルの使用状況ダイアログボックス

使用状況ダイアログボックスのオプションは、下記のように機能します。

- アイテムスタイルを使用するアイテムにスクロールするには、**名前**列でそのアイテムをクリックしてから**表示**をクリックします。
- 選択されたアイテムが**変更**としてリストされている場合、アイテムにはローカルオーバーライドがあります。**更新**をクリックして、すべてのローカルオーバーライドを取り除きます。
- アイテムスタイルの使用状況にエラーが含まれている場合は、**エラーを表示**をクリックします。

PDF Filter XTensionsソフトウェア

PDF Filter XTensionsソフトウェアを使用して、下記の2つを行えます。

- ポータブルドキュメントフォーマット（PDF）ファイルとして、QuarkXPressレイアウトのページまたはページの範囲を保存します。詳細は、「*PDF形式でのレイアウトの書き出し*」を参照してください。
- 画像ボックスにPDFファイルのページを取り込みます。詳細は、「*画像ボックスへのPDFファイルの取り込み*」を参照してください。

画像ボックスへのPDFファイルの取り込み

アクティブな画像ボックスへのPDFファイルの取り込みについては、下記の手順に従ってください。

1 **ファイル > 画像の取り込み**を選択します。

- **TrimBox**：トリム実行後のページのサイズを使用します。このオプションはトンボを含まず、PDFが作成されたときにレイアウトスペースに適用されるブリードによって影響されません。
- **CropBox**：ページサイズと指定したブリードのスペースおよびトンボ用に割り当てられたスペースを足したサイズを使用します。**CropBox**は、PDF Boxer XTソフトウェアスタンドポイントのレイアウトスペースのサイズに等しくなります。
- **BleedBox**：ページサイズとブリードのスペースを足したサイズを使用します。
- **MediaBox**：ブリードまたはトンボのスペースを含まないページのサイズを使用します。

2 **開く**をクリックします。

PDFページのプレビューは、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）にある**ディスプレイ**ペインの**カラーTIFF**ドロップダウンメニューに指定されたカラー深度で表示されます。

画像の取り込みダイアログボックスでPDFファイルの異なるページをプレビューするには、**プレビュー**チェックボックスをオンにしてから**PDFページ**フィールドにページ番号を入力します。

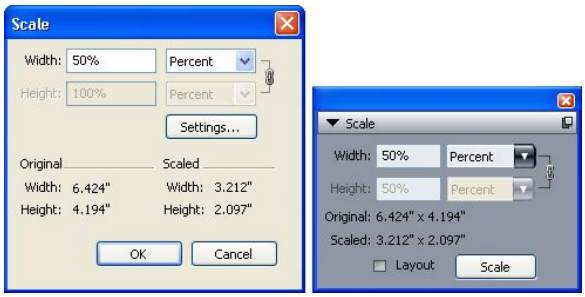
PDFファイルのどのページがレイアウトに取り込まれたかを確認するには、**使用状況**ダイアログボックス（**補助**メニュー）の**画像**ペインを表示してから、**詳細**をオンにします。

Scale XTensionsソフトウェア

Scale XTensionsソフトウェアを使用すると、描画プログラムがオブジェクトのサイズを変更するのと同様に、QuarkXPressのレイアウト、アイテム、コンテンツのサイズをすばやく変更できます。**サイズ変更設定**ダイアログボックスを使用して、サイズ変更の対象であるテキスト、フレーム、オフセット、ラインの太さなどを指定できます。

Scale XTensionsソフトウェアにより、下記の機能がQuarkXPressに追加されます。

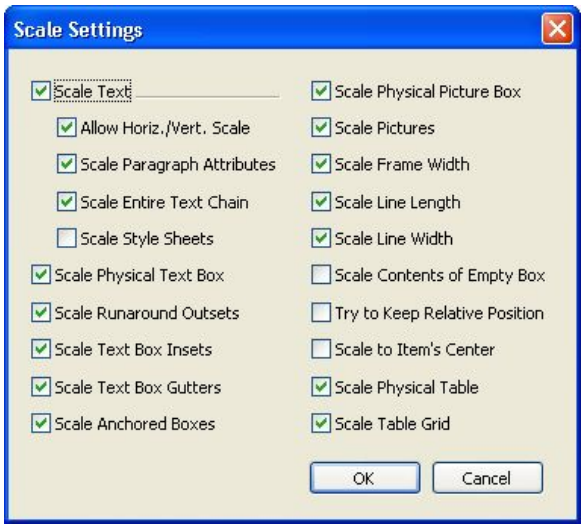
- **アイテム** > **サイズ変更**では、選択したアイテム（単数および複数）やグループに幅、高さ、またはその両方を新たに指定できます。
- **ウィンドウ** > **サイズ変更**では、**サイズ変更**パレットが表示され、**サイズ変更**コマンドと同じ制御機能が利用できます。また、**サイズ変更**パレットを使用すると、レイアウト全体のサイズを変更できます。パレットメニューから**サイズ変更（拡大）**または**サイズ変更（縮小）**を選択して、選択したアイテム（単数および複数）、グループ、レイアウトのサイズを5%ずつ拡大または縮小することもできます。



サイズ変更ダイアログボックスと**サイズ変更**パレット

サイズ変更ダイアログボックスと**サイズ変更**パレットはともに下記の機能を提供します。

- 現在のアイテムのサイズに対する割合（パーセント）、または現在の長さ単位で、新しいサイズを指定して変更できます。**幅**および**高さ**フィールドの右側にあるメニューから**パーセント**または**単位**を選択してから、フィールドに適切な値を入力します。
- 縦横比を保持しながらアイテムのサイズを変更するには、制限ボタンをクリックします。比率を制限した場合、**高さ**オプションは使用できず、アイテムは**幅**フィールドの入力値に従って垂直方向および水平方向に同じ比率で拡大または縮小します。
- アイテムやグループの境界ボックスの**編集前**と**サイズ変更後**の大きさが表示されます（現在の単位で）。**幅**または**高さ**フィールドで値を変更すれば、いつでもこれらの値を更新できます。
- サイズ変更設定を変更するには、**サイズ変更**ダイアログボックスの**設定**ボタンをクリックするか、**サイズ変更**パレットメニューから**サイズ変更設定**を選択します。**サイズ変更設定**ダイアログボックスが表示されます。各チェックボックスによって、特定のアイテムまたは属性がサイズ変更されるかどうかが制御されます。



サイズ変更設定ダイアログボックス

サイズ変更パレットでは、**レイアウト**チェックボックスをオンにすることでレイアウト全体とその中のすべてについてサイズを変更できます。

➡ Scale XTensionsでは、QuarkXPressが許可する範囲を超えて縮小または拡大されるようにアイテムのサイズを変更できます。こうしたアイテムは正しく表示されますが、

QuarkXPressのツールやコマンドで変更しようとすると、エラーメッセージが表示されます。

➡ Scale XTensionsでは、同期されたすべてのアイテムが**コンテンツ**パレット（**ウィンドウ > コンテンツ**）で使用できるわけではありません。共有アイテムのインスタンスは、Scale XTensionsの幅と高さのみを継承します。また、コンポジションゾーンを含むレイアウト全体のサイズ変更は実施しないでください。

➡ 回転したアイテムは、元のジオメトリに従ってサイズ変更されます。たとえば、45度回転している正方形ボックスの幅のみをサイズ変更する場合、期待していたであろう幅広の菱形ではなく、回転した方形が作成されます。

Scissors XTensionsソフトウェア

Scissors XTensionsソフトウェアは、**ツール**パレットに**はさみ**ツールを追加します。**はさみ**ツールを使用すると、ボックスのアウトラインをカットしてラインに変換するか、ラインまたはテキストパスを2つにカットできます。

Scissors XTensionsソフトウェアがロードされると、**はさみ**ツールは、QuarkXPressの**ツール**パレットに表示されます。**はさみ**ツールの使用については、下記の手順に従ってください。

1 **はさみ**ツールを選択します。

- 画像ボックスをカットすると、ボックスはベジエラインに変換されます。その結果、カット後にボックスのコンテンツは維持されません。
- テキストボックスをカットすると、ボックスはテキストパスに変換されます。
- テキストパスをカットすると、パスは2つのリンクされたパスに変換されます。

2 **ポイント選択**ツールを選択し、ポイントをクリックアンドドラッグして調整します。

Script XTensionsソフトウェア

Script XTesnsionsソフトウェアがロードされている場合、スクリプトメニューはQuarkXPressメニューバーに表示されます。このメニューから、QuarkXPressアプリケーションフォルダの"Scripts"フォルダにある任意のAppleScriptスクリプトを実行できます。Script XTensionsソフトウェアによって、デフォルトでこのメニューから一連のAppleScriptスクリプトを使用できるようになり、独自のAppleScriptスクリプトを"Scripts"フォルダに追加して、メニューに追加することができます。

Script XTensionsソフトウェアを使用するには、スクリプトメニューからスクリプトを選択すると、スクリプトが実行されます。提供されるデフォルトのスクリプトは、サブメニューにまとめられています。

これらのスクリプトは、可能なかぎりの数のワークフローで実行するように設計されていますが、ワークフローの設定によっては、正しく動作しない場合があることに注意し

てください。したがって、レイアウトに影響するスクリプトを実行する前に、レイアウトを保存しておくことをお勧めします。

➡ Script XTesnsionsソフトウェアは、 **Mac OS X**のみを対象としています。

➡ Script XTensionsソフトウェアは、スクリプトがQuarkXPressから起動されるか、デスクトップなどの別の場所から起動されるかに関係なく、QuarkXPressに影響するAppleScriptスクリプトを実行する前にロードされている必要があります。

その他の必要なコンポーネントには、下記が含まれます。

- Standard Additions Scripting Addition
- AppleScript Extension

ボックスツールサブメニュー

このトピックは、Script XTensionsソフトウェアがインストールされている場合にスクリプトメニューの**ボックスツール**サブメニューから利用できるAppleScriptスクリプトを説明します。

- **切り抜きマークを追加**を使用して、選択したボックスの周囲に切り抜きマークを配置します。
- **簡易バナー**を使用して、選択したボックスの左上に「バナー」（テキストボックス）を作成し、バナーのテキストを指定します。
- **キャプションボックスを作成**を使用して、選択したボックスの下にキャプションボックス（テキストボックス）を作成します。
- **センターで縮小または拡大**を使用して、ボックスの原点（座標0,0）ではなく、ボックスのセンターからボックスのサイズを変更します。

グリッドサブメニュー

このトピックは、Script XTensionsソフトウェアがインストールされている場合にスクリプトメニューの**グリッド**サブメニューから利用できるAppleScriptスクリプトを説明します。

ボックスを分割を使用して、選択したボックスの大きさに基づいてボックスのグリッドを作成します。

イメージサブメニュー

このトピックは、Script XTensionsソフトウェアがインストールされている場合にスクリプトメニューの**イメージ**サブメニューから利用できるAppleScriptスクリプトについて説明します。

- ファイルに選択した画像のPICTプレビューを保存するには、**PICTファイルに変換**を使用します。
- 特定のフォルダに選択した画像ボックスの画像のコピーを保存するには、**フォルダにコピー**を使用します。
- 選択した画像ボックスに特定のフォルダの画像ファイルを取り込むには、**フォルダから選択画像ボックスへ**を使用します。画像は、アルファベット順に取り込まれます。

画像ボックスサブメニュー

このトピックは、Script XTensionsソフトウェアがインストールされている場合にスクリプトメニューの**画像ボックス**サブメニューから利用できるAppleScriptスクリプトについて説明します。

- アクティブな画像ボックスの周囲に切り抜きマークを配置し、その画像ボックスの下のテキストボックスに画像ファイルの名前を入力するには、**切り抜きマーク&名前**を使用します。
- 画像を含む画像ボックスの下のテキストボックスに画像の名前を入力するには、**名前を入力**を使用します。
- レイアウトのすべての画像のバックグラウンドカラーを**なし**に変更するには、**すべてのバックグラウンドをなしに設定**を使用します。
- レイアウトのすべての画像のバックグラウンドカラーを特定のカラーおよびシェードに変更するには、**すべてのバックグラウンドを設定**を使用します。

保存中サブメニュー

このトピックは、Script XTensionsソフトウェアがインストールされている場合にスクリプトメニューの**保存中**サブメニューから利用できるAppleScriptスクリプトを説明します。

カラーTIFFプレビュー付きの個別のEPSファイルとしてレイアウトの各ページを保存するには、**各ページをEPSとして保存**を使用します。

- EPSファイルとしてアクティブなレイアウトのページを保存するには、**オン**をクリックします。
- 異なるプロジェクトにレイアウトのページを保存するには、**選択**をクリックして**ファイルを選択**ダイアログボックスを表示し、ターゲットプロジェクトに移動して**選択**をクリックします。スクリプトは、プロジェクトが最後に保存されたときにアクティブであったレイアウトのページを保存します。

特殊サブメニュー

このトピックは、Script XTensionsソフトウェアがインストールされている場合にスクリプトメニューの**特殊**サブメニューから利用できるAppleScriptスクリプトを説明します。

- "Scripts"フォルダ内の選択されたフォルダに、選択したAppleScriptスクリプトをコピーまたは移動するには、**スクリプトフォルダに移動**を使用します。
- "A Guide to Apple Events Scripting.pdf"を開くには、**Apple Events Scripting PDFを開く**を使用します。このPDFには、QuarkXPressのAppleScriptスクリプトの記述についての詳細情報が含まれます。
- QuarkXPressフォルダ内の特定のフォルダを開くには、**QuarkXPressフォルダを開く**を使用します。

ストーリーサブメニュー

このトピックは、Script XTensionsソフトウェアがインストールされている場合にスクリプトメニューの**ストーリー**サブメニューから利用できるAppleScriptスクリプトを説明します。

- 選択されたテキストボックスをリンクするには、**選択されたテキストボックスをリンク**を使用します。テキストチェーン順は、テキストボックスのスタック順に基づきます。
- 選択したボックスのテキストをXPress Tagsコードに、またはXPress Tagsコードからフォーマットテキストに（テキストは、XPress Tagsコードを使用してフォーマットされます）変換するには、**XPress Tagsとの変換**を使用します。このスクリプトを使用するには、"XPress Tags"フィルタが読み込まれている必要があります。
- テキストチェーンのテキストの位置を維持しながら、選択されたテキストボックス間のリンクを解除するには、**選択されたボックスのリンクを解除**を使用します。

テーブルサブメニュー

このトピックは、Script XTensionsソフトウェアがインストールされている場合にスクリプトメニューの**テーブル**サブメニューから利用できるAppleScriptスクリプトを説明します。

- テーブルの行または列に特定のカラーおよびシェードを交互に適用するには、**行または列のカラー**を使用します。

組版サブメニュー

このトピックは、Script XTensionsソフトウェアがインストールされている場合にスクリプトメニューの**組版**サブメニューから利用できるAppleScriptスクリプトを説明します。

- ベースライングリッドのサイズ（グリッドライン間のスペース）を1ポイントずつ増やすには、**ベースライングリッド+1pt**を使用します。
- ベースライングリッドのサイズ（グリッドライン間のスペース）を1ポイントずつ減らすには、**ベースライングリッド-1pt**を使用します。
- 選択したテキストボックスの列幅およびコラム間隔（コラム間のスペース）を設定するには、**列幅＆コラム間隔**を使用します。
- スラッシュの前または後にあるすべての数値インスタンス（1/2など）をフォーマットされた分数に変換するには、**分数の作成**を使用します。
- 選択したテキストボックスの各サイドにテキストボックス開始位置値を指定するには、**テキストボックスの開始位置を設定**を使用します。

Shape of Things XTensionsソフトウェア

Shape of Things XTensionsソフトウェアは、QuarkXPressに**星形**ツールを追加します。このツールを使用して、すばやく簡単に星形のボックスを作成できます。

星型ツールの使用

星形の画像ボックスを作成するには、下記の2つの方法があります。

1 **星形**ツールを選択して、クリックアンドドラッグします。

2 **星形**ツールを選択して、星形のボックスを配置する場所に十字ポインタを置き、1回クリックします。**星形**ダイアログボックスが表示されたら、下記のフィールドに値を入力して**OK**をクリックします。

- **星形の幅**
- **星形の高さ**
- **尖端の数**
- **尖端の高さ**：尖端の先から尖端のベースまでの任意の距離をパーセントで入力します。
- **尖端のランダム配置**：0から100の値を入力します。0はランダムが適用されず、100は、フルランダムが適用されます。

Super Step and Repeat XTensionsソフトウェア

高機能連続複製を使用すると、アイテムを複製しながら、拡大縮小、回転、および傾斜の変形を加えることができます。

Super Step and Repeatの使用

Super Step and Repeatを使用して、アイテムを回転、拡大縮小、または傾斜しながら、それらのアイテムを素早く簡単に複製できます。Super Step and Repeatの使用については、下記の手順に従ってください。

1 画像ボックス、テキストボックス、テキストパス、またはラインを選択します。

- アイテムが複製される回数を指定するには、**繰り返す回数**フィールドに1から100までの数字を入力します。
- 元のアイテムに対して水平方向にコピーを配置するには、**水平距離**フィールドに値を入力します。負の値を指定すると、元の位置から左にコピーが配置され、正の値を指定すると、右に配置されます。
- 元のアイテムに対して垂直方向にコピーを配置するには、**垂直方向**フィールドに値を入力します。負の値を指定すると、元の位置から上にコピーが配置され、正の値を指定すると、下に配置されます。
- 複製された各アイテムを回転するには、アイテムの**角度**フィールドに、回転値を角度で指定します。たとえば、10を入力すると、初めに複製されたアイテムは、元のアイテムから10度回転し、2つ目の複製アイテムは、元のアイテムから20度回転します。回転は、元のアイテムから時計回りに実行されます。
- 最終的な複製フレーム（画像ボックスまたはテキストボックス）または最終的な複製ライン（テキストパスまたはライン）の厚みを指定するには、**最後のフレーム/ラインの太さ**または**最後のラインの太さ**フィールドにポイント値を入力します。
- ボックスまたはラインを複製するときに、**最後のボックスのシェード**または**最後のラインのシェード**フィールドに0%から100%の値を入力し、最終的な複製ボックスのバックグラウンドカラーのシェードまたは最終的な複製テキストパスまたはラインのラインカラーのシェードを指定します。

- バックグラウンドがブレンドされているボックスを複製すると、**最後のボックスのシェード(2)**フィールドを使用できます。**最後のボックスのシェード(2)**フィールドに0%から100%の値を入力し、最終的な複製ボックスにブレンドの2つ目のバックグラウンドのシェードを指定します。
- 最終的な複製画像ボックス、テキストボックス、テキストパス、またはラインの縮小率を指定するには、**最後のアイテムのサイズ**または**最後のラインのサイズ**フィールドに1%から1,000%の値を入力します。
- 複製ボックスを傾斜するには、**最後のアイテムの傾斜**フィールドに最終的な複製ボックスの傾斜または傾きを75°から−75°の値を入力して指定します。
- 複製ボックスに合わせるように拡大縮小された画像ボックス、テキストボックス、またはテキストパスのコンテンツのサイズを変更するには、**コンテンツのサイズ変更**をオンにします。
- アイテムの回転またはサイズ変更の基準となるポイントを指定するには、**相対サイズ変更/回転の基点**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。**相対サイズ変更/回転の基点**ドロップダウンメニューの**選択したポイント**は、ベジエアイテム上のポイントが選択されている場合にのみ利用可能です。

2 OKをクリックします。

Table Import XTensionsソフトウェア

Table Import XTensionsソフトウェアでは、データソースとしてMicrosoft Excelファイルを使用することによって、QuarkXPressでテーブルを作成し、Excelファイルのデータが変更すると、QuarkXPressテーブルを更新できます。また、このXTensionsモジュールを使用すると、Microsoft Excelからチャートと画像を取り込み、更新できます。

Table Import XTensionsソフトウェアがアクティブであるかロードされている場合、QuarkXPressのインターフェイスに下記が追加表示されます。

- **外部データへリンク**チェックボックスは、**テーブルのプロパティ**ダイアログボックスに追加されます。
- **テーブル**タブは、**使用状況**ダイアログボックスに追加されます。
- **チャートを挿入**タブは、**画像の取り込み**ダイアログボックスに追加され、ワークブック内のすべてのチャートが表示されます。

TypeTricks

Type Tricksは、いくつかの組版機能を追加するXTensionsソフトウェアです。追加される組版機能は、分数の作成、通貨の作成、単語スペーストラッキング、ラインチェック、およびカスタムアンダーラインです。

分数の作成

分数の作成コマンド（**スタイル > 文字飾り**）を使用すると、分数を自動的にフォーマットできます。このコマンドは、分数が選択された場合、またはカーソルが分数を構成する文字の隣（および同じ行）に置かれると、アクティブになります。フォーマットできる分数の例は、11/42、131/416、および11/4xなどです。

文字を分数に変換するには、文字を選択し、**スタイル > 文字飾り > 分数の作成**を選択します。

分数の文字は、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集 > 環境設定 > アプリケーション > 分数/通貨**）の**分数/通貨**タブで指定したベースラインシフトおよびフォーマットを使用して変換されます。

通貨の作成

通貨の作成コマンド（**スタイル > 文字飾り**）を使用すると、通貨を自動的にフォーマットできます。このコマンドは、通貨としてフォーマットできるテキスト（$1.49、£20.00、およびa.bcなど）が選択されている場合、またはこれらの文字の隣（および同じ行）にカーソルがある場合に利用できます。通貨には、ピリオドまたはカンマで示される基数（デシマルシンボル）を含める必要があります。基数の前後の文字は、文字または数字である場合があります。

文字を通貨に変換するには、フォーマットする文字を選択し、**スタイル > 文字飾り > 通貨の作成**を選択します。

通貨の作成を適用すると、QuarkXPressは、基数に続く文字に肩文字飾りを自動的に適用します。

変換された分数および通貨のアピアランスは、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress　／編集 > 環境設定 > アプリケーション > 分数/通貨**）の**分数/通貨**タブで入力した値および選択内容によって決定します。

単語スペーストラッキング

単語スペーストラッキング機能では、単語スペースにのみトラッキングを適用できます（トラッキング値は、通常文字間および単語間に適用されます）。この機能は、キーボードコマンドでのみアクセスできます。

Mac OS X

トラッキング値	Commandキー
スペースを0.05emずつ増やします。	Commnad+Control+Shiftキー+]
スペースを0.005emずつ増やします。	Commnad+Control+Option+Shiftキー+]
スペースを0.05emずつ減らします。	Commnad+Control+Shiftキー+[
スペースを0.005emずつ減らします。	Commnad+Control+Option+Shiftキー+[

Windows

トラッキング値	Commandキー
スペースを0.05emずつ増やします。	Control+Shiftキー+@
スペースを0.005emずつ増やします。	Control+Alt+Shiftキー+@
スペースを0.05emずつ減らします。	Control+Shiftキー+!
スペースを0.005emずつ減らします。	Control+Alt+Shiftキー+!

➡ 単語スペーストラッキングは、選択されたスペースの後に手動カーニングを適用することによって適用されます。単語スペーストラッキングを消去するには、テキストを選択し、**補助 > 手動カーニングをクリア**を選択します。

ラインチェック

ウィンドウ、オーファン、両端揃えされた行、ハイフンで終了する行、およびテキストボックスのオーバーフローを検索するには、**ラインチェック**機能を使用します。**ラインチェック（補助 > ラインチェック）**は、不確かな行をハイライトしながら、ドキュメント全体を移動します。

ラインチェックが検索する対象を指定するには、**検索対象**ダイアログボックス（**補助 > ラインチェック > 検索対象**）を表示し、好ましくない印刷体制のカテゴリをオンにします。

ドキュメント全体を検索するには、テキストの任意の場所にカーソルを置き、**補助 > ラインチェック > 第1行**を選択します。カーソルの位置からドキュメントの最後まで検索するには、検索を開始する位置にカーソルを置き、**補助 > ラインチェック > 次行**を選択するか、Commandキー+;／Ctrlキー+;を押します。検索を続けるには、Commandキー+;／Ctrlキー+;を押します。

カスタムアンダーライン

カスタムアンダーライン機能を使用すると、アンダーラインのカラー、シェード、幅、およびオフセットをカスタマイズできます。カスタムアンダーラインは、文字飾りアンダーラインとほとんど同様に動作しますが、アンダーラインの属性をさらに制御しながら、カスタマイズできます。

カスタムアンダーラインのスタイルは、スタイルシートとほとんど同様に機能します。アンダーラインスタイルを作成、編集、または削除するには、**編集 > アンダーラインスタイル**を選択します。カスタムアンダーラインスタイルを適用するには、Windowsでは**スタイル > アンダーラインスタイル**サブメニューから、Mac OS Xでは**スタイル > 文字飾り > アンダーラインスタイル**サブメニューから、それぞれ名前を選択します。

カスタムアンダーラインを適用するには、適用対象のテキストを選択し、Windowsでは**スタイル > アンダーラインスタイル > カスタム**を、Mac OS Xでは**スタイル > 文字飾り > アンダーラインスタイル > カスタム**を選択します。**アンダーラインの属性**ダイアログボックスでは、アンダーラインのカラー、シェード、幅、およびオフセットを指定できます。

カスタムアンダーラインを消去するには、テキストを選択し、**スタイル > 文字飾り > カスタムアンダーラインをクリア**を選択します。

Word 6-2000 Filter

Word 6-2000 Filterを使用すると、ドキュメントをWord 2007およびWord 2010（.docx）フォーマットで取り込みまたは書き出しできます。Microsoft Word 6.0/95（Word 6およびWord 7）のドキュメントも取り込めます。

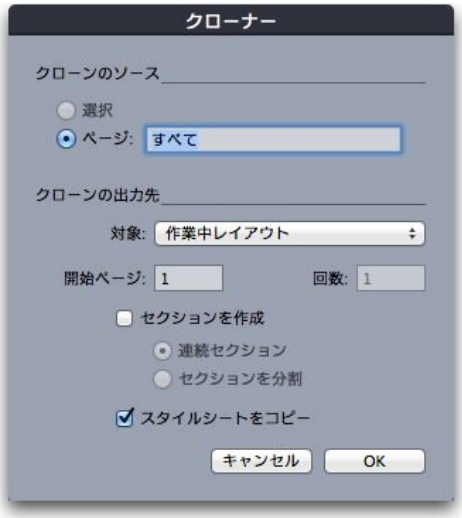
➡ 取り込みの問題を回避するには、Microsoft Wordの**高速保存**（**オプション**ダイアログボックスの**保存**タブ）をオフにするか、**名前を付けて保存**コマンドを使用して、取り込まれるWordファイルのコピーを作成します。

➡ .docxフォーマットで書き出すには、**形式**ドロップダウンメニューから**Word文書**を選択します。.docフォーマットで書き出すには、**Word 97/98/2000文書**を選択します。

クローナーXTensionsソフトウェア

クローナーXTensionsソフトウェアを使用すると、選択したアイテムを別のページの同じ場所や別のプロジェクトにコピーできます。また、個別のプロジェクトにページをコピーすることもできます。

クローナーを使用するには、最初に、クローンを作成するアイテムを選択します。ページのクローンを作成する場合は、すべてのアイテムを選択解除します。次に、**補助 > クローナー**を選択して、**クローナー**ダイアログボックスを表示します。



クローナーダイアログボックス

クローンのソース領域で、クローンを作成する対象を選択できます。選択したアイテムのクローンを作成するには、**選択**をクリックします。絶対位置で指定した、ページ範囲のクローンを作成するには、**ページ**をクリックします。

クローンの出力先領域で、クローンとして作成されたコンテンツの出力先を選択できます。**対象**ドロップダウンメニューから以下のオプションを選択します。

- **作業中レイアウト**：選択したアイテムをこのレイアウト内の別の場所にコピーします。
- **既存プロジェクト**：選択したアイテムまたはページを既存のQuarkXPressプロジェクトにコピーします。
- **新規プロジェクト**：選択したアイテムまたはページを新規QuarkXPressプロジェクトにコピーします。
- **新規レイアウト**：選択したアイテムまたはページをこのQuarkXPressプロジェクトの新規レイアウトにコピーします。
- **単一ページに分割**：指定した各ページから、1ページのプロジェクトファイルを作成します。
- **レイアウトをプロジェクトに分割**：このプロジェクトの各レイアウトから、単一レイアウトのプロジェクトを作成します。
- **すべての開いているレイアウト**：選択したアイテムをこのプロジェクト内のすべてのレイアウトにコピーします。
- **[レイアウト名]**：選択したアイテムまたはページを、指定したレイアウトにコピーします。

開始ページフィールドに対象ページを入力します。

選択内容のクローンを作成する場合は、**回数**フィールドを使用して、選択したアイテムに対して必要なコピー数を入力します。たとえば、**開始ページ**に2を設定し、**回数**に5を設定した場合、2、3、4、5、6のページのコピーが作成されます。見開きページレイアウトの場合、スプレッドの両側のコピーが作成されます。

ページのクローンを作成するときに、ページのクローンにセクションを作成するには、**セクションを作成**をオンにして、下記のオプションを選択します。

- **連続セクション**：別のセクションからのクローンであっても、ページのコピーはすべて、出力先のレイアウトで単独レイアウトとして保持します。
- **セクションを分割**：指定したページ範囲にセクション分割が含まれている場合、そのセクション分割をコピー内で保持します。

新規プロジェクトにクローンを作成する場合や、プロジェクトに分割する場合は、**スタイルシートをコピー**をオンにして、新規レイアウトまたはプロジェクトに、ソースレイアウトからのスタイルシートがすべて含まれるようにします。このボックスをオンにしない場合は、使用されているスタイルシートのみがコピーされます。

App Studioレイアウトのメンバーであるレイアウトにクローンを作成することはできません。詳細は、『A Guide to App Studio』を参照してください。

イメージグリッドXTensionsソフトウェア

イメージグリッドXTensionsソフトウェアを使用すると、イメージファイルのフォルダからイメージのグリッドを自動的に作成できます。

リンクスターで作成されたページ

アクティブなレイアウトでイメージグリッドを使用するには、**補助 > イメージグリッド**を選択します。**イメージグリッド**ダイアログボックスが表示されます。

イメージグリッドダイアログボックス

グリッドを構成するボックスのサイズを手作業で指定するには、**ボックスのサイズ**フィールドに値を入力して、**固定サイズ**をクリックします（**自動サイズ調整**をクリックした場合は、**ボックスのサイズ**の値は無視されます）。**ギャップ**フィールドに、イメージとイメージの間に必要なギャップを指定します。

グリッド内の行と列の数を指定してアプリケーションで自動的にボックスのサイズを合わせられるようにするには、**自動サイズ調整**をクリックして、**行**と**列**のフィールドに値を入力します。

縦横比に応じて自動的にボックスのサイズを合わせるには、**ボックスのサイズ**領域の値を最大のサイズにして、**限界まで固定サイズでページをオートフィル**をクリックします。

画像情報を追加をオンにすると、各画像ボックスの下にキャプションのテキストボックスが追加され、画像ファイルの名前、解像度、ピクセル寸法、ファイルフォーマット、カラースペースが表示されます。このキャプションを画像ファイルの名前だけにする場合は、**名前のみ**をオンにします。キャプションのテキストのサイズを制御するには、**情報テキストのサイズ**をオンにします（このボックスをオンにしない場合は、Normal文字スタイルシートで指定したフォントサイズが使用されます）。

画像ボックスに自動ドロップシャドウを適用するには、**ドロップシャドウを適用**をオンにして、**オフセット**フィールドにドロップシャドウのオフセットを入力します。

ボックスの形状コントロールを使用すると、画像ボックスの形状を指定できます。ツールの環境設定（**QuarkXPress／編集 > 環境設定 > ツール**タブ）で指定されている画像ボックスの属性のデフォルト値を使用するには、**ツールの環境設定を使用**をオンにします。このボックスをオンにしない場合は、画像ボックスのバックグラウンドは白になります。

画像のサイズ領域では、下記のオプションのいずれかを使用できます。

- **取り込み倍率**：画像を取り込むときの倍率を指定できます。画像に合うようにボックスのサイズも変更するには、**ボックスを画像に合わせる**をオンにします。この指定によって、**新規ボックスのサイズと配置**領域の一部の設定が上書きされる場合があります。
- **ボックスに合わせる（縦横比を保持）**：縦横比を保持したまま画像をボックスに合わせます。
- **ボックスに合わせる**：縦横比を保持しないで画像をボックスに合わせます。

サブフォルダを含むをオンにすると、ターゲットフォルダのサブフォルダ内の画像も対象になります。

ターゲットフォルダを選択してプロセスを開始するには、**プロセスフォルダ**をクリックします。現在選択されているターゲットフォルダでプロセスを開始するには、**OK**をクリックします。

リンクスターXTensionsソフトウェア

リンクスターXTensionsソフトウェアでは、リフローを発生させずにテキストボックスとのリンクの設定やリンク解除ができます。

リンクスターを使用するには、最初に、リンクするアイテムまたはリンクを解除するアイテムを選択します。次に、**補助 > リンクスター**を選択して、**リンクスター**ダイアログボックスを表示します。

リンクスターダイアログボックス

選択したアイテムのリンクを解除するには、**選択**をクリックします。絶対位置で指定した、ページ範囲のリンクを解除するには、**ページ**をクリックします。

ストーリーのリンクを解除するには、**リンクを解除**をクリックしてから、以下のオプションのいずれかを選択します。

- オプション1では、3つのストーリーが作成されます。選択したボックスの前のボックスに1つ、選択したボックスに1つ、選択したボックスの後のボックスに1つ作成されます。

- オプション2では、2つのストーリーが作成されます。選択したボックスの前後のボックスに1つと、選択したボックスに1つ作成されます。

- オプション3では、2つのストーリーが作成されます。選択したボックスの前のボックスと選択したボックスに1つと、選択したボックスの後のボックスに1つ作成されます。

- オプション4では、2つのストーリーが作成されます。選択したボックスの前のボックスに1つと、選択したボックスと選択したボックスの後のボックスに1つ作成されます。

テキストボックスをリンクするには、**リンク**をクリックします。**ページ**が選択されている場合、このオプションでは、リンクスターによってリンクが解除されたボックスのみリンクされます。**選択**が選択されている場合、リンクスターでは、選択したボックスを、選択した順序でリンクしようとします。

テキストを同じボックスに保持をクリックすると、リンク後の同じボックスにテキストが保持されます。

シェイプメーカーXTensionsソフトウェア

シェイプメーカーXTensionsソフトウェアを使用すると、さまざまな複雑な形状を作成できます。新しい形状を最初から作成するか、または新しい形状を既存のボックスに適用できます。

シェイプメーカーダイアログボックスを表示するには、**補助 > シェイプメーカー**を選択します。

シェイプメーカーダイアログボックスには、さまざまな種類の形状を作成できるタブがあります。すべてのタブに、下記のコントロールがあります。

- **アイテム**：テキストボックス、画像ボックス、コンテンツなしボックス、テキストパス、ルールパスの作成を選択できます。
- **幅**および**高さ**：ボックスまたはパスの幅と高さを指定できます。**補助 > シェイプメーカー**を選択したときにアイテムが選択されていると、これらの値は、選択したアイテムに合わせて自動的に指定されます。
- **コラム**および**コラム間隔**：**テキストボックス**を**アイテム**メニューから選択すると、これらのフィールドを使用して、テキストボックス内の列数と、コラム間隔の幅を指定できます。
- **ライン**および**間隔**：**テキストパス**を**アイテム**メニューから選択すると、これらのフィールドを使用して、作成するラインの数と、各ラインの間隔を指定できます（ボックスを

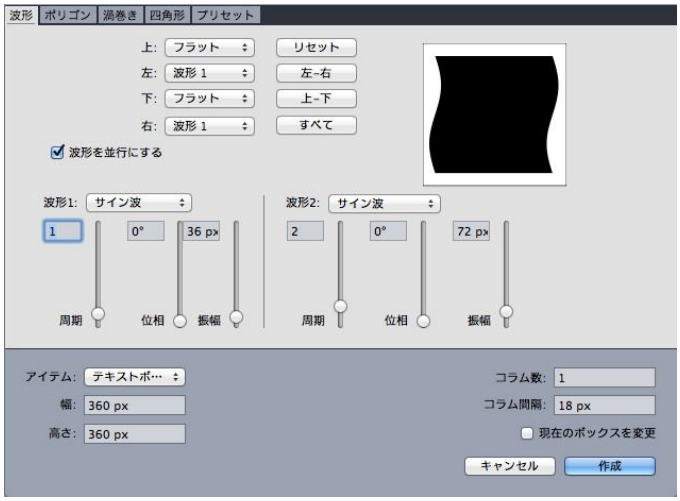
選択して、**ライン**を0に設定すると、そのボックスで定義された領域をすべて埋める数のパスが作成されます）。

- **現在のボックスを変更**：**補助 > シェイプメーカー**を選択したときにボックスが選択されていると、新規アイテムは作成されず、そのボックスの形状が更新されます。

タブ内のコントロールについては、以下のトピックで説明します。

シェイプメーカーの波形タブ

シェイプメーカーダイアログボックス（**補助 > シェイプメーカー**）の**波形**タブでは、側面が波状のボックスを作成できます。このタブを使用するには、使用する波形を**波形1**および**波形2**の領域で定義し、タブの上部にあるコントロールでその波形をボックスの4つの側面に割り当てます。



シェイプメーカーダイアログボックスの**波形**タブ

このタブにあるコントロールは下記のとおりです。

上、**左**、**下**、**右**：これらのコントロールで、ボックスの4つの側面を設定できます。**波形1**、**波形2**、または**フラット**を選択できます。

リセット：ボックスの4つの側面をすべてフラットにします。

左-右：**波形1**の設定を、ボックスの左と右の側面に適用します。

上-下：**波形1**の設定を、ボックスの上と下に適用します。

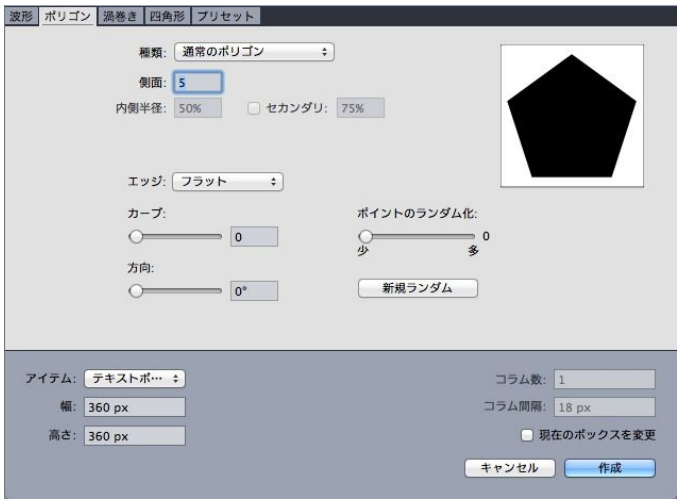
すべて：**波形1**の設定を、ボックスのすべての側面に適用します。

波形を並行にする：ボックスのどちらか一方の側面の波形を、もう一方と並行にします。

波形1領域と**波形2**領域のコントロールで、使用する波形の種類、波形の周期、波形の位相（出発点）、波形の振幅（深度）を選択できます。

シェイプメーカーの多角形タブ

シェイプメーカーダイアログボックス（**補助 > シェイプメーカー**）の**多角形**タブでは、多角形のボックスを作成できます。



シェイプメーカーダイアログボックスの**多角形**タブ

このタブにあるコントロールは下記のとおりです。

種類ドロップダウンメニューでは、作成する多角形の種類を選択できます。このドロップダウンメニューのすぐ下にあるコントロールは、選択した多角形の種類に応じて変化します。

- **通常のポリゴン**：多角形の側面の数を指定できます。
- **星**：多角形の側面の数を指定する他に、尖端内のスペースの半径を指定したり、サイズの異なるもう1つの星を重ねたりすることができます。
- **ポリグラム**：**星**と似ていますが、半径を指定する代わりに、側面を相互に合わせる方法を**ポイントスキップ**フィールドで制御できます。
- **スピログラム**：**ポリグラム**と似ていますが、アウトラインのみ作成します。
- **ランダムポリゴン**：ランダムな側面の多角形を作成できます。
- **黄金四角形**：黄金比（約1:1.618）の多角形を作成できます。
- **2乗**：2つの隣接する正方形で多角形を作成できます。

エッジ：ボックスのエッジをフラットにするかカーブさせるかを制御できます。**フラット**以外のオプションを選択した場合は、**カーブ**コントロールで側面のカーブを指定できます。いずれかの**渦巻き**のオプションを選択した場合は、**方向**コントロールで渦巻きの方向を指定できます。

ポイントのランダム化：図形のランダムの度合いを、0（なし）から100（最大）の間で制御できます。

新規ランダム：図形に特定のランダムを適用します。

シェイプメーカーの渦巻きタブ

シェイプメーカーダイアログボックス（**補助 > シェイプメーカー**）の**渦巻き**タブでは、渦巻きの形状を作成できます。

シェイプメーカーダイアログボックスの**渦巻き**タブ

このタブにあるコントロールは下記のとおりです。

種類：**アルキメデス**（均等な間隔で配置された円形の渦巻き）、**黄金渦巻き**（黄金比で作成された渦巻き）、または**カスタム**（これを選択すると**回転**フィールドが使用可能になり、渦巻きの回転数を制御できます）を選択できます。

レート：渦巻きの幅を増やす速さを制御できます。

右回りと**左回り**：渦巻きの方向を制御できます。

回転あたりのセグメント：渦巻きの円形の度合いを制御できます。

スムーズネス：渦巻きのなめらかさを制御できます。**回転あたりのセグメント**の値や**スムーズネス**の値を小さくすると、よりハードエッジな形状にできます。

シェイプメーカーの方形タブ

シェイプメーカーダイアログボックス（**補助 > シェイプメーカー**）の**方形**タブでは、方形のボックスを作成して角をカスタマイズできます。

シェイプメーカーダイアログボックスの**方形**タブ

このタブでは、**すべて同じ**をオフにすることによって、ボックスのそれぞれの角を個別に設定できます。または、**すべて同じ**をオンにして、1つのコントロールで4つの角をす

べて設定できます。どちらの方法でも、ドロップダウンメニューを使用して角の種類（**標準**、**丸形**、**角切形**、**角丸形**、**鋭角**、**開始位置**）と、直径（直径を含むオプションの場合）を指定できます。

カーブ：カーブを含んでいるオプションを選択した場合は、角のカーブを制御できます。

バランス：一部のオプションでは、角をボックスの側面の方向に傾けるか、上方向に傾けるかを制御できます。

放射相称：一部のオプションでは、ボックスの角をボックスの中央と揃えるかどうかを制御できます。

シェイプメーカーのプリセットタブ

シェイプメーカーダイアログボックス（**補助 > シェイプメーカー**）の**プリセット**タブでは、必要な設定を保存して、後で再利用できるようにできます。

シェイプメーカーダイアログボックスの**プリセット**タブ

シェイプメーカーダイアログボックスのすべてのタブのすべての設定を保存するには、**名前**フィールドに名前を入力して、**保存**をクリックします。参照していた最後のタブの図形のイメージで、エントリが左側のリストに追加されます。

保存した設定を読み込むには、左側のリストでその設定を選択して、**設定を使用**をクリックし、必要なタブに移動して、図形を作成します。

エントリとともに保存した設定を置き換えるには、そのエントリを選択して**置換**をクリックします。

エントリを削除するには、そのエントリを選択して**削除**をクリックします。

エントリを改名するには、そのエントリを選択して**改名**をクリックします。

シェイプメーカーダイアログボックスのすべてのタブを、ダイアログボックスを開いた時点の設定に戻すには、**すべて戻す**をクリックします。

XTensionsのその他のモジュール

このトピックは、QuarkXPressとともにインストールされる追加のXTensionsモジュールをリストします。

- コンポジションゾーン：コンポジションゾーン機能を有効にします（「*Composition Zonesの使用*」を参照してください）。
- Design Grid：デザイングリッド機能を有効にします（「デザイングリッド」を参照してください）。
- EA Text：ルビ文字、グループ化された文字、CJK文字揃え、圏点、およびCJK文字数などのCJK組版機能を使用するプロジェクトを開くことができます。
- オリジナルを編集：デフォルトアプリケーションを使用して画像を開き、画像ボックスおよび画像セルに対して**オリジナルを編集**および**更新**コマンドを使用して変更された画像を更新できます。Edit Original XTensionsソフトウェアがロードされると、**画像コンテンツ**ツール を使用して**オリジナルを編集**ダイアログボックスを表示し、取り込まれた画像を含む画像ボックスをダブルクリックできます。
- Error Reporting:アプリケーションが予期せずに終了した場合は、Quarkにレポートを送信できます。
- GlyphPalette：**字形**パレットを有効にします（「*字形パレットの使用*」を参照してください）。
- HyphDieckmann **（Mac OS Xのみ）**："Resources"フォルダのDieckmann自動ハイフンリソースを有効にし、参照します。
- Hyph_CNS_1, Hyph_CNS_2, Hyph_CNS_3 **（Mac OS Xのみ）**：Circle Noeticsリソースを有効にします。
- Ichitaro Import：一太郎ドキュメントを取り込むことができます。
- Index：索引機能を有効にします（「*索引の使用*」を参照してください）。
- プレースホルダテキストを挿入：ランダムテキストを作成します。ランダムテキストを作成するには、**テキストコンテンツ**ツール でテキストを選択し、**補助＞プレースホルダテキストを挿入**を選択します。
- Kern-Track：カスタムカーニングテーブルおよびトラッキングセットを有効にします（「*自動カーニング*」および「*トラッキングテーブルの編集*」を参照してください）。
- Mojigumi：CJKプロジェクトで文字組み機能を有効にします（「文字組み」を参照してください）。
- PNG Filter：ポータブルネットワークグラフィックス（PNG）フォーマットで画像を取り込むことができます。
- PSD Import：高度なイメージ制御機能を有効にします（「*PSD画像の使用*」を参照してください）。
- RTF Filter：リッチテキストフォーマット（RTF）でテキストを取り込みおよび書き出しすることができます。
- Special Line Break：CJKプロジェクトで**CJK／欧文間スペース**機能を有効にします（「*環境設定 - レイアウト - 文字設定*を参照してください）。

環境設定

環境設定では、QuarkXPressのデフォルトの動作を制御します。

環境設定の理解

環境設定コマンド（**QuarkXPress／編集 > 環境設定**）を実行すると、**環境設定**ダイアログボックスが表示されます。**環境設定**ダイアログボックスにはいくつかのペインが含まれており、これらのペインでは、アプリケーションのさまざまな機能のデフォルト設定を指定できます。ペインを表示するには、左のリストから名前をクリックします。環境設定には下記の3種類があります。

- **アプリケーションの環境設定**はアプリケーションに適用され、プロジェクトすべての処理方法に影響します。
- **プロジェクトの環境設定**は、アクティブなプロジェクトのレイアウトすべてに影響します。ただし、プロジェクトが開かれていない状態でプロジェクトの環境設定を変更すると、新しい環境設定がすべての新規プロジェクトのデフォルト設定になります。
- **レイアウト環境設定**は、アクティブなレイアウトのみに影響します。ただし、プロジェクトが開かれていない状態でレイアウト環境設定を変更すると、新しい環境設定がすべての新規レイアウトのデフォルト設定になります。

その他のペインおよびオプションは、特定のXTensionsソフトウェアを読み込んだ場合に**環境設定**サブメニューに表示されます。

環境設定が一致しませんという警告

現在の環境設定ファイルにある設定とは異なるカーニングテーブル情報、トラッキングテーブル情報、または例外ハイフンで前回保存したプロジェクトを開くと、**環境設定が一致しません**という警告が表示されます。プロジェクトの設定、または環境設定ファイルの設定を使用するオプションを選択できます。

- **XPress Preferencesを使用**をクリックすると、プロジェクトと一緒に保存された環境設定情報は無視され、すべてのレイアウトが環境設定ファイルにある環境設定に変更されます。異なる自動カーニングやトラッキングの情報、または例外ハイフンを使用すると、テキストがリフローする可能性があります。プロジェクトがアクティブであるときに行ったこれらの設定に対する変更は、プロジェクトと環境設定ファイルの両方に格納されます。**XPress Preferencesを使用**機能の利点は、カーニングテーブル情報、トラッキングテーブル情報、例外ハイフンを他のプロジェクトと共有できることです。
- **ドキュメント設定を保持**をクリックすると、プロジェクトは各レイアウトについて以前に指定された環境設定を保持します。テキストはリフローしません。プロジェクトがア

クティブであるときに行われた、自動カーニング、トラッキング、または例外ハイフンの変更は、そのプロジェクトにのみ格納されます。テキストリフローの危険を伴わずにレイアウトを開いて印刷する場合に、ドキュメント設定を保持機能が便利です。

QuarkXPress環境設定への変更

QuarkXPress環境設定への変更は、以下の方法で処理します。

- **環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）でアプリケーション環境設定を変更すると、開いているプロジェクトの有無に関わらず、変更内容は環境設定ファイルに保存され、開いているすべてのプロジェクト、および今後開くすべてのプロジェクトにただちに影響します。
- **XTensionsマネジャー**設定（**補助**メニュー）を変更すると、開いているプロジェクトの有無に関わらず、変更内容は環境設定ファイルに保存され、QuarkXPressの再起動後にすべてのプロジェクトに影響します。
- （**Windowsのみ**） **PPDマネジャー**設定（**補助**メニュー）を変更すると、開いているプロジェクトの有無に関わらず、変更内容は環境設定ファイルに保存され、開いているすべてのプロジェクト、および今後開くすべてのプロジェクトにただちに影響します。
- プロジェクトを開いた状態で**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）でレイアウト環境設定を変更すると、アクティブなプロジェクトにのみ変更内容が保存されます。
- プロジェクトを開いた状態で別のユーザー辞書を選択すると、アクティブなプロジェクトにのみ変更内容が保存されます。
- 新規プロジェクトでカーニングテーブル情報、トラッキングテーブル情報、例外ハイフンを変更すると、アクティブなプロジェクトと環境設定ファイルにこれらの変更が保存されます。

プロジェクトを開いて**環境設定が一致しません**警告が表示されたときに、**XPress Preferencesを使用**をクリックすると、カーニングテーブル情報、トラッキングテーブル情報、および例外ハイフンは、そのプロジェクトと環境設定ファイルの両方に格納されます。

環境設定ファイルの内容

環境設定ファイルの内容は下記のとおりです。さまざまな環境設定の保存方法に応じて、リストは3つのグループに分かれます。

グループA

グループAには下記の情報が含まれています。

- カーニングテーブル（**補助 > カーニングエディタ**）
- トラッキングテーブル（**補助 > トラッキングの編集**）
- 例外ハイフン（**補助 > 例外ハイフン**）

プロジェクトが開かれていない状態でグループAの設定を変更すると、環境設定ファイルにその変更が保存され、以降作成されるすべてのプロジェクトで使用されます。

プロジェクトを開いて**環境設定が一致しません**という警告が表示され、**XPress Preferencesを使用**をクリックした場合、以降グループAの設定を変更すると、その変

更がプロジェクトと環境設定ファイルの両方に保存されます（**XPress Preferencesを使用**をクリックすると、プロジェクトの元のグループA設定は破棄されます）。

プロジェクトを開いて**環境設定が一致しません**という警告が表示され、**ドキュメント設定を保持**をクリックした場合、以降グループAの設定を変更すると、その変更がプロジェクトのみに保存されます。

グループB

グループBには下記の情報が含まれています。

- デフォルトスタイルシート、カラー、ダッシュおよびフレーム、リスト、およびハイフネーション＆ジャスティフィケーション仕様（**編集**メニュー）
- **環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集 > 環境設定**）の**プロジェクト**ペインの設定
- ユーザー辞書のデフォルトパスの情報：Windowsでは**補助 > ユーザー辞書**、Mac OS Xでは**補助 > 英文スペルチェック > ユーザー辞書** ）

プロジェクトが開かれていない状態でグループBの設定を変更すると、環境設定ファイルにその変更が保存され、以降作成されるすべてのプロジェクトで使用されます。プロジェクトが開いている状態でグループBの設定を変更すると、変更はそのプロジェクトのみに保存されます。

グループC

グループCには下記の情報が含まれています。

- 出力スタイル（**編集 > 出力スタイル**）
- **XTensionsマネジャー**ダイアログボックスの設定。
- （Windowsのみ） **PPDマネジャー**ダイアログボックス（**補助**メニュー）の設定。
- **環境設定**ダイアログボックスの**アプリケーション**ペインの設定（**QuarkXPress／編集 > 環境設定**）

グループCの設定を変更すると、プロジェクトが開いているかどうかに関係なく、変更は常に環境設定に保存されます。

アプリケーションの環境設定

環境設定ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集 > 環境設定**）の**アプリケーション**ペインにあるコントロールは、プロジェクトの表示方法と保存方法など、QuarkXPressでの全プロジェクトの使用方法に影響します。これらの設定は、アプリケーションに保存され、プロジェクトには保存されません。

環境設定 - アプリケーション - 表示

すべてのプロジェクトで、アプリケーションのペーストボードとその他の要素を画面上でどのように表示するかを指定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**表示**ペインを使用します。

ペーストボード領域にある設定は、以下のとおりです。

- 印刷レイアウト上のページやスプレッドのいずれかの側にあるペーストボードの幅を指定するには、**ペーストボードの幅**フィールドを使用します。ペーストボードの幅は、レイアウトの幅に対する割合として測定されます。
- ペーストボードのカラーを指定するには、**カラー**コントロールを使用します。
- アクティブなスプレッドのペーストボードを別な色で表示するには、**ペーストボードのカラーを変えて、アクティブなスプレッドを表示します。**をオンにし、対応する**カラー**コントロールでカラーを選択します。
- トリムビューモード（**表示 > トリムビュー**）のときにペーストボードを別のカラーで表示させるには、**トリムビューのペーストボードのカラー**をオンにして、対応する**カラー**コントロールでカラーを選択します。

表示領域にある設定は、以下のとおりです。

- テキストボックス編集時にテキストボックスを一時的に不透明にするには、**テキストボックス編集時の不透明化**をオンにします。
- **（Windowsのみ）**カラーTIFFの取り込み時に作成される画面プレビューのカラー深度を指定するには、**カラーTIFF**ドロップダウンリストを使用します。
- **（Windowsのみ）**グレイスケールTIFFの取り込み時に作成される画面プレビューの解像度を指定するには、**グレイTIFF**ドロップダウンリストを使用します。
- **（Windowsのみ）**画面上にドキュメントが最適に表示されるようにモニターを調整するには、**解像度(DPI)**フィールドを使用します。
- **モニタープロファイル**ドロップダウンメニューからモニターに合ったプロファイルを選択するか、**自動**を選択します。プロファイルは、QuarkXPressアプリケーションフォルダ内の"Profiles"フォルダに配置できます（カラーマネージメント環境設定についての詳細は、「*環境設定 - レイアウト - カラーマネジャー*」を参照してください）。

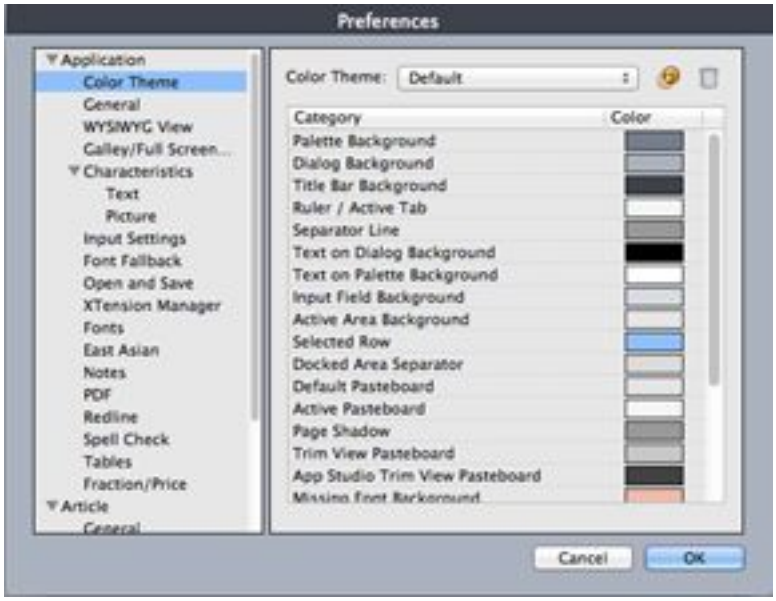
環境設定 - アプリケーション - カラーテーマ

➡ Mac OS Xのみ。

QuarkXPressのカラーテーマを指定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**カラーテーマ**ペインを使用します。

カラーテーマドロップダウンメニューを使用して既存のカラーテーマを選択するか、アイコンをクリックして既存のカラーテーマを複製します。

各カテゴリのカラーを指定するには、**カラー**コントロールを使用します。



環境設定ダイアログボックスの**カラーテーマ**ペイン

環境設定 - アプリケーション - 入力設定

スクロールとその他の「オンザフライ」アクションをカスタマイズするには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**入力設定**ペインを使用します。

- レイアウトをスクロールできるスピード、および画面上でのレイアウトの更新方法を指定するには、**スクロール**領域を使用します。 **（Windowsのみ）**レイアウトウィンドウのスクロールバーのスクロールボックスをドラッグするとき、同時にレイアウト表示が更新されるようにするには、**ライブスクロール**をオンにします。スクロール時に一時的に**ライブスクロール**のオン、オフを切り替えるには、スクロールボックスをドラッグするときにOption／Altキーを押します。
- 引用符記号の変換と入力のスタイルを選択するには、**形式**ドロップダウンメニューと**引用符の自動変換**チェックボックスを使用します。**引用符の自動変換**機能、および**取り込み**ダイアログボックス（**ファイル > 取り込み**）にある**引用符を変換**オプションで使用されるデフォルト文字を指定するには、**引用符**ドロップダウンメニューでオプションを選択します。フィート記号とインチ記号（'と"）を入力した引用符記号に自動的に変換するには、**引用符の自動変換**をオンにします。
- ハイフンとカンマは、印刷レイアウトの**印刷**ダイアログボックスの**ページ**フィールドの、連続、および不連続範囲を指定するデフォルトセパレータです。**セクション**ダイアログボックス（**ページ**メニュー）にページ番号の一部としてカンマやハイフンを指定した場合、ここでデフォルトセパレータを変更する必要があります。たとえば、ページ番号が「A-1、A-2」である場合、**ページ**フィールドにハイフンを使用して範囲を指定することはできなくなります。セパレータを編集するには、**連続**および**非連続**フィールドに新しい文字を入力します。
- **（Mac OS Xのみ）**：Controlキーでの操作内容を制御するには、**キーを押すと有効**領域を使用します。Controlキーで一時的に**ズーム**ツール を起動するには、**ズーム**をクリックします。Controlキーでコンテキストメニューを開くには、**コンテキストメニュー**をクリックします（Control+Shiftキーを押すと、選択されていない機能が実行されます）。

- （Windowsのみ）：ライブリドローのクリックとドラッグ間のディレイを指定するには、**ライブリドロードラッグまでのディレイ**フィールドを使用します。ライブリドローには、アイテムの移動によって起こる回り込みの変化がリアルタイムに表示されます。このオプションがオンになっている場合、サイズ変更ハンドルが表示されなくなるまでマウスボタンを押してからアイテムをドラッグすることによって、ライブリドローをアクティブにできます。
- ストーリーのテキストのカット、コピー、およびペーストを、メニューやキーボードコマンドではなくマウスを使用して行うには、**テキストのドラッグ＆ドロップ**をオンにします。 Mac OS Xでは、ドラッグを開始する前にControl+Commandを押すことで、この機能を一時的にオンにできます。カットしてペーストするには、テキストを選択してから、新しい位置にドラッグします。コピーしてペーストするには、テキストを選択してから、Shiftを押しながら新しい位置にドラッグします。
- ツールやパレットアイコンの上にポインタを置いたときにアイコンの名前を表示するには、**ツール・ヘルプ**をオンにします。
- 新規画像をボックスに取り込むとき、縮小率とその他の属性を画像ボックスにデフォルトで「記憶させる」には、**画像ボックス属性を保持**をオンにします。
- （Windowsのみ）デフォルトでは、CJK文字を入力するためシステムで提供されているウィンドウに入力するのと同じ方法で、テキストボックスにテキストを直接入力できます。この機能を無効にするには、**インライン入力**をオフにします。
- （Windowsのみ） **OTFプリンタフォント検索を行う**をオンにすると、**ファイル**メニューの**印刷**ダイアログボックスにある**フォント**ペインで**プリンタの検索**をクリックしたとき、OpenTypeフォントも検索されるようになります。

環境設定 - アプリケーション - 未定義キャラクタの代替

不足フォントが使用されるプロジェクトをアプリケーションで開いたときの動作を設定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**未定義キャラクタの代替**ペインを使用します。

未定義キャラクタの代替機能を有効にするには、**未定義キャラクタの代替**をオンにします。この機能をアクティブにすると、現在のフォントでは表示できない文字が使用された場合、その文字を表示できるフォントの検索を試みます。

アプリケーションでプロジェクトを開いたときに不足フォントが見つかると、このペインの環境設定で使用する代替フォントを決定します。

文字を既存のプロジェクトに追加しようとして、その文字がフォントでサポートされていない場合、その文字を表示できるシステムのフォントが検索されます。

アクティブストーリーで使用する適切なフォントをアプリケーションに検索させるには、**検索**をオンにします。特定の範囲に検索を限定するには、**最後**をオンにして、**段落**フィールドに数値を入力します。フォントが見つからない場合に、ストーリー全体にまで検索を広げるには、**アクティブストーリー**をオンにします。

他のフォントが見つからない場合に使用する代替フォントを指定するには（**検索**設定を考慮して）、**スクリプト／言語**リストに表示される各スクリプト／言語の**フォント**コラムでオプションを選択します。

レイアウトをトンボ付きで印刷するときに、スラグラインで使用するフォントを指定するには、**ページ情報フォント**ドロップダウンメニューでオプションを選択します。

環境設定 - アプリケーション - 取り消し

➡ Windowsのみ。

複数取り消しオプションを設定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**取り消し**ペインを使用します。

- **やり直し**コマンドを呼び出すキーボードコマンドを指定するには、**「やり直し」キー**ドロップダウンメニューを使用します。
- 取り消し履歴に格納できるアクションの回数を指定するには、**「取り消し/やり直し」アクションの最大回数**フィールドを使用します。取り消し履歴は最大で30アクションまで保持できます。デフォルト設定は20です。

環境設定 - アプリケーション - 開く＆保存

アプリケーションでの保存とバックアップの実行方法をカスタマイズするには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**開く＆保存**ペインを使用します。

- システムまたは電力の障害から作業を保護するには、**自動保存**をオンにします。このオプションをオンにすると、プロジェクトフォルダにある一時ファイルに変更内容が、指定した時間間隔で自動的に記録されます。 **間隔（分）**フィールドに間隔を分数で入力します。指定できる最短時間間隔は、0.25分です。**自動保存**がオンの場合、デフォルト設定は**5分間隔**です。手動で保存（**ファイル > 保存**）しない限り、元のファイルは上書きされません。システムが中断された後にプロジェクトを開くと、プロジェクトが最後に自動保存されたバージョンに復元される旨の警告が表示されます。
- **自動バックアップ**をオンにして、**リビジョンを保持**フィールドに値を入力すると、1プロジェクトにつき最大100のリビジョンを保持できます。手動で保存（**ファイル > 保存**）するたびに、以前に手動で保存したバージョンが、指定した**保存フォルダ**にコピーされます。**自動バックアップ**のデフォルト設定はオフです。プロジェクトと同じフォルダにリビジョンを保存するには、**プロジェクトフォルダ**をクリックします。別のフォルダにリビジョンを保存するには、**その他のフォルダ**をクリックしてから**参照**をクリックします。各バックアップを表す連番がファイル名に追加されます。最新リビジョン（5個のうちの5番目など）が作成されると、フォルダで最も古いリビジョンが削除されます。保存フォルダからバックアップを取得するには、リビジョンファイルを開きます。
- プロジェクトウィンドウのサイズ、位置、および縦横比をアプリケーションに自動的に保存するには、**レイアウト位置の保存**をオンにします。
- Unicode以外のテキストの文字の表示方法を指定するには、**Unicode以外のサポート**の下にある**エンコーディング**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。

環境設定 - アプリケーション - XTensionsマネジャー

XTensionsマネジャーダイアログボックスが表示されるタイミングを設定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**XTensionsマネジャー**ペインを使用します。

環境設定 - アプリケーション - 共有

新規共有コンテンツのデフォルトオプションを設定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**共有**ペインを使用します。これらのオプションの意味についての詳細は、「*コンテンツの共有および同期*」を参照してください。

共有コンテンツスペースに複数アイテムを追加するときに、このペインで指定したオプションを常に使用するには、**複数のアイテムを共有する際ダイアログを表示しない**をオンにします。

環境設定 - アプリケーション - フォント

下記の環境設定を指定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**フォント**ペインを使用します。

（**Windowsのみ**）：対応するフォントに各フォント名を表示するには、**フォントプレビュー**領域で、**フォントメニューに表示**をオンにします。

フォントマッピング領域で、以下の操作を実行します。

- **不足フォント**ダイアログボックスを非表示にするには、**不足フォントダイアログを表示しない**をオンにします。置換フォントが定義されていない不足フォントを含むプロジェクトを開いたときの動作を、このチェックボックスの下にあるラジオボタンで決定します。
- デフォルトの置換フォントを指定するには、**デフォルト置換フォントを指定します**をオンにし、**デフォルト置換フォント**ドロップダウンメニューから置換フォントを選択します。
- デフォルトの置換フォントを指定するには、**デフォルト置換フォントを指定します**をオンにし、**欧文**および**CJK**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。
- 中国語（繁体字）エンコーディングのUDA／VDA（ユーザ定義領域／ベンダー定義領域）範囲にある文字を強調表示して、該当文字を視覚的に確認できるようにするには、**フォントメーカーによって定義された繁体字の文字範囲に入っている文字をハイライトする**をオンにします。

環境設定 - アプリケーション - テキストのハイライト

➡ **Windows**のみ。

下記の環境設定を指定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**テキストのハイライト**ペインを使用します。

不足フォントのバックグラウンド領域で、下記の操作を行ってください。

- **カラー**コントロールを使用してカラーを指定します。
- **不透明度**コントロールを使用して、不透明度の値を0%（完全に透明）から100%（完全に不透明）の間で指定します。

環境設定 - アプリケーション - 東アジア

東アジア言語の機能を有効にするには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**CJK**ペインを使用します。

環境設定 - アプリケーション - ダイナミックガイドのカラー

➡ Windowsでのみ使用できます。 **Mac OS X**では、**環境設定**ダイアログボックスの**カラーテーマ**ペインを使用して、ダイナミックガイドのカラーを設定できます。

（Windowsのみ） **環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／Edit**メニュー）の**ダイナミックガイドのカラー**ペインを使用して、ダイナミックガイドの種類ごとにカラーを指定できます。

カラーコントロールを使用して、ダイナミックガイドの下記の種類ごとにカラーを指定します。

- ダイナミックガイド：アイテムの中央
- ダイナミックガイド：ページの中央
- ダイナミックガイド：アイテムのエッジ
- ダイナミックガイド：同じ寸法
- ダイナミックガイド：同じ間隔

環境設定 - アプリケーション - ファイルリスト

Windowsでのみ使用できます。 **Mac OS X**では、OSレベルの環境設定が継承されます。

ファイルメニューで、最近開いて保存したファイルの表示をカスタマイズするには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**ファイルリスト**ペインを使用します。

- 最近開いて保存したファイルの表示数を指定するには、**最近表示したファイルの数**フィールドを使用します。
- 最近開いたファイルのリストを表示するメニューを選択するには、**ファイルリストの位置**領域を使用します。
- アルファベット順でファイルリストを表示するには、**名前をアルファベット順に**をオンにします。
- ファイルの位置を表示するには、**フルパス表示**をオンにします。

環境設定 - アプリケーション - デフォルトパス

（Windowsのみ） **開く**、**保存／新規保存**、**取り込み**コマンド用に、ファイルシステムまたはネットワーク上のデフォルトの場所を定義するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**デフォルトパス**ペインを使用します。

環境設定 — アプリケーション — 索引

索引ペインで、作成した索引マーカの色および約物をカスタマイズできます。

索引マーカの色を変更するには、**索引マーカの色**ボタンをクリックします。

作成した索引の約物の方法を制御するには、**区切りキャラクタ**設定を使用します。

- 索引の各見出し語の直後に挿入する約物を指定するには、**見出し語の後**フィールドに文字を入力します。
- 索引のページ番号のリストを分割する単語や約物を指定するには、**ページ番号の間**フィールドに文字を入力します。
- 索引のページ範囲を分割する単語または約物を指定するには、**ページ範囲の間**フィールドに文字を入力します。

- クロス参照の前に使用される単語または約物（通常は、ピリオド、セミコロン、またはスペース）を指定するには、**クロス参照の前**フィールドに文字を入力します。
- クロス参照に適用する文字スタイルシートを選択するには、**クロス参照スタイル**ドロップダウンリストを使用します。このスタイルシートは、「参照」、「参照（追加）」、および「以下を参照」にのみ適用され、見出し語や参照には適用されません。
- 追い込み索引の見出し語の間や、階層付き索引の段落の最後に挿入される単語や約物を指定するには、**見出し語の項目間**フィールドに文字を入力します。

環境設定 - アプリケーション - ジョブジャケット

自動レイアウト評価用の環境設定を指定し、ジョブジャケットファイルのデフォルトの場所を指定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**ジョブジャケット**ペインを使用します。

QuarkXPressが**ファイル > レイアウトの評価**コマンドを自動的に実行するタイミングを制御するには、**レイアウトの評価**領域にあるオプションを使用します。たとえば、**出力の際に**をオンにすると、出力用に送信する前に、常にレイアウトを評価するように設定できます。オプションは下記のとおりです。

- **オープン時**
- **保存時**
- **出力時**
- **終了時**

ジョブジャケットファイルのデフォルトの保存先を指定するには、**ロケーション**領域にあるオプションを使用します。デフォルトの場所にジョブジャケットファイルを保存するには、**共有ジャケット用のデフォルトパスを使用**をクリックします。デフォルトの場所は、 **Mac OS X**では"Documents"フォルダ、Windowsでは"My Documents"フォルダです。

環境設定 - アプリケーション - ノート

ノートの表示方法を設定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**）の**ノート**ペインを使用します。

付箋の属性セクションで、下記の操作を行います。

- **フォント**ドロップダウンメニューでフォントを選択します。
- **サイズ**ドロップダウンメニューでフォントサイズを選択します。
- **行送り**フィールドを使用して、行間隔を指定します。
- **バックグラウンド**セクションの**カラー**ドロップダウンメニューを使用して、バックグラウンドカラーを指定します。

環境設定 - アプリケーション - PDF

PDF書き出しの環境設定を行うには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**PDF**ペインを使用します。

PDFファイルの作成方法を指定するには、**PDFのワークフロー**領域にあるオプションを使用します。

- QuarkXPressにPDFファイルを作成させるには、**PDF作成**をクリックします。
- PDFマーク付きでPostScriptファイルを書き出すには、**PostScriptファイルを一時作成**をクリックします。このオプションを使用することで、他社製PDF作成アプリケーションを使用してPDFファイルを作成できます。このオプションをオンにすると、**監視フォルダを使用**もオンにして、PostScriptファイルが保存されるディレクトリ（PDF作成ツールの自動処理用）を指定できます。**監視フォルダを使用**をオンにしないと、PostScriptファイルの保存場所を指定するように指示されます。

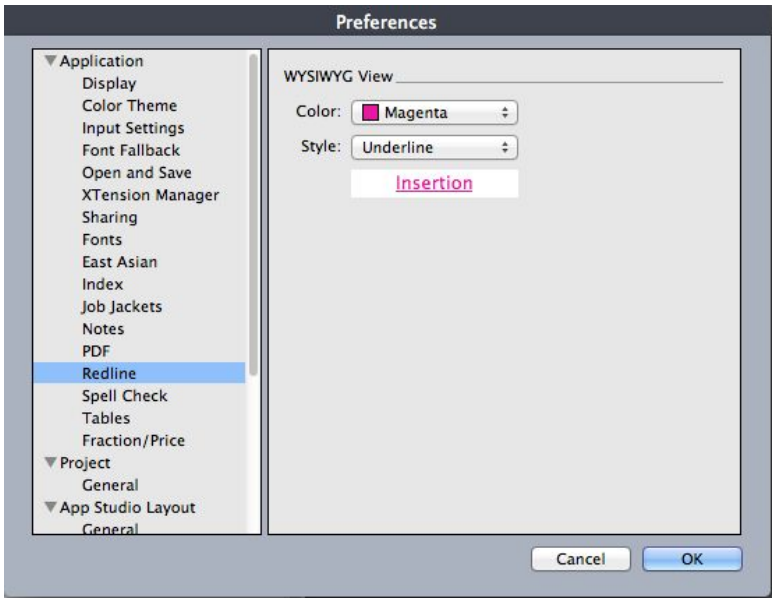
（Mac OS Xのみ）：PDF書き出し処理中に、大きなPDFファイルのレンダリングに使用するための仮想メモリの容量を増やすには、**仮想メモリ**フィールドの値を増やします。

書き出されたPDFファイルのデフォルト名を選択するには、**デフォルト名**ドロップダウンメニューを使用します。

PDFファイル作成中のエラー（ある場合）のログを作成するには、**ログエラー**をオンにします。このオプションがオンの場合、**ログフォルダの使用**をオンにしてログファイルの保存先を指定します。**ログフォルダの使用**がオフの場合、書き出されたPDFファイルと同じディレクトリにログファイルが作成されます。

環境設定 - アプリケーション - 変更履歴

挿入されたテキストと削除されたテキストの表示方法を設定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**変更履歴**ペインを使用します。



環境設定ダイアログボックスの**変更履歴**ペイン

WYSIWYG表示領域で、下記の操作を行います。

- **カラー**コントロールを使用してカラーを指定します。
- **スタイル**ドロップダウンを使用してスタイルを指定します。

環境設定 - アプリケーション - スペルチェック

スペルチェックのオプションを設定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**スペルチェック**ペインを使用します。

スペルチェックの例外領域で、以下の操作を実行します。

- スペルチェックから数字を含む単語を除外するには、**数字を含む単語を無視**をオンにします。
- スペルチェックから電子メールアドレスおよびURLを除外するには、**インターネットおよびファイルアドレスを無視**をオンにします。
- スペルチェックの際、ドイツ言語に適用されている大文字小文字の区別および単語間スペースの確認を無効にするには、**ドイツ語で大文字化を無視**をオンにします。ドイツ言語とは、ドイツ語、スイスドイツ語、ドイツ語（新正書法）、スイスドイツ語（新正書法）です。
- スペルチェックの際、非ドイツ言語に適用されている大文字小文字の区別および単語間スペースの確認を無効にするには、**ドイツ語以外で大文字化を無視**をオンにします。

  ドイツ語文字でタグ付けされたテキストをスペルチェックする場合にドイツ語（新正書法）を使用するには、**新正書法の適用される言語**領域にある**ドイツ語（新正書法2006年版）を使用**をオンにします。

環境設定 - アプリケーション - テーブル

アンカーテーブルに自動分割を許可機能を有効／無効にするには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**テーブル**ペインを使用します。

環境設定 - アプリケーション - 分数／通貨

分数と通貨を自動的にフォーマットするには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**分数/通貨**ペインを使用します。

- **分子**領域では、**オフセット**オプションにより、ベースラインを基準にして分子が配置されます。**縦比率**オプションでは、フォントサイズのパーセントで分子の高さを指定します。**横比率**オプションでは、通常の文字幅のパーセントで分子の幅を指定します。**カーニング値**オプションで、文字とスラッシュ間の間隔を調整します。
- **分母**領域では、**オフセット**オプションにより、ベースラインを基準にして分母が配置されます。**縦比率**オプションでは、フォントサイズのパーセントで分母の高さを指定します。**横比率**オプションでは、通常の文字幅のパーセントで分母の幅を指定します。**カーニング値**オプションで、文字とスラッシュ間の間隔を調整します。
- **スラッシュ**領域では、**オフセット**オプションにより、ベースラインを基準にしてスラッシュが配置されます。**縦比率**オプションでは、フォントサイズのパーセントでスラッシュの高さを指定します。**横比率**オプションでは、通常の文字幅のパーセントでスラッシュの幅を指定します。**カーニング値**オプションで、文字とスラッシュ間の間隔を調整します。**スタイル > 文字飾り > 分数の作成**を選択した場合に、タイプサイズを保持するには、**分数用スラッシュ**をオンにします。
- **通貨**領域では、**¢ にアンダーラインを適用**オプションでセント記号（¢）の下にアンダーラインを配置し、**Radixの削除**オプションで通貨から小数点やカンマ記号を削除します。

プロジェクトの環境設定

環境設定ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集 > 環境設定**）の**プロジェクト**ペインは、アクティブなプロジェクトのレイアウトすべてに影響します。ただし、プロジェクトが開かれていない状態でプロジェクトの環境設定を変更すると、新しい環境設定がすべての新規プロジェクトのデフォルト設定になります。

環境設定 - プロジェクト - 一般

自動画像取込み、単独レイアウトモード、およびOpenTypeカーニング（OpenTypeフォントの場合）のデフォルト設定を指定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**一般**ペインで**プロジェクト**バージョンを使用します。

レイアウトを最後に開いてから変更された画像をアプリケーションで自動的に更新するかどうかを設定するには、**自動画像取込み**ドロップダウンメニューを使用します。

- **自動画像取込み**機能を有効にするには、**オン**をクリックします。プロジェクトを開くと、自動的に変更済み画像が再度取り込まれます。
- **自動画像取込み**機能を無効にするには、**オフ**を選択します。
- アプリケーションで変更済み画像を取り込む前に警告を表示するには、**確認する**をクリックします。

プロジェクトが開かれていない状態で**単独レイアウトモード**チェックボックスをオンにすると、**新規プロジェクト**ダイアログボックスの**単独レイアウトモード**チェックボックスが自動的にオンになります。

OpenTypeフォントのデフォルトのカーニング値を有効にするには、**OpenTypeのカーニング情報を使用**チェックボックスをオンにします。OpenTypeカーニングがアクティブな場合、そのカーニングがOpenTypeフォントの**カーニングエディタ**（**補助**メニュー）で指定したすべてのカーニングよりも優先されます。

全角文字のOpenTypeカーニングを無効にするには、**全角文字をカーニングしない**をオンにします。

レイアウト環境設定

環境設定ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集 > 環境設定**）の**レイアウト**ペインの設定は、テキストオーバーフロー時にページを自動挿入するかどうか、およびカラーのトラップ方法など、特定のQuarkXPress機能でのドキュメントの使用方法に影響します。

環境設定 - レイアウト - 一般

環境設定ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**一般**ペインで**レイアウト**バージョンを使用すると、ガイドの吸着距離やハイパーリンクおよびアンカーの色など、ページレイアウトのさまざまなデフォルト設定を指定できます。

表示領域で、下記の操作を行ってください。

- **グリークテキスト(<)**チェックボックスをオンにしてフィールドに値を入力すると、「グリーキング」によりQuarkXPressの画面の再描画速度が上がります。グリーキングとは、指定したサイズよりも小さなテキストの代わりにグレイのバーを表示する処理のことです。グリーキングは印刷や書き出しには影響しません。テキストのグリーキングは表示率の影響を受けます。
- **画像グリーキング**チェックボックスをオンにすると、取り込んだ画像をQuarkXPressにグレイのボックスで表示できます。グリーキングされた画像を含むボックスを選択すると、画像が普通に表示されます。このチェックボックスはデフォルトでオフになっています。

アンカーアイコンおよびハイパーリンクの色を選択するには、**ハイパーリンク**領域を使用します。アンカーアイコンの色はすべてのレイアウトで使用できますが、ハイパーリンクの色は印刷レイアウトとインタラクティブレイアウトでしか使用できません。印刷レイアウトをPDFファイルとして書き出す予定がある場合、そのレイアウトでアンカーおよびハイパーリンクの色を選択する場合もあります。

マスターページを適用した場合にマスターアイテムの動作を制御するには、**マスターページアイテム**領域を使用します。新しいマスターページは、次のいずれかの場合に常にレイアウトページに適用されます。（1）マスターページのアイコンを**レイアウト**パレットのマスターページ領域から**レイアウト**パレット（**ウィンドウ > レイアウト表示**）のレイアウトページアイコンへドラッグ＆ドロップした場合、（2）**レイアウト**パレットを使用してレイアウトページに適用されたマスターページを削除した場合、または（3）見開きページレイアウトの奇数ページを追加、削除、または移動した場合。

- 新しいマスターページが適用されたときに現在のレイアウトページに変更済みのマスターアイテムを残す場合、**変更箇所保持**をクリックします。保持されるアイテムはマスターアイテムではなくなります。
- 新しいマスターページが適用されたときに現在のレイアウトページに変更済みのマスターアイテムを削除する場合、**変更箇所消去**をクリックします。

フレームをテキストボックスおよび画像ボックスの内側と外側のどちらに配置するかを指定するには、**フレーム**領域を使用します。

- **内側**をクリックすると、テキストとフレームの距離がボックスの**テキストとの間隔**（**アイテム > 設定**）の値により決まります。フレームを画像ボックスの内側に配置すると、そのフレームが画像と重なります。
- **外側**をクリックすると、フレームがボックスの外側に配置され、ボックスの幅と高さが大きくなります。フレームのサイズがボックスまたはペーストボードの制限を超えないようにする必要があります。

印刷レイアウトのみ：自動テキストボックスまたは（自動テキストボックスを含むマスターページに関連付けられたページの）連続するテキストボックスからテキストがはみ出さないようにするために、ページを自動的に挿入するかどうかを決定するには、**自動ページ挿入**オプションを使用します。ドロップダウンメニューからもページを挿入するかどうかを指定できます。

環境設定 — レイアウト — 単位

レイアウトルーラーおよび**単位**パレットのデフォルトの単位を指定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**単位**ペインを使用します。

- レイアウトウィンドウの上と左に沿って表示されるルーラーの基準単位を指定するには、**水平方向**および**垂直方向**ドロップダウンメニューを使用します。**水平方向**は上のルーラーに対応し、**垂直方向**は左のルーラーに対応します。
- **単位**パレットのデフォルトの**X**座標や**Y**座標を含むその他いくつかのUIの縦横比は、これら2つのドロップダウンメニューにより決まります。フォントのサイズ、フレームの幅、行送り、線の幅などは、選択した単位に関係なくQuarkXPressにより自動的にポイント単位に変換されます。
- 72ポイント／インチのデフォルト値を上書きするには、**ポイント/インチ**フィールドを使用します。QuarkXPressでは、このフィールドの値をすべてのポイントおよびパイカと

ポイント／インチ変換およびパイカ／インチ変換の単位の基本として使用します。DTPのポイント／インチ変換の基準は72です。ただし、大部分の組版用の金属製ルーラーで使用されていた従来の組版基準は約72.27または72.307ポイント／インチ（範囲は60～80pt、基準単位はポイント、最小増分値は0.001）です。

- シセロからセンチメートルへの変換値を標準の2.1967（範囲は2～3c、基準単位はシセロ、最小増分値は0.001）とは異なる値に指定するには、**シセロ/cm**フィールドを使用します。
- **印刷レイアウトのみ：**水平方向のルーラーの増分値を**ページ**ごとにゼロから繰り返すか、**スプレッド**全体を通じて続けるかを指定するには、**ルーラー適用範囲**ボタンを使用します。この設定によりフィールドに表示されるアイテムの座標が決まります。デフォルトのオプションは**ページ**です。
- 新規レイアウトのデフォルトの単位を設定するには、**単位**ドロップダウンメニューを使用します。

環境設定 - レイアウト - 段落

さまざまな段落レベルの設定を制御するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**段落**ペインを使用します。

行間隔を自動的に設定するには、**行送りの自動設定**機能を使用します。**段落設定**ダイアログボックス（**スタイル > 行送り**）の**行送り**フィールドに「auto」または「0」を入力すると、この設定を段落に適用できます。行送りが絶対的な設定になっている段落（すべての行で行間隔が等しい段落）とは異なり、行送りが自動設定されている段落の場合、フォントやフォントサイズが同じ段落内で混在している場合、行間隔の異なる行が含まれている場合があります。

行送りの自動設定では、行送りの基本値から始まります。この基本値は、自動設定の行送りの行とその上の行で使用するフォントに組み込まれたアセントおよびディセントの値を検証することにより、QuarkXPressが計算します。ただし、ユーザーが指定するテキストサイズ（**スタイル > サイズ**）の場合、行送りの基本値を決定するときの最大要素となります。最後に、**行送りの自動設定**フィールドでユーザーが指定した値を行送りの基本値に追加すると、行送りの合計値に到達します。

行送りの自動設定をパーセントで指定するには、0%から100%までの値を1%刻みで入力します。この値により、2つのテキスト行間の行送りの値が下記のとおり決まります。上の行の最大フォントサイズに割合の値をかけます。その結果を、2行間の行送りの自動設定の基本値に追加します。フォントのデザインによってはこの処理が複雑になる場合もありますが、その例を簡単に示します。10ポイントのテキストで、スタイル設定を一貫して「標準」フォントにし、**行送りの自動設定**を20%に設定した場合、行送りは12ポイントとなります（10pt + [10ptの20%] = 12pt）。行送りの自動設定を増分値で指定するには、値の前にプラス記号（+）またはマイナス記号（-）を付けて入力します。範囲は-63ポイントから+63ポイントまでで、単位は任意です。「+5」と入力すると、5ポイントの行送りが行送りの自動設定の基本値に追加されます。「+5 mm」と入力すると、5ミリメートル追加されます。

列またはボックスで障害物の直下にあるテキスト行の配置を制御するには、**行送り値の保持**チェックボックスをオンにします。**行送り値の保持**チェックボックスをオンにすると、行のベースラインが適用された行送り値に従って配置されます。**行送り値の保持**チェックボックスをオフにすると、行のアセントが障害物または適用した回り込み値（**アイテム > 回り込み**）の下にきます。

グリッド固定のベース領域で、下記の操作を行ってください。

- 文字のアセンダーおよびディセンダーに応じてテキストをグリッドに対して固定するには、**アセントおよびディセント**をクリックします。
- 文字の仮想ボディのサイズに応じてグリッドにテキストを固定するには、**フォントサイズ（仮想ボディ）**をクリックします。

例外ハイフン辞書で対応する見出し語が見つからない場合に、QuarkXPressが段落の自動ハイフネーションに使用する方法を指定するには、**自動ハイフン**リスト言語ごとに、**自動ハイフン**領域の**方法**ドロップダウンメニューを使用します。ここで選択する設定は、**自動ハイフン（編集 > H&J）**が有効な段落のみに影響します。

- バージョン3.1以前のQuarkXPressに組み込まれているアルゴリズムを使用してハイフネーションを実行するには、**標準**チェックボックスをオンにします。バージョン3.1以前のQuarkXPressで作成されたドキュメントをバージョン3.1以降で開くと、デフォルトで**標準**チェックボックスがオンになっています。
- バージョン3.1以降のQuarkXPressに組み込まれているアルゴリズムを使用してハイフネーションを実行するには、**拡張**チェックボックスをオンにします。

- **Extended 2**では、**拡張**と同じアルゴリズムが使用されますが、そのアルゴリズムを使用する前に標準のハイフネーション辞書をチェックします。**Extended 2**では、Dieckmannの例外リソースとアルゴリズムをハイフネーションに使用します。このオプションはQuarkXPress 4.11 ドイツ語（新正書法）版から導入されたもので、最近のバージョンでは他の言語にも導入が拡大されています。このオプションを母言語で使用可能な場合、これがQuarkXPressで作成されたプロジェクトのデフォルト方式となります。

環境設定 - レイアウト - 文字設定

新規共有コンテンツのデフォルトオプションを設定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**共有**ペインを使用します。QuarkXPressによる上付き字形および下付き字形などの組版スタイルの構成方法を指定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**文字設定**ペインを使用します。

- 上付き文字の配置と縮小率（サイズ）を制御するには、**上付き字形**領域を使用します。**オフセット**値で、上付き文字の配置位置をベースラインからの下方向の距離を指定します。**オフセット**値は、フォントサイズの割合で測定されます。デフォルト値は33%です。**縦比率**値で、文字の縦サイズを指定します。フォントサイズの割合で表されます。**横比率**値で、横幅を指定します。フォントデザイナによって指定された通常の文字の幅の割合で表されます。両方の縮小率のデフォルト値は60%です（範囲は0～100%、測定はパーセント方式、最小単位は0.1）。
- 下付き文字の位置と縮小率（サイズ）を制御するには、**下付き字形**領域を使用します。**オフセット**値で、下付き文字の配置位置をベースラインからの上方向の距離を指定します。**オフセット**値は、フォントサイズの割合で測定されます。デフォルト値は33%です。**縦比率**値で、文字の縦サイズを指定します。フォントサイズの割合で表されます。**横比率**値で、横幅を指定します。フォントデザイナによって指定された通常の文字の幅の割合で表されます。両方の縮小率のデフォルト値は100%です（範囲は0～100%、測定はパーセント方式、最小単位は0.1）。
- **スモールキャップス**タイプスタイルが適用されている文字の縮小率を制御するには、**スモールキャップス**領域を使用します。**縦比率**値で、文字の縦サイズを指定します。フォントサイズの割合で測定されます。**横比率**値で、横幅を指定します。フォントデザイナ

によって指定された通常の文字の幅の割合で測定されます。両方の縮小率のデフォルト値は75%です（範囲は0〜100%、測定はパーセント方式、最小単位は0.1）。

- 肩文字の縮小率を制御するには、**肩文字**領域を使用します。**縦比率**値で、文字の縦サイズを指定します。フォントサイズの割合で測定されます。**横比率**値で、横幅を指定します。フォントデザイナによって指定された通常の文字の幅の割合で測定されます。両方の縮小率のデフォルト値は60%です（範囲は0〜100%、測定はパーセント方式、最小単位は0.1）。
- フォントに組み込まれた合字を使用するには、**合字**領域を使用します。合字とは、特定の複数文字を組み合わせて単一字形にする組版手法です。大抵のフォントには、「f」とそれに続く「i」、「f」とそれに続く「l」のための合字が含まれています。**カーニング(>)で分割**フィールドで、合字への組み合わせが行われるカーニングとトラッキングの上限値（単位は1/200 emスペース）を指定できます。たとえば、大きなトラッキング値を含む見出しに合字が含まれることはありません。デフォルト値は1です（範囲は0〜10、測定方法は0.005（1/200）全角スペース、最小単位は0.001）。「office」および「waffle」などの「ffi」と「ffl」にある2番目の2文字が合字に組み合わされないようにするには、**"ffi"または"ffl"は使用しない**をオンにします。このように3文字を組み合わせた合字は、従来のタイプセッティングシステムによく見られます。しかし、 **Mac OS X**用にデザインされたフォントではこのような合字が標準化されていません。このため、3文字のうちの2文字のみを組み合わせるのではなく、3文字すべてを別々にしておくことを望む組版作成者もいます。多くのPostScriptフォントには「ffi」および「ffl」合字はありませんが、ほとんどのOpenTypeフォントにはあります。このチェックボックスはデフォルトでオフになっています。
- 文字間隔を制御するために、ほとんどのフォントに組み込まれているカーニングテーブルを使用するには、**自動カーニング(>)**をオンにします。**自動カーニング(>)**フィールドで、自動カーニングを使用する必要があるポイントサイズの下限を指定できます。**自動カーニング(>)**機能には、選択したフォントの**トラッキング値**ダイアログボックス（**補助 > トラッキングの編集**）で指定する、カスタムトラッキング情報も実装されています。このオプションはデフォルトでオンになっていて、4ポイントのしきい値が設定されています（範囲は0〜72ポイント、測定方法はインチ、ポイント、cmなど、最小単位は0.001）。
- テキストのポイントサイズに等しいemスペース（たとえば、24ポイントのテキストでは24ポイントのemスペース）を指定するには、**標準emスペース**をオンにします。**標準emスペース**がオフの場合、現在のフォントの2つのゼロの幅が全角スペースの幅として使用されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。Option+スペースキー／Ctrl+Shift+6を押して、テキストに全角スペースを挿入できます。
- フレックススペース幅のデフォルト値50%を変更するには、**フレックススペース幅**フィールドを使用します。改行のあるフレックススペースを作成するには、Option+Shift+スペースキー／Ctrl+Shift+5を押します。改行のないフレックススペースを作成するには、Command+Option+Shift+スペースキー／Ctrl+Alt+Shift+5を押します。**フレックススペース幅**の値は、指定されたフォントとフォントサイズの通常のenスペースの割合で表されます（範囲は0〜400%、測定はパーセント方式、最小単位は0.1）。
- オールキャップスタイプスタイルが適用されているアクセント付き文字にアクセント記号を含めるかどうかを指定するには、**オールキャップスのアクセント記号**チェックボックスを使用します。このオプションは、デフォルトでオンになっています。
- 中国語、日本語、または韓国語の文字と隣接する欧文文字との間に含める間隔の大きさを指定するには、**CJK／欧文間スペース**フィールドを使用します。

環境設定 - レイアウト - ツール

ズームツール および**アイテム**ツール のデフォルトの特性を指定したり、アイテム作成ツールで作成されたアイテムのデフォルト設定を行うには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**ツール**ペインを使用します。

Windows

- **アイテム**ツール のオプションを構成するには、**アイテム**ツールを選択してから**設定**をクリックします。**アイテム**ツールによりアイテムを少しずつ動かすためのピクセル数を制御するには、**Shiftキーを使って少しずつ増分**領域を使用します。ボックスをダブルクリックしたときの動作を決定するには、**ボックスをダブルクリックしたときのアクション**の下にあるラジオボタンを使用します。**アイテム**ツールから適切なコンテンツツールに切り替えるか、**設定**ダイアログボックスを開くかを選択できます。
- **ズーム**ツール の表示変更の範囲と増分を制御するには、**ズーム**ツールを選択してから**設定**をクリックします。
- **テキストコンテンツ**および**画像コンテンツ**ツールのドラッグオプションを構成するには、この2つが結合したコンテンツツールを選択して**設定**をクリックします。選択したコンテンツツールを使用してドラッグしたときに新規ボックスを作成するには、**ボックスを作成**をクリックします。選択したコンテンツツールを使用してドラッグしたときにボックスを選択するには、**ボックスを選択**をクリックします。
- 1つ以上の関連するアイテム作成ツールで作成されたアイテムのデフォルトの属性を変更するには、ツールを選択してから**設定**をクリックします。
- ツールの環境設定を変更していて、その環境設定をデフォルトに戻したい場合は、ツールをリストから選択して**復元**をクリックします。複数のツールの環境設定を変更していて、それらすべてのツールの環境設定をデフォルトに戻すには、**すべて復元**をクリックします。

Mac OS X

レイアウトを行うツールのデフォルトの環境設定は、ボックスから直接設定できます。ツールの環境設定を行うには、希望するようにボックスを設定してから、**編集 > 選択内容からツールの環境設定を設定**を使用して、ボックスの属性をツールの環境設定に適用します。**編集 > ツールの環境設定をデフォルトに復元**を使用すると、ツールの環境設定をデフォルトに戻すことができます。

環境設定 - レイアウト - ガイドとグリッド

ガイドやデザイングリッドのさまざまなデフォルト設定を指定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**ガイドとグリッド**ペインを使用します。

ガイド吸着距離フィールドでは、6ピクセルのデフォルトの吸着距離を変更できます。**ガイドへの吸着**チェックボックス（**表示**メニュー）をオンにすると、この距離でオブジェクトがページガイドに吸着します（範囲は1〜216、基準単位はピクセル、最小増分値は1です）。

ガイド領域で、下記の操作を行ってください。

- デフォルトのマージンとガイドの色を指定するには、**マージンの色**ボタンと**ガイドの色**ボタンを使用します。
- ルーラーガイドおよびページガイドをページアイテムの前後どちらに配置するかを指定するには、**コンテンツの前**または**コンテンツの後ろ**をクリックします。

ページグリッド領域で、下記の操作を行ってください。

- マスターページグリッドとテキストボックスグリッドを表示できるズームの最小倍率を制御するには、**ズーム表示倍率**フィールドに値を入力します。
- マスターページグリッドをページアイテムの前後どちらに配置するかを指定するには、**コンテンツの前**または**コンテンツの後ろ**をクリックします。**コンテンツの前**をクリックすると、マスターページグリッドをガイドの前後どちらに配置するかも指定できます。

環境設定 - レイアウト - グリッドセルの塗りつぶし

デザイングリッドセルの塗りつぶし方法を制御するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**グリッドセルの塗りつぶし**ペインを使用します。

グリッドスタイルまたはマスターページグリッドの**表示設定**タブ（*デザイングリッド：表示設定タブ*を参照）で**塗りつぶしセルを表示**チェックボックスをオンにすると、シーケンスのセルの1つをグリッドの他のセルのアウトラインを描く色で塗りつぶすよう指定できます。シーケンス内でセルの番号や位置を指定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集 > 環境設定**）の**グリッドセルの塗りつぶし**ペインのコントロールを使用します。

- 塗りつぶすセルを指定するには、**増幅値**チェックボックスをオンにしてフィールドに値を入力します。たとえば、セル4、セル8、セル12を塗りつぶすには、4と入力します。
- テキストボックスの各行の先頭からセルのカウントを再開するには、**ラインの開始**をクリックします。段組みの先頭からセルのカウントを開始し、以降は改行に関係なくカウントを続行する場合、**ストーリーの開始**をクリックします。

環境設定 - レイアウト - カラーマネジャー

すべての機器で一貫した表示や出力を行えるように色を定義するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**カラーマネジャー**ペインを使用します。

ソースオプション領域で、下記の操作を行ってください。

- **ソースセットアップ**ドロップダウンメニューを使用して、画像のソースカラースペースとQuarkXPressで使用する色を指定します。
- **ウィンドウ**メニューの**プロファイル情報**コマンドと**画像の取り込み**ダイアログボックスの**カラーマネージメント**タブを有効にするには、**画像プロファイルへのアクセスを可能にする**チェックボックスをオンにします。このオプションにより、プロファイルに関する情報を表示できます。

印刷レイアウトのみ： 表示 > 出力のプルーフサブメニューを使用するとき、レイアウトがどのように表示されるかを指定するには、**ソフトプルーフ**領域で下記のオプションを使用してください。

- デフォルトのプルーフ出力セットアップを指定するには、**出力のプルーフ**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。

- ソフトプルーフのレンダリング方法を指定するには、**レンダリング方法**ドロップダウンリストからオプションを選択します。**視覚的**を選択すると、すべての色がターゲットの範囲内に収まるように、ソースの範囲内ですべての色を調整します。**相対的な色域を維持**を選択すると、ソースとターゲットの両方の範囲内の色が維持されます。唯一変更されるソースカラーは、ターゲットの範囲内に収まらないソースカラーです。**彩度**を選択すると、ソースカラーの彩度を考慮して、ターゲットの範囲で相対的な彩度が同じ色に変更します。**絶対的な色域を維持**を選択すると、ソースとターゲットの両方の範囲内の色が維持されます。ターゲットの範囲外の色は、白紙に印刷されたときの外観に合わせて調整されます。**ソースによる定義**では、すべての色および画像に対してソースのセットアップで定義したレンダリング方法を使用します。

印刷レイアウトのみ： ベクトルEPS/PDFファイル領域で、下記の操作を行ってください。

- 取り込んだEPSおよびPDFファイルでベクトルコンテンツの色を管理するには、**新規のベクトルEPS/PDFをカラー管理する**チェックボックスをオンにします。この環境設定は、このチェックボックスをオンにしてから取り込まれたEPSおよびPDFファイルのみに適用されます。
- アクティブなプロジェクトで既に取り込まれているEPSおよびPDFファイルでベクトルコンテンツの色を管理するには、**配置済みのベクトルEPS/PDFを含む**チェックボックスをオンにします。

環境設定 — レイアウト — レイヤー

新規レイヤーの作成時に使用する設定を指定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**レイヤー**ペインを使用します。

- 新規レイヤーをデフォルトで表示するには、**可視**チェックボックスをオンにします。
- デフォルトで新規レイヤーを印刷しないようにするには、**出力しない**をクリックします。
- 新規レイヤーをデフォルトでロックするには、**ロック**チェックボックスをオンにします。
- 表示されているレイヤーが隠されたレイヤー上のアイテムに回り込むよう、新規レイヤーの回り込みを維持するには、**回り込み保持**をクリックします。

法律上の注記

©2022 Quark Software Inc. and its licensors.All rights reserved.

次の米国特許によって保護されています。5,541,991、5,907,704、6,005,560、6,052,514、6,081,262、6,633,666 B2、6,947,959 B1、6,940,518 B2、7,116,843、7,463,793およびその他の出願中の特許。

Quark、Quarkロゴ、QuarkXPress、QuarkCopyDeskは、Quark Software Inc.とQuark関連会社の米国およびその他各国における商標または登録商標です。その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

当ソフトウェアアプリケーションまたはユーザーのドキュメントに表示されるPantone® Colorの表示は、PANTONE標準色とは合致しない場合があります。正確な色については最新のPANTONE色見本帳を利用してください。PANTONE®およびその他のPantoneの商標は、Pantone LLCに帰属します。© Pantone LLC, 2010が著作権を有します。

カラーデータおよび／またはソフトウェアの著作権は、Pantoneが所有しています。Quark Software, Inc.はライセンスに基づき、Quarkソフトウェアとの併用に限定して配布を許可されています。Quarkソフトウェアによる作業の一部でないかぎり、PANTONEカラーデータおよび／またはソフトウェアをディスクまたはメモリに複製することは禁じられています。

索引

A

App Studioレイアウト 55, 343
AppleScript 381, 382, 383, 384

B

Blio eReader 301

C

CMYK 214
Composition Zones 290, 294, 297, 298
Composition Zonesアイテム 294, 297, 298
Compressed Image Import 397

D

DejaVu 364
Design Grid 397
docx 101, 388

E

EA Text 397
emスペース、標準 414
EPS 271
ePub 301, 315
ePub形式のレイアウト 313
Error Reporting 397
Excelスプレッドシート 386
Excelチャート 90, 386
Excelテーブル 89

G

Guide Manager Pro 365, 367, 368, 369, 371, 372

H

HSB 214
HTML5 40
Hyph_CNS_1 397
Hyph_CNS_2 397
Hyph_CNS_3 397
HyphDieckmann 397

I

ICCプロファイル 218
Ichitaro import 397

J

Jabberwocky 397
JDF 268, 320, 358
JPEG 274

K

Kern-Trackエディタ 397
Kindle 301, 317

L

LAB 214

M

Microsoft Word 101
Mojikumi 397

O

OpenTypeカーニング 411
OpenTypeスタイル 153
OpenTypeフォント 152
OTFプリンタ検索 403
output setups 218, 219, 220, 221

P

PDF 272, 378, 408
PDF Filter 378
PDFレイヤー 241
Photoshopの取り込み 36
Photoshopファイル 209, 210, 211, 212, 397
PNG 274
PostScript 274

PSD Import 36, 209, 210, 211, 212, 397

Q

QuarkVista 397

R

RGB 214
RTF Filter 397

S

Scissors 381
Script XTensionsソフトウェア 381, 382, 383, 384
Shape of Things 384
Special Line Break 397
Super Step and Repeat 385
SWF Import 397
SWF Toolkit 397

T

Table Import 386
Type Tricks 386, 387, 388
TypeTricks 386, 387, 388

U

Unicode 39

W

Word 388
Word 6-2000 Filter 388
WordPerfect 101

X

XML Import 397
XTensions 361, 362, 397, 405
XTensionsセット 362

あ

アイテム 62, 63, 67, 75, 76, 77, 78, 79, 80, 147
アイテムスタイル 375, 376, 378
アイテムツール 18
アイテムハンドル 63
アイテム検索／置換 374
アプリケーションの環境設定 399, 401, 402, 403, 404, 405, 406, 407, 408, 409, 410
アルファマスク 208
アンカー 314
アンカーカラー 411
アンカーボックス 80, 152
アンカーライン 152

い

イメージグリッド 390
イメージマップ 397
インタラクティブレイアウト 397
インデックスカラー 211
インデント 116
インライン入力 403

う

ウィドウ 118
ウィンドウ 51
ウィンドウの分割 51
ウェブセーフカラー 214
ウェブレイアウト 55
ウェブ名前付きカラー 214

お

オーサリング表示 52
オーディオ 313
オーファン 118
オールキャップスのアクセント記号 414
オリジナルを編集 397

か

カーニング 119
ガイド 59, 60, 365, 367, 368, 369, 371, 372, 416
ガイドへの吸着 179
カスタムアンダーライン 388
カット 76
カラー 37, 70, 71, 108, 204, 213, 214, 215, 216, 266
カラーエンジン 218
カラーコンポーネント 47, 218, 219, 220, 221, 224
カラーテーマ 402
カラーマネージメント 218, 222, 223, 224, 417
カラーマネージメント、EPS 218
カラーマネージメント、PDF 218
カラーマネージメント、レガシー 220
カラーマネージメント、画像 223

き

キーコマンド 18

く

グリーキング 411
グリッド 369
グリッドスタイル 175, 177
グリッドライン 92
グリッド固定 413
クリッピングパス 72, 205, 207, 211
グループ 78, 95, 217
グループルビ 180
グループ化 77
グループ作業 285
グループ作業設定 289
クローナー 389
クロス参照 247

こ

コールアウト 81
コピー 76, 152
コンテキストメニュー 36
コンテンツ 62
コンテンツの更新 312
コンポーネント 301, 308
コンポジションゾーン 290, 293, 294, 295, 296, 297, 298, 299, 300, 397
コンポジションゾーンアイテム 290, 293, 294, 295, 296, 297, 298, 299
コンポジションレイアウト 293, 294, 299, 300

さ

サイズ変更 68, 74, 78

し

シェイプメーカー 393
シェード 108, 204, 216
ジャスティフィケーション 120
ジョブジャケット 319, 320, 321, 322, 323, 324, 325, 326, 327, 329, 330, 331, 332, 334, 335, 336, 337, 339, 340, 341, 342, 343, 344, 345, 346, 348, 349, 351, 352, 354, 356, 408
ジョブジャケット、共有 340
ジョブチケット 219, 220, 319, 320, 321, 322, 325, 330, 331, 332, 334, 335, 336, 338, 339, 340, 358
ジョブチケットテンプレート 322, 331, 332, 334, 336, 337, 338, 339, 340, 341
ジョブの定義者 324
シングルソース 285

す

ズーム 50
ズームツール 18
スタイルシート 48, 124, 129, 130
スタックの順序 77
ストーリーエディタ表示 52
スペース 158
スペルチェック 104, 105, 409
スモールキャップス 414

せ

セクション 254
セル全体のボックス 160
セル揃え 172
センター 74
センターライン 160

そ

ソースセットアップ 218, 219, 220, 221, 222
ソフトプルーフ 221

た

ダイナミックガイド 406
ダイナミックガイドのカラー 406
タブ 118

ち

チャプター 252, 253, 254, 255
チャンネル 210, 211

つ

ツール 48, 416
ツール・ヘルプ 403
ツールパレット 18, 48

て

テーブル 29, 62, 86, 88, 89, 91, 92, 94, 95, 97, 410
テーブルツール 18
テキスト 100, 101, 102, 104, 105, 146, 147, 148, 149, 150, 152, 159

テキストコンテンツツール 18
テキストとの間隔 145
テキストのタグ付け 309
テキストのドラッグ＆ドロップ 100, 403
テキストのハイライト 406
テキストのボックス化 146
テキストの位置 144
テキストの挿入ポイント 100
テキストパス 147, 150
テキストフォーマット 24
テキストボックス 67, 72, 144, 148
テキストボックスグリッド 161, 165, 177
テキストリフロービュー 301
デザイングリッド 160, 161, 164, 165, 166, 168, 169, 171, 172, 175, 177, 178, 179, 416, 417
デジタルレイアウトリソース 343
デフォルトパス 407
テンプレート 57

と

ドイツ語（新正書法2006年版） 409
トップライン 160
トラッキング 123
トラッキングテーブル 124
トラップ 277
トリムビュー 31, 401
ドロップキャップス 151
ドロップシャドウ 224, 225, 364

の

ノート 408
ノートを非表示にする 31
ノートを表示する 31

は

ハイパーリンク 314
ハイパーリンクカラー 411
ハイフネーション 120
ハイフネーション設定 413
はさみツール 18
はじめに 354
パス 211
バックグラウンドカラー 204
パレット 36
パレットグループ 48
パレットセット 48
パンツール 18
ハンドル 63

ひ

ビデオ 313
ひとつ後ろへ 77
ひとつ前へ 77

ふ

ファイルリスト 407
フォーマット 309
フォント 107, 146, 266
フォントサイズ 107
フォントセット 110
フォントマッピング 160, 406
ブック 38, 251, 252, 253, 254, 255, 256, 257, 258
フッター 97
ぶら下がり文字 190, 193, 194
ぶら下がり文字クラス 190, 193
ぶら下がり文字セット 190, 194
ぶら下がり約物 190
ブリード 267, 362, 363, 372
フリーハンドラインツール 18
フリップ 204
フレーム 70, 411
フレックススペース幅 414
プレビュー 268, 269
ブレンド 71, 216, 218
ブレンドモード 210
プロジェクト 55, 57, 58
プロジェクトの環境設定 399, 410, 411
プロジェクト設定値 321
プロファイル 47, 223, 224

へ

ページ 28
ページグリッド 175, 178
ページセパレータ 403
ページレイアウトパレット 46
ページ番号 254
ペースト 76, 152
ベースライン 160
ベースライングリッド 144
ベースラインシフト 109
ベジエ 65, 70, 71, 73, 74
ベジエツール 18
ベジエボックス 68, 146
ヘッダー 97
ヘルプ 35

ほ

ポイント 65
ポイント削除ツール 18
ポイント選択ツール 18
ポイント追加ツール 18
ポイント変換ツール 18
ボックス 62, 63, 67, 68, 70, 71, 72, 76, 77, 78, 79, 80
ボックスのアンカー解除 152
ボトムライン 160

ま

マーク 266
マージン揃え 190
マスターチャプター 255
マスターページ 46, 228, 232, 240
マスターページアイテム 411
マスターページグリッド 161, 164, 175, 178
マスターページトグル 50

め

メジャーパレット 42
メタデータ 315

も

モニタープロファイル 218
モノルビ 180, 185

や

やり直し 61

ゆ

ユーザー辞書 105

ら

ライブスクロール 403
ライブラリ 258, 259, 260, 261
ライン 26, 62, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 80, 147, 216
ラインセグメント 65
ラインチェック 388
ラインツール 18
ラインのアンカー解除 152
ランダムテキスト 397

り

リスト 42, 242, 243, 244, 258
リソース 58, 320, 321, 329, 330, 331, 332, 334, 335, 336, 341, 342, 343, 344, 345, 346
リフローアーティクル 301
リフロービュー 301
リンクスター 392

る

ルール 348, 349, 351, 354
ルールセット 348, 351, 352, 354
ルビ 180
ルビ専用仮名 180
ルビ文字 180, 182, 185, 186, 188

れ

レイアウト 29, 55, 57, 58, 262, 271, 295, 297
レイアウトの仕様 345, 346
レイアウトの書き出し 57
レイアウトファミリー 232
レイアウト環境設定 399, 411, 412, 413, 414, 416, 417, 418
レイアウト作成者 324
レイアウト定義 321, 335, 339
レイヤー 41, 209, 210, 233, 234, 235, 236, 237, 238, 239, 240, 241, 267, 418
レンダリング方法 218

ろ

ロック 80, 240, 289